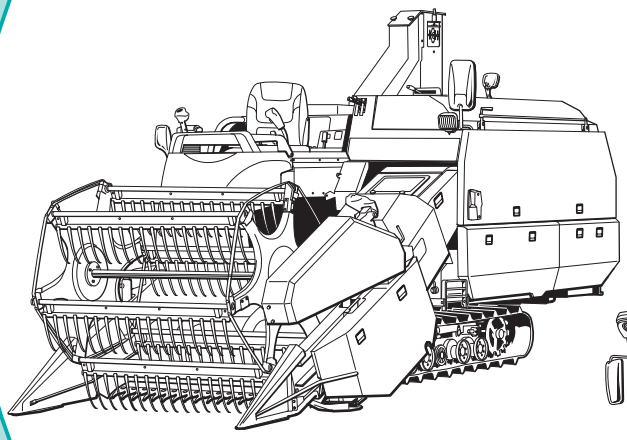
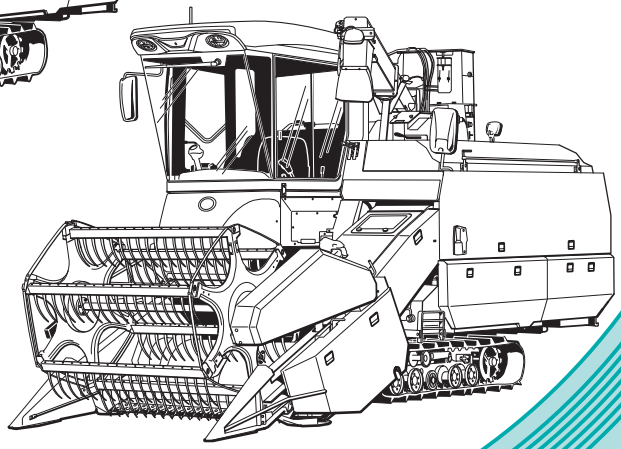
クボタ普通形コンバイン

取扱説明書

エアロスターGP
ARH430



1ASADAIAP0020 ［H仕様］



1ASADAIAP0940 ［G仕様］

Operator's Manual

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	ホーン
	エンジン回転数**［低回転］**
	エンジン回転数**［高回転］**
	ウインカランプ
	ヘッドランプ
	ヘッドランプと作業灯

	エンジン停止
	駐車ブレーキ
	燃料
	水温
	エンジン油圧
	バッテリ充電

専門用語の説明

• **予熱（グロー）**	エンジンの始動を容易にするための補助装置
• **SF ワンレバー**	機体の操向操作と刈取部の昇降を行なうレバー
• **ブレーキターン**	左右どちらかのクローラを停止させて方向を変える旋回
• **ソフトターン**	左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
• **ソリセンサ**	異なるうねの高さに対して平行状態に修正・保持するためのセンサ
• **ドレーン（プラグ）**	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
• **刈取オートクラッチ**	刈取部を一定の高さまで上昇・下降させたとき，自動的に刈取搬送部を停止・作動させる装置
• **HST**	油圧式の無段変速装置
• **アジャスト**	調節を意味する
• **主変速レバー**	**［前進］［後進］**の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
• **リール**	回転して作物を引起こす刈取部の六角形状の部分
• **タイン**	リールに取付けられている黒い樹脂の爪
• **オーガドラム**	回転すると作物をフィーダ入口へ寄せるラセンの付いている円筒の部分
• **フィンガ**	オーガのフィーダ入口にあるかき込み棒
• **デバイダ**	刈取部の左右の最前部にある作物を条分けする部分
• **フィーダ**	作物をオーガから脱こく部へ搬送する部分
• **ヘッドロス**	刈取部で損失するこく粒
• **1 番スクリュ**	選別部で精選されたこく粒を 1 番バケットコンベアへ横搬送する部分
• **2 番スクリュ**	1 番スクリュ部へ選別されなかった作物・こく粒を再度選別部へ搬送する横搬送の部分
• **1 番バケットコンベア**	グレンタンク及びホッパまで縦搬送するバケットカップ付コンベア
• **2 番バケットコンベア**	再度選別部まで縦搬送するスラット付コンベア
• **排出バケットコンベア［G 仕様］**	ベルトコンベアまで縦搬送するバケットカップ付コンベア
• **チャフシーブ**	コンケーブから搬送されたこく粒と排かんくずを選別する桟状の板
• **グレンシーブ**	こく粒を精選するあみ体
• **トウミ**	選別風を発生させるファン
• **ササリロス**	こく粒損失で，排かんの中にささっている単粒

• **こぎ残し**	こく粒損失で，莢（さや）の中に残っているこく粒
• **こぎ室送じん弁開度調節レバー**	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
• **こぎ胴**	脱こくするドラム
• **こぎ胴上部カバーオープン**	こぎ胴上部カバーを上に開ける機構
• **こぎ胴サイドカバーオープン**	こぎ胴サイドカバーを上に開ける機構
• **シーブケース**	揺動運動してこく粒を選別する装置
• **アンローダ［G 仕様］**	グレンタンクからこく粒を排出する筒
• **ホッパ［H 仕様］**	精選されたこく粒を一時貯蔵するタンク

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，大豆・そば・麦の刈取り･収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は**［ARH430CG 仕様］**を基本とし，**［ARH430CG 仕様］**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

［例］　ARH430 C G
①　②　③

①エンジン出力（PS）.....［43］

②キャビン付き.....［C 仕様］

③ グレンタンク仕様.....［G 仕様］
　 ホッパ仕様.....［H 仕様］

※諸装置の仕様
（別表参照）

諸装置		仕様 H	仕様 G	仕様 CG	備考
自動化装置	自動刈高さ制御	○	○	○	
	刈取対地平行自動刈高さ制御	○	○	○	
	刈取オートクラッチ	○	○	○	
	自動車体水平制御	○	○	○	
	アンローダ自動旋回制御	－	○	○	
	エンジン正逆流ファン	○	○	○	
クリーンファン		○	○	△	
刈取バックアップリフト［後進時刈取部上昇機能］		○	○	○	
ポジピタ［刈取部ワンタッチ昇降機能］		○	○	○	
方向微調整		○	○	○	
リール上下・前後スイッチ		○	○	○	
パワークラッチ［刈取］		○	－	－	電動
パワークラッチ［刈取・こく粒排出］		－	○	○	電動
バイブロシャッタ		－	○	○	もみ排出時連動
無線アンローダリモコン		－	○	○	電動
ラジオ付きCDプレーヤ		－	－	○	
キャビン		－	－	○	

○：標準装備　－：非装備（後付け不可）△：オプション（後付け可）

目　次

⚠安全に作業するために

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください **1**
安全作業するための表示ラベル **23**
表示ラベルの内容・貼付位置 23
表示ラベルの手入れ **37**
表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る 37

サービスと保証について

装置の名称と取扱い

機体方向説明 **3**
装置の名称と各部のはたらき **4**
メインスイッチ 11
アクセルレバー 11
主変速レバー・副変速レバー 12
車体旋回モード切換えスイッチ 12
ブレーキペダル（駐車ブレーキ） 13
SF ワンレバー 13
ポジピタスイッチ 14
方向微調整スイッチ・リール上下スイッチ・リール前後スイッチ 14
運転席（シート） 15
刈取・リール下降ロックスイッチ 16
脱こく・刈取クラッチレバー 16
リールクラッチレバー 16
刈刃クラッチレバー 17
クリーンファンスイッチ 17
トウミ調節レバー 18
チャフ調節レバー前・後 18
もみ排出スイッチ 19
エアロナビ 19
コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ 24

自動化装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき **26**
自動車体水平制御装置（モンロー） 27
水平操作レバー 28
自動リール回転制御装置 28
対地平行自動刈高さ制御装置（ロイヤルモンロー）・自動刈高さ制御装置 29
刈取オートクラッチ 31
アンローダ自動旋回制御装置 32
アンローダレバー 33
無線アンローダリモコンスイッチ 34

キャビン装置の名称と取扱い［C 仕様］

装置の名称 **39**
各装置の取扱い **40**
ドアの開閉・ロックのしかた 40
各ウインドの開閉のしかた 41
ワイパの使いかた 42
作業灯スイッチ 42
ルームランプの使いかた 43
ドリンクホルダの使いかた 43
エアコンの取扱い **44**
コントロールパネル 44
内外気切換えツマミ 45
エアコン冷暖房のしかた 46
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い .. **47**
電源の入／切 47
音量調節 47
リリースボタン 47
音質調整 48
重低音の増強 48
時計表示への切換え 49
時刻合わせ 49
左右スピーカの音量バランス調整 50
スクリーンセーバーの設定 50
ラジオの選択 51
受信バンドの選択 51
クイック選局（ISR 機能） 51
プリセット選局 52
メモリ登録（自動選局） 52
メモリ登録（手動選局） 52
メモリ登録の確認 52
自動選局 52
手動選局 52
CD の挿入と再生 53
CD の取出し 53
演奏の一時停止 53
次の曲／前の曲の選択 54
早送り／早戻し 54
トップ機能 54
曲を探す（スキャン演奏） 54
曲を繰り返し聴く（リピート演奏） 54
ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏） ... 54
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤが故障かな？と思われたら 55
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのエラー表示について 55
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い上の注意 56
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのお問合わせ 56

目　次

運転前の点検

日常点検項目 58

移動走行と輸送

新車時の扱いかた 60
ならし運転について 60
エンジンの始動と停止のしかた 60
始動のしかた 61
停止のしかた 64
移動走行について 65
走行前の準備 66
発進のしかた 69
旋回のしかた 71
停車・駐車のしかた 72
移動走行について 72
輸送について 73
トラックとあゆみ板の準備 73
コンバインの準備 73
コンバインの積込み・積降しのしかた 73
トラック上での処置 74

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件 76
作物の条件 76
ほ場の条件 78
ほ場の準備 79
ほ場の準備 79
コンバインの準備 79
準備のしかた 79
作物に合わせた各部の準備のしかた 83
こぎ室送じん弁調節レバーの切換え 86
チャフ開度（選別板のすき間）の切換え .. 86
トウミ（風力）の切換え 87
こぎ胴作物警報選択スイッチの切換え 88
刈取作業のしかた 89
ほ場の出入りのしかた 89
刈取作業の手順 90
ほ場の刈りかたと旋回のしかた 93
デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた .. 95
刈高さの合わせかた 96
リール高さの合わせかた 98
リール前後の合わせかた 99
こく粒の排出のしかた 100
手刈り（枕刈り）作物の投げ込み脱こくのしかた 106
作業や作物に合わせた各部の調節・調整のしかた 107
デバイダの上下調整 108
リールタインの角度調整 109
自動リール回転制御の調整・調節 109
こぎ室送じん弁調節レバーの調節 110
トウミ調節レバーの調節..... 111
チャフ調節レバー前，後の調節..... 112
排出調整板の調整..... 113
エアロナビによる異常と処置..... 114
エアロナビによる故障と処置..... 117

メンテナンス

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた 120
エンジンルームオープン..... 120
防じんカバーオープン..... 121
運転席下カバーの脱着..... 122
リールサイドカバー・刈取左サイドカバーの脱着..... 122
メンテナンス用補助ステップの開閉..... 123
フィーダサイドカバーの脱着..... 124
脱こく左サイドカバー前・後の脱着..... 124
こぎ胴上部カバーオープン..... 125
こぎ胴サイドカバーオープン..... 125
脱こく後カバーの脱着..... 126
シーブケースの脱着..... 126
受けあみの脱着..... 130
ホッパオープン..... 132
脱こく右サイドカバー前・後の脱着..... 133
脱こく右後部カバーの脱着..... 133
グレンタンクオープン..... 134
各部の掃除と注油のしかた 136
各部の掃除..... 136
各部の注油..... 147
定期点検 148
オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整..... 149
廃棄物の処理について..... 149
洗車時の注意..... 150
使用者が行なってはいけない修理..... 150
定期点検一覧表..... 151
給･注油（水）点検一覧表..... 155
燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換. 157
燃料..... 157
エンジンオイル..... 158
トランスミッションケースオイル..... 160
刈刃駆動ケースオイル..... 161
油圧オイルタンクオイル..... 162
こぎ胴駆動ギヤケースオイル..... 163
各部のグリース..... 163
ラジエータ冷却水の点検･補給･交換..... 165
エアクリーナの点検･掃除･交換..... 167
パイプ･ホース類の点検..... 169
防じんあみ，ラジエータフィンの掃除・オイルクーラフィンの掃除・コンデンサフィンの掃除..... 171
フューエルフィルタエレメントの掃除，フューエルフィルタカートリッジ･フィルタエレメントの交換..... 172
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 174

HST オイルフィルタカートリッジの交換，油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交換 176
各部ワイヤの点検･調整 178
駐車ブレーキワイヤ 178
リリーフワイヤ 179
各部ベルトの点検･調整 180
ファン駆動ベルト 183
刈刃駆動ベルト 184
リール変速ベルト 184
コンプレッサ駆動ベルト 185
ミッション駆動ベルト 186
脱こく入力駆動ベルト 186
ギヤケース駆動ベルト 187
オイルポンプ駆動ベルト 188
脱こく駆動ベルト 188
脱こくカウンタベルト 189
フィーダ駆動ベルト 191
こぎ胴駆動ベルト 192
1 番・2 番スクリュ駆動ベルト 192
トウミ駆動ベルト 192
揺動駆動ベルト 193
1 番排出スクリュ駆動ベルト..... 193
底スクリュ駆動ベルト 194
バケット駆動ベルト 195
各部チェーンの点検･調整 195
オーガ駆動チェーン 197
リールカウンタチェーン 197
リール駆動チェーン 197
刈取駆動チェーン 198
フィーダ搬送チェーン 198
1 番バケットコンベア搬送チェーン・2 番スラットコンベア搬送チェーン 200
排出バケットコンベア搬送チェーン 202
アンローダベルトコンベアの点検・調整 . 203
刈刃の点検･調整 204
オーガドラム・フィンガ軸・フィンガガイドの点検・調整・交換 205
こぎ歯の点検 207
キャビン内気，外気フィルタの掃除・交換208
冷媒（ガス）量の点検 209
吐出口ブーツの点検・交換 210
バッテリの点検･交換 211
電気の各配線コード，各ヒューズの点検･交換 215
ランプ（電球）の点検･交換，ホーンスイッチの点検 218
反射器の点検･交換 220
クローラの点検･調整 220
トラッククローラ（転輪）の点検 222
刈取作業後の手入れ..... 222
毎日の作業後 222
長期格納時 222

コンバインの不調と処置

コンバインの不調と処置..... 226
損傷粒・未脱粒が多い..... 230
2 番詰まり警報が出たとき 231
刈取部に作物が詰まる 232
刈取逆転ハンドルの使いかた..... 232
もみが詰まる 233
アンローダからもみが排出されないとき. 233

付表

主要諸元 234
付属部品 236
オプション（別売品）（純正品を使いましょう）..... 236
そば用キット..... 236
麦用キット..... 236
小豆キット..... 236
長かん作物キット..... 236
バックミラー..... 236
リフターキット..... 237
チョッパ..... 237
クリーンファン..... 237
消耗部品（純正品を使いましょう）.... 237
クボタ純正オイル 250
オイルはクボタ純オイルをお使いください。 250
クボタ純グリース..... 250

そば・麦用キット組付要領

そば・麦共通キット 252
組付部品..... 252
刈取部底板..... 253
フィーダ底板..... 253
1 番バケットコンベア底板・2 番スラットコンベア底板..... 254
1 番・2 番横スクリュ底板..... 254
グレンシーブ..... 255
排出バケットコンベア底板..... 256
グレンタンク底板..... 256
そば専用キット 257
組付部品..... 257
受けあみ..... 258
そば用デバイダ..... 259
麦専用キット 260
組付部品..... 260
受けあみ..... 261
こぎ胴プーリ・こぎ胴駆動プーリの組換え261

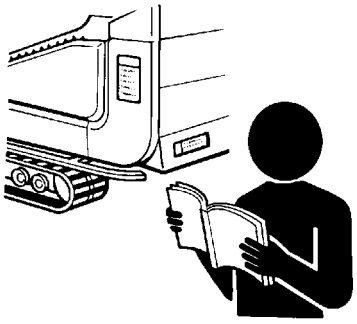
⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

◆ 一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠ 表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。



1BBAAAAAP0280

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。

[守らないと]
死亡又は傷害を負うおそれがあります

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

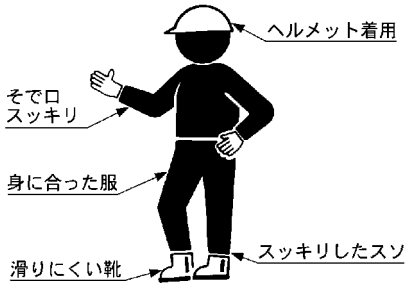
1ARAEABAP0420

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行なわないでください。
  - **・お酒を飲んでいる方**　**・睡眠不足の方**
  - **・妊娠中のご婦人**　**・過労，病気の方**
  - **・16 歳未満の方**

[守らないと]
思わぬ事故の原因になります。

⚠作業時には運転者，補助者とも作業に適した服ならびにヘルメット，滑りにくい靴を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。
- 必要に応じて安全靴，保護メガネや手袋などを着用する。
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用する。
  作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護メガネ，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用する。
  各保護具は使用前に機能を確認する。

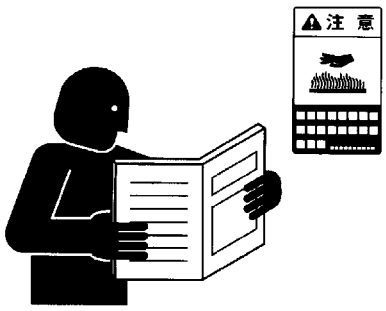


1ARAEABAP0450

[守らないと]
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。

⚠取扱説明書及び⚠ 表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

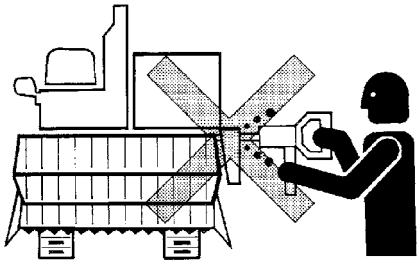
- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。



1ARAEABAP0100

[守らないと]
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

⚠機械を改造しない。


1ASAAAAAP1550

[守らないと]
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。

⚠運転席に乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしない。

- 平坦な場所でハンドルをしっかり握り，すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りする。

1ASADAGAP3720

[守らないと]
転倒・転落し，傷害を負うおそれがあります。

⚠運転者以外は機械に乗らない。

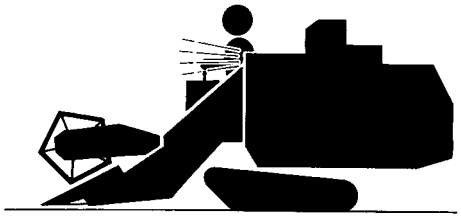
- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

1ASADACAP1090

[守らないと]
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドランプ**[C仕様除く]**や作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，後方の作業灯は消灯させる。


1ASAAAAAP1080

[守らないと]
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

◆ 作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

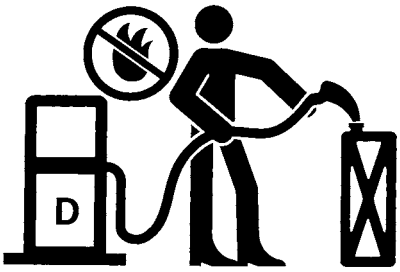
[守らないと]
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

1ARAEAAAP0560

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

[守らないと]
火災の原因になります。



1ARAEABAP0020

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

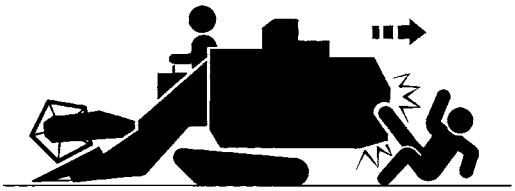
- **エンジンを始動するときは，運転席に座って， 主変速レバーを［停止］位置，副変速レバーを［N］（中立）以外の位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。**
- **機械を発進するときや脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。**

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ASAAAAAP4460

■ 初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。

[守らないと]
思わぬ事故の原因となります。



1ASAAAAAP4470

⚠作業前点検（日常点検）を実施する。

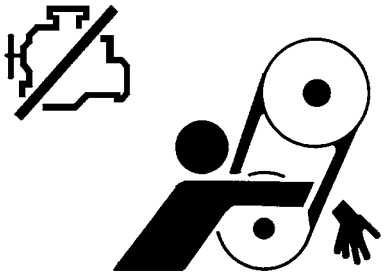
■ 運転の前には点検項目（57 ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP0810

■ 点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
■ 取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

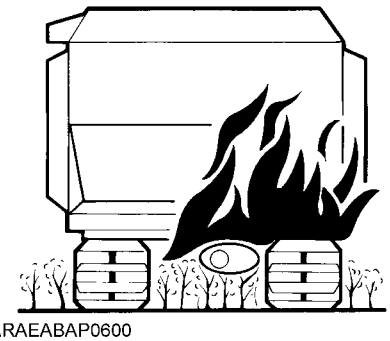
[守らないと]
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。



1ASADACAP4900

■ マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっている排かんくずはきれいに取除く。

[守らないと]
火災の原因になります。



1ARAEABAP0600

■ 点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

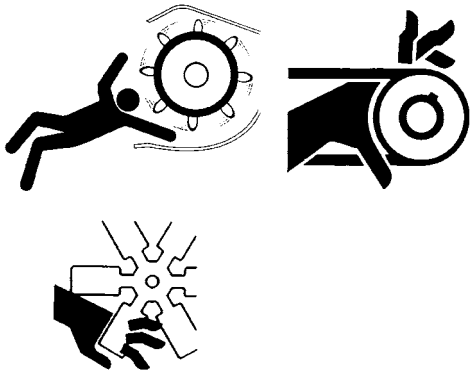
[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ASAAAAAP4460

⚠エンジンルーム［C 仕様除く］，防じんカバー［C 仕様］，こぎ胴サイドカバー，こぎ胴上部カバー，ホッパ［H 仕様］，グレンタンク［G 仕様］をオープンするときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- 各部のオープンは平坦な場所で行なう。
- こぎ胴サイドカバー，ホッパ **［H 仕様］**，グレンタンク後部カバー **［G 仕様］**，グレンタンク **［G 仕様］** をオープンしたときは，ストッパを掛ける。
- オープンしたままエンジンを始動しない。

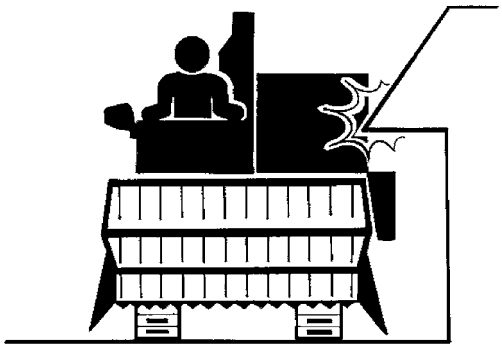
[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ASADACAP7180

◆ 移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

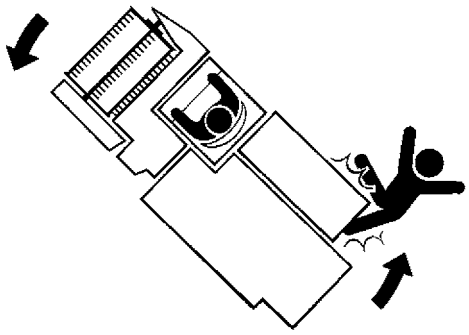
⚠移動走行するときは，次の事項を守る。


1ASAAAAAP4500

- 法令により公道は走行できないため，公道を移動するときはトラック輸送する。
- 各作業クラッチ（脱こく・刈取クラッチ，もみ排出）を**［切］**位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- こく粒はすべて排出，又は降ろす。
- 副変速レバーを切換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを**［停止］**位置にし，走行をいったん止めてから行なう。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダカバーを取付ける。
- 補助デッキ**［H 仕様］**，左分草かんを収納して，機体幅を狭くする。
- 刈取部を上昇させて，刈取部下降ロックを掛けて下降防止をする。
- アンローダはアンローダ受けに収納する。**［G 仕様］**
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 車体旋回切換えレバーを，**［ソフトターン］**位置に入れる。

［守らないと］
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠高速走行時は急旋回をしない。

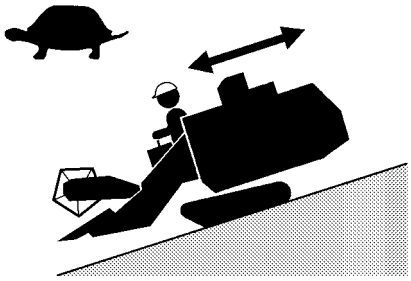

1ASAAAAAP4510

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），SF ワンレバーをゆっくり倒して旋回する。

［守らないと］
機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

⚠右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しない。

- 坂道（傾斜地）やほ場の進入路では，上り又は，下り方向に低速でゆっくりと走行する。
- 坂道（傾斜地）では，右又は，左に傾いた方向に走行しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回をしない。



1ASAAAHAP365B

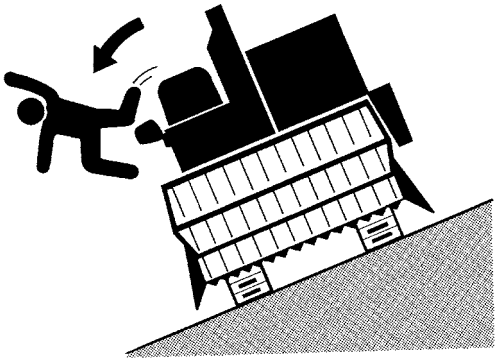
[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

1ASAAAHAP366B

⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

- こく粒は全て排出又は，降ろす。
- 坂道（傾斜地）では，SF ワンレバー，副変速レバー，ブレーキペダル，水平操作レバーを操作しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。

[守らないと]
暴走したり，転倒するおそれがあります。

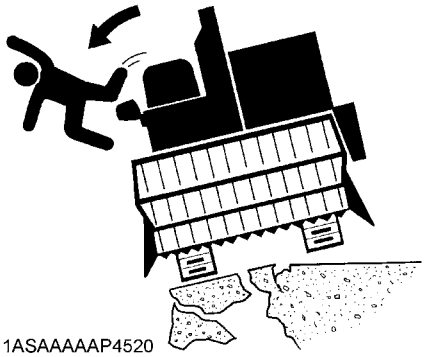


1ASAAAAAP4530

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。


1ASAAAAAP4520

⚠ほ場の出入りで，あぜなど段差のあるところではあゆみ板を使う。

- 10cm 以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- こく粒はすべて排出，又は降ろす。

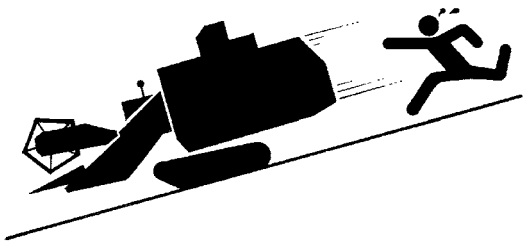
[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

1ASADACAP1070

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平坦な場所に止め，副変速レバーを［標準］又は［低速］位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。

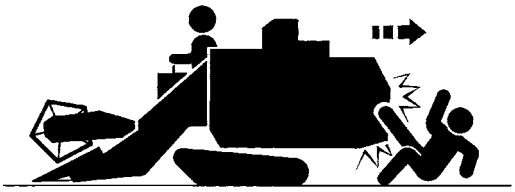
[守らないと]
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。


1ASAAAAAP1560

◆ 作業時の注意事項

⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。

- エンジン始動時，及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，必ず補助者の OK をもらう。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させる。

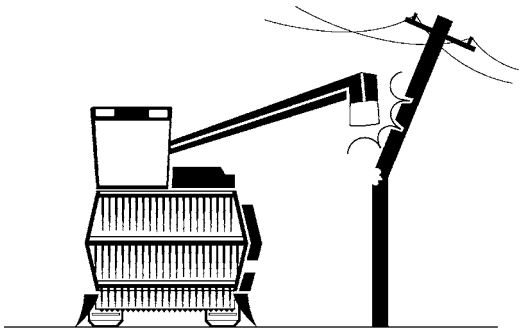

1ASAAAAAP4470

[守らないと]
補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

[G 仕様]

⚠アンローダを動かすときは，旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。

- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，アンローダを動かさない。
- アンローダは，アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。

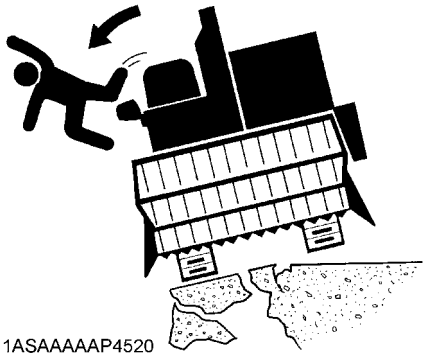

1ASADACAP1060

[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

[G 仕様]

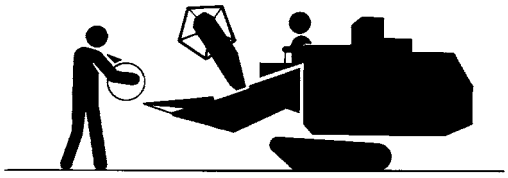
⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

[守らないと]
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。


1ASAAAAAP4520

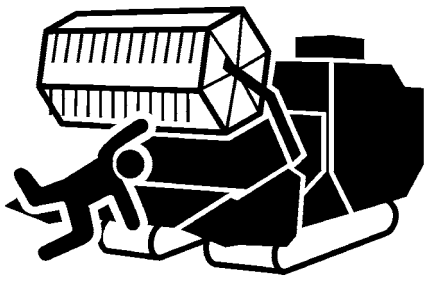
⚠投げ込み脱こくするときは，必ずコンバインの刈取部から少し離れて，作物を少量ずつ供給する。

- 機械は平坦な場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の真正面には立たない。
- 運転席に共同作業者が座り，エンジンをすぐ切れる準備をしておく。
- 刈取部及びリールを最上昇位置にし，刈取下降ロックスイッチを**［ロック］**位置にして，リールクラッチレバー，刈刃クラッチレバーを必ず**［切］**位置にし，作物を少しずつ投げ入れる。
- 刈取オートクラッチを**［切］**にする。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。



1ASADACAP046A

［守らないと］
リールに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ASAEAAAP353A

⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- かんの巻付きや詰まりを取除くときや，こく粒の点検・掃除をするときは，各作業クラッチ（脱こく・刈取，もみ排出）を**［切］**位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- こぎ胴に詰まったかんなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。

1AEABAAAP0110

［守らないと］
チェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

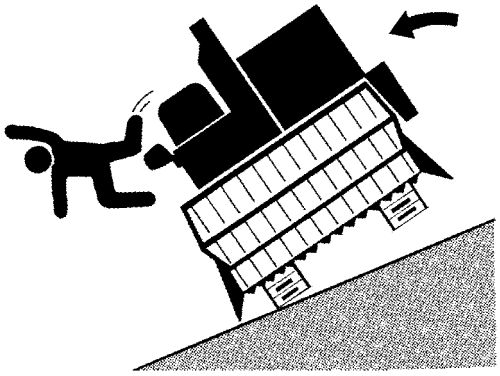
[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1AEABAAAP0110

⚠傾斜角５度以上のところでは作業しない。

- 約 10 度以上傾き転倒予防警報（エアロナビ表示，警報音）が鳴ったときは，走行を停止し，いったん平たんな場所に移動したあと，機体が傾かない状態で作業を行なう。

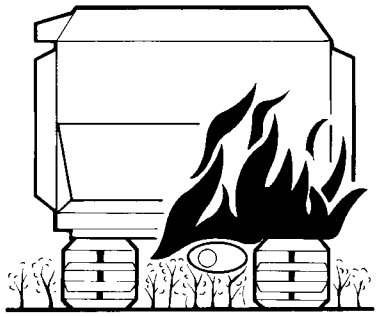
[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。


1ASADAGAP3220

◆ 作業後・格納時の注意事項

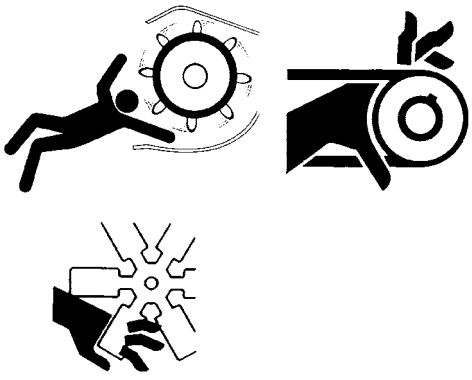
⚠排かんくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

[守らないと]
排かんくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

[守らないと]
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ASADACAP7180

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

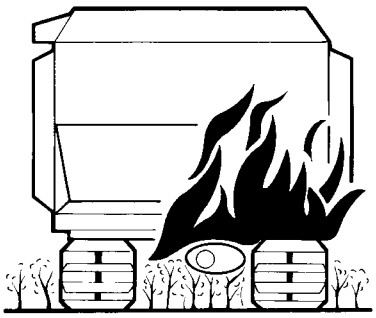
- エンジン本体，マフラ，排気管は，エンジン停止直後は触れない。

[守らないと]
やけどを負うおそれがあります。

1BJABAAAP0100

⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内配線部，バッテリ周辺の排かんくずを点検し，きれいに取除く。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。

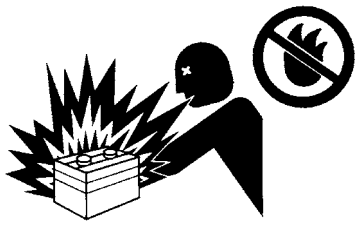

1ARAEABAP0600

⚠掃除するときは，刈刃の刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルをショートさせない。

[守らないと]
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。


1ARAEABAP0110

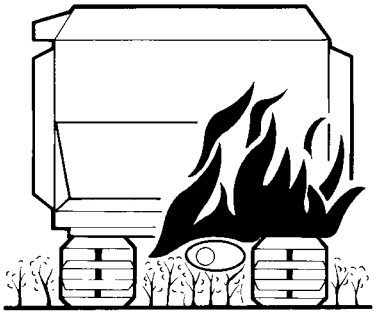
⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

[守らないと]
ショートによる火災発生のおそれがあります。

1BJABAAAP0070

⚠機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

◆ 点検整備時の注意事項

⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

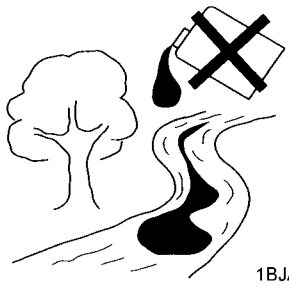
[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP0810

⚠廃棄物をみだりに捨てたり，焼却しない。

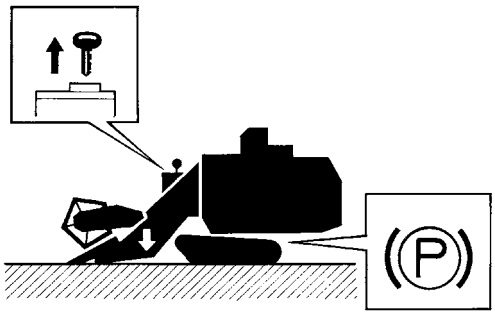
- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受ける。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしない。
- 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理する。

[守らないと]
環境汚染につながります。


1BJABAAAP0180

⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平坦な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜き，各クラッチレバーを［切］位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

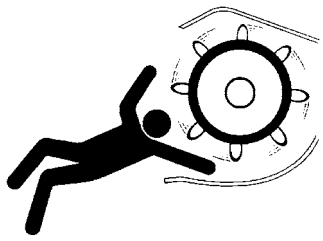
[守らないと]
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

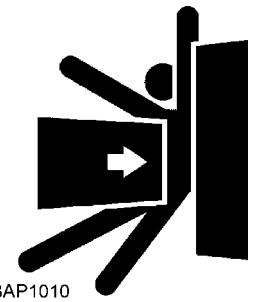


1ASAAAAAP1580

⚠ホッパ［H 仕様］，グレンタンク後部カバー［G 仕様］，グレンタンク［G 仕様］をオープンしたときは，ストッパで固定する。

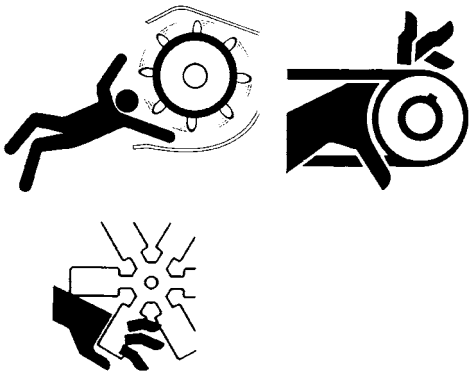
［守らないと］
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。


1AVAAAAAP0240


1ARAEABAP1010

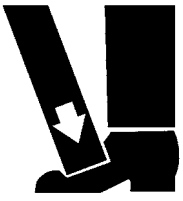
⚠エンジンルーム［C 仕様除く］，防じんカバー［C 仕様］，こぎ胴サイドカバー，こぎ胴上部カバー，ホッパ［H 仕様］，グレンタンク［G 仕様］をオープンしたままエンジンを回さない。

［守らないと］
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ASADACAP7180

⚠シーブケースなど重量物の脱着作業は２人以上で行なう。

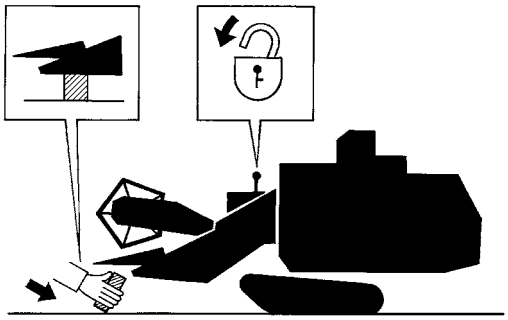
［守らないと］
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。

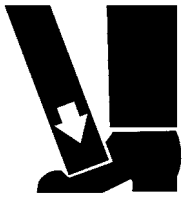

1ARAEABAP0910

⚠刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。

[守らないと]
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


1ASAAAAAP4560


1ARAEABAP0910

⚠刈刃の切断刃・受刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。

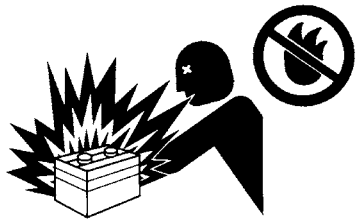
⚠取外したカバー類は，必ず取付ける。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1AEABAAAP0110

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス（−）側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付ける。


1ARAEABAP0110

[守らないと]
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

⚠バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。[補水タイプ]

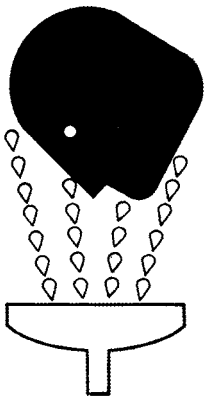
- バッテリ液が不足していれば，すぐに **UPPER LEVEL（上限）**と **LOWER LEVEL（下限）**の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

1ARAEABAP0130

[守らないと]
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，爆発の原因となることがあります。

⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗う。

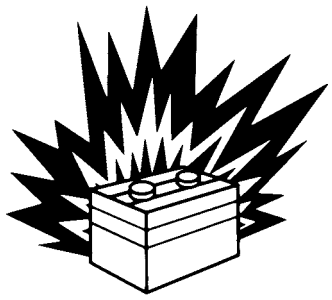

1ARAEABAP0140

[守らないと]
失明やヤケドのおそれがあります。

⚠指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。

[守らないと]
思わぬ事故が発生するおそれがあります。



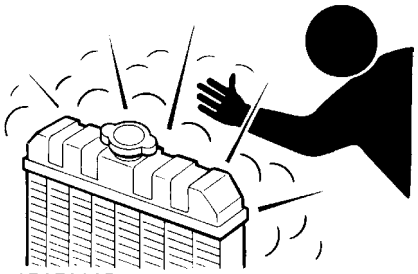
1ARAEABAP0120

1ARAEABAP0620

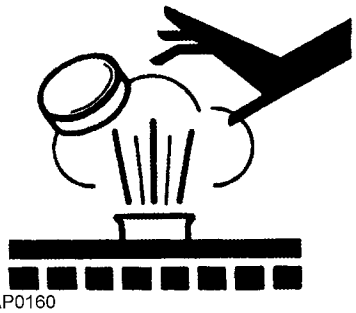
⚠ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

- エンジン停止後，３０分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。

[守らないと]
熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。



1ARAEAAAP0430

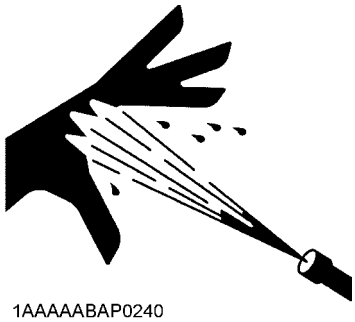


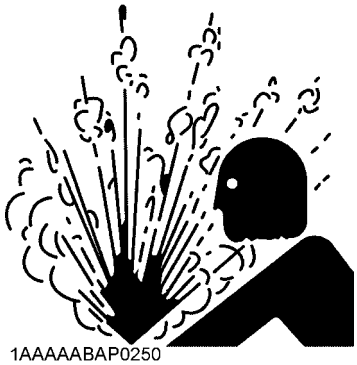
1ARAEABAP0160

⚠燃料ホース，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

[守らないと]
燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。


1AAAAABAP0240

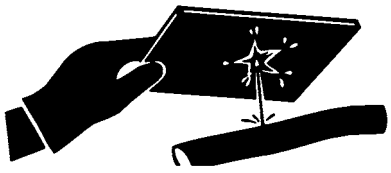

1AAAAABAP0250

⚠燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。

[守らないと]
油が皮ふに侵入して，強度のアレルギーや感染症を引起す可能性があります。

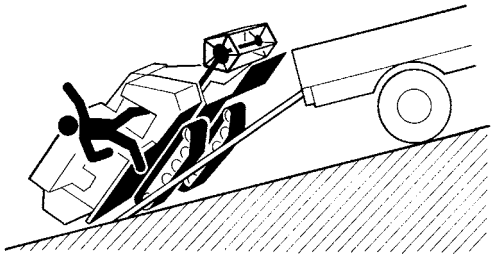
1BAACAAAP010A


1ARAEABAP0060

◆ 運搬時の注意事項

⚠トラックへの積込み・積降ろしは平坦地で行なう。

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの変速レバーを **R（後進）**又は，**1 速**に入れてさらにタイヤに車止めを行ない，車が動かないようにしっかりと固定する。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

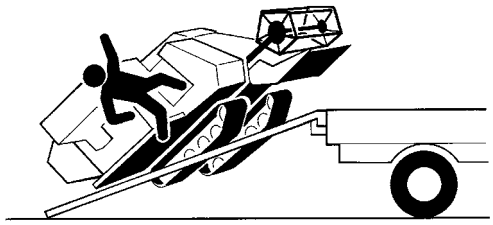

1ASAAAAAP1590

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降ろしには基準に合ったあゆみ板を使う。

- あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の長さの４倍以上
幅	55cm 以上
数　量	２枚
強　度	１枚が 2800kg 以上に耐えうる

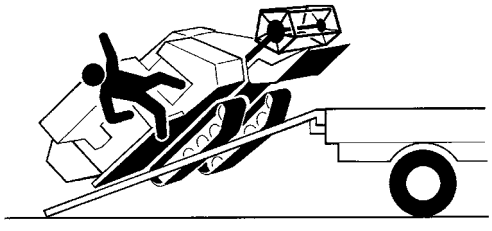

1ASADACAP1050

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降ろし前に，こく粒はすべて排出，又は降ろす。

- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納する。
  [G 仕様]
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。

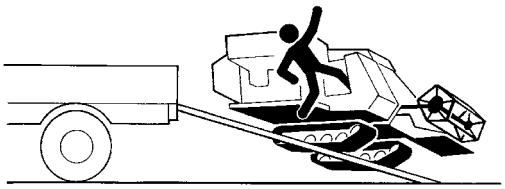

1ASADACAP1050

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠トラックへの積込み・積降ろしは最低速で行なう。

- 各作業クラッチ（脱こく・刈取，もみ排出）を**［切］**位置にする。
- 積込みは前進で，積降ろしは後進で行なう。

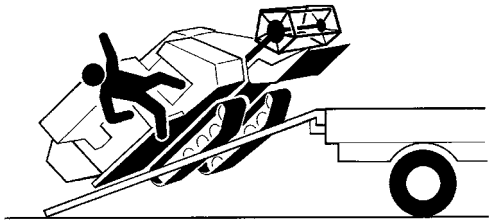
［守らないと］
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。


1ASAAAAAP1600

⚠あゆみ板の上では方向修正しない。

- あゆみ板の上では，SF ワンレバー・副変速レバー・ブレーキペダル・水平操作レバーは操作しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上，又は荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。

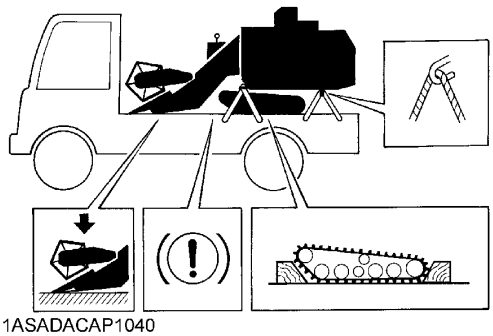
［守らないと］
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。


1ASADACAP1050

⚠トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。

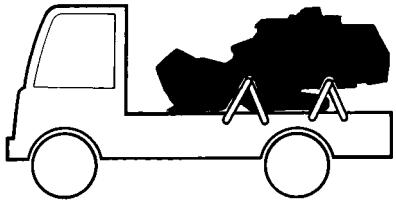
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 副変速レバーを**［標準］**位置又は**［低速］**位置にする。
- 所定の**［ロープ掛けフック（４箇所）］**にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

［守らないと］
機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。


1ASADACAP1040

⚠輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

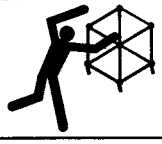
［守らないと］
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。


1ASAAAAAP1440

安全作業するための表示ラベル

■表示ラベルの内容・貼付位置

①品番　5T030-4414-1

⚠注意		リールの回転中は危険ですから手をふれないこと。

1ASADAGAP015J

②品番　5T030-4416-1

	⚠ 警　告 ワラ等の巻きつき・つまりを取除くときには、ケガをするおそれがあるので、エンジンを必ず止めること。

1ASADAGAP016J

③品番　5T030-4415-1

⚠ 注　意
中に刈刃があり、ケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手などをいれないこと。

1ASADAGAP017J

④品番　5T030-4413-1

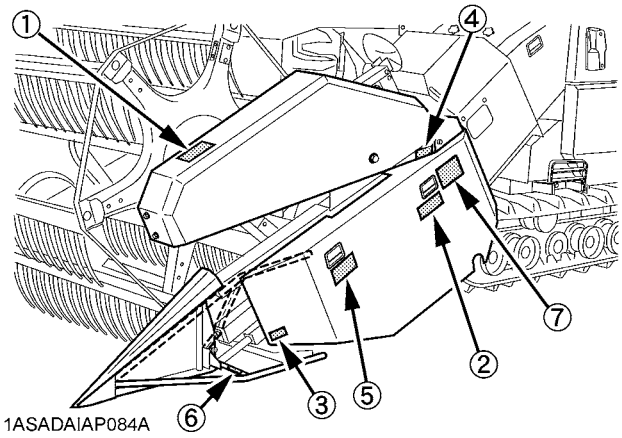
⚠ 注　意
はさまれるとけがをするおそれがあるのでカバーの下側に手を入れないこと。

1ASADAGAP018J

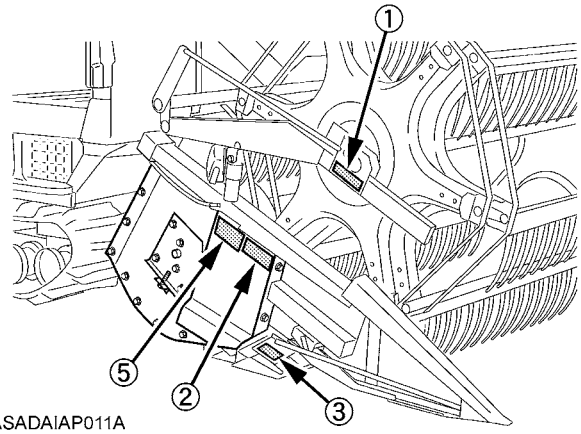
⑤品番　5T030-4412-1

⚠ 警告	◆投げ込み脱こくをするときは 1．平坦な場所に止めて，駐車ブレーキをかけること。 2．リールに巻込まれてケガをするおそれがあるので， ●そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないこと。 ●刈取部から少し離れた斜めの位置に立ち，作物を少量ずつ投げ込むこと。 ●運転席に共同作業者が座り，エンジンをすぐに切れる準備をしておくこと。

1ASADAGAP019J



1ASADAIAP084A

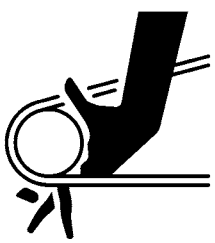
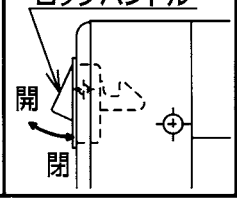


1ASADAIAP011A

⑥品番　59700-2136-2

⚠注意	人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

⑦品番　5K275-6433-1

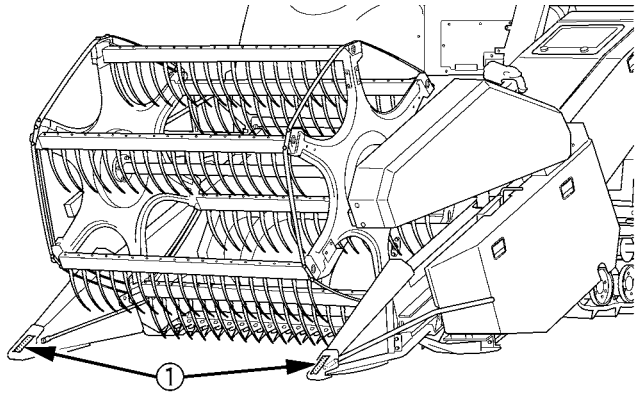
⚠ 注		1．回転物に接触するとけがをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。 2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。
意	ロックハンドル  	1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。 2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

1ARADBLAP2740

①品番　59700-4332-2

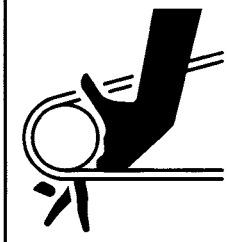
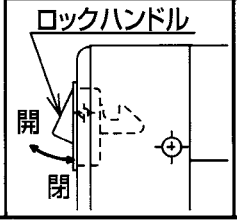
⚠ 注意	デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

1ASADAGAP022J



1ASADAIAP003A

①品番　5K275-6433-1

⚠ 注意		1．回転物に接触するとけがをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。 2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。
		1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。 2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

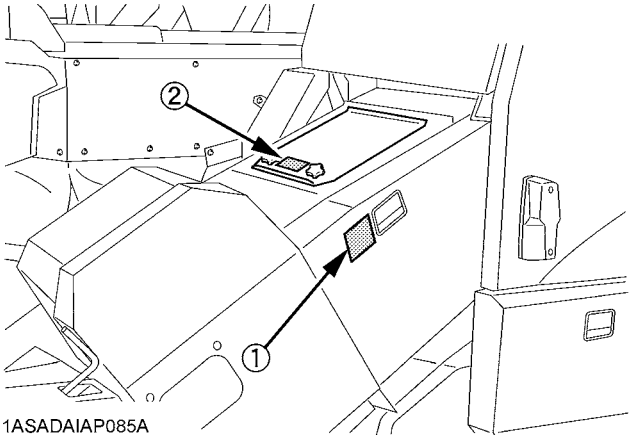
1ARADBLAP2740

②品番　5K190-6461-1

⚠ 注意	掃　除　口 中に回転物がありけがをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。 清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP370J

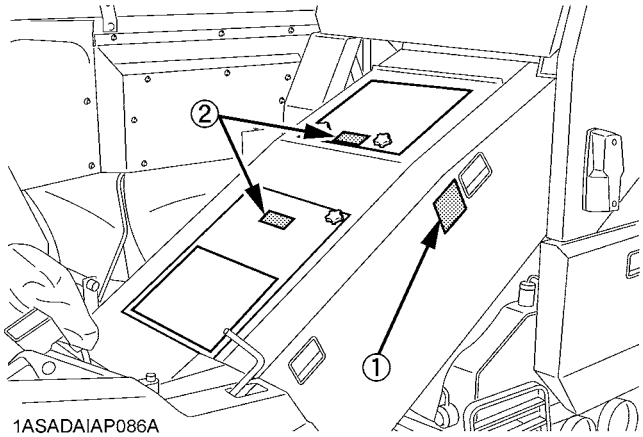
[C仕様除く]



1ASADAIAP085A

[C仕様除く]

[C仕様]



1ASADAIAP086A

[C仕様]

①品番　5H706-4328-1

⚠ 注　意

作業前
1.安全に作業するために，取扱説明書を読んで，機械の使い方を覚えること。
2.エンジンを始動するときは，各クラッチを切り，主変速レバーを「停止」にすること。
3.屋内は排気ガスが溜まり易く，ガス中毒の危険があるので換気すること。
4.ケガをするおそれがあるので，掃除・点検・調整のときは，各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

移動・作業中
1.発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは，周囲の安全を確かめ合図して，機械に人を近付けないこと。
2.転落・転倒事故の危険があるので，傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。
3.走行を停止するときは，主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。
※主変速レバーのノブを握ると「停止」の位置がわかりにくくなるので，ノブを握らないこと。
4.道路交通法規定により，トラック運搬時（特にキャビン付）は，地上高3.8 m以下で運行すること。
5.刈取作業時以外(あぜ乗越時，移動走行時，運搬時，格納時)は，「もみ」をすべて排出または降ろして，各作業クラッチを"切"にし，M仕様(車体水平制御)は，機体を一番下げた状態にすること。

積込 ・積降ろし
1.転倒・転落事故の危険があるので，車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。
1 積み込むときは前進で，降ろすときは後進にすること。
2 副変速を倒伏にし，エンジンの回転を落として(2000rpm 以上)，低速にすること。
3 あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは，いったん地上または荷台に戻って向きを正し，再度やり直すこと。
4 あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さで，すべり止めがあり，基準に合ったものを使用すること。

駐・停車
1.火災の危険があるので，機械を停止するときは，切りワラや雑草の上に止めないこと。
2.急発進・暴走の危険があるので，副変速レバーを切り換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし，駐車ブレーキペダルをいっぱい踏むこと。
3.機械から離れるときは，エンジンを止めて始動キーを抜き，駐車ブレーキを必ずロックすること。また，坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

1ARADBEAP345J

②品番　5H706-4324-1

⚠ 注　意

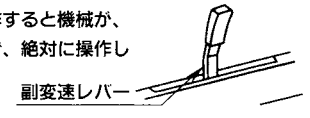
エンジンを始動するときは，主変速レバーを「停止」にし，駐車ブレーキを「入」にし，各作業クラッチを「切」にすること。

1ARADBEAP346J

④品番　5H601-4354-1

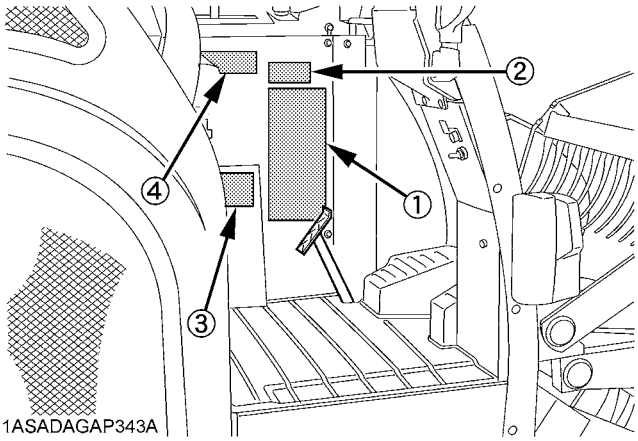
⚠ 注　意

坂道で副変速レバーを操作すると機械が、暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと



1ARADBEAP348J

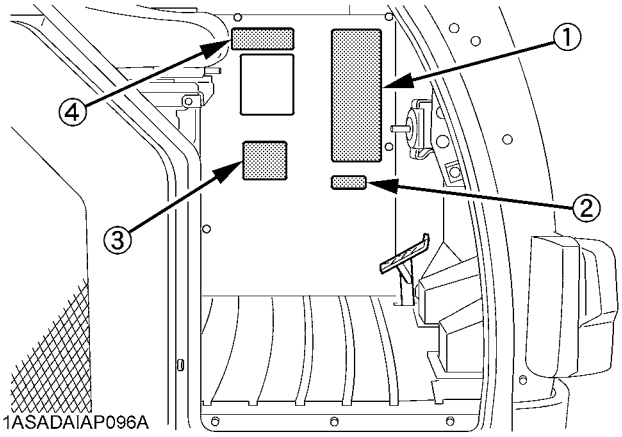
[C仕様除く]



1ASADAGAP343A

[C仕様除く]

[C仕様]



1ASADAIAP096A

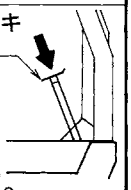
[C仕様]

③品番　5H700-4322-1

⚠ 注　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1．駐車するときは、車止めをすること。
2．駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「倒伏」又は「標準」にし、主変速を「停止」にすること。

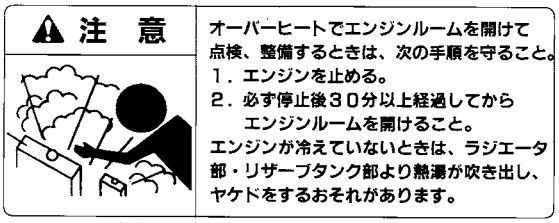
駐車ブレーキの操作方法



①主変速レバーを「停止」位置にし停止を確認すること。
②駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むと自動的にロックされます。
③ロックを解除する時は、もう一度ペダルを踏み込んで下さい。

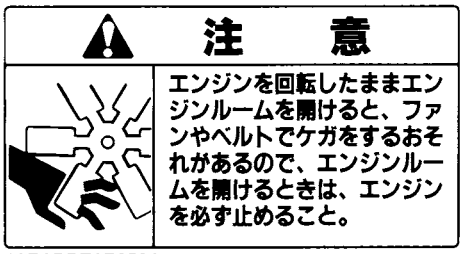
1ARADBEAP347J

①品番　5H601-4343-1



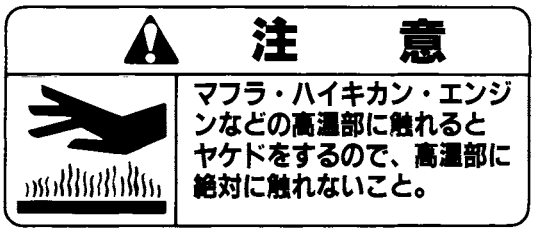
1ARADBEAP349J

②品番　5H601-4342-1



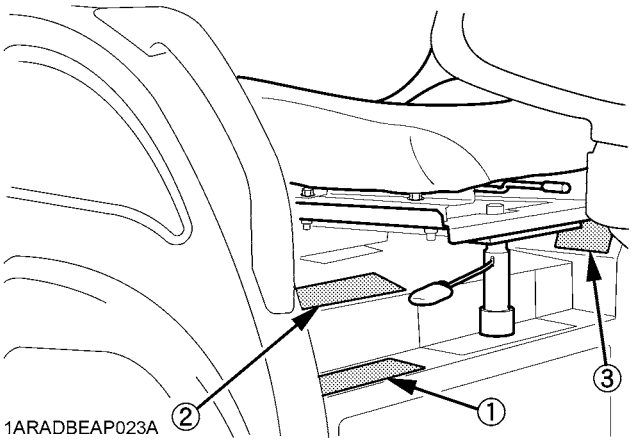
1ARADBEAP350J

③品番　52320-3159-1



1ARADBEAP351J

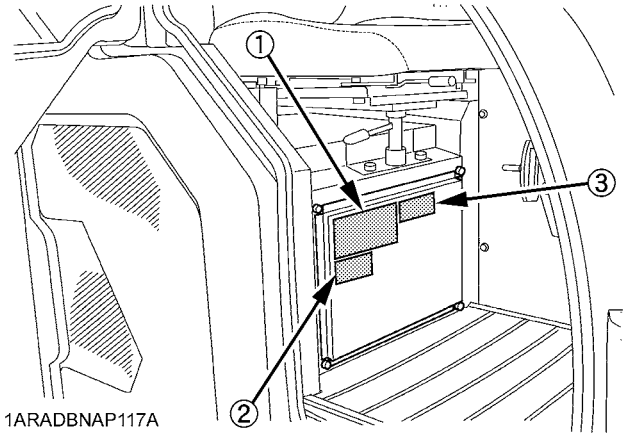
[C仕様除く]



1ARADBEAP023A

[C仕様除く]

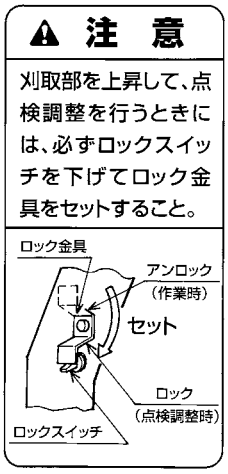
[C仕様]



1ARADBNAP117A

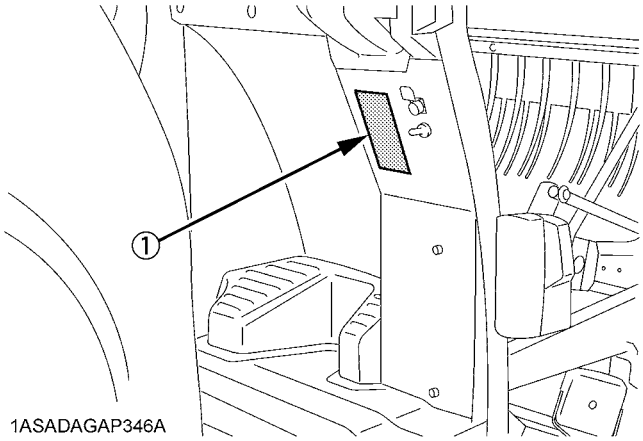
[C仕様]

①品番　5H730-4322-1 [C仕様除く]
　　5H690-4322-1 [C仕様]



1ARADBEAP352J

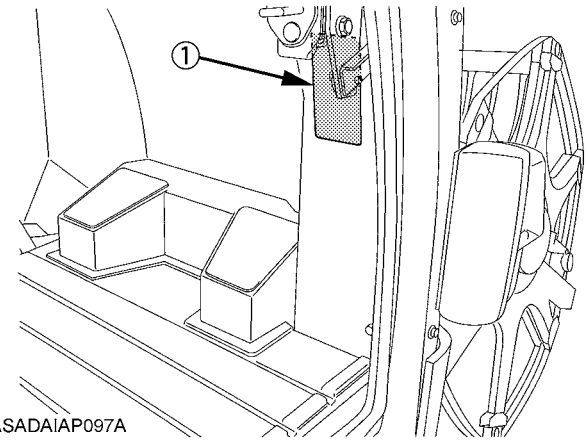
[C仕様除く]



1ASADAGAP346A

[C仕様除く]

[C仕様]

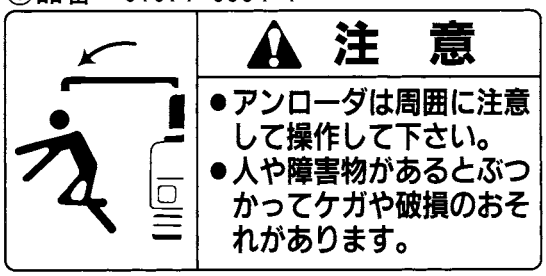


1ASADAIAP097A

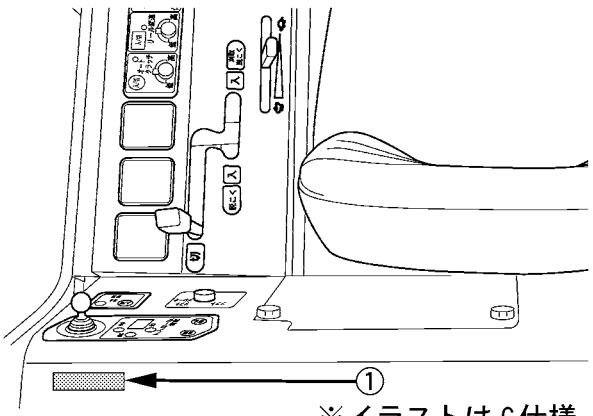
[C仕様]

[G仕様]

①品番　51971-3994-1



1ASADAGAP023J

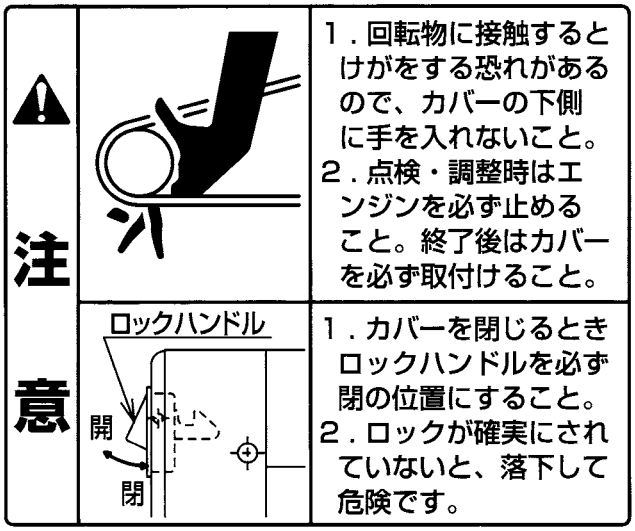


1ASADAIAP007A

※イラストはC仕様

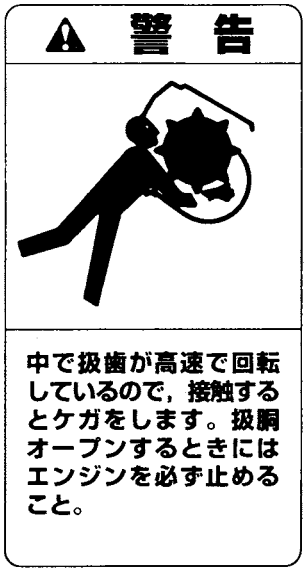
[G仕様]

①品番　5K275-6433-1
②品番　5K275-6434-2



1ARADBLAP2740

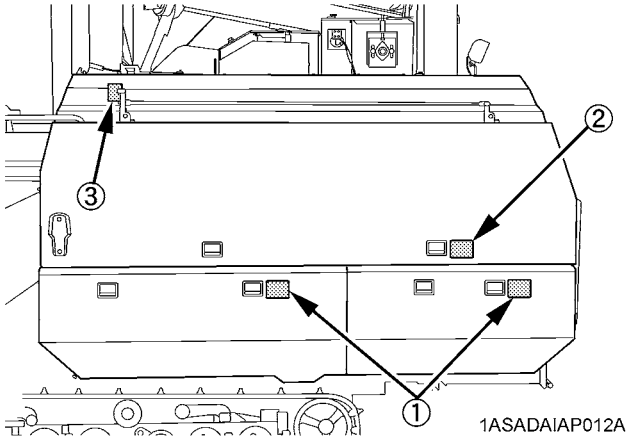
③品番　53981-6431-3



1ASADAGAP025J

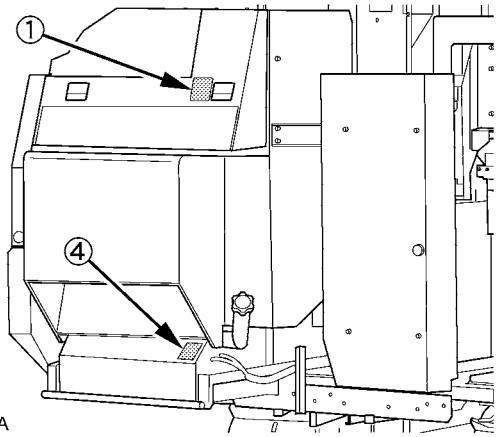
④品番　5K200-6212-1

1ASADAGAP026J



1ASADAIAP012A

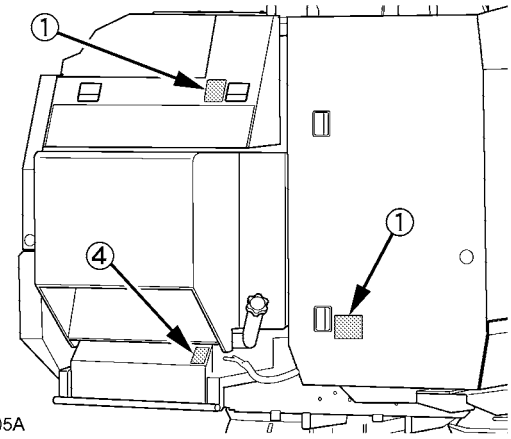
[H仕様]



1ASADAIAP006A

[H仕様]

[G仕様]

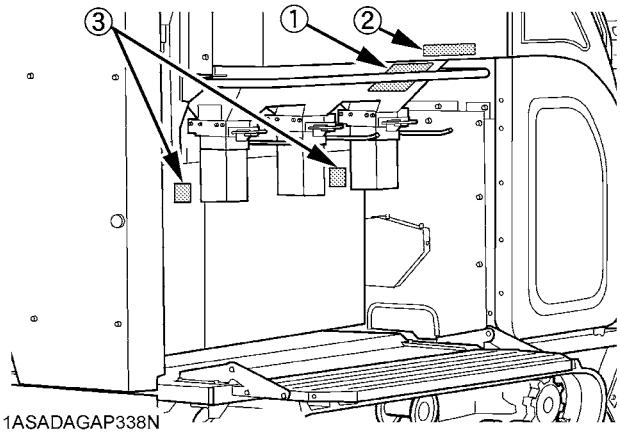


1ASADAIAP005A

[G仕様]

［H仕様］

①品番　5T000-4392-1



1ASADAGAP338N

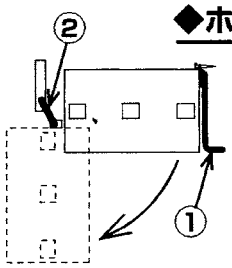
⚠ 注意

◆ホッパーをオープンするときは

1.ホッパーに身体がはさまれる恐れがあるので必ず平坦な場所で行うこと。
2.内部の「こく粒」は全て排出すること。
3.エンジンは必ず停止して行うこと。
4.開閉時は、周囲を確認しゆっくり行うこと。

◆エンジン始動時は必ずホッパーを収納固定しておくこと。

◆ホッパーオープンのしかた



㋑ オープンレバー①を引きながらタンクをゆっくりと開きます。
㋺ 固定ロッド②で固定します。
㋩ タンクを元に戻す時は、上記の逆の手順で行います。

1ASADAGAP029J

②品番　52166-2119-3

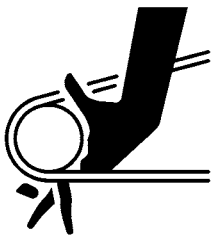
⚠ 注意

1．転落のおそれがあるのでもみ受けデッキ、補助デッキには乗らないこと。
2．移動するときは、人に当ってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

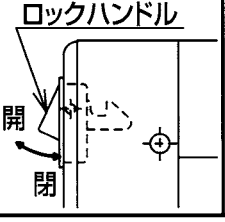
1ASADAGAP030J

③品番　5K275-6433-1

⚠ 注意



1．回転物に接触するとけがをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。



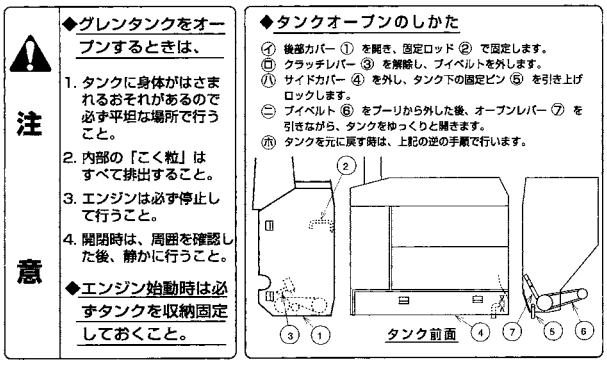
1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。
2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

1ARADBLAP2740

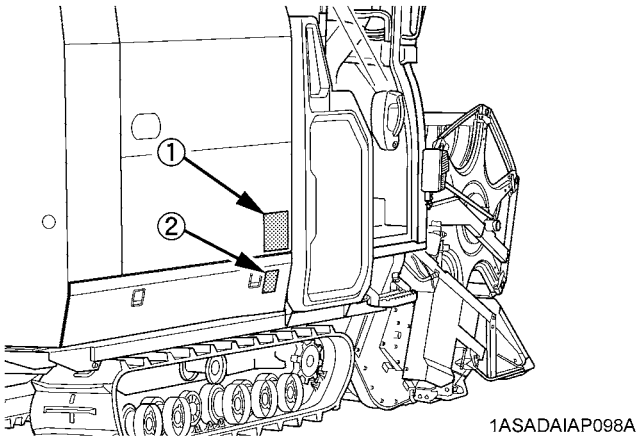
［H仕様］

[G仕様]

①品番　5T060-4382-1

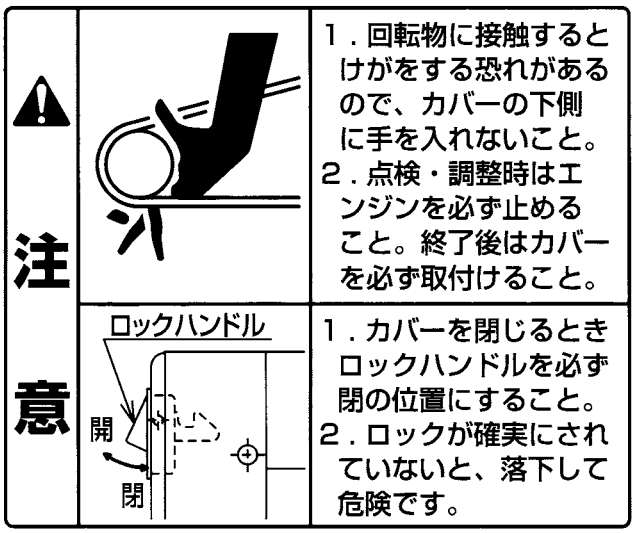


1ASADAGAP032J



1ASADAIAP098A

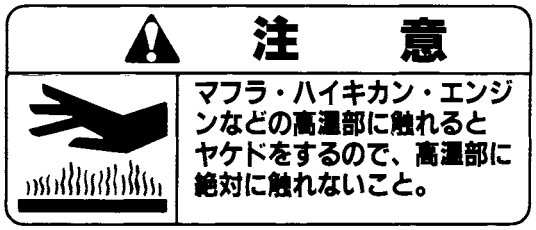
②品番　5K275-6433-1



1ARADBLAP2740

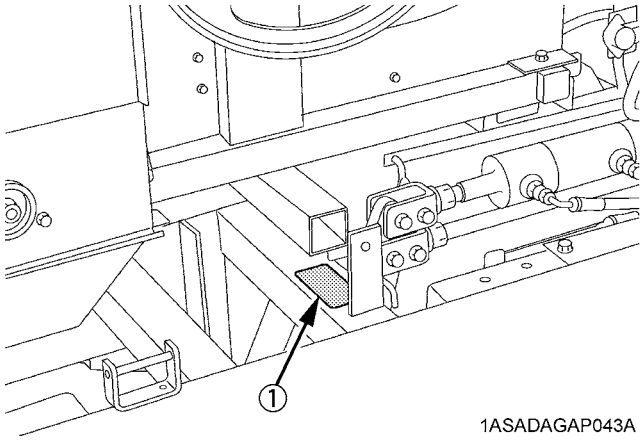
[G仕様]

①品番　52320-3159-1



1ARADBEAP351J

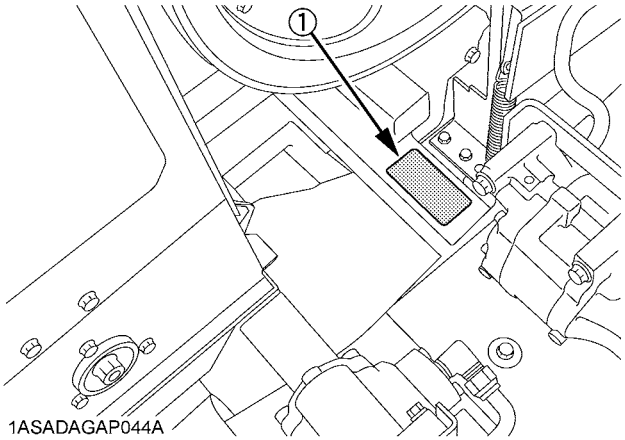
[H仕様]



1ASADAGAP043A

[H仕様]

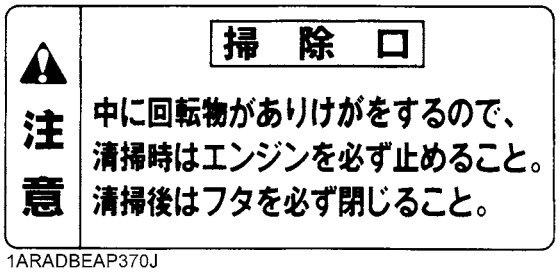
[G仕様]



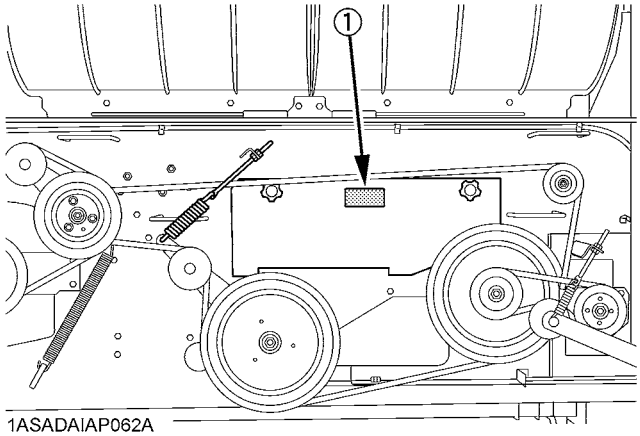
1ASADAGAP044A

[G仕様]

①品番　5K190-6461-1



1ARADBEAP370J



1ASADAIAP062A

①品番　53981-6434-1
②品番　5K190-6461-1

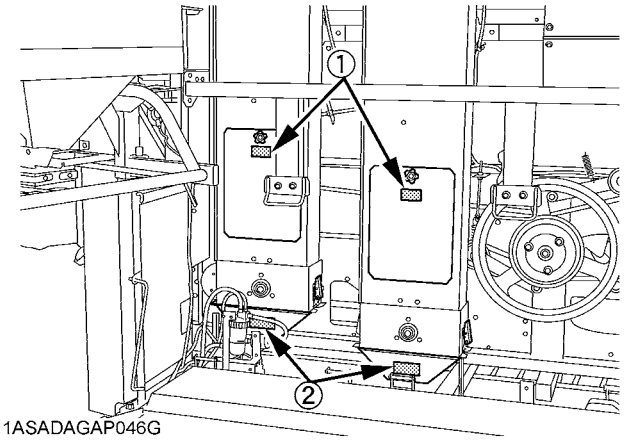
⚠ 注意

掃　除　口

中に回転物がありけがをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP370J

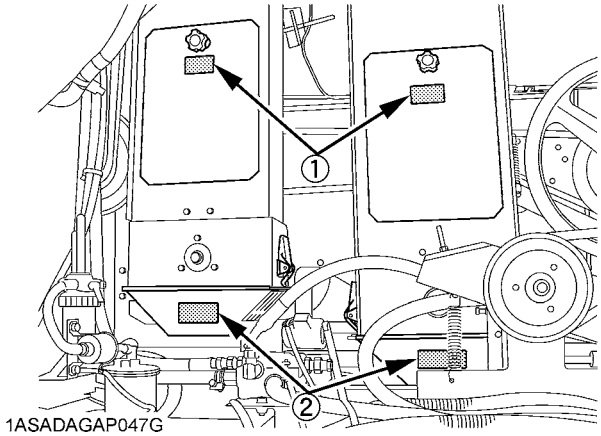
[H仕様]



1ASADAGAP046G

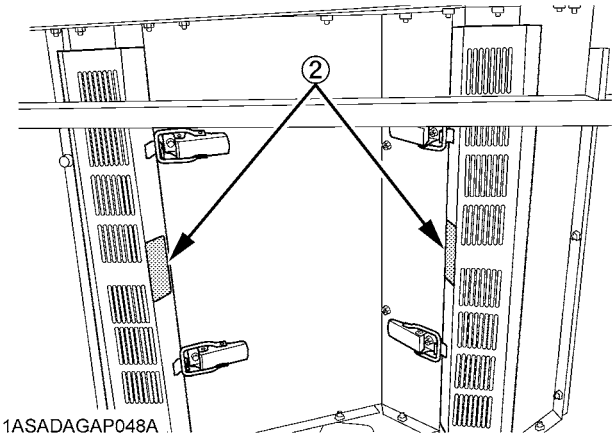
[H仕様]

[G仕様]



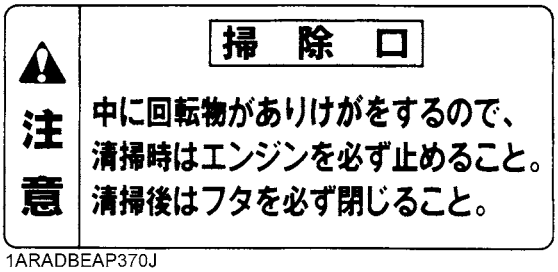
1ASADAGAP047G

[G仕様]



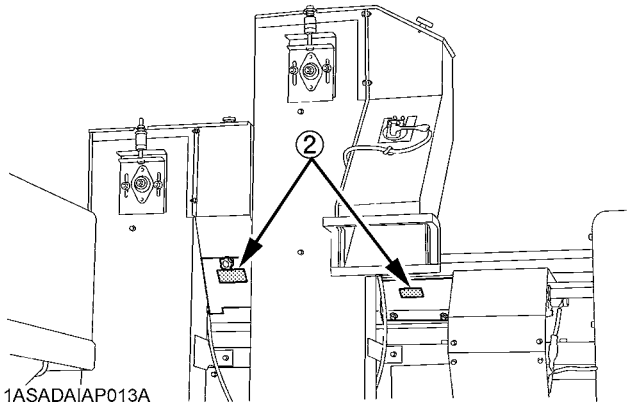
1ASADAGAP048A

①品番　53981-6434-1
②品番　5K190-6461-1

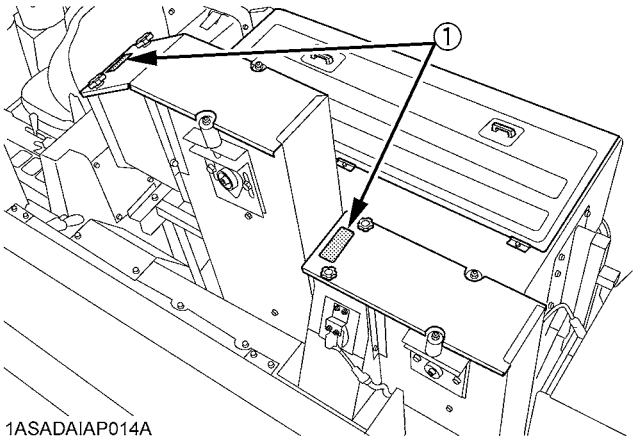


1ARADBEAP370J

[H仕様]



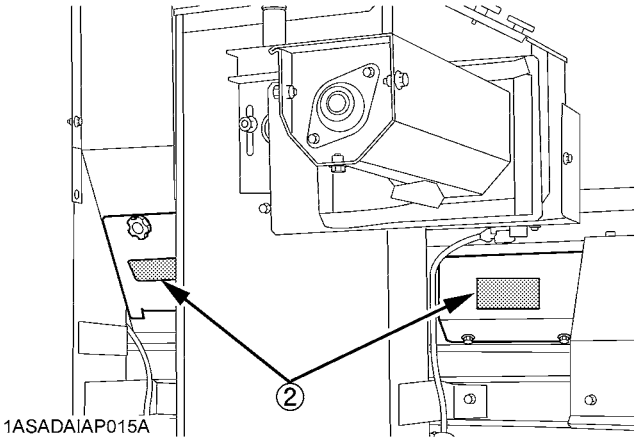
1ASADAIAP013A



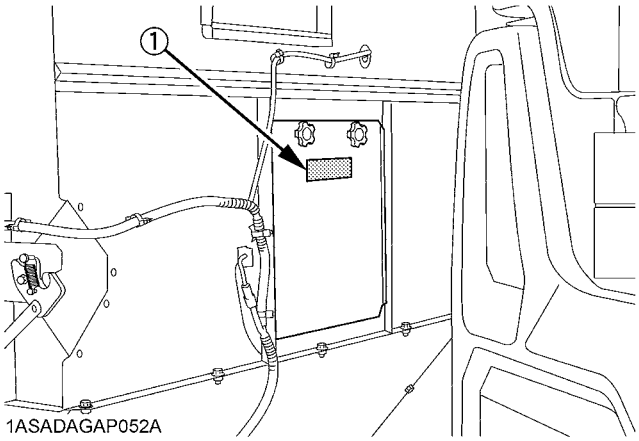
1ASADAIAP014A

[H仕様]

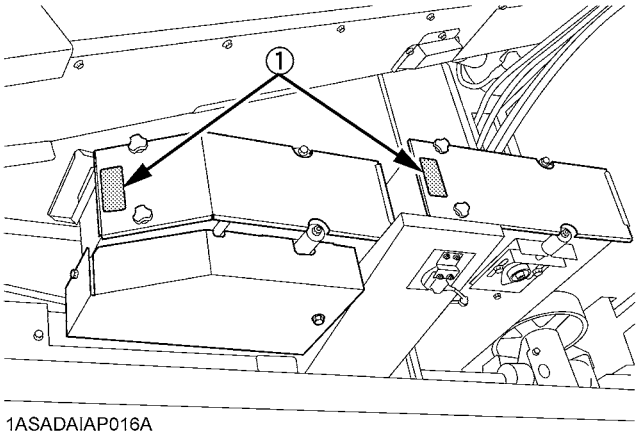
[G仕様]



1ASADAIAP015A



1ASADAGAP052A

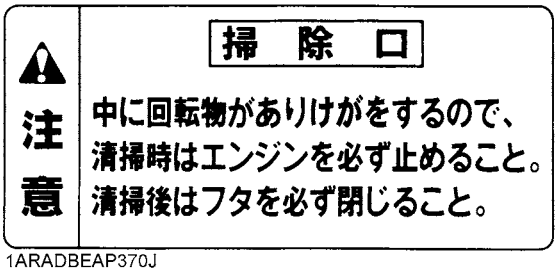


1ASADAIAP016A

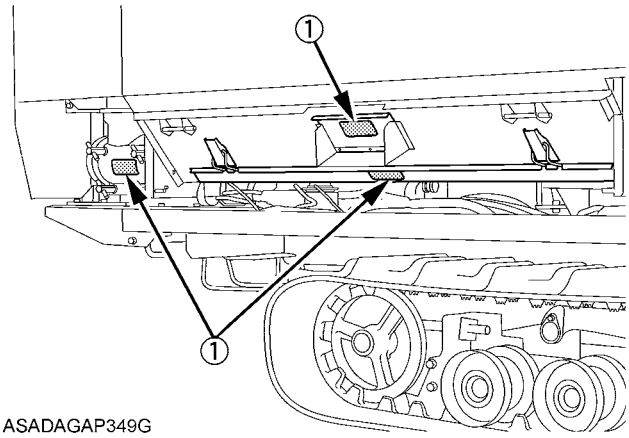
[G仕様]

[G仕様]

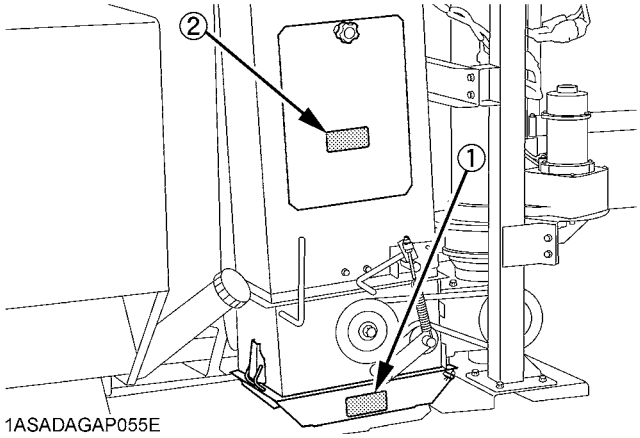
①品番　5K190-6461-1
②品番　53981-6434-1



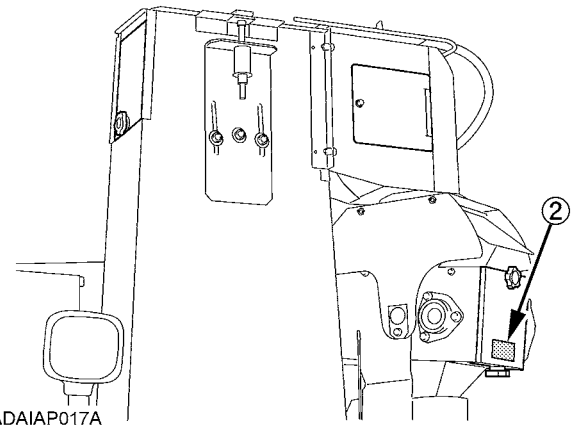
1ARADBEAP370J



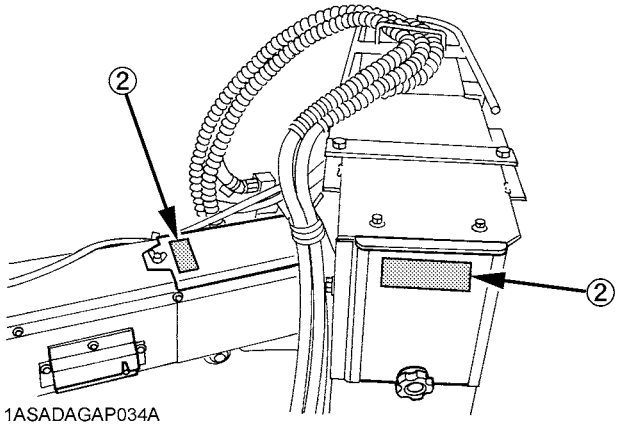
1ASADAGAP349G



1ASADAGAP055E



1ASADAIAP017A

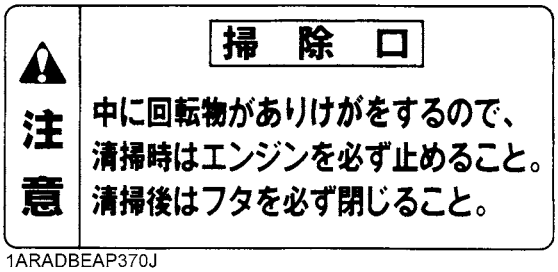


1ASADAGAP034A

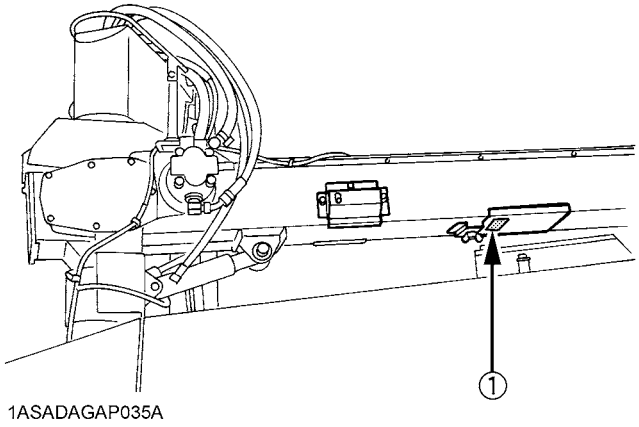
[G仕様]

[G仕様]

①品番　53981-6434-1

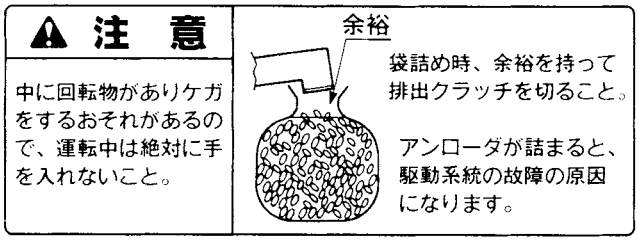


1ARADBEAP370J

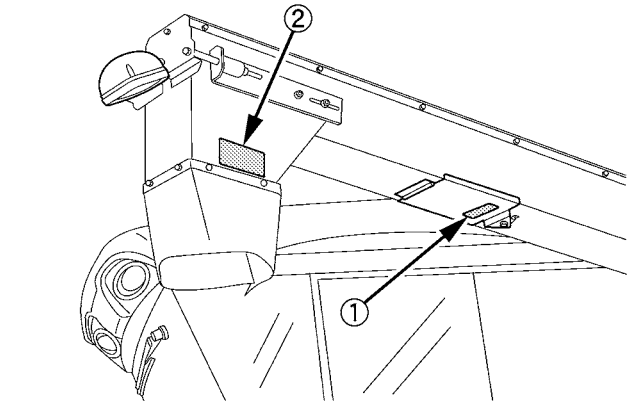


1ASADAGAP035A

②品番　5G200-6425-1



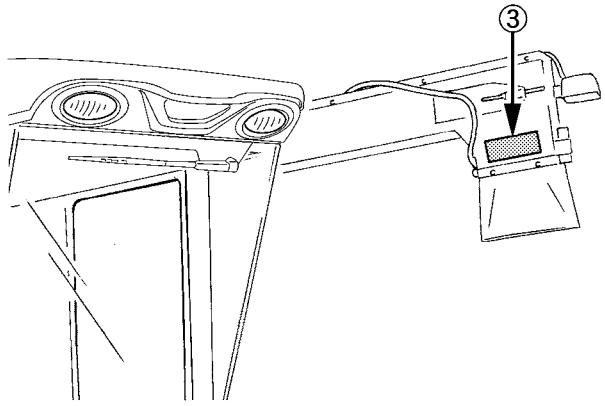
1ARADBEAP366J



1ASADAIAP099A

③品番　51971-3994-1

1ASADAGAP033J

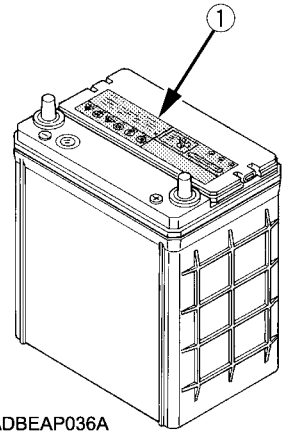


1ASADAIAP100A

[G仕様]

①品番　5H522-4112-1

1ARADBEAP375J

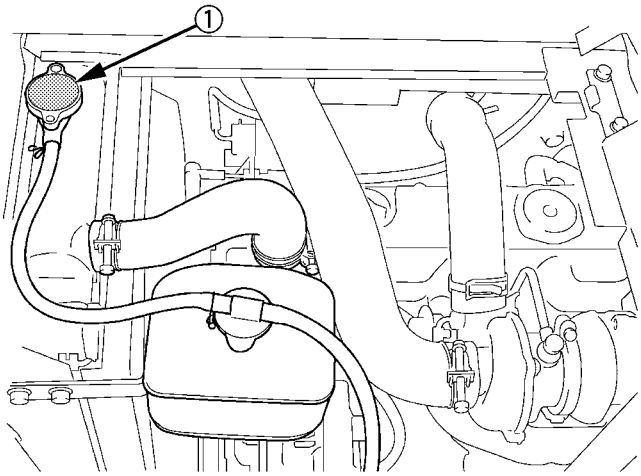


1ARADBEAP036A

①品番　16667-8724-1

1ARADBEAP376J

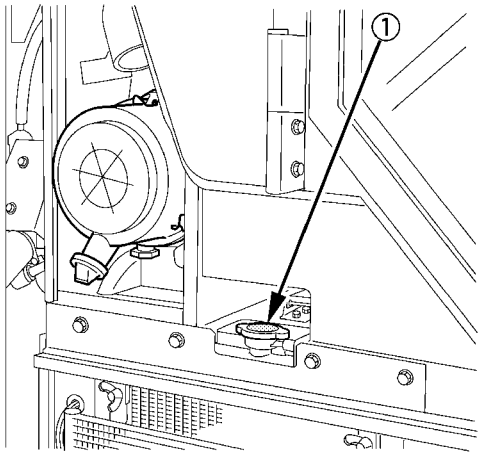
[C仕様除く]



ASADAIAP019A

[C仕様除く]

[C仕様]



1ASADAIAP101A

[C仕様]

表示ラベルの手入れ

■表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

◆ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際，

1. 販売型式名（商品名）・区分と車台番号
2. エンジンの型式名（Model No.）と番号（Serial No.）

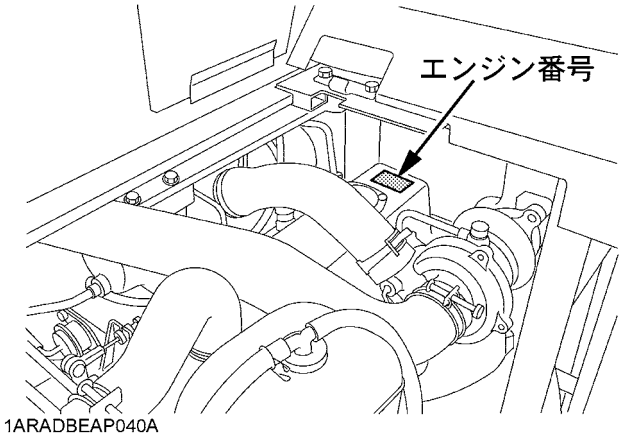
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。

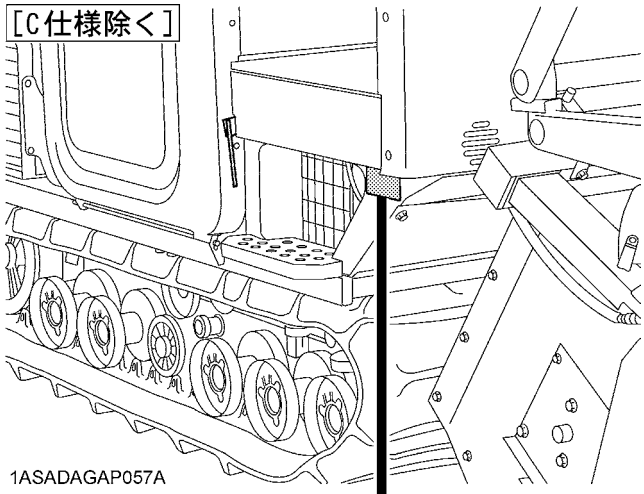
重　要

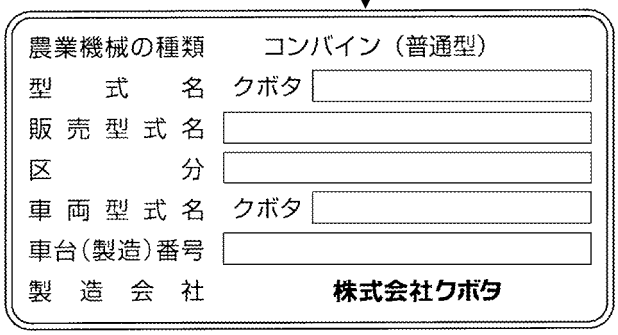
＊ 機械を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



1ARADBEAP040A

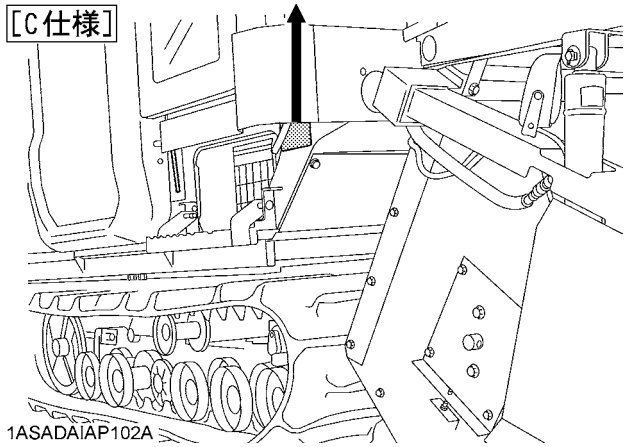
［C仕様除く］

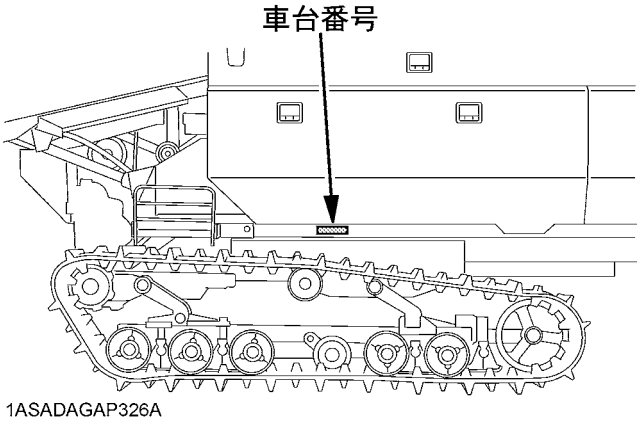

1ASADAGAP057A



1ASADAGAP058A

［C仕様］


1ASADAIAP102A



1ASADAGAP326A

サービスと保証について

◆ 認定番号

安全鑑定の農機型式及び番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

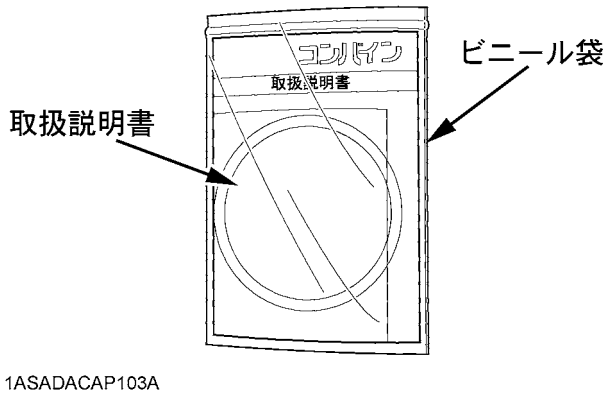
商品名	農機型式名	安全鑑定番号	対象型式区分
ARH430	クボタ R0801	33083	ARH430H
ARH430G	クボタ R0801G	33007	ARH430G，CG

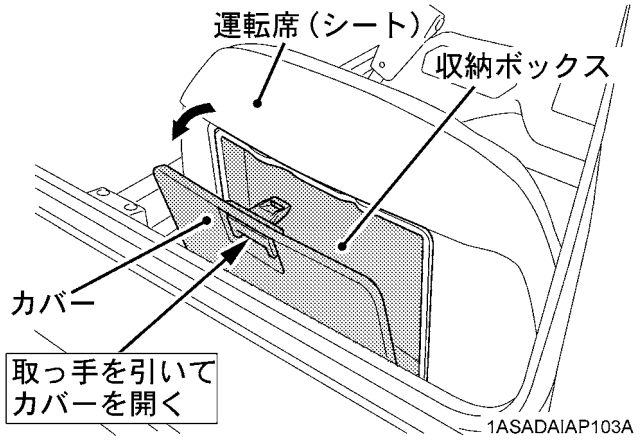
◆ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

◆ 取扱説明書の収納場所について

本冊子を付属部品のビニール袋にいれたあと，運転席（シート）裏側にある収納袋に本冊子を収納して，常時携帯してください。（出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。）

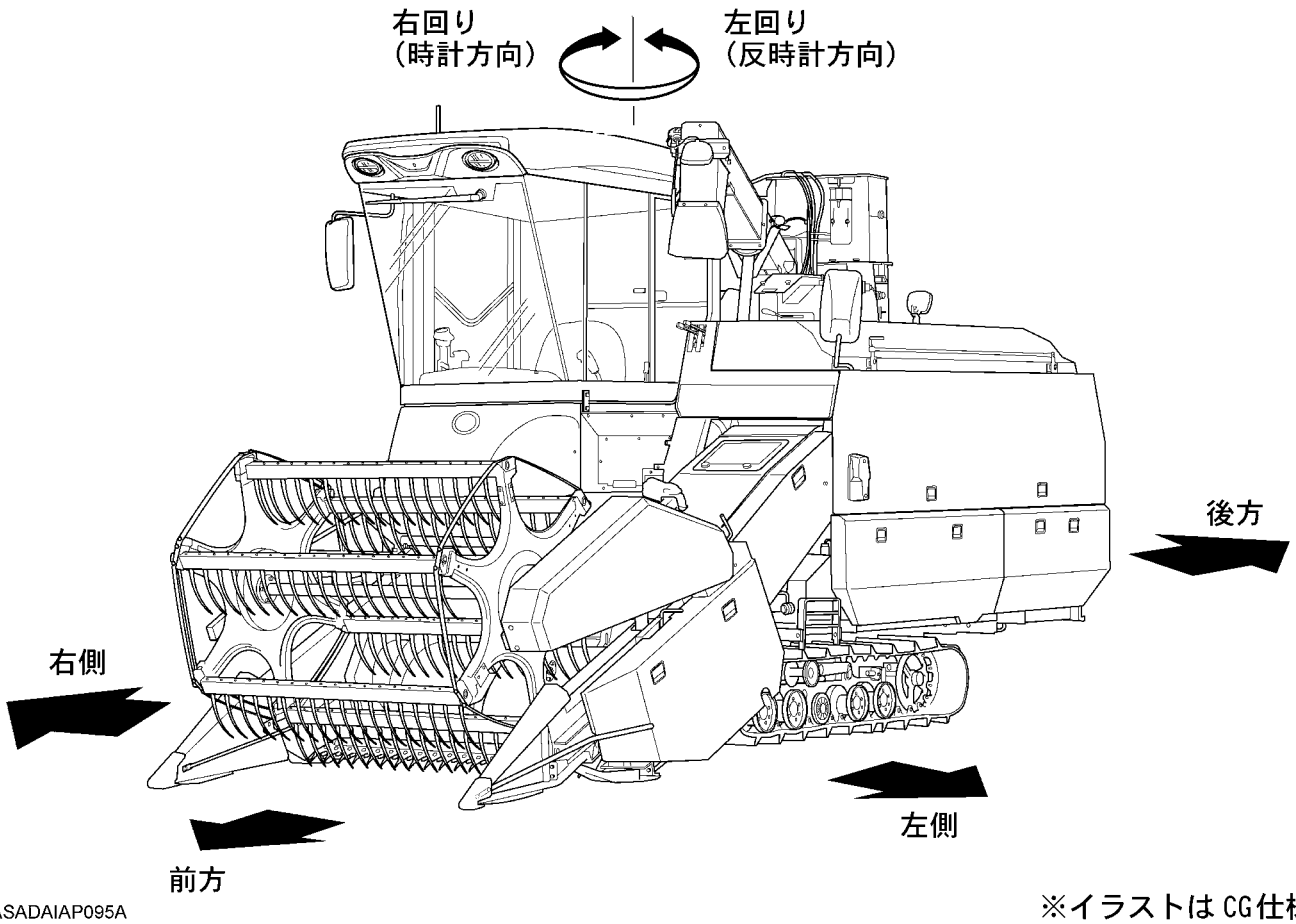




装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。



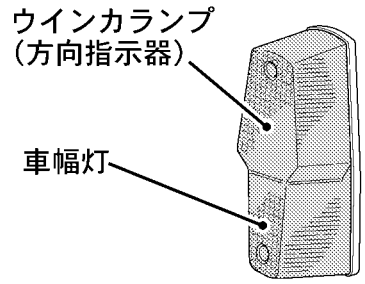
1ASADAIAP095A

※イラストはCG仕様

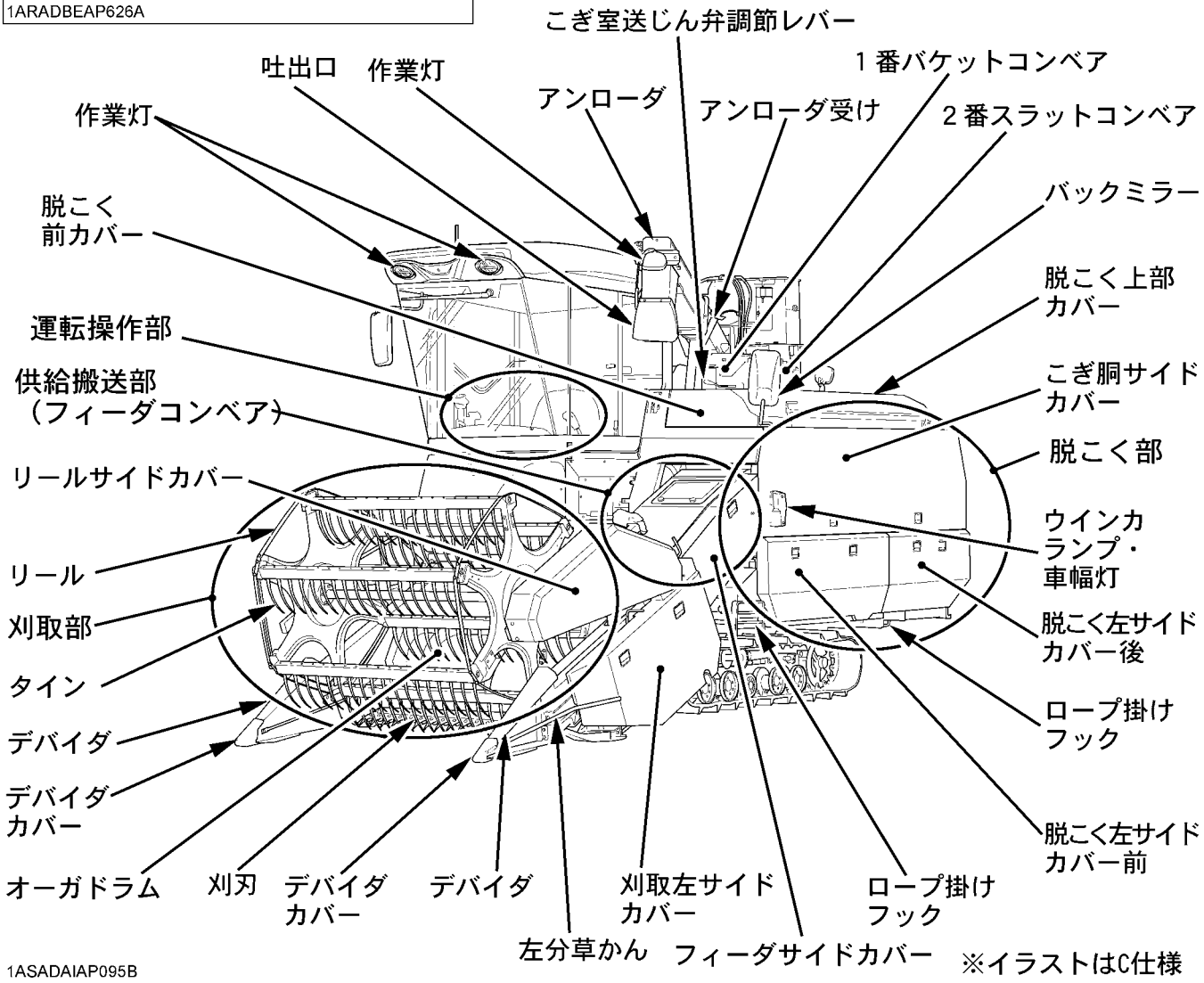
装置の名称と各部のはたらき

[G 仕様]

［ウインカランプ･車幅灯］［前側］

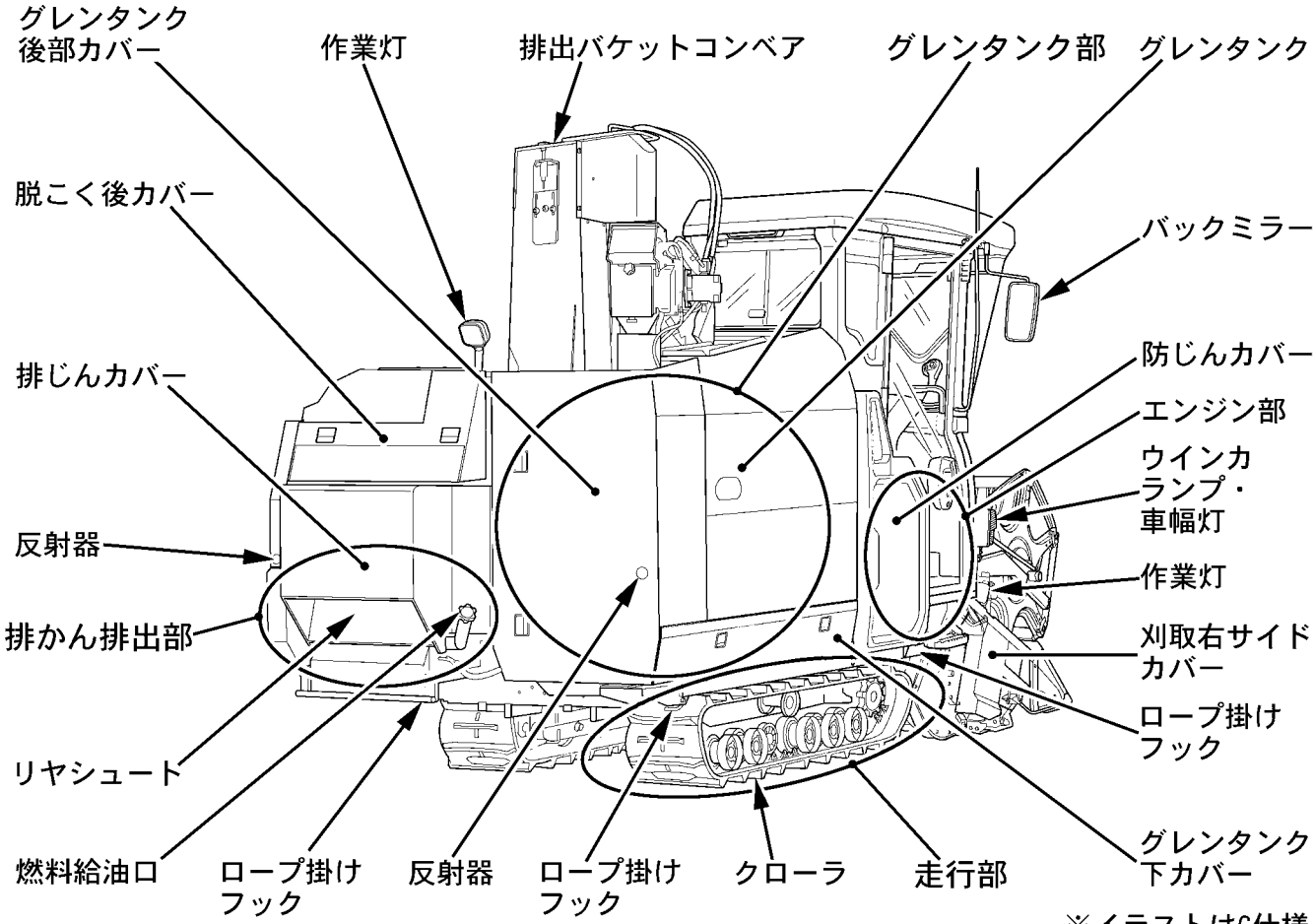


1ARADBEAP626A



1ASADAIAP095B

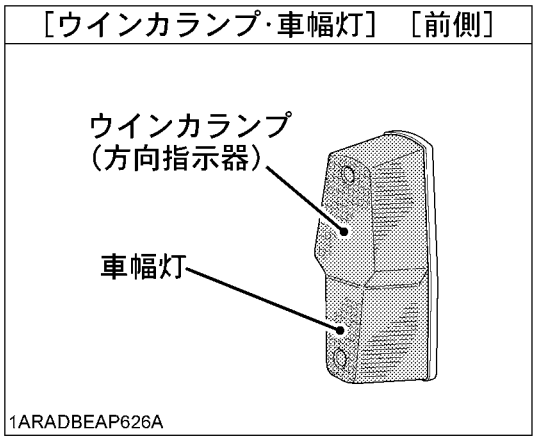
- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の刈取りとかき込みを行なうところ
- **供給搬送部（フィーダコンベア）**……作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**……グレンタンクからこく粒を排出する筒

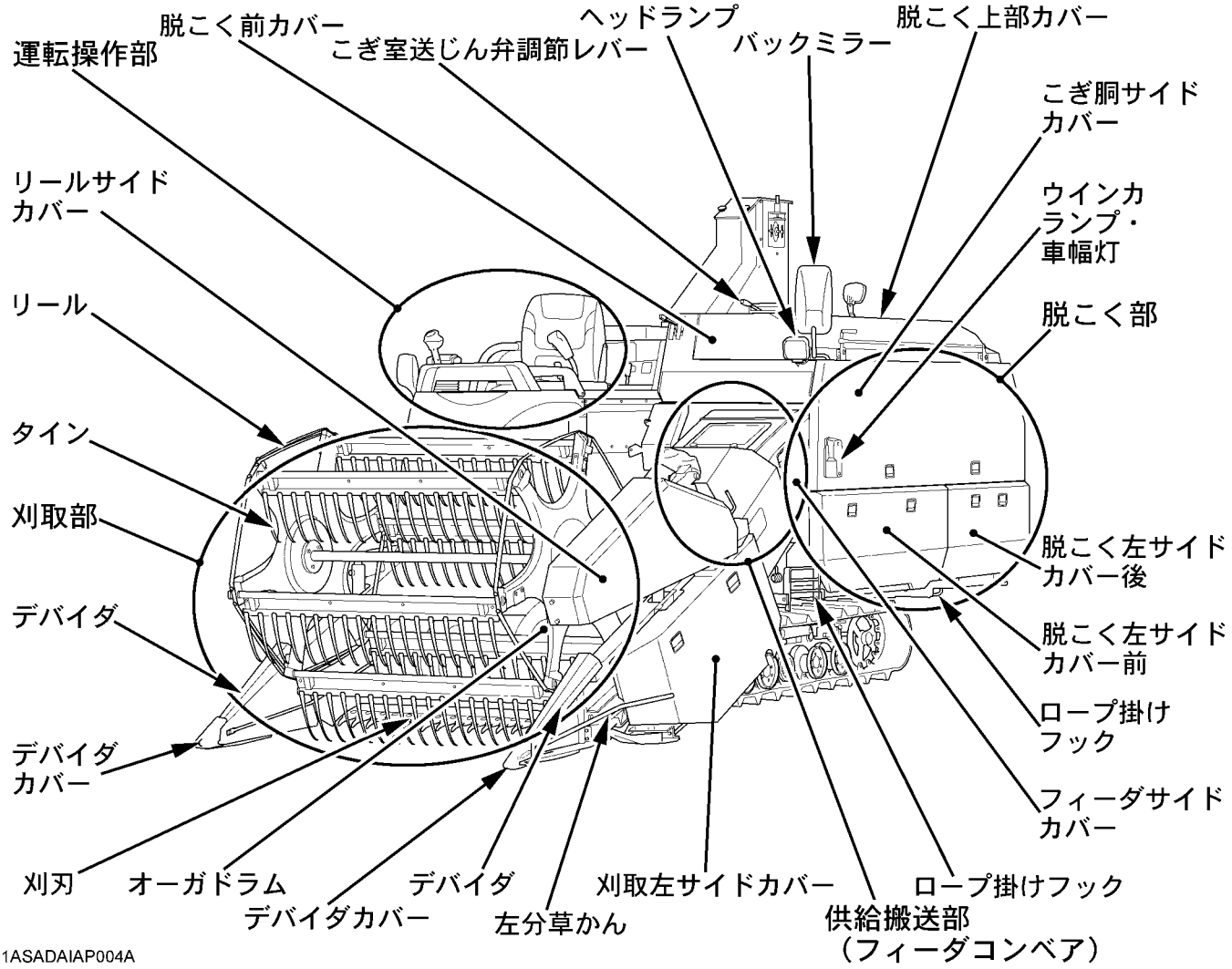


- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたこく粒を一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- **排かん排出部**……排かんの排出を行なうところ

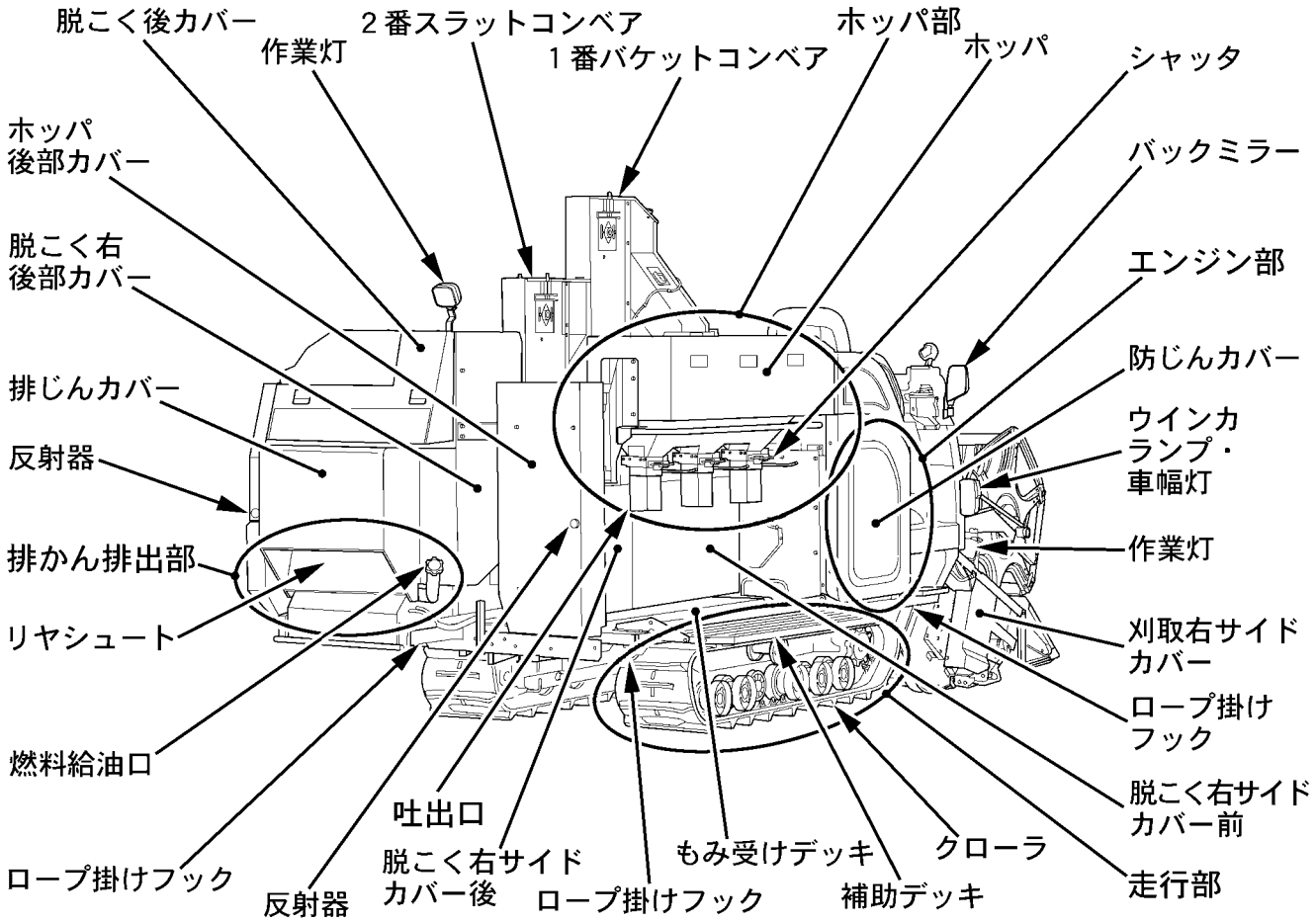
[G 仕様]

[H 仕様]





- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の刈取りとかき込みを行なうところ
- **供給搬送部（フィーダコンベア）**……作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ

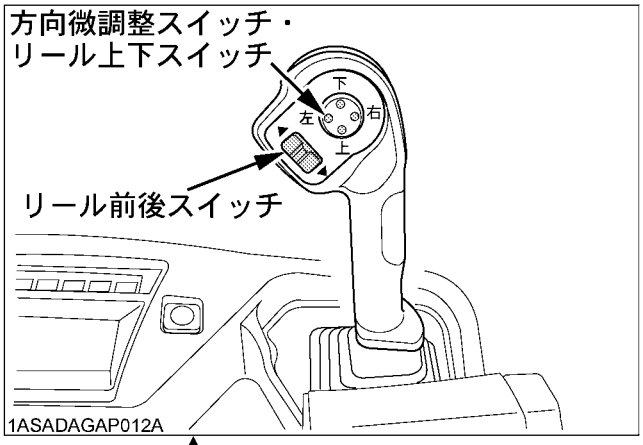


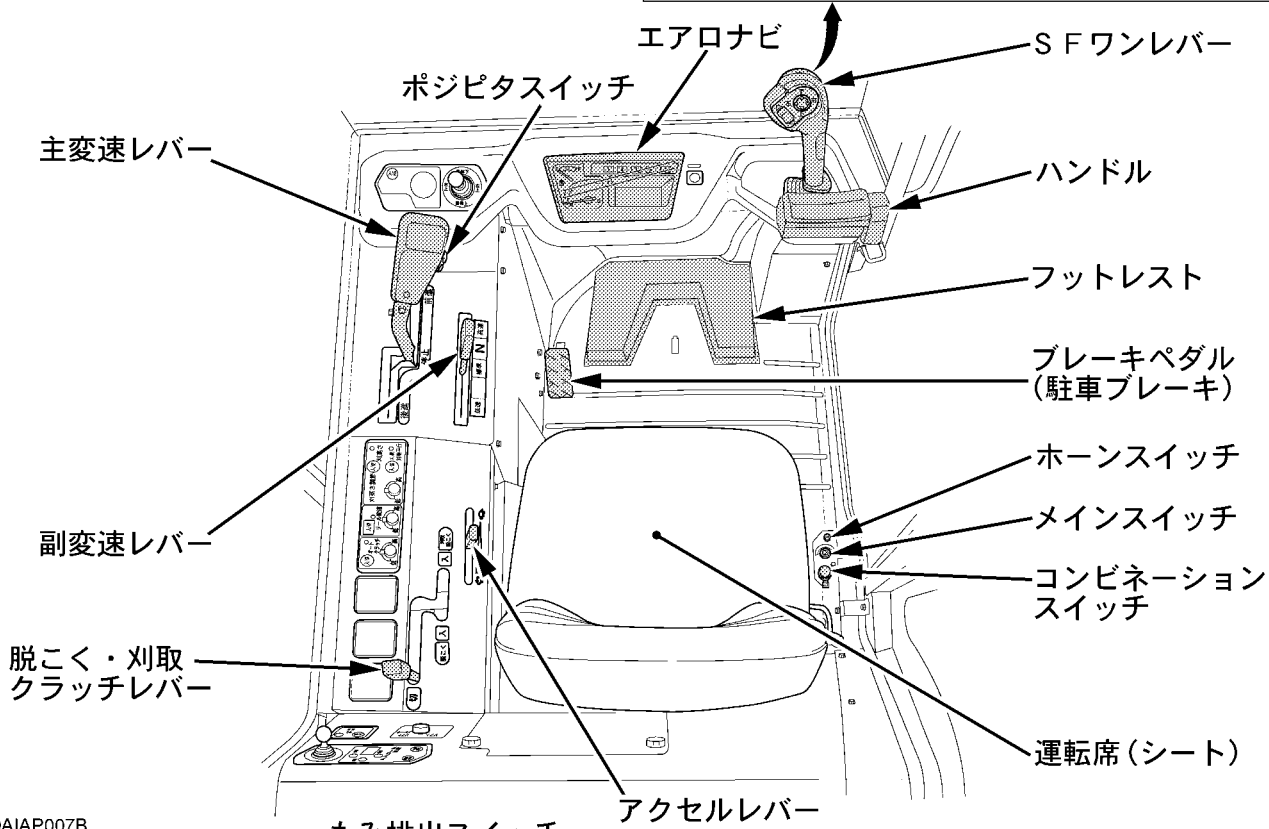
1ASADAIAP006B

- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ
- **ホッパ部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあと袋詰めを行なうところ
- **排かん排出部**……排かんの排出を行なうところ

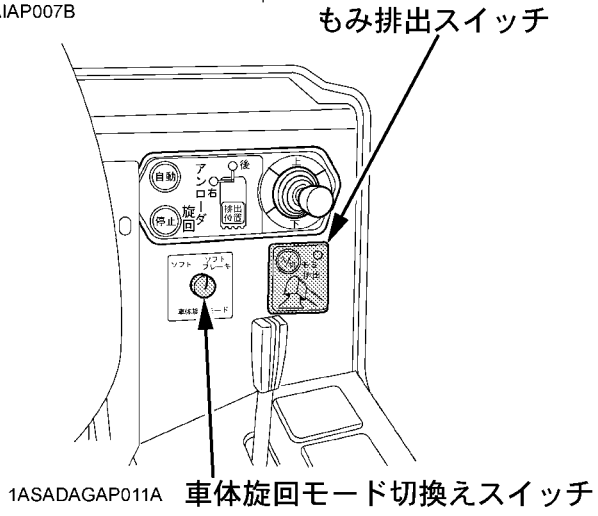
[H 仕様]

[CG 仕様]





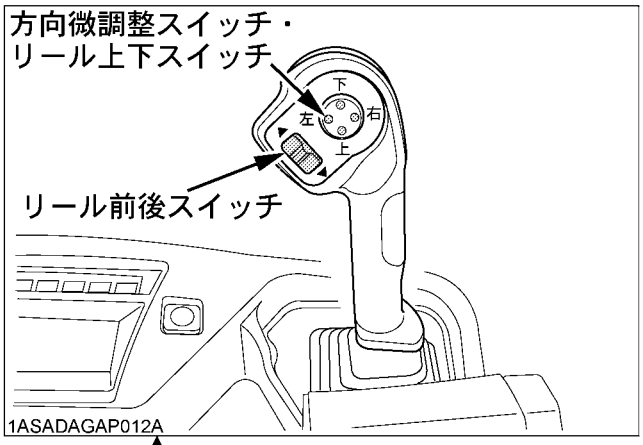
1ASADAIAP007B

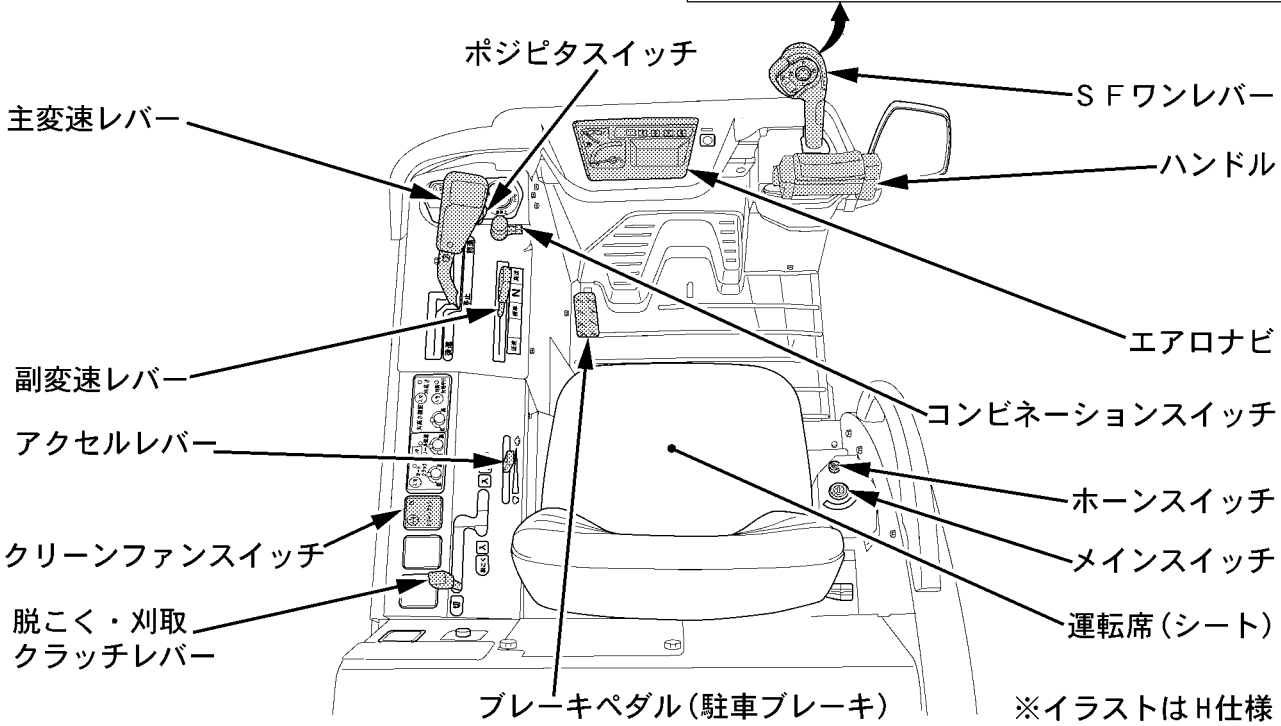


1ASADAGAP011A

[CG 仕様]

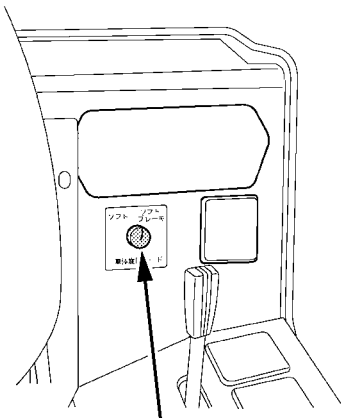
[H・G仕様]





1ASADAIAP008A

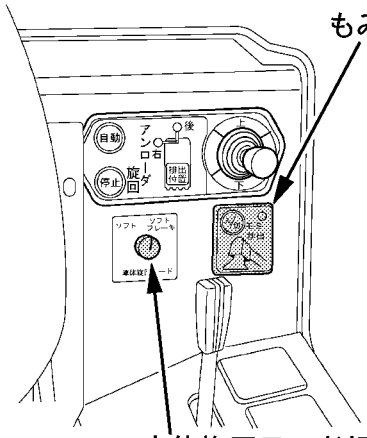
[H仕様]



1ASADAGAP014A 車体旋回モード切換えスイッチ

[H仕様]

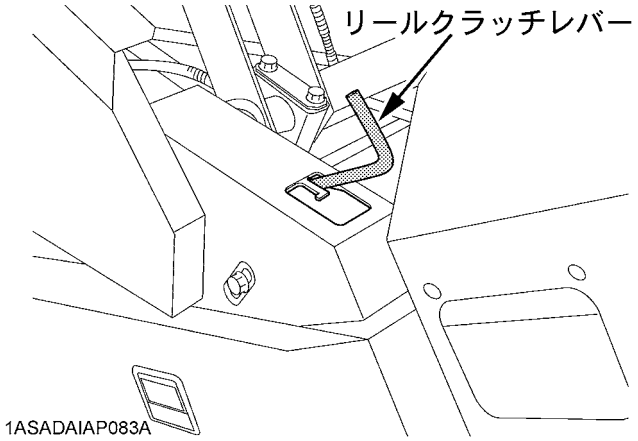
[G仕様]

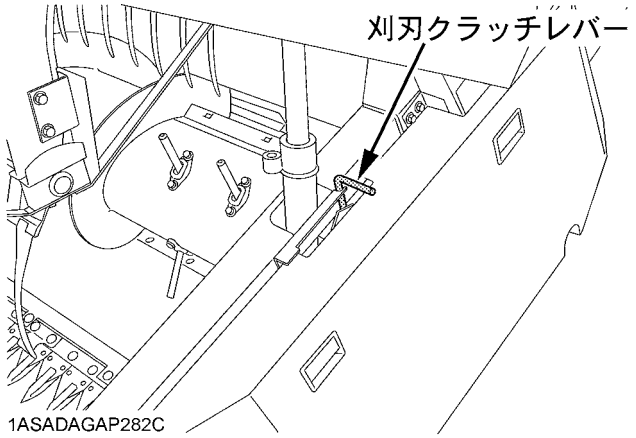


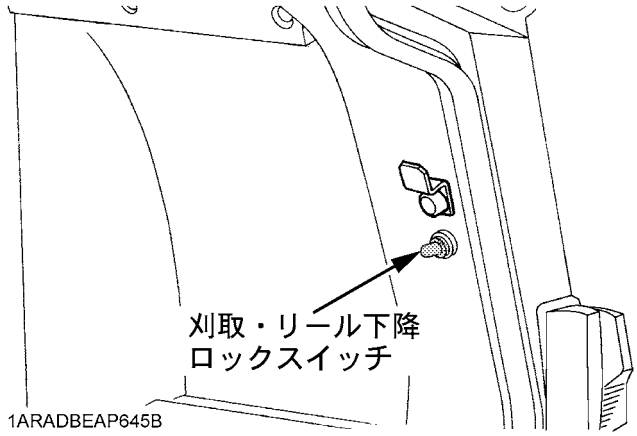
1ASADAGAP011B 車体旋回モード切換えスイッチ

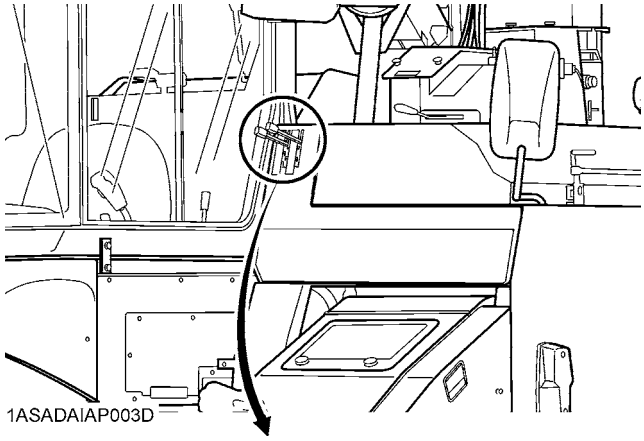
[G仕様]

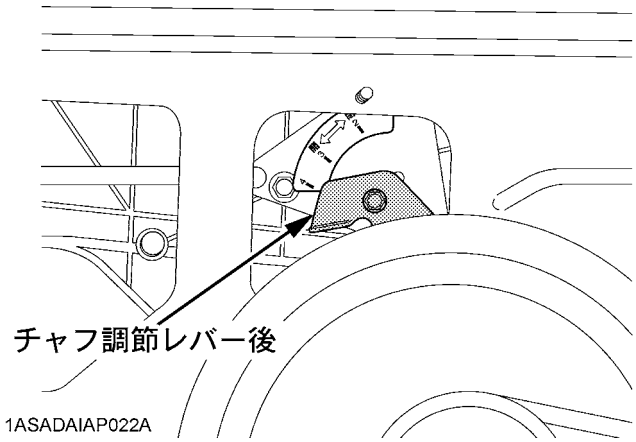
[H・G仕様]

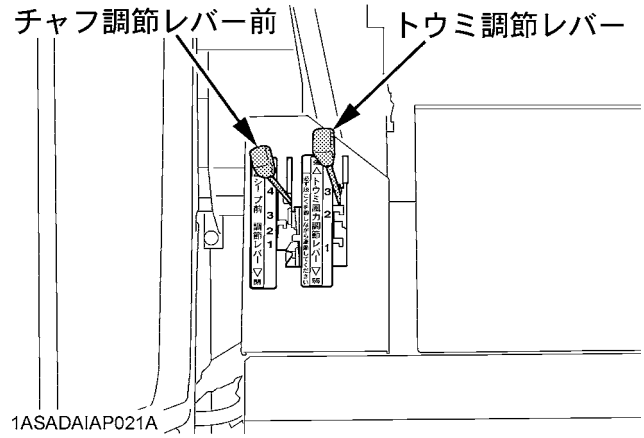

リールクラッチレバー
1ASADAIAP083A


刈刃クラッチレバー
1ASADAGAP282C


刈取・リール下降
ロックスイッチ
1ARADBEAP645B


1ASADAIAP003D


チャフ調節レバー後
1ASADAIAP022A

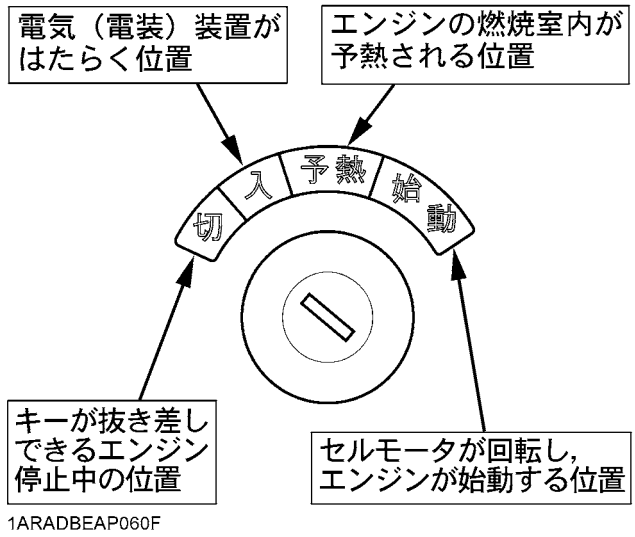

チャフ調節レバー前
トウミ調節レバー
1ASADAIAP021A

◆ エンジン操作関係

■メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

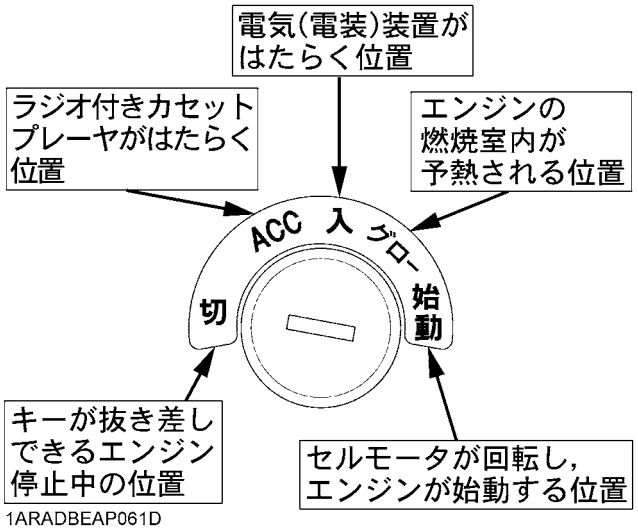
[C 仕様除く]



1ARADBEAP060F

[C 仕様除く]

[C 仕様]



1ARADBEAP061D

[C 仕様]

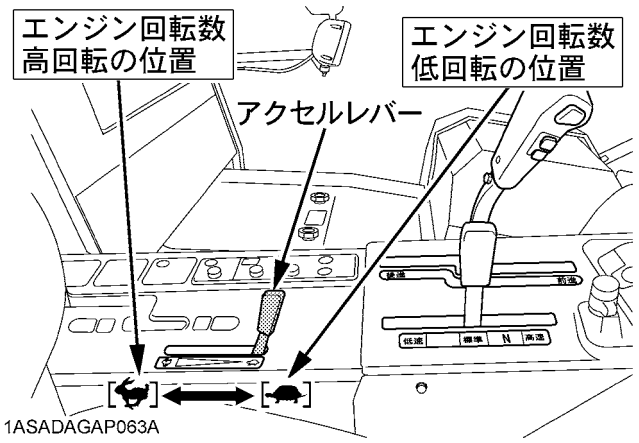
補　足

＊ エンジン始動後，メインスイッチのキーから手を離すとキーは，**[入]**の位置に戻ります。

■アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。

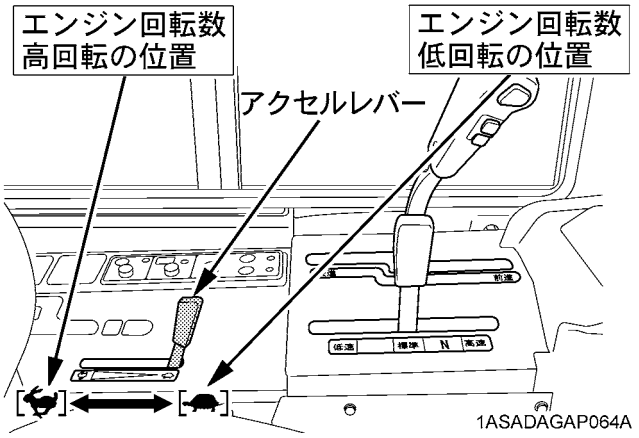
[C 仕様除く]



1ASADAGAP063A

[C 仕様除く]

[C 仕様]



1ASADAGAP064A

[C 仕様]

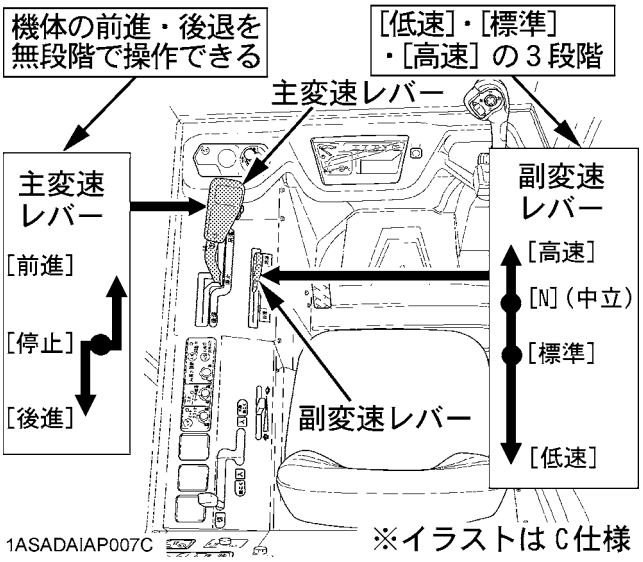
補　足

＊ エンジン回転計は，19 ページを参照してください。

◆ 走行操作関係

■主変速レバー・副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。



重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。また，駐車ブレーキが掛かっている状態で主変速レバーを動かして警報が鳴ったときは，主変速レバーを**[停止]**位置にして駐車ブレーキを解除してください。

補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**[停止]**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。

＊ **[後進]**位置にするとバックブザーが鳴ります。

■車体旋回モード切換えスイッチ

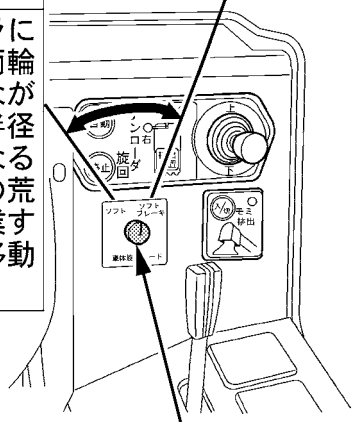
旋回方式を選択するスイッチです。作業条件に応じて切換えてください。

ソフト・ブレーキターン

SF ワンレバーを左又は右に倒すとソフトターンで旋回し，一定角度以上倒すとブレーキターンに切換わる。通常の刈取作業時に使用。

ソフトターン

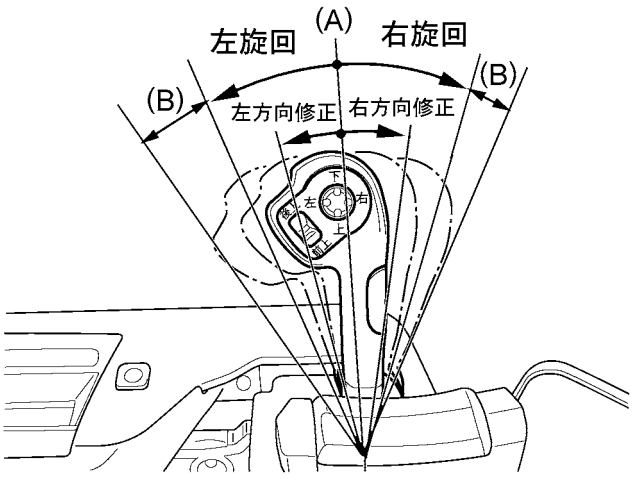
左右のクローラに回転差をつけ両輪で前進駆動しながら旋回。旋回半径はやや大きくなるが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合，また移動走行時に使用。



1ASADAGAP011C　車体旋回モード切換えスイッチ

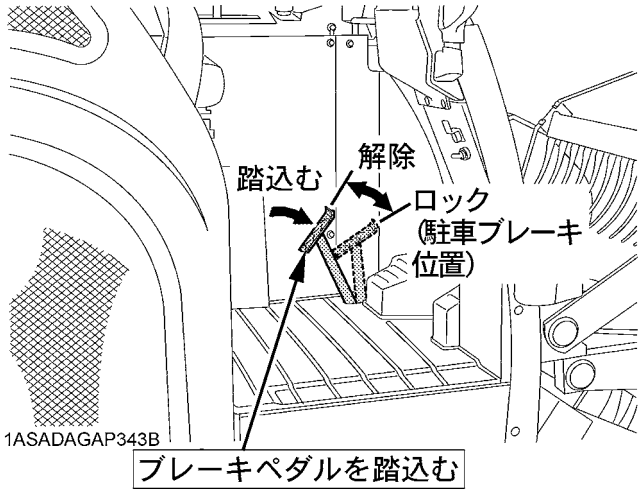
補　足

＊ 車体旋回モード切換えスイッチを**[ソフト・ブレーキ]**位置に選択すると**(A)**から**(B)**の範囲に切換るとブレーキターンとなります。



■ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

ブレーキペダルを踏込むとブレーキペダルはロック位置で固定され駐車ブレーキが掛かります。駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを強く踏込んでロックを解除してください。



補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**【停止】**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。
＊ 移動（路上含む）走行時は，駐車ブレーキレバーを**【解除】**位置にしてください。
＊ 駐車ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは始動できません。
＊ 駐車ブレーキペダルが**【解除】**位置でエンジンを始動しようとすると，液晶ディスプレイに下記の内容を表示します。

［液晶表示］

ブレーキペダル
を踏む

1ARADBEAP5960

■ SF ワンレバー

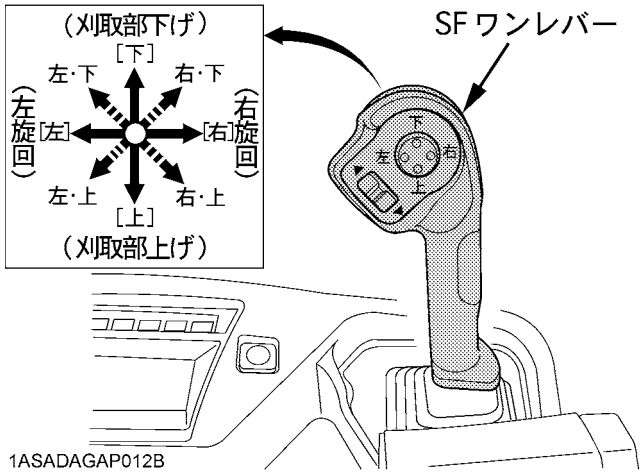
SF ワンレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

● **SF ワンレバー**

［左］⟷［右］ …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

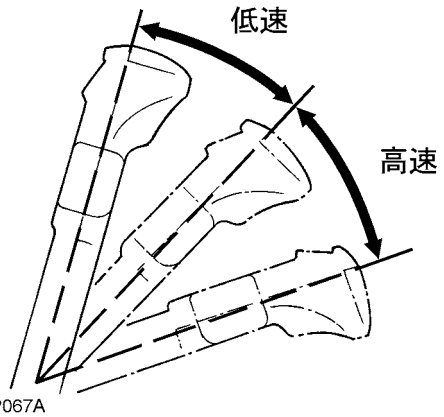
［下げ］ …… レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。
↕
［上げ］

左･下　右･下 …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に，刈取部が上下に動きます。
左･上　右･上



補　足

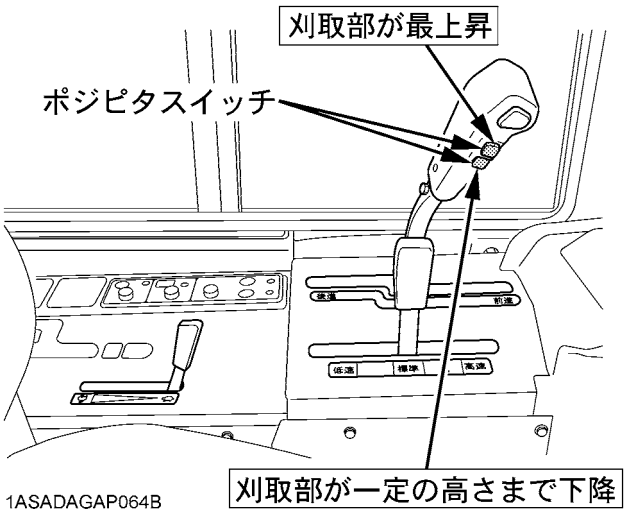
＊ 昇降速度は，レバーを前側に倒す量により低速範囲から高速範囲へと切換わります。



＊ エンジンが停止中で，刈取部が上がっているときに SF ワンレバーを前方（**【下】**方向）に倒しても刈取部は下がりません。

■ポジピタスイッチ

刈取作業中に，ポジピタスイッチを押すと刈取部が**上昇⟷ 下降**します。

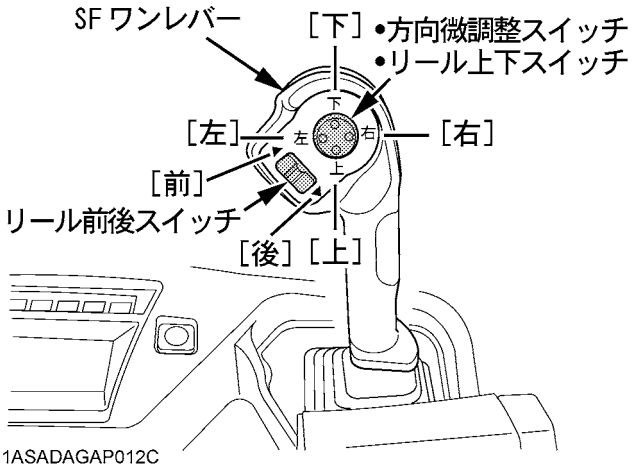


補　足

＊ ポジピタスイッチは脱こく・刈取クラッチレバーを**［脱こく］**位置及び**［刈取］**位置にするとはたらきます。

■方向微調整スイッチ・リール上下スイッチ・リール前後スイッチ

方向微調整スイッチは，刈取作業時に機体進路の方向修正を行なうスイッチです。また，リール上下スイッチは，刈取作業時にリールを上下に動かすスイッチです。リール前後スイッチは，刈取作業時にリールを前後に動かすスイッチです。



● **方向微調整スイッチ**

［左］⟷［右］ …… スイッチを押した方向に機体の進路が変わります。

補　足

＊ 方向修正を行なうときは，SF ワンレバーと方向微調整スイッチを同時に操作することはできません。操作するときは，レバー又は，スイッチのどちらかを操作してください。

＊ 方向微調整スイッチは，方向修正を行なうスイッチです。旋回など機体を大きく方向転回するときは，SF ワンレバーを操作してください。

● **リール上下スイッチ**

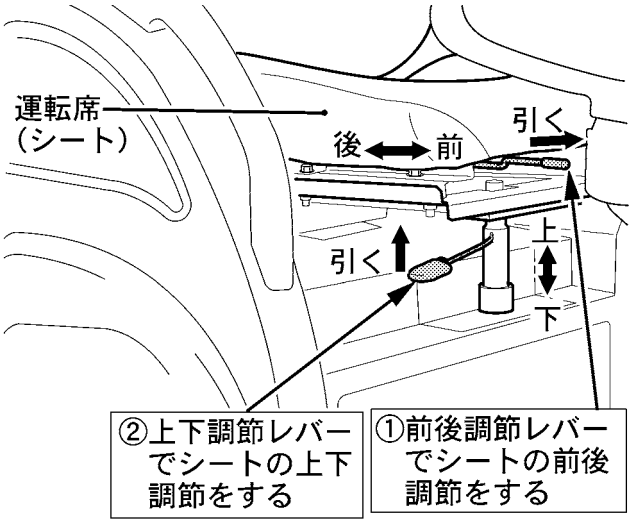
［下］ …… スイッチを押した方向にリールが上下方向に動きます。
↕
［上］

● **リール前後スイッチ**

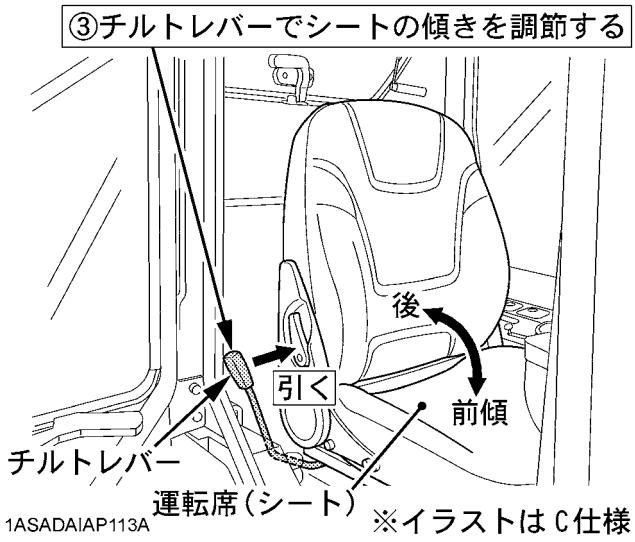
［前］⟷［後］ …… スイッチを押した方向にリールが前後方向に動きます。

■運転席（シート）

運転席は，**前，後**方向と**上，下**方向及び**前傾斜**方向に調節が行なえます。調節は，前後調節レバー（**前，後**方向），上下調節レバー（**上，下**方向），チルトレバー（**前傾斜**方向）をそれぞれ引いて行なってください。



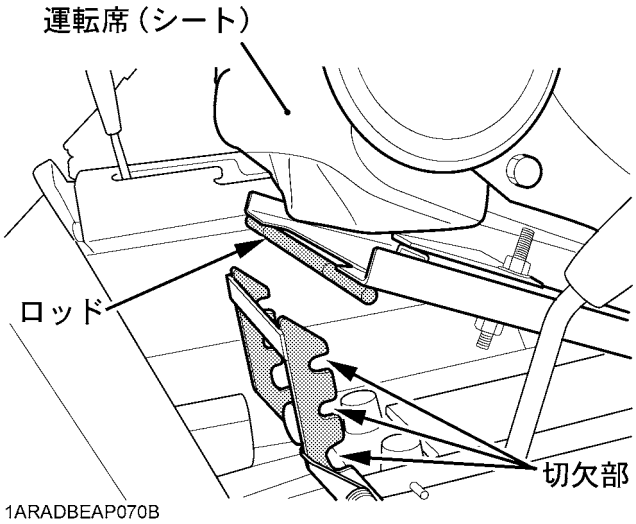
1ARADBEAP023B



1ASADAIAP113A

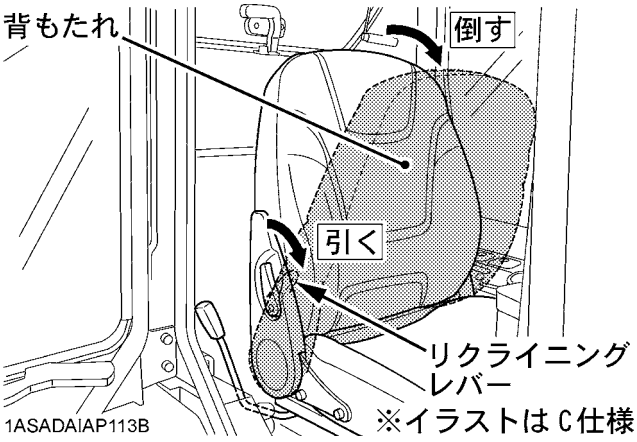
補　足

＊ 前傾斜方向は３段階の調節が行なえますが，運転席後下の切欠部にロッドを必ず掛けてフックしてください。



1ARADBEAP070B

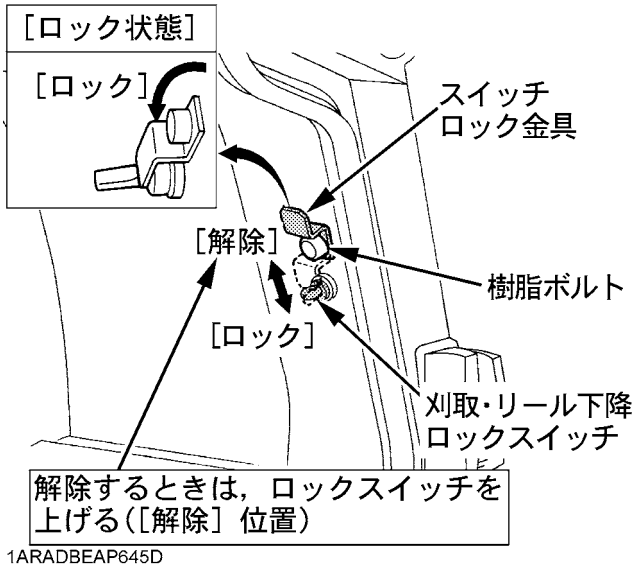
＊ 運転席の背もたれは，リクライニングレバーを引いて前方へ倒すことができます。元に戻るときは，背もたれをロックするまで後方に倒してください。



1ASADAIAP113B

■刈取・リール下降ロックスイッチ

刈取部及びリールの下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを下げる（**[ロック]**位置）と SF ワンレバーを操作しても刈取部及びリールは下降しません。



1ARADBEAP645D

補　足

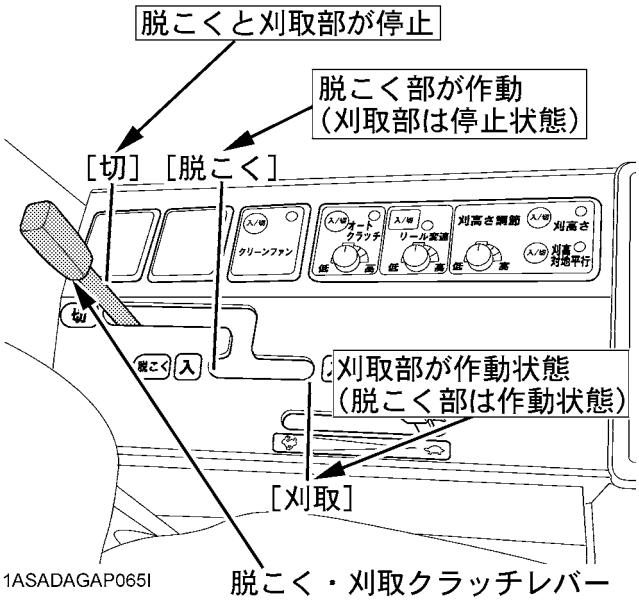
＊ ロックスイッチを下げたときは，必ずスイッチロック金具でロックスイッチを固定し解除防止を行なってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。

＊ エンジンを始動しないと刈取部及びリールは上昇，下降しません。

◆ 刈取・脱こく関係

■脱こく・刈取クラッチレバー

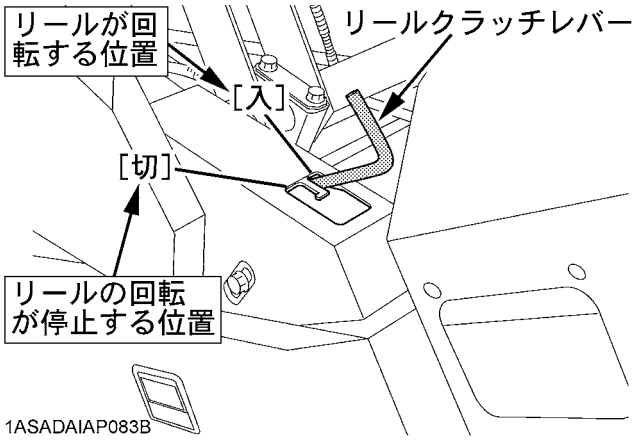
脱こく部と刈取部の動力を**入･切**するクラッチレバーです。



1ASADAGAP065I

■リールクラッチレバー

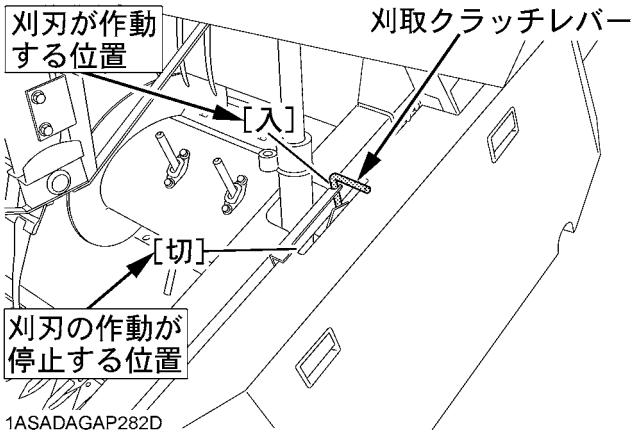
リールの回転の動力を**入･切**するクラッチレバーです。



1ASADAIAP083B

■刈刃クラッチレバー

刈刃の動力を**入・切**するクラッチレバーです。



1ASADAGAP282D

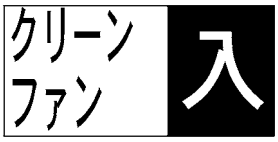
■クリーンファンスイッチ

[CG 仕様除く]

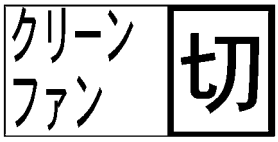
刈取部及びフィーダ部で発生するゴミやほこりを吸入するファンの**入／切**を行なうスイッチです。

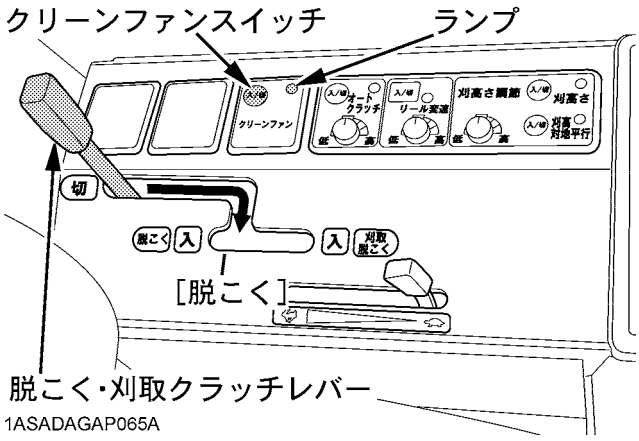
スイッチを操作すると，液晶ディスプレイにクリーンファン**[入]／[切]**を一定時間表示します。

クリーンファンスイッチ[入]…… ランプが点灯し，クリーンファンが作動します。

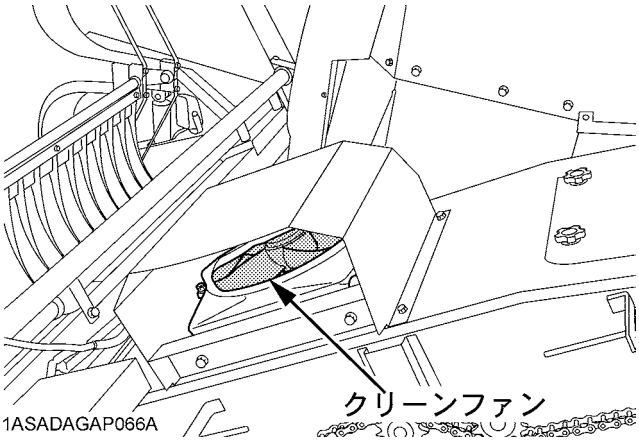


クリーンファンスイッチ[切]…… ランプが点灯し，クリーンファンが停止します。





1ASADAGAP065A



1ASADAGAP066A

補　足

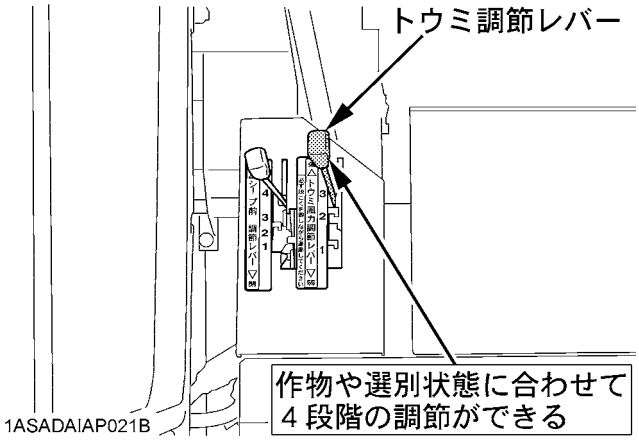
＊ クリーンファンは，脱こく・刈取クラッチレバーを**［脱こく］**位置にすると作動します。

[CG 仕様除く]

◆ 刈取・脱こく関係

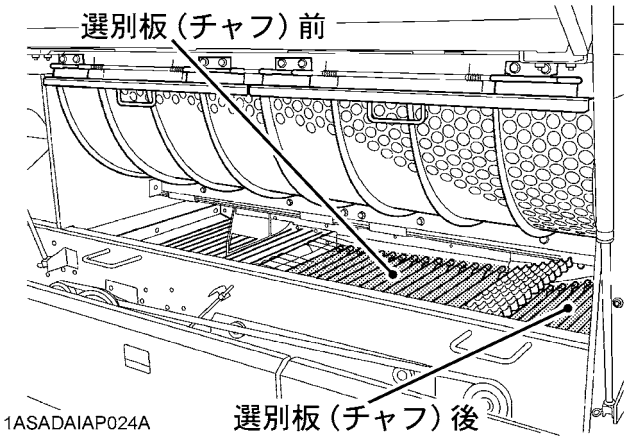
■トウミ調節レバー

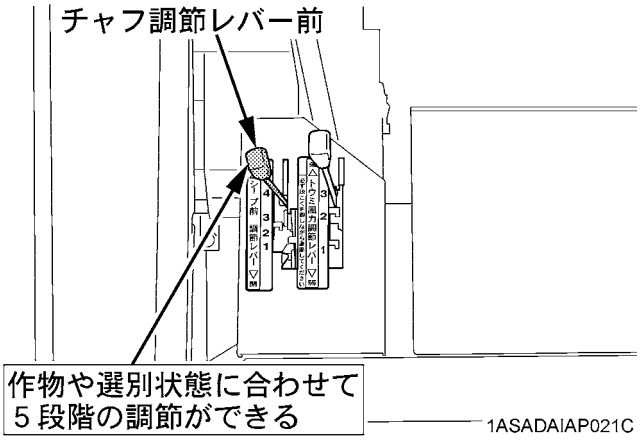
トウミの風力調節を行なうレバーです。

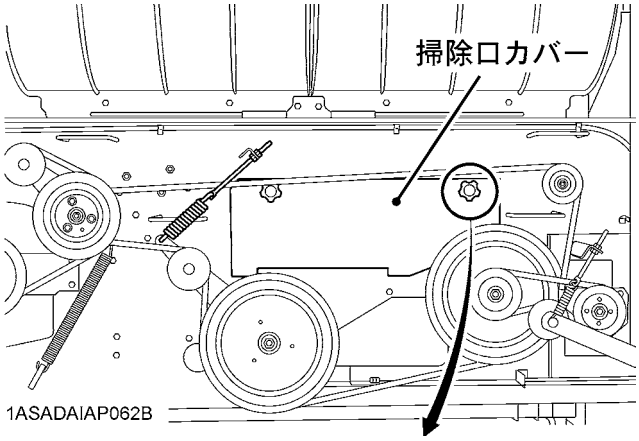


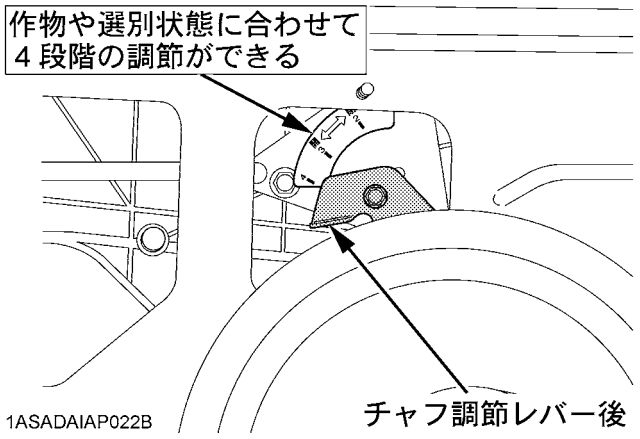
■チャフ調節レバー前・後

シーブケースにある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。チャフ調節レバーは選別板の前方のすき間調節を行なうチャフ調節レバー前と後方のすき間調節を行なうチャフ調節レバー後の２箇所あります。









補　足

＊ チャフ調節レバー後は，脱こく左サイドカバー前，後を取外し，脱こく部左の掃除口カバーを取外すとあります。

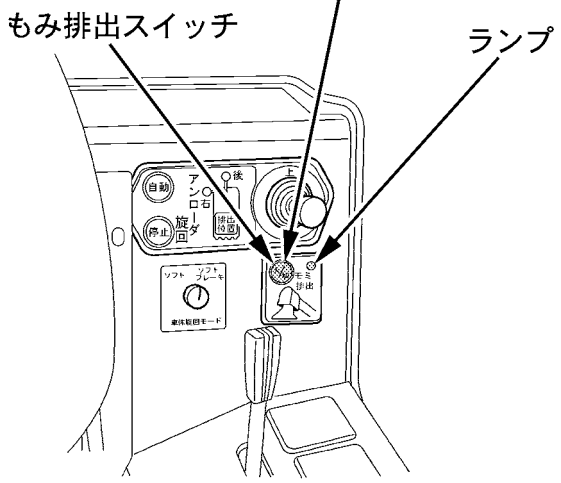
◆ グレンタンク関係

■もみ排出スイッチ

[G 仕様]

グレンタンク内のこく粒の排出操作を行なうスイッチです。

押すとランプが点滅し，アンローダからもみを排出し，もう一度押すとランプが消灯し，もみの排出を停止します。



1ASADAGAP011D

※イラストはC仕様

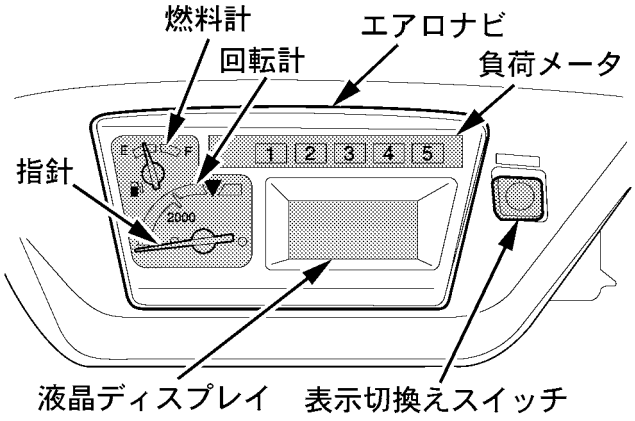
補　足

＊ エンジン始動後にアンローダが収納状態では，もみ排出スイッチを操作しても，こく粒は排出されません。

[G 仕様]

◆ 電装関係

■エアロナビ



1ARADBEAP079A

◆ 各メータ

● エンジン回転計（単位：rpm）

１分間のエンジン回転数を指針で表示します。

● 燃料計

燃料の残量を表示（**[E]**〔空〕⟷ **[F]**〔満タン〕）します。

● 負荷メータ

刈取作業中にエンジンにかかる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

◆ 液晶ディスプレイ・表示切換えスイッチ

液晶ディスプレイは機械の状態や状況（通常作業時，異常発生時，誤操作時など）に応じて，必要な情報を表示します。また，表示切換えスイッチを押すと液晶ディスプレイの表示内容が切換わります。

1. 移動走行・通常作業時

(1)［アワメータ・オイル・充電］表示

駐車ブレーキが掛かっていない状態でスイッチキーを**［切］**位置から**［入］**位置にすると表示します。（エンジンは停止状態）

補　足

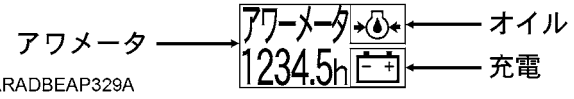
＊ 駐車ブレーキペダルを踏込んでいるときは，**［駐車ブレーキ（P)］**を優先的に表示します。

● **アワメータ**表示　**（単位：h〔時間〕）**

エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

● **オイル・充電**表示

オイルの圧力と充電状態に異常が発生したとき，警報を出す準備状態にあることを表示します。



1ARADBEAP329A

重　要

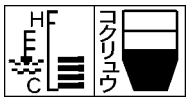
＊ 異常が発生したときは，直ちに購入先に連絡してください。

＊ メインスイッチが**［入］**で，エンジンが停止状態では，表示していますが，表示が消えているときは，警報機能に異常があります。その場合は，直ちに購入先に連絡してください。

(2) マルチ表示

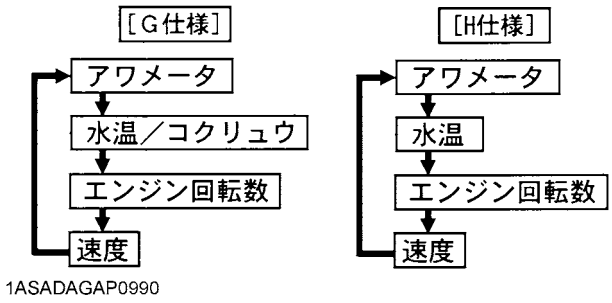
エンジンを始動すると下記の基本表示のいずれかを表示しますので，必要に応じて表示切換えスイッチを押して切換えてください。

● **表示**

アワメータ		エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。
水温／コクリュウ		エンジンの水温とグレンタンク内のこく粒の量を表示します。
エンジン回転		１分間のエンジン回転数をデジタル表示します。
速度		１秒間に進む距離をデジタル表示します。

補　足

＊ 通常表示は表示切換えスイッチを１回押すごとに下記➡の順で表示が切換わります。



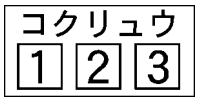
1ASADAGAP0990

＊ エンジン始動中は，オイル・充電表示はされません。

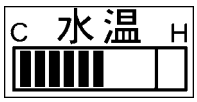
[G 仕様]

＊ 水温／コクリュウ表示は，単体（シングル）表示をすることができますので，必要な場合は，購入先に連絡してください。

● **こく粒シングル表示**



● **水温シングル表示**



[G 仕様]

＊ エンジンを停止したときの表示内容が，次にエンジンを始動したときに最初に表示されます。

＊ **[速度]** 表示は，ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。

2. 異常発生時

補　足

＊ 処置については 114 ～ 117 ページを参照してください。

● **表示**

燃料を給油		燃料の残量が少なくなると表示します。
充電系異常		充電系統に異常が発生すると表示します。
エンジン油圧異常		エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると表示します。
オーバヒート		エンジンの冷却水温が高温になると表示します。
負荷		刈取作業中にエンジンに大きな負荷がかかると表示します。
こく粒満杯		ホッパ内又は，グレンタンク内のこく粒が満杯になると表示します。
1 番		1 番バケットコンベアが詰まると表示します。
2 番		２番搬送スクリュ内又は，２番スラットコンベア内が詰まると，表示します。
こぎ胴		こぎ室内に排かんが詰まると表示します。
オーガ		アンローダ内が詰まると表示します。**[G 仕様]**
機体傾斜角異常		機体が左又は，右に約 10 度傾くと表示します。

3. 誤操作時

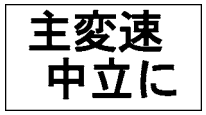
● **表示**

旋回切換えを確実に		旋回切換えレバーが**［ブレーキ］／［ソフト］**各位置のどこにも入っていない状態で走行し，エンジンが自動停止すると表示します。

補　足

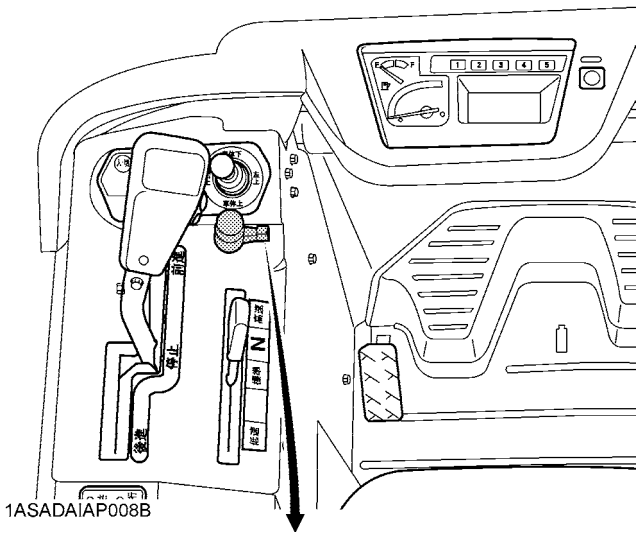
＊ **下降不可範囲**については，100 ～ 106 ページを参照してください。

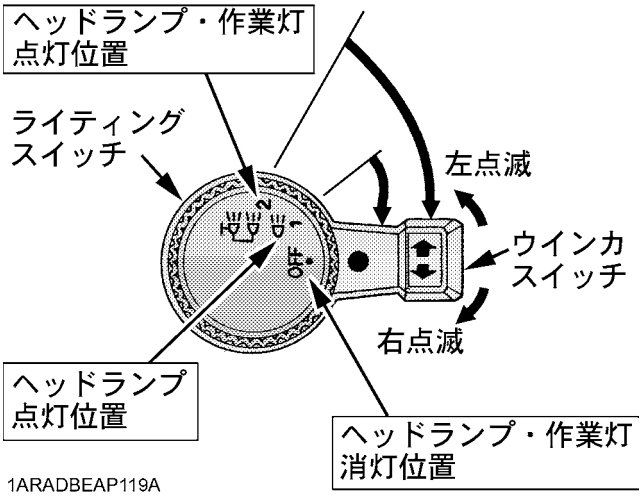
エンジン始動時にメインスイッチのキーを**［始動］**位置にしたとき，各レバーが始動条件に合っていない場合，その内容を表示します。

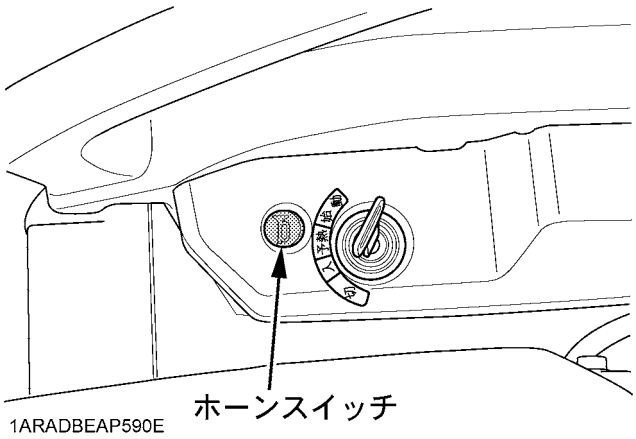
脱こくクラッチを切に		脱こく・刈取クラッチレバーが**［脱こく］**又は，**［刈取］**位置のとき表示します。
主変速を中立に		主変速レバーが**［停止］**（中立）位置以外のときに表示します。
排出クラッチ切に		もみ排出スイッチが**［入］**のときに表示します。**［G 仕様］**
ブレーキペダルを踏む		ブレーキペダルを踏込んでないとき表示します。

■コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ

[C 仕様除く]

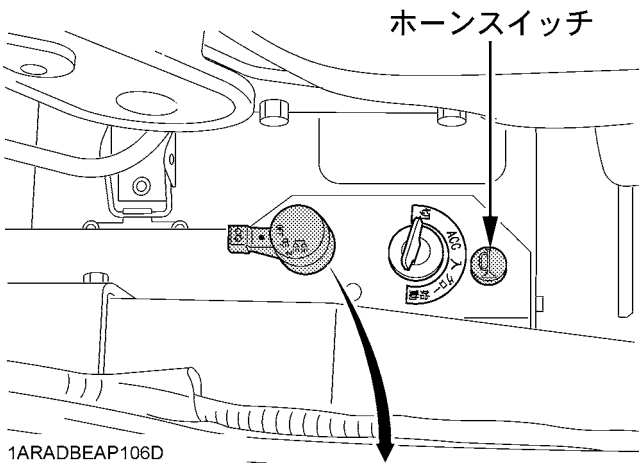


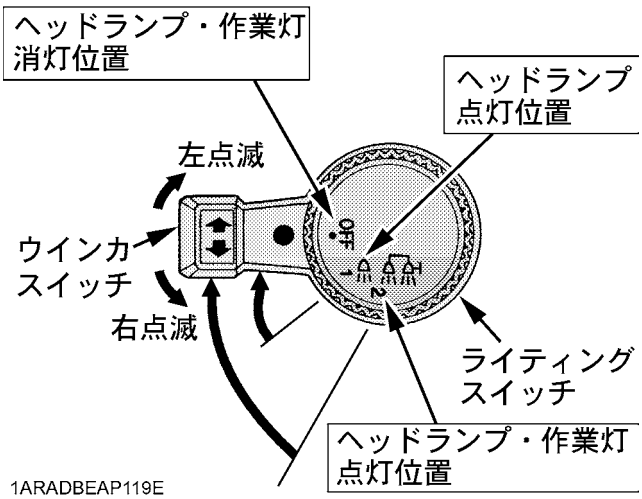




[C 仕様除く]

[C 仕様]



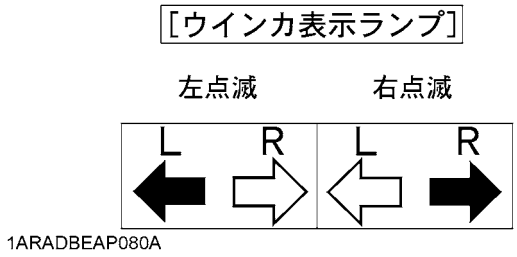


[C 仕様]

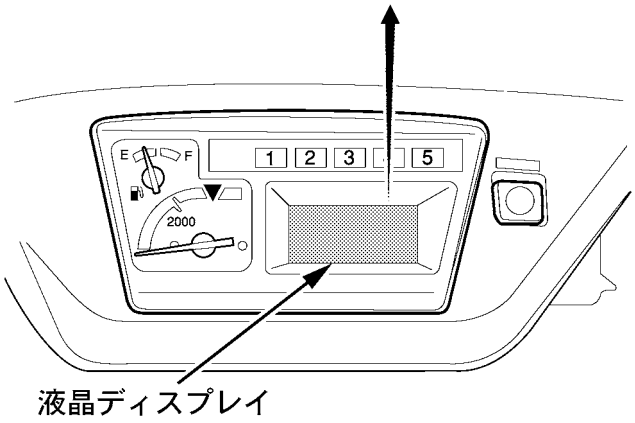
● **ライティングスイッチ**
スイッチを操作するとランプが点灯します。

● **ホーンスイッチ**
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

● **ウインカスイッチ**
旋回方向に操作すると, ウィンカランプが点滅すると同時にエアロナビの液晶ディスプレイにウインカ表示が点滅します。



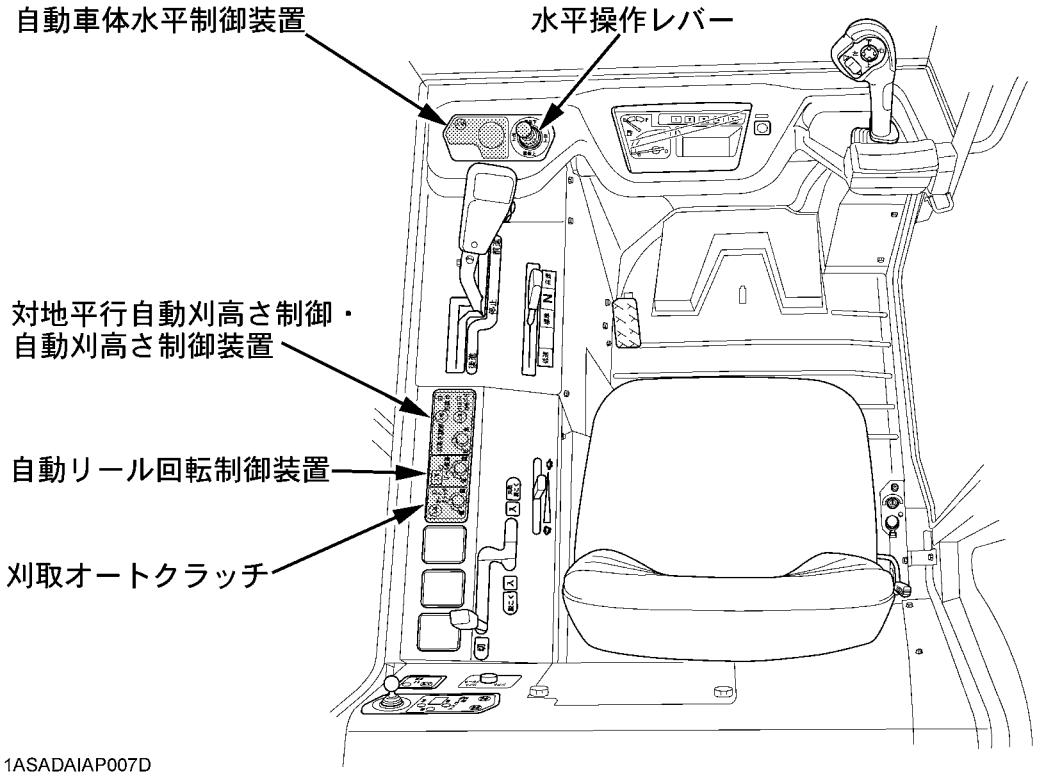
1ARADBEAP080A



1ARADBEAP079B

自動化装置の名称と取扱い

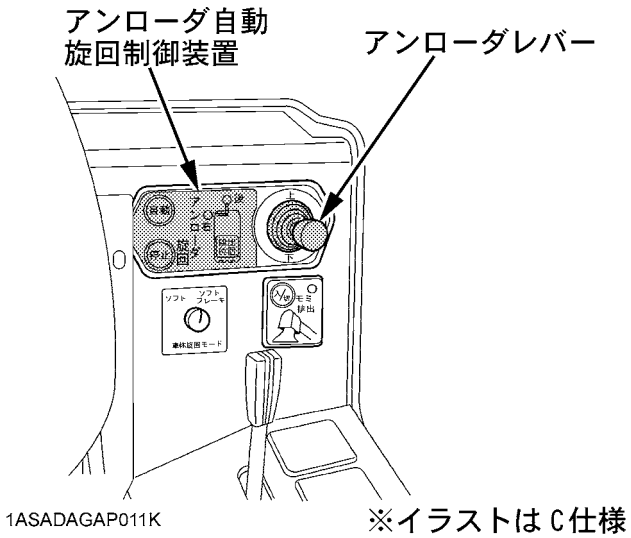
装置の名称と各部のはたらき



1ASADAIAP007D

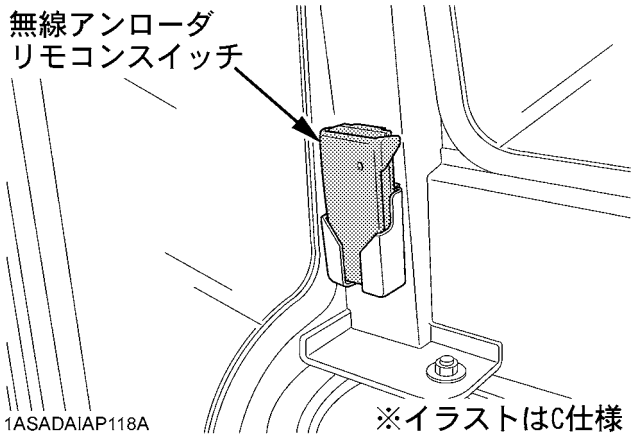
※イラストは C 仕様

[G 仕様]



1ASADAGAP011K

※イラストは C 仕様



1ASADAIAP118A

※イラストはC仕様

[G 仕様]

◆ 走行操作関係

■自動車体水平制御装置（モンロー）

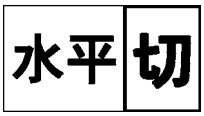
自動車体水平制御装置は，機体が左・右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

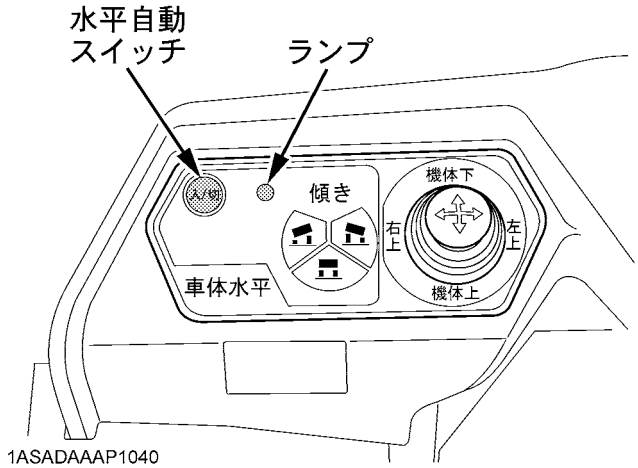
● 水平自動スイッチ

左･右方向の水平制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**水平［入］／［切］**を一定時間表示します。

左右水平制御[入]…… ランプが点灯し，左・右方向の自動制御が作動します。

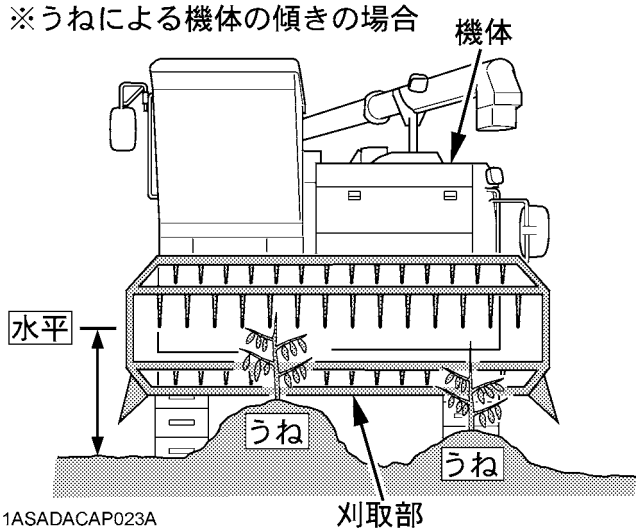
左右水平制御[切]…… ランプが消灯し，左・右方向の自動制御が解除されます。





1ASADAAAP1040

※うねによる機体の傾きの場合



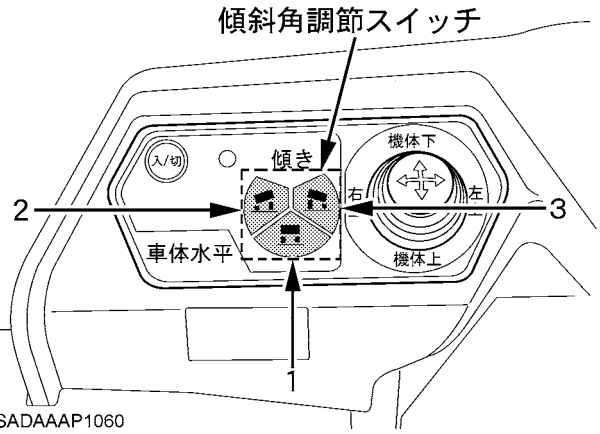
1ASADACAP023A

補　足

＊ 自動で作業した後，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にするか，又は水平自動スイッチを**[切]**にすると，機体は左右共にいったん一番下まで下がります。また，下降中に，水平操作レバーを操作すると下降が停止します。

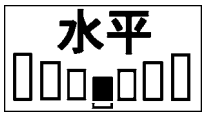
● 傾斜角調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき，左又は，右に機体を傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに傾きを一定時間表示します。

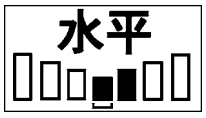


1ASADAAAP1060

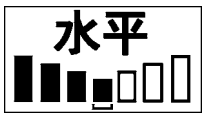
1 …… スイッチを押すと，水平制御に戻ります。



2 …… スイッチを押すと，右上がり気味に制御します。



3 …… スイッチを押すと，左上がり気味に制御します。

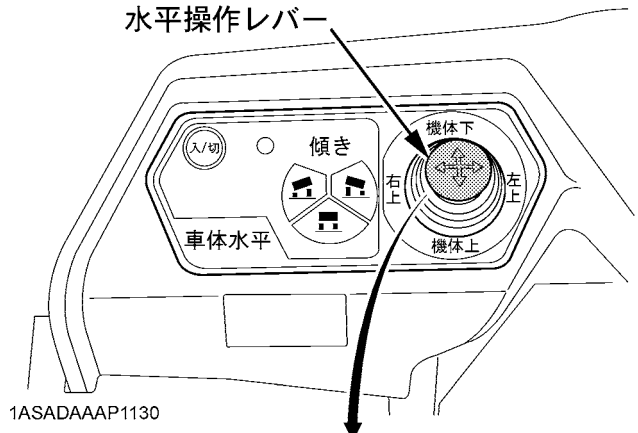


補　足

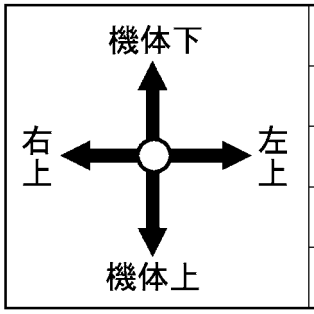
＊ 機体傾斜は３段階調節が行なえます。

■水平操作レバー

機体の**上昇⟷ 下降**を行なう手動操作レバーです。



1ASADAAAP1130



レバーの操作方向	機体の動き
機体上	上昇
機体下	下降
右上	右上がり
左上	左上がり

補　足

＊ 機体の動く方向は，運転席に座って見たときです。
＊ 自動車体水平制御がはたらいているときでも，水平操作レバーによる操作が優先されます。
＊ 傾斜地では操作しないでください。
＊ モンロー操作時（特に全上昇，全下降）は，エンジン回転数を上げてください。

◆ 刈取・脱こく関係

■自動リール回転制御装置

自動リール回転制御装置は，刈取作業中のリールの回転速度を制御する装置です。刈取速度に応じて自動的に最適なリールの回転速度を保ちます。

● リール変速自動スイッチ

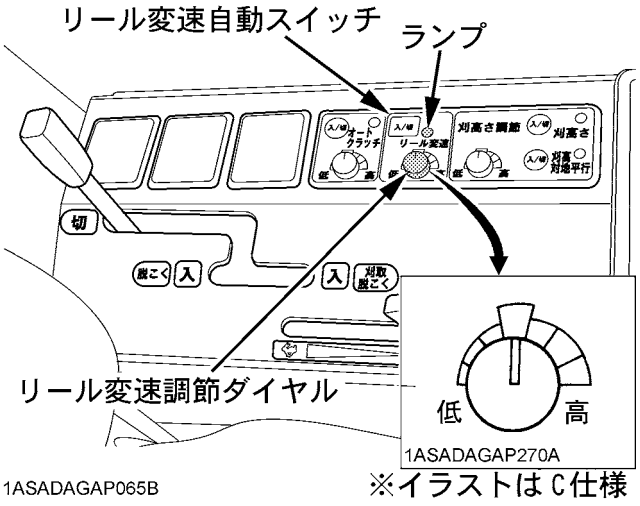
自動リール回転制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイにリール**［入］／［切］**を一定時間表示します。

自動リール回転制御［入］…… ランプが点灯し，自動リール回転制御が作動します。

自動リール回転制御［切］…… ランプが消灯し，自動リール回転制御が解除されます。

● リール変速調節ダイヤル

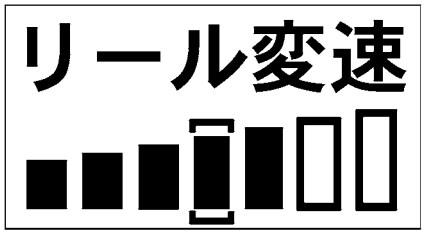
作物の刈取方向や倒伏状態に応じてリール回転速度の調整を行なうダイヤルです。リールの回転数はダイヤルを**時計方向**に回すと**速く**なり，**反時計方向**に回すと**遅く**なります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛りを表示します。



1ASADAGAP065B

※イラストはＣ仕様

［液晶表示］



遅い ⬅ リール回転速度 ➡ 速い

1ASADACAP136A

補　足

＊ 自動リール回転制御がはたらいているとき，リール変速調節ダイヤルを操作すると，刈取速度に応じてリール回転速度が増減します。

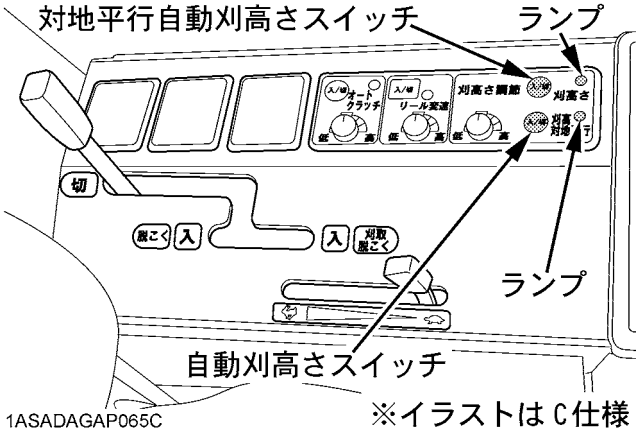
＊ 自動リール回転制御が解除されているとき，リール変速調節ダイヤルを操作すると，リール回転速度は固定し，ダイヤル調整位置に応じた一定の回転速度となります。

■対地平行自動刈高さ制御装置（ロイヤルモンロー）・自動刈高さ制御装置

対地平行自動刈高さ制御装置は，うねの高さが異なるところで刈取作業を行なったとき，刈取部を自動的に異なるうねの高さに対して一定の高さ及び平行状態に修正・保持する装置です。また，自動刈高さ制御装置は，刈取作業中に刈取部の高さを地面に対して，一定の高さに修正・保持する装置です。

● 対地平行自動スイッチ／刈高さ自動スイッチ

対地平行自動刈高さ制御又は，自動刈高さ制御の切換え及び制御の**入／切**をするスイッチです。
刈取作物やほ場状態に合わせて対地平行自動刈高さ制御又は，自動刈高さ制御を選択してください。また，スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに対地平行又は，刈高**［入］／［切］**を一定時間表示します。

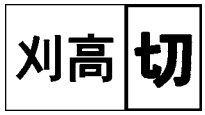


1ASADAGAP065C

※イラストはＣ仕様

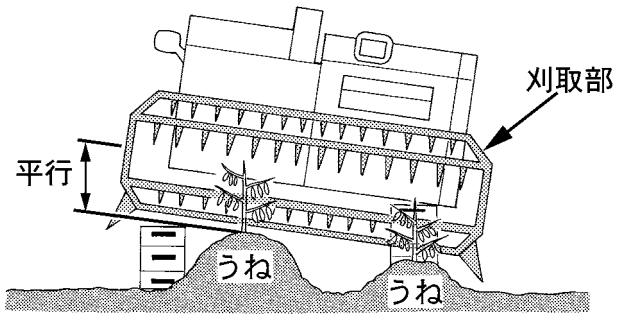
自動刈高さ制御［入］…… ランプが点灯し，自動刈高さ制御が作動します。

自動刈高さ制御［切］…… ランプが消灯し，自動刈高さ制御が解除されます。



対地平行自動刈高さ制御［入］… ランプが点灯し，対地平行自動刈高さ制御が作動します。

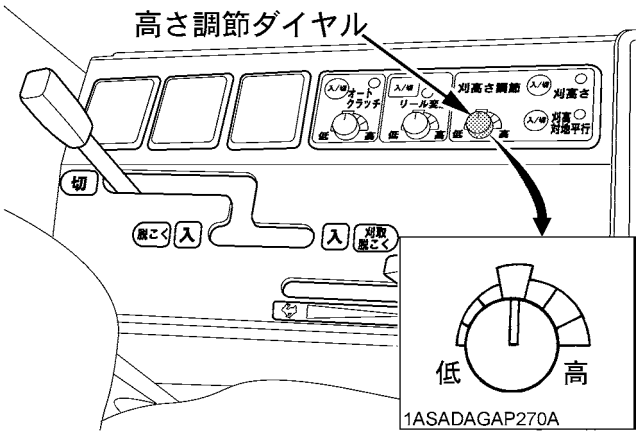
対地平行自動刈高さ制御［切］… ランプが消灯し，対地平行自動刈高さ制御が解除されます。



1ASADAGAP374A

● **高さ調節ダイヤル**

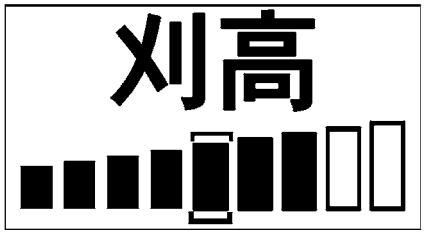
ほ場条件に応じて刈取部の高さ調節を行なうダイヤルです。刈高さはダイヤルを**時計方向**に回すと**高く**なり，**反時計方向**に回すと**低く**なります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに９段階の目盛で刈取部の高さを表示します。



1ASADAGAP065D

※イラストはC仕様

［液晶表示］

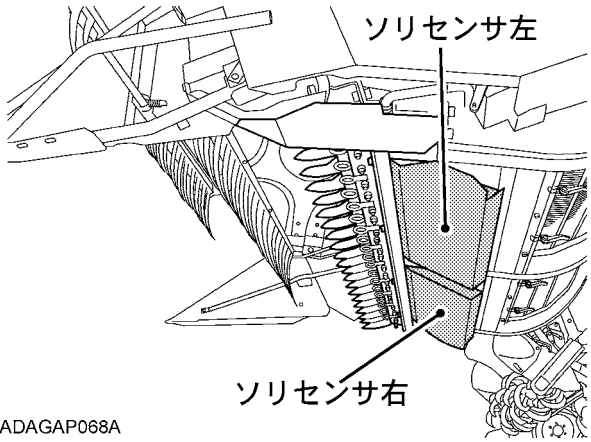


低い ← 刈高さ → 高い

1ASADACAP1390

補　足

＊ 対地平行制御がはたらいているときでも，SF ワンレバーによる操作が優先されます。
＊ 自動スイッチを押して対地平行刈高さ又は，自動刈高さ制御の切換えを行ないますが，さらにもう一度自動スイッチを押すと自動制御が解除され，ランプが消灯します。
＊ 通常は自動制御を対地平行自動刈高さ制御にして刈取作業を行ないますが，下記のような場合は自動刈高さ制御に切換えてください。
  ● 枕地のあるほ場での回り刈り作業時
  ● 刈取る進行方向の凹凸の差が大きいほ場での刈取作業時（麦刈り作業時など）
＊ 下記のようなほ場での刈取りを行なう場合，自動刈取高さ制御がはたらいていても刈取部ソリセンサの間に泥が入り込んだり，ソリセンサがはたらかずに自動制御がはたらかないときは，自動制御を**［切］**にして SF ワンレバーを操作して刈取作業を行なってください。
  ● 起伏の多いほ場（大豆の横刈りなど）
  ● 湿地で人の足が 5 cm 以上沈むほ場
  ● 枕地での刈取作業
＊ 高さ調節ダイヤルを**最低位置**で刈取作業を行なうと，刈取部から土が混入しやすくなるので特に注意しながら作業を行なってください。
＊ 刈取部下面の左，右のソリセンサがうねや地面に接触すると対地平行自動刈高さ制御又は，自動刈高さ制御がはたらき，離れると（非接触）自動車体水平制御がはたらきます。



1ASADAGAP068A

■刈取オートクラッチ

刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中に SF ワンレバー及び主変速レバーを操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇する又は，走行を停止すると刈取搬送部が停止し，一定の高さまで下降し，走行を始めると再度動き出す自動クラッチです。

● オートクラッチ切換えスイッチ

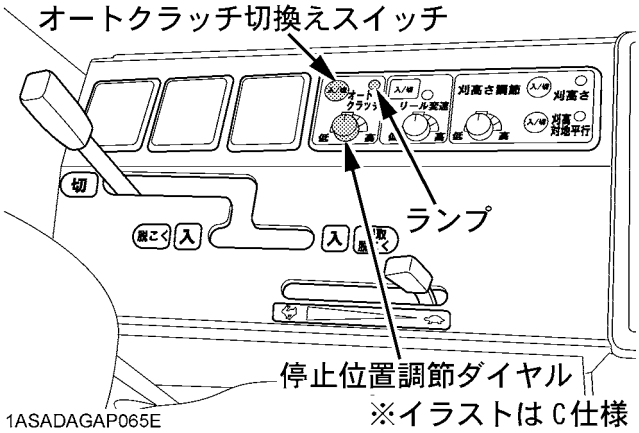
刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**オートクラッチ［入］／［切］**を一定時間表示します。

オートクラッチ[入]…… ランプが点灯し，刈取オートクラッチが作動します。

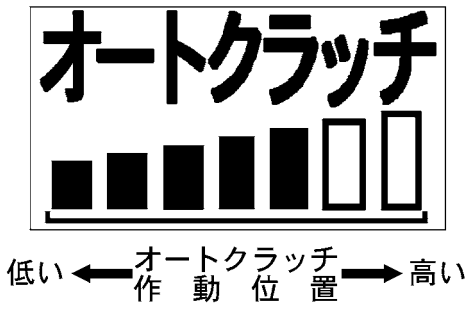
オートクラッチ[切]…… ランプが消灯し，刈取オートクラッチが解除されます。

● **停止位置調節ダイヤル**

オートクラッチが**入／切**する刈取部の高さ位置の調節を行なうダイヤルです。ダイヤルを**時計方向**に回すと**高く**なり，**反時計方向**に回すと**低く**なります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛でオートクラッチが**入／切**する位置を表示しますので，目標の高さに調節を行なってください。



［液晶表示］



補　足

＊ 刈取オートクラッチは，刈取りを行なう作動範囲以上に刈取部を上昇すると動きが停止します。また，主変速レバーが**［N］（中立）**位置でも刈取部は動きません。

◆ **グレンタンク関係**

■アンローダ自動旋回制御装置

［G 仕様］

アンローダ自動旋回制御装置は，スイッチの操作により，アンローダが**収納位置⟷ 排出位置**に自動旋回する装置です。

● **アンローダ自動スイッチ**

自動スイッチを押すと，アンローダが排出位置又は，収納位置まで自動旋回します。

補　足

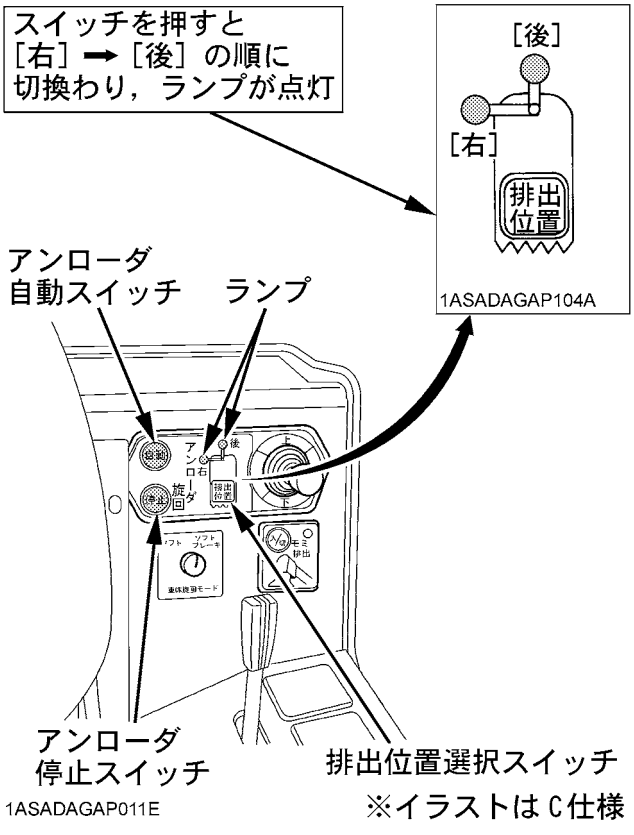
＊ アンローダが動作開始範囲内で停止しているときに自動スイッチを押すと，アンローダは排出位置まで上昇及び自動旋回をします。

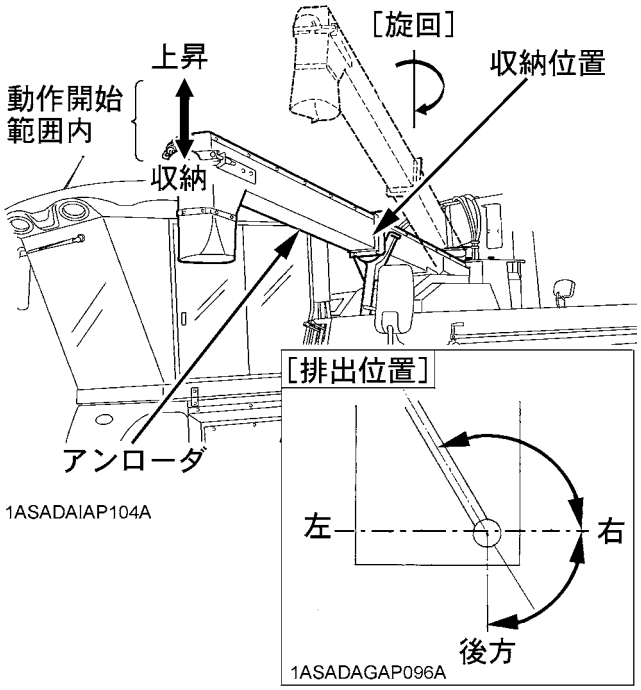
● **アンローダ停止スイッチ**

自動上昇・旋回・下降途中で停止スイッチを押すと，その位置でアンローダが停止します。

● **排出位置選択スイッチ**

自動スイッチを押すとアンローダが自動旋回し，停止する排出位置（**［右］・［後］・**の２方向）の選択を行なうスイッチです。





補　足

＊ 自動旋回制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

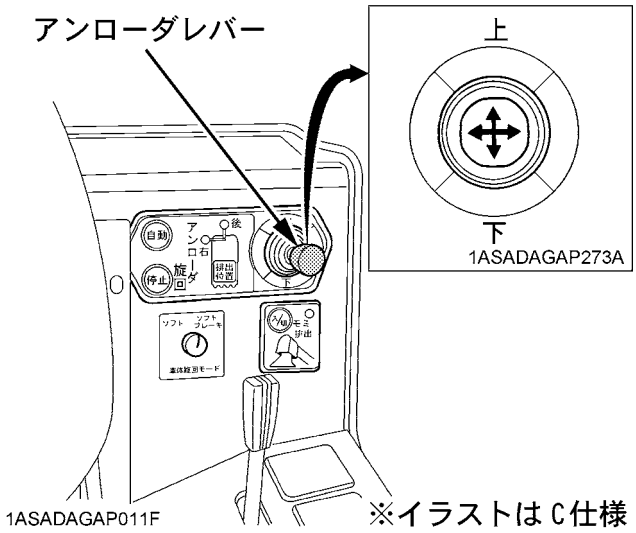
＊ 自動旋回制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，自動スイッチを押しても自動旋回は作動しません。10 秒程度待ってから自動スイッチを押す又は，停止スイッチを 1 度押してから自動スイッチを押してください。

[G 仕様]

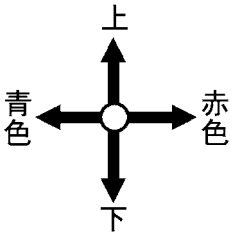
■アンローダレバー

[G 仕様]

アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動操作レバーです。



※イラストは C 仕様

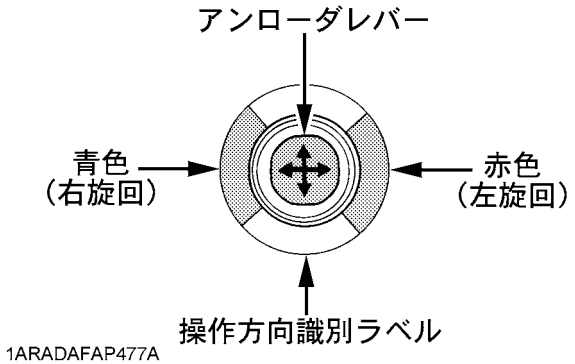


レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
赤色	左回り（反時計方向）に旋回
青色	右回り（時計方向）に旋回

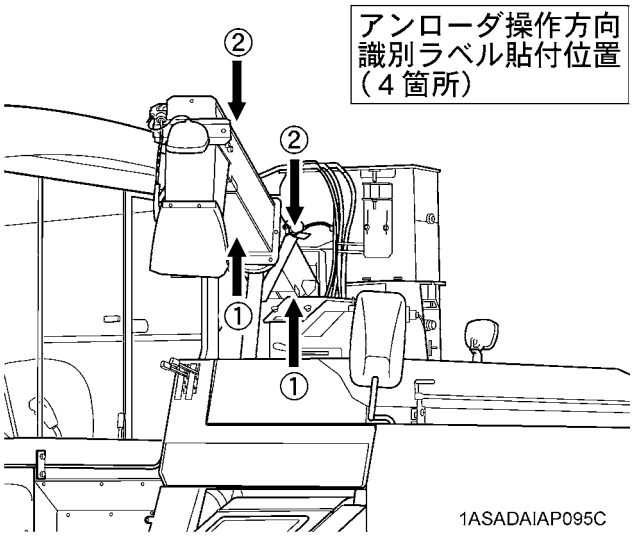
補　足

＊ アンローダレバーと無線アンローダリモコンを同時に操作したときは，無線アンローダリモコンによる操作が優先されます。

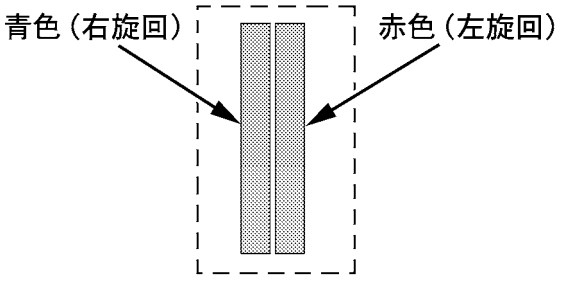
＊ アンローダレバーとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダレバーを操作してください。アンローダレバーを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。



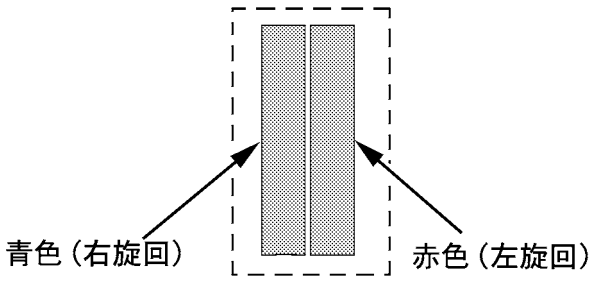
1ARADAFAP477A



1ASADAIAP095C



1ARADBEAP097B 操作方向識別ラベル①



操作方向識別ラベル②

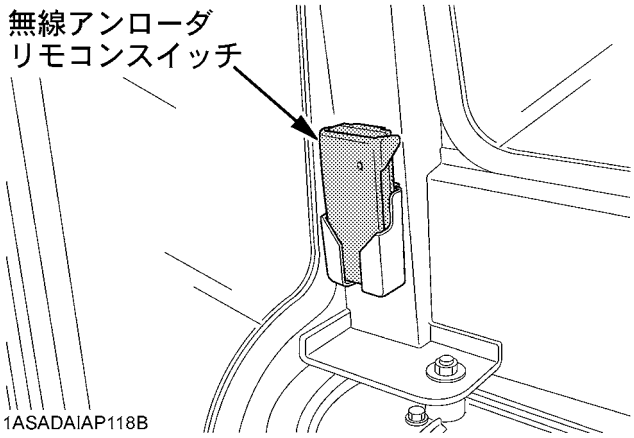
1ASADACAP695B

[G 仕様]

■無線アンローダリモコンスイッチ

[G 仕様]

機体から離れた場所で，遠隔操作によりアンローダの上昇・下降及び旋回とグレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。

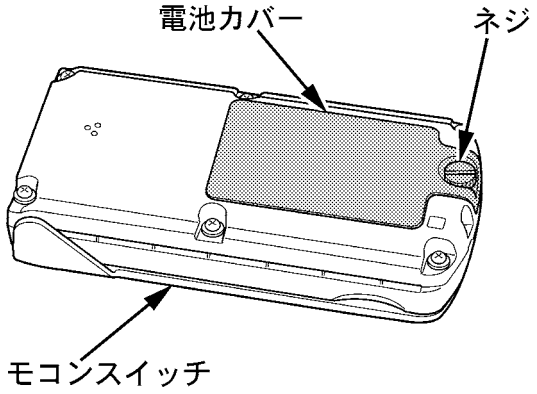


1ASADAIAP118B

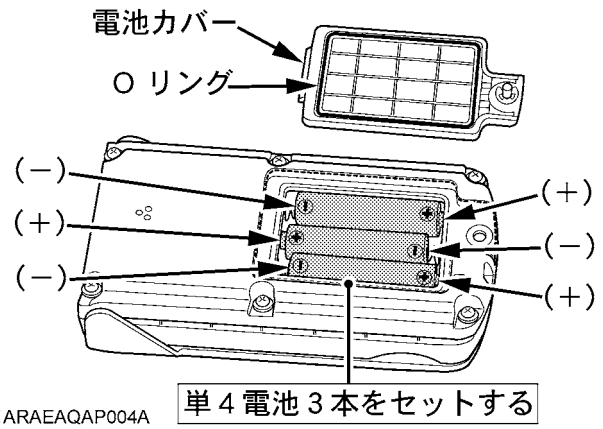
◆ リモコンスイッチの準備

● 単４電池のセット

1. リモコンスイッチ裏側の電池カバーのネジをゆるめて電池カバーを外します。
2. 単４電池３本をセットします。



1ARAEAQAP003A



1ARAEAQAP004A

重　要

＊ 電池カバー裏側にある防水用のＯリングを外さないでください。雨水などの浸水により，電池や電極が腐食するおそれがあります。

補　足

＊ (＋) と (−) を間違えないようにセットしてください。
＊ 初回は，付属部品の単４電池３本を使用してください。
＊ 推奨電池はアルカリ電池です。

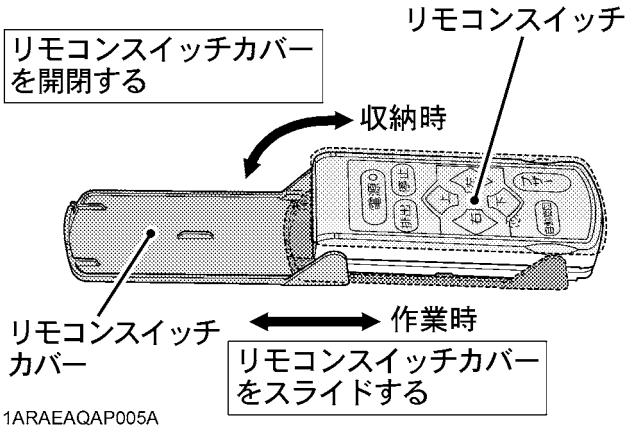
3. 電池カバーをリモコンスイッチに取付けたあと，ネジをしっかりと締付けてください。

重　要

＊ 長期間使用しない場合は，電池を取外してください。液もれにより電極が腐食するおそれがあります。
＊ 電池カバーを取付けるとき，O リングを溝にきちんとセットしてください。

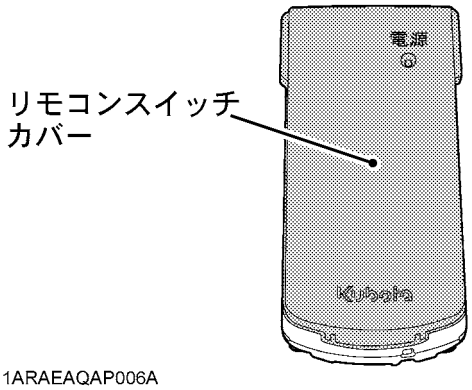
● 収納と準備

リモコンスイッチを収納又は，作業状態にするときは，リモコンスイッチのカバーを動かして，収納状態又は，作業状態にしてください。



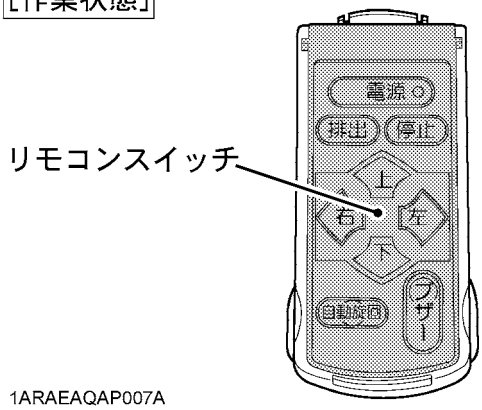
1ARAEAQAP005A

[収納状態]



1ARAEAQAP006A

[作業状態]



1ARAEAQAP007A

重　要

＊ リモコンスイッチが破損するおそれがあるため下記事項に注意してください。
- 落とさないでください。
- ズボンの後ポケットに入れた状態で座らないでください。
- 水洗いや水没させたり，高圧洗浄機の水を掛けないでください。
- 高温多湿な場所や直射日光の当たる場所に放置しないでください。

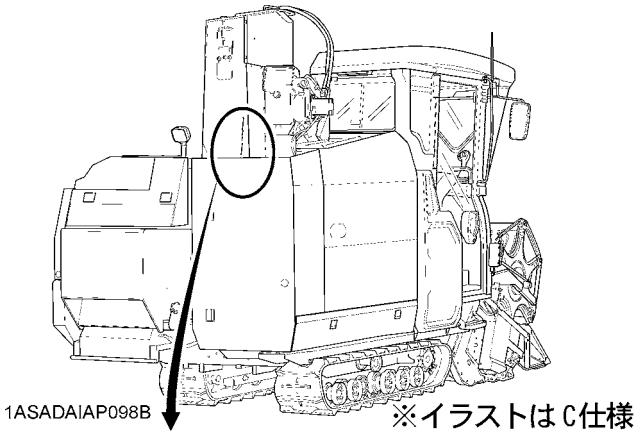
◆ リモコンスイッチの操作とアンローダの操作について

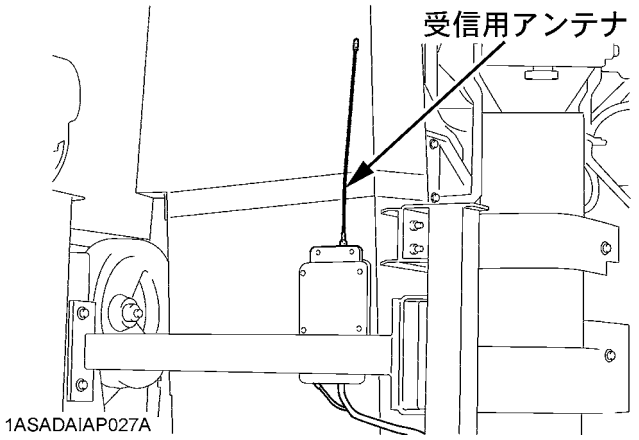
● 無線リモコンの送信範囲について

リモコンスイッチを押してアンローダの操作が行なえる範囲は周囲約 10m です。

補　足

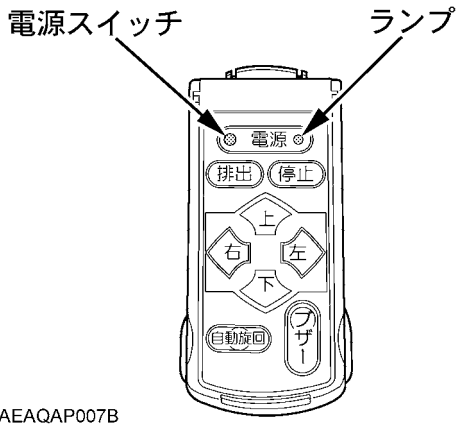
＊ 電波障害となる建物や無線基地局などが近くにあるときは，10m より狭くなる場合があります。
＊ 受信用アンテナが折れたりして破損しているときは使用しないでください。また，購入先に連絡して交換してください。





● **電源操作**

リモコンスイッチを操作するには，電源スイッチを押して電源を**入**（ランプ点灯）にしてください。操作後は，電源スイッチをもう一度押して，電源を**切**（ランプ消灯）にしてください。

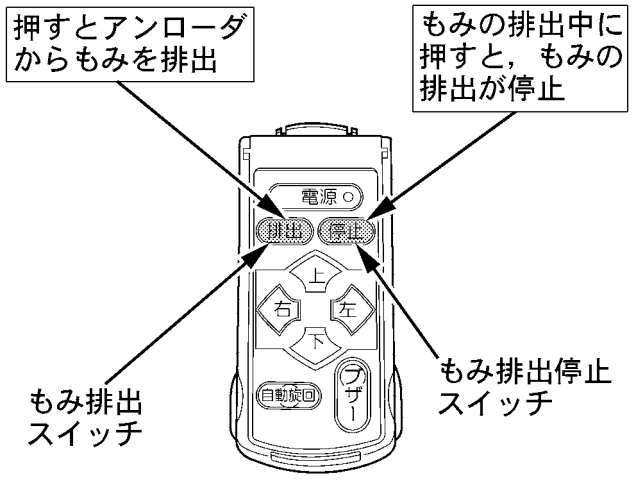


1ARAEAQAP007B

補　足

＊ 電池の消耗を軽減するため，約５分間リモコンスイッチの操作をしなかったとき，電源が自動的に切れ（ランプ**消灯**）ます。
＊ ランプが**点滅**したときは，電池の残量が少なくなっていますので早目に電池交換を行なってください。
＊ アンローダが作動中（旋回，もみ排出）に電池が切れても（ランプ**消灯**）アンローダの動きは停止しません。旋回又は，もみの排出を停止するときは，運転席側の操作で停止してください。

● **もみの排出操作**

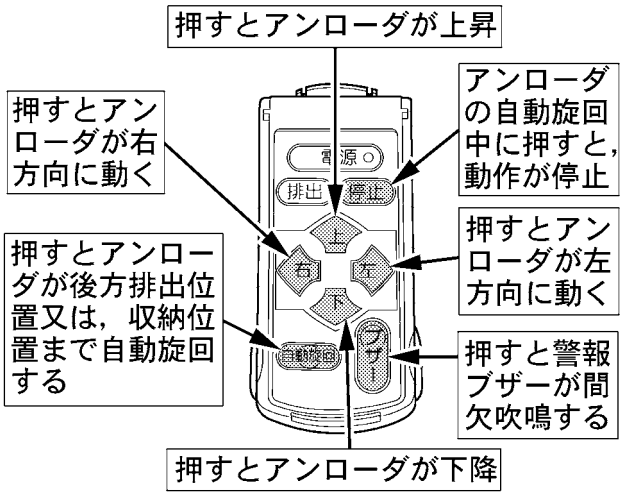


1ARAEAQAP007G

補　足

＊ **[停止]**スイッチはリモコンスイッチの電源が切れている場合でも，有効にはたらきます。

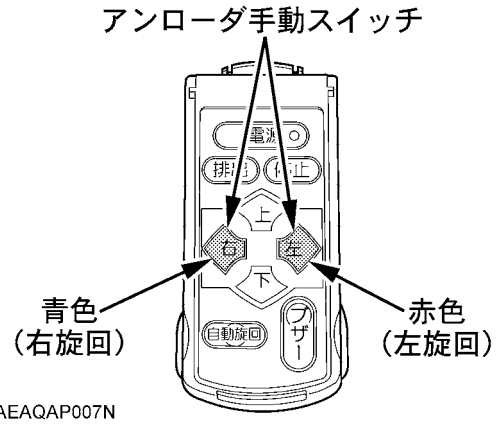
● **作業前の合図，上昇・下降及び旋回操作**



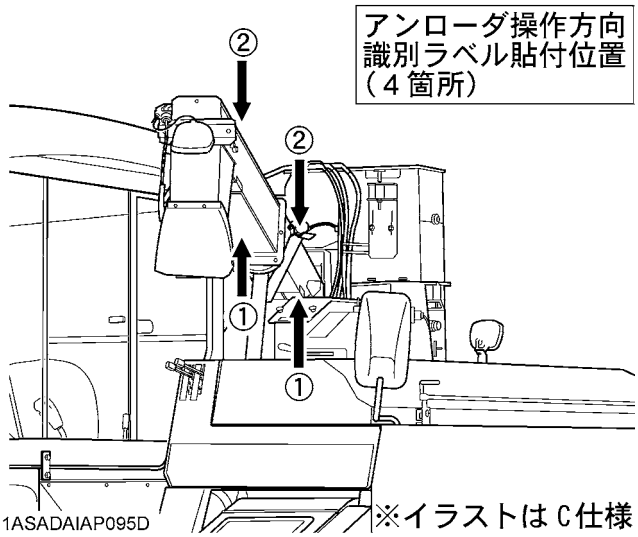
1ARAEAQAP007C

補　足

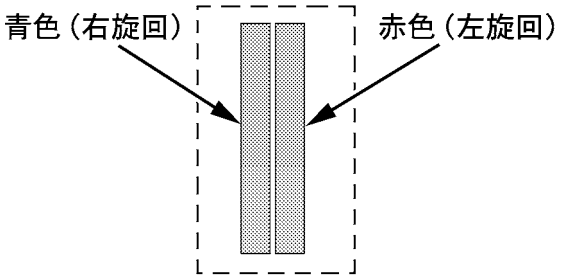
＊ 共同作業時の安全確認など，**[ブザー]**スイッチを押すと，運転者へ合図を送ることができます。
＊ 自動旋回スイッチを押したとき，排出位置へ自動旋回後，停止する位置は**後方**位置です。
＊ アンローダが動作開始範囲で停止しているときに自動旋回スイッチを押すと，アンローダは排出位置まで上昇及び自動旋回をします。
＊ アンローダレバーとリモコンスイッチを同時に操作したときは，リモコンスイッチによる操作が優先されます。
＊ アンローダ手動スイッチの **[左]**，**[右]** とアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダ手動スイッチを操作してください。アンローダ手動スイッチの **[左]（赤色）** を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダ手動スイッチの **[右]（青色）** を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。



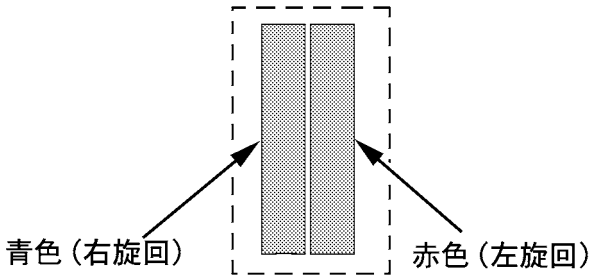
1ARAEAQAP007N



1ASADAIAP095D ※イラストはＣ仕様



1ARADBEAP097B 操作方向識別ラベル①



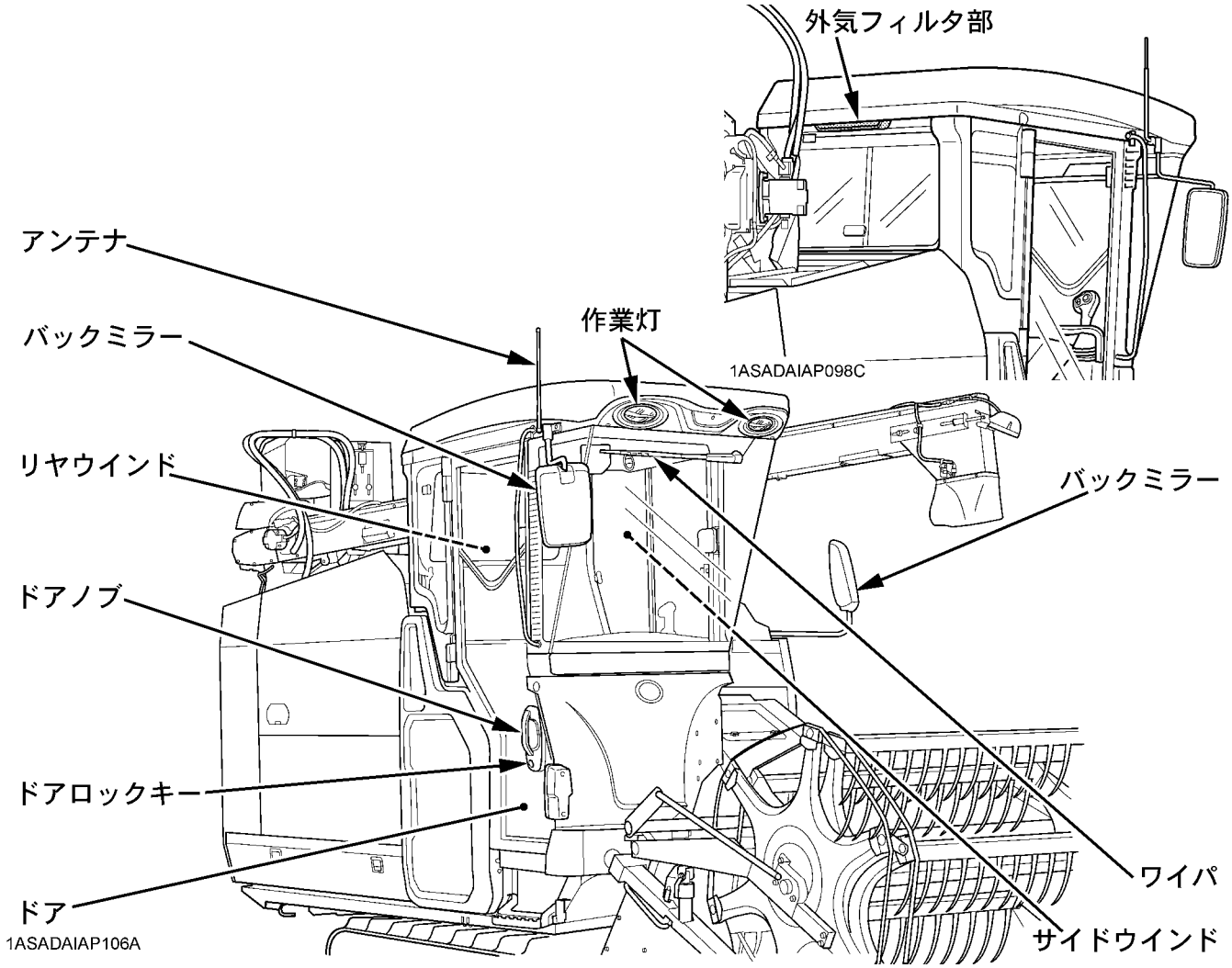
操作方向識別ラベル②

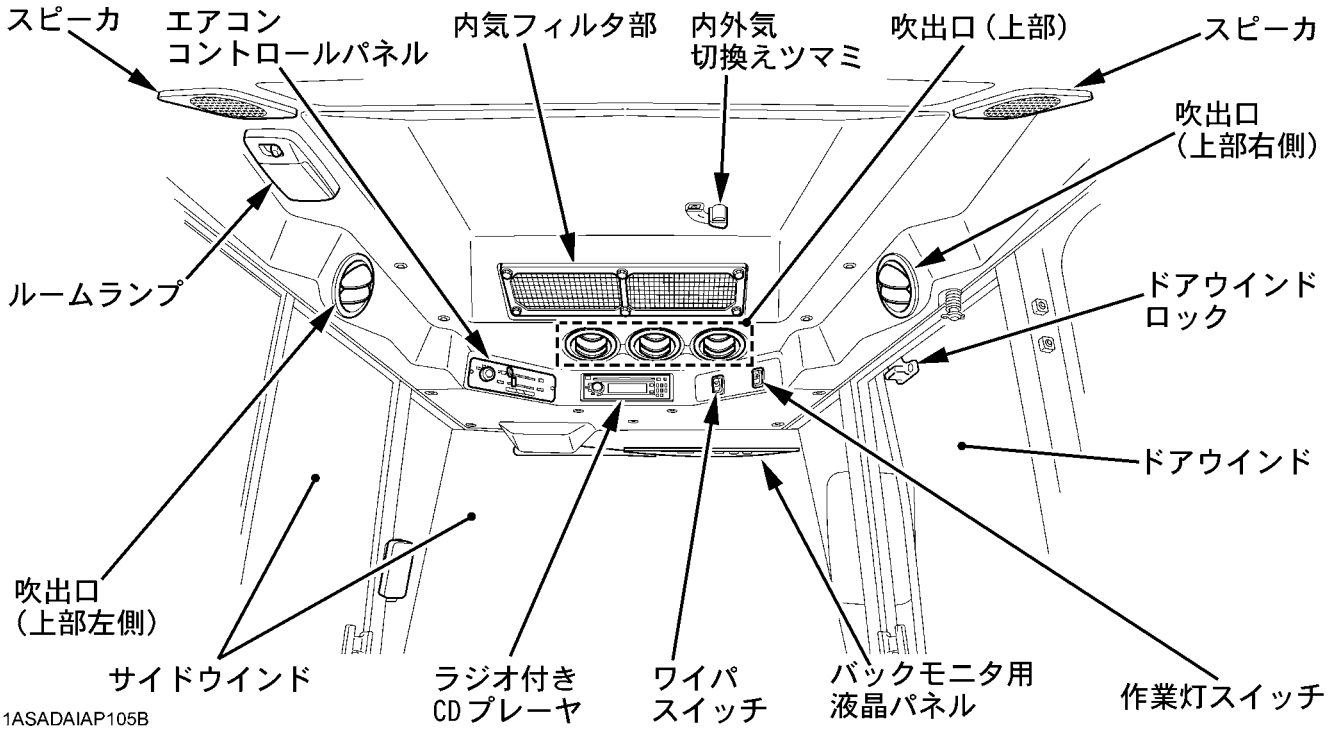
1ASADACAP695B

[G 仕様]

キャビン装置の名称と取扱い［C 仕様］

装置の名称





各装置の取扱い

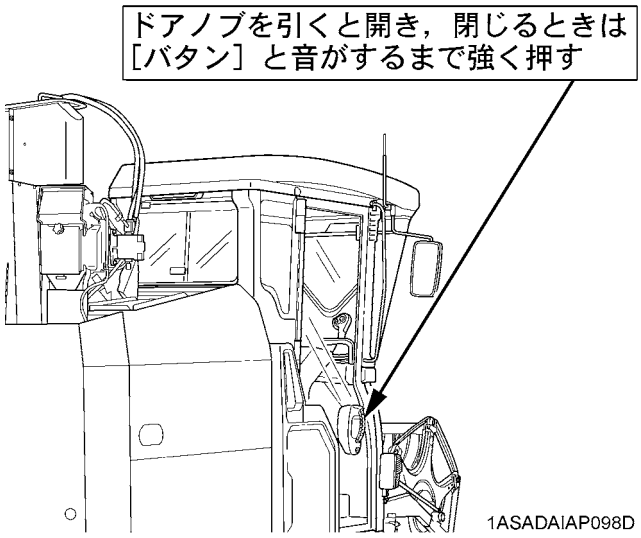
■ドアの開閉・ロックのしかた

注　意

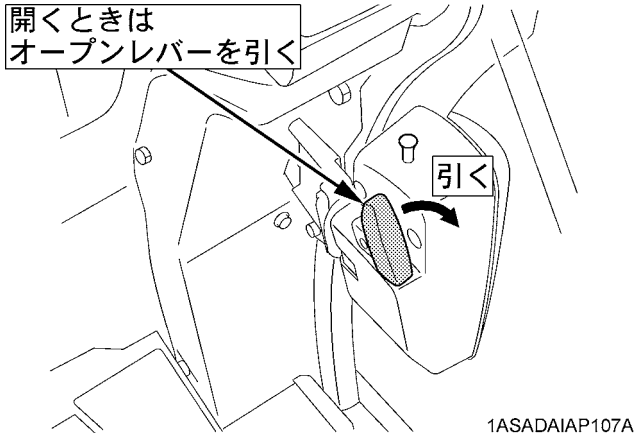
＊ ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。
＊ ドアは確実に閉じてください。不意にドアが開いてケガをするおそれがあります。

◆ ドアの開閉のしかた

● 室外から



● 室内から

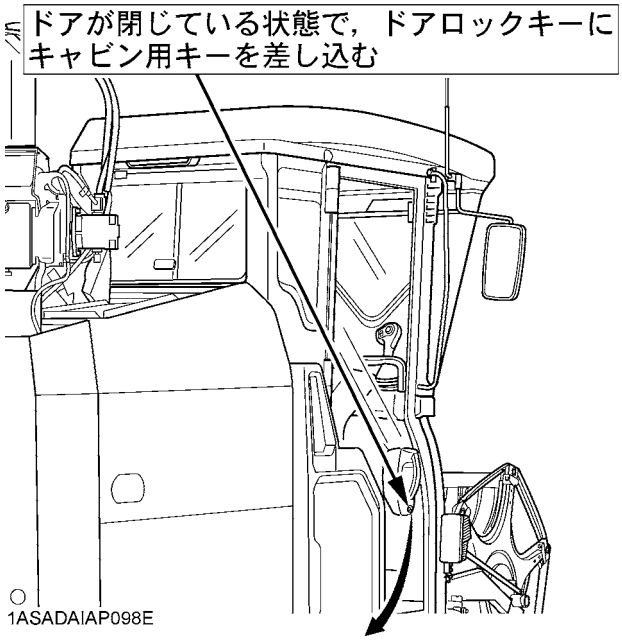


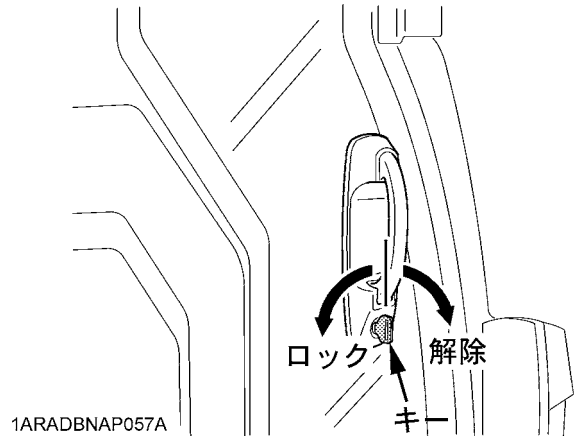
重　要

＊ ドアにぶらさがったり，開閉範囲を超えた無理な操作をしないでください。また，閉じるときに物を挟まないでください。ドアが破損するおそれがあります。

◆ ドアのロック・解除のしかた

● 室外から

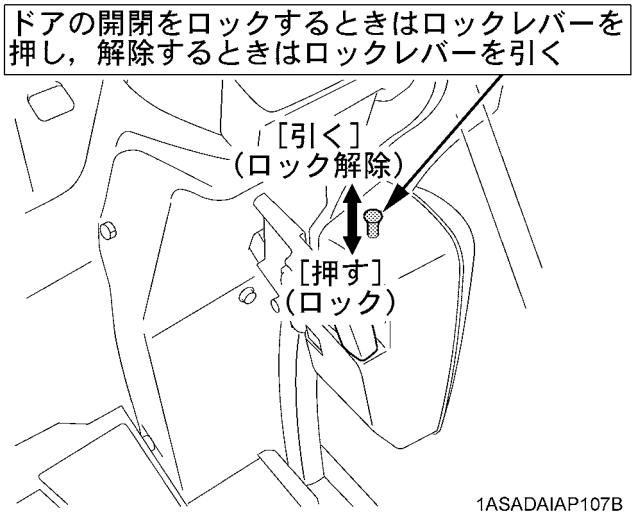




補　足

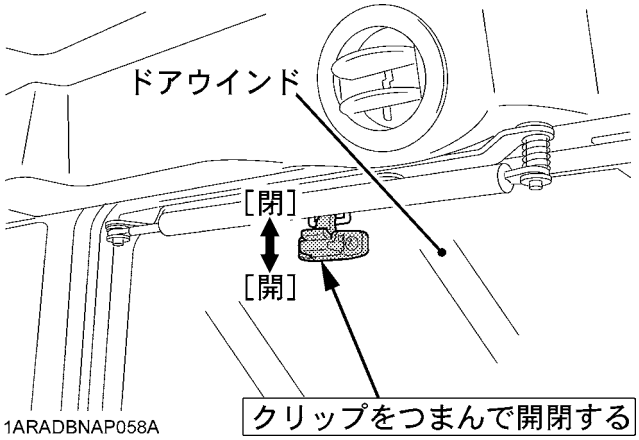
＊ 長時間コンバインから離れるときは，必ずドアのロックをしてください。

● 室内から

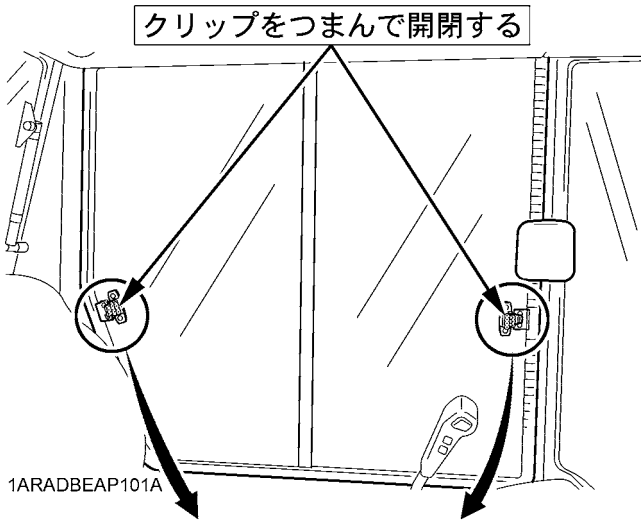


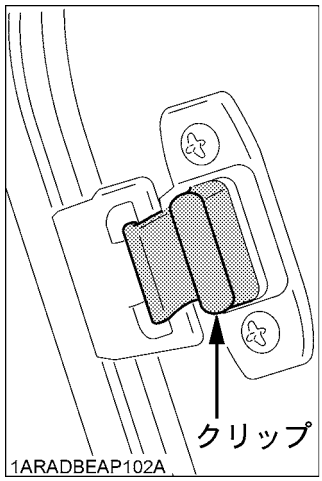
■各ウインドの開閉のしかた

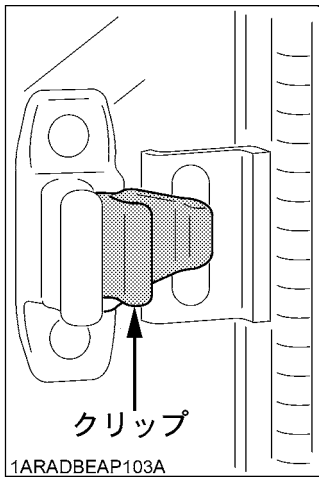
◆ ドアウインド



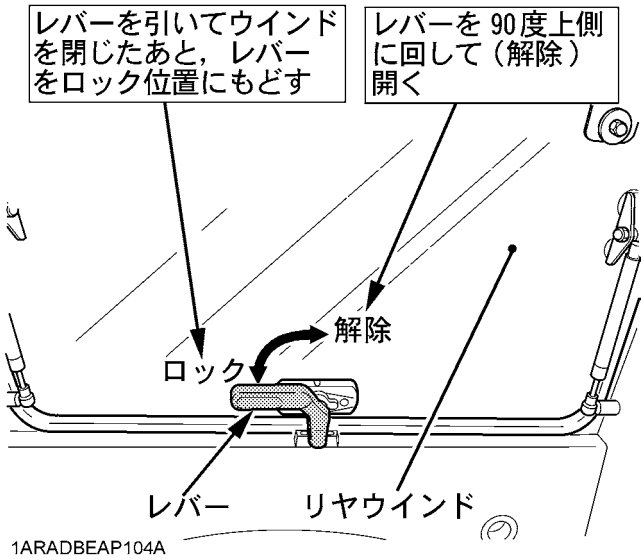
◆ サイドウインド





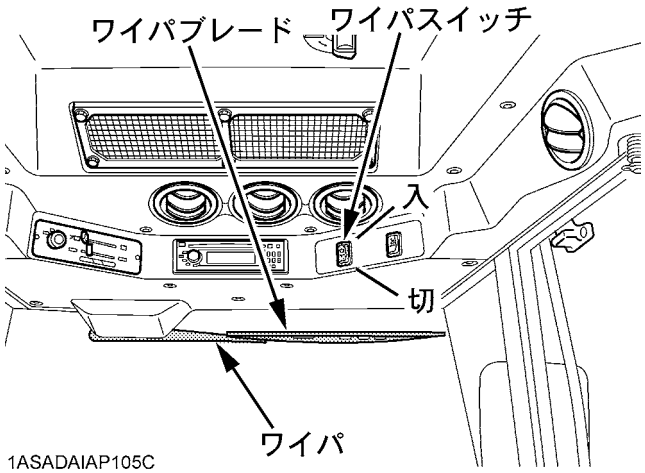


◆ リヤウインド



■ワイパの使いかた

メインスイッチのキーが**【入】**位置のとき，ワイパスイッチの上側を押すと作動**【入】**し，下側を押すと停止**【切】**します。



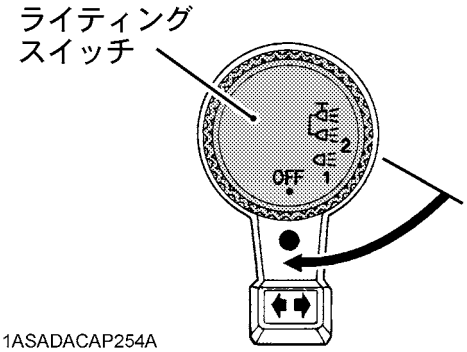
1ASADAIAP105C

重　要

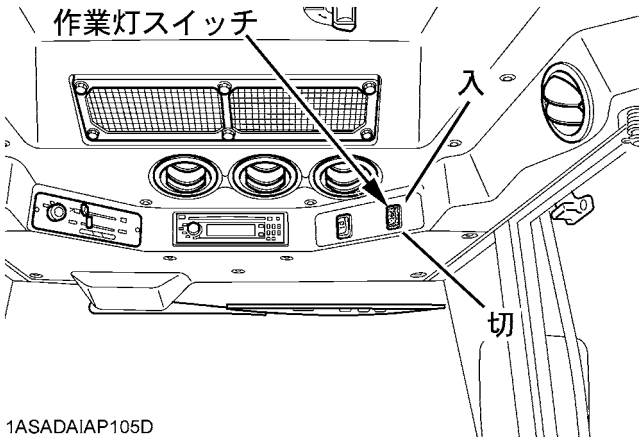
＊ ガラス表面に泥などが付着している場合は，濡れタオルなどでふき取ってください。泥などが付着したまま作動させると，ガラスのキズ付やワイパブレード（ゴム部）の損傷の原因になります。
＊ 長期使用しなかったときや寒冷時に動かすときは，ワイパブレード（ゴム部）がガラス面に接着していることがありますので注意してください。
＊ エンジンを停止して長時間使用するとバッテリが上がるおそれがあります。

■作業灯スイッチ

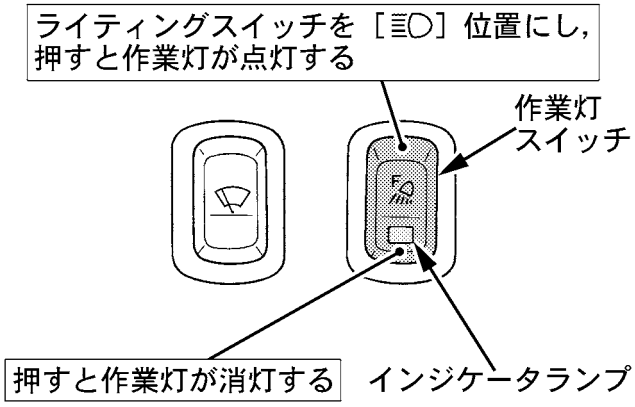
メインスイッチのキーが**【入】**位置のとき，ライティングスイッチを**【 】**位置（**作業灯点灯**）にしたあと，作業灯スイッチの上側を押す**【入】**と作業灯が点灯し，下側に押す**【切】**と作業灯が消灯します。



1ASADACAP254A



1ASADAIAP105D



1ARADBNAP059A

補　足

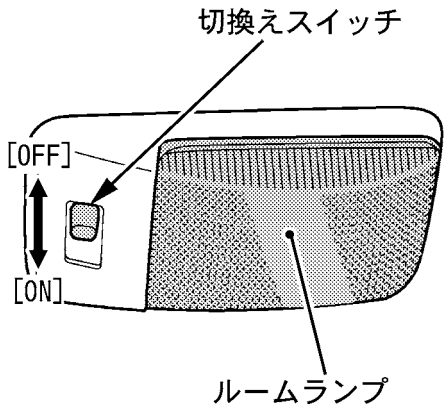
＊ 夜間など暗いときにライティングスイッチを**［ ］（ヘッドランプ点灯）**位置にすると，作業灯スイッチのバックライトが点灯します。また，作業灯の点灯状態を示すインジケータランプも点灯します。

■ルームランプの使いかた

メインスイッチのキーが**［入］**位置のとき，ルームランプの切換えスイッチを**［ON］（入）**にすると点灯します。

［OFF］（切）… ドアの開閉に関係なく，ランプは点灯しません。

［ON］（入）… ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。



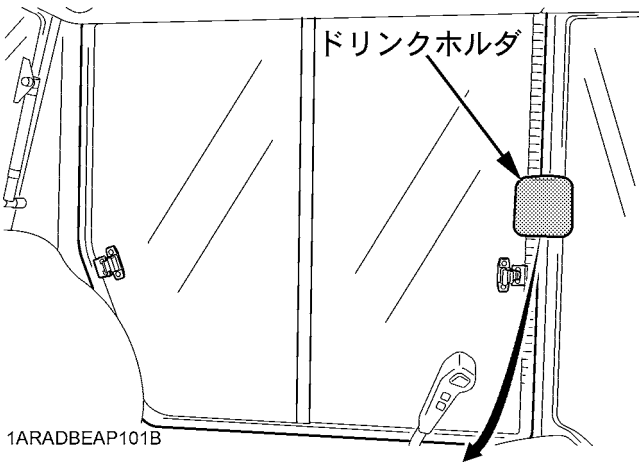
1ARAEASAP014A

重　要

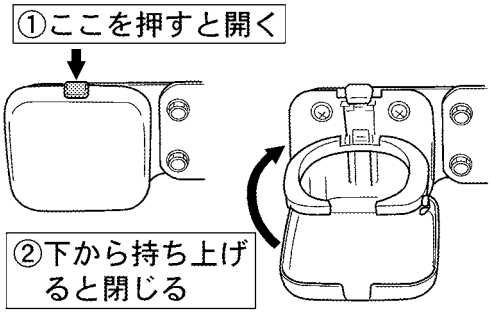
＊ エンジンを停止して長時間点灯するとバッテリが上がるおそれがあります。

■ドリンクホルダの使いかた

飲料水の置き場として使用してください。使用するときはボタンを押して開き，収納するときはホルダ底をロックするまで下から持上げてください。



1ARADBEAP101B



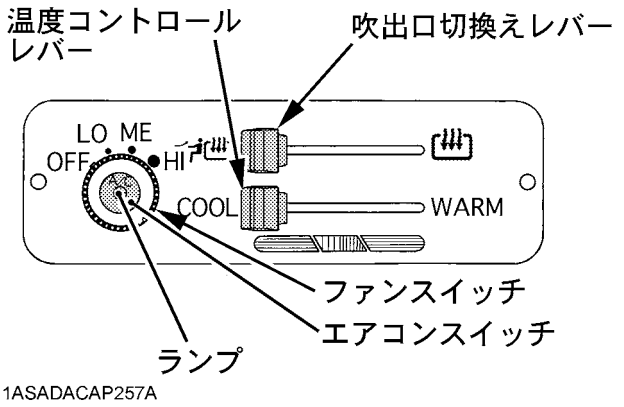
1AGACBAAP073A

補　足

＊ ドリンクホルダに飲料水以外の物はのせないでください。重量物をのせると破損するおそれがあります。

エアコンの取扱い

■コントロールパネル



1ASADACAP257A

◆ エアコンスイッチ
エアコンの電源を**入・切**するスイッチです。

重　要
＊ 1 週間以上又は，長期放置後にエアコンを使うときは，エンジン回転をアイドリングしてエアコンスイッチを**［入］**にしてください。エンジン回転が高いままで，エアコンスイッチを**［入］**にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

補　足
＊ エアコンスイッチを押して**［入］**の状態で，ファンスイッチが**［OFF］**位置以外（送風状態）のときに，中央のランプ（青色）が点灯します。

◆ ファンスイッチ
風量を調節するスイッチです。スイッチを回すことにより３段階（**LO［弱］⟷ ME［中］⟷ HI［強］**）の調節が行なえます。

補　足
＊ ファンスイッチが**［OFF］**位置のとき，送風が停止すると同時にエアコンの電源も切れます。（ランプ消灯）

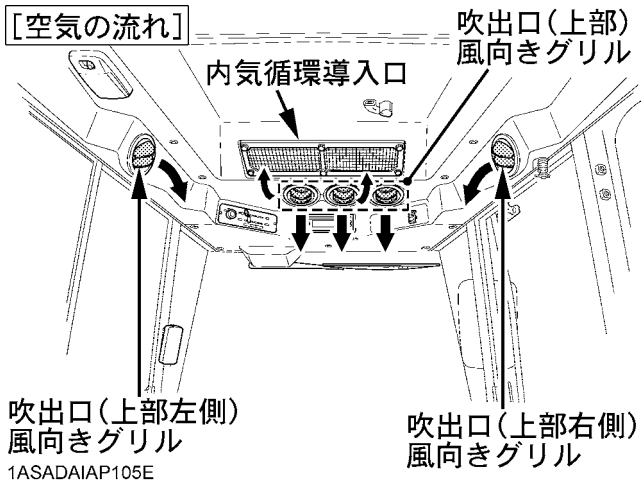
◆ 温度コントロールレバー
温度を調整するレバーです。レバーを**［COOL］**（左側）に操作すると温度は低くなり，**［WARM］**（右側）に操作すると温度が上がります。

◆ 吹出口切換えレバー
送風の吹出口を切換えるレバーです。

…… 吹出口風向グリル（上部）と吹出口（上部両横）より吹出します。

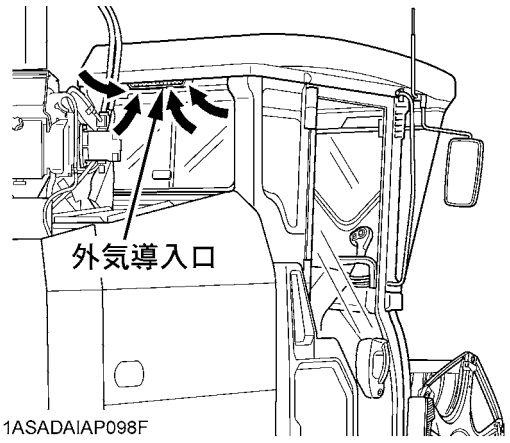
…… 吹出口風向グリル（上部）より吹出します。

● 吹出口風向グリルの調整のしかた
吹出口の風向グリルで風量の調整を行ないます。グリルの角度を変えて，風向きを調整してください。また，上部両横の吹出口からの風量を多くしたいときは，上部の吹出口からの風量を少なくしてください。



1ASADAIAP105E

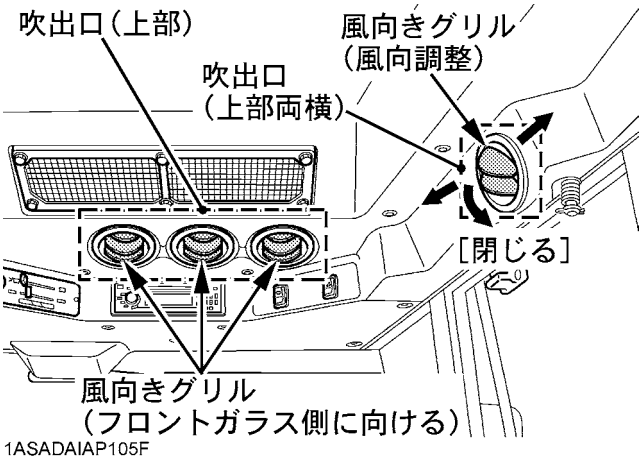
重　要
＊ 洗車を行なうとき，外気導入口に水をかけないでください。故障の原因になります。



1ASADAIAP098F

補　足

＊ フロントガラスの曇りを除去するときは，グリルをフロントガラスに向けてください。
＊ キャビン内の空気の流れを参照して，吹出口の風量や風力を調整してください。また，外気導入口は，キャビン後部の天井下側にあります。



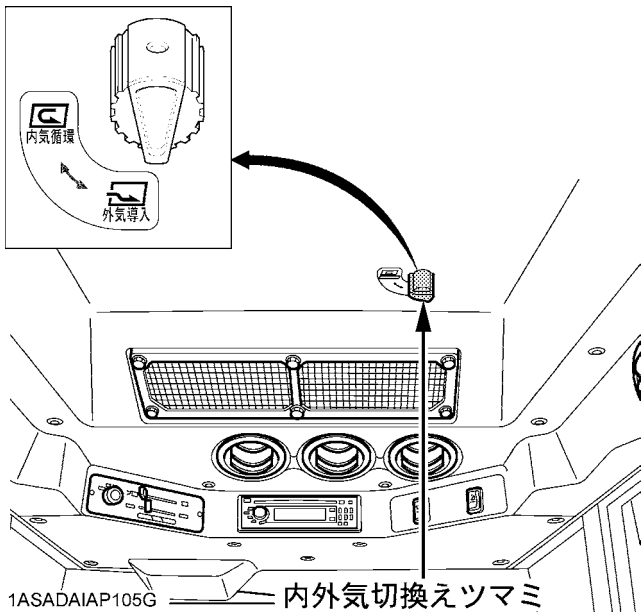
1ASADAIAP105F

■内外気切換えツマミ

キャビン室内の空気の状態を切換えるツマミです。

(内気循環)…… 切換えると内気のみの循環を行ないます。

(外気導入)…… 切換えると外気を取入れます。



1ASADAIAP105G

補　足

＊ キャビン室内の温度を下げたいときは，**［内気循環］**位置にしてください。
＊ 作業中にほこりが多いときは，**［外気導入］**位置にしてキャビン内に新鮮な空気を入れてください。

■エアコン冷暖房のしかた

1. エンジンを始動します。
2. ファンスイッチを希望の位置に回します。
3. 温度コントロールレバーを希望の位置にします。

レバーが

- 暖房（**WARM**）位置のときは，エアコンスイッチを**切**位置にします。
- 冷房（**COOL**）位置のときは，エアコンスイッチを押して**入**位置（ランプ点灯）にします。

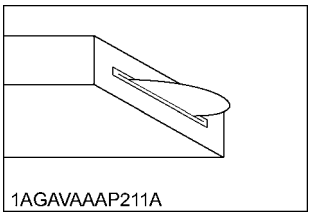
補　足

＊ 湿度が高く窓ガラスが曇りやすいときは，レバーを**中間**位置にし，エアコンスイッチを押して**入**位置にして，除湿を行なってください。
＊ 健康上，冷房はやや弱い目に効かせてください。また，冷風は身体１箇所に集中して当てるのはさけてください。
＊ ゴミの多い条件で使用するときは，風量調節レバーで風量を強くしてください。
＊ 連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転はさけてください。
＊ エンジンの冷却水の水温が高くなるまでは暖房ができません。

AM/FMラジオ付きCDプレーヤの取扱い

注 意

＊ 運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。
＊ CD が落下して頭にあたったりするおそれがあるので，下図の状態で放置しないでください。



共通部の操作のしかた

■電源の入／切

1. **【SRC】** ボタンを押すと電源が入り，前回電源を切ったときのソースで始まります。
2. **【SRC】** ボタンを押すたびに，ラジオと CD が交互に切換わります。CD が入っていないときには，**【NO DISC】** と表示されます。
3. **【SRC】** ボタンを約 1 秒間押すとラジオ又は CD への電源が切れます。

補 足

＊ 電源が **【切】** 状態でも，キースイッチが **【ON】** または **【ACC】** 位置では，時計が表示されます。(時刻の設定は **【時刻合わせ】** の項を参照)

■音量調節

【VOLUME】 ノブを左右に調節します。
右へ回すと大きくなり，左へ回すと小さくなります。

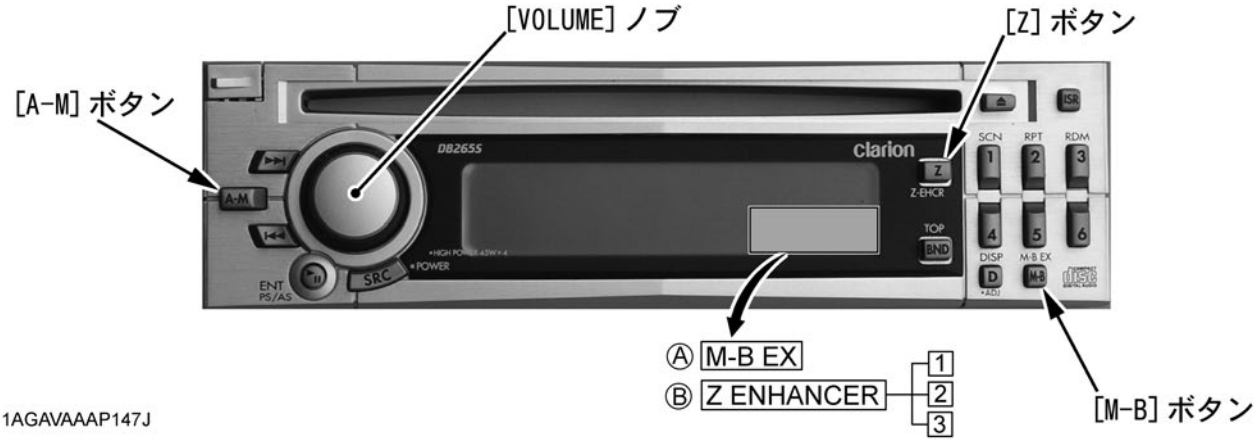
補 足

＊ 調節時はディスプレイに音量値が **【VOLUME 0】** ～ **【VOLUME 33】** の範囲内で表示されます。

■リリースボタン

このボタンを押すと操作パネルが外れます。
操作パネルは衝撃に弱いため，必要以外には取り外さないでください。

キャビン装置の名称と取扱い［C 仕様］



Ⓐマグナベース EX　ON 時点
Ⓑ Z エンハンサーインジケータ

■音質調整

◆ 音質自動ワンタッチ設定

[Z] ボタンを押すごとにインジケータ表示が下記のように切換わります。お好みの音質を設定してください。

インジケータ	備　考
Z ENHANCER 1	低音を重視したサウンド
Z ENHANCER 2	高音を重視したサウンド
Z ENHANCER 3	低音と高音を重視したサウンド
消灯（OFF）	初期設定

◆ 音質手動設定

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BASS]** または **[TREB]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回し調節します。
   右へ回すと強調され，左へ回すと減衰されます。（調整範囲は，－ 7 ～＋ 7 です。）
4. **[A-M]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音質は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

■重低音の増強

[M-B] ボタンを押すと，マグナ・ベース EX（MAGNA BASS EX）が ON になり，重低音が増強されます。
[M-B] ボタンを再度押すと，マグナ・ベース EX 機能が解除されます。

■時計表示への切換え

［D］ボタンを押すごとに下記のように表示が切換わります。

ラジオモードの場合

	表示例
周波数表示	FM 1 83.00
時間表示	AM 10:05

CD モードの場合

	表示例
演奏状態表示	TO 1 00:01
時間表示	PM 10:05

補　足

＊ 常に時計を表示させるには，スクリーンセーバー機能を**［SS OFF］**に設定します。
（**［スクリーンセーバーの設定］**の項を参照）
＊ 時計表示のときは，ラジオの選局や CD の選曲などのボタン操作時に，受信周波数やトラック No. などを表示した後，元の時計表示に戻ります。

■時刻合わせ

1. キースイッチを**［ACC］**又は**［ON］**にします。
2. **［D］**ボタンを約 1 秒間押し，**［SCRN SVR］**を表示させる。
3. サーチボタンを押して，**［CLOCK<E>］**を選択します。
4. プレイ／ポーズボタンを押します。
   調整時点（**［AM 10:16］**など）の時刻を表示して，時刻設定モードになります。
5. サーチボタンを押して，「時」または「分」を選択します。
   点滅している項目が調整できます。
6. **［VOLUME］**ノブを回して，時刻を合わせます。
7. プレイ／ポーズボタンを押すと設定が完了します。

補　足

＊ 時計は 12 時間表示です。
＊ 時刻を合わせる途中で他のボタンを操作すると，時刻調整は解除されます。

キャビン装置の名称と取扱い［C 仕様］

■左右スピーカの音量バランス調整

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BAL]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回します。

右へ回すと右側が強調され，左へ回すと左側が強調されます。（調整範囲は，L13 ～ R13 です。）

4. **[A-M]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音量は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

■スクリーンセーバーの設定

1. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
2. サーチボタンを押して，**[SCRN SVR]** を選択します。
3. **[VOLUME]** ノブを回して，**[SS　ON]** 又は **[SS OFF]** を選択します。

SS ON	スクリーンセーバー機能がONになります。 演奏などの状態表示で30秒間何も操作しないと，スクリーンセーバー表示になります。
SS OFF	スクリーンセーバー機能が OFF になります。

4. **[D]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 初期設定は **[SS ON]** です。ディスプレイに演奏状態を常に表示させておきたい場合は，**[SS OFF]** に設定しておいてください。

ラジオを聴くには

1AGAVAAAP147M

■ラジオの選択

1. **【SRC】**ボタンを押すと受信バンドと受信周波数（**【FM1 83.00】**など）を表示して，ラジオが選択されます。

補　足

＊ **【SRC】**ボタンを押すたびに，ラジオと CD が切換わります。

■受信バンドの選択

1. **【BND】**ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイが切換わります。
   お好みのバンドを選択してください。

FM1 → FM2 → AM1 → AM2

■クイック選局（ISR 機能）

ISR 機能とはどのソースからでもすぐに，特定の放送局を呼び出す機能です。
交通情報など，運転中に聴きたい情報などをすばやく選局できます。

1. **【ISR】**ボタンを押すと，ディスプレイに**【ISR 1620】**が表示されます。
2. **【ISR】**ボタン又は**【SRC】**ボタンを押すと，元のソースに戻ります。

補　足

＊ 初期設定では，AM1620kHz の交通情報が登録されています。

◆ 登録のしかた

登録させたい放送局を選局し，**【ISR】**ボタンを約 2 秒間押すと登録されます。

キャビン装置の名称と取扱い［C 仕様］

Ⓐ **ST：ステレオ放送受信時に点灯**
Ⓑ **MANU：手動選局モード時点灯**

■プリセット選局

あらかじめ自動又は手動でメモリ登録しておくと，ダイレクトボタン（1 ～ 6）を押すだけで選局できます。（登録のしかたは **［メモリ登録（自動選局）］** 又は **［メモリ登録（手動選局）］** の項を参照）

■メモリ登録（自動選局）

登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ，計 24 局です。

1. **［BND］** ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
2. プレイ / ポーズボタンを約 2 秒間押します。受信電波の強い放送局が自動的にダイレクトボタン（1 ～ 6）に登録されます。

補　足

＊ 電波の弱い場所では 6 局すべて登録されない場合もあります。

■メモリ登録（手動選局）

登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ，計 24 局です。

1. **［BND］** ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
2. サーチボタンを押して登録させたい放送局を選択します。
3. 登録させたいダイレクトボタン（1 ～ 6）を約 2 秒間押すと登録されます。

■メモリ登録の確認

プレイ / ポーズボタンを押すと，登録された放送局を順に受信します。
プレイ / ポーズボタンを再度押すと解除されます。

■自動選局

1. ディスプレイに **［MANU］** が点灯しているときは，**［BND］** ボタンを約1秒間押し消灯させます。（消灯時のみ自動選局できます。）
2. サーチボタンを押します。
3. 放送のあるところで自動的に選局が止まります。他を選局したいときは，再度ボタンを押してください。

■手動選局

1. ディスプレイに **［MANU］** が消灯しているときは，**［BND］** ボタンを約1秒間押し点灯させます。（点灯時のみ手動選局できます。）
2. サーチボタンを押して，放送のあるところに合わせます。

CD を聴くには

■ CD の挿入と再生

CD の挿入口に CD を入れると【T01 00:00】を表示し，自動的に演奏が始まります。
8cm CD のときは，CD 挿入口の中央に入れます。

すでに CD が入っている場合は，【SRC】ボタンを押して CD を選択すると，トラック No.（【T01 00:00】など）を表示し，自動的に CD の演奏が始まります。

補　足

＊ 本機は disc マーク表示のあるコンパクトディスク以外はご使用になれません。
＊ CD-R/RW で記録されたディスクは，使用できない場合があります。
＊ CD は印刷面を上にして入れてください。

■ CD の取出し

イジェクトボタンを押すと CD が取出されます。

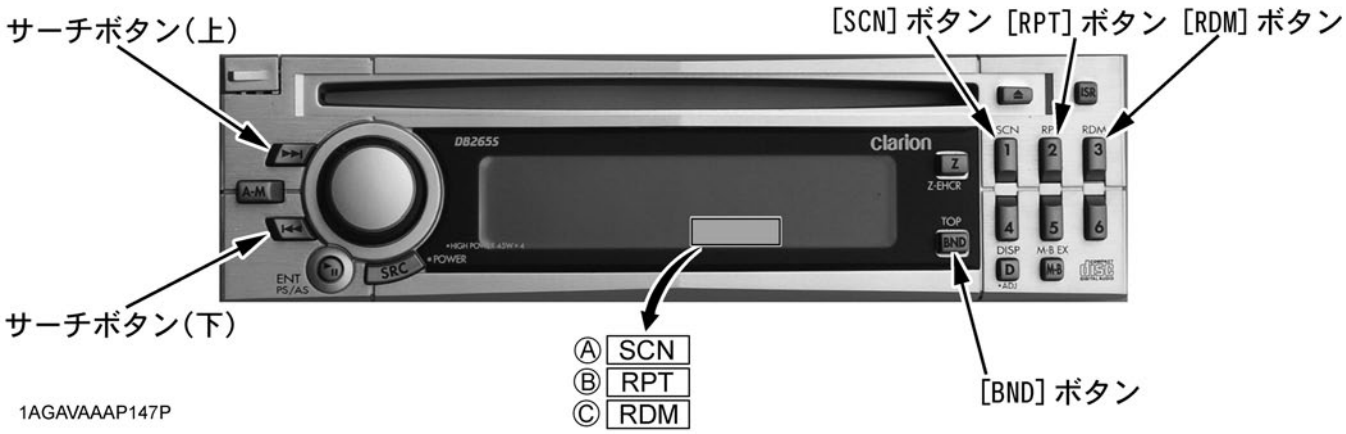
補　足

＊ CD をイジェクトしたままにしておくと，15 秒後に本機内に引き込まれます（オートリロード）。
＊ オートリロード前に無理に CD を押し込むと，CD にキズがつくおそれがあります。
＊ 8cm CD はオートリロードされません。
イジェクトした場合は，8cm CD を取出してください。

■演奏の一時停止

プレイ / ポーズボタンを押すと【PAUSE】が表示され，演奏が一時停止します。
プレイ/ポーズボタンを再度押すと演奏が再開されます。

キャビン装置の名称と取扱い［C 仕様］



ⒶSCN：スキャン演奏時に点灯
ⒷRPT：リピート演奏時に点灯
ⒸRDM：ランダム演奏時に点灯

■次の曲／前の曲の選択

次の曲を聴くときは，サーチボタン（上）を押します。また押した回数だけ先の曲が演奏されます。
前の曲を聴くときは，サーチボタン（下）を 2 回押します。サーチボタン（下）を押すと，演奏中の曲を最初から演奏します。
さらに押すと，押した回数だけ前の曲が演奏されます。
曲の頭部分を演奏しているときにサーチボタン（下）を 2 回押すと，2 つ前の曲へ戻ることがあります。

■早送り／早戻し

早送りするときはサーチボタン（上）を押し続けます。
早戻しするときはサーチボタン（下）を押し続けます。

1 秒以上押すと 5 倍速で，3 秒後には 30 倍速で，演奏曲が早送りまたは早戻しされます。

■トップ機能

[BND] ボタンを押すと，最初の曲（トラック No.1）から演奏されます。

■曲を探す（スキャン演奏）

CD に収録されている全曲を 10 秒間ずつ演奏します。
[SCN] ボタンを押すと，ディスプレイの **[SCN]** が点灯して，スキャン演奏します。スキャン演奏は，演奏している曲の次の曲から始まります。

■曲を繰り返し聴く（リピート演奏）

演奏中の 1 曲を繰り返し演奏します。
[RPT] ボタンを押すと，ディスプレイの **[RPT]** が点灯して，リピート演奏します。

■ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏）

CD に収録されている全曲を順不同に演奏します。
[RDM] ボタンを押すと，ディスプレイの **[RDM]** が点灯して，ランダム演奏します。

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤが故障かな？と思われたら

次のような症状は，故障ではないことがあります。修理を依頼される前に，もう一度次のことをお調べください。

現　象	原　因	修　理
電源が入らない。 （音が出ない）	ヒューズが切れている。	ヒューズ容量を確認し，新しいヒューズと交換してください。 再度切れる場合は，お買い求めの販売店又は最寄の弊社修理相談窓口にご相談ください。
CD がすぐ出てしまう。	CD を裏表逆に入れている。	CD の印刷面を上にして入れてください。
音飛びする。 ノイズなどが入る。	CD が汚れている。	CD を柔らかい布で拭いてください。
	CD に大きい傷やソリがある。	CD を無傷なものに交換してください。
電源を入れた直後音質が悪い。	湿気の多いところに駐車すると，内側のレンズに水滴が付くことがあります。	電源を入れた状態にして１時間乾燥させてください。
ボタンを押しても動作しない，又はディスプレイが正確に表示されない。	ノイズなどが原因で，マイコンが誤動作している。	リセットボタンを，細い棒などで約２秒間押してください。 リセットボタンを押したときは，設定したプリセットメモリなどが全て消えますので，もう一度設定し直してください。

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのエラー表示について

本機はシステム保護のため，各種の自己診断機能を備えています。
傷害が発生したときには，各種のエラーが表示されますので，対処方法にしたがって傷害を取除いてください。障害を取除けば，通常の動作に復帰します。

エラー表示	原　因	対処方法
ＥＲ ２	本機の CD デッキ内の CD が引掛かってイジェクトされないとき。	引掛かる要素を取除いてください。CD がイジェクトされない場合は，機器の故障と思われますので，お買い求めの販売店にご相談ください。
ＥＲ ３	本機の CD デッキ内の CD に傷などがあり，演奏できないとき。	傷やソリのない CD と交換してください。

※上記対処を行なっても復帰しない場合は，本体の電源を切り，お買い求めの販売店又は，クラリオン（株）お客様相談室にご相談ください。

キャビン装置の名称と取扱い［C 仕様］

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い上の注意

1. disc マークのついた CD をご使用ください。
   また，ハート形や八角形など，特殊形状の CD は使用しないでください。
   CD-R/CD-RW で記録されたディスクは，使用できない場合があります。
   CD が曇っているときは，やわらかい布でふいてください。
2. 本機はシステム保護のため，各種の自己診断機能を備えています。ディスプレイにエラーが表示されたときには，**［エラー表示について］**の項を参照して障害を取除いてください。障害を取除けば，通常の動作になります。
3. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気に十分ご注意ください。
4. 車内の温度に気をつけてください。
   極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，－ 20 ～ 70 度の範囲で使用してください。
5. 本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
6. 本機のお手入れは，乾いたやわらかい布でふいてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合にはやわらかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽くふき取ってください。
7. CD はディスク面に，傷や指紋をつけないように扱ってください。
   汚れたときは，やわらかい布で，内側から外側へ向かって，よくふいてください。
8. 8cm CD をイジェクトした状態で走行しないでください。走行中の振動により，ディスクが落下するおそれがあります。
9. CD は次のような場所には保管しないでください。
   - 直射日光のあたる場所
   - 湿気やホコリの多い場所
   - 暖房の熱が直接あたる場所

◆ 推奨クリーニングディスク

クラリオン製　CTC-007-210

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのお問合わせ

この AM/FM ラジオ付 CD プレーヤの取扱いに関するお問合わせは，下記メーカ窓口でもご相談いただけます。
なお，故障修理に関しては，お買上げの購入先にご相談ください。

クラリオン（株）
　お客様相談室
TEL　0120-112-140
　（土・日・祝除く / AM9:30 ～ 12：00
　　PM1:00 ～ 5：00）

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，120 ページ以降を参照）

警 告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを始動してからの確認作業以外は，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜き，駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
＊ バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，外したままでは衣服などを巻込むおそれがあり危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊ 刈刃の掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

各部への給油と交換

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，必ず指定の**［クボタ純オイル・クボタ純グリース］**を使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部に排かんくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする＞	参照ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. 排かんくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充，増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	－ － 169 136 ⚠-23
刈刃	・刃の損傷はないか。	・交換する。又は，購入先に連絡してください。	204
クローラ	・たるみや損傷はないか。	・調整又は，交換する。	220
防じんあみ	・詰まりはないか。	・掃除する。	171
反射器	・汚れ損傷はないか。	・掃除又は，交換する。	220
こぎ胴上部及びサイドカバー・エンジンルームを開けて			
受あみ，こぎ歯	・極端な摩耗や破損はないか。 （摩耗量の確認）	・組換え又は，交換する。	130, 207
エンジンオイル	・油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル D10W-30 スーパー CD	158
ラジエータ冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	165
ラジエータフィン オイルクーラフィン コンデンサフィン **[C 仕様]**	・詰まりはないか。	・掃除する。	171
エアクリーナ	・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除又は，エレメントを交換する。	167
ファン駆動ベルト	・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	183
ホース，パイプ	・油もれ，水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	169
配線コード	・コネクタなどの外れやゆるみ又は，被覆の損傷はないか。	・接続する。 ・交換する。	215

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする＞	参照ページ
運転席に座りメインスイッチを入れて			
各ランプ	・各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。 ・バッテリの充電又は交換する。	211，215～218
液晶ディスプレイ	・表示はされているか。 ・切換えスイッチを押すと表示内容が変わるか		
燃料計	・作業に必要な燃料はあるか	・軽油を補給する。	157
ホーン	・スイッチを押すと鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	215
バックブザー	・主変速レバーを**【後進】**位置にするとブザーが鳴るか。		
バッテリ	・エンジンは始動するか。	・充電又は，交換する。	211
エンジンを始動して			
エンジン回転計	・回転計の作動に異常はないか。	・購入先へ連絡してください。	－
エンジン（マフラ）	・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先へ連絡してください。	－
刈刃，フィンガ軸，各チェーン	・注油後の動きに異常はないか。	・調整又は，交換する。	195，204，205
各レバー	・各レバーの作動に異常はないか。	・調整する。	178～179
駐車ブレーキ	・機体は停止するか。また，遊び量は適正か。	・調整する。	178

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊ 高速での刈取作業は避けてください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

＊ エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊ コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ コンバインに乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。
＊ 始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。
＊ 副変速レバーが［N］（中立）位置では，油圧ロックが作動しないため，坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。

■始動のしかた

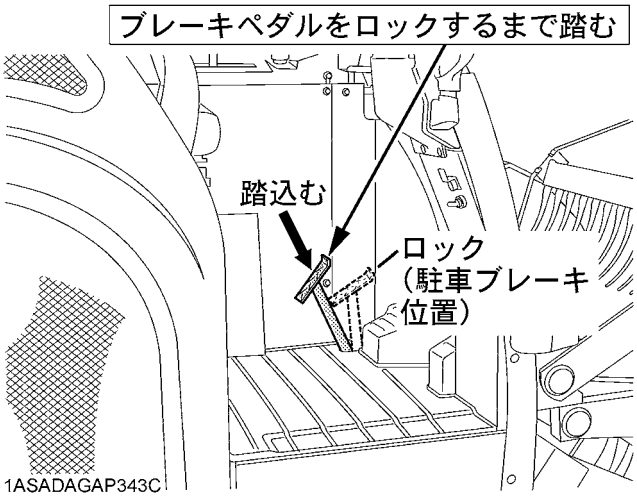
1. ハンドルをしっかりと握り，補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。

重　要

＊ 運転席へ乗降りするときは，ハンドル以外は握らないでください。特に SF ワンレバーを握って乗降りすると，変形したり，破損する原因となります。また，SF ワンレバーが変形したり破損すると，正常なコンバインの運転が行なえなくなるおそれがあります。

2. 運転しやすい位置に運転席（シート）を調整します。（15 ページ参照）

3. 駐車ブレーキを掛けます。



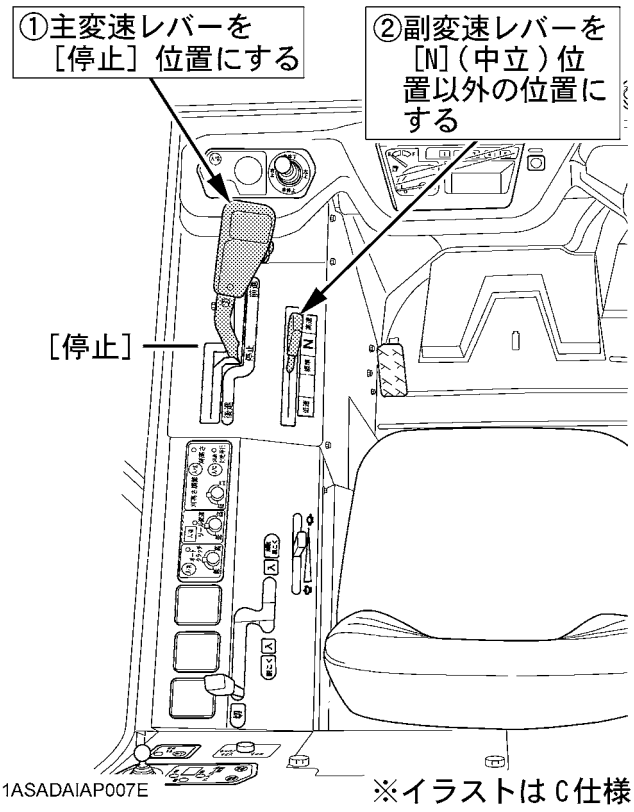
補　足

＊ 駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが**［停止］**位置に戻ります。また，ブレーキペダルが**［ロック］**位置の場合は，主変速レバーは動きません。

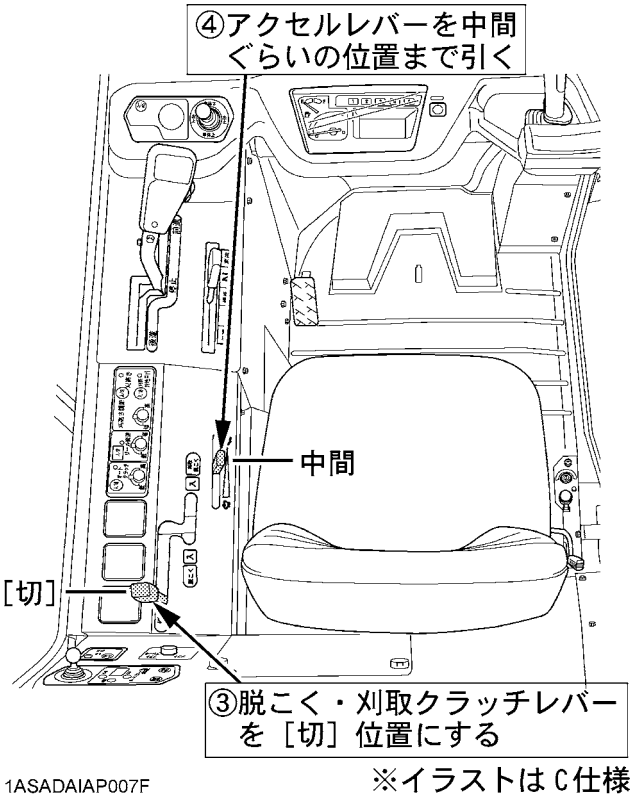
＊ 駐車ブレーキペダルを踏んでいないと，メインスイッチのキーを回してもエンジンは始動しません。また，液晶ディスプレイに下記の内容を表示します。

● **［ブレーキペダルを踏む］**…駐車ブレーキペダルを踏む

4. 各レバー位置の確認をします。



※イラストは C 仕様



※イラストは C 仕様

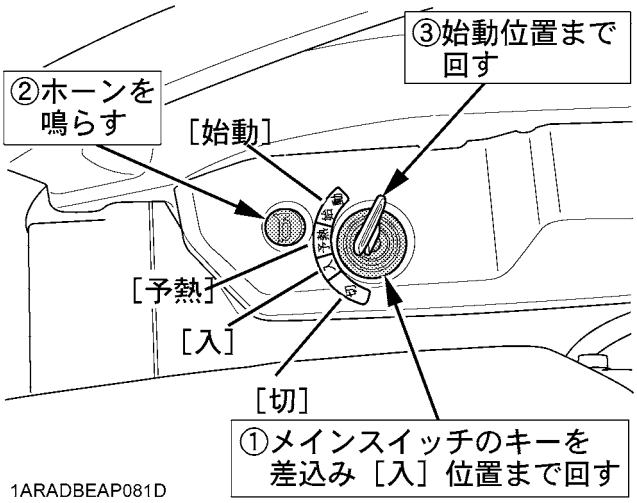
補　足

＊ 各レバーの位置がエンジンの始動条件に合っていないと，メインスイッチのキーを回してもエンジンは始動せず液晶ディスプレイに下記の内容を表示しますので始動条件に合うように処置を行なってください。

- **［脱こくクラッチ切に］**… 脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にする。
- **［主変速中立に］**…… 主変速レバーを**【停 止】(中立)**位置にする。
- **［もみ排出クラッチ切に］**… もみ排出クラッチレバーを**【切】**位置にする。
- **［ブレーキペダルを踏む］**… 駐車ブレーキペダルを踏む。

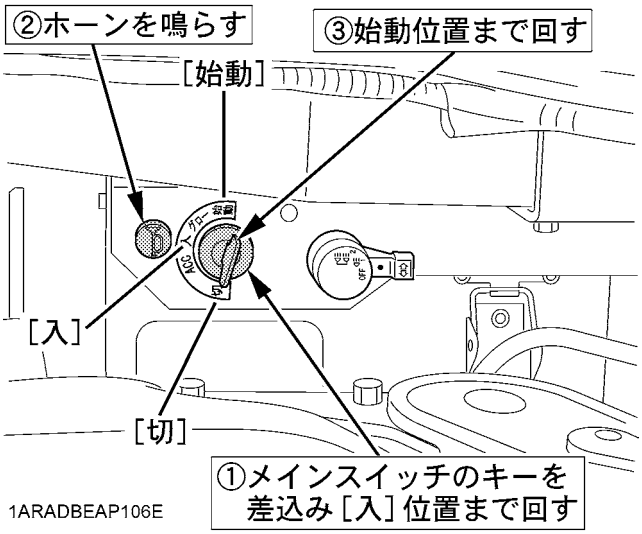
5.　エンジンを始動します。

[C 仕様除く]



[C 仕様除く]

[C 仕様]



[C 仕様]

重　要

＊ メインスイッチのキーを**【始動】**位置に回して10秒たっても始動しないときは，いったんメインスイッチのキーを**【切】**位置にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。
＊ エンジン回転中に，メインスイッチのキーを**【始動】**位置に回すと故障の原因になります。

補　足

＊ メインスイッチのキーを**【入】**位置にすると，エアロナビの液晶ディスプレイに**【アワメータ・オイル（）・充電（）】**が表示されますが，オイル又は，充電の図柄が表示されないときは，購入先に連絡してください。
＊ 駐車ブレーキが掛かっている状態でメインスイッチのキーを**【入】**位置にすると**【駐車ブレーキ（P）】**が優先して表示し，駐車ブレーキを解除すると表示は消えます。
＊ ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

◆ 暖機運転について

エンジン始動後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて通常（寒冷時以外）約5～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

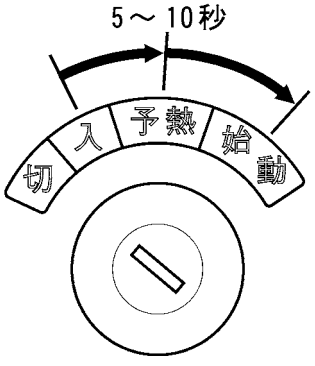
重　要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

◆ 寒冷時の始動のしかた

[C仕様除く]

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にメインスイッチのキーを**【予熱】**位置で5～10秒間予熱したあと**【始動】**位置に回してください。

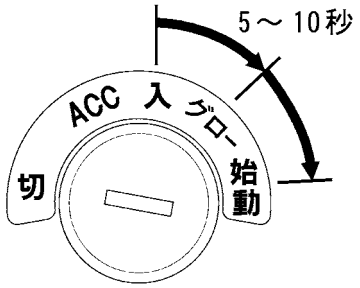


1ARADBEAP060B

[C仕様除く]

[C仕様]

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にメインスイッチのキーを**【グロー】**位置で5～10秒間予熱したあと**【始動】**位置に回してください。



1ARADBEAP061B

[C仕様]

重　要

＊ 寒冷時は暖機運転を怠るとSFワンレバーの操作できなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　　温	暖機運転時間
0℃～-10℃	約10分
-10℃～-15℃	10～15分
-15℃～-20℃	15～20分
-20℃以下	20分以上

◆ 燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

1. 脱こく・刈取クラッチレバー及びメインスイッチのキーを**【切】**位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかたの1～4**を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊ メインスイッチのキーを**【入】**位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

◆ バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，(+) 端子と (−) 端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。(211 ページ参照)
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

重　要

＊ 接続するバッテリは，必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊ 充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの **(+) 端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの **(−) 端子**に接続し，コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付の逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを **【切】** 位置にします。
2. アクセルレバーを **【🐢】**（低回転）位置にします。
3. メインスイッチのキーを **【切】** 位置にしてエンジンを停止します。

重　要

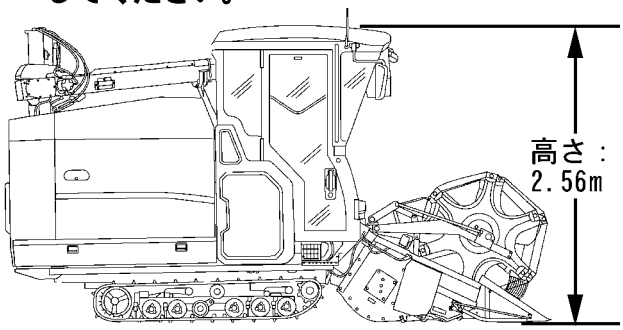
＊ エンジン停止中でメインスイッチのキーが **【入】** 位置や **【ACC】** 位置 **【C 仕様】** で長時間放置すると**バッテリ上り**となります。

移動走行について

このコンバインは，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

注　意

＊ ホッパ内又は，グレンタンク内に残っているこく粒は全て排出してください。
＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 運転者以外の人は乗せないでください。
＊ 10 ㎝以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ 刈取部を上げてリールを下げ，刈取部下降ロックスイッチを下げ，刈取部をロックして，下降防止を行なってください。
＊ 水平操作レバーで機体をいっぱい下げた状態にしてください。また，[C 仕様] は，高さ制限のあるところを走行するときは注意してください。



1ASADAIAP108A

＊ あぜごえや傾斜地(坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は，転倒しケガをするおそれがあるので下記事項を守ってください。
- **副変速レバーを[低速]位置にし，エンジン回転を下げて低速で走行してください。**
- **上り方向は前進，下り方向は後進であぜや斜面に対して直角に走行してください。**
- **走行途中にSFワンレバー･副変速レバー･ブレーキペダル・水平操作レバー・車体旋回切換えスイッチの操作は行なわないでください。**
- **走行途中に停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず必ず主変速レバーを操作して停止してください。**

＊ 下記のようなところは，転倒しケガをするおそれがあるので走行しないでください。
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**
- **左又は,右に 10 度以上傾斜しているところ**

重　要

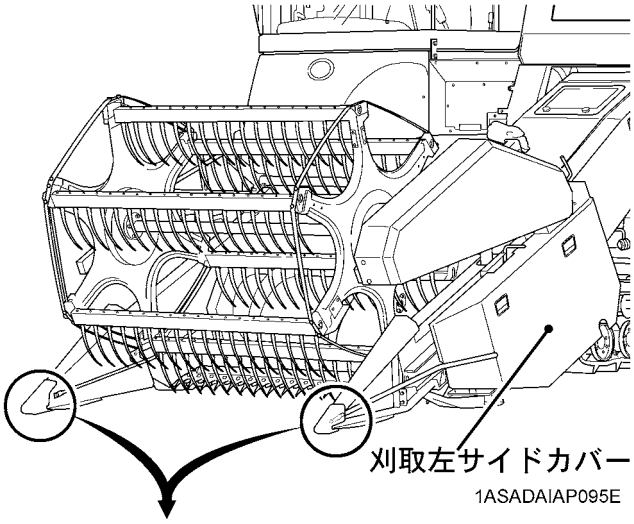
＊ 路面の凹凸（溝や穴など）や荒れた路面上は走行しないでください。クローラの破損や早期摩耗の原因となります。
＊ **[G 仕様]** はアンローダ受けにアンローダを必ず収納してください。

■走行前の準備

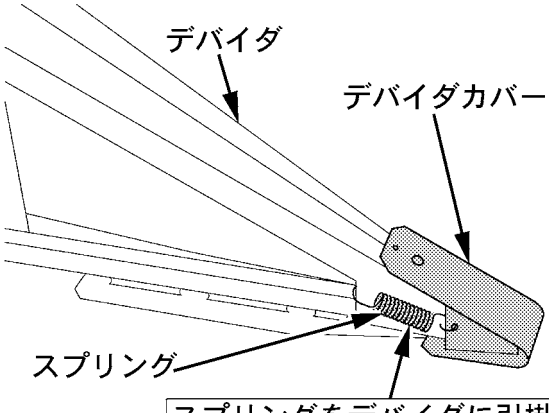
注　意

＊ 平坦な場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 木や電線に接触して破損したり，周囲の人にケガをさせるおそれがあるので［G 仕様］はアンローダを収納状態にしてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

1. ホッパ内**［H 仕様］**又は，グレンタンク内**［G 仕様］**に残っているもみは，すべて排出します。（100 ページ参照）また，**［H 仕様］**はもみ受けデッキに乗せているもみ袋をすべて降ろします。
2. 刈取部を下げたあと，エンジンを停止し，左，右のデバイダにスプリングを引掛けて，デバイダカバーを左，右にそれぞれ取付けます。



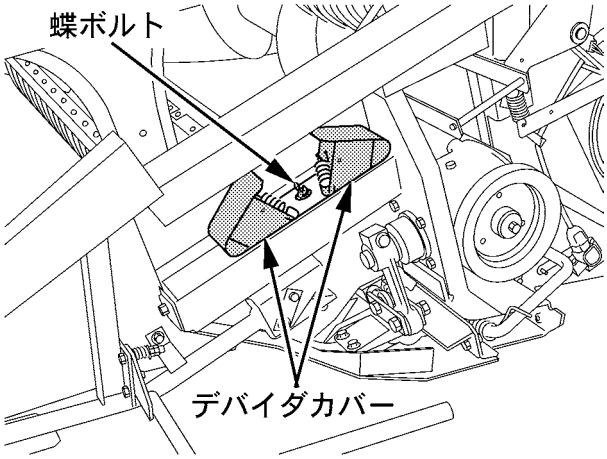
1ASADAIAP095E



1ASADAGAP072A　スプリングをデバイダに引掛ける

補　足

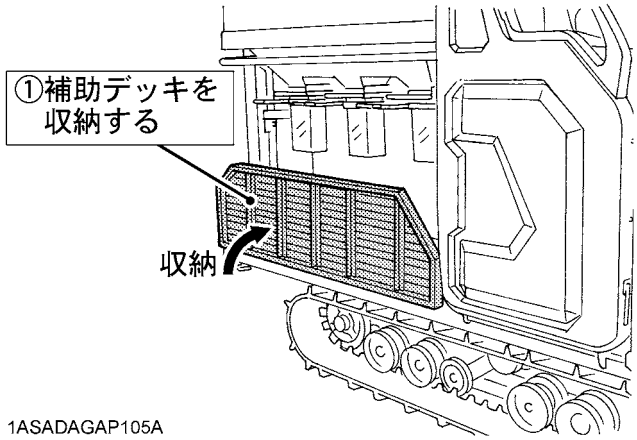
＊ デバイダカバーは刈取左サイドカバーを取外したあと，蝶ボルトを外して取外してください。取外した蝶ボルトは，取外したところに振動などで脱落しないようにしっかりと取付けてください。そのあと，刈取左サイドカバーを取付けてください。



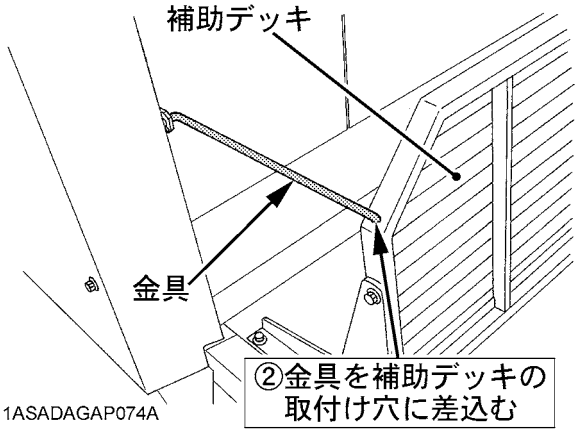
1ASADAGAP073A

[H 仕様]

3. 補助デッキを収納したあと，金具を補助デッキの取付け穴に差込んで固定します。



1ASADAGAP105A

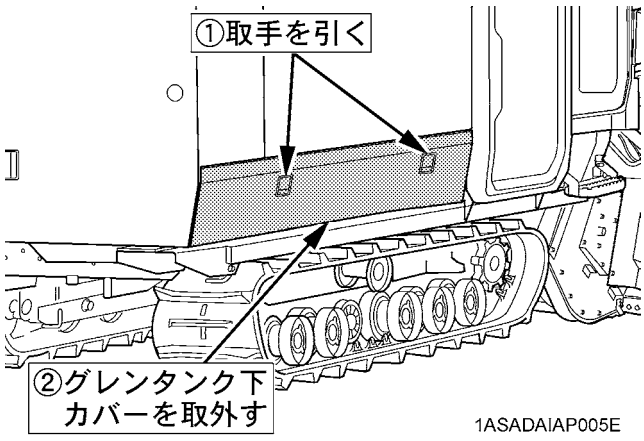


1ASADAGAP074A

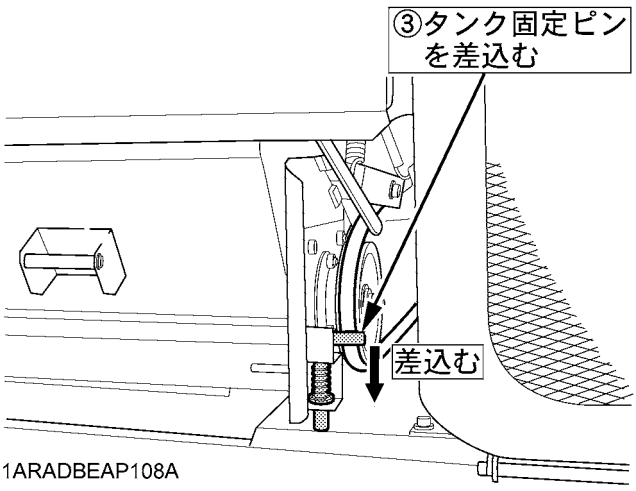
[H 仕様]

[G 仕様]

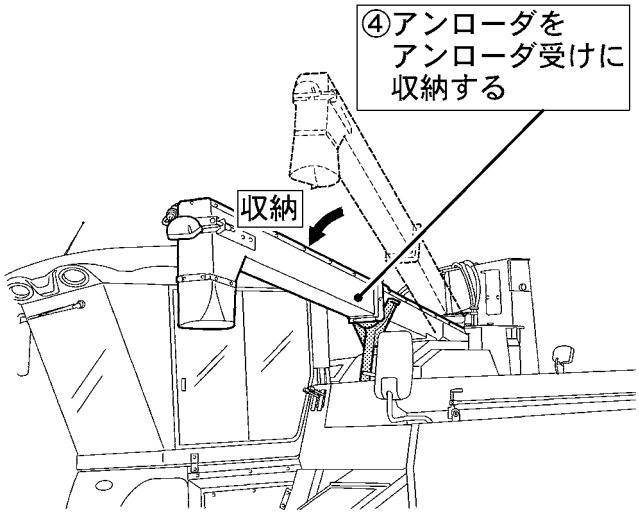
3. グレンタンクが固定されていることを確認し，グレンタンク下カバーを取付けたあと，アンローダを収納します。



1ASADAIAP005E



1ARADBEAP108A



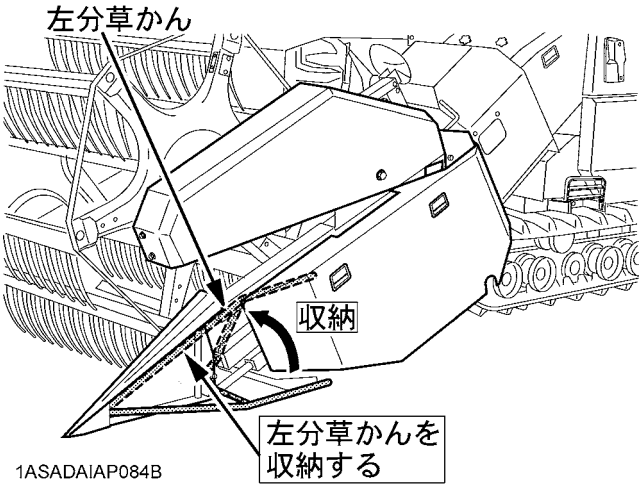
1ASADAIAP104B

補　足

＊ アンローダ内にこく粒が残っていると，こく粒がこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

[G 仕様]

4. 左分草かんを収納します。



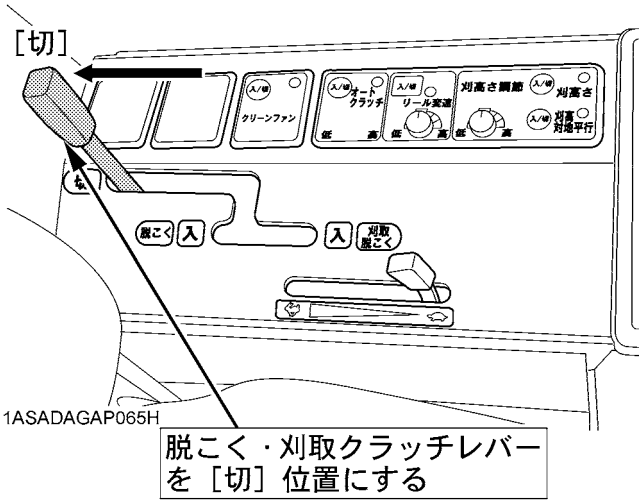
1ASADAIAP084B

5. 自動車体水平制御スイッチを**【切】**にし，水平操作レバーで機体をいっぱいまで下げます。

1ASADAIAP007G

※イラストはC仕様

6. 脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にします。



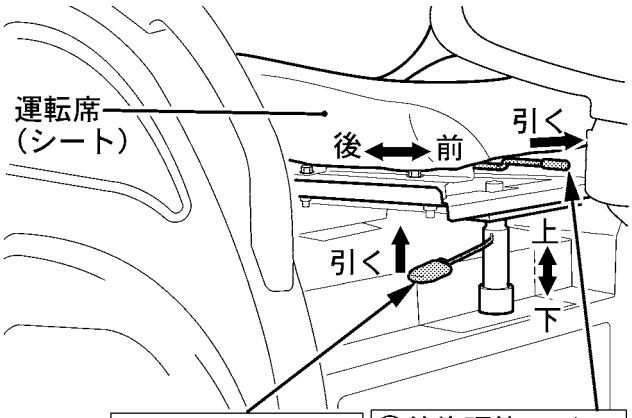
1ASADAGAP065H

■発進のしかた

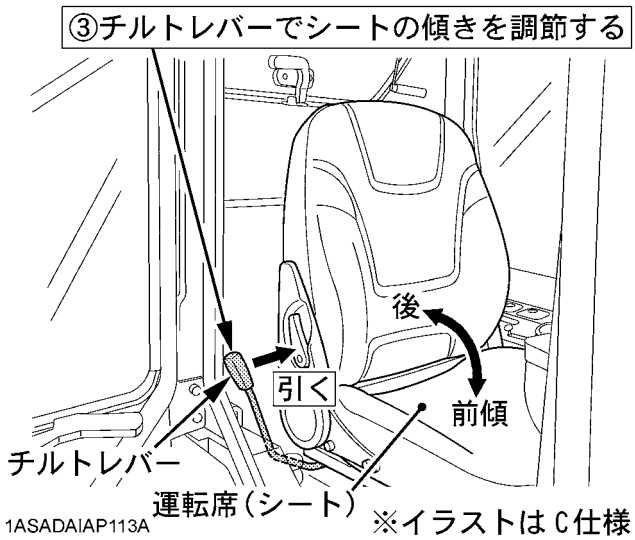
注　意

- **＊ 発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。**
- **＊ 急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。**
- **＊ 機体の前進を停止するとき，主変速レバーを［停止］側にするときは，後進時切換えノブを押さないでください。［後進］側に入り機体が後進するおそれがあります。**

1.　運転席，バックミラーの調整を行ないます。

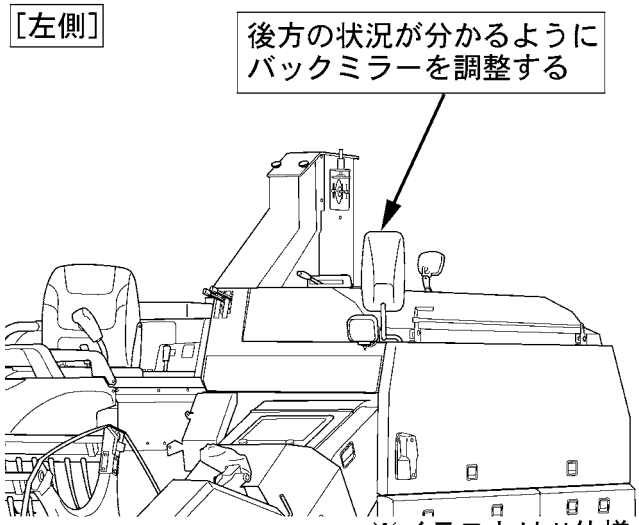


1ARADBEAP023B



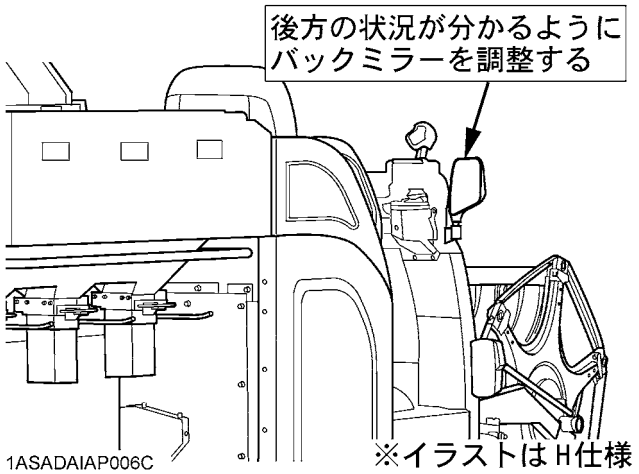
1ASADAIAP113A　※イラストはC仕様

［左側］



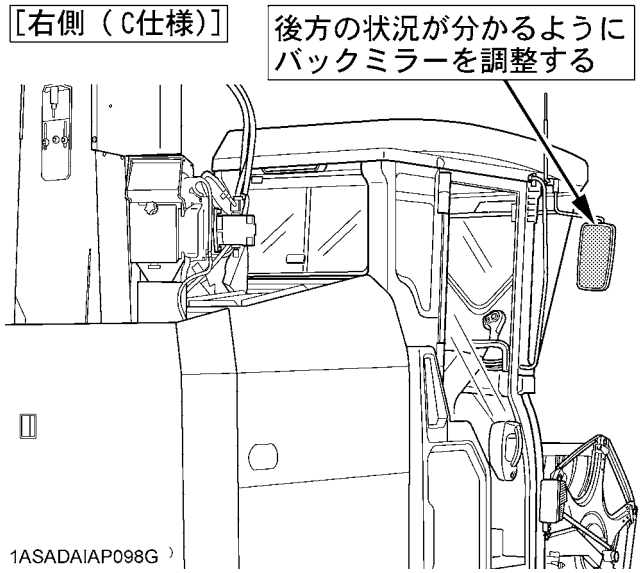
1ASADAIAP004B　※イラストはH仕様

［右側（C仕様除く）］



1ASADAIAP006C　※イラストはH仕様

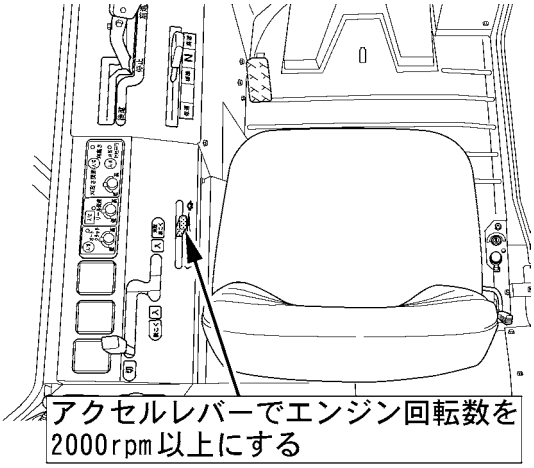
［右側（C仕様）］



1ASADAIAP098G

2. アクセルレバーを操作します。

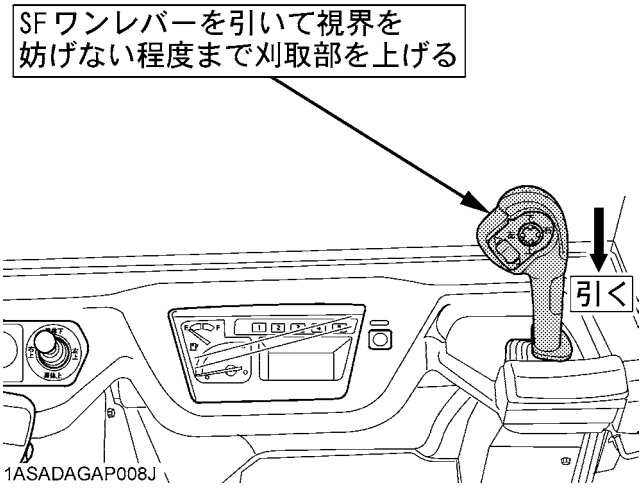
エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作します。



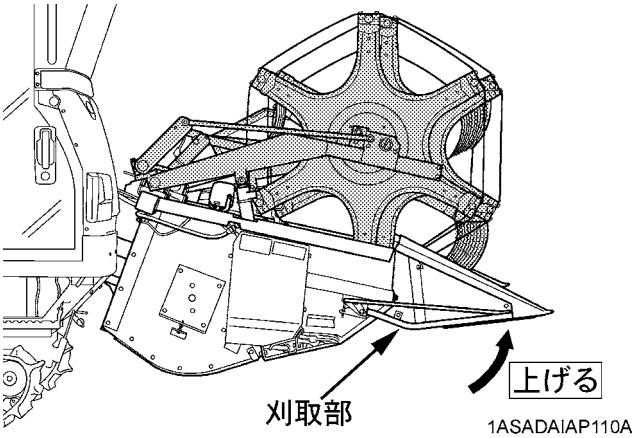
1ASADAIAP007H

※イラストはC仕様

3. 刈取部を上げます。



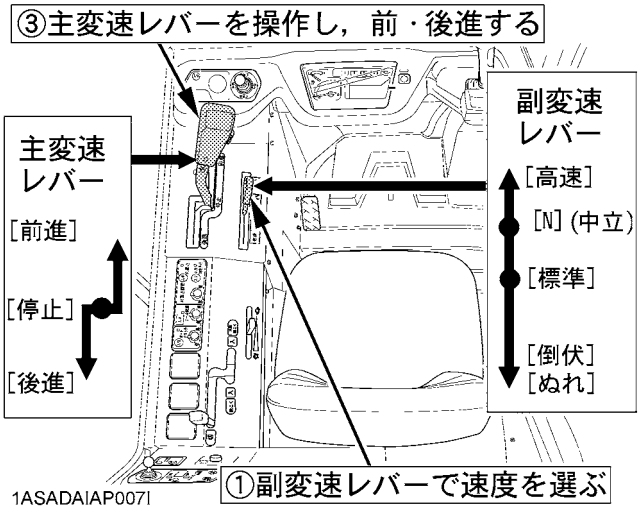
1ASADAGAP008J



1ASADAIAP110A

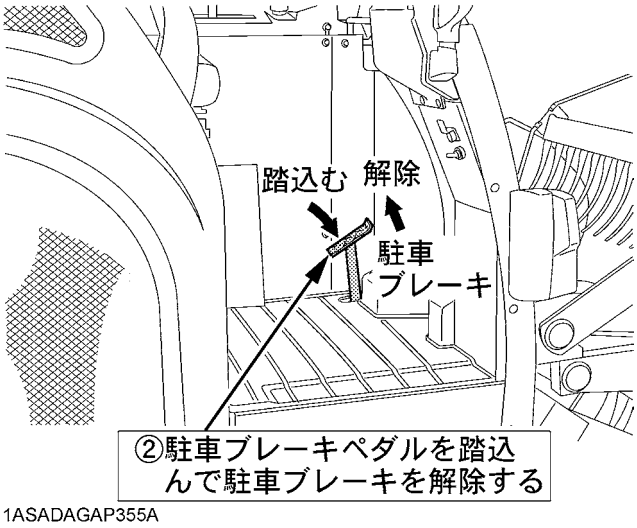
4. 走行速度を選んで発進します。

主変速レバーを**［停止］**位置より前に押すと**前進**し，後に引くと**後進**します。



1ASADAIAP007I

※イラストはC仕様



1ASADAGAP355A

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。また，駐車ブレーキが掛かっている状態で主変速レバーを動かして警報が鳴ったときは，主変速レバーを**［停止］**位置にして駐車ブレーキを解除してください。

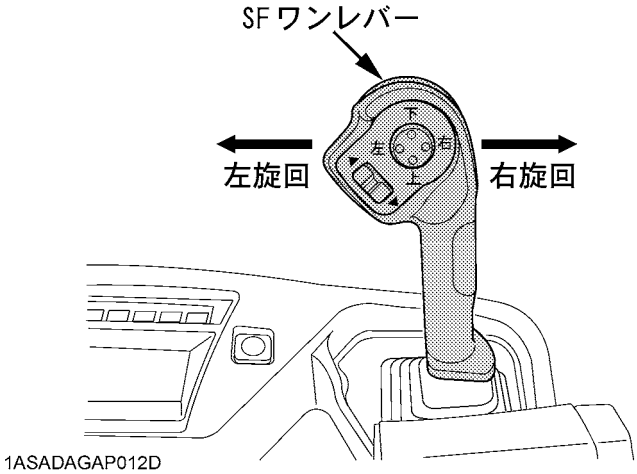
＊ 副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを**［停止］**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

■旋回のしかた

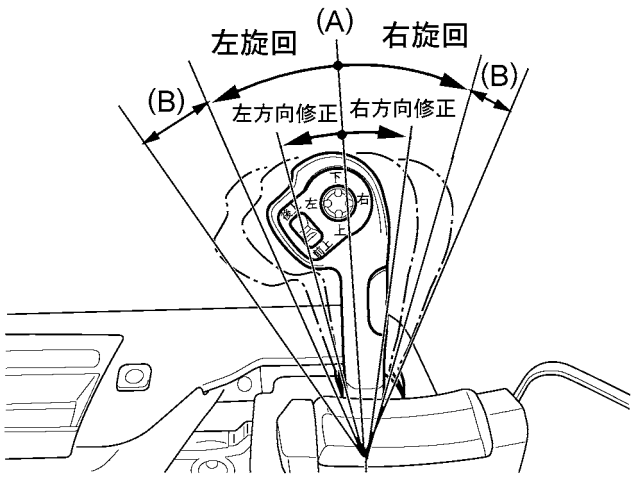
注　意

＊ 高速走行時，SF ワンレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向に SF ワンレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。



1ASADAGAP012D



(A): ソフトターン範囲
(B): ブレーキターン範囲

1ARADBEAP064A

重　要

＊ 砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

補　足

＊ 車体旋回モードに切換えスイッチを**[ソフト・ブレーキ]** 位置に選択すると **(A)** から **(B)** の範囲に切換わるとブレーキターンとなります。

■停車・駐車のしかた

注　意

＊ コンバインを離れるときは，平坦で安全な場所に置き，刈取部を降して駐車ブレーキを掛け，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを**【停止】**位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重　要

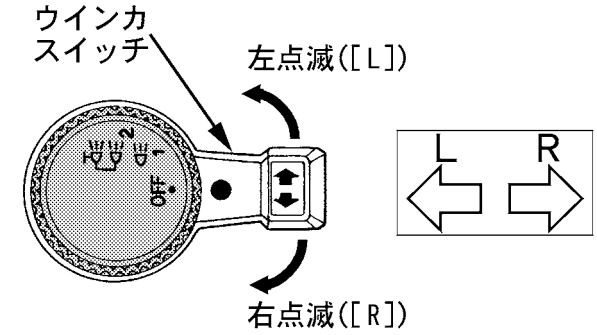
＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

3. アクセルレバーを**【🚜】（低回転）**　位置にします。
4. 副変速レバーを**【N】（中立）**以外の位置にします。
5. 刈取部を降ろして接地します。
6. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。
7. **【C仕様】**はキャビンのドアをロックします。

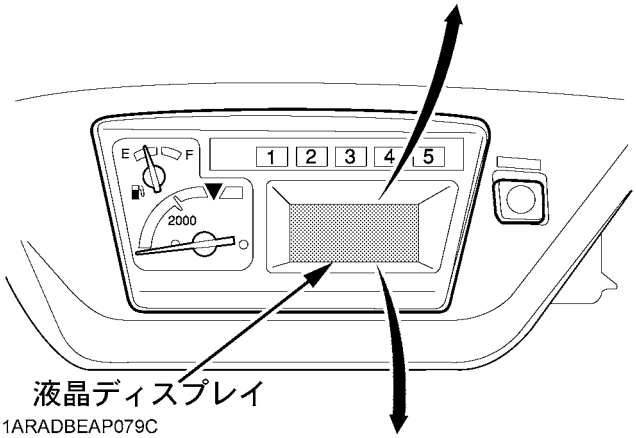
■移動走行について

移動走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ（方向指示器）で進路方向を知らせてください。旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，エアロナビの液晶ディスプレイに**【L】（左方向）**又は，**【R】（右方向）**方向を示す矢印が点滅表示します。

[C仕様除く]

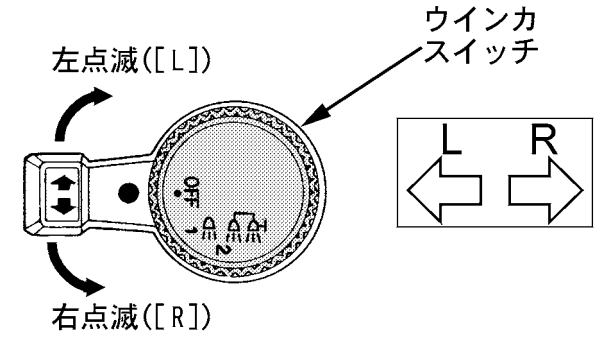


1ARADBEAP119G



1ARADBEAP079C

[C仕様]



1ARADBEAP119J

補　足

＊ 旋回が終わったらウインカスイッチは中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊ 積込み・積降しは平坦地を選び，トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを R（後進）又は，1 速に入れたあと，さらにタイヤに車止めを行ない，トラックが動かないようにしっかりと固定してください。
＊ あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（55cm 以上），長さ（高さの 4 倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	55cm 以上
数　量	2 枚
強　度	1 枚が 2800kg 以上の重量に耐えうる

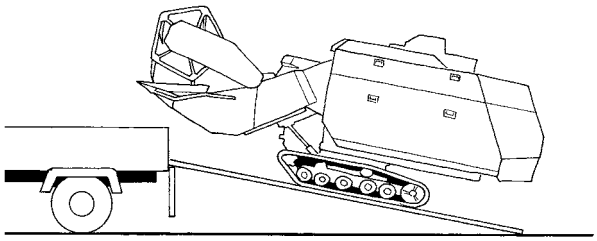
■コンバインの準備

こく粒をすべて排出し，アンローダ **[G 仕様]** を収納後，脱こく・刈取クラッチレバーを **[切]** 位置にし，自動車体水平制御（モンロー）を機体いっぱいまで下げ，補助デッキ **[H 仕様]** や左分草かんをそれぞれ収納したあと，デバイダカバーを取付け，刈取部又は，フィーダを視界を防げない程度まで上げます。(66 ページ参照)

■コンバインの積込み・積降しのしかた

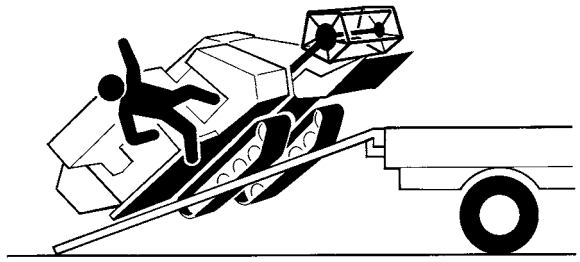
注　意

＊ 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。ただし，刈取部を取外している場合は後進で積込み，前進で積降しを行なってください。
＊ 平坦地を選び，できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また，助手以外の人をコンバインの周辺に近づけないでください。特にコンバインの前後に人を近づけないでください。



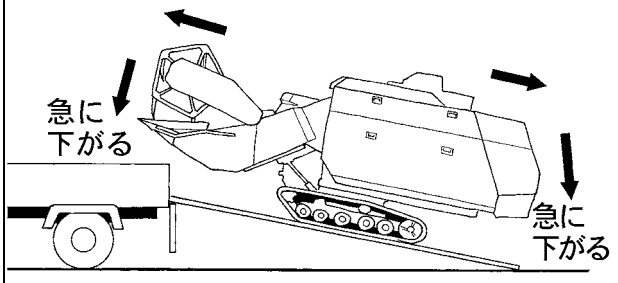
1ASADAGAP109A

＊ あゆみ板の途中で SF ワンレバー・副変速レバー・ブレーキペダル・水平操作レバー・車体旋回モード切換えスイッチを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。



1ASADAGAP110A

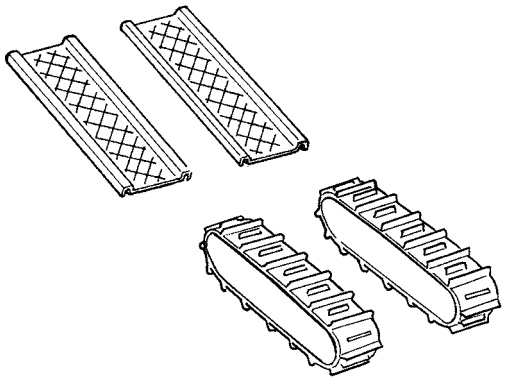
＊ あゆみ板の途中で停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず，必ず主変速レバーを操作して停止してください。
＊ 機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



1ASADAGAP111A

◆ 操作のしかた

1. 各作業クラッチレバーを**【切】**位置にします。
2. 水平操作レバーで機体を**最下降位置**まで下げます。
3. SF ワンレバーで刈取部を**最上昇位置**まで上げます。
4. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を 2000rpm 以上にし，副変速レバーを**【低速】**位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。
5. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。


1ARADAFAP348A

6. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

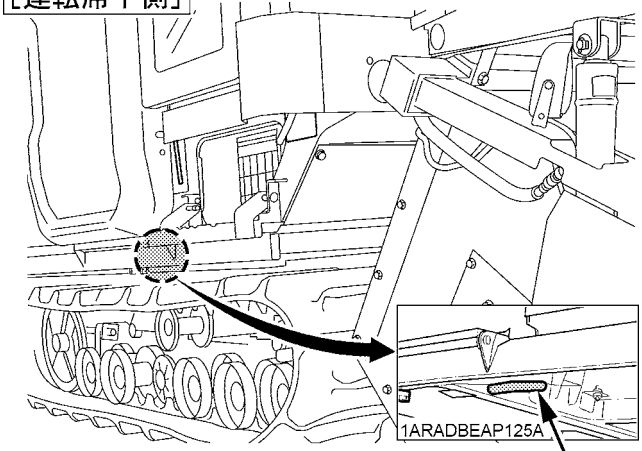
■トラック上での処置

注 意

＊ 刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

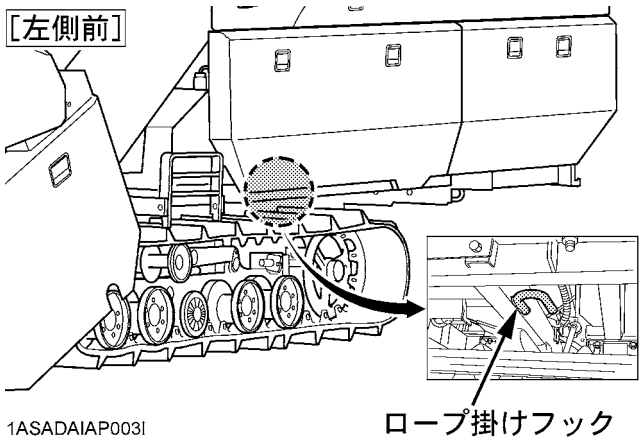
1. コンバインをトラックの荷台に乗せたあと，刈取部を床まで降ろし，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. コンバインにロープを掛けます。ロープを掛けるときは，必ず指定のロープ掛け用のフック 4 箇所に掛けてください。

［運転席下側］

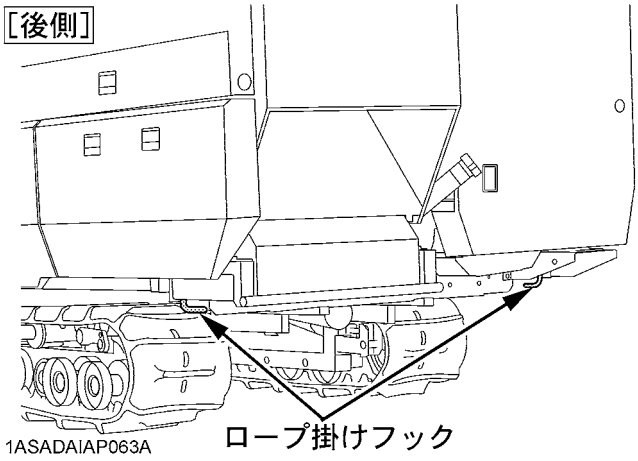


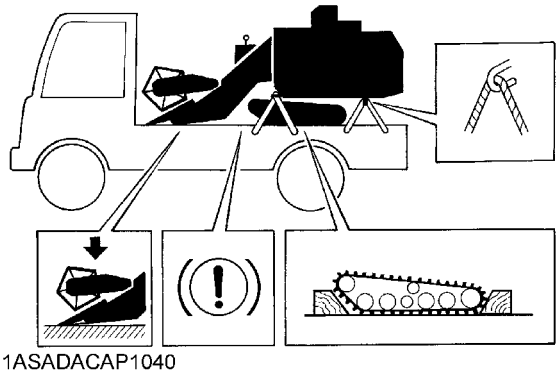
1ASADAIAP102B

［左側前］



1ASADAIAP003I





重　要

＊ フック以外の所には，ロープを掛けないでください。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の収穫量を上げるにはコンバインに合わせた，ほ場のうね作り・排水管理や作付け・栽培管理及び，適期収穫についてそれぞれ適した作業を行なってください。

補　足

＊ 作物の品種・収穫時期・栽培管理やほ場の管理のしかたなどは，最寄りの指導機関（JA 農協や普及センターなど）や経験者に相談してください。

■作物の条件

◆作物の長さ

刈取れる長さは，標準の刈高さで
……全長約 55 ～ 130cm

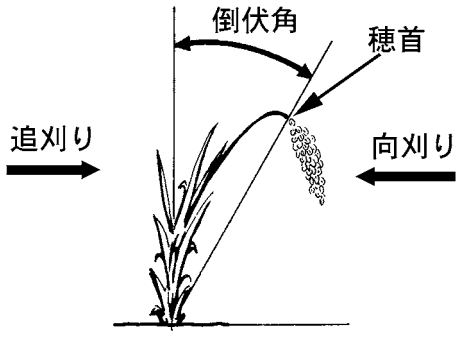
1ARADAFAP350A

◆作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により，刈取り方向に注意してください。

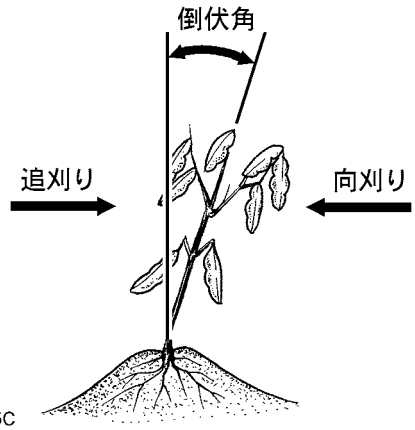
刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追刈り	70 度以下
向刈り	80 度以下

麦



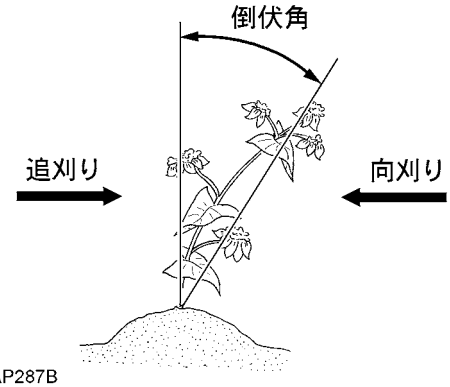
1ARADAFAP351B

大豆



1ASADACAP025C

そば



1ASADACAP287B

◆作物のぬれ

作物は乾いて，手でしごいてぬれていない状態が適期です。

重　要

＊ 湿田の倒伏作物やぬれ作物の刈取作業を行なうとき，受けあみが目詰まりを起こすことがあります。この場合，排じんロス（もみの飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し，受けあみの目詰まりを取除いてください。掃除を行なうときは，必要に応じて受あみを取外してください。（130 ページ参照）

◆作物について

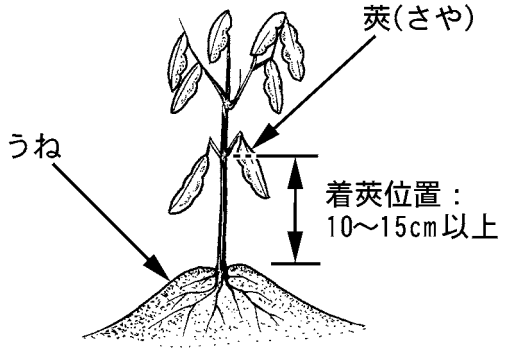
[大豆]

● 栽培管理

コンバインでの刈取りに適した品種を選んで栽培を行なってください。また，刈取作業前には雑草や腐った作物などは，取除いてください。

補　足

＊ 着莢（ちゃっきょう）位置が，うね上面から 10 ～ 15cm 以上で，倒伏や裂莢（れっきょう）のしにくい品種を選んでください。着莢（ちゃっきょう）位置が低いと刈取れない場合があります。



1ASADACAP025B

● 収穫適期

成熟期から約１～２週間後を目安とし，莢（さや）・かん（茎）を手でさわってもべとつかず，子実を歯でかむと歯形が少し残る状態が収穫の適期です。（このとき，水分は子実で 18％以下・莢で 20％前後・かん（茎）で 50％以下）

1ASADACAP288A

補　足

＊ 成熟期になると，葉が完全に落ちて莢の 80 ～ 90％が変色し，子実も品種特有の色となり，振るとカラカラと音がします。

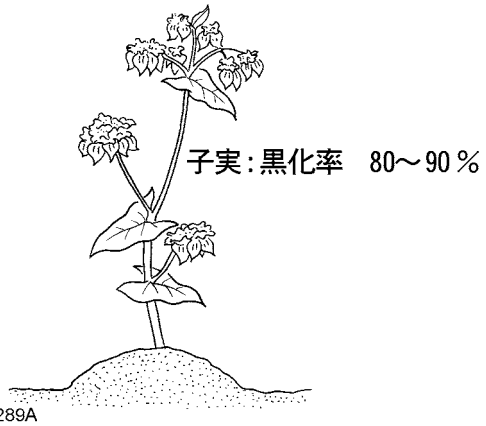
＊ 刈取作業は，子実や莢が乾いて収穫に適した水分になる時間（午前 10 時～夕方）で行なってください。

＊ 収穫時期が，早すぎる（青立大豆）と汚粒が増えたり，莢が割れずに子実が収穫されないまま 3 番出口から放出される 3 番ロスが増えます。また，遅すぎると刈取部での脱粒ロスがふえます。

[そば]

● 収穫適期

慣行よりも２～３週間後を目安とし，子実の 80 ～ 90％が黒化している状態が収穫の適期です。



1ASADACAP289A

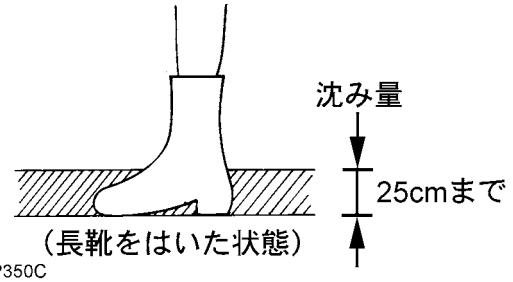
補　足

＊ 収穫時期が，早すぎると収穫量が減ったり，葉やかん（茎）に水分が多いと選別部の目詰まりの原因となり，収穫ロスが増えます。また，遅すぎると風雨で子実が落ちたり，刈取部での脱粒ロスが増えます。

■ほ場の条件

◆ほ場のぬかるみ

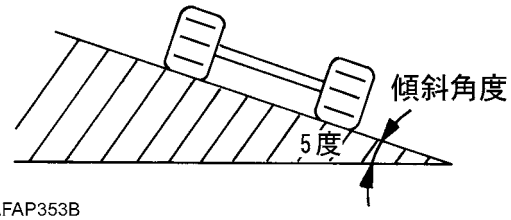
足の沈み量を測って目安にしてください。



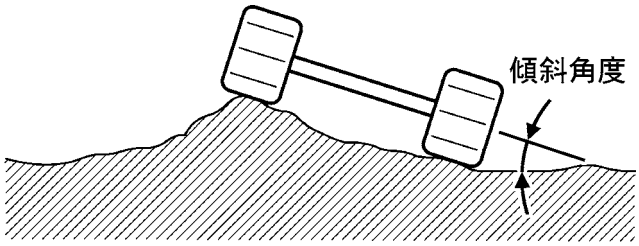
1ARADAFAP350C

◆ほ場の傾き

傾斜角度５度以上では，作業できません。



1ARADAFAP353B



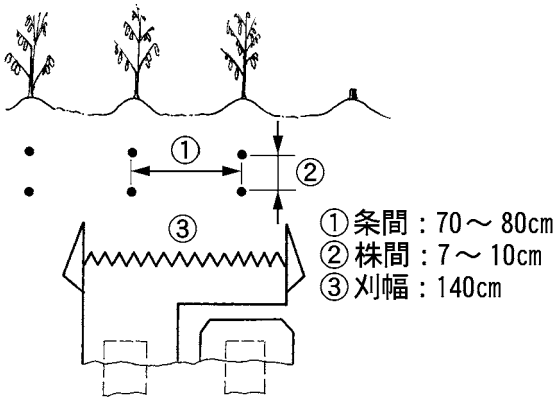
1ASADAFGAP297A

◆ほ場について［大豆］

水はけを良くし，コンバインの刈幅に合わせたうね作りを行なってください。また，このときクローラとうね幅・排水溝の幅は合わせてください。

補　足

＊ うねの条間は70～80cmにし（２条刈り基本），株間は７～10cmにしてください。



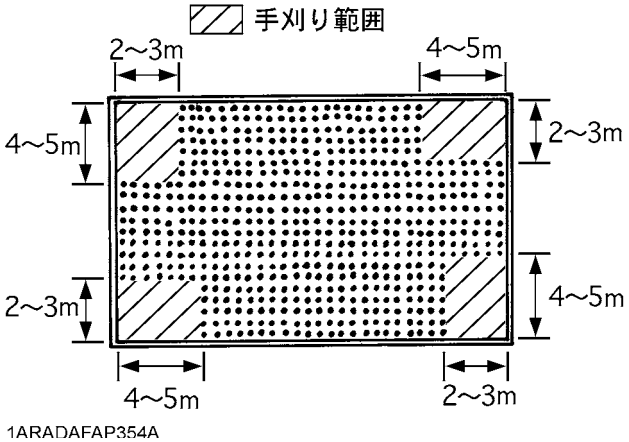
1ASADAGAP112A

＊ ほ場内に雑草が多いと汚粒が発生したり，刈取作業が行なえない場合がありますので，除草を行なった状態で刈取作業を行なってください。

ほ場の準備

■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四すみで旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈（枕刈り）をします。



コンバインの準備

注　意

＊ 平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

■準備のしかた

1.　刈取作物に応じた各部の準備

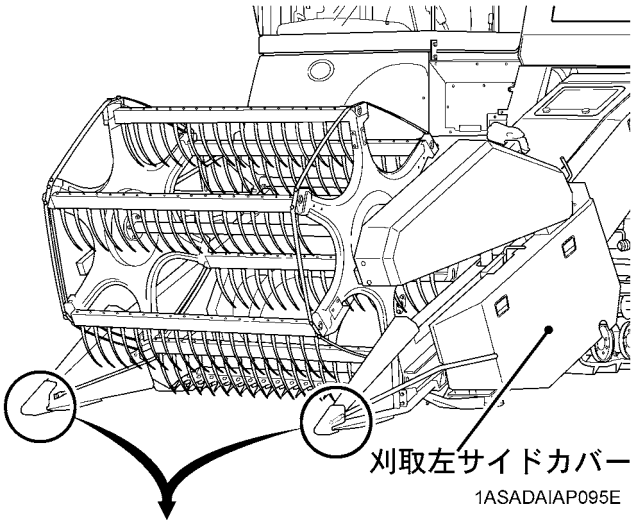
作業前に刈取作物に応じた各部の交換や調節を行なってください。(83，107 ページ参照)

2.　各部への注油

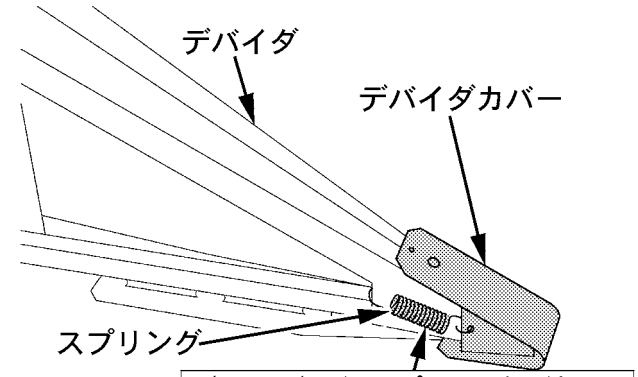
作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(147 ページ参照)

3. デバイダカバーの取外し

デバイダからスプリングを外して左, 右のデバイダカバーを取外します。



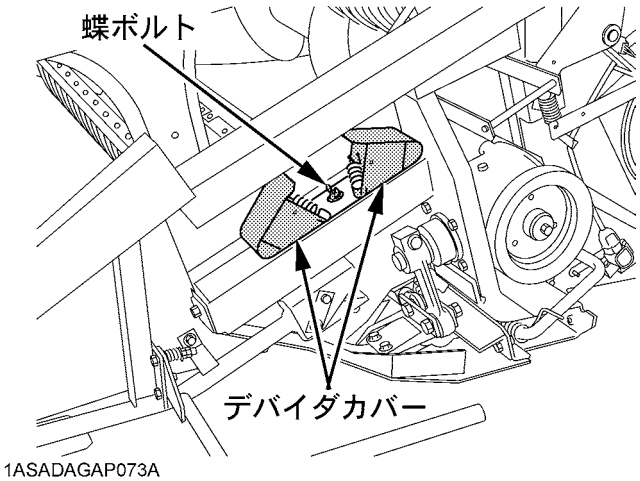
1ASADAIAP095E



1ASADAGAP072B

補　足

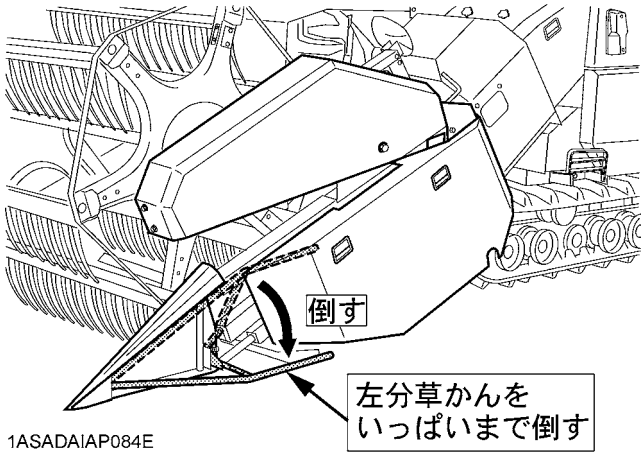
＊ デバイダカバーは刈取左サイドカバーを取外したあと，蝶ボルトを外して下図の位置に取付けて収納してください。そのあと，刈取左サイドカバーを取付けてください。



1ASADAGAP073A

4. 左分草かんのセット

左分草かんを外側いっぱいまで倒します。

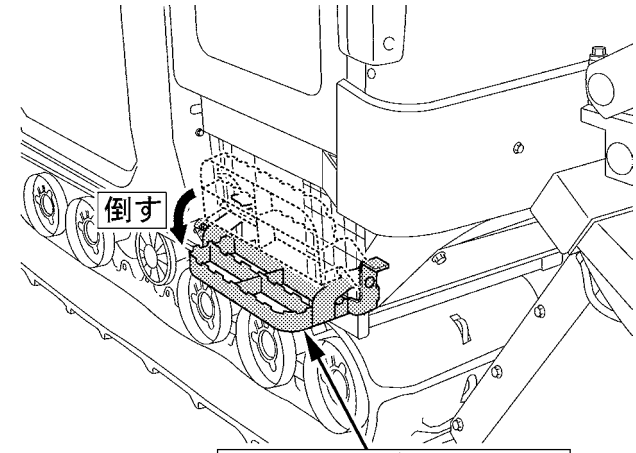


1ASADAIAP084E

[C 仕様]

5. 補助ステップ（右）のセット

補助ステップ（右）を下側へ倒します。

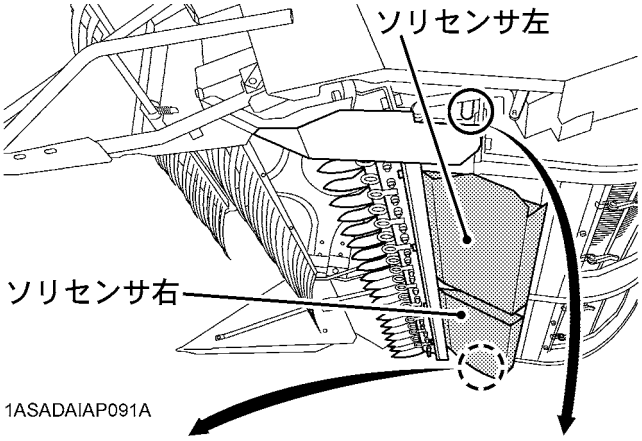


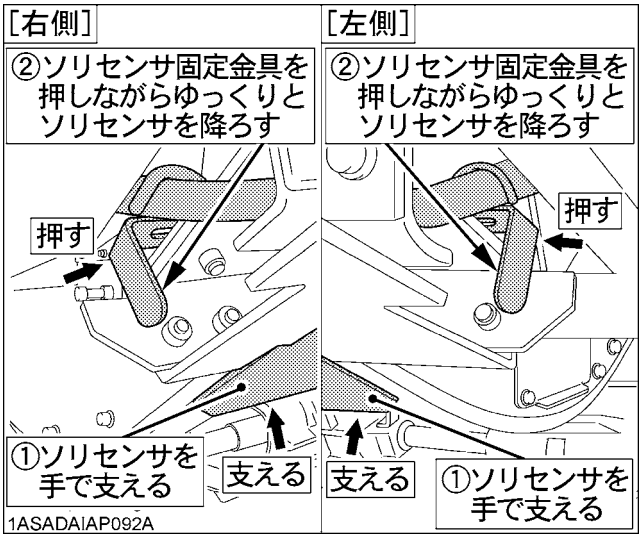
1ASADAIAP109B

[C 仕様]

6. ソリセンサの切換え

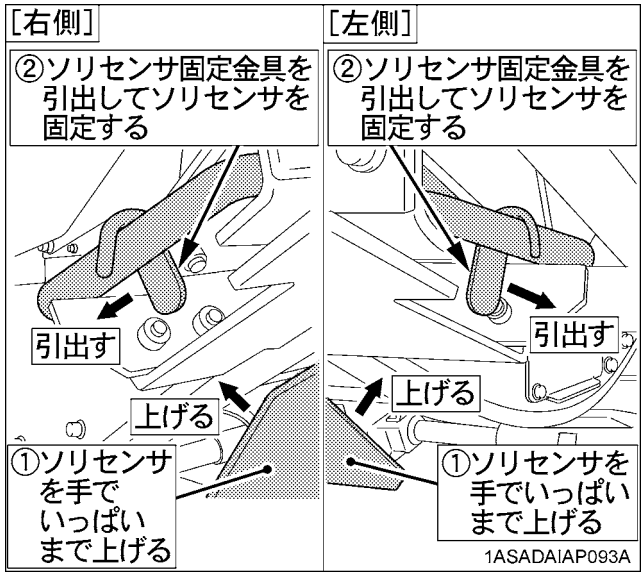
ソリセンサを使用するときは，ソリセンサの状態を確認し，収納しているときはソリセンサを手で支え，ソリセンサ固定金具を押してゆっくりとソリセンサを降ろして作業状態にします。





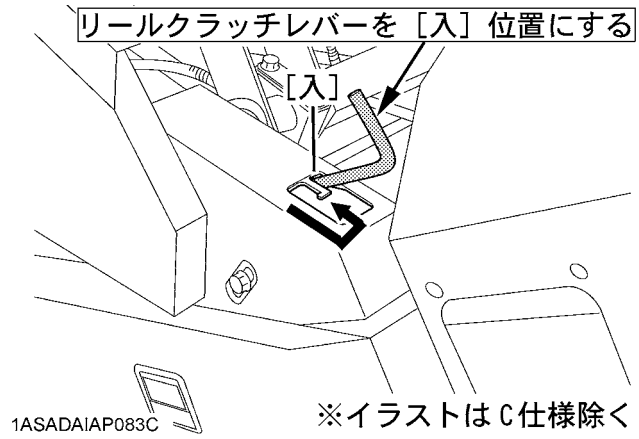
重　要

＊ ソリセンサが作業状態のとき，ソリセンサを使用しない場合やソリセンサが接触して破損するおそれのあるところを移動する場合は，手でソリセンサをいっぱいまで上げたあと，ソリセンサ固定金具を引出してソリセンサを固定して収納状態にします。



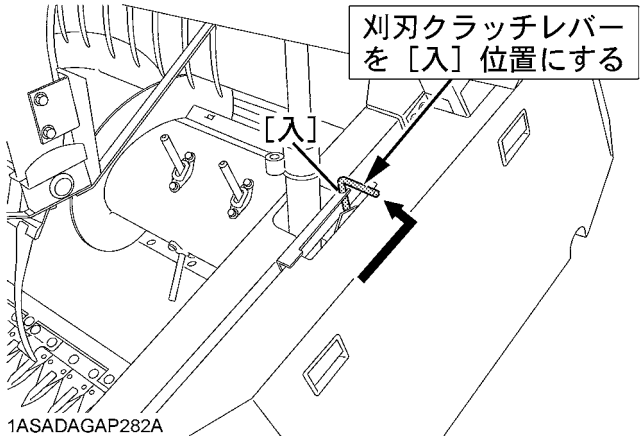
7. リールクラッチレバーのセット

リールクラッチレバーを**【入】**位置にします。



8. 刈刃クラッチレバーのセット

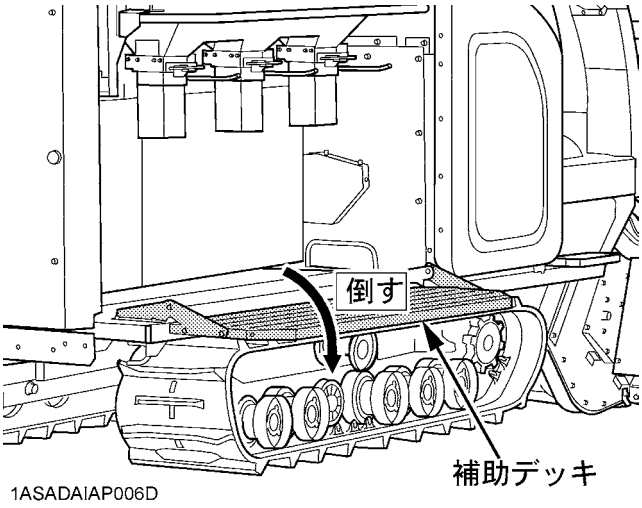
刈刃クラッチレバーを**【入】**位置にします。



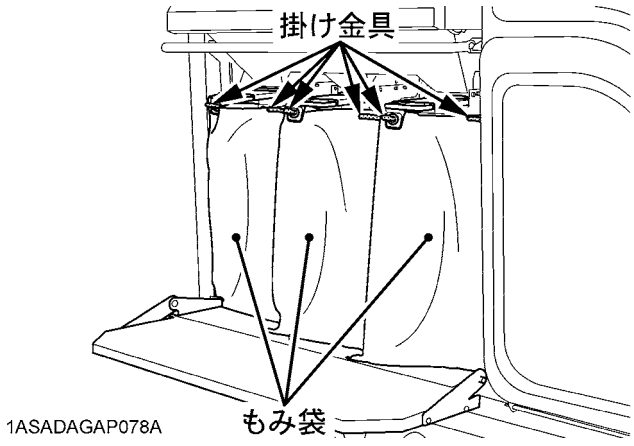
[H 仕様]

9. 補助デッキともみ袋の準備

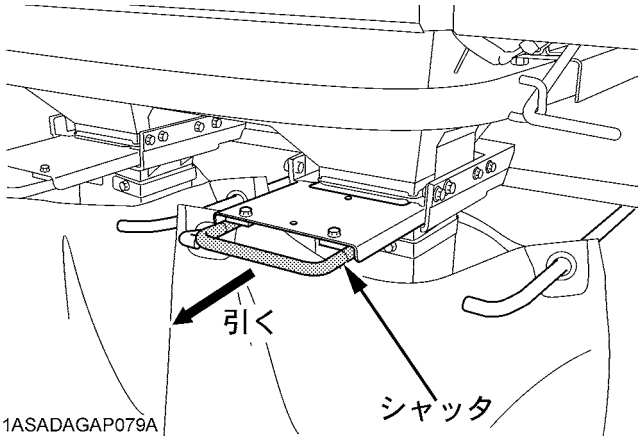
1. 収納時の固定金具を外して補助デッキを倒します。



2. もみ袋のファスナを開き，図のように掛け金具に，もみ袋を取付けます。



3. 吐出口のシャッタを引いて開きます。



[H 仕様]

■作物に合わせた各部の準備のしかた

補　足

＊ 麦・そばの刈取りを行なうときは，オプション（別売品）の交換キットが必要です。
（236 ページ参照）

警　告

＊ 各部の交換・脱着・切換え・調整を行なうときは，平坦で安全な場所で，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを止めてメインスイッチのキーを抜いてから作業を行なってください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，外したままでは衣服などを巻込むおそれがあり危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業を行なってください。
＊ 傾斜地で開閉や脱着は行なわないでください。

注　意

＊ 刈取部を上げた状態で作業を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

収穫作業のしかた

下表を参照して刈取作物に合わせた各部の交換・切換え・脱着を行なってください。

補　足

＊ 出荷時は大豆の刈取専用となっていますので，麦又は，そばの刈取りを行なうときは，オプション（別売品）の交換キットが必要です。(236 ページ参照)

表中の※印はオプションの交換キット部品です。

図中No.	準備箇所 箇所	準備箇所 内容	作物 大豆（出荷時）	作物 そば	作物 麦	参照ページ
◆刈取部						
1	デバイダ	脱着	－	※そば用取付け	－	259
2	オーガドラムのラセンと底板のすき間	調整	12 ～ 15mm	12 ～ 15mm（注１）		205
3	刈取部底板	交換	大豆用取付け	※麦・そば用取付け		253
4	フィーダ底板	交換	大豆用取付け	※麦・そば用取付け		253
◆脱こく部						
5	１番バケットコンベア底板	交換	大豆用取付け	※麦・そば用取付け		254
6	２番スラットコンベア底板	交換	大豆用取付け	※麦・そば用取付け		254
7	１番・２番横スクリュ底板	交換	大豆用取付け	※麦・そば用取付け		254
8	グレンシーブ	交換	目合い：φ13mm 目	目合い：※ φ9mm 目又は，φ13mm 目		255
9	受あみ（コンケーブ）	交換	φ25mm 目（丸穴受けあみ）	※ 20mm 目（格子受けあみ）	※口 15mm 目（クリンプ受けあみ）	258
10	こぎ胴プーリ・こぎ胴駆動プーリ	交換	こぎ胴プーリ径：φ220mm こぎ胴駆動プーリ径：φ138mm		※こぎ胴プーリ径：φ138mm ※こぎ胴駆動プーリ径：φ220mm	261
11	こぎ室送じん弁調節レバー	切換え	標準：7 ～ 10 **(注 2)**	標準：8 ～ 10 **(注 2)**	標準：4 ～ 7 **(注 2)**	86
12	トウミ調節レバー	切換え	2 ～ 4 **(注 3)**			87
13	チャフ調節レバー前，後	切換え	選別板前：4 ～ 5 選別板後：2 ～ 4 **(注 4)**	選別板前：3 ～ 5 選別板後：2 ～ 3 **(注 4)**	選別板前：3 ～ 5 選別板後：2 ～ 3 **(注 4)**	86
14	こぎ胴作物警報スイッチ	切換え	大豆位置		麦位置	88
15	２番還元板	脱着	—（注 5）	こぎ胴還元板取付け（注 6）		230
◆グレンタンク部［G 仕様］						
16	排出バケット底板	脱着	取外し	※麦・そば用取付け		256
17	グレンタンク底板	交換	取外し	※麦・そば用取付け		256

注 1：そばや麦の刈取りでオーガドラムに詰まりが多く発生するときは，6 ～ 8mm に調整してください。

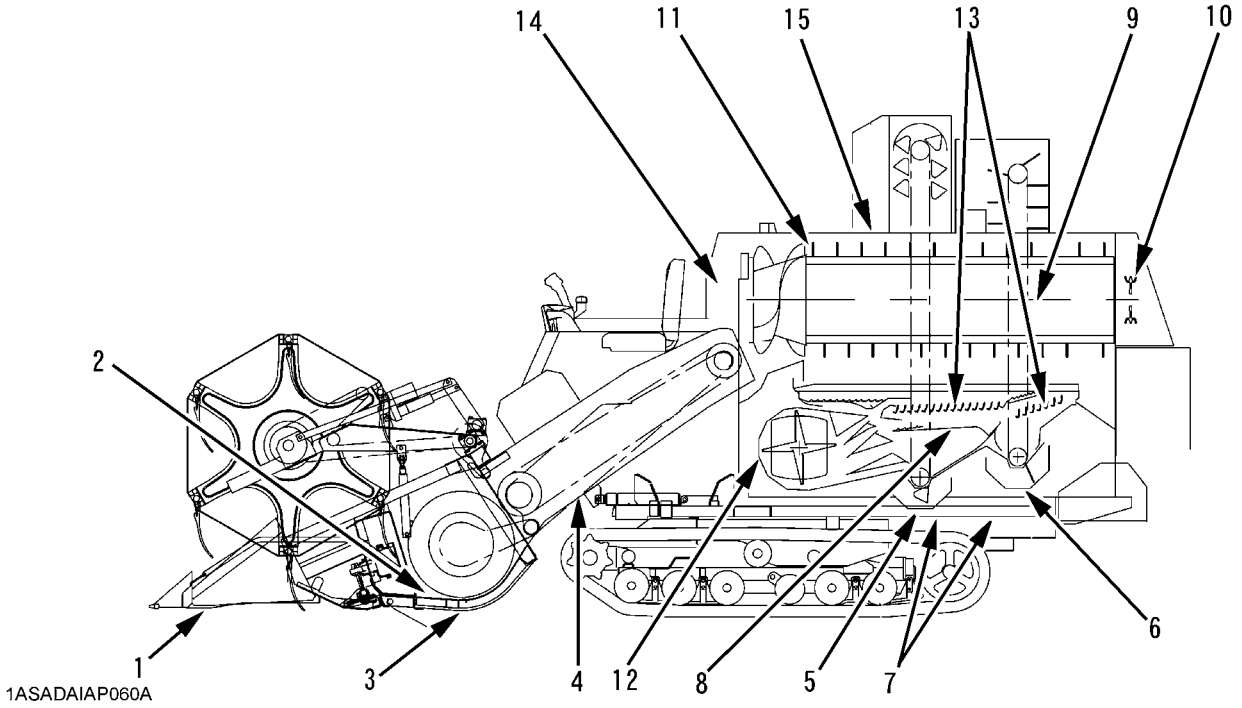
注 2 ～ 4：作物のロスや選別状態に合わせて再調整を行なってください。

注 5：損傷粒が多い場合は，付属部品のシーブケース還元板を取付けてください。

注 6：2 番還元が多くて詰まりが発生する場合は，刈高さを上げて車速を下げてください。

● **準備箇所（交換・切換え・脱着）**

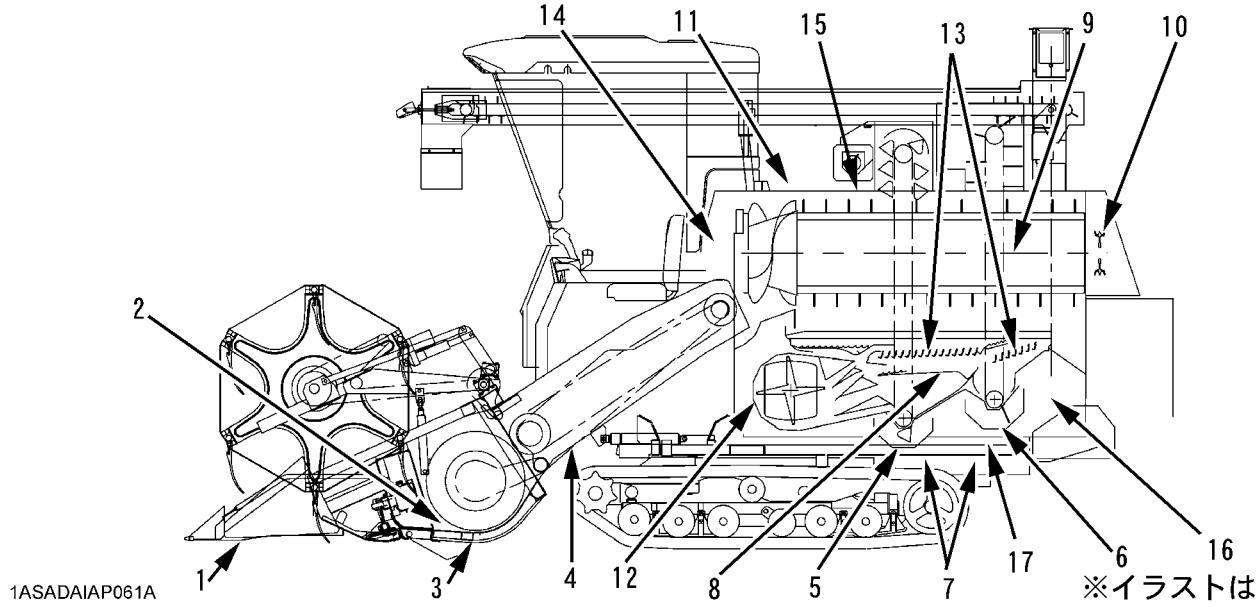
[H 仕様]



1ASADAIAP060A

[H 仕様]

[G 仕様]



1ASADAIAP061A

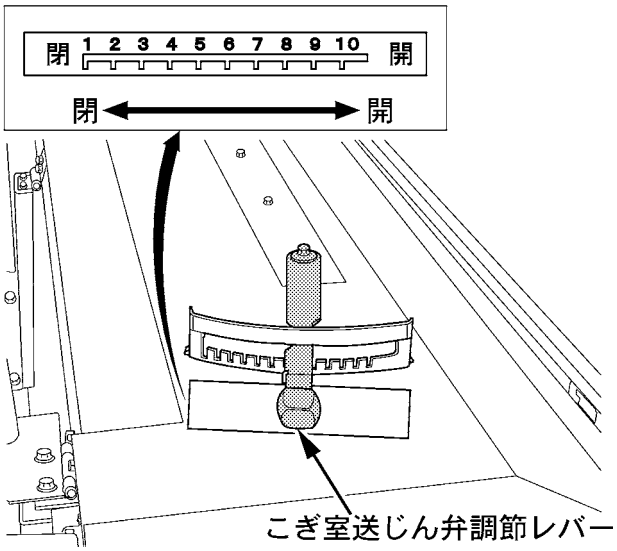
※イラストは C 仕様

[G 仕様]

■こぎ室送じん弁調節レバーの切換え

作物の選別状態や飛散状態及び脱こく部の負荷状態に合わせ，下表を参照してこぎ室送じん弁調節レバーを切換えてください。

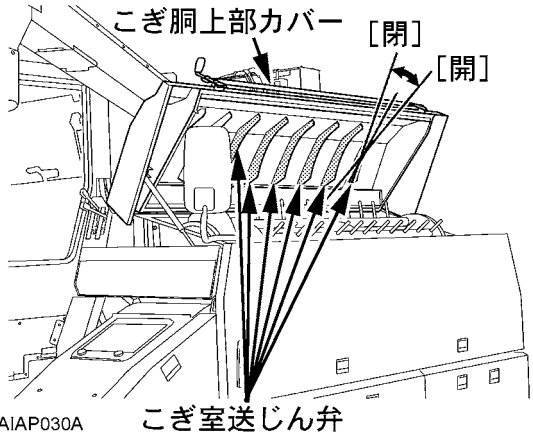
作　物	標準位置
大豆	7 ～ 10
そば	8 ～ 10
麦	4 ～ 7



1ASADAGAP080A

補　足

＊ こぎ室送じん弁調節レバーを操作すると，こぎ胴上部カバー内にある送じん弁の角度が変わります。送じん弁調節レバーを**【開】**方向に操作すると送じん弁が作物の流れに対して後方に動き，送じん弁調節レバーを**【閉】**方向に操作すると送じん弁が作物の流れに対して前方に動きます。

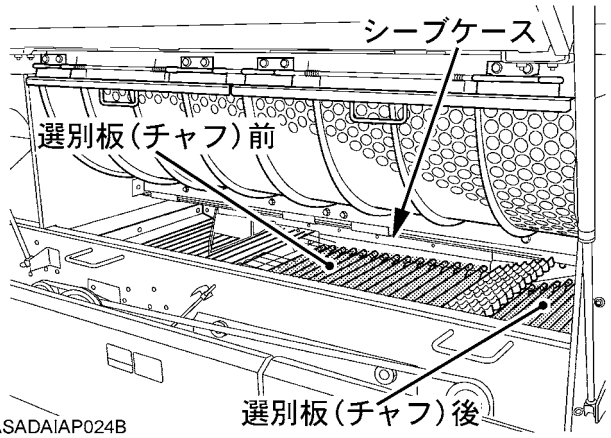


1ASADAIAP030A

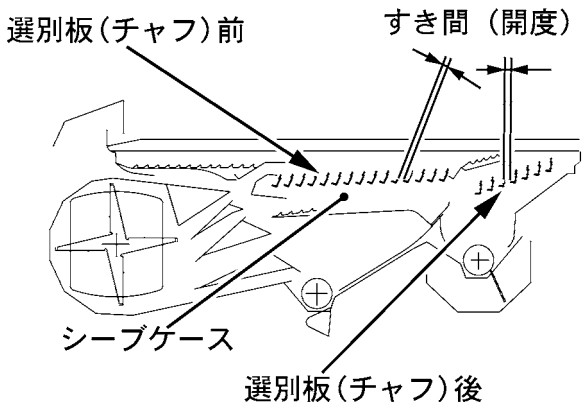
＊ こぎ室送じん弁の開度調節については　110 ページを参照してください。

■チャフ開度（選別板のすき間）の切換え

作物や作物の飛散状態に合わせ，下表を参照して，チャフの開度（選別板のすき間）を切換えてください。チャフ開度の調節レバーは前，後 2 箇所ありますので前，後とも作物に合わせて同時に調節を行なってください。

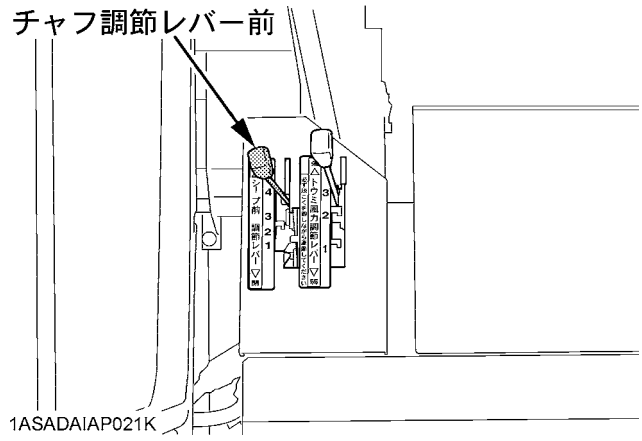


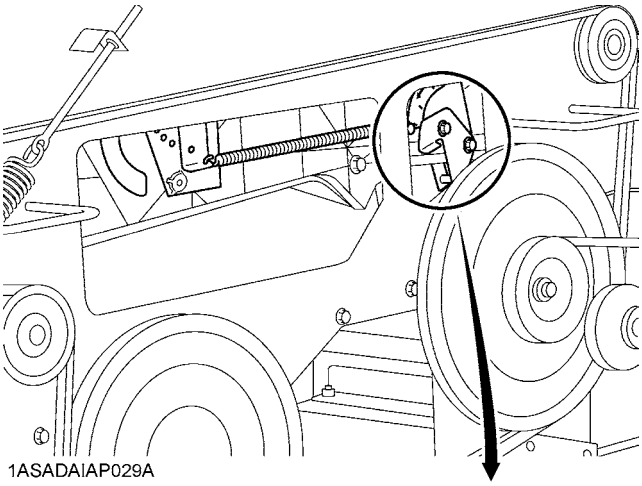
1ASADAIAP024B

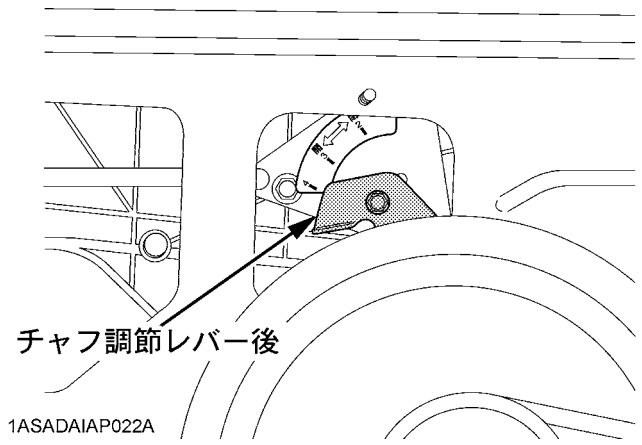


1ASADAGAP115A

作　物	標準位置	
	チャフ調節レバー前	チャフ調節レバー後
大豆	4 ～ 5	2 ～ 4
そば	3 ～ 5	2 ～ 3
麦	3 ～ 5	2 ～ 3







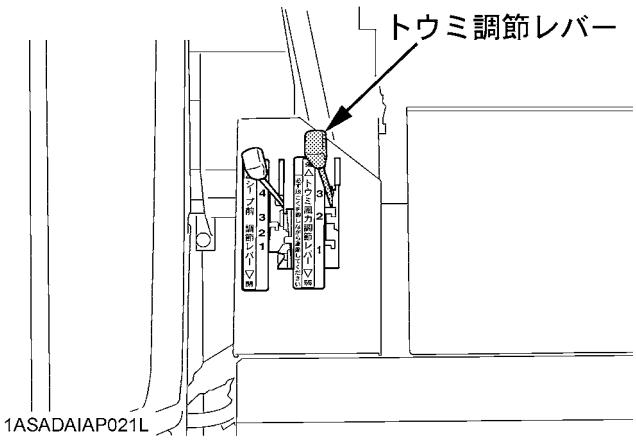
補　足

＊ チャフ開度調節については 112 ページを参照してください。
＊ チャフの調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。

■トウミ（風力）の切換え

作物や作物の飛散状態に合わせ，下表を参照して，切換えてください。

作物	標準位置
大豆・そば・麦	２～４



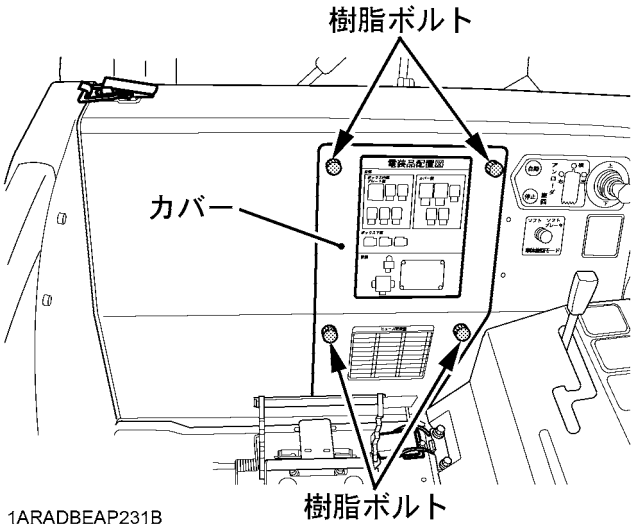
補　足

＊ トウミ（風力）の調節については 111 ページを参照してください。
＊ トウミの調節は，脱こく機を必ず回転させて行なってください。

■こぎ胴作物警報選択スイッチの切換え

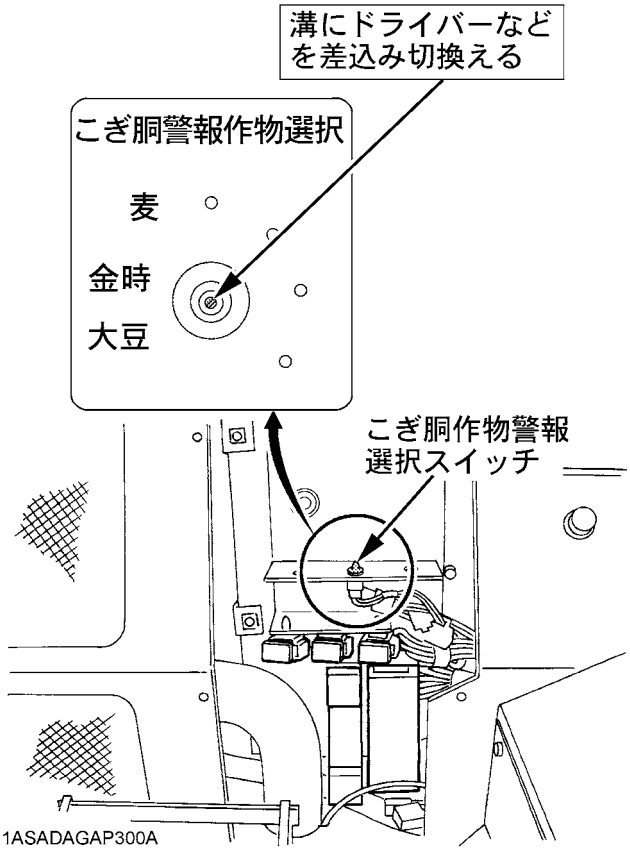
こぎ胴作物警報選択スイッチは，こぎ室内に排かんが詰まると発生する**【こぎ胴】**警報のこぎ胴回転数の設定値を切換えるスイッチです。**【こぎ胴】**警報はこぎ胴回転数が一定の回転数より低くなるとエアロナビに**【こぎ胴】**を表示すると共にブザーが鳴りますが，作物により**【こぎ胴】**警報の回転数が異なりますので刈取作物に合わせて切換えてください。

1. 刈取部を地面に接地させエンジンを止めます。
2. 運転席（シート）を前方へ倒します。
3. 樹脂ボルト４本を外して運転席後面のカバーを外します。



1ARADBEAP231B

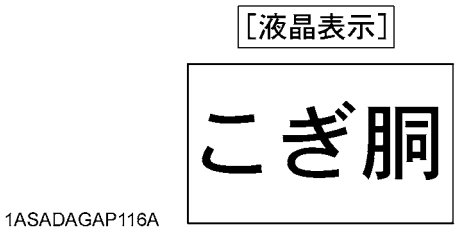
4. 作物警報選択スイッチの溝にマイナスドライバーなどを差込み，作物に合わせた位置に切換えます。



1ASADAGAP300A

補　足

＊ スイッチの設定が刈取作物と異なるとこぎ胴回転数が正常でも警報が鳴ったり，鳴らなかったりします。



1ASADAGAP116A

5. 運転席後面のカバーを取付けます。

刈取作業のしかた

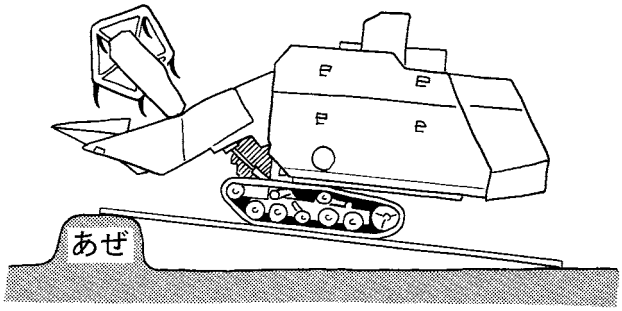
■ほ場の出入りのしかた

注 意

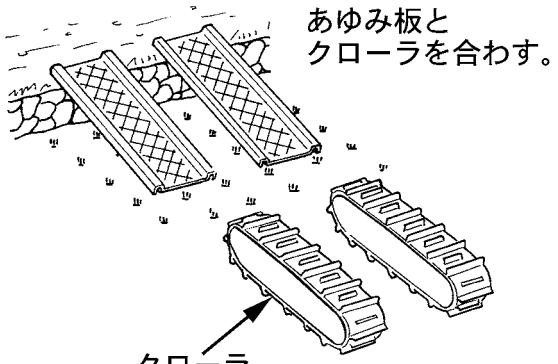
＊ ホッパ又は，グレンタンク内に残っているこく粒は全て排出してください。
＊ 10 cm以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ あゆみ板を使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にしてください。
＊ あゆみ板はじゅうぶんな強度，幅（55cm 以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準(73 ページ参照)に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。また，あゆみ板はあぜに直角に置いてください。
＊ あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ あぜ越えやあゆみ板を走行するときは，自動車体水平制御（モンロー）は，機体をいっぱい下げた状態にしてください。
＊ 右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しないでください。機体が傾き転倒するおそれがあります。
＊ 後進する場合は後方の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊ 機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

◆ 10cm 以上の段差があるとき

1. ほ場の四すみを手刈り（枕刈り）をします。（79 ページ参照）
2. あゆみ板を準備し，アクセルレバーを操作してエンジン回転を 2000rpm 以上にします。
3. 副変速レバーを**【低速】**位置にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速で前進します。
4. いったん停車したあと，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してからほ場へ進入します。



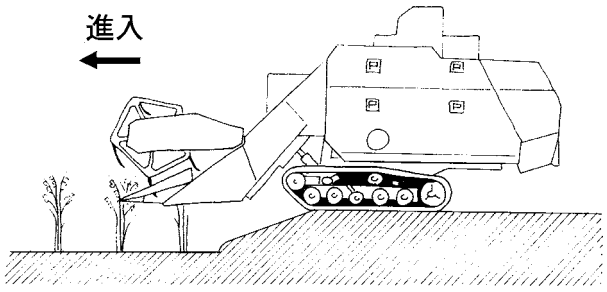
1ASADAAAP1950



1ASADAAAP1960

◆ 段差が低いとき，進入口があるとき

刈取りが行なえる状態（90 ページ参照）にし，副変速レバーを**【低速】**位置にして，ゆっくりと前進でほ場に進入します。

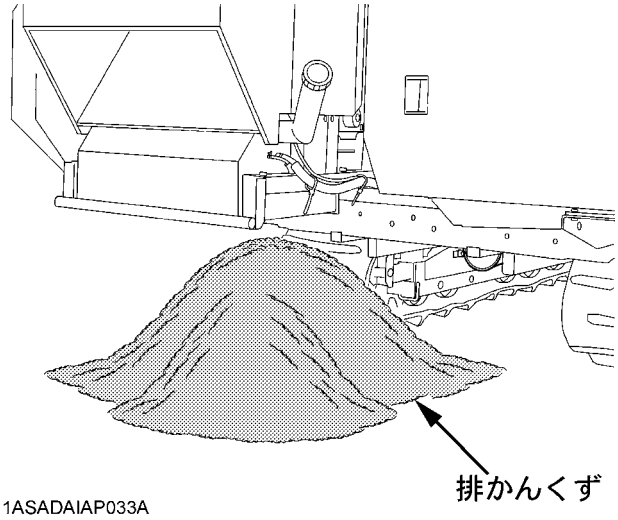


1ASADAAAP1970

■刈取作業の手順

注　意

＊ コンバインを停止するときは，排かんくずの上に止めないでください。マフラ排気口に排かんくずが触れると，火災のおそれがあります。



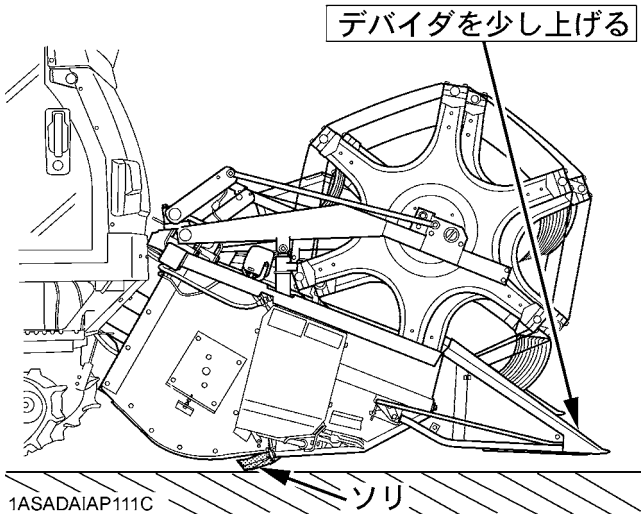
1ASADAIAP033A

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊ 夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。
＊ 約 10 度以上傾くと転倒予防警報（エアロナビ表示，警報音）がはたらきます。警報が鳴ったときは走行を停止し，いったん平たんな場所に移動したあと，機体が傾かない状態で作業を行なってください。
＊ 共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なってください。

重　要

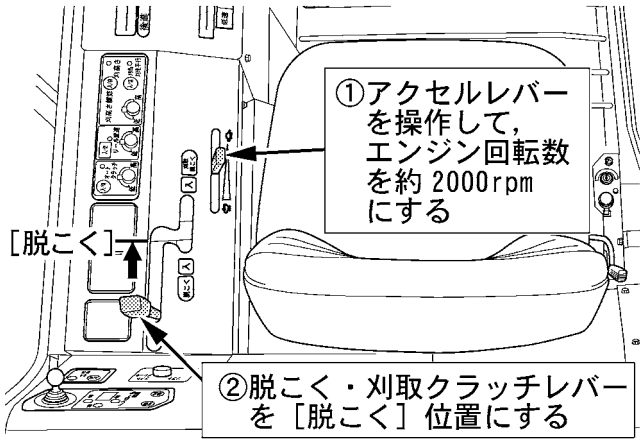
＊ 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンのオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊ 湿田で作業をする場合，特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。
＊ 副変速レバーを**［高速］**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

1. SF ワンレバーを操作し，通常はソリ部が軽く地面に接する位置から少し上げます。



1ASADAIAP111C

2. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行ないます。

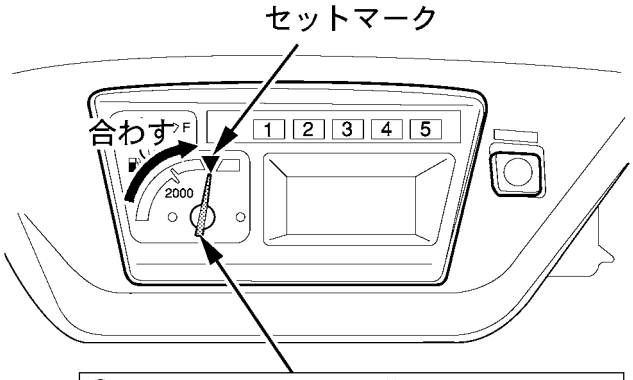


1ASADAIAP007J

※イラストは C 仕様

重　要

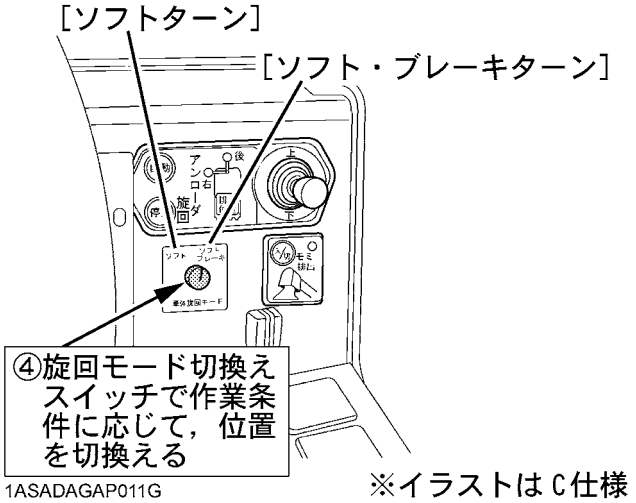
＊ エンジン回転数が 2200rpm 以上のとき，脱こく・刈取クラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。



1ARADBEAP160C

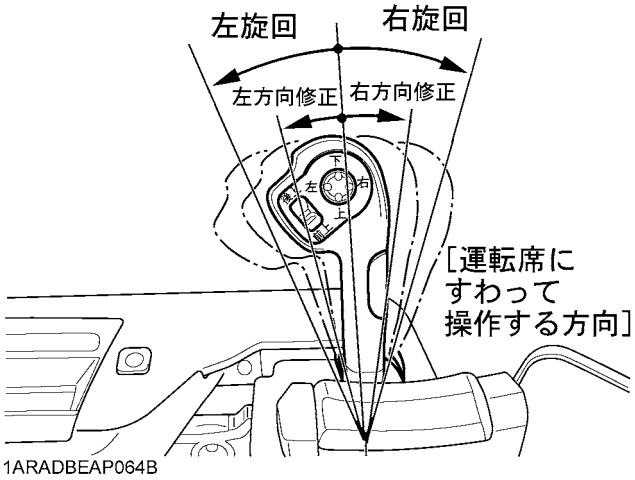
補　足

＊ エンジン回転数は脱こく・刈取クラッチレバーを**【脱こく】**位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。
＊ エンジン回転数が低すぎると，ブザーがなります。



1ASADAGAP011G

※イラストは C 仕様



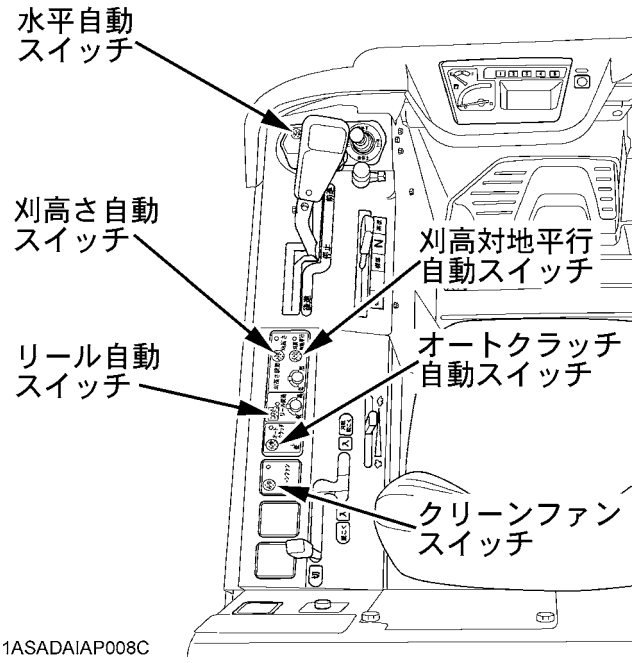
1ARADBEAP064B

補　足

＊ **［ソフト・ブレーキターン］**位置で作業を行なったとき，機体の振動が大きいとき，湿田での作業，ほ場の荒れが大きいときなど，**［ソフトターン］**位置に切換えてください。

［C 仕様除く］

⑤作物及び作物の状態やほ場状態に合わせて各自動スイッチを［入］位置にする

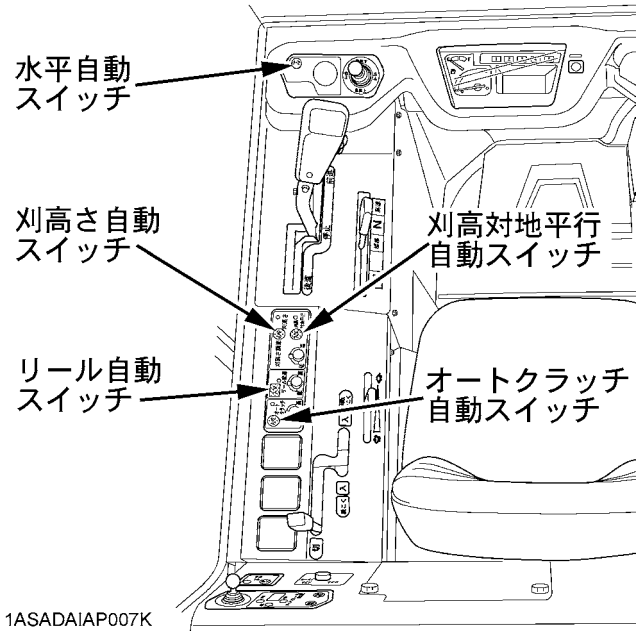


1ASADAIAP008C

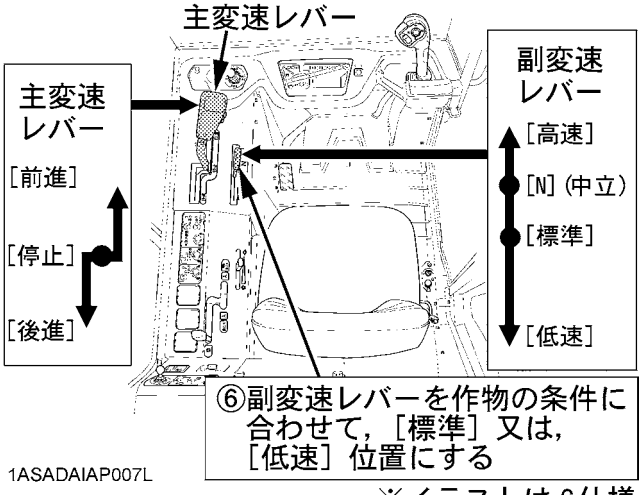
［C 仕様除く］

[C 仕様]

⑤作物及び作物の状態やほ場状態に合わせて各自動スイッチを［入］位置にする



[C 仕様]



※イラストは C 仕様

重　要

＊ 副変速レバー**【高速】**位置での刈取作業はトラブルの原因になりますので，使用しないでください。

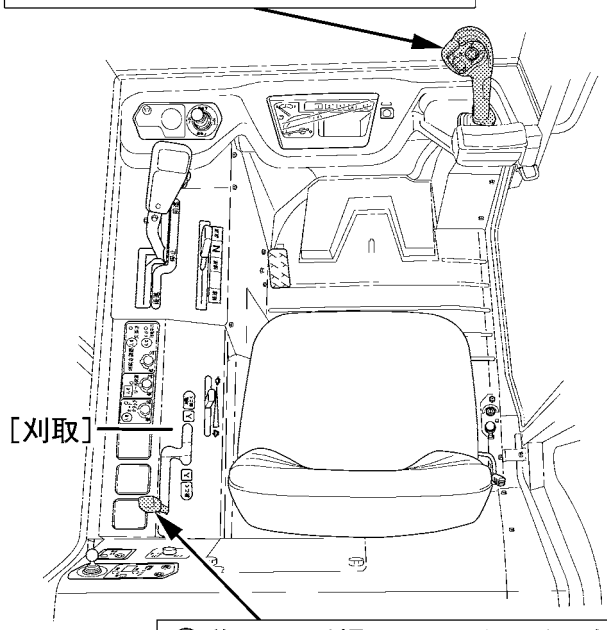
＊ 副変速レバーの切換えは平坦な場所で主変速レバーを**【停止】**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し**［前進］**側に動かして停止に戻してから切換えてください。

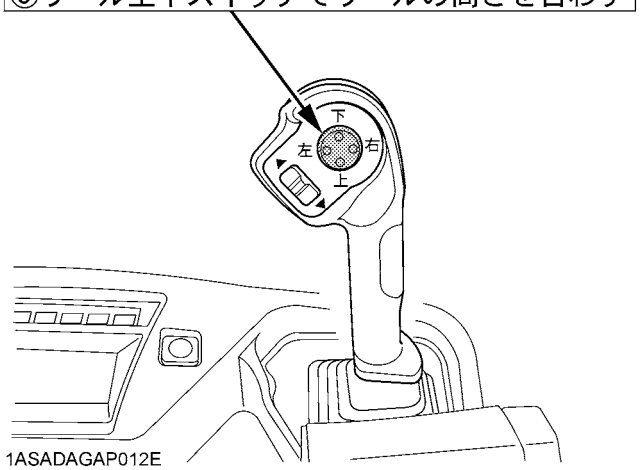
＊ 刈始めや第１周目の回り刈りを行なうときは，**【低速】**位置にして刈取りを行なってください。

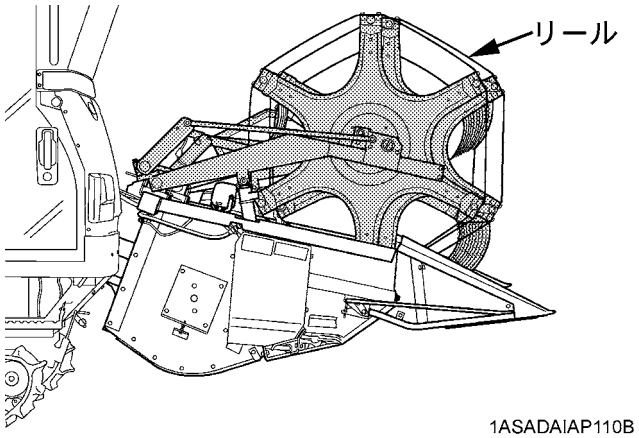
⑧ SF ワンレバーで刈高さを合わす



※イラストは C 仕様

⑨リール上下スイッチでリールの高さを合わす





1ASADAIAP110B

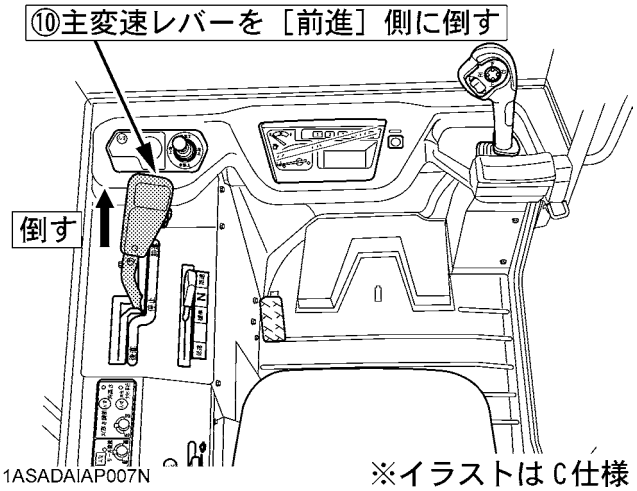
補　足

＊ リール高さの合わせかたについては98ページを参照してください。

＊ 刈取部（ソリ）が地面に接地している状態で，脱こく・刈取クラッチレバーが**［脱こく］**又は，**［刈取］**位置のとき，主変速レバーを**［後進］**位置にすると刈取部が自動的に上昇します。**（バックリフト機能）**

● 刈取部上昇位置上限高さの切換え

バックリフトがはたらき，刈取部が上昇する高さは出荷時で地面から**約 30cm** の位置に設定していますが，制御の設定を変更することにより**約 50cm** の高さに切換えることができます。切換えを行なうときは，購入先に連絡してください。



1ASADAIAP007N　※イラストはC仕様

3. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（107 ページ参照）を行なってください。

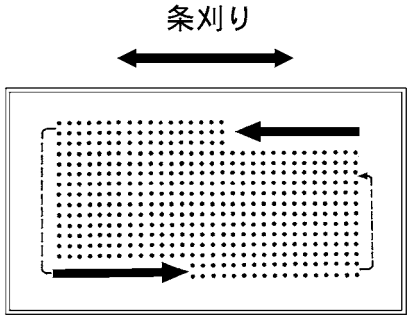
補　足

＊ リールが回り始めるとき，刈取部の右側から**カチカチ**と爪クラッチのかみ合う音が頻繁に聞こえるときは，リール変速ベルトの調整を行なってください。（184 ページ参照）

4. 刈取作業が終わると，脱こく・刈取クラッチレバーを**［脱こく］**位置にし，脱こくが終わりこく粒が全てグレンタンク又はホッパ内に入ったことを確認して，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

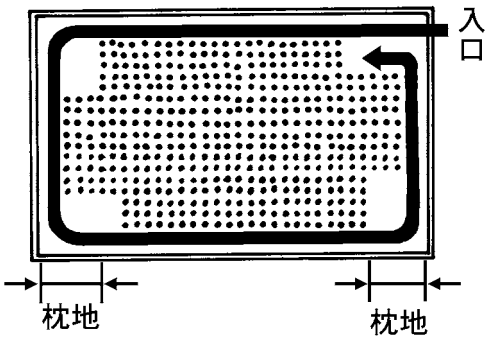
ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈り（大豆は２条刈り）で左回りの２方向刈りを行なってください。



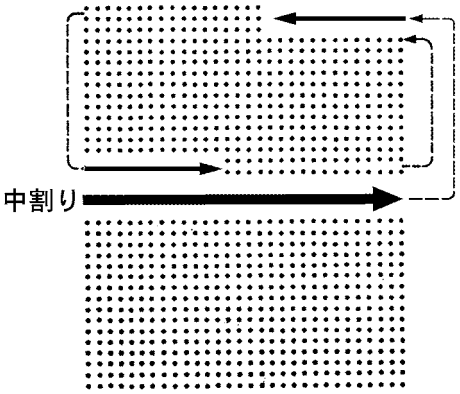
1ARADAFAP357C

補　足

＊ ほ場への進入時や１週目の回り刈り，広いほ場での中割り刈りをして分割するときは，副変速レバーを**［低速］**位置で行なってください。
＊ 枕地などあぜぎわを刈取るときは，自動刈高さ制御又は，対地平行自動制御を**自動切り**にして手動で行なってください。



1ARADAFAP369C



1ARADAFAP362A

[H 仕様]

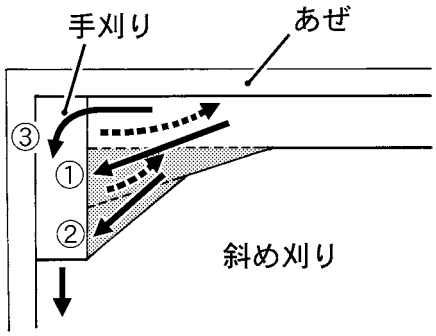
＊ 中割り刈りなど補助デッキが作物に接触するときは，補助デッキを収納してください。

[H 仕様]

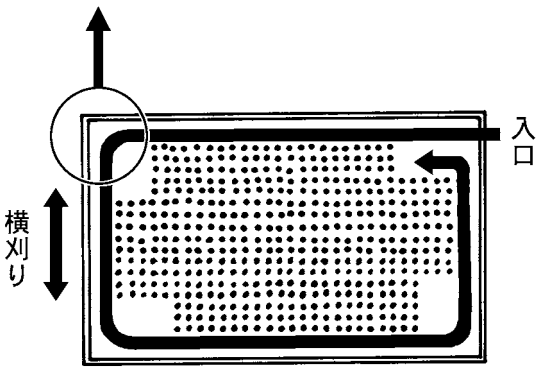
補　足

＊ 作物の選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常がある場合は，225 ページの**コンバインの不調と処置**を参照して処置してください。

1. あぜは旋回できるまで２～４回斜め刈りします。



1ARADAFAP368A

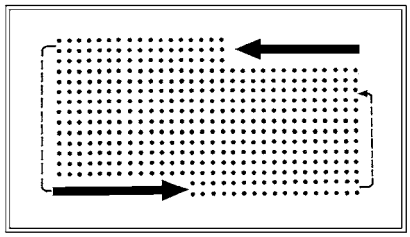


1ARADAFAP369D

補　足

＊ あぜぎわの刈取りを行なうときは，デバイダを突込ませたり，左分草かんをコンクリートなどに当てないでください。
＊ 小さなほ場やほ場の隅の刈取りは，低速で行なってください。

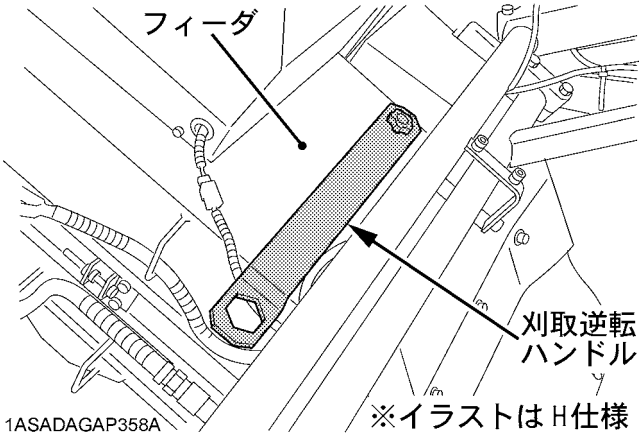
2. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら２方向刈りを行なってください。



1ARADAFAP357B

補　足

＊ 刈取部に作物が詰まったときは，フィーダと刈取部の接続部近くにある刈取逆転ハンドルを使用して詰まった作物を取除いてください。(232 ページ参照)



◆旋回のしかた

刈終わると前進しながら刈取部を**最上昇位置**まで上げます。

重　要

＊ エンジンの回転数は，下げないでください。選別が悪くなったり詰まりの原因になります。

補　足

＊ 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。
＊ エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。
＊ SF ワンレバーを斜め方向に操作すると，機体の旋回と同時に刈取部が上下します。
＊ 旋回直後はリールの回転数が少し速くなりますので，約 10 秒待ってから刈取作業を行なってください。

◆ 悪条件下での作業のしかた

水分の高い作物や茎が青い状態の作物をやむを得ず刈取る場合は，刈取速度を通常より落としてください。また，定期的に網枠や棚及びフィーダ内部を点検し，目詰まりや作物が溜まっているときは掃除してください。

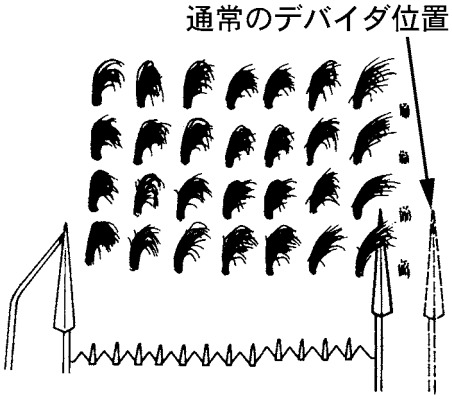
■デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

[麦・そば]

通常は４条刈りで刈取ってください。半倒伏状態や完全倒伏状態の作物の刈取りは下記のように行なってください。

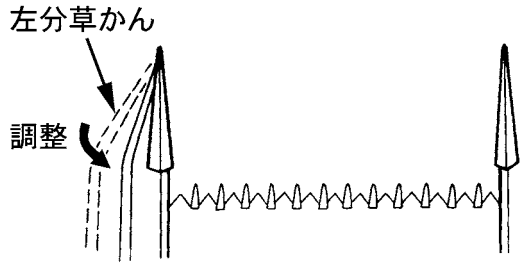
● 半倒伏状態のとき

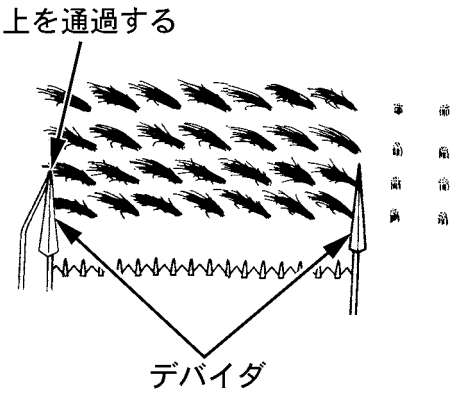
半倒伏の麦を４条刈取ると，刈刃右端付近で穂切れが発生することがあります。この場合は，右側デバイダを未刈り株に近づけると，発生しにくくなることがあります。但し，５条刈取ることがありますので，刈取速度を通常より遅くして作業してください。



● 完全倒伏状態

左分草かんを倒し過ぎないように調整を行なってください。また，作物の上をデバイダが通過するように刈取りを行なってください。

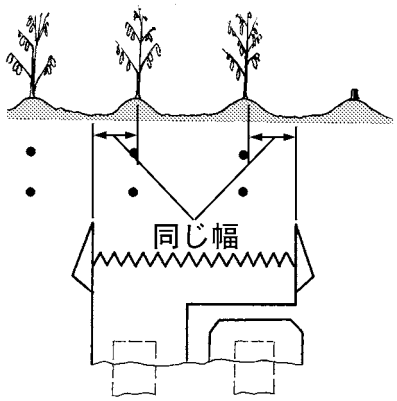




[麦・そば]

[大豆]

条合わせをするときは，コンバインの速度を落とし，下図のように作物とデバイダを同じ幅に合わせてください。

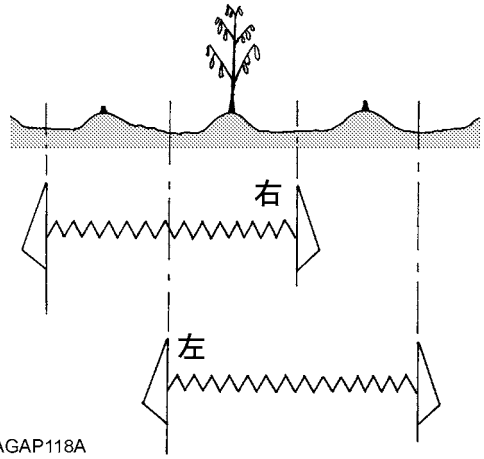


1ASADAGAP117A

補　足

＊ うねのあるほ場では，自動車体水平制御（モンロー）がはたらいているときでも，機体の傾きが小さくなるように刈取作業を行なってください。

＊ 自動刈高さ制御がはたらいているときに１条刈りをおこなうときは，２条刈りを行なうときと同じように作物とデバイダの幅を合わせてください。作物を中央で刈取ると，機体が傾くことがあります。



1ASADAGAP118A

＊ 機体が約 10 度傾くと，液晶ディスプレイに下記内容を表示すると同時に警報が鳴ります。

［液晶表示］

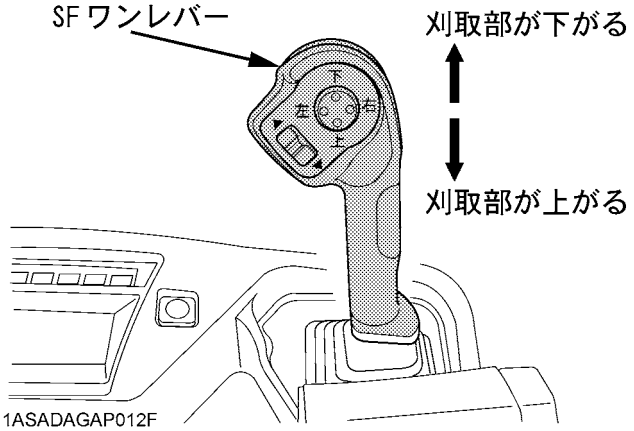
機体が傾いてます

1ASADAGAP301C

[大豆]

■刈高さの合わせかた

SF ワンレバーを操作して作物及び倒伏状態や刈取方向に合わせて，刈高さの調整を行なってください。



1ASADAGAP012F

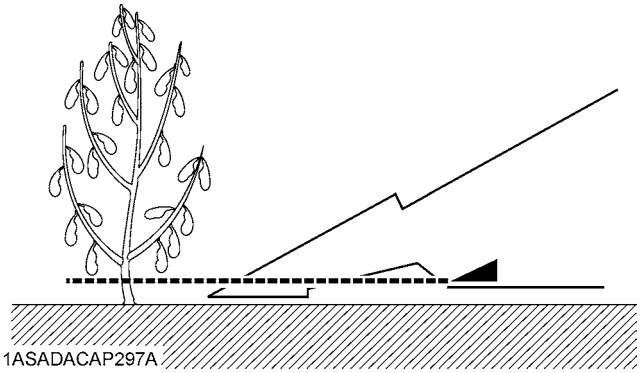
[麦]

刈取部を地面まで降ろし，刈高さ制御がはたらく範囲内で刈取作業を行なってください。

[麦]

[大豆]

低く垂れ下がった莢を刈残さない刈高さに合わせてください。

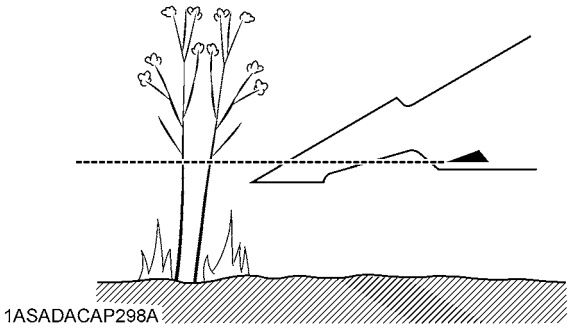


1ASADACAP297A

[大豆]

[そば]

かんの下の方は結実が遅れているため，できる限り高刈りしてください。


1ASADACAP298A

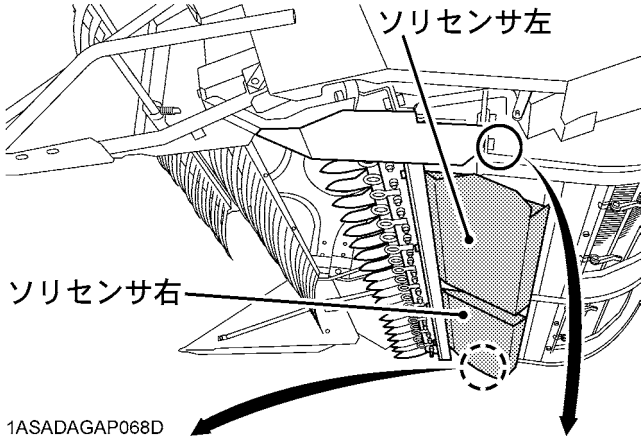
[そば]

補　足

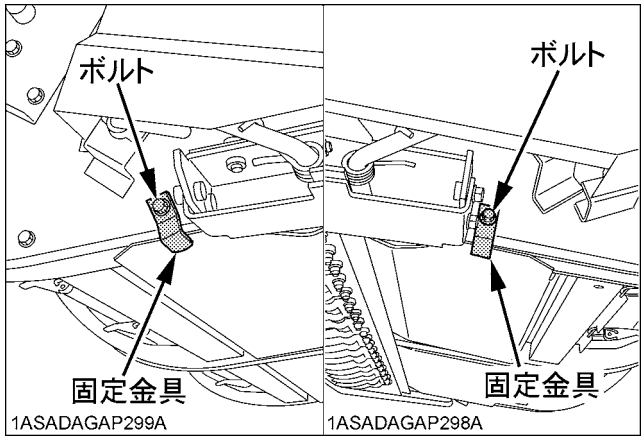
＊ 下記のようなほ場での刈取りを行なうとき，自動刈高さ制御がはたらいていても刈取部とソリセンサの間に泥が入り込んだり，ソリセンサがはたらかずに自動制御がはたらかないときは，自動制御を**[切]**にして SF ワンレバーを操作して刈取作業を行なってください。
・起伏の多いほ場（大豆の横刈りなど）
・湿田で人の足が 5 cm 以上沈むほ場
・枕地での刈取作業
また，湿田で機体後進時に機体が前下がりの状態のとき，ソリセンサの間に泥が入り込む場合は，付属部品のソリセンサ固定金具をボルトで取付けてソリセンサを固定してください。

＊ 高さ調節ダイヤルを**最低位置**で刈取作業を行なうと，刈取部から土が混入しやすくなるので特に注意しながら作業を行なってください。

＊ 湿田で刈取部を降ろすときは，刈取部とソリセンサの間に泥が入り込まないようにゆっくりと SF ワンレバーを操作してください。



1ASADAGAP068D



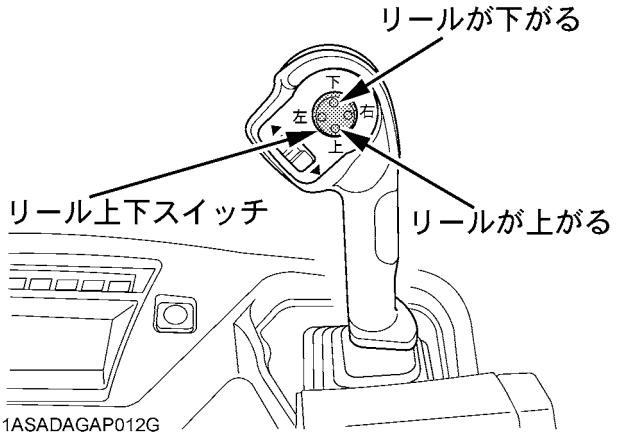
1ASADAGAP299A　1ASADAGAP298A

＊ 刈取部とソリセンサに泥が入り込んで自動刈高さ制御が正常にはたらかなくなったときは，作業を停止して刈取部を上げたあと，刈取部の下降ロックをしてエンジンを停止し，枕木などを使用して落下防止の歯止めをし，泥を取除いてください。

＊ 刈取部に泥が入ったときは，汚粒を防ぐため，作業をすぐに中止して泥を取除いてください。（136 ページ参照）

■リール高さの合わせかた

リール上下スイッチを操作して，作物及び倒伏状態や刈取方向に合わせてリールの高さの調整を行なってください。



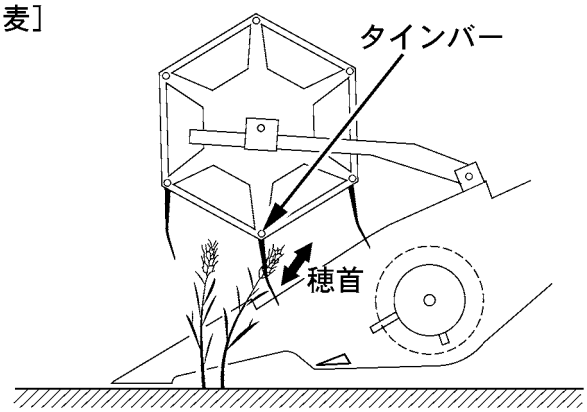
1ASADAGAP012G

[麦・そば]

通常はタインバーが穂首のやや下を通る位置に合わせてください。また，刈取方向や作物の倒伏状態に合わせてリールの高さを合わせてください。

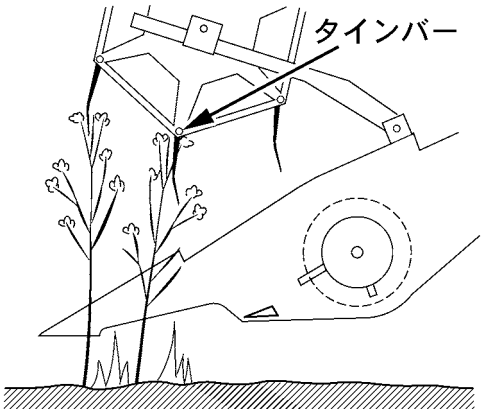
作物・刈取方向	リール高さ
立毛時	タインバーが穂首のやや下を通るように，調整してください。
追刈時	いっぱいまで下げてください。
向刈時	タインが作物の穂先を櫛ですくうように，調整してください。
横刈時	いっぱいまで下げてください。
完全倒伏	

［麦］



1ASADACAP307A

［そば］



1ASADACAP306A

補　足

＊ 前方へかんがころげ落ちたり，倒伏している場合はリールをいっぱいまで下げてください。

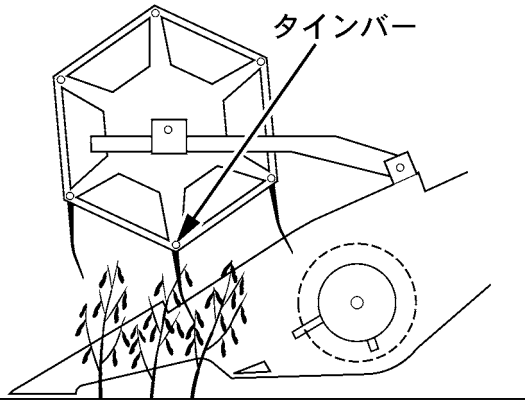
＊ 刈取部から作物の落下を防止するため，刈終わりにリールを下げてください。

[麦・そば]

[大豆]

タインバーが莢の下の茎かんに当って作物を捕える位置に合わせてください。

［大豆］

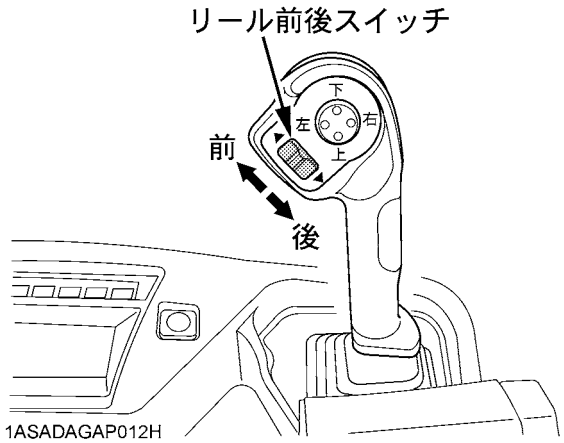


1ASADACAP305A

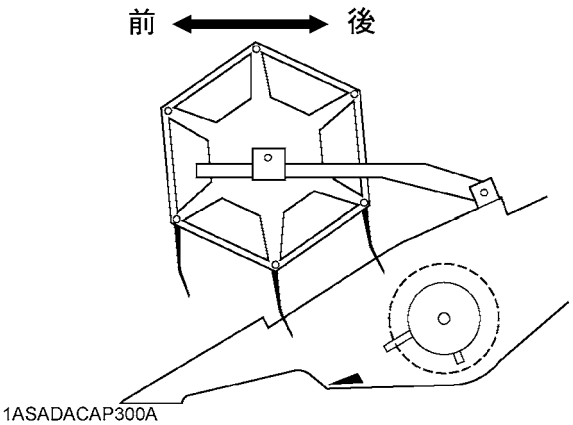
[大豆]

■リール前後の合わせかた

リール前後スイッチを操作して，作物及び倒伏状態や刈取方向に合わせてリールの前，後調整を行なってください。調整を行なうときは，リールが回転している（刈取作業中）ときに行なってください。



1ASADAGAP012H



1ASADACAP300A

補　足

＊ リールは約 10cm 前後します。

＊ エンジン停止中でもメインスイッチのキーが**[入]**位置にしてスイッチを操作するとリールは前後に動きます。

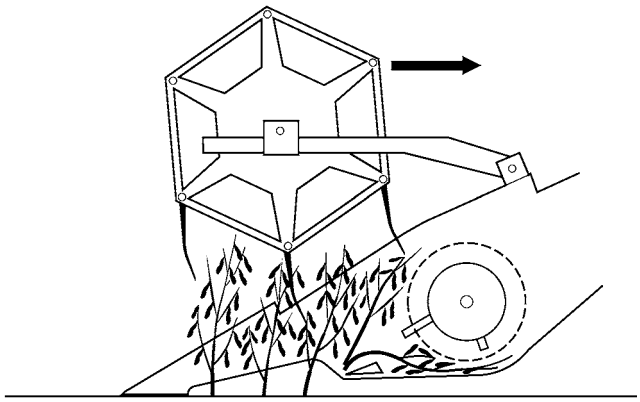
通常はリールをいちばん後方の位置に合わせてください。また，刈取方向や作物の状態に合わせてリールの前，後調整を行なってください。

作物・刈取方向	リール前後位置	
立毛時	いちばん後ろの位置に合わせてください。	※リールを前方に出し過ぎると，かんこぼれやオーガ部で，搬送ムラの原因となります。
追刈時	リールが作物を拾い残さない高さになるまで，前方に出してください。	
向刈時	リールの中心が，刈刃のやや前あたりに調整してください。	
横刈時	リールが作物を拾い残さない高さになるまで，前方に出してください。	
完全倒伏	リールが作物を拾い残さず，土に突っ込まない高さになるまで，前方に出してください。	

● 立毛した作物の場合

いちばん後ろの位置に合わせてください。

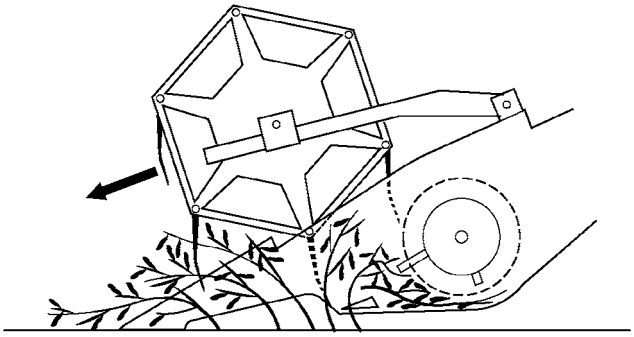
立毛した作物の場合


1ASADACAP303A

● 倒伏した作物の場合

作物の引起しを良くするためリールを前方に出します。倒伏状態に合わせて調整を行なってください。

倒伏した作物の場合



1ASADACAP304A

補　足

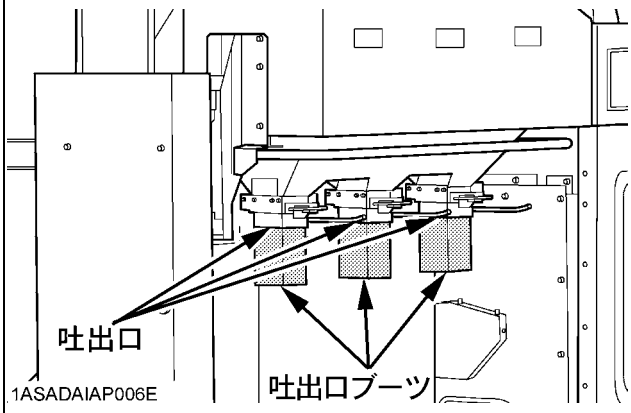
＊ リールを前に出しすぎると，こく粒の損失が増加します。また，刈取部左右側板近辺で滞留が発生し，オーガも詰まりやすくなります。リールを前に出す場合は滞留が発生しない程度までにしてください。

■こく粒の排出のしかた

[H 仕様]

注　意

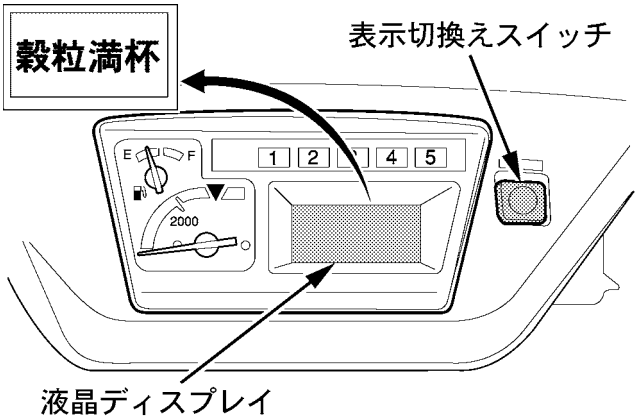
＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。また，吐出口ブーツが破損したときは，直ちに交換してください。



1ASADAIAP006E

＊ 排出時は機体を水平な場所に停車させ，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にしてから排出作業を行なってください。

1. ホッパ内のこく粒が満杯になると，エアロナビの液晶ディスプレイが**［穀粒満杯］**と表示すると同時にブザーがなります。



1ARAEAAAP201A

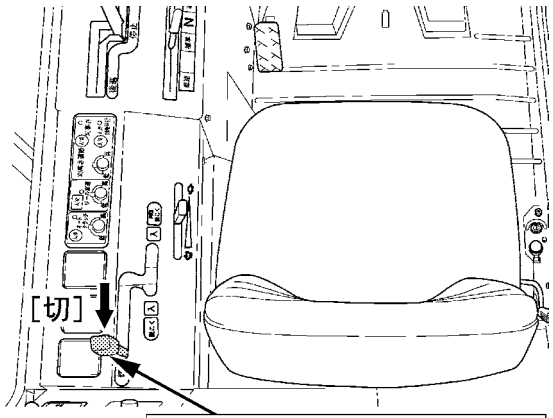
重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，こく粒があふれたり，１番バケットコンベア内が詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

＊ 表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。

2. 作業をいったん中止し，30 秒以上待ったあとに脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にし，脱こく部を停止します。



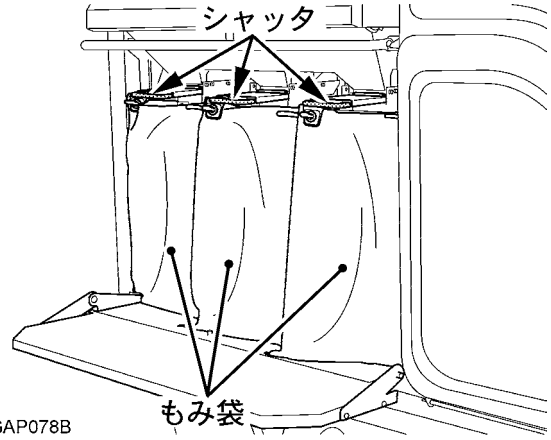
1ASADAIAP007O

※イラストは C 仕様

補　足

＊ 選別不良の原因となりますので，走行停止後 30 秒以上経過して行なってください。

3. 平たんな場所を選んで主変速レバーを**［停止］**位置にしたあと，駐車ブレーキを掛けます。
4. シャッタを押して閉じたあと，新しいもみ袋と交換したあと，シャッタを引きます。



1ASADAGAP078B

補　足

＊ こく粒を排出すると，液晶表示の**［穀粒満杯］**表示は消えます。

5. 駐車ブレーキを解除したあと作業を始めてください。

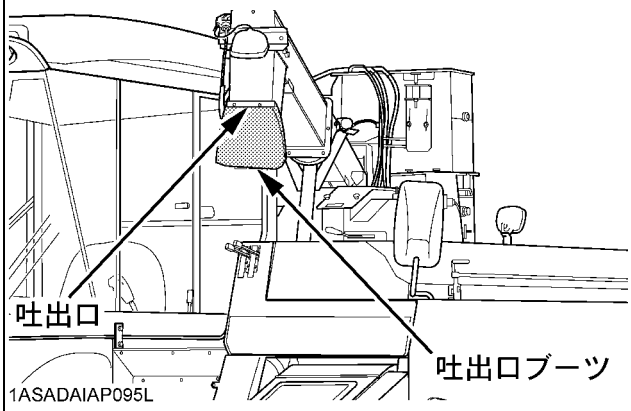
［H 仕様］

［G 仕様］

注　意

＊ コンバインを必ず停止してください。

＊ 吐出口に手は入れないでください。また，吐出口ブーツが破損したときは，直ちに交換してください。

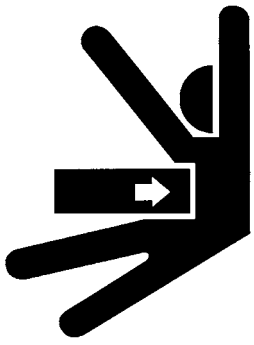


1ASADAIAP095L

＊ 手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。

＊ もみ排出スイッチを押して，もみがアンローダ排出口から排出されるとき，頭部や顔などをアンローダ先端部に近付けないでください。もみの重みでアンローダ先端部がわずかに下がります。

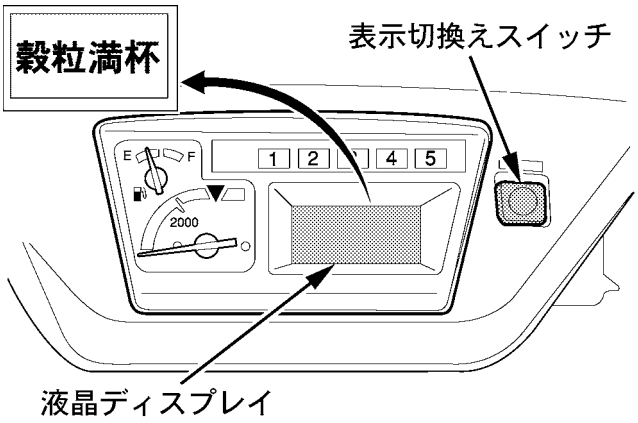
＊ アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあります。



1ARADAFAP076A

＊ 排出時は機体を水平な場所に停車させ，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にしてから排出作業を行なってください。

1. グレンタンクが満杯になると，エアロナビの液晶ディスプレイが**［穀粒満杯］**と表示すると同時にブザーが鳴ります。



1ARAEAAAP201A

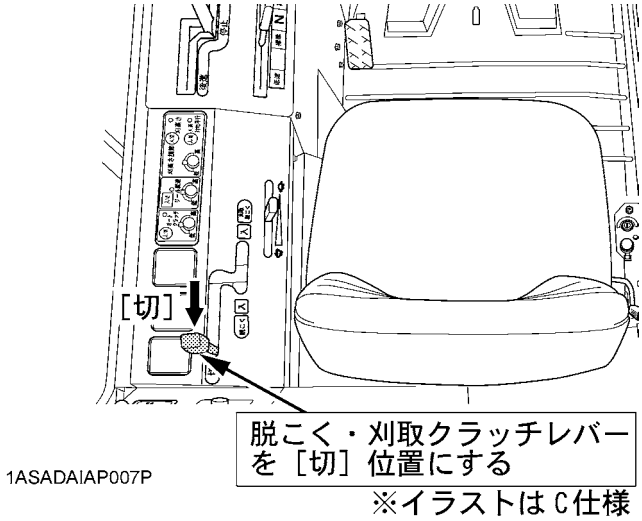
重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，こく粒があふれたり，１番バケットコンベア内が詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

＊ 表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。

2. 刈取作業をいったん中止し，30 秒以上待ったあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にして，所定の排出位置に移動します。

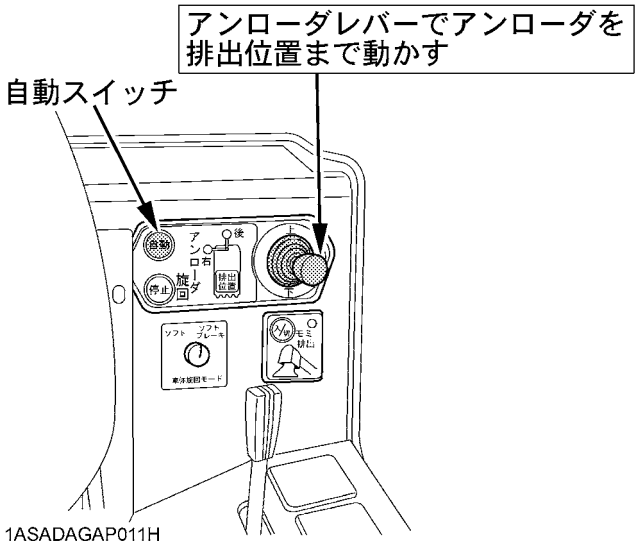


1ASADAIAP007P

※イラストはＣ仕様

3. 主変速レバーを**［停止］**位置にして，駐車ブレーキを掛けます。

4. アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。



1ASADAGAP011H

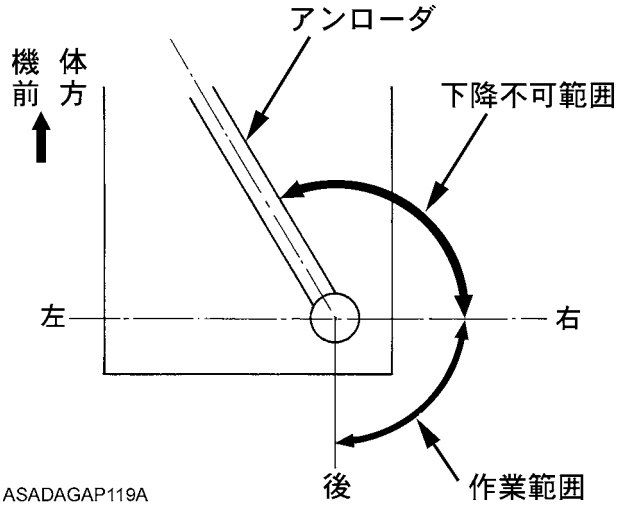
重　要

＊ 走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）及び，アンローダホーム位置のズレによる収納不良の原因になります。

＊ 自動スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

補　足

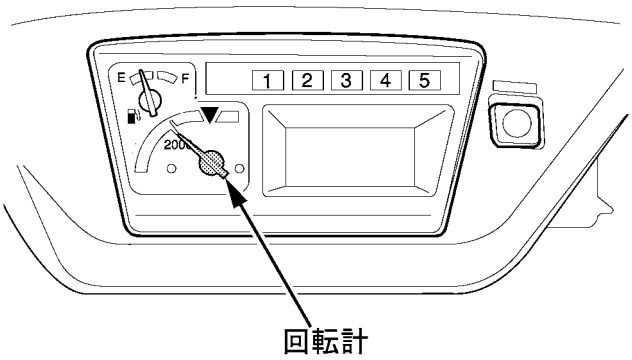
＊ 自動旋回制御装置作動中に，停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。停止状態から再度自動スイッチを押すと，アンローダの自動旋回制御が作動します。
＊ 自動旋回制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。
＊ アンローダが最上昇位置のとき，**下降不可範囲**ではアンローダレバーを操作しても下降しません。また，このときに液晶ディスプレイに**［アンローダを上げる］**と表示しますので，アンローダを最上昇位置まで上げて旋回してください。
＊ アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき，アンローダレバーを操作しても**下降不可範囲内**には旋回しません。また，このときに液晶ディスプレイに**［アンローダを上げる］**と表示します。



1ASADAGAP119A

＊ アンローダレバーと無線アンローダリモコンを同時に操作したときは，無線アンローダリモコンによる操作が優先されます。
＊ アンローダレバーを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回（ラベル青色方向）します。(33 ページ参照)

5. エンジン回転数を**［大豆］**のときは **1600 ～ 2000rpm**，**［そば］**又は，**［麦］**のときは **2200 ～ 2800rpm** に合わせます。

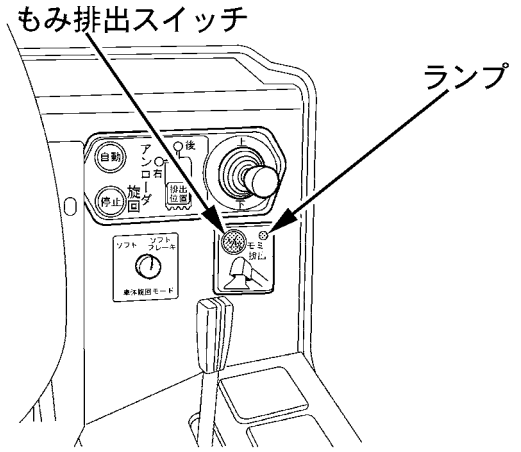


1ASADACAP315A

補　足

＊ 損傷しやすい作物は，エンジン回転数を下げてください。

6. もみ排出スイッチを押すとランプが点滅し（スイッチ**［入］**），こく粒を排出します。

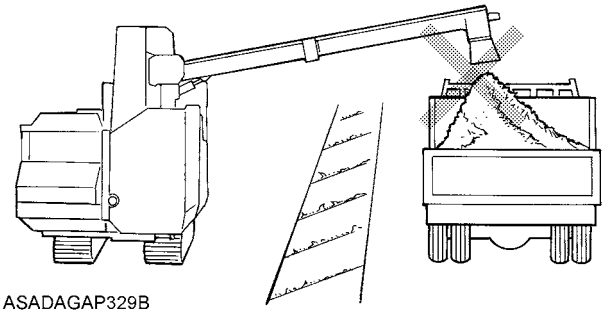


1ASADAGAP011I

重　要

＊ 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

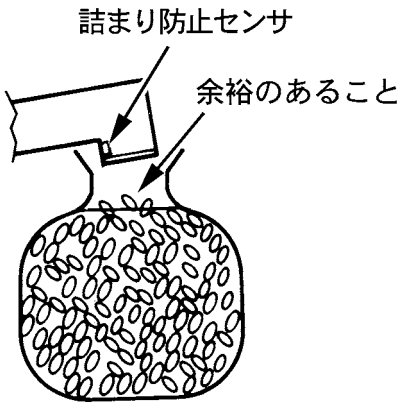
［アンローダ出口注意］　［吐出口をふさがない］



1ASADAGAP329B

＊ アンローダには，絶対物を吊るさないでください。

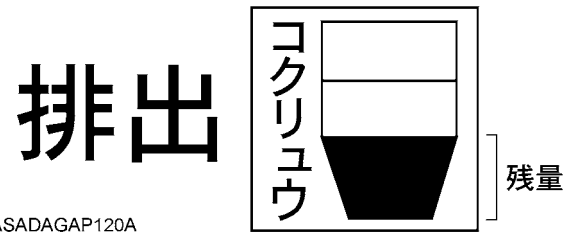
＊ アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止センサに一定時間こく粒が接触するとセンサがはたらいてこく粒の排出が停止しますが，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出スイッチを切ってください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



1ASADACAP311A

補　足

＊ こく粒排出中は，液晶ディスプレイにグレンタンク内のこく粒の残量を表示します。



1ASADAGAP120A

7. 排出が終わると，もみ排出スイッチを押し（**［切］**），排出を停止させたあと，アンローダ自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

重　要

＊ 吐出口ブーツが破損したときは，必ず交換してください。

補　足

＊ アンローダレバーで操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。

＊ アンローダ内にこく粒が残っていると，こく粒がこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

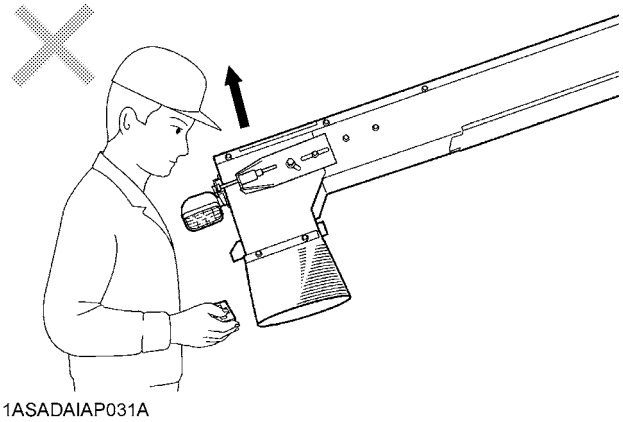
＊ こく粒がグレンタンク内に残った状態で移動走行したあと，次に刈取作業を行なうとバケットコンベアの詰まりが発生することがあります。移動走行する前は必ずこく粒を排出してください。また，詰まったときは，各バケットコンベアの下部掃除口を開いて掃除を行なってください。

[G 仕様]

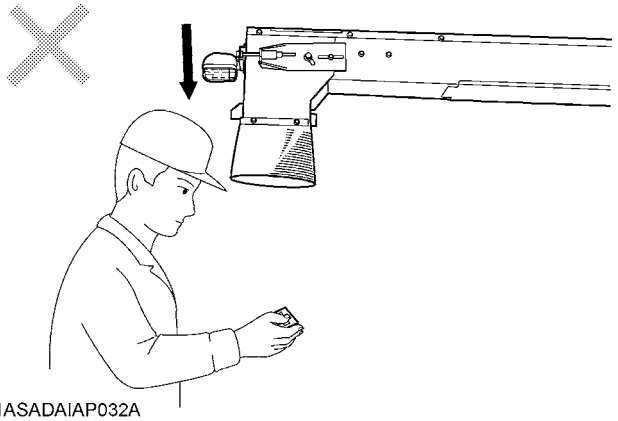
◆ 無線アンローダリモコンについて

警 告

＊ 共同作業を行なうときは，合図を徹底させて行なってください。
＊ アンローダの先端部の位置を常に確認しながら作業を行なってください。無線アンローダリモコンスイッチの誤作動により，不意に動いてケガをするおそれがあります。



1ASADAIAP031A



1ASADAIAP032A

＊ 無線アンローダリモコンの操作中に，運転席左側の操作パネルの各スイッチやレバーは絶対に操作しないでください。

重 要

＊ アンローダが水平位置より低いところで操作するときは，アンローダ受けに接触させないでください。

1. 無線アンローダリモコンの自動旋回スイッチ又は，アンローダ手動スイッチを操作して，アンローダを排出位置に移動します。

補 足

＊ 詰まり防止センサは，排出時のもみの損傷を防止するためのセンサです。袋詰めするときは，余裕を持ってもみ排出スイッチを切るようにしてください。
＊ もみ袋に排出するときは，もみ袋が倒れないように，共同作業者やもみ袋受け台などを準備してください。
＊ アンローダレバーと無線アンローダリモコンを同時に操作したときは，無線アンローダリモコンによる操作が優先されます。
＊ アンローダ手動スイッチを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダ手動スイッチを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。(34 ページ参照)

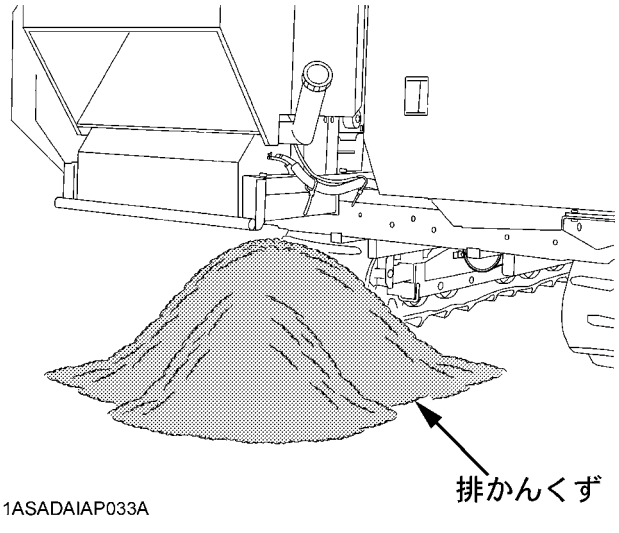
2. もみ排出スイッチを押すとこく粒を排出します。
3. こく粒の排出が終わると，停止スイッチを押してこく粒の排出を止めます。
4. 作業が終わると無線アンローダリモコンを収納ケースに収納します。

[G 仕様]

■手刈り（枕刈り）作物の投げ込み脱こくのしかた

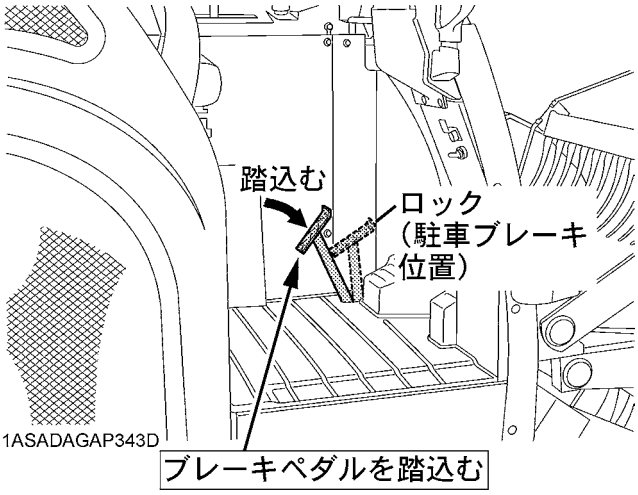
警　告

- **＊ リールクラッチレバーと刈刃クラッチレバーは必ず［切］位置にしてください。**
- **＊ 刈取オートクラッチの切換えスイッチを必ず［切］にしてください。**
- **＊ 投げ込み脱こくは２人作業で行ない，１人は運転席に座り，異常があればエンジンを停止してください。**
- **＊ コンバインは平坦な場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。**
- **＊ リールに巻込まれてケガをするおそれがあるので**
  - **● そで口はきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。**
  - **● 刈取部から少し離れた斜めの位置に立ち，作物を少量ずつ投げ込んでください。**
  - **● 運転席に共同作業者が座り，エンジンをすぐ切れる準備をしておいてください。**
- **＊ 走行を停止した状態で多量の脱こくを行なうと，排かん処理部の下に切断された排かんくずが堆積し，排かん処理部が詰まったり，火災の原因となりますので，機体を移動させる又は，堆積した排かんくずを取除いてください。**



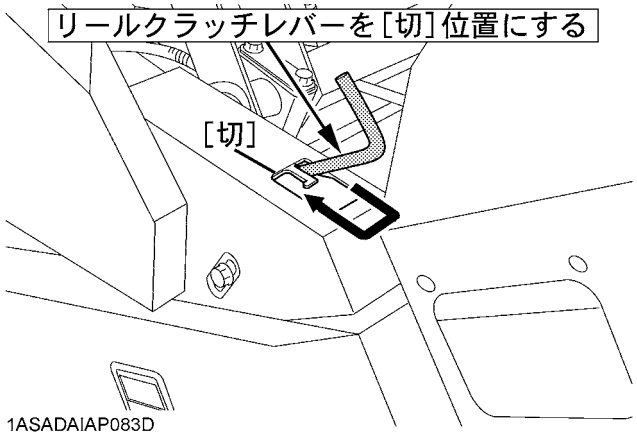
1ASADAIAP033A

1. 駐車ブレーキを掛けます。



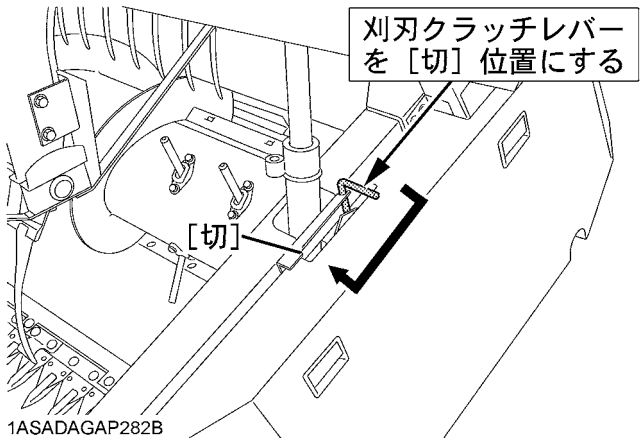
1ASADAGAP343D

2. リールクラッチレバーを**【切】**位置にします。



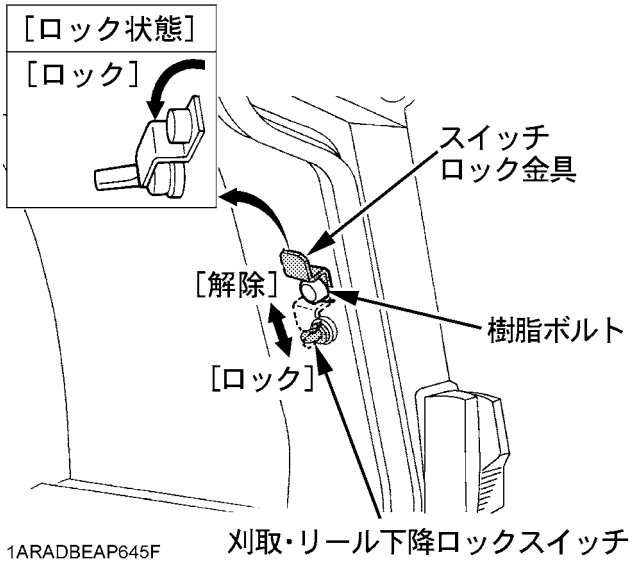
1ASADAIAP083D

3. 刈刃クラッチレバーを**【切】**位置にします。



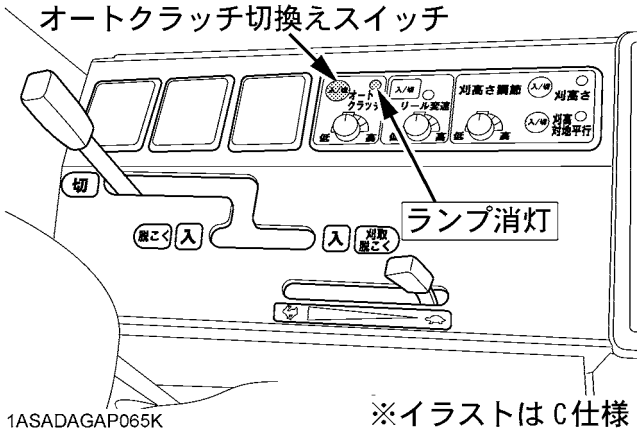
1ASADAGAP282B

4. 刈取部を少し上げ，リールを**最上昇位置**にしたあと，刈取下降ロックスイッチを**【ロック】**位置にして刈取部及びリールの下降防止を行ないます。



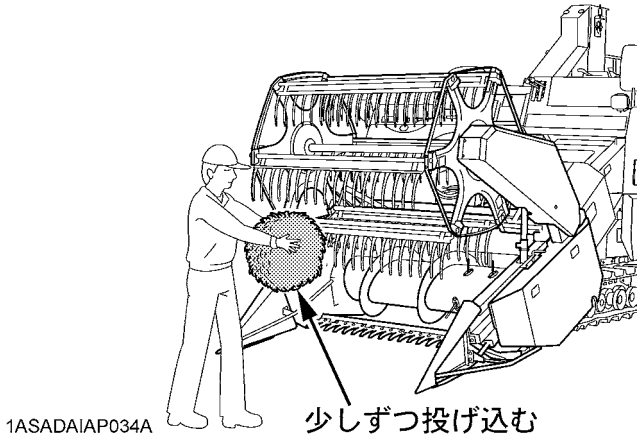
1ARADBEAP645F

5. 脱こく・刈取クラッチレバーを**［刈取］**位置にします。
6. 刈取オートクラッチを**［切］**にします。



1ASADAGAP065K

7. 手刈りした作物を少しずつ投げ込みます。



1ASADAIAP034A

重　要

＊ 作物は一度に投入する量は５束以下にしてください。多量に投入するとオーガドラム，フィーダ，こぎ胴での詰まりの原因となります。

■作業や作物に合わせた各部の調節・調整のしかた

警　告

＊ 作業中の調整以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから，調節・調整・交換を行なってください。
＊ 衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

注　意

＊ 平坦で安定した場所で行なってください。
＊ コンバインを停止するときは，排かんくずの上に止めないでください。マフラ排気口に排かんくずが触れると，火災のおそれがあります。

補　足

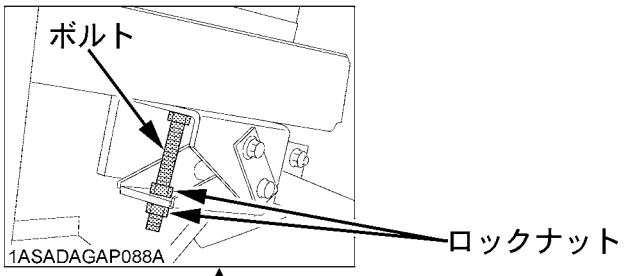
＊ 麦・そばの刈取りを行なうときは，オプション（別売品）の交換キットが必要です。（236 ページ参照）

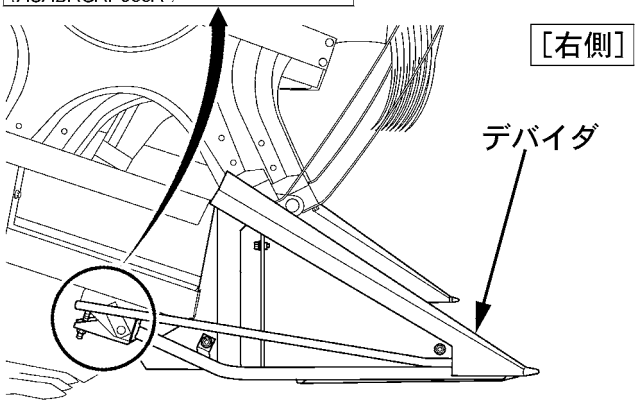
◆ 刈取部

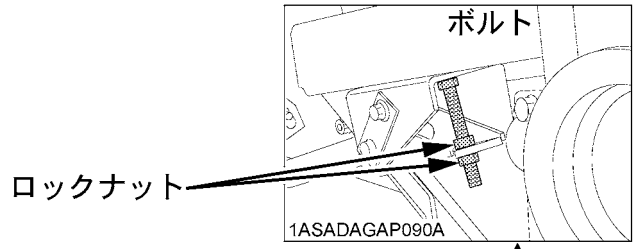
■デバイダの上下調整

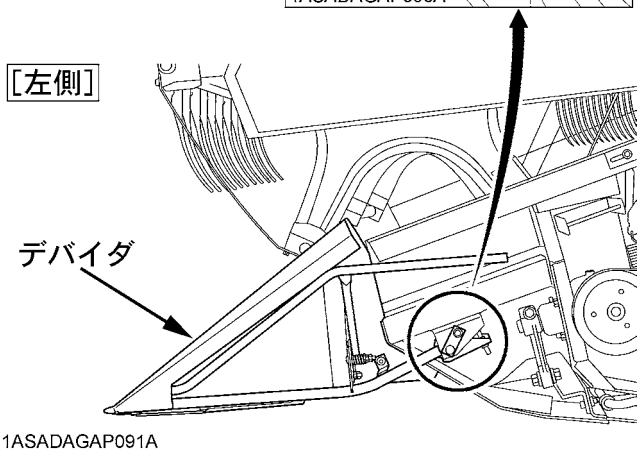
雑草の多いほ場では，刈株よりやや高めにして雑草が引っ掛からないようにしてください。また，倒伏時は，デバイダの先端が，地面に軽く接地する程度に調整を行なってください。

1. 刈取部を接地させてエンジンを停止します。
2. 刈取左サイドカバーを取外します。
3. デバイダの上下の動きを規制しているボルトのロックナット２個をゆるめて調整を行なったあと，ロックナットを締付けます。
4. 同じ要領でもう片方のデバイダを同じ高さに調整します。
5. 刈取左サイドカバーを取付けます。







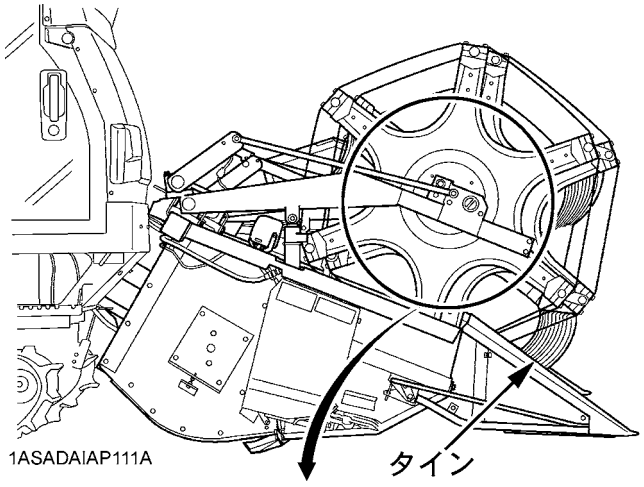


■リールタインの角度調整

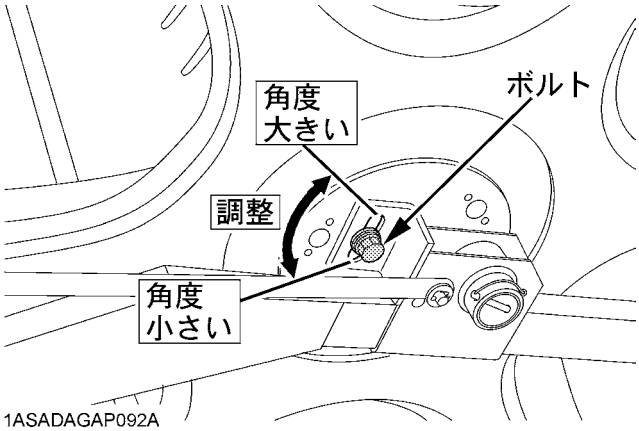
倒伏作物の刈取りやかんの持ち回りが多いときは，リールのタイン角度の調整を行なってください。

倒伏作物でリールを前方に出しても引起しが悪いときは，タインの角度を大きく（回転方向に倒す）調整します。また，かんの持ち回りが多いときは，タインの角度を小さく（反回転方向に倒す）調整します。

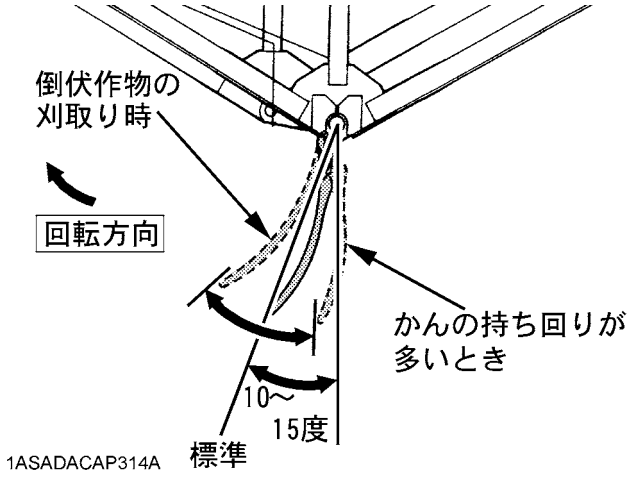
1. 刈取部及びリールを下降したあと，エンジンを停止します。
2. ボルトをゆるめます。
3. リールを長穴方向に前後し，タインの角度を確認します。
4. ボルトを締付けます。



1ASADAIAP111A



1ASADAGAP092A



1ASADACAP314A

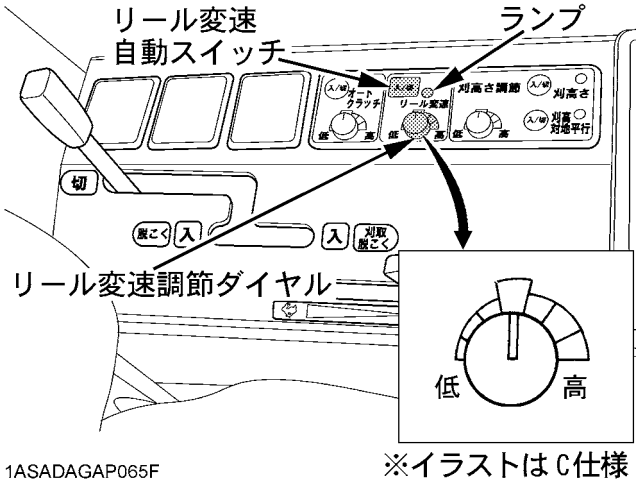
補　足

＊ タインの角度は通常（標準）10 ～ 15 度です。倒伏作物は 20 ～ 25 度の範囲に調整してください。

＊ タイン角度が大きすぎてオーガドラムのラセンに当たるときは，リールを前方へ出してください。

■自動リール回転制御の調整・調節

作物や倒伏状態に合わせてリール回転速度の調整を行なってください。リール回転速度は自動制御がはたらいている（リール変速自動スイッチ**[入]**）ときは，刈取速度に応じて増減します。また，自動制御を解除（リール変速自動スイッチ**[切]**）すると，リールの回転速度は固定され一定の回転速度となります。

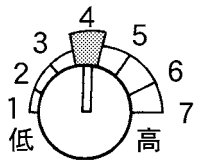


1ASADAGAP065F

※イラストは C仕様

リール回転速度は刈取速度の 1.5 ～ 1.8 倍（リール変速調節ダイヤル目盛の **3 ～ 5**）に通常は合わせてください。また，作物や倒伏状態に合わせてリールの回転速度の調整を行なってください。

● 自動制御中（自動スイッチ［入］）時の目安

リール変速 調節ダイヤル	作物・ 倒伏状態	ダイヤル位置
 1ASADACAP308B	立毛作物	３～５
	倒伏麦	４～６
	そば・豆	３～５

補　足

＊ リールの回転速度が速すぎるとヘッドロスが増え，遅すぎると刈取部で作物が滞留したり，かんこぼれが発生しやすくなります。
＊ 土に突っ込まずリールが停止するときは，刈取速度を落とす又は，リールの回転速度を上げてください。
＊ 旋回直後はリールの回転速度が少し速くなりますので，約 10 秒待ってから刈取作業を行なってください。
＊ リールが回り始めるとき，刈取部の右側から**カチカチ**と爪クラッチのかみ合う音が頻繁に聞こえるときは，リール変速ベルトの調整を行なってください。（184 ページ参照）

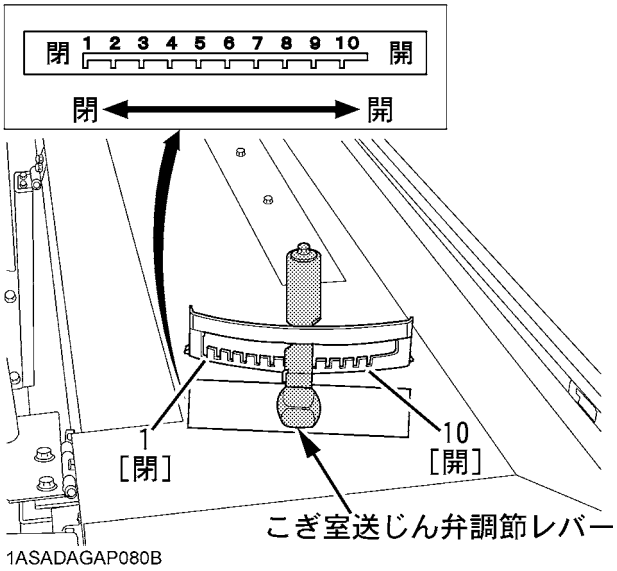
◆ 脱こく部

■こぎ室送じん弁調節レバーの調節

下表を参照してこぎ室送じん弁調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態），条　件
［開］ ⬆ **［標準］** ⬇ **［閉］**	● ゴトゴトと大きな異音がする（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い ● 選別が悪い 　● 穂切れ粒が多い 　● ササリ粒が多い
	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 未脱粒が多い

作　物	標準位置
大　豆	7～10
そ　ば	8～10
麦	４～７



1ASADAGAP080B

補　足

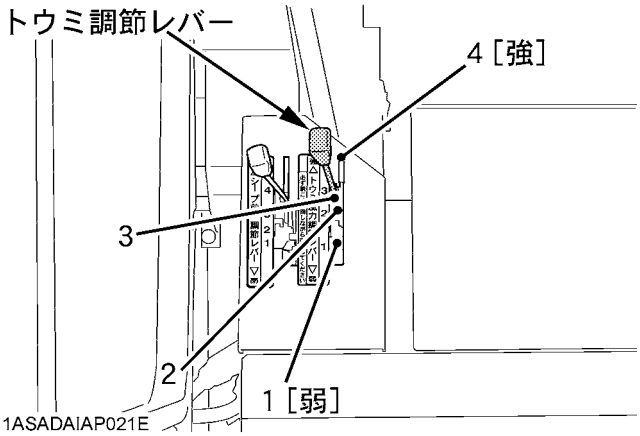
＊ 作物の選別状態やこぎ残しが出るなど異常がある場合は，225 ページの**コンバインの不調と処置**を参照して処置してください。
＊ 下記のような場合には，標準位置から**【閉】**又は，**【開】**方向に調節してください。
- 水分が多い作物やロスが多い場合や未脱粒が少ない場合は**【開】**方向へ
- 倒伏作物や負荷の大きい刈取作業は**【開】**方向へ
- **【閉】**方向で刈始めた場合，刈取作業の中盤から後半は**【開】**方向に調節してください。

■トウミ調節レバーの調節

作物の選別や飛散状態に合わせ，下表を参照してトウミ調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
【強】 ⬆ **【標準】** ⬇ **【弱】**	● 選別が悪い ● 水分が多い
	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● こく粒が小さく軽い

作　物	標準位置
大　豆	2～4
そ　ば	2～4
麦	2～4



補　足

＊ トウミの調節は，脱こく機を必ず回転させて行なってください。
＊ 作物の選別状態やこぎ残しが出るなど異常がある場合は，225 ページの**コンバインの不調と処置**を参照して処置してください。

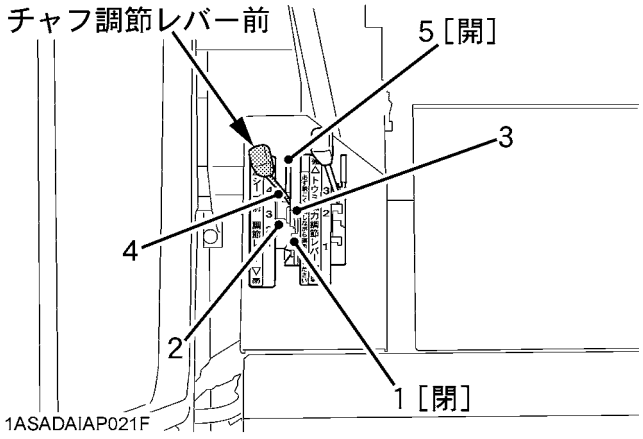
■チャフ調節レバー前，後の調節

作物の選別や飛散状態に合わせ，下表を参照してチャフ調節レバー前，後で調節してください。

[選別板すき間調節]
チャフ調節レバー

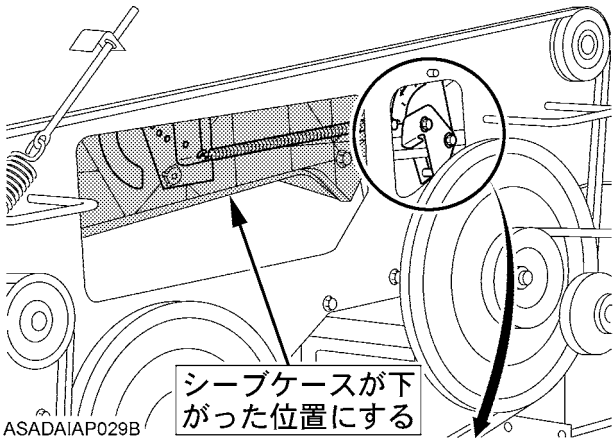
調節方向	現　象（状　態）
[開] ⬆ **[標準]** ⬇ **[閉]**	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 脱ぷが多い
	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い

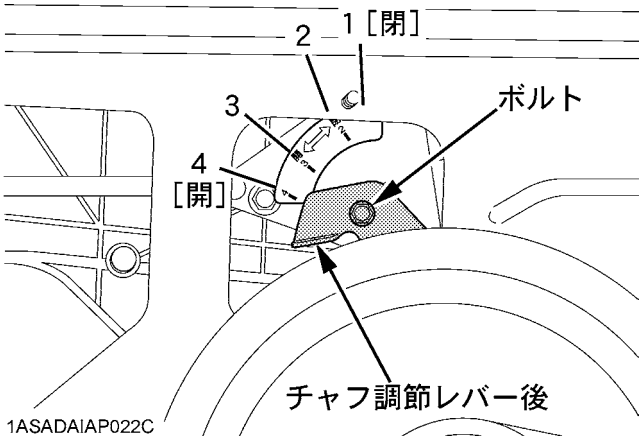
作　物	標準位置	
	チャフ調節レバー前	チャフ調節レバー後
大　豆	4～5	2～4
そ　ば	3～5	2～3
麦	3～5	2～3



◆ チャフ調節レバー後

1. 脱こく左サイドカバー前，後を取外したあと，１・２番横スクリュ掃除口カバーを取外します。
2. トウミ駆動プーリを回してシーブケースが下がった位置にして，チャフ調節レバーの調節が行ないやすい位置にします。
3. ボルトを取外します。
4. チャフ調節レバー後を動かして切換えたあと，ボルトを取付けます。





補　足

＊ 作物の選別状態やこぎ残しが出るなど異常がある場合は，225 ページの**コンバインの不調と処置**を参照して処置してください。
＊ チャフの調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。

5. １，２番横スクリュ掃除口カバーを取付けたあと，脱こく左サイドカバー前，後を取付けます。

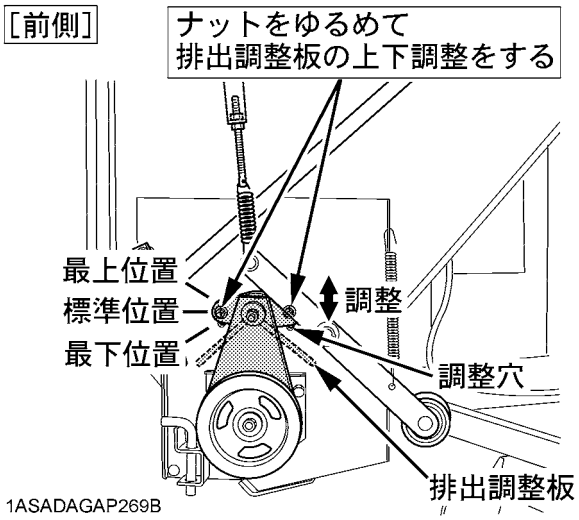
◆ グレンタンク部

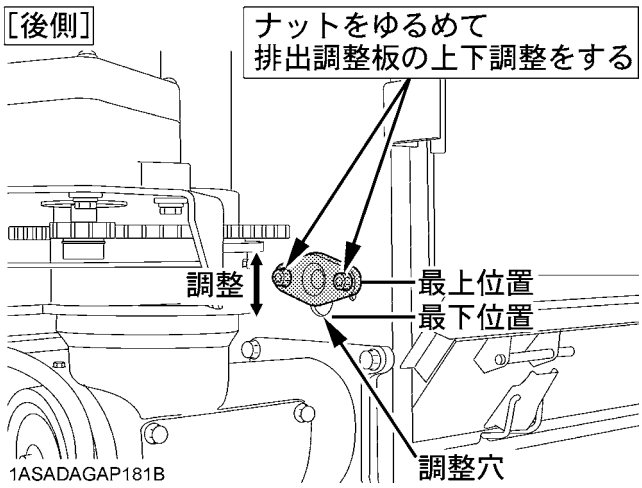
■排出調整板の調整

[G 仕様]

排出調整板を**最上位置**で，水分の多い小麦の刈取りを行なうと，スクリュに詰まりが発生するおそれがあります。その場合は，排出調整板の位置を**最下位置**にしてください。また，小麦以外の作物の刈取りで水分が高く，作物の流れが悪くブリッジを起こすときは，**最上位置**にしてください。

1. グレンタンクをオープンします。(134 ページ参照)
2. グレンタンクの前後の両側面にある排出調整板の上下調整を行ないます。
   (1) ナットをゆるめます。
   (2) 排出調整板を最上又は，最下位置にします。
   (3) ナットを締付けます。





3. グレンタンクを閉じます。

[G 仕様]

■エアロナビによる異常と処置

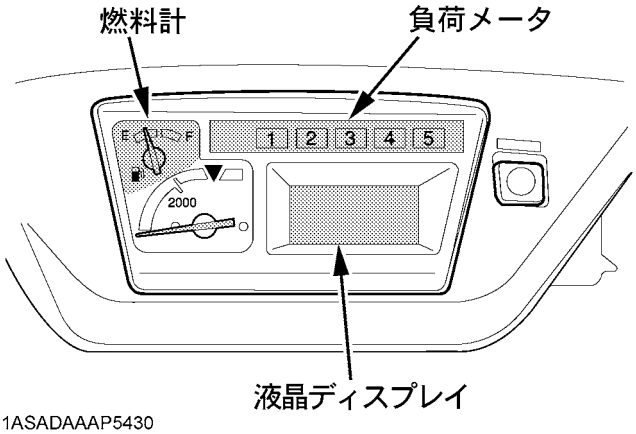
警　告

＊ 各部の点検や排かん詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 各搬送チェーンなどには注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注　意

＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。

エアロナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは，下表を参照して処置してください。



1ASADAAAP5430

警報の種　類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現　象	処　置	参照ページ
燃料警報	燃料を給油（約 5 秒後消灯）		○ 断続（約 5 秒後停止）	・燃料が少なくなっています。 ・そのまま作業を続けると.. **[エンジンが停止します。]**	・燃料を補給します。	157
転倒予防警報	⬅交互に表示➡ 機体が傾いてます / 水平にして下さい		○ 断続（処置後停止）	・機体が左又は，右に約 10 度傾いています。 ・そのまま作業を続けると.. **[機体が転倒するおそれがあります。]**	・走行を停止し，いったん平たんな場所に移動したあと，機体が傾かない状態で作業を行なってください。	78
油圧警報	エンジン油圧異常（処置後消灯）	－	○ 断続（処置後停止）	・エンジンオイルの圧力が不足しています。 ・そのまま作業を続けると.. **[エンジンが焼付きを起こし停止します。]**	・エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ・オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ・バンドの増締めをします。 ・購入先へ連絡してください。	158 169 169 －

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
オーバヒート警報	⬅交互に表示➡ オーバーヒート / アイドリングに （処置後消灯） ⬅交互に表示➡ オーバーヒート / 冷却後点検 （処置後消灯） ⬅交互に表示➡ オーバーヒート / エンジンを停止する ↕ 冷却後点検 （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・エンジンの冷却水温が上昇しています。

警報の種　類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現　　象	処　　置	参照ページ
こく粒満杯警報	穀粒満杯 （処置後消灯）	－	○ 断続 （処置後停止又は，表示切換えスイッチを押すと停止）	・ホッパ内又は，グレンタンク内のこく粒が満杯です。 ・そのまま作業を続けると.. **［グレンタンクからこく粒があふれます。又は，１番スクリュが詰まります。］**	・刈取作業を中止し，こく粒を排出します。	100 ―
１番警報	⬅交互に表示➡ １番　詰まりを取り除く （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・１番バケットコンベア内が詰まっています。 ・そのまま作業を続けると.. **［ベルトの焼付きやベルト切れとなります。］**	・１番バケットコンベアを掃除します。	136 ―
２番警報	⬅交互に表示➡ ２番　詰まりを取り除く （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・２番スクリュ内，２番スラットコンベア内又は，出口が詰まっています。 ・そのまま作業を続けると.. **［ベルトの焼付きやベルト切れとなります。］**	・２番スクリュ又は，２番スラットコンベアを掃除します。 ・脱こく駆動ベルト及び脱こくカウンタベルトの張り調整を行ないます。	136 188，189 ―
こぎ胴警報	⬅交互に表示➡ こぎ胴　詰まりを取り除く		○ 断続 （処置後停止）	・こぎ室内が詰まり，こぎ胴の回転数が落ちています。 ・そのまま作業を続けると.. **［エンジンが停止します］**	・こぎ室内を掃除します。	125 ―
オーガ警報［G仕様］	⬅交互に表示➡ オーガ　詰まりを取り除く		○ 断続 （約35秒後停止）	・アンローダ又は，排出バケットが詰まっています。	・アンローダ又は，排出バケットを掃除します。	136

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

■エアロナビによる故障と処置

故障が発生すると，液晶表示部に異常内容のみの表示と，故障しても応急的に手動操作可能な場合に，異常内容と処置内容を交互に表示します。故障が発生したときは，必ず購入先に連絡して修理を依頼してください。

1. 異常内容と処置内容を交互に表示した場合

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容 ⟷ 処置内容		異常内容	処置	参照ページ
モンロ右センサ異常	点滅中の自動切に	水平制御及び対地平行自動刈高さ制御が故障しています。	手動操作で機体を下限にして作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は水平自動スイッチ，対地平行スイッチを**【切】**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	27
モンロ左センサ異常	点滅中の自動切に			
ローリングセンサ異常	水平自動切に	水平制御が故障しています。	手動操作で機体を下限にして作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は水平自動スイッチを**【切】**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	27
オートクラッチVR異常	標準設定で作動中	刈取オートクラッチの停止位置の調節ができません。	作業を続けて行なうことができます。このとき，刈取オートクラッチの停止位置は標準位置ではたらきます。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	31
刈高VR異常	点滅中の自動切に	自動刈高さ制御・対地平行自動刈高さ制御が故障しています。	手動操作で作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は刈高さ自動スイッチを**【切】**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	29
刈高センサ右異常	点滅中の自動切に			
刈高センサ左異常	点滅中の自動切に			
刈高レバーVR異常	ポジピタSW で操作	SF ワンレバーを操作しても刈取部が昇降しません。	ポジピタスイッチで刈取部の昇降操作を行なうことができます。また異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	14
オーガ位置異常	手動レバーで操作	アンローダ自動旋回制御が故障しています。	アンローダレバーの操作で作業を続けて行なうことができますが，運転席の上部（頭上）に注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	33
オーガ上限異常	手動レバーで操作			

2. 異常内容のみの表示の場合

液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容	異常内容	処置	参照ページ
エンジン回転異常	負荷警報制御が故障しています。	主変速レバーの操作で作業を続けて行なうことができますが，刈取速度に注意してください。また，異常の表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	12, 19
ファンセンサ異常 ファン作動異常	ラジエータの逆転ファンが作動しません。	直ちに購入先に連絡して修理を依頼してください。	—
シフトレバーSW異常	主変速レバーのスイッチに異常が発生しています。	作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	19
旋回センサ異常 旋回作動異常	機体の操向操作ができません。	直ちに購入先に連絡して修理を依頼してください。	—
刈取位置異常	刈取オートクラッチ，自動刈高さ制御，対地平行自動刈高さ制御がはたらきません。	SFワンレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。刈高さに注意してください。	13, 29, 31
方向レバーVR異常	SFワンレバーを左右に操作しても機体の操向操作ができません。	方向微調整スイッチを旋回方向に押しながらSFワンレバーを旋回方向に倒すと機体は旋回しますが，購入先に連絡して処置してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと通常表示に切換わります。	14
水平作動異常 水平ユニット異常	水平制御が故障しています。	直ちに購入先に連絡して修理を依頼してください。	—
オーガ作動異常 オーガユニット異常	・アンローダの昇降・旋回操作が行なえません。**[G 仕様]** ・リフトアップタンクの昇降・排出作業が行なえません。**[RC-CL 仕様]**		
リール作動異常	リールの昇降操作が行なえません。		

液晶表示 （液晶ディスプレイ） 異　常 内　容	異　常　内　容	処　　置	参照 ページ
油圧作動 異常	油圧装置が故障しています。	直ちに購入先に連絡して修理を依頼してください。	—
パネルユニット 異常	マイコンに異常が発生しています。		
メータ・CU 通信異常			
CU・LU通信 異常			
機種設定 異常			
型式設定 異常			
微調データ 異常			
センサ電源 異常			

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

警　告

- ＊ 平たんで安全な場所で，機械の移動や各部を動かすとき以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
- ＊ 傾斜地では，開閉や脱着を行なわないでください。
- ＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注　意

- ＊ エンジンルームを閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

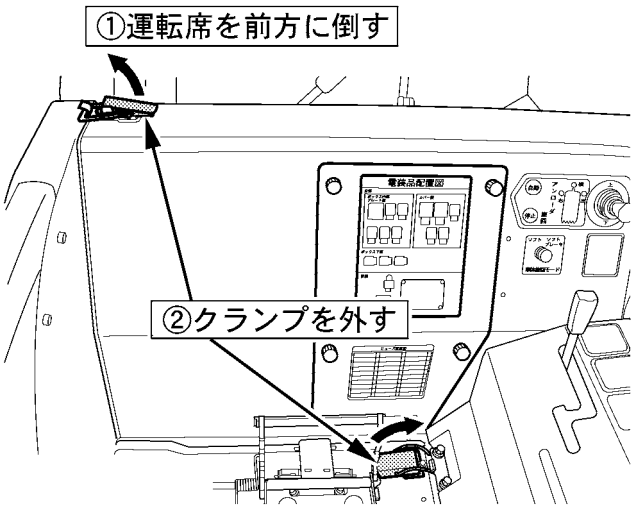
■エンジンルームオープン

注　意

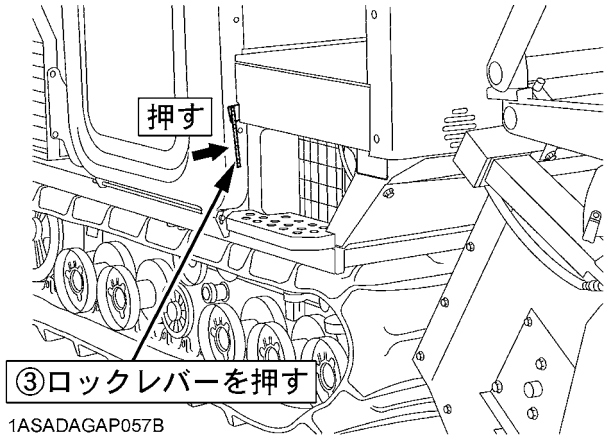
- ＊ オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
  - (1) 作業を中止する。
  - (2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転したあと，エンジンを停止し，メインスイッチのキーを抜く。
  - (3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
  - (4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
- ＊ エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

[C 仕様除く]

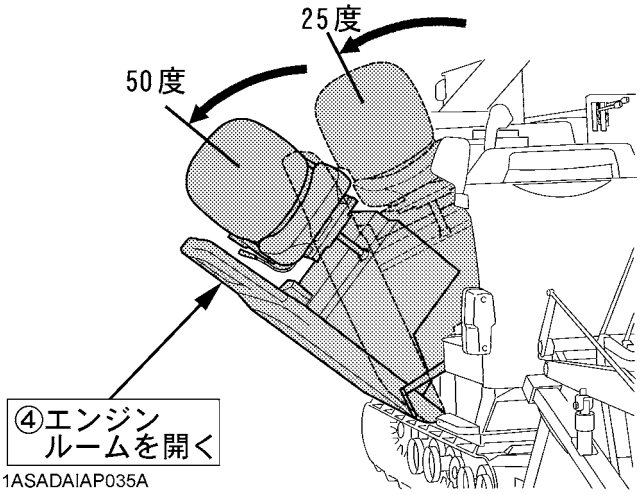
◆開きかた



1ARADBEAP231C



1ASADAGAP057B



1ASADAIAP035A

補　足

＊ エンジンルームは，25 度と 50 度の 2 段階開きます。25 度でいったん止まったあと，再度ロックレバーを押すと 50 度まで開きます。

◆閉じかた

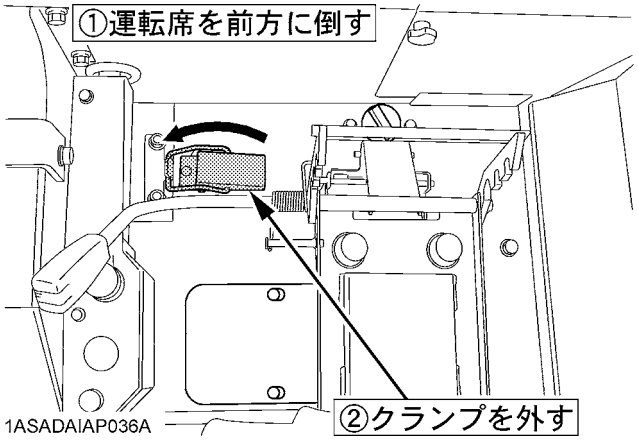
エンジンルームを閉じたあと，2箇所のクランプをします。

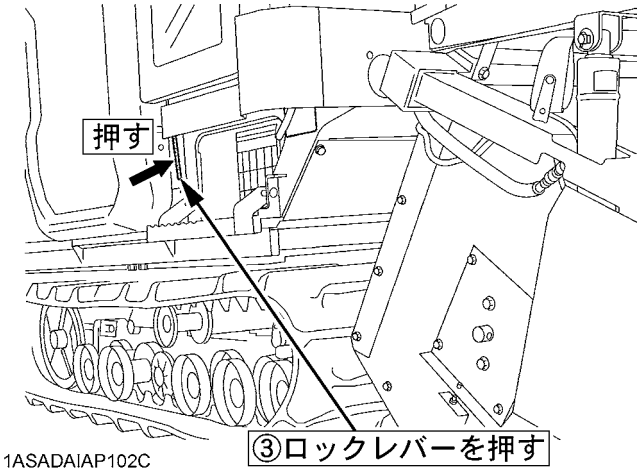
[C 仕様除く]

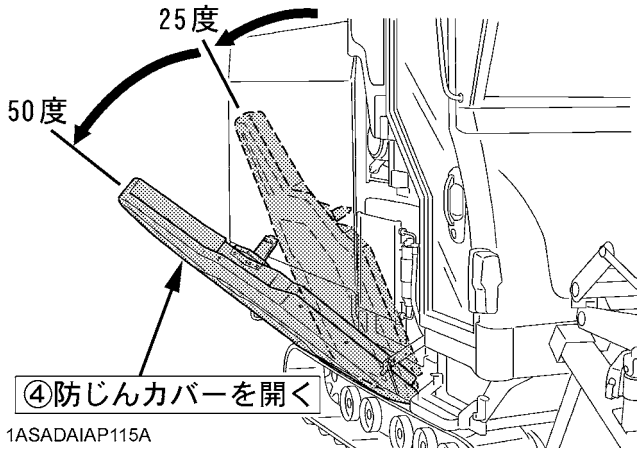
■防じんカバーオープン

[C 仕様]

◆ 開きかた







重 要

＊ 防じんカバーの網の部分を押すと網が変形します。

補 足

＊ 防じんカバーは，25 度と 50 度の2段階開きます。25 度でいったん止まったあと，再度ロックレバーを押すと 50 度まで開きます。

◆閉じかた

防じんカバーを閉じたあと，クランプをします。

重 要

＊ 閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

[C 仕様]

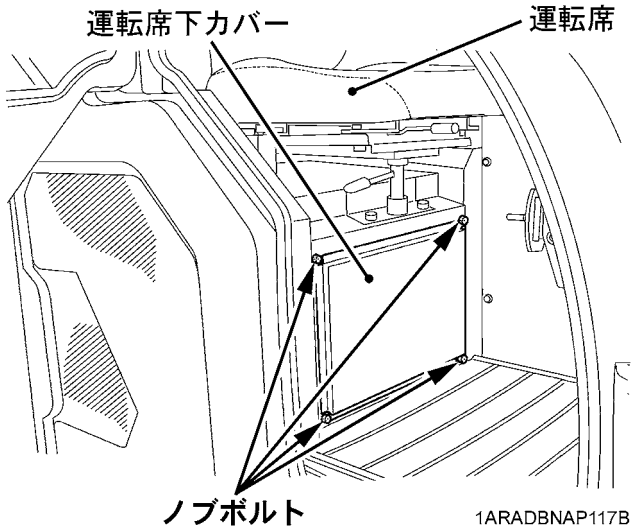
■運転席下カバーの脱着

[C 仕様]

注 意

＊ オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) 作業を中止する。
(2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止し，メインスイッチのキーを抜く。
(3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
(4) 点検・整備で内部に触れるときは， ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊ エンジンが冷えていないとき，運転席下カバーを開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆取外しかた
樹脂ボルト４本を外して取外します。



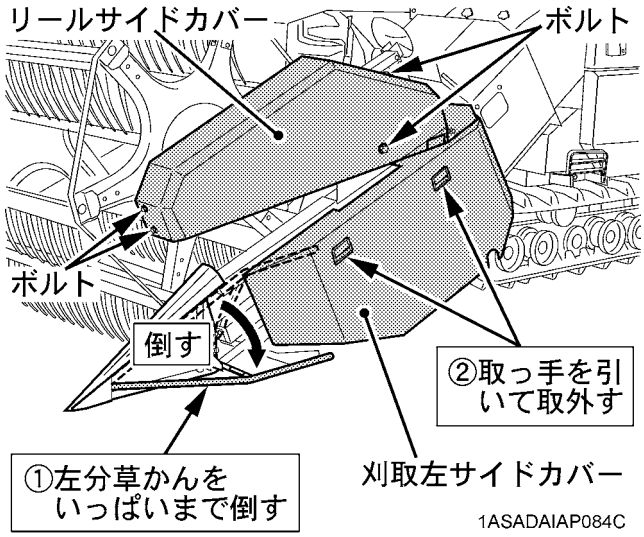
◆取付けかた
取外しかたと逆の手順で取付けます。

[C 仕様]

■リールサイドカバー・刈取左サイドカバーの脱着

刈取部を地面に接地させて行なってください。

◆ 取外しかた
1. 刈取部を地面に接地させたあと，エンジンを停止します。
2. 左分草かんを外側いっぱいまで倒します。
3. リールサイドカバーはボルトを外して取外し，刈取左サイドカバーは取っ手を引いて取外します。



◆ 取付けかた
取外しの逆の手順で取付けます。

■メンテナンス用補助ステップの開閉

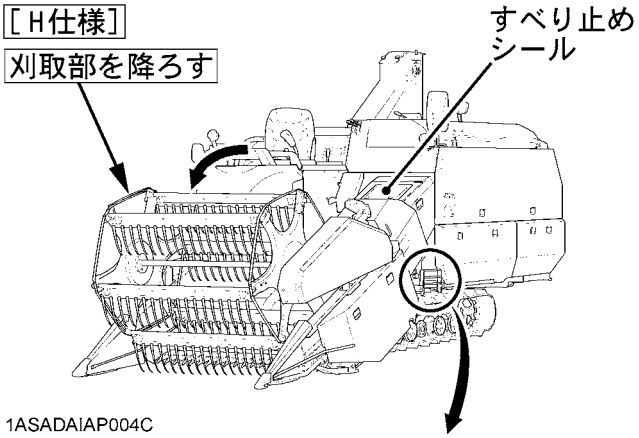
注　意

＊ フィーダやこぎ胴上部に上がって作業を行なうときは，転倒・転落のおそれがありますので，足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。

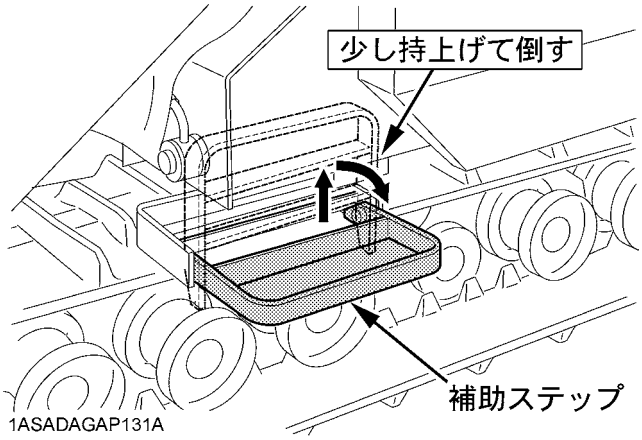
メンテナンス用補助ステップは，フィーダやこぎ胴上部に上がって，メンテナンスや掃除などの作業を行なうとき，フィーダに上がるための補助ステップです。

◆ 開きかた

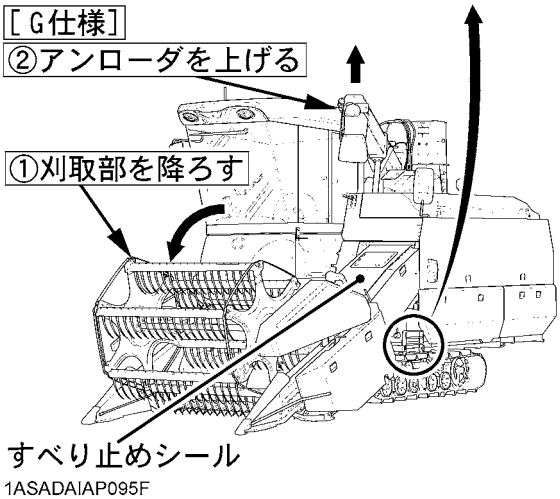
1. 機体を平たんな場所に止めたあと，アンローダ**【G 仕様】**を上昇したあと，刈取部を地面に接地するまで降ろします。
2. エンジンを停止したあと，フィーダやこぎ胴上部へ上がるときは，メンテナンス用補助ステップを倒し，補助ステップを使ってフィーダのすべり止めシール部に渡り，こぎ胴上部へ上ります。



1ASADAIAP004C



1ASADAGAP131A



1ASADAIAP095F

◆ 閉じかた

開きかたの逆の手順で閉じます。

補　足

＊ 刈取作業中は補助ステップを閉じて収納状態にしておいてください。

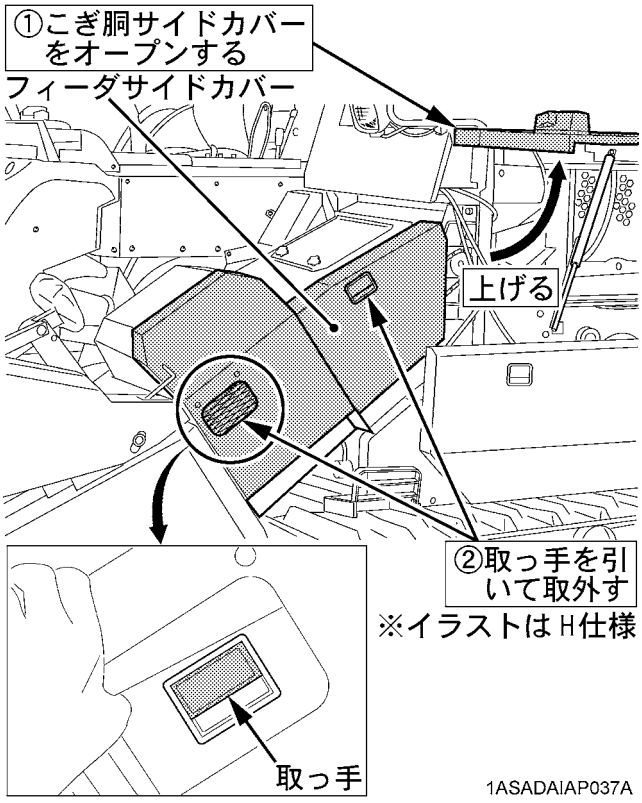
■フィーダサイドカバーの脱着

刈取部を地面に接地させて行なってください。

◆ 取外しかた

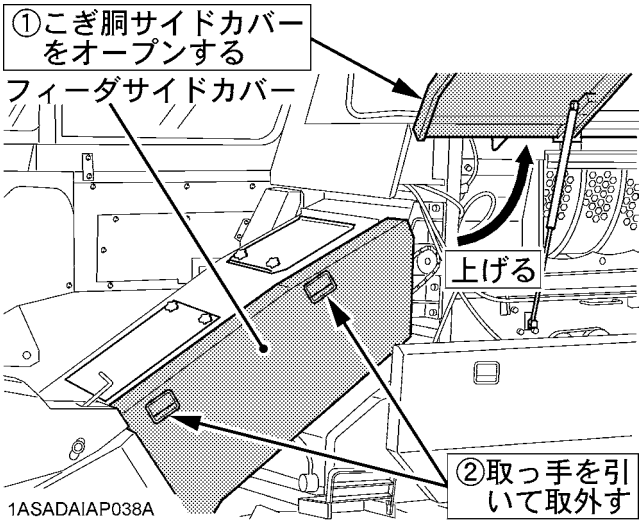
1. 刈取部を地面に接地させたあと，エンジンを停止します。
2. こぎ胴サイドカバーをオープンしたあと，取っ手を引いてフィーダサイドカバーを取外します。

[C 仕様除く]



[C 仕様除く]

[C 仕様]



[C 仕様]

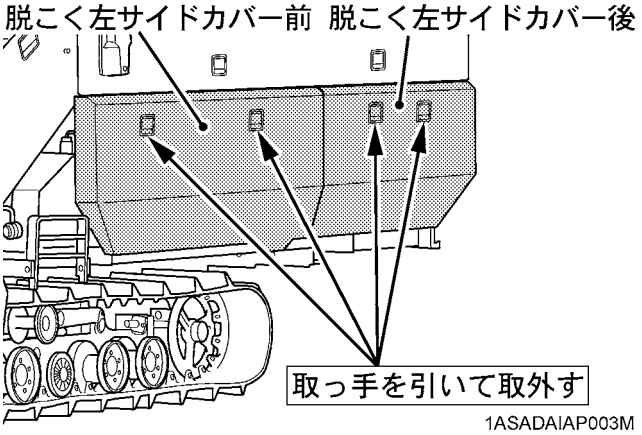
◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。

■脱こく左サイドカバー前・後の脱着

◆ 取外しかた

取っ手を引いて脱こく左サイドカバー前・後を取外します。



◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けます。

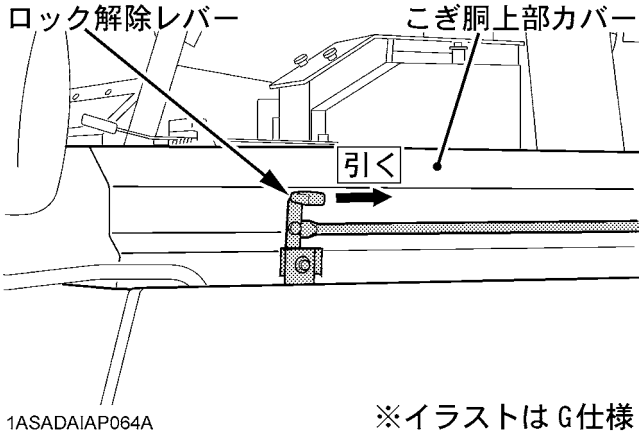
■こぎ胴上部カバーオープン

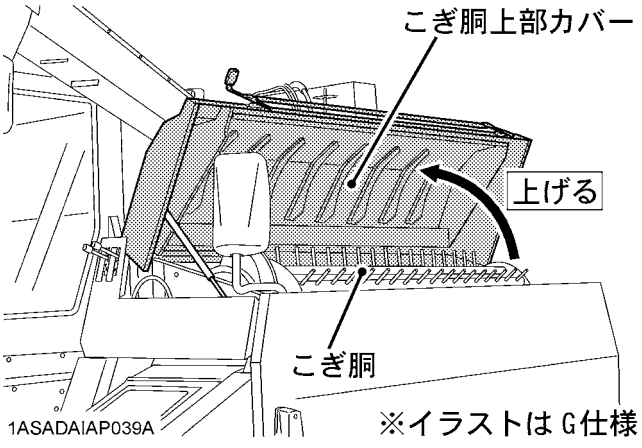
注　意

＊ エンジン停止直後は，オープンしないでください。惰性でこぎ胴が回転しているおそれがあり，ケガをするおそれがあります。
＊ 手や指をはさまれてケガをするおそれがあるので，こぎ胴上部カバーはゆっくりと開閉してください。

◆ 開きかた

オープンレバーを後方に引いてロックを解除したあと，こぎ胴上部カバーを上げます。





補　足

＊ 上部カバーはいっぱいまで上げてください。

◆ 閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

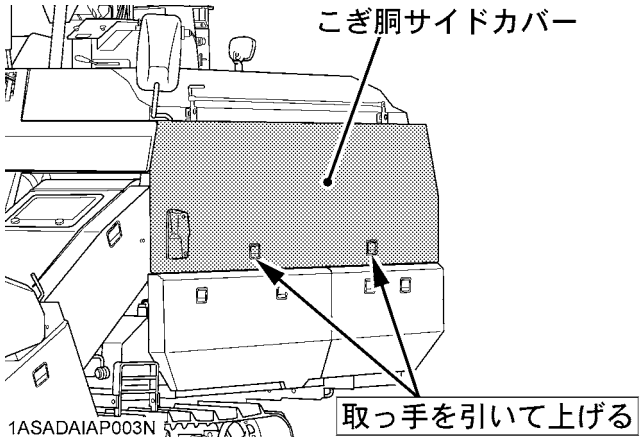
補　足

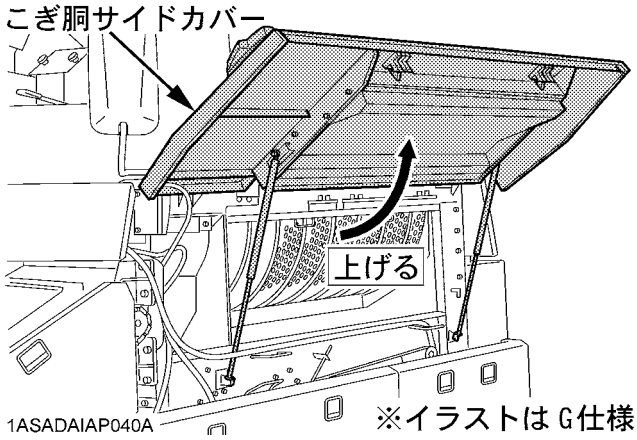
＊ こぎ胴上部カバーはロックレバーがロックするまで閉じてください。

■こぎ胴サイドカバーオープン

◆ 開きかた

こぎ胴サイドカバーの取っ手を引いて上げます。





補　足

＊ こぎ胴サイドカバーはいっぱいまで上げてください。

◆ 閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

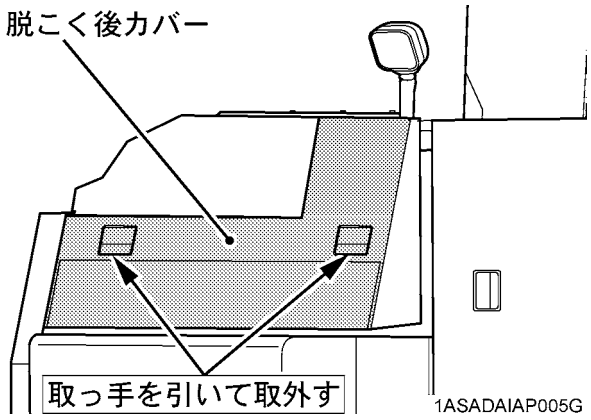
重　要

＊ こぎ胴サイドカバーを閉じたときは，取っ手が機体側に確実にロックしていることを確認してください。不意にカバーが開くと障害物と接触してカバーが破損するおそれがあります。

■脱こく後カバーの脱着

◆ 取外しかた

取っ手を引いて脱こく後カバーを取外します。



◆ 取付けかた

取外しかたと逆の手順で取付けます。

■シーブケースの脱着

警　告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注　意

＊ 脱着作業は，合図を掛け合って 2 人以上で行なってください。

◆ 抜出しかた

1. こぎ胴サイドカバーをオープンします。(125 ページ参照)
2. 脱こく左サイドカバー前，後及び脱こく後カバーを取外します。(124 ページ参照)

[H 仕様]

3. ホッパをオープン（132 ページ参照）したあと，脱こく右後部カバーを取外し（133 ページ参照）ます。

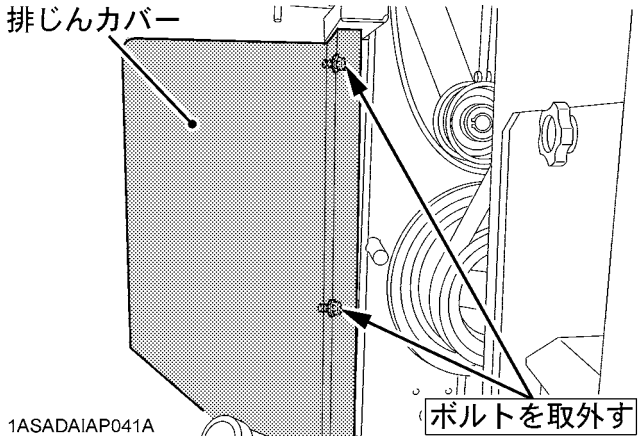
[H 仕様]

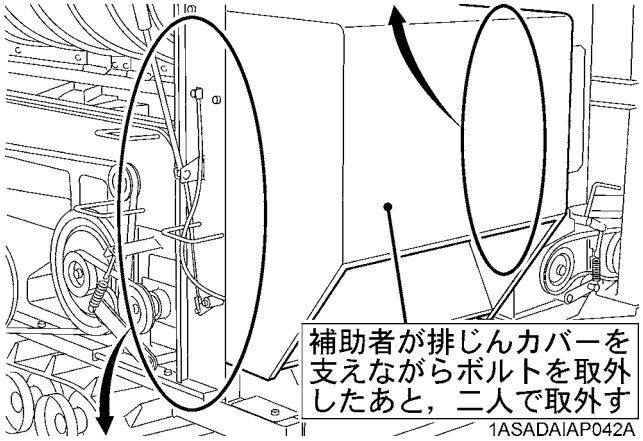
[G 仕様]

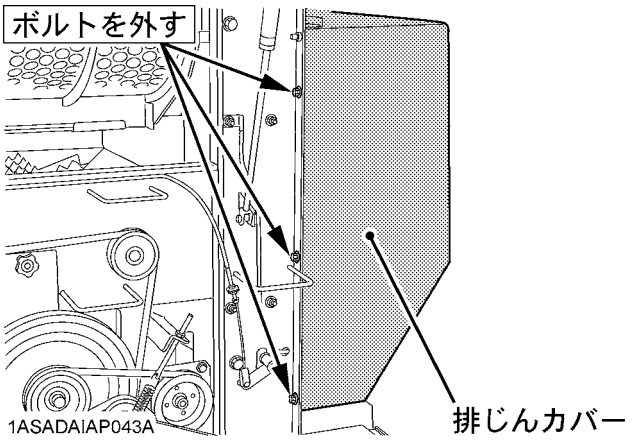
3. グレンタンク後部カバーをオープンします。(134 ページ参照)

[G 仕様]

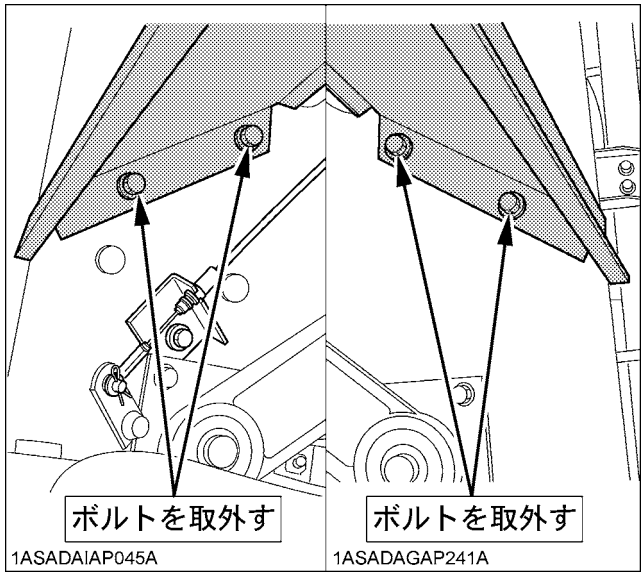
4. 排じんカバーを取外します。

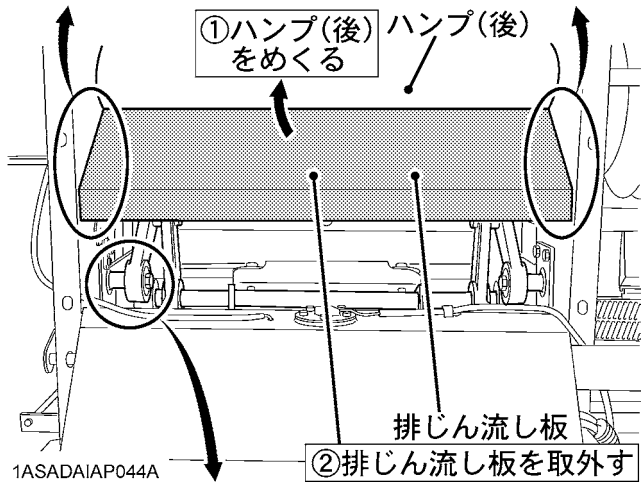


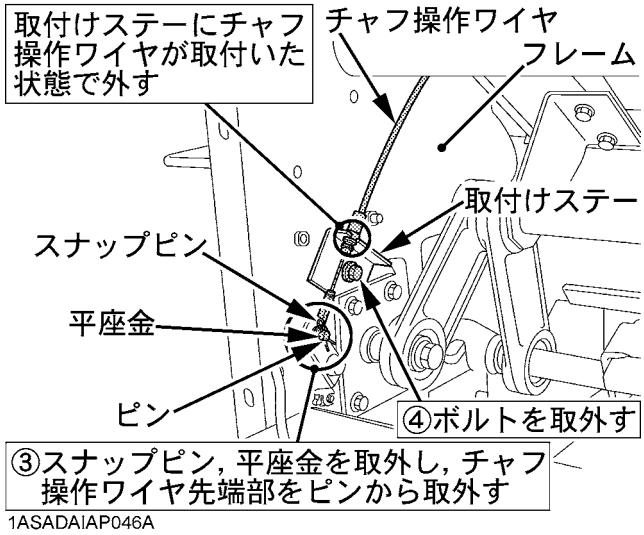




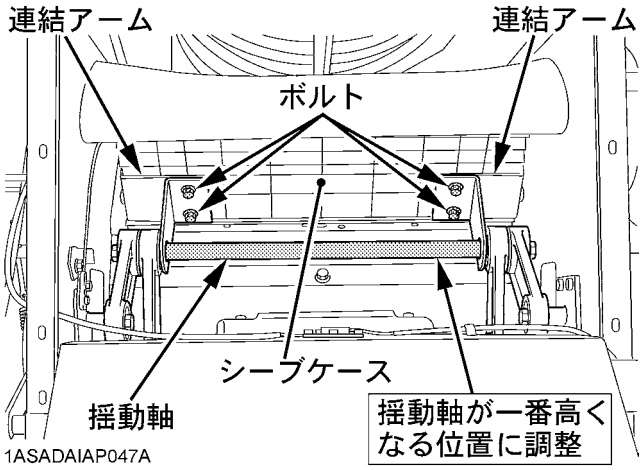
5. 排じん流し板を取外したあと，チャフ操作ワイヤをフレームから外します。



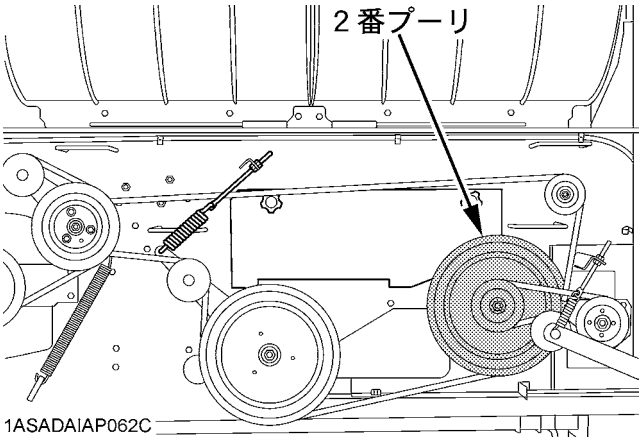




6. ２番プーリを回して，揺動軸が一番高くなる位置に調整したあと，シーブケースに固定している揺動軸の連結アームのボルトを取外します。

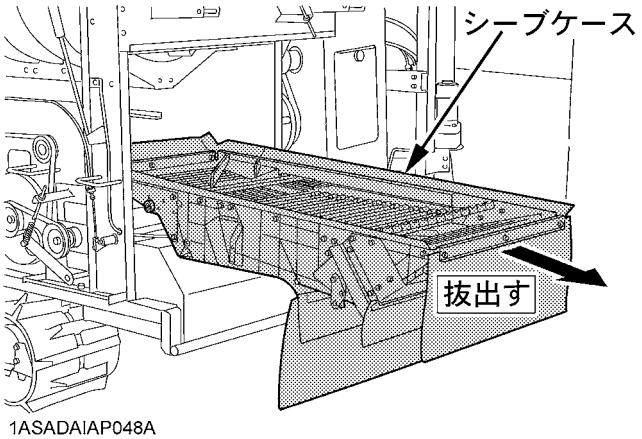


1ASADAIAP047A



1ASADAIAP062C

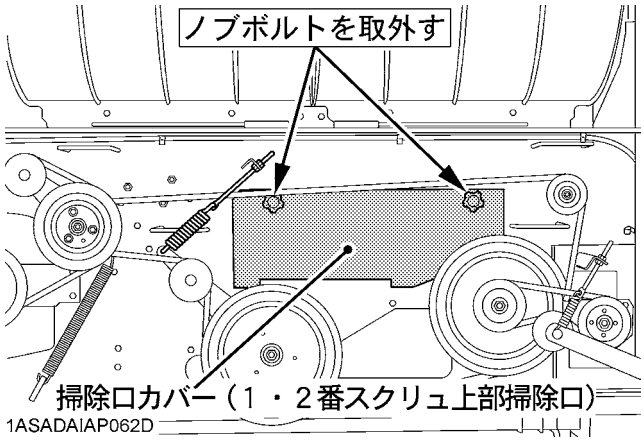
7. 補助者を含めて 2 人以上でシーブケースを抜出します。



1ASADAIAP048A

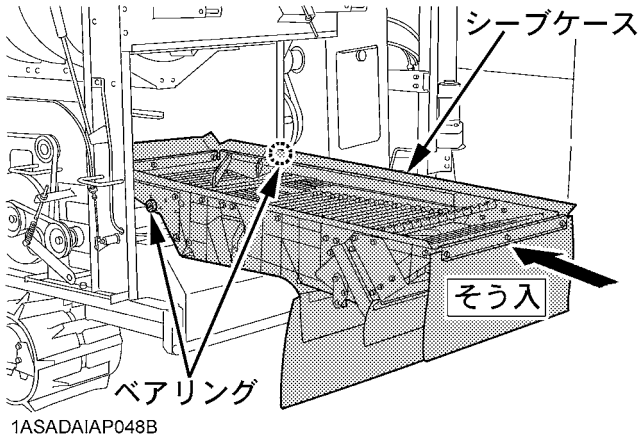
◆ **取付けかた**

1. 1・2 番スクリュ上部掃除口カバーを取外します。

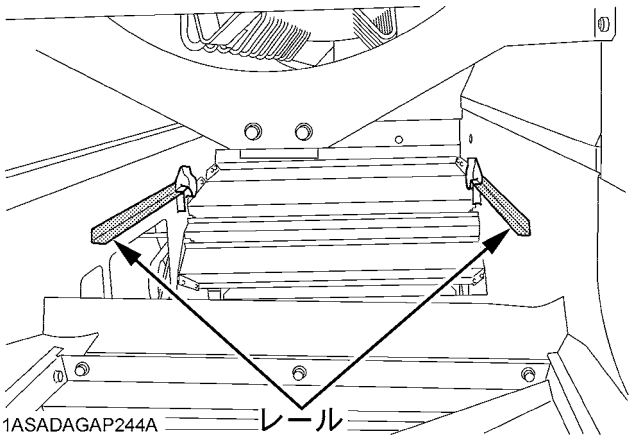


1ASADAIAP062D

2. シーブケースの両サイドにあるベアリングをレールに乗せ,補助者を含めて2人以上でシーブケースをそう入します。

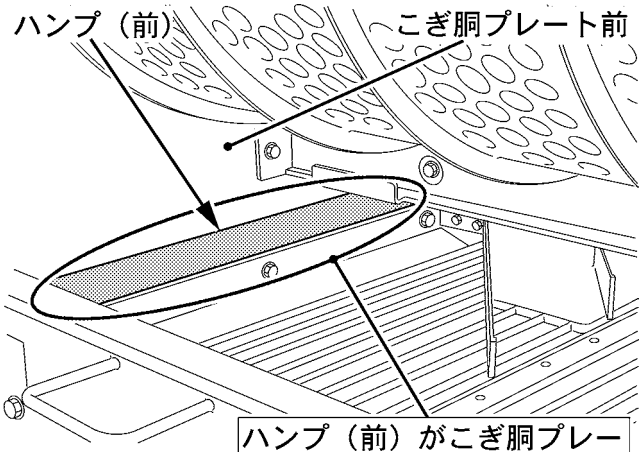


1ASADAIAP048B

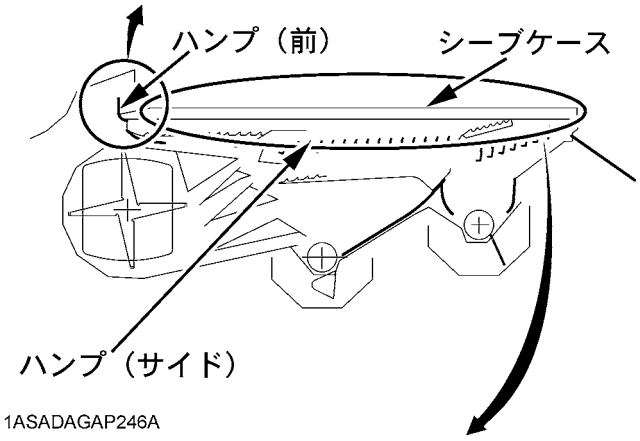


1ASADAGAP244A

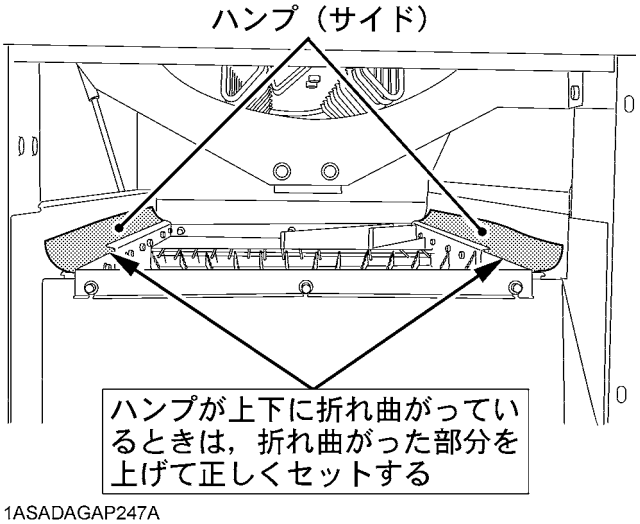
3. 各ハンプをセットします。
   (1) ハンプ（前）の先端部がこぎ胴プレート前の下側に入っているか確認し，正しくセットします。
   (2) ハンプ（サイド）の左，右は端部に折れ曲りがないか確認し，正しくセットします。



1ASADAGAP245A

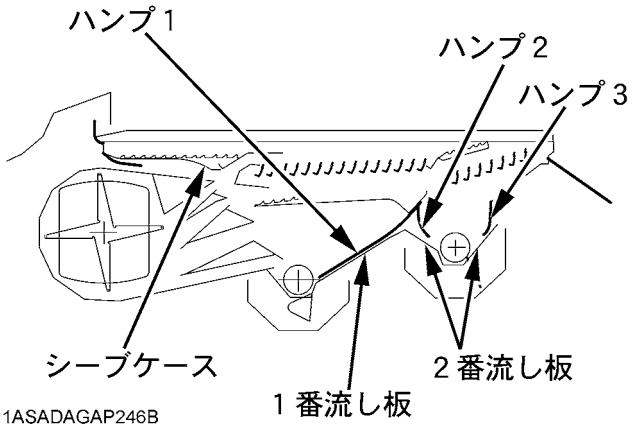


1ASADAGAP246A

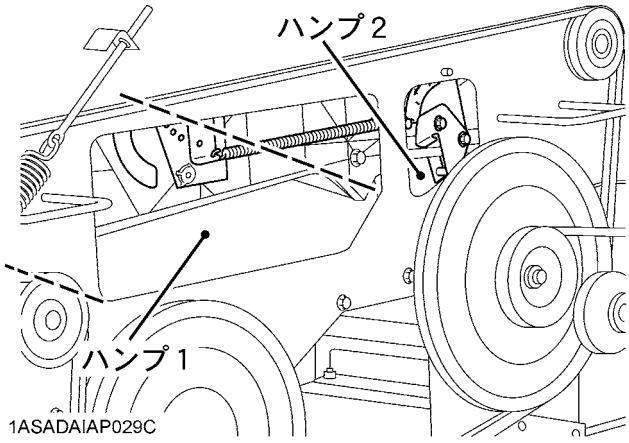


1ASADAGAP247A

(3) ハンプ１，２は１，２番横スクリュ上部掃除口を取外し，１番，2 番流し板に正しくセットします。
(4) ハンプ３は２番流し板の後側にセットします。



1ASADAGAP246B

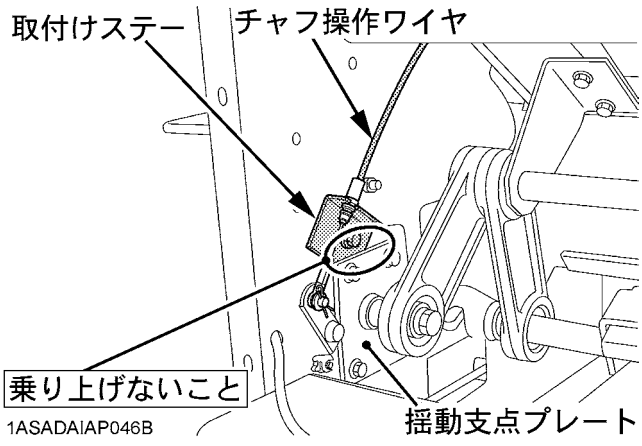


1ASADAIAP029C

4. シーブケースに揺動軸の連結アームを取付けます。
5. フレームにチャフ操作ワイヤを取付けます。

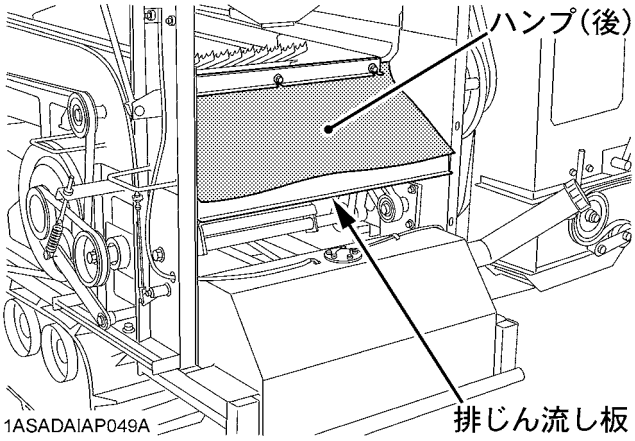
補　足

＊ 取付けステーを取付けるときは，揺動支点プレートに取付けステーが乗り上げないように下図の位置で取付けてください。



1ASADAIAP046B

6. 排じん流し板を取付けたあと，ハンプ（後）を排じん流し板の上に垂らします。



7. 取外した逆の手順で排じんカバーを取付けます。

[H 仕様]

8. 脱こく右後部カバーを取付けたあと，ホッパを閉じます。

[G 仕様]

[G 仕様]

8. グレンタンク後部カバーを閉じます。

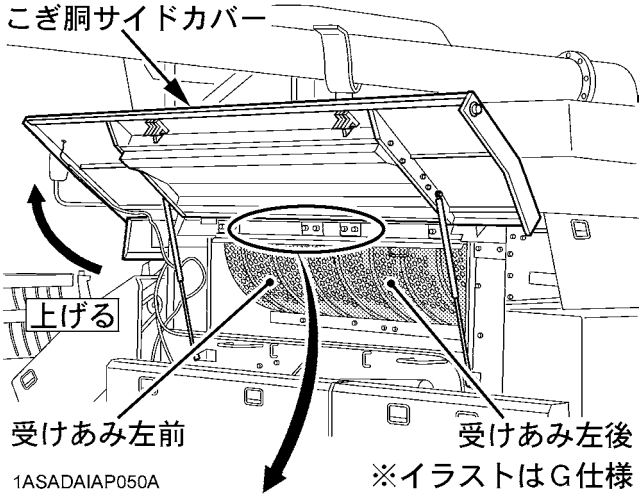
[G 仕様]

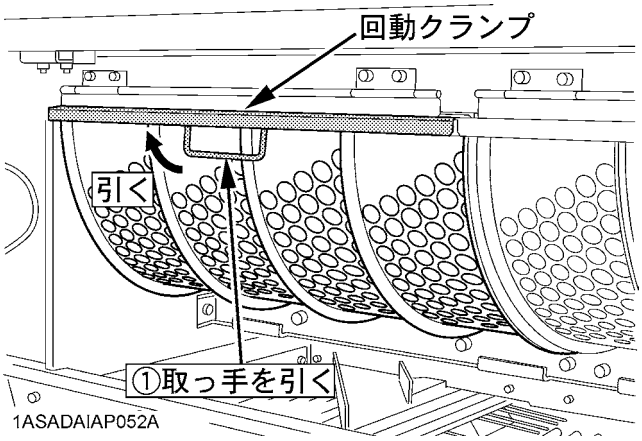
9. 脱こく左サイドカバー前，後及び脱こく後カバーを取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。

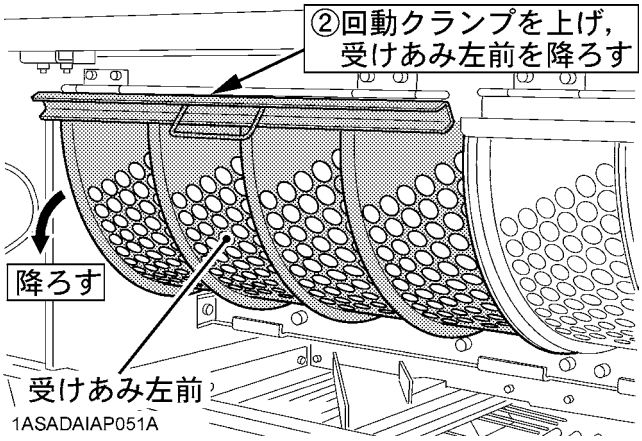
■受けあみの脱着

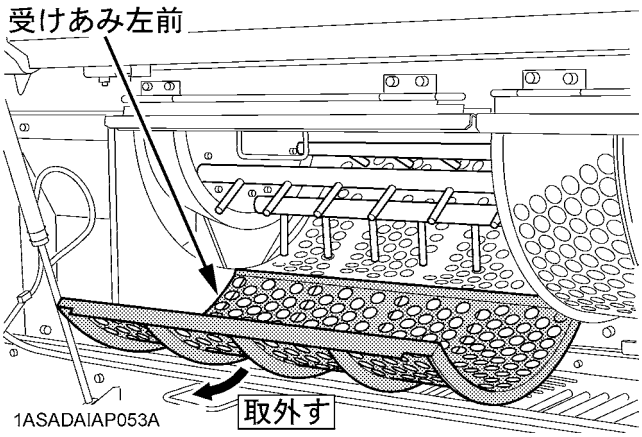
◆ 取外しかた

1. こぎ胴サイドカバーをオープンします。(125 ページ参照)
2. 受けあみ左前又は，後の上部にある受けあみを固定する取っ手付き回動ランプの取っ手を手前に引きながら受けあみを取外します。

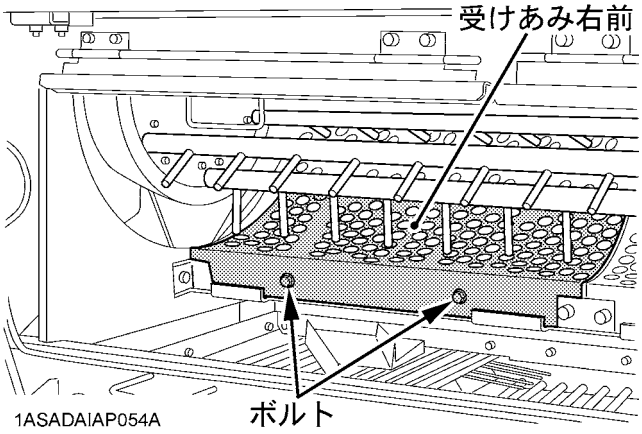


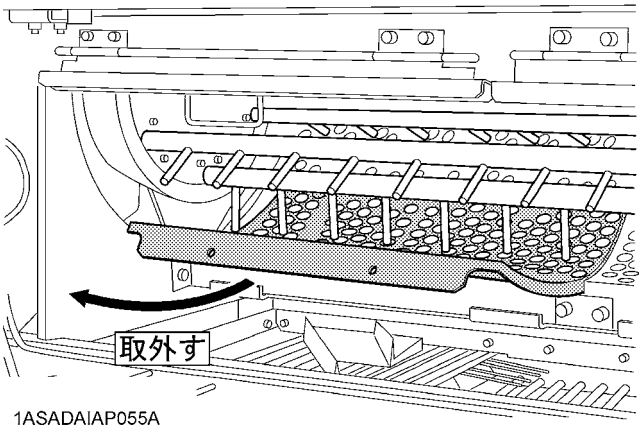






3. 同じ要領でもう一方の受けあみを取外します。
4. 受けあみ右前又は，後の下部にあるボルトを外して，受けあみ右を手前に引いて取外します。





5. 同じ要領でもう一方の受けあみを取外します。

◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。

重　要

＊ 受けあみ左は回動クランプで確実にクランプしていることを確認してください。受けあみが脱こく機内で脱落すると故障の原因となります。

■ホッパオープン

[H 仕様]

警 告

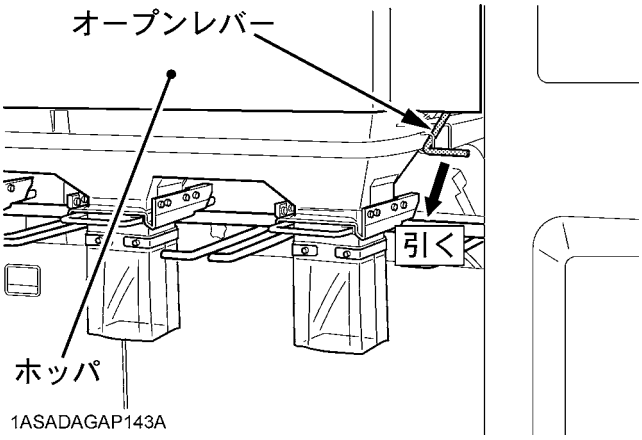
- **＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **＊ ホッパを開いた状態で走行しないでください。**
- **＊ ホッパ開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **＊ 傾斜地では，ホッパの開閉を行なわないでください。**

注 意

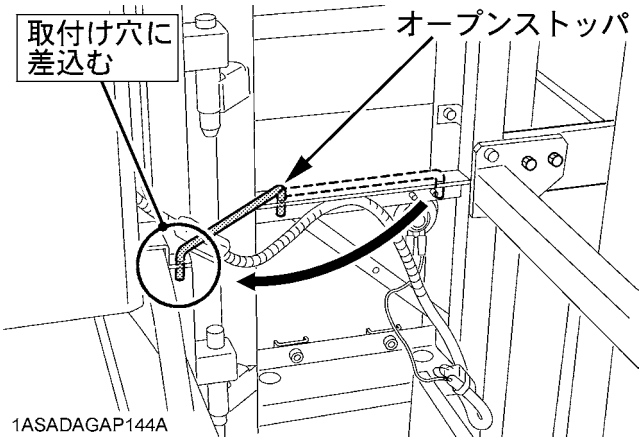
- **＊ ホッパを開いたときは，ホッパが閉じないようにストッパを必ず掛けてください。ホッパが閉じると体がはさまれてケガをするおそれがあります。**

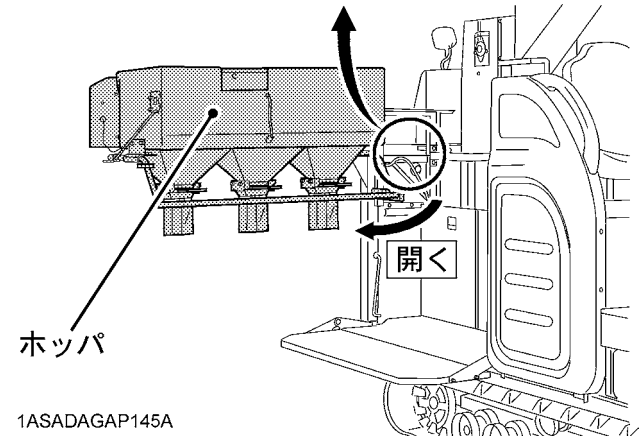
◆ 開きかた

1. ホッパ内に残っているこく粒は，すべて排出します。(100 ページ参照)
2. 主変速レバーを**［停止］**位置，刈取・脱こくクラッチレバーを**［切］**位置にしたあと，エンジンを停止します。
3. オープンレバーを引き，ゆっくりとホッパを開きます。



4. ホッパをいっぱいまで開いたあと，オープンストッパをホッパ側の取付け穴に差込みます。





◆ 閉じかた

開きかたの逆の手順で閉じます。

重 要

- ＊ ホッパを閉じたときは，ホッパ機体側に確実にロックしていることを確認してください。不意にホッパが開くと障害物と接触してホッパが破損するおそれがあります。

[H 仕様]

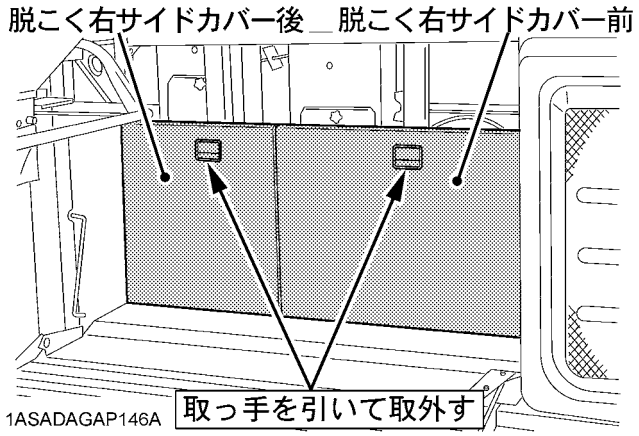
■脱こく右サイドカバー前・後の脱着

[H 仕様]

ホッパをオープンして行なってください。

◆ 取外しかた

1. ホッパをオープンします。(132 ページ参照)
2. 取っ手を引いて脱こく右サイドカバー前・後を取外します。



◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けたあと, ホッパを閉じます。

[H 仕様]

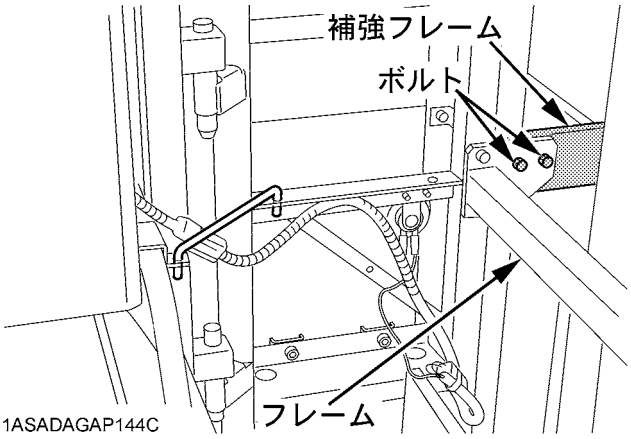
■脱こく右後部カバーの脱着

[H 仕様]

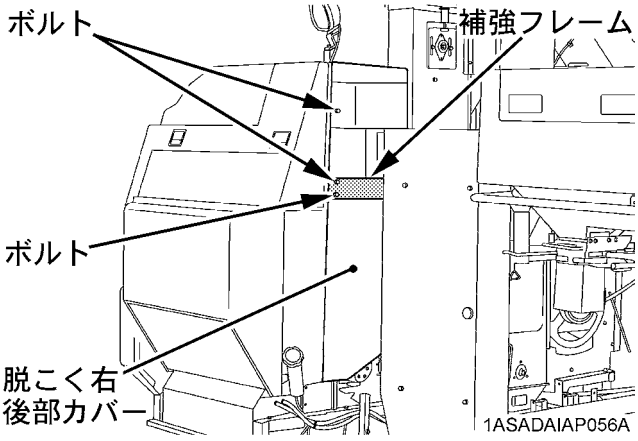
ホッパをオープンして行なってください。

◆ 取外しかた

1. ホッパをオープンします。(132 ページ参照)
2. 脱こく側ホッパのフレームに取付けている脱こく右後部カバーの補強フレームのボルトを取外します。



3. 脱こく右後部カバーを機体側に取付けているボルトを外して脱こく右後部カバーを取外します。



◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けたあと, ホッパを閉じます。

[H 仕様]

■グレンタンクオープン

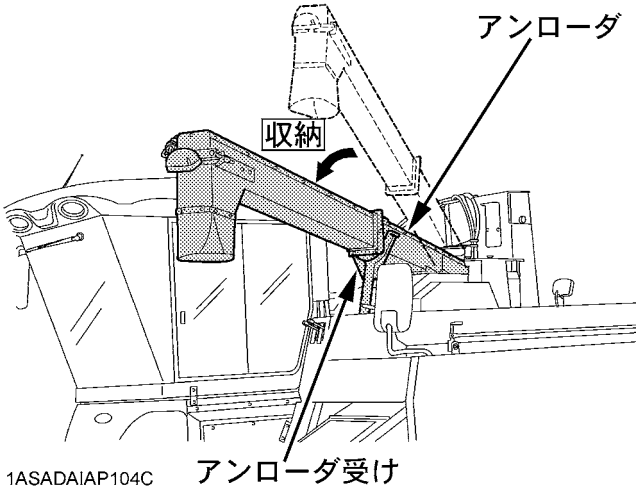
[G 仕様]

注 意

- **＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **＊ グレンタンクを開いた状態で走行しないでください。**
- **＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。**
- **＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。**

◆開きかた

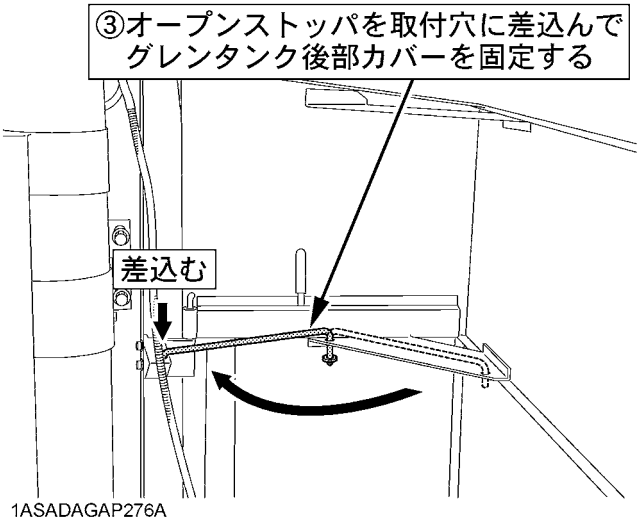
1. グレンタンク内に残っているこく粒は，すべて排出します。
2. 主変速レバーを**【停止】**位置，各作業クラッチ（刈取，脱こく，もみ排出）レバーを**【切】**位置にします。
3. アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。

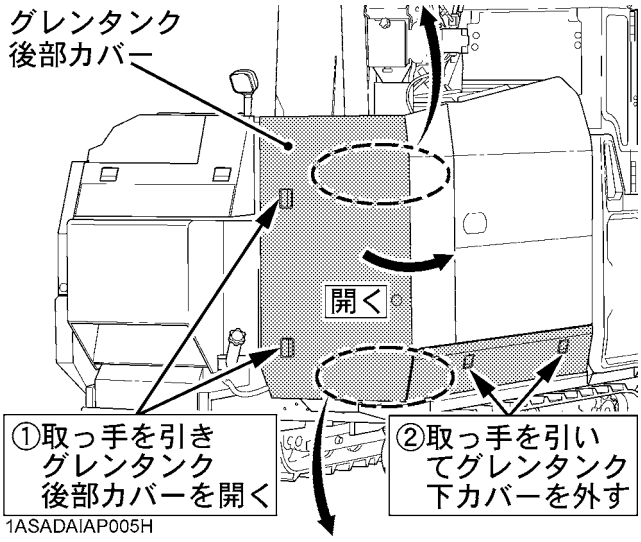


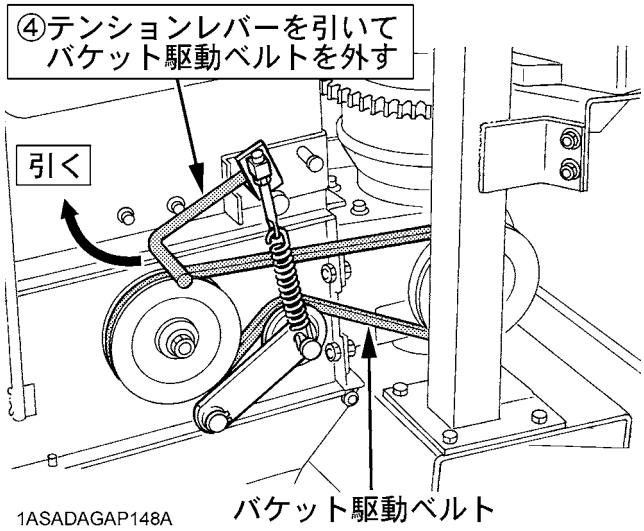
重 要

＊ グレンタンクの開閉を行なうときは，アンローダを必ず収納位置にしてください。

4. グレンタンクをオープンします。

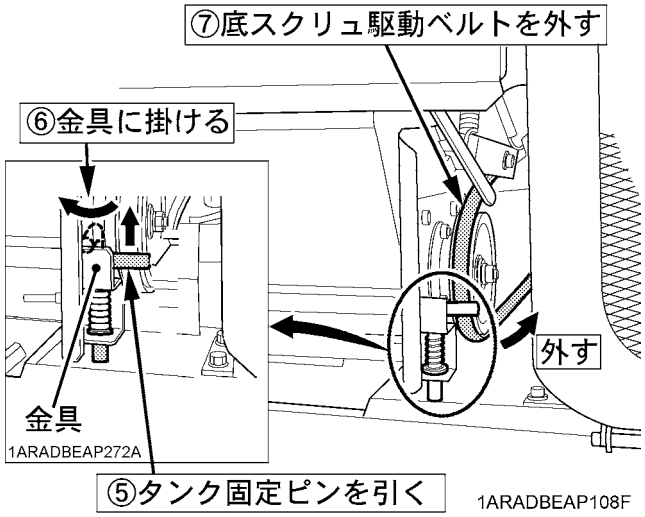


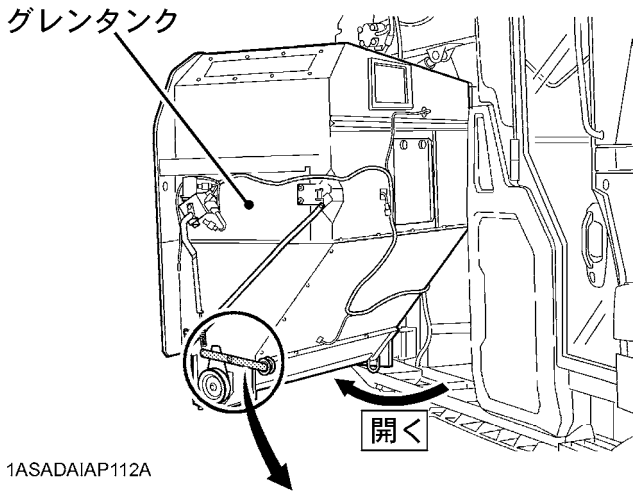


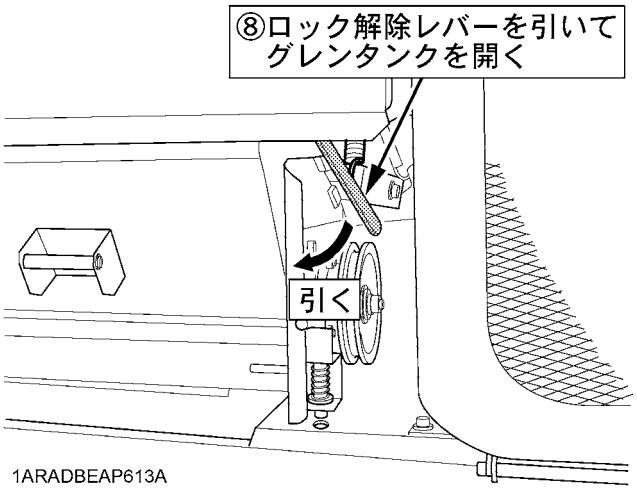


重 要

＊ グレンタンク後部カバーが閉じた状態でグレンタンクをオープンすると，グレンタンク後部カバーが変形や破損するおそれがあります。







◆ 閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

重　要

＊ 底スクリュ駆動ベルト及びバケット駆動ベルトは確実に掛けてください。ベルトが掛かっていないと，こく粒を排出しません。また，ベルトを破損するおそれがあります。

＊ グレンタンクのロックや固定ピンの差込みは確実に行なってください。

[G 仕様]

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊ エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
＊ 各搬送チェーンや刃部には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注　意

＊ 刈取部やリールを上げた状態で作業するときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 空運転するときには必ず各カバーを閉じてください。
＊ フィーダやこぎ胴上部に上がって作業を行なうときは，転倒・転落のおそれがありますので，足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。（クローラなどのゴム製品が劣化します）
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 刈刃の掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重　要

＊ 水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊ 掃除口を閉じるときは，掃除口にこく粒の付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを忘れるとこく粒が飛散します。
＊ 機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。
＊ 湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。
＊ 取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

■各部の掃除

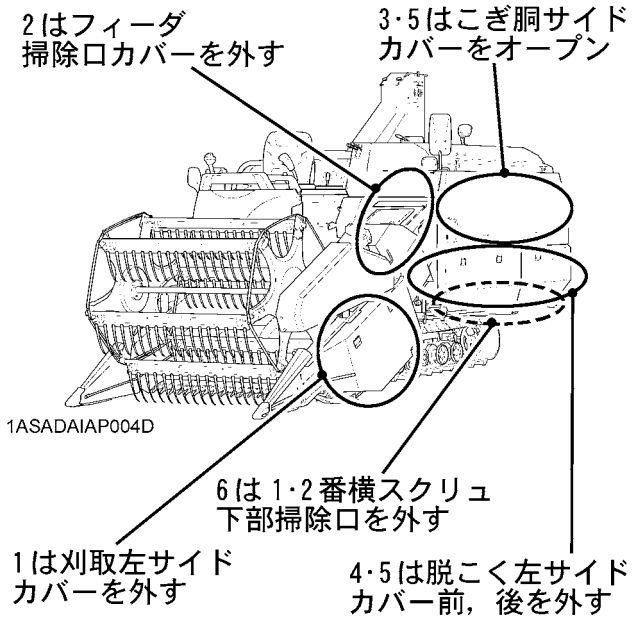
品種の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆ 掃除のしかた

刈取作業が終わり，こく粒の排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にしてエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部の開閉部を開き，掃除口を開いてください。

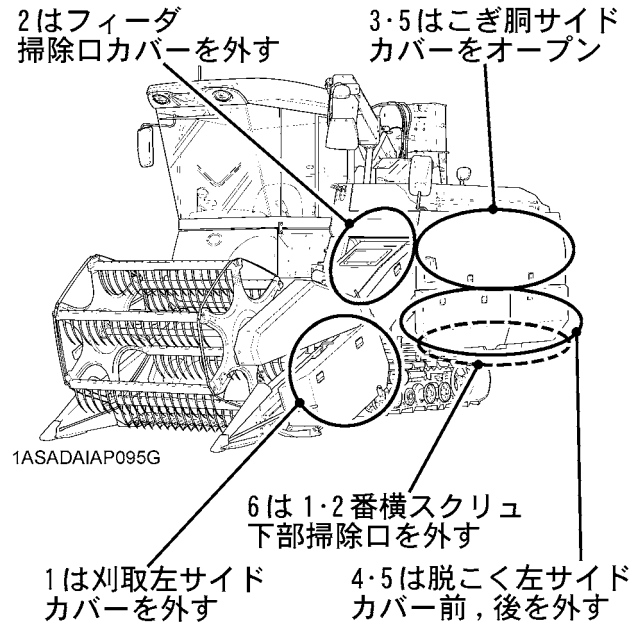
◆ 掃除箇所

[H 仕様]



[H 仕様]

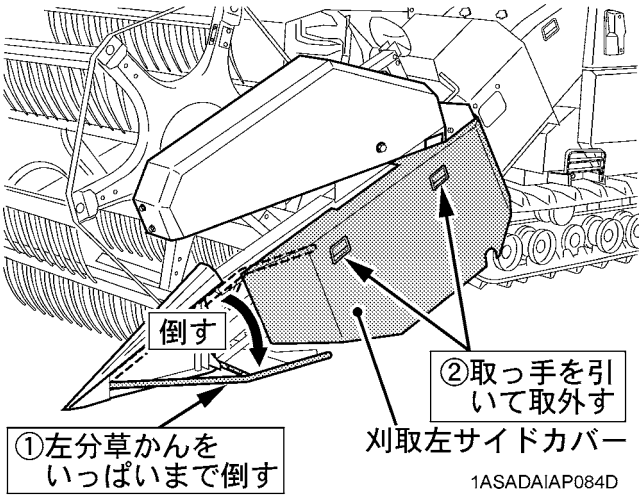
[G 仕様]



[G 仕様]

1. 刈取左サイドカバー内

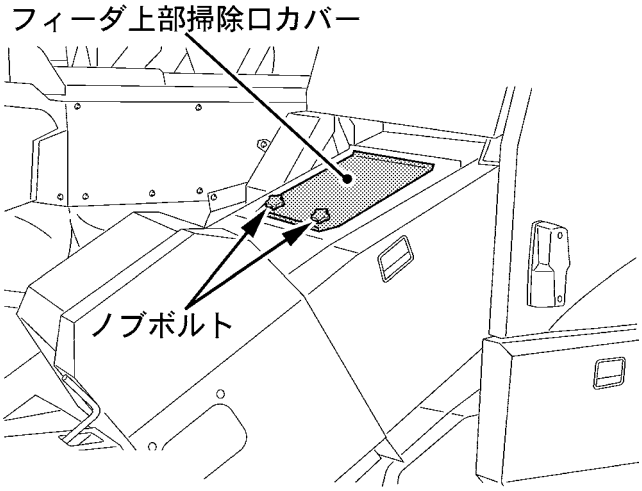
左分草かんを外側いっぱいまで倒したあと，取っ手を引いて刈取左サイドカバーを取外して掃除してください。掃除後は，刈取左サイドカバーを取付けてください。



2. フィーダ掃除口内

[C 仕様除く]

ノブボルトを外してフィーダ上部掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，フィーダ上部掃除口カバーを取付けてください。



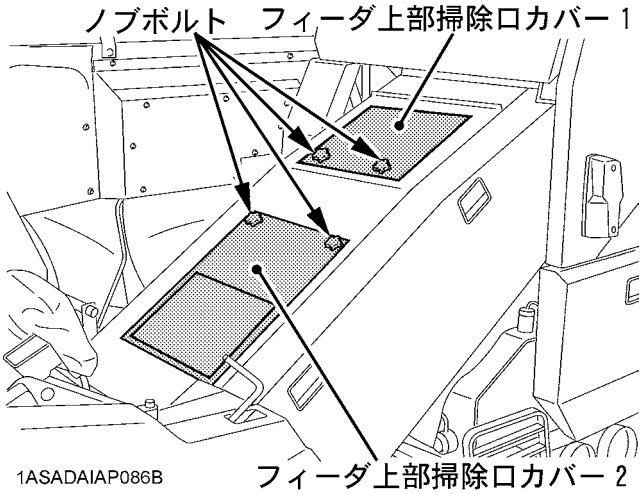
1ASADAIAP085B

※イラストはH仕様

[C 仕様除く]

[C 仕様]

ノブボルトを外してフィーダ上部掃除口カバー１，２を取外して掃除してください。掃除後は，各掃除口カバーを取付けてください。



1ASADAIAP086B

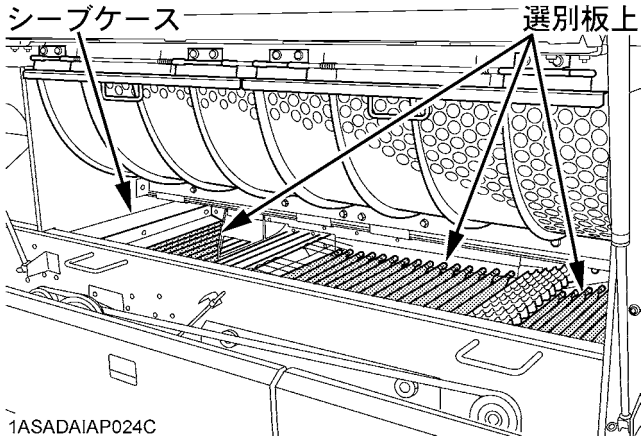
[C 仕様]

補　足

＊ 水分の高い作物や茎が青い状態の作物の刈取りを行なうと，フィーダ内部に作物のくずが溜まりやすいので，刈取作業が終わったあとは，毎日必ずフィーダ内の掃除を行なってください。

3. 脱こく部内（シーブケース内選別板上）

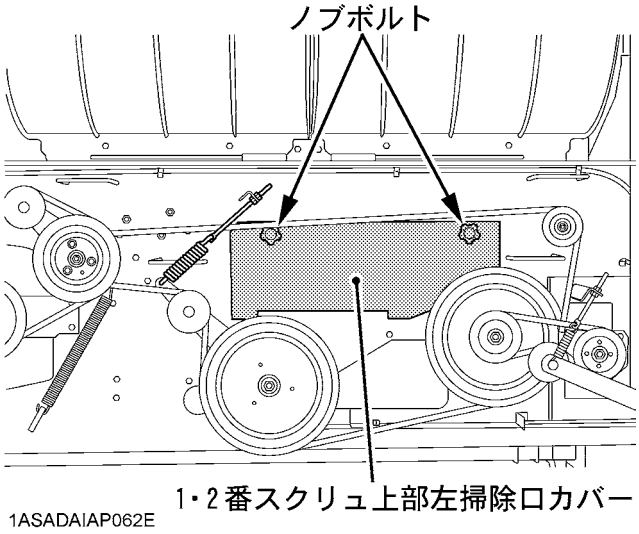
こぎ胴サイドカバーをオープンして掃除してください。掃除後は，こぎ胴サイドカバーを閉じてください。



1ASADAIAP024C

4. １・２番スクリュ上部左掃除口

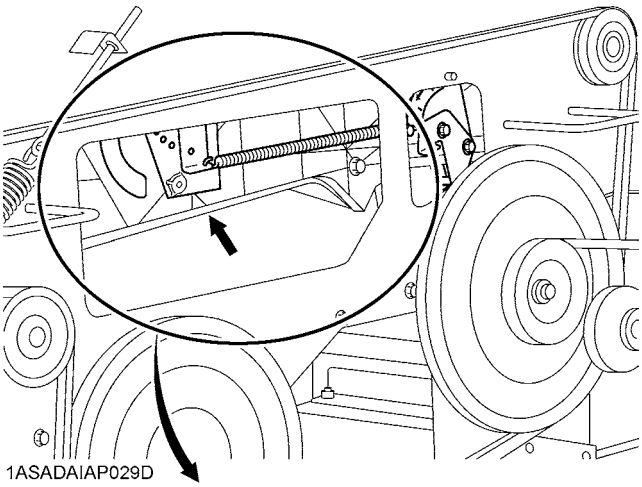
ノブボルトを外し，１・２番スクリュ上部の掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けたあと，脱こく左サイドカバー前，後を取付けてください。



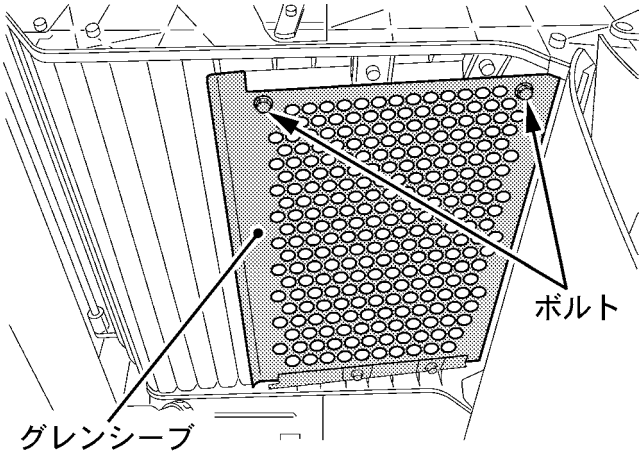
1ASADAIAP062E

補　足

＊ 必要に応じてボルトを外し，グレンシーブを抜いて掃除を行なってください。



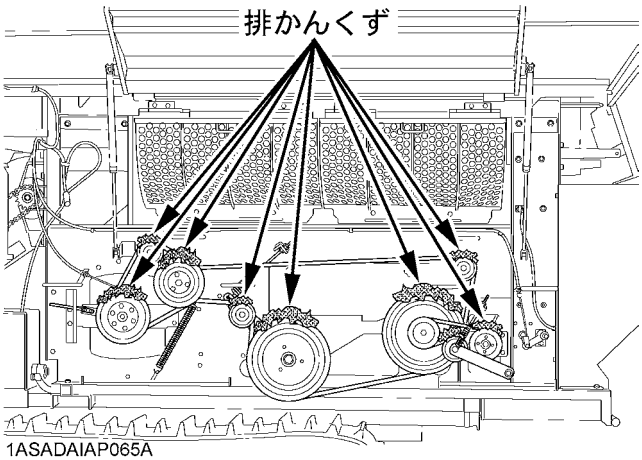
1ASADAIAP029D



1ASADAGAP150A

5. 脱こく左サイドカバー内

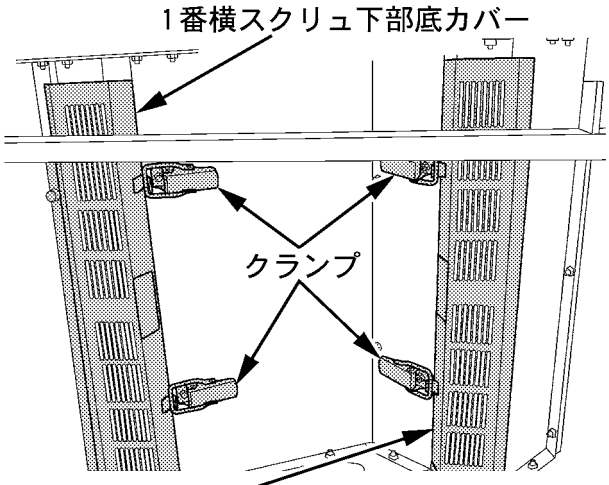
こぎ胴サイドカバーをオープンしたあと，脱こく左サイドカバー前，後を取外して掃除してください。掃除後は，脱こく左サイドカバー前，後を取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じてください。



1ASADAIAP065A

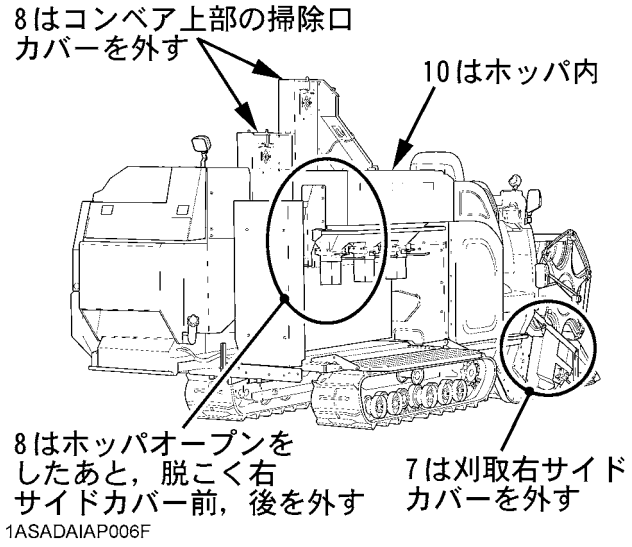
6. 1・2番横スクリュ下部底カバー内

クランプを外し，1・2番横スクリュ下部底カバーを取外して掃除してください。掃除後は，底カバーを閉じてクランプしてください。



1ASADAGAP048B

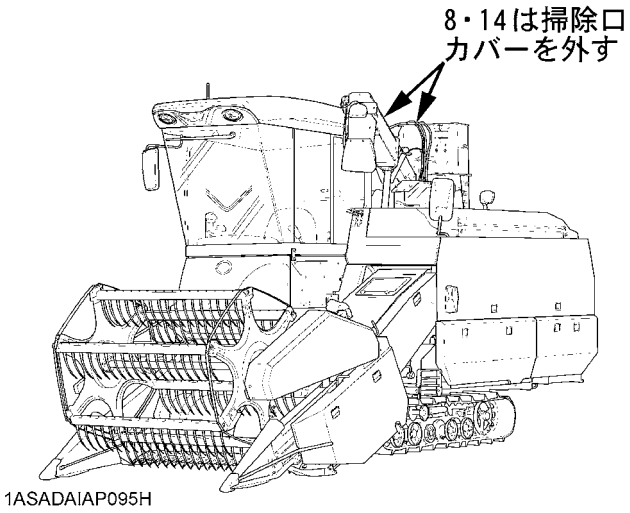
[H 仕様]



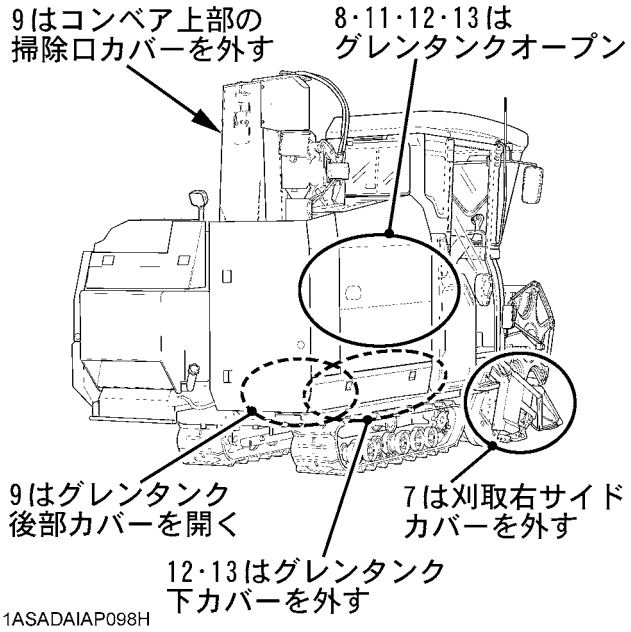
1ASADAIAP006F

[H 仕様]

[G 仕様]



1ASADAIAP095H

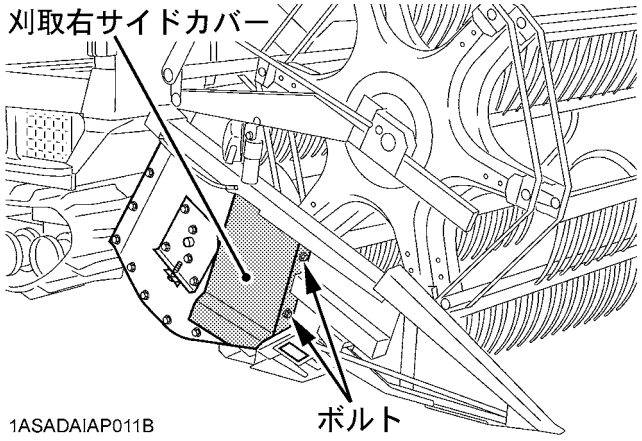


1ASADAIAP098H

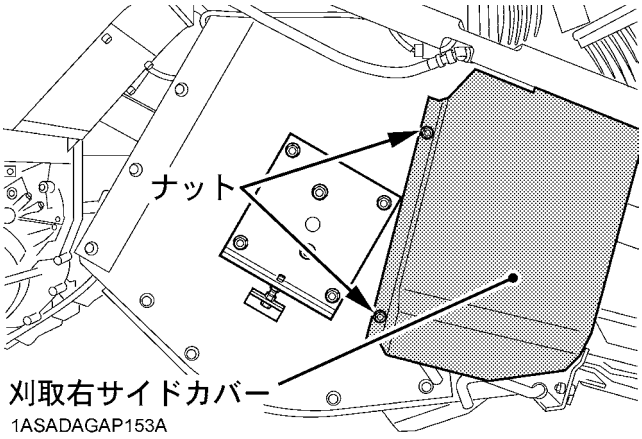
[G 仕様]

7. 刈取右サイドカバー内

ボルトとナットを外し，刈取右サイドカバーを取外して掃除してください。掃除後は，刈取右サイドカバーを取付けてください。



1ASADAIAP011B

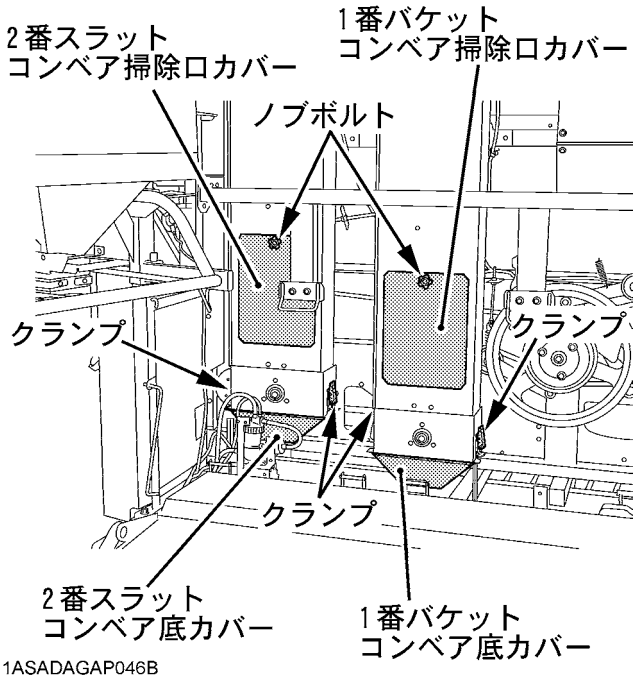


1ASADAGAP153A

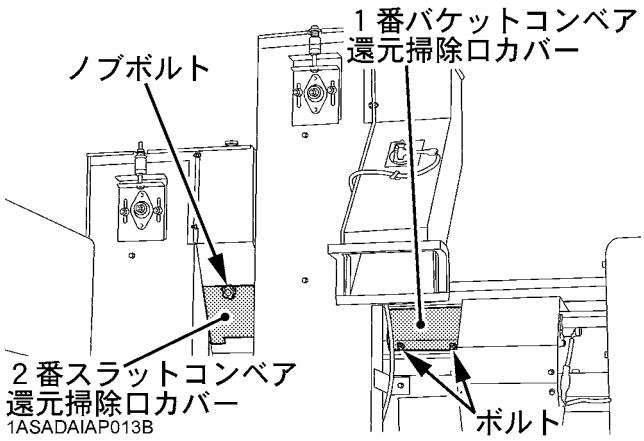
8. １番バケットコンベア・２番スラットコンベア掃除口内及び底カバー

ノブボルト又は，ボルトを外し，１・２番各コンベアの掃除口カバーの取外し及びクランプを外して各底カバーを取外して掃除してください。掃除後は，各掃除口カバーを取付けたあと，ホッパ**[H 仕様]** 又は，グレンタンク **[G 仕様]** を閉じてください。

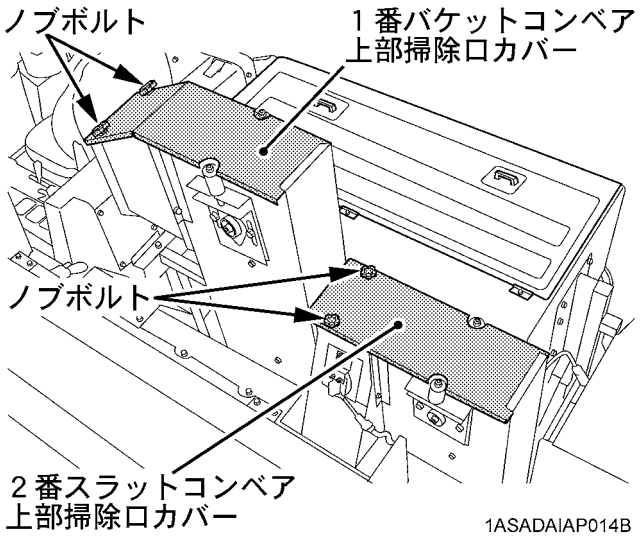
[H 仕様]



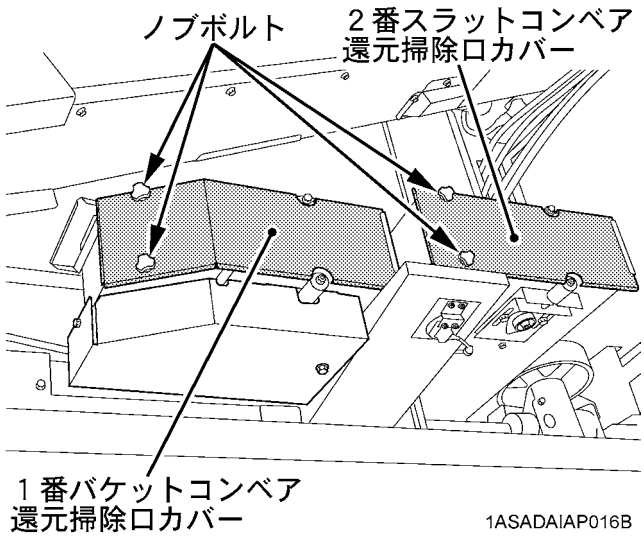
1ASADAGAP046B



1ASADAIAP013B

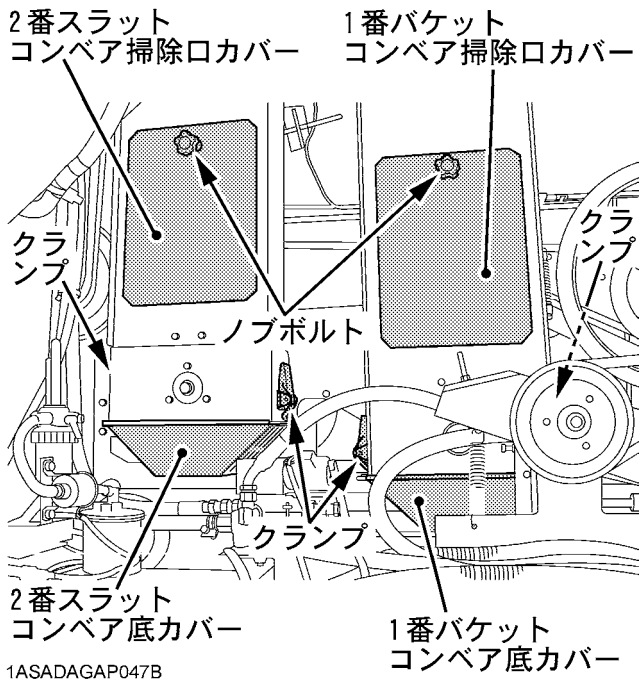


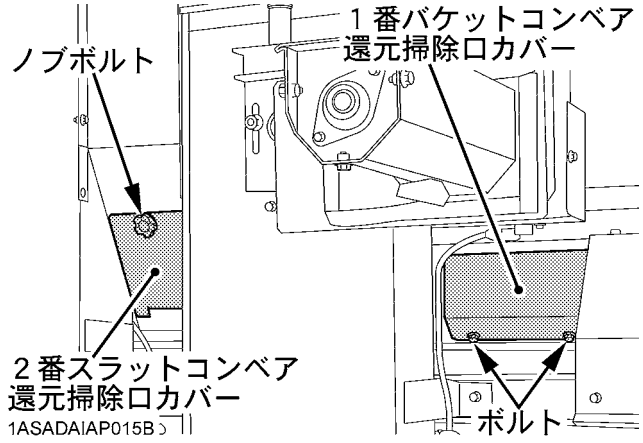
[H 仕様]



[G 仕様]

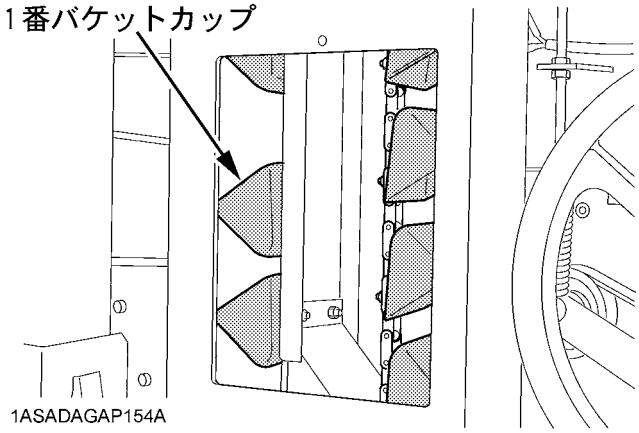
[G 仕様]

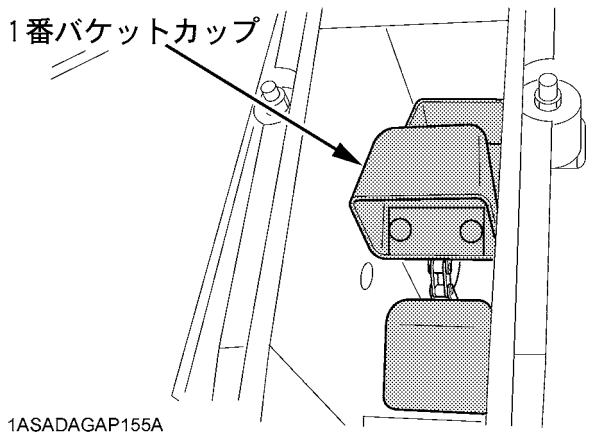


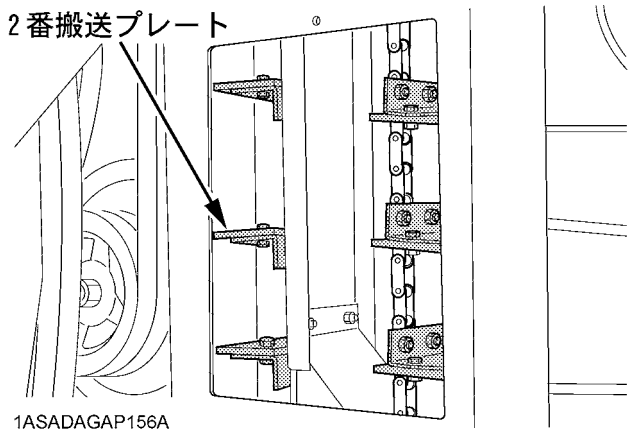


補　足

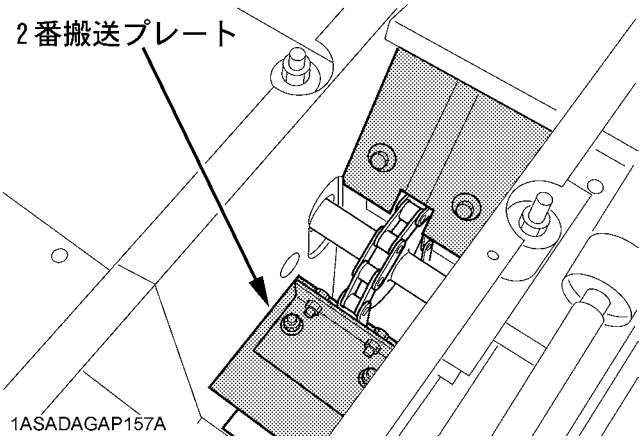
＊ バケットカップや搬送プレートの汚れを布などで拭取ってください。







1ASADAGAP156A

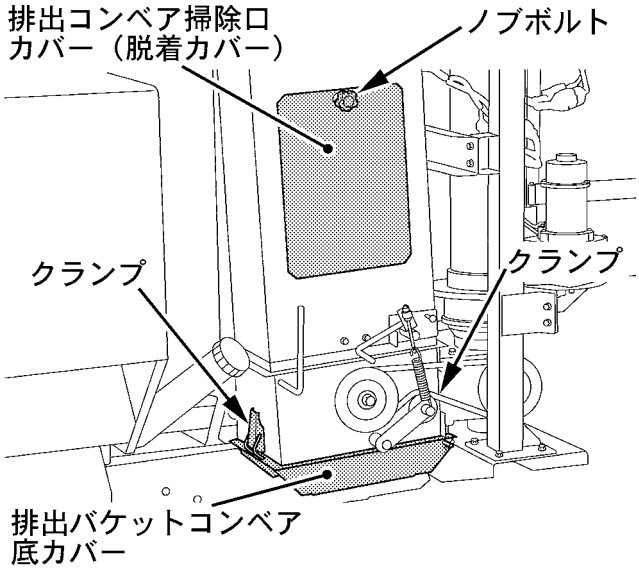


1ASADAGAP157A

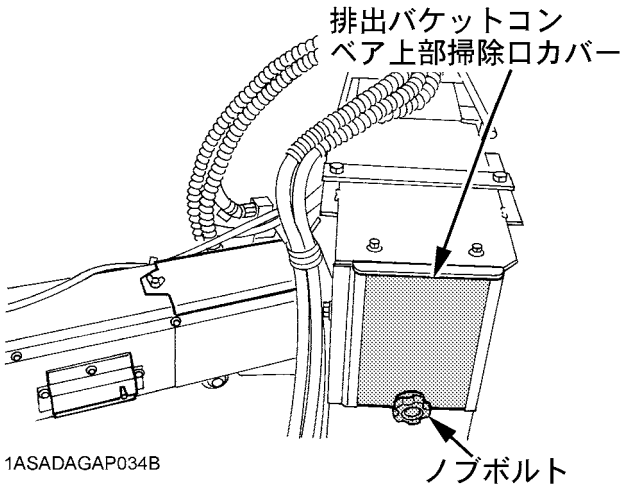
9. 排出バケットコンベア掃除口内及び底カバー内

[G 仕様]

ノブボルトを外して排出コンベアの掃除口カバーを取外し，クランプを外して底カバーを外して掃除してください。掃除後は，各掃除口カバー及び底カバーを取付けたあと，グレンタンク後部カバーを閉じてください。

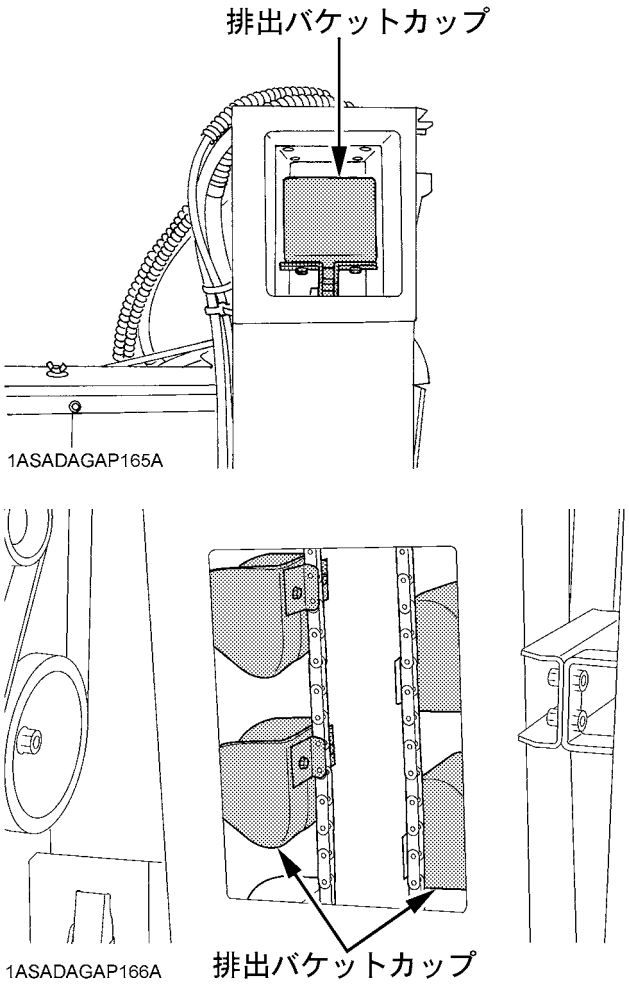


1ASADAGAP055B



補　足

＊ バケットカップの汚れを布などで拭取ってください。

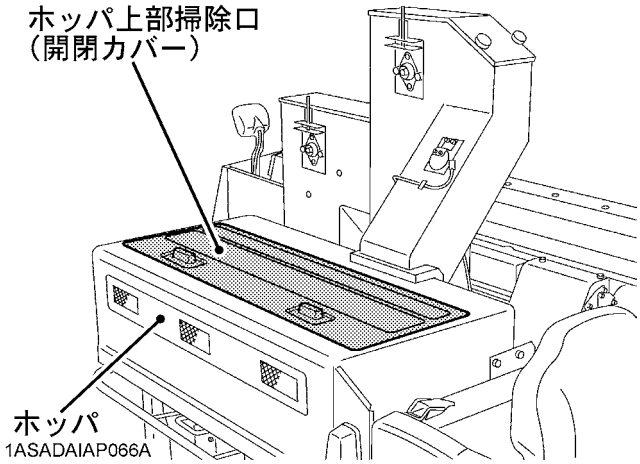


[G 仕様]

10. ホッパ内

[H 仕様]

ホッパ上部の掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，開閉カバーを閉じてください。

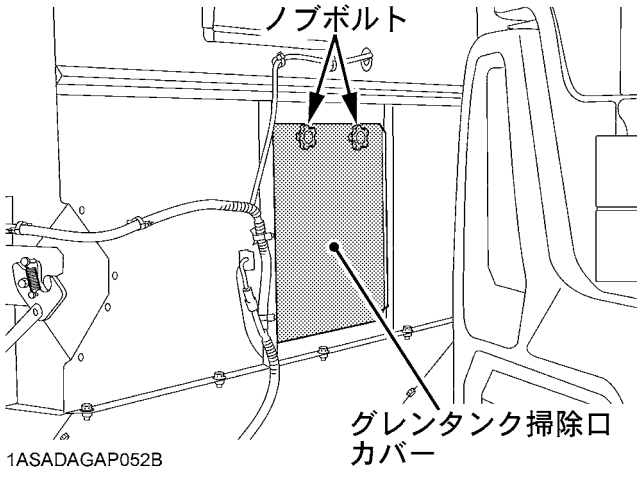


[H 仕様]

11. グレンタンク内

[G 仕様]

ノブボルトを外し，グレンタンクの掃除口カバーを外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けたあと，グレンタンクを閉じてください。

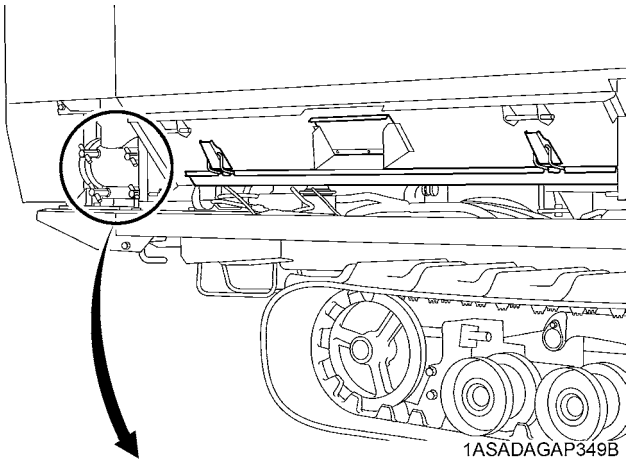


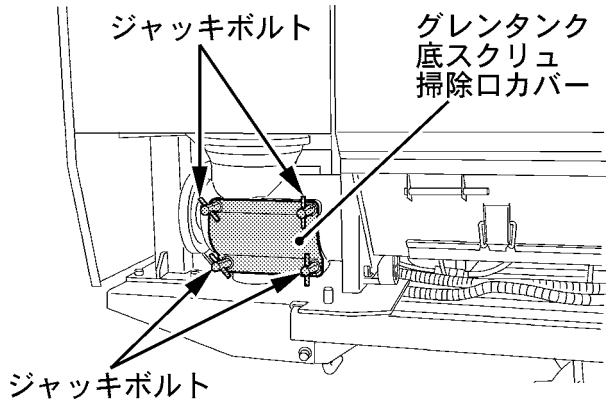
[G 仕様]

12. グレンタンク底スクリュ内

[G 仕様]

ジャッキボルトを外し，グレンタンク底スクリュの掃除口カバーを外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けたあと，グレンタンク下カバーを取付けてください。





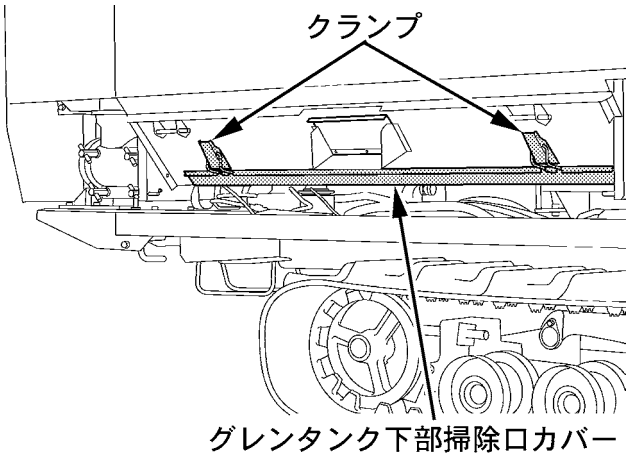
1ASADAGAP365A

[G 仕様]

13. グレンタンク下部掃除口内

[G 仕様]

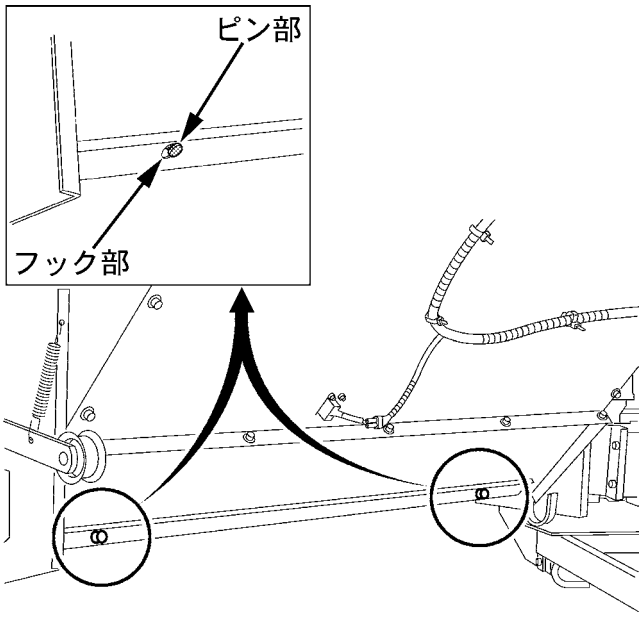
クランプを外し，グレンタンク下部掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けたあと，グレンタンク下カバーを取付けてください。



1ASADAGAP349C

補　足

＊ 取付けるときは，掃除口カバーのフック部をグレンタンク側のピン部に掛けてから取付けてください。



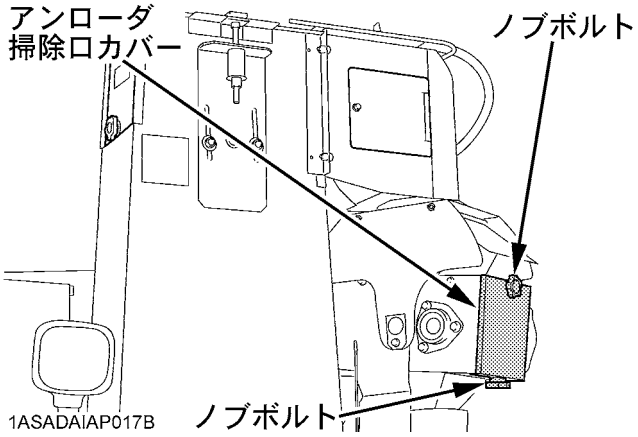
1ASADAGAP160A

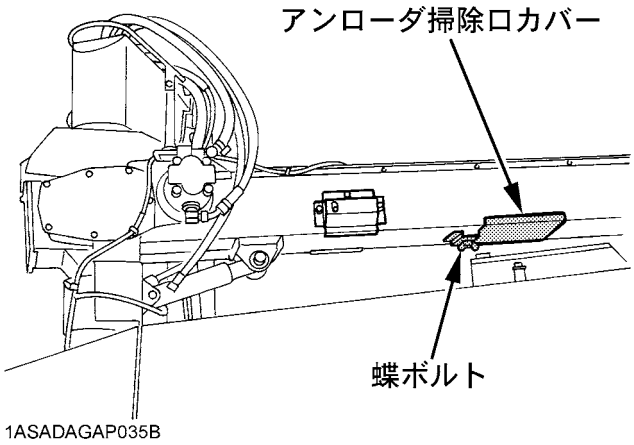
[G 仕様]

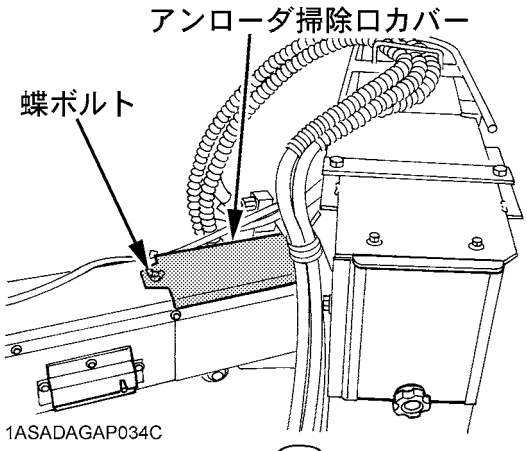
14. アンローダ内

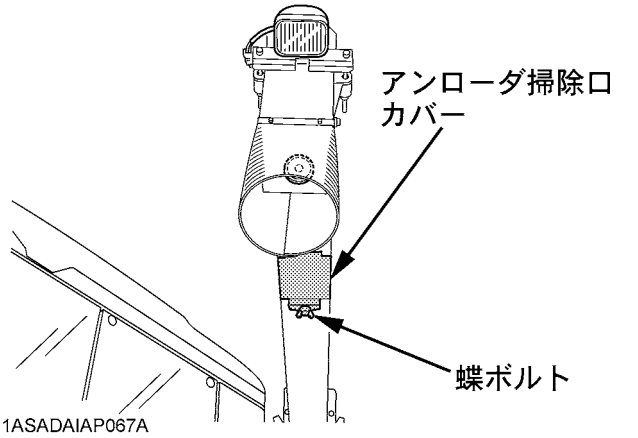
[G 仕様]

ノブボルト又は，蝶ボルトを取外し，アンローダの掃除口カバーを外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。









[G 仕様]

◆ 掃除後の処置と確認

掃除終了後は，取外したり，オープンした掃除口カバーや安全カバーは必ず取付けてください。

■各部の注油

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

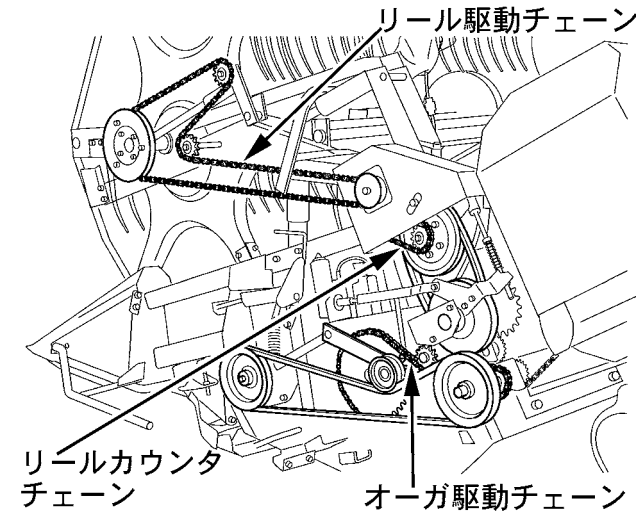
◆ 注油のしかた

平坦な場所に刈取部を接地させたあと，駐車ブレーキを掛けます。

◆ 注油箇所

- **オーガ駆動チェーン**
- **リール駆動チェーン**
- **リールカウンタチェーン**

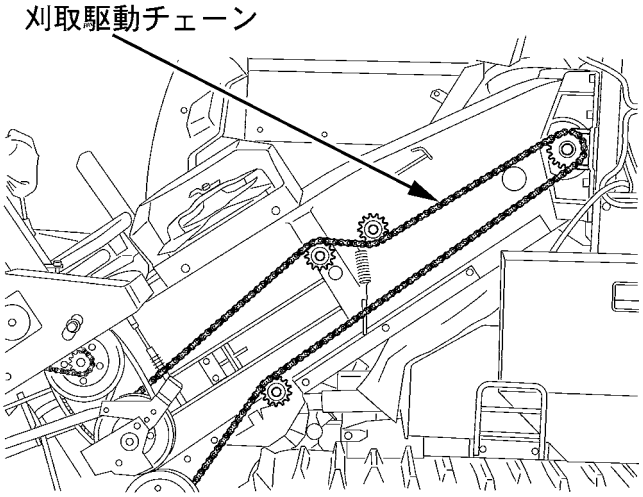
刈取左サイドカバー及びリールサイドカバーを取外して注油してください。注油後は，各カバーを取付けてください。



1ASADAGAP161A

- **刈取駆動チェーン**

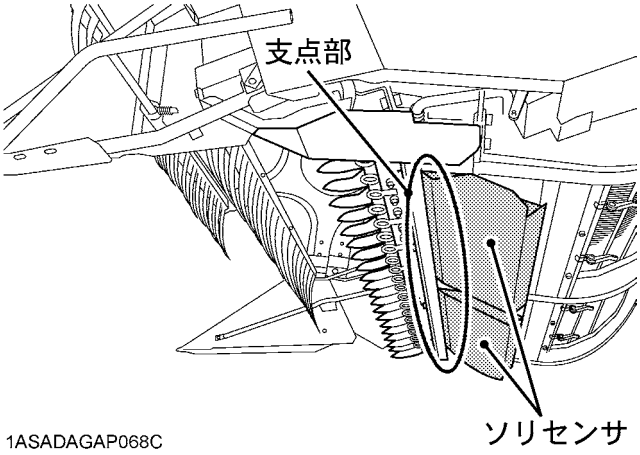
フィーダサイドカバーを取外して注油してください。注油後は，フィーダサイドカバーを取付けてください。



1ASADAGAP162A

- **ソリセンサ回動支点部**

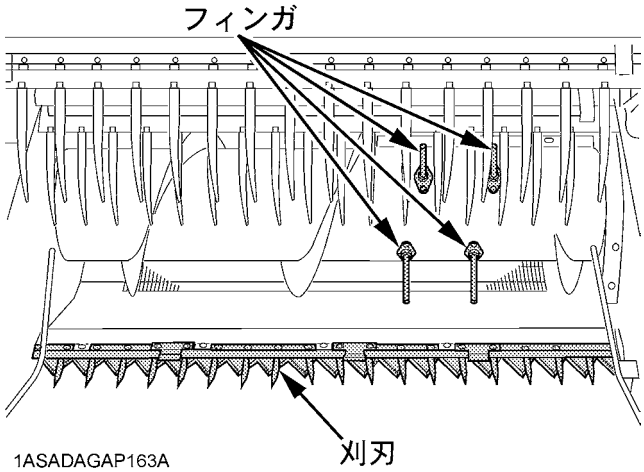
刈取部を上昇したあと，刈取・リール下降ロックスイッチで刈取部の下降防止を行ない，エンジンを停止して注油してください。



1ASADAGAP068C

- **刈刃**
- **フィンガ**

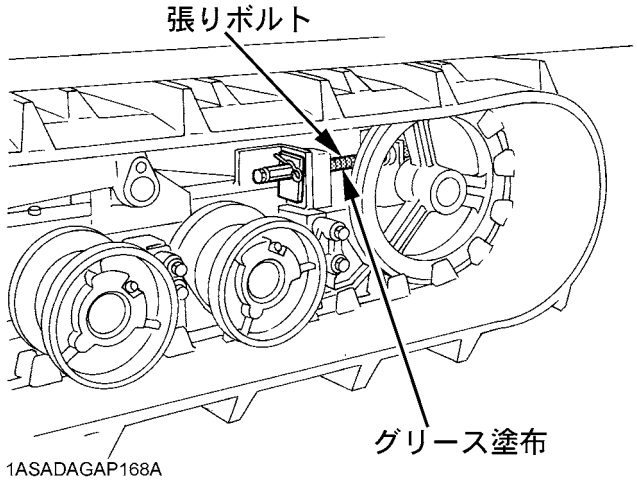
リールを上げたあと，刈取・リール下降ロックスイッチでリールの下降防止を行ない，エンジンを停止して各フィンガ，刈刃全体に注油してください。



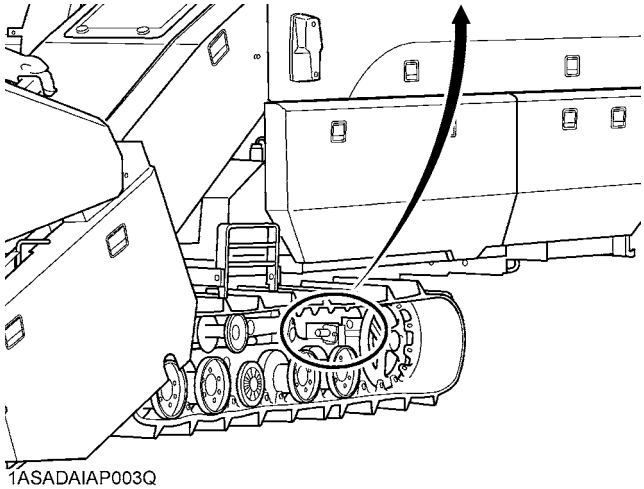
1ASADAGAP163A

◆ グリース塗布箇所

● クローラ張りボルト左，右



1ASADAGAP168A



1ASADAIAP003Q

定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮されるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警 告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降ろしてください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 刈刃の掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 機械は平坦で，周りに排かんくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 点検･交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早目の点検をお願いします。

■オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル･フィルタ類は初期 50 時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。チェーンやベルト類は初期 50 時間，クローラは初期 20 又は，50 時間で張り調整をしてください。
   （交換したときも同様です。）

■廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながります。廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤まると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

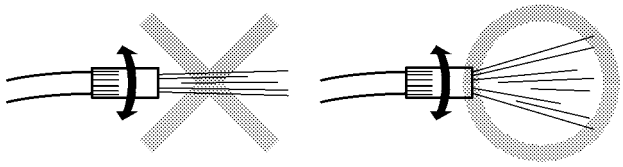
注　意

洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。

重　要

＊ 洗車のしかたが不適切な場合，以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。
［例］
(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内，キャビン室内等への浸入による故障
(3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

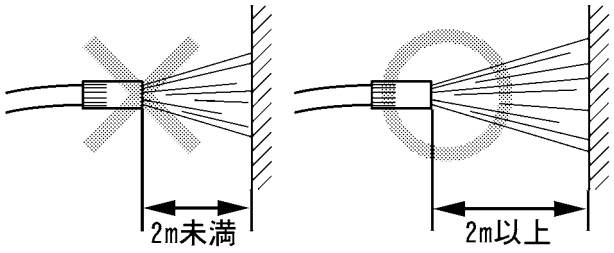
直射洗車厳禁



直射　　**拡散**

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは，購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- 電気系統（自動制御関係）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統（HST 含む）
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

重　要

＊ 分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

■定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆エンジン部				
ファン駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	183 ☆
	交換	250 時間ごと		
逆流ファン切換えワイヤ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
エアクリーナエレメント	掃除	50 時間ごと	全型式	167
	交換	300 時間ごと（点検･掃除が６回目のときに交換）		
インレットパイプ（エアクリーナ）	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	169
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
インレットパイプ（ターボ）	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	169
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
フューエルフィルタエレメント	掃除	100 時間ごと	全型式	172
	交換	400 時間ごと		
フューエルフィルタカートリッジ	交換	400 時間ごと	全型式	172
エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 200 時間ごと（エンジンオイルの交換が２回目のとき，同時に交換）	全型式	174
フューエルパイプ	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	169 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	全型式	157
オイルドレーンゴムホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	169 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	169 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
排水ホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	169 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
オイルクーラホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	169 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	171
コンデンサフィン	掃除	50 時間ごと	C 仕様	171
◆走行・操作部				
ミッション駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	186 ☆
	交換	300 時間ごと		
ギヤケース駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	G 仕様	187 ☆
	交換	300 時間ごと		
オイルポンプ駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	G 仕様	188 ☆
	交換	500 時間ごと		
駐車ブレーキワイヤ	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	178 ☆
	交換	300 時間ごと		
ブレーキシュー	交換	500 時間又は，２年ごとの早いほうで交換	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
リリーフワイヤ	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	179 ☆
	交換	500 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
ＨＳＴ オイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 300 時間ごと（油圧オイルタンクオイルの交換と同時に交換）	全型式	176
ミッション吸入フィルタ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
油圧オイルタンクフィルタ	洗浄	初回又は，交換後:50 時間後，それ以降 300 時間後（油圧オイルタンクオイルの交換と同時に洗浄）	全型式	176
	交換	600 時間ごと		
クローラ	調整	初回又は，交換後：20，及び 50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	220 ☆
	交換	500 時間ごと		
反射器	交換	破損しているとき	全型式	220
ドライブスプロケット，可動ローラ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
トラックローラ	点検	100 時間ごと	全型式	222
	交換	500 時間ごと又は，リブの厚さが２ ㎜ 以下のとき		
テンションローラ（後輪），キャリアローラ，クローラガイド（前，後）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
ブッシュ（モンローリンク，揺動転輪軸部）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
シール（車軸，トラックローラ，テンションローラ，キャリアローラ）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
ベアリング（トラックローラ，テンションローラ，キャリアローラ）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
◆刈取部				
刈刃駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	184 ☆
	交換	300 時間ごと		
リール変速ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	184 ☆
	交換	300 時間ごと		
フィーダ駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	191
	交換	300 時間ごと		
オーガ駆動チェーン	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	197 ☆
	交換	300 時間ごと		
リールカウンタチェーン	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	197 ☆
	交換	300 時間ごと		
リール駆動チェーン	点検	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	197 ☆
	交換	300 時間ごと		
刈取駆動チェーン	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	198 ☆
	交換	300 時間ごと		
フィーダ搬送チェーン	調整	初回又は,交換後:20 時間後,それ以降 50 時間ごと	全型式	198 ☆
	交換	300 時間ごと		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
刈刃	調整	100 時間ごと	全型式	204 ☆
	交換	500 時間ごと		
刈刃ロッドエンド	交換	500 時間ごと	全型式	☆
フィンガ軸，フィンガガイド	交換	250 時間ごと	全型式	205
油圧ホース	交換	500 時間ごと	全型式	☆
◆脱こく部				
脱こく入力駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	186 ☆
	交換	300 時間ごと		
脱こく駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	188 ☆
	交換	300 時間ごと		
脱こくカウンタベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	189 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	192 ☆
	交換	300 時間ごと		
揺動駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	193 ☆
	交換	300 時間ごと		
１番・２番スクリュ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	192 ☆
	交換	300 時間ごと		
トウミ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	192 ☆
	交換	300 時間ごと		
１番排出スクリュ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20 時間後，それ以降 50 時間ごと	G 仕様	193 ☆
	交換	300 時間ごと		
１番バケットコンベアチェーン	調整	初回又は，交換後:20 時間後，それ以降 50 時間ごと	全型式	200 ☆
	交換	300 時間ごと		
２番スラットコンベアチェーン	調整	初回又は，交換後:20 時間後，それ以降 50 時間ごと	全型式	200 ☆
	交換	300 時間ごと		
１番バケットカップ	調整	初回又は，交換後:50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	136 ☆
	交換	300 時間ごと		
２番搬送プレート	調整	初回又は，交換後:50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	136 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ歯バー	交換	500 時間ごと	全型式	☆
受あみ（コンケーブ）	交換	750 時間ごと	全型式	130
１番スクリュ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
２番スクリュ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
各ハンプ・スポンジ	交換	300 時間ごと	全型式	126
シーブケースベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	126
チャフシーブリップガイド	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
チャフ操作ワイヤ	調整	100 時間ごと	全型式	☆
	交換	500 時間ごと		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆グレンタンク部				
底スクリュ駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	G 仕様	194 ☆
	交換	400 時間ごと		
バケット駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	G 仕様	195 ☆
	交換	500 時間ごと		
排出バケットコンベアチェーン	調整	初回又は,交換後:20 時間後,それ以降 50 時間ごと	G 仕様	202 ☆
	交換	500 時間ごと		
排出バケットカップ	調整	100 時間ごと	G 仕様	202 ☆
	交換	500 時間ごと		
アンローダ搬送コンベアベルト	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	G 仕様	203 ☆
	交換	500 時間ごと		
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	G 仕様	210
各スクリュ軸	交換	1000 時間ごと	G 仕様	☆
◆ホッパ				
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	H 仕様	210
各スクリュ軸	交換	1000 時間ごと	H 仕様	☆
◆キャビン				
内気フィルタ・外気フィルタ	掃除	使用時間が 30 時間ごと	C 仕様	208
コンプレッサ駆動ベルト	点検	作業シーズン前又は，後	C 仕様	185 ☆
	交換	２年ごと		
冷媒ガス	点検	作業シーズン前又は，後	C 仕様	209
◆電装部				
バッテリ	充電	インジケータの色が黒色のとき	全型式	211
	交換	インジケータの色が透明のとき		
ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	50 時間ごと	全型式	215 211 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	215
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100 時間ごと	全型式	218
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	218 ☆
	交換	破損しているとき		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

■給･注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	－	・容量……約 55	ディーゼル軽油	157
オイル	エンジン	補給・交換	作業前又は，作業後	・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間 ……4.2 ～ 6.0	クボタ純オイル D10W-30 スーパー CD	158
	トランスミッションケース	補給・交換	100 時間ごと	・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 検油口からオイルがにじむまで ……約 6.8	クボタ純オイル スーパー UDT-2	160
	油圧オイルタンク	補給・交換	100 時間ごと	・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …300 時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間 ……20.0 ～ 21.3	クボタ純オイル スーパー UDT-2	162
	刈刃駆動ケース	交換	－	・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …300 時間ごと	・容量……約 0.4	クボタ純オイル スーパー UDT-2	161
	こぎ胴駆動ギヤケース	補給	100 時間ごと	－	・容量……約 0.15	クボタ純オイル M8OB 又は，M90	163
	刈刃	注油	作業前	－	適量	クボタ純オイル D10W-30 又は，M8OB 又は，M90	147
	フィンガ軸	注油	作業シーズン終了後	－	適量	クボタ純オイル D10W-30 又は，M8OB 又は，M90	147
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補給・交換	作業前又は，作業後	２年ごと又は，冬季停止時は排出	＊規定量 タンク側面の **L**（下限）と **F**（上限）の間 **L**……0.15 **F**……1.1	清水	165

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（項目）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
グリース	**◆刈取部**						
	リール変速カム部	補給	分解時	－	適　量	クボタ 純グリース No.2	☆
	◆走行部						
	転輪部	補給	作業 シーズン 終了後	－	適　量	クボタ 純グリース No.2	163
	スイングアーム部						
	フレーム部						
	後輪部						
	◆脱こく部						
	フィーダ支点部	補給	分解時	－	適　量	クボタ 純グリース No.2	163
	◆グレンタンク部						
	縦スクリュケース 旋回モータベース部	補給	分解時	－	適　量	クボタ 純グリース No.2	163
	アンローダホルダ部						163
	アンローダケース１						
	アンローダベルトコンベア 駆動チェーンケース						

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（項目）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換

注　意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。
＊ 燃料やオイルを補給又は，交換したあと，こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭取ってください。また，燃料もれや油もれがあるときは購入先に連絡してください。

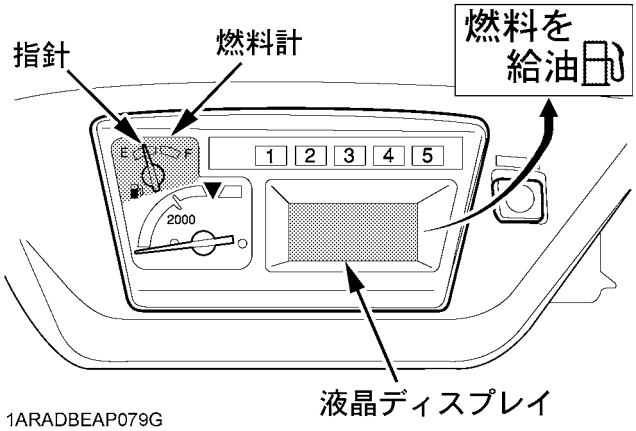
重　要

＊ 補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 No. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
- 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル･クボタ純グリース**を使用してください。

＊ 点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

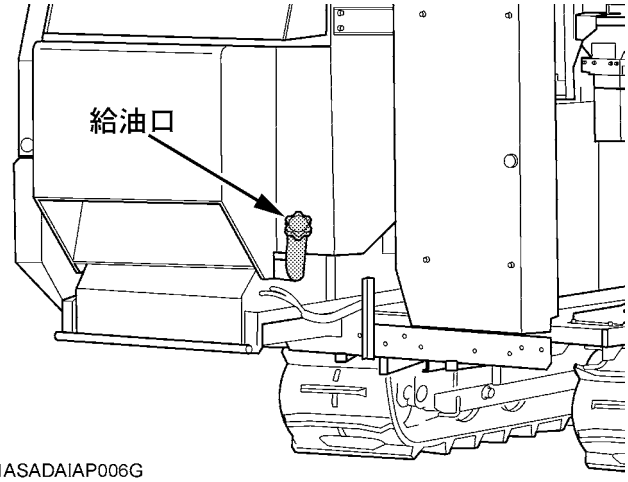
■燃料

燃料計の指針が**[E]**（空）に近づくと，エアロナビの液晶ディスプレイに**[燃料を給油]**と表示し，ブザーが鳴ったとき（燃料警報）は給油してください。



1ARADBEAP079G

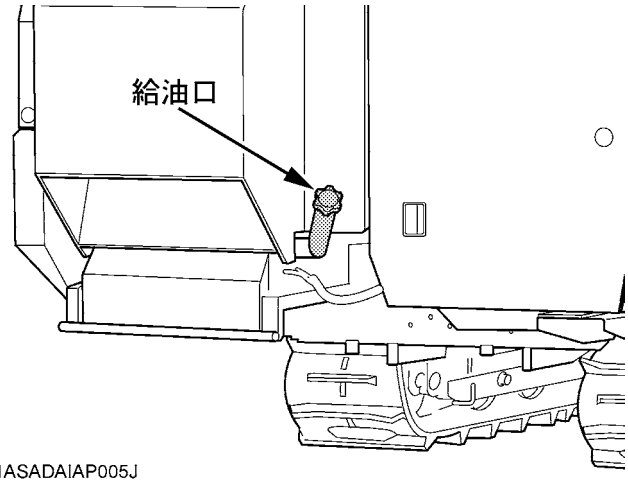
[H 仕様]



1ASADAIAP006G

[H 仕様]

[G 仕様]

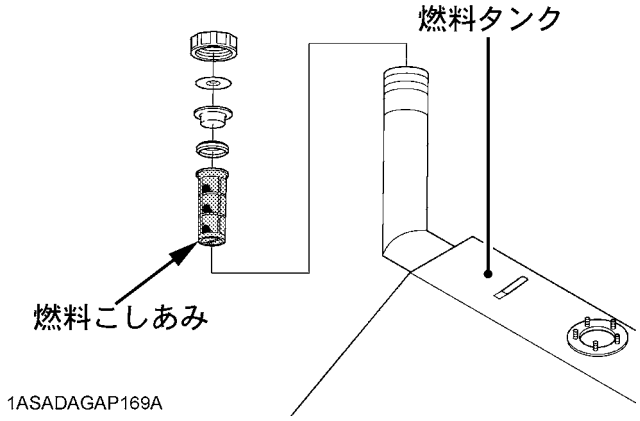


1ASADAIAP005J

[G 仕様]

重　要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



◆ 給油

燃料を給油するときは平坦な場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。また，メインスイッチのキーを**【入】**位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき，ブザーが鳴ります。また，ブザーが鳴ると同時に液晶ディスプレイに**【燃料満タン】**と表示します。給油後は燃料キャップを取付けたあと，グレンタンク後部カバーを閉じてください。

燃料の種類	燃料タンクの容量
ディーゼル軽油	約 55 L

補　足

＊ **満タンお知らせ機能**は，ブザーが 5 回鳴ると停止します。
＊ ブザーが鳴ったあと，あふれさせないように注意してください。
＊ **満タンお知らせ機能**は下記の条件のとき，はたらかない場合があります。
- エンジン停止後約 20 秒間
- 給油中に機体を揺らしたり，急激に給油したとき
- 給油量が少ないとき

■エンジンオイル

注　意

＊ 点検・補給・交換をするときは，エンジンを必ず止めて，エンジンがじゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。ヤケドするおそれがあります。

【C 仕様除く】はエンジンルームをオープンし，**【C 仕様】**は運転席下カバーを取外してください。
点検・補給・交換後は，エンジンルームを閉じる。又は，運転席下カバーを取付けてください。

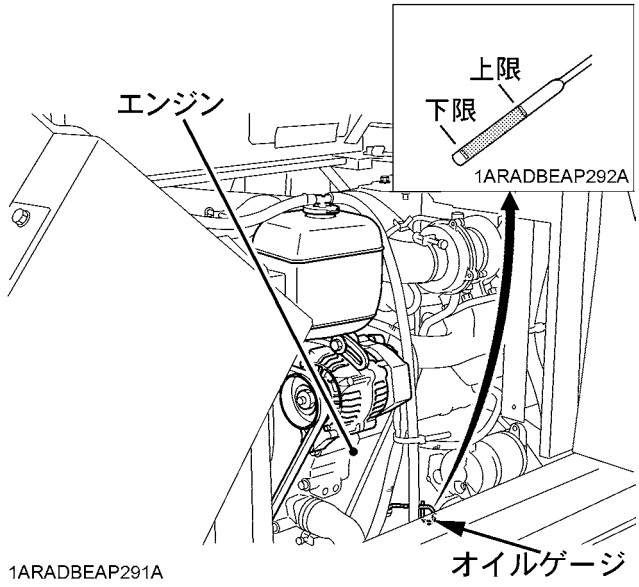
重　要

＊ エンジンオイルをオイルゲージの**上限**以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。

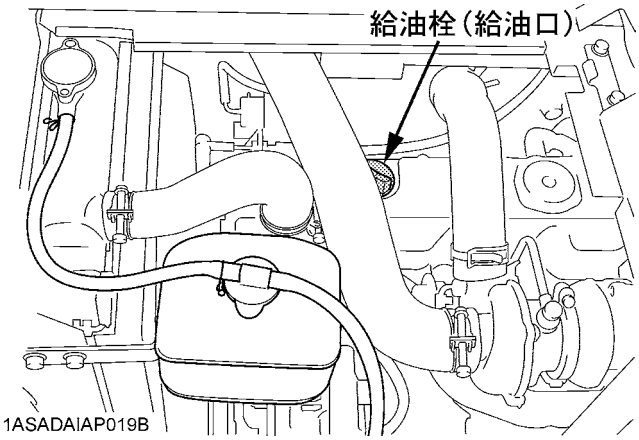
◆ 点検・補給

エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

[C 仕様除く]



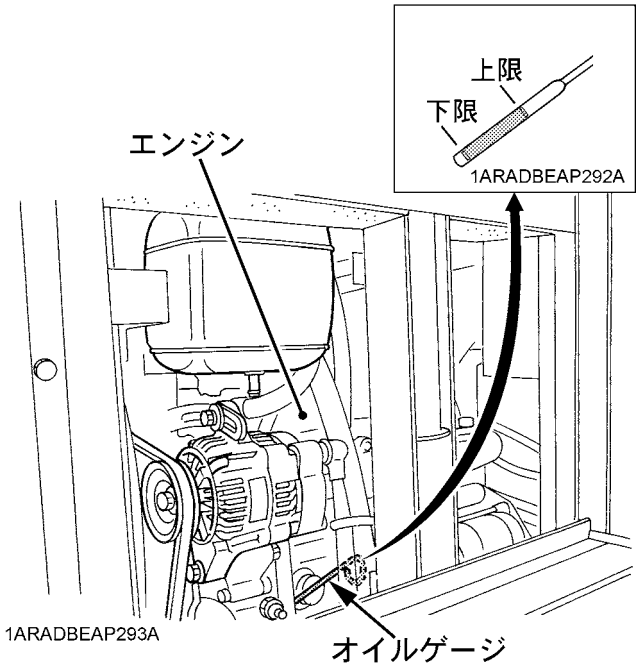
1ARADBEAP291A

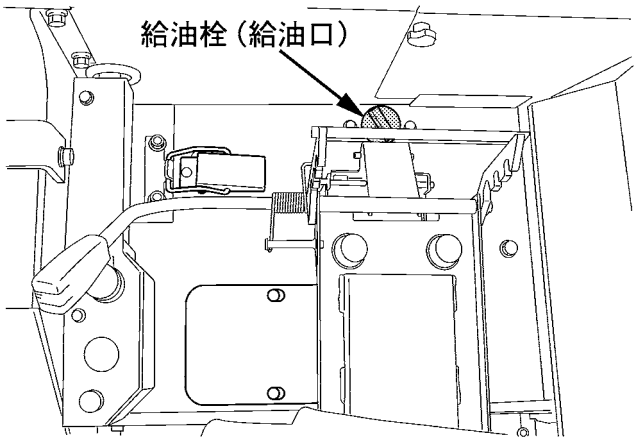


1ASADAIAP019B

[C 仕様除く]

[C 仕様]





1ASADAIAP036B

[C 仕様]

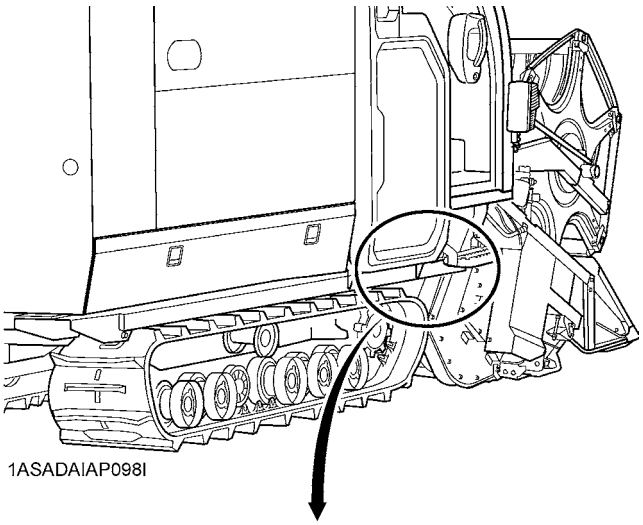
◆ 交換

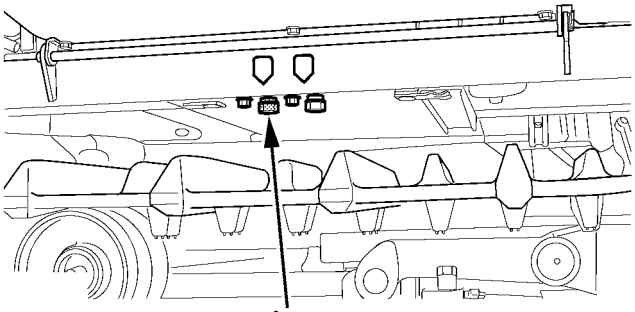
補　足

＊ オイル交換が２回目のときに，エンジンオイルフィルタカートリッジを交換してください。(174 ページ参照)

● 排油のしかた

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し，排油口からオイルを排出します。





3. 給油プラグを取付けます。

重　要

＊ 排油プラグを締め忘れると油もれが発生し，クローラの劣化やエンジントラブルの原因となります。

● 給油のしかた

1. 給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けます。

重　要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

オイルの種類	規定オイル量
クボタ純オイル （ディーゼルエンジン用） D10W-30 スーパー CD	・上限線　……6.0L ・下限線　……4.2L

※ D10W-30 スーパーCD はオールシーズン用です。

2. エンジンを始動し，アイドリング状態で約１分間運転します。
3. エンジンを停止したあと，５分間以上たってからオイル量の点検を行ないます。
4. オイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給します。

■トランスミッションケースオイル

注　意

＊ 刈取部を上げて点検・補給・交換を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

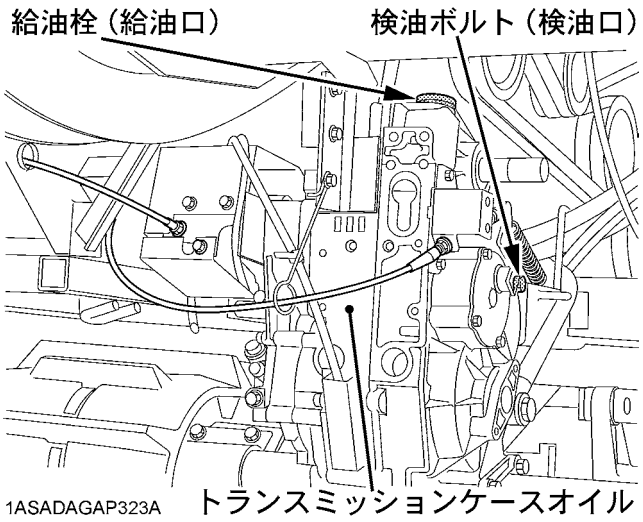
◆ 点検・補給

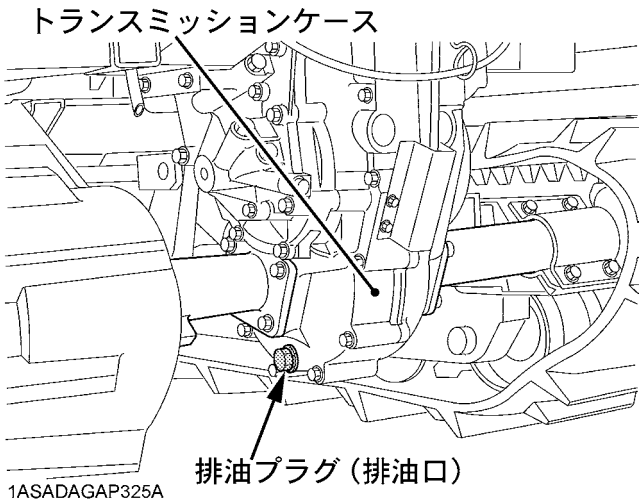
検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

● 排油のしかた
給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた
排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。





オイルの種類	規定オイル量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 6.8L

重　要

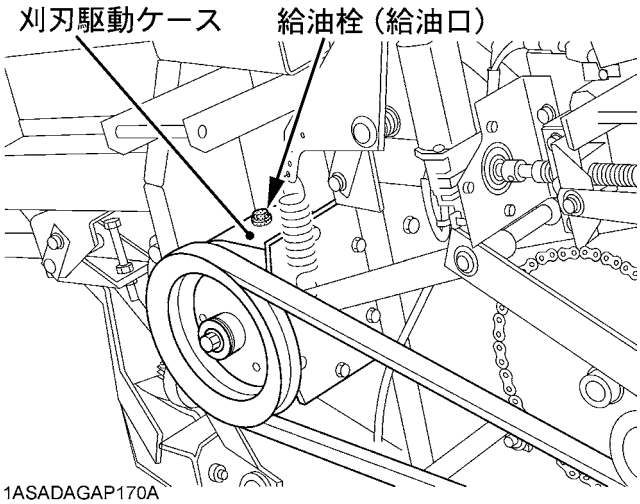
＊ 給油したあと，エンジンをアイドリング状態で約１分間運転してエンジンを停止し，５分間以上たってから，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

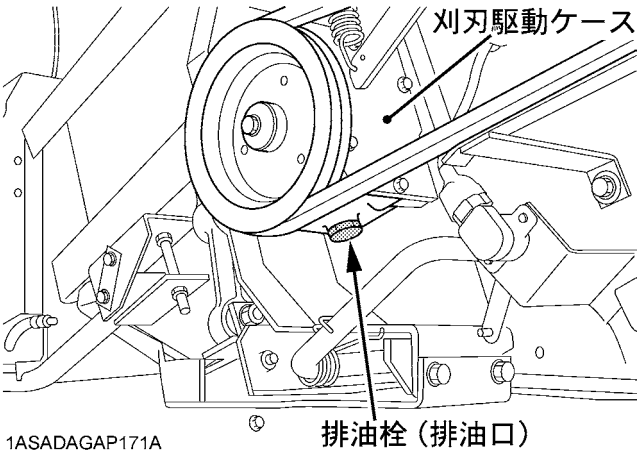
■刈刃駆動ケースオイル
刈取部を地面に接地し，刈取左サイドカバーを取外してください。

◆ 交換

● 排油のしかた
給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた
排油プラグを締付けて，オイルを規定量給油したあと，刈取左サイドカバーを取付けてください。





オイルの種類	規定オイル量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 0.4L

■油圧オイルタンクオイル

注　意

＊ 刈取部を上げて点検・補給・交換を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。

脱こく左サイドカバー前，後を取外してください。点検・補給・交換後は，脱こく左サイドカバー前，後を取付けてください。

◆ 点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

補　足

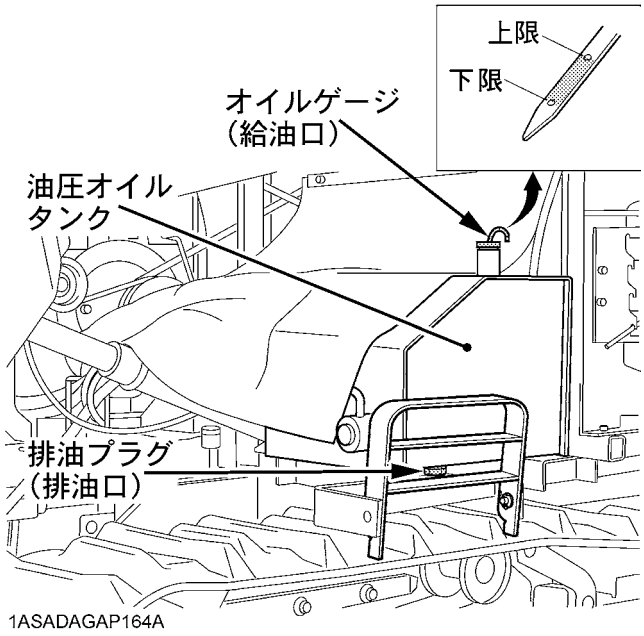
＊ オイルの交換と同時に，HST オイルフィルタカートリッジも交換してください。(176 ページ参照)

● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出します。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量オイルを給油し，オイルゲージを差込みます。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	・上限線……21.3L ・下限線……20.0L

重　要

＊ 給油したあと，エンジンをアイドリング状態で約１分間運転してエンジンを停止し，５分間以上たってから再度点検を行ないオイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給してください。

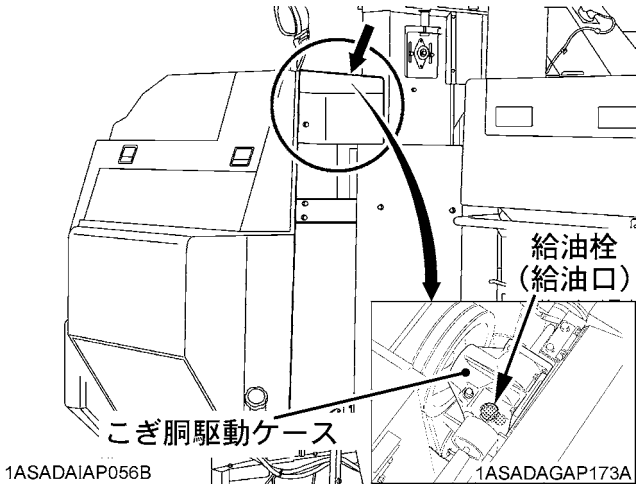
■こぎ胴駆動ギヤケースオイル

ホッパ **[H 仕様]** 又は，グレンタンク **[G 仕様]** をオープンしてください。

◆ 補給

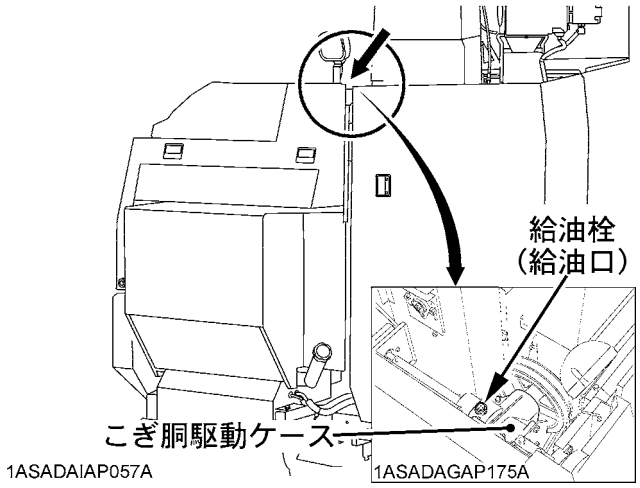
補給栓を外して，オイルを適量補給してください。補給後はホッパ **[H 仕様]** 又は，グレンタンク **[G 仕様]** を閉じてください。

[H 仕様]



[H 仕様]

[G 仕様]



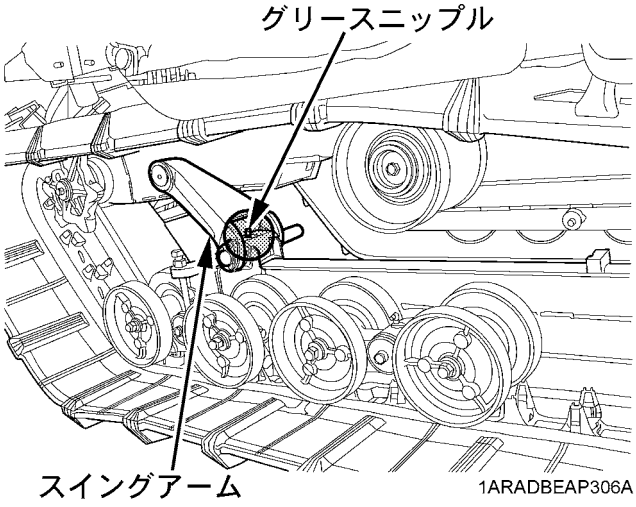
[G 仕様]

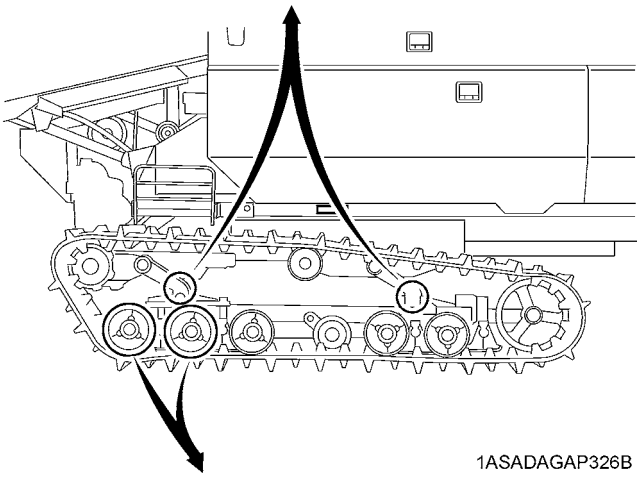
オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル M80B 又は，M90	約 0.15L

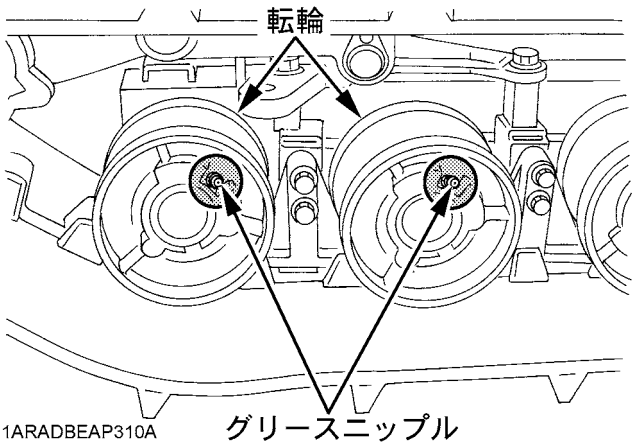
■各部のグリース

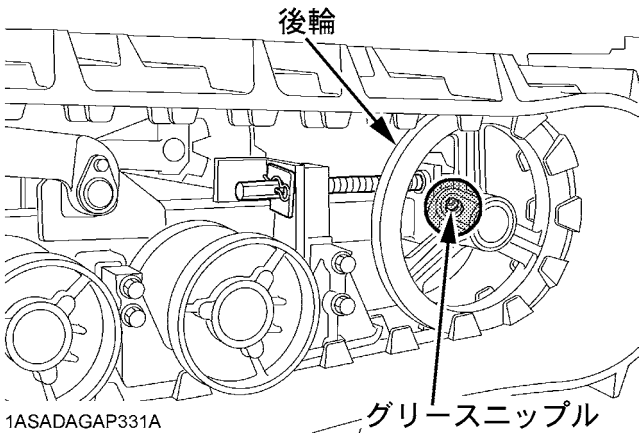
クボタスペアグリースをグリースニップルから補給してください。補給後は，各カバーを閉じる又は，取付けてください。

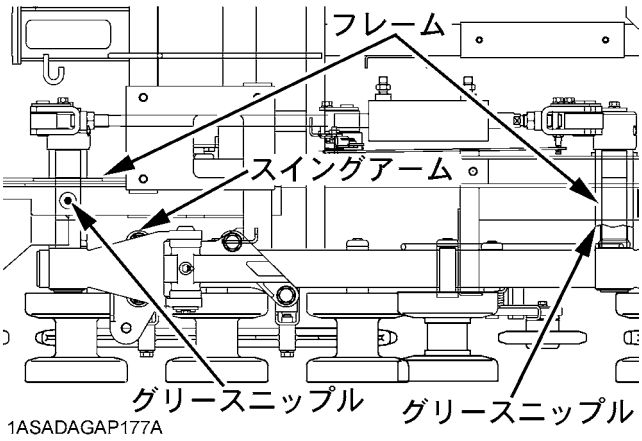
- **◆ 各転輪部（左，右各 5 箇所）**
- **◆ スイングアーム部（左，右各 2 箇所）**
- **◆ フレーム部（左，右各 2 箇所）**
- **◆ 後輪部（左，右各 1 箇所）**





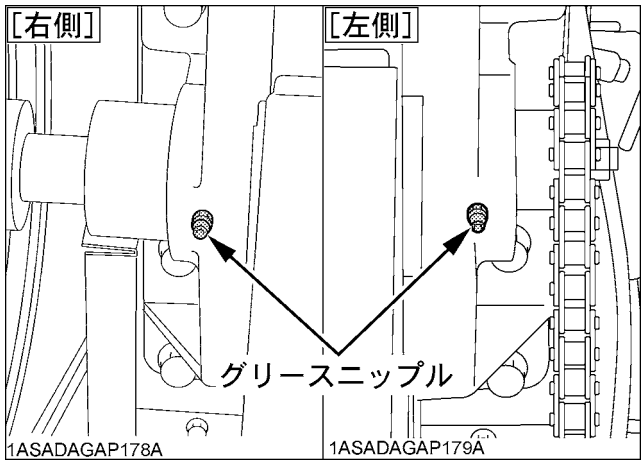


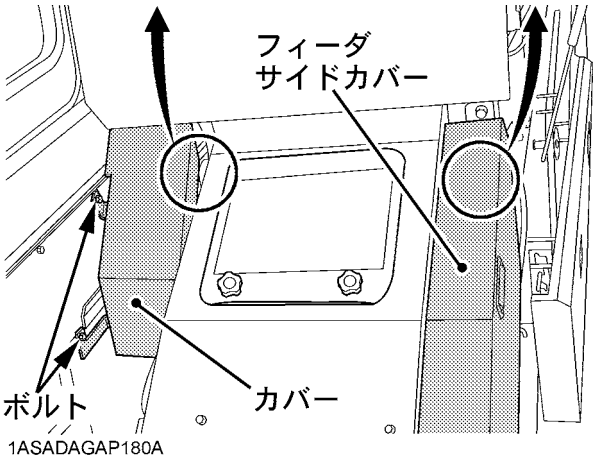




◆ フィーダ支点部

こぎ胴サイドカバーをオープンし，フィーダサイドカバーとフィーダ上部右側にあるカバーのボルトを外して取外してグリースを補給してください。補給後は，各カバーを取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じてください。

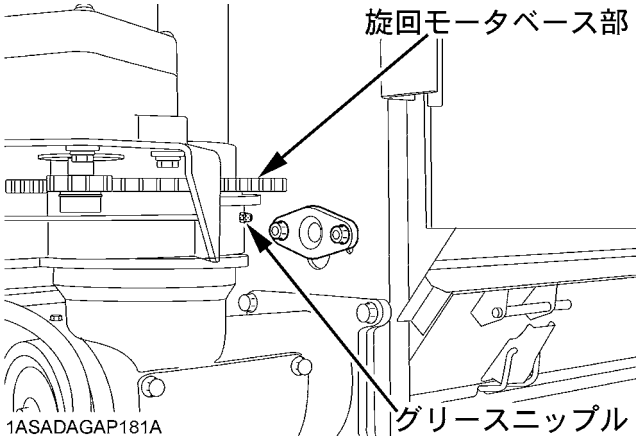




◆ アンローダ旋回モータベース部

[G 仕様]

グレンタンク後部カバーを開き，グリースを補給してください。補給後は，グレンタンク後部カバーを閉じます。



[G 仕様]

■ラジエータ冷却水の点検･補給･交換

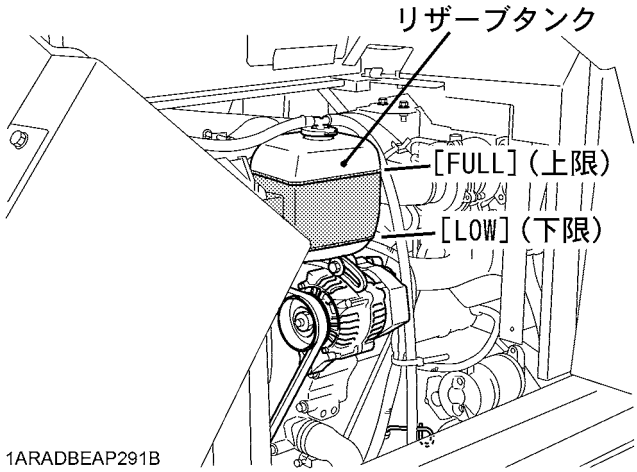
警 告

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。

◆ 点検・補給

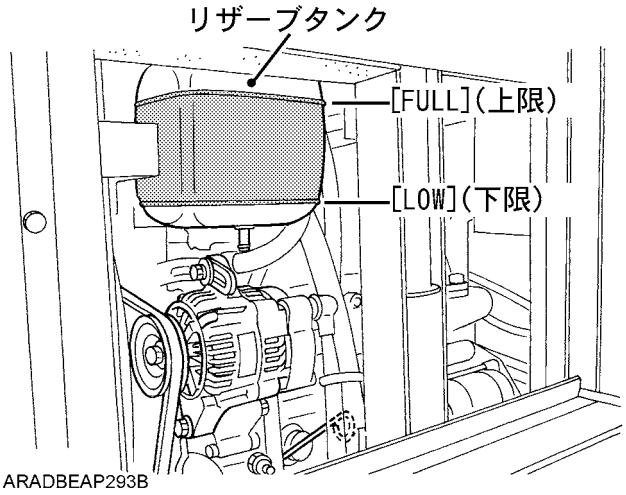
[C 仕様除く] はエンジンルームをオープンし，**[C 仕様]** は運転席下カバーを取外したあと，リザーブタンクの水量が **[LOW]**（下限）と **[FULL]**（上限）の間にあるか確かめます。**[LOW]**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。点検・補給後は，エンジンルームを閉じる又は，運転席下カバーを取付けてください。

[C 仕様除く]



[C 仕様除く]

[C 仕様]



[C 仕様]

重 要

＊ オーバーヒート時は，ラジエータ内の冷却水の水量を確認し，水量が不足しているときは，清水を補給してください。

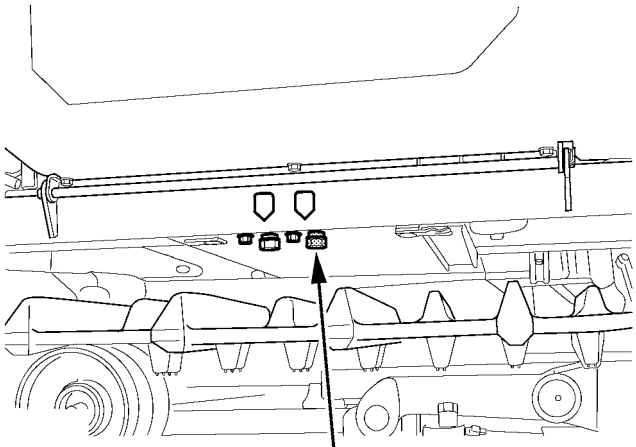
＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補 足

＊ **[FULL]**（上限）の線以上は補給しないでください。

◆ 交換

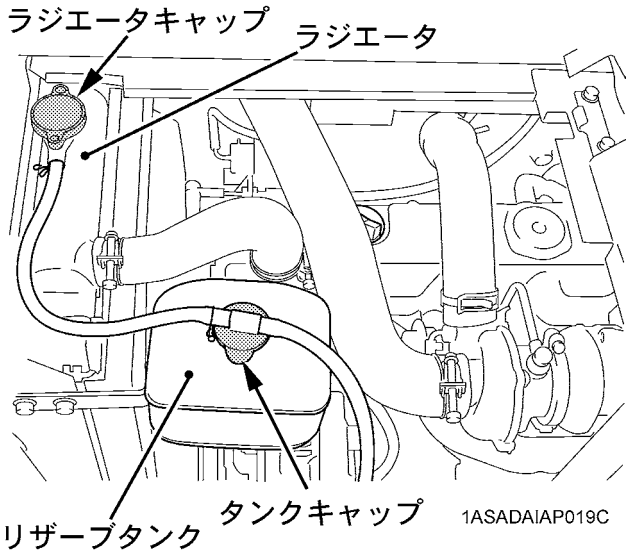
1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。



1ARADBEAP295B

2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，リザーブタンクを上側に抜いて取外し，排水します。
3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。

[C 仕様除く]

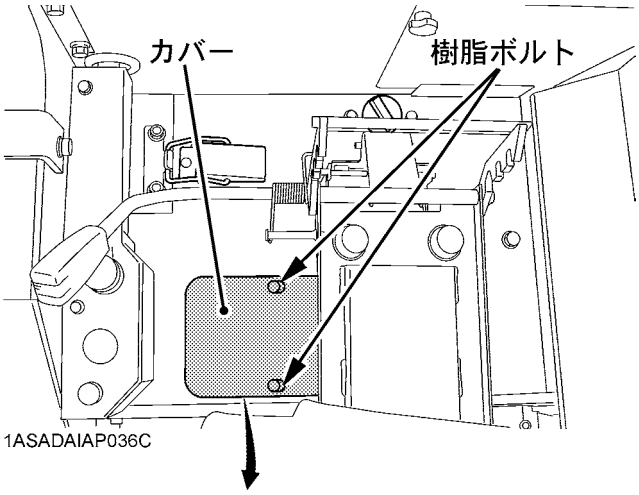


1ASADAIAP019C

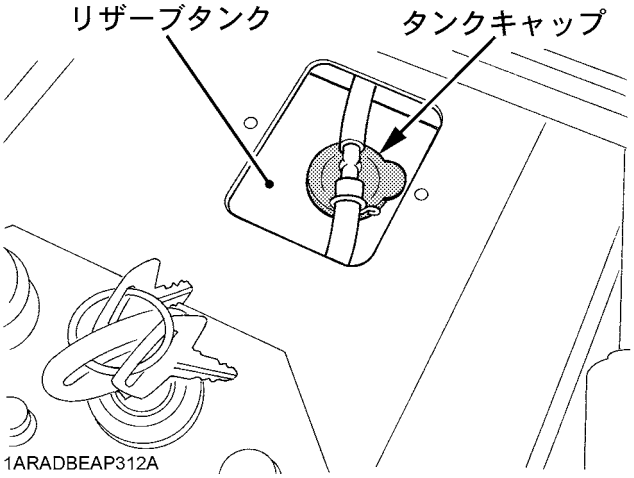
[C 仕様除く]

[C 仕様]

(1) 樹脂ボルト 2 個を外してカバーを取外します。

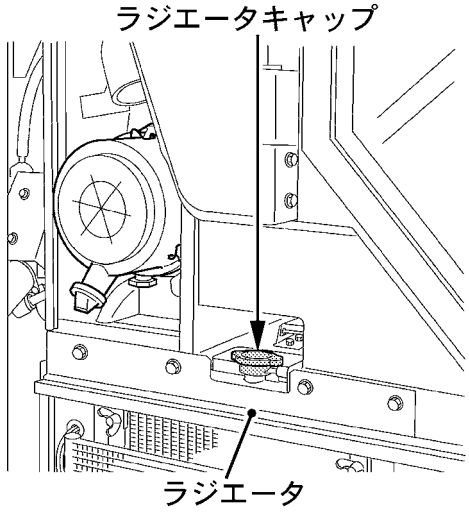


1ASADAIAP036C



1ARADBEAP312A

(2) 防じんカバーを開きます。



1ASADAIAP101B

[C 仕様]

4. リザーブタンクを取付けます。
5. 排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。
＊ 異なるメーカの不凍液を混用しないでください。エンジンの故障の原因となります。
＊ 排水プラグを締め忘れると水もれが発生し，エンジンが焼付きを起こすおそれがあります。

補　足

＊ 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● **不凍液混合比率表**

外気温度（℃）		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水（%）	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55

※ 出荷標準：不凍液 35％(北海道[H]向け:50％)
※ ラジエータ容量 :3.7L
(リザーブタンク容量は含まない)
※ 新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，5 分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

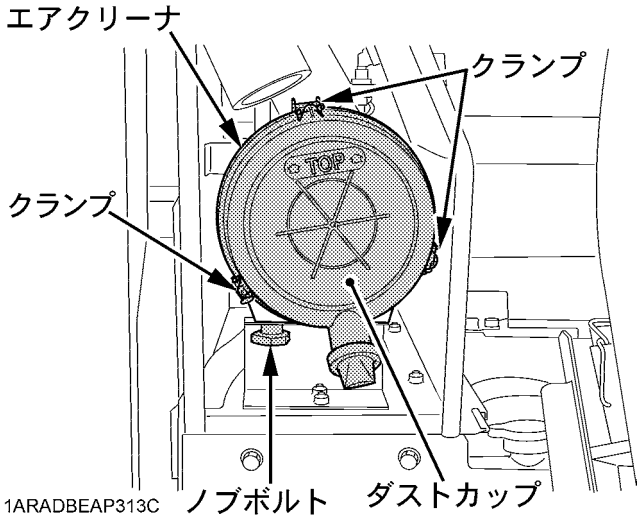
6. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。
7. エンジンルームを閉じる又は，運転席下カバーを取付けます。

■エアクリーナの点検･掃除･交換

エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換を行なうときは，ダストカップを取外してください。

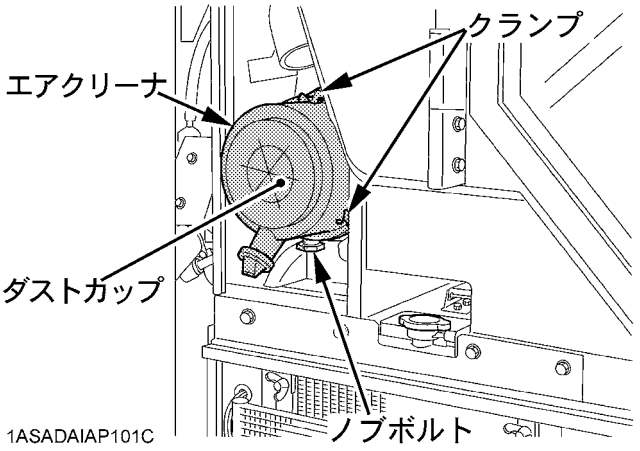
1. エンジンルーム**［C 仕様除く］**又は，防じんカバー**［C 仕様］**をオープンします。
2. ノブボルトをゆるめます。
3. クランプ 3 箇所を外してダストカップを取外します。このとき，ダストカップの右又は，左側のクランプを外す場合は，ゆるめたノブボルトを右又は，左いっぱいまでスライドして外しやすい位置にします。

［C 仕様除く］

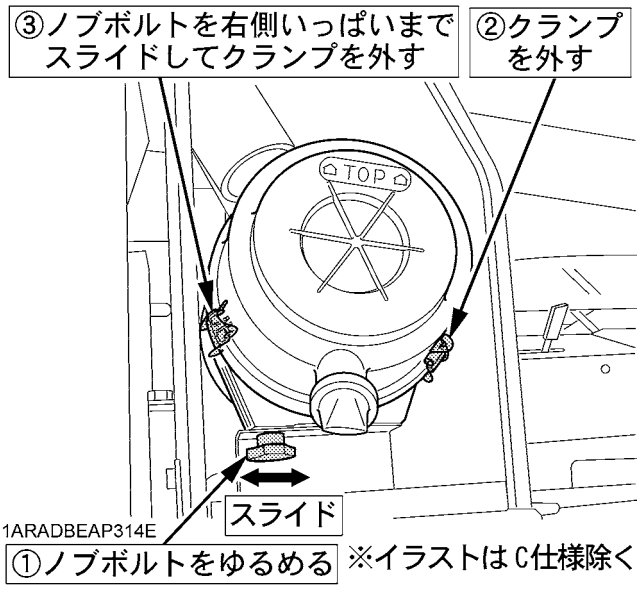


［C 仕様除く］

［C 仕様］

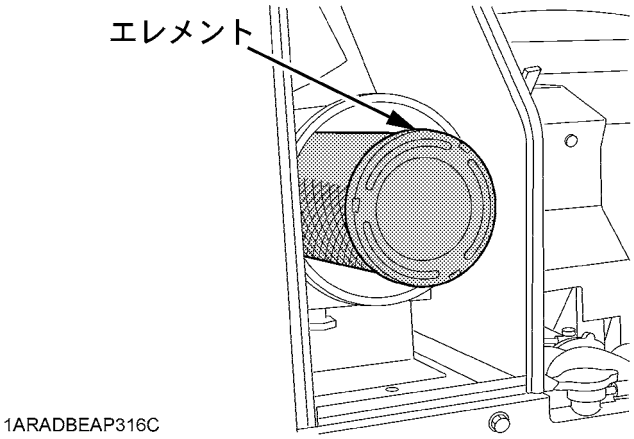


［C 仕様］



◆ 点検・掃除・交換

エアクリーナエレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントを掃除するときは，エレメントを引抜いて取外したあと，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や 300 時間経過しているときは，交換してください。作業終了後は，ダストカップを取付けて，ノブボルトを締付けたあと，エンジンルーム**【C 仕様除く】**又は，防じんカバー**【C 仕様】**を閉じてください。

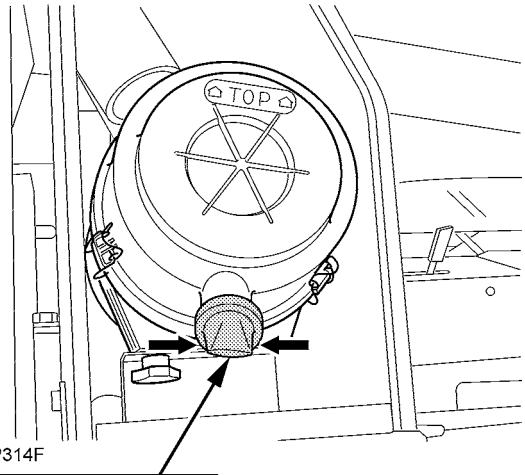


重 要

* 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
* エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
* エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
* エレメントを掃除する場合，エアの圧力は 205kPa (2.1kgf/cm²) をこえないよう注意し，エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。

補　足

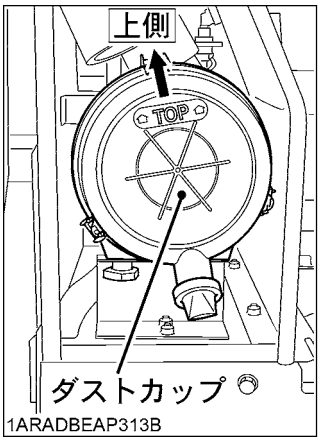
＊ エアクリーナの点検を行なったときは，ダストカップのエバキュエータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。



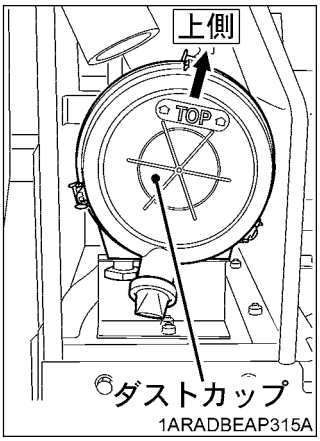
1ARADBEAP314F

バキュエータバルブの先端部をつまむ　※イラストはC仕様除く

＊ ダストカップを取付けるときは**【TOP】**の文字を上側にしてください。



1ARADBEAP313B



1ARADBEAP315A

■パイプ･ホース類の点検

注　意

＊ 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。
＊ 使用者は交換作業を行なわないでください。

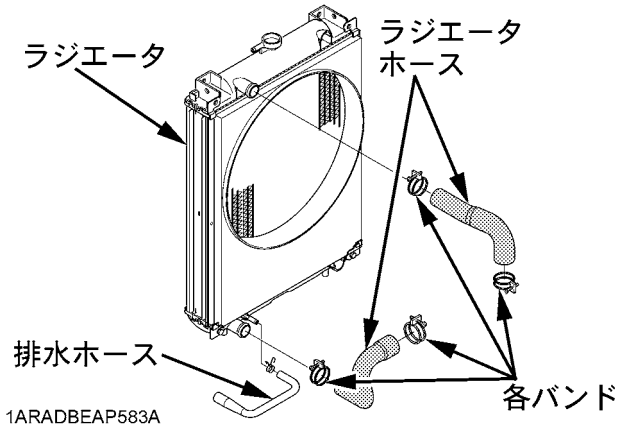
◆ 点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

＊ オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付きを起します。
＊ 油もれや水もれをしていなくても，**２年経過しているときや劣化の激しい場合**は購入先に連絡して交換してください。

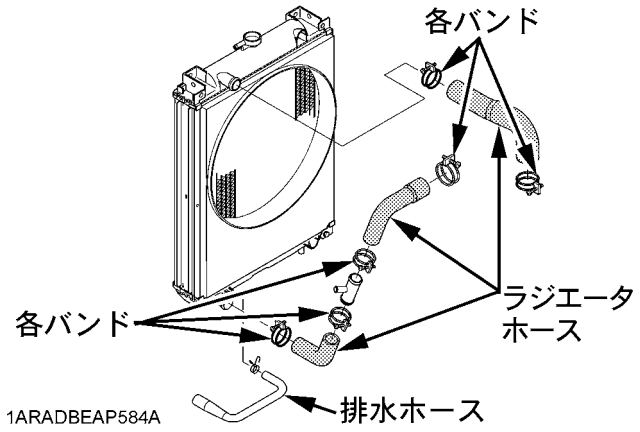
[C 仕様除く]



1ARADBEAP583A

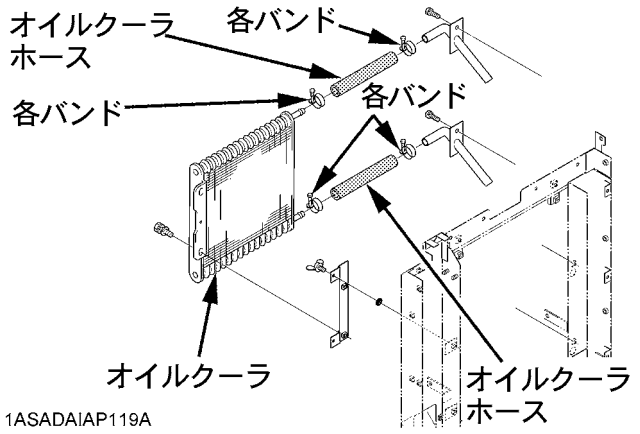
[C 仕様除く]

[C 仕様]

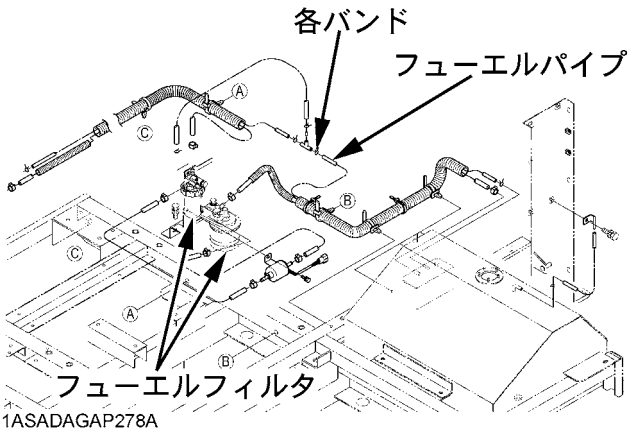


1ARADBEAP584A

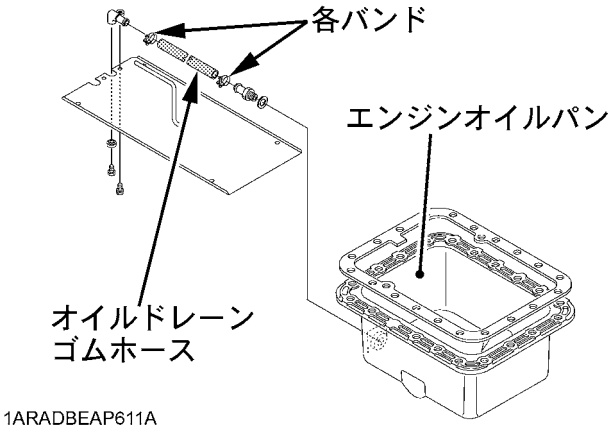
[C 仕様]



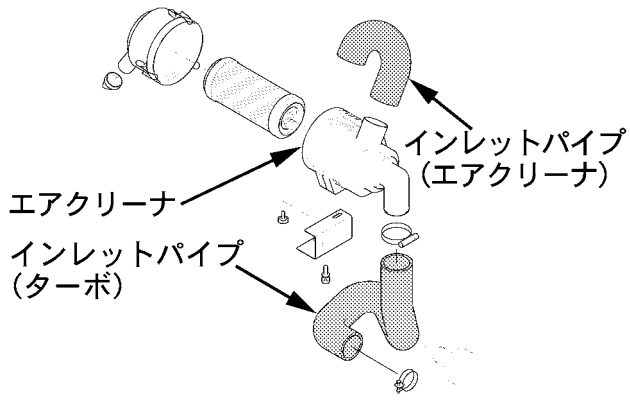
1ASADAIAP119A



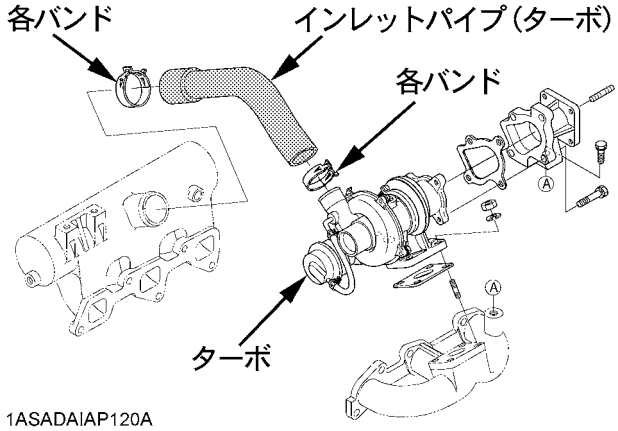
1ASADAGAP278A



1ARADBEAP611A



1ASADAGAP279E



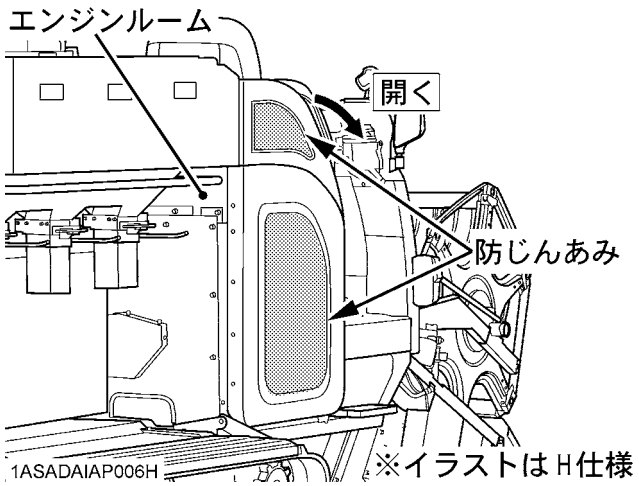
1ASADAIAP120A

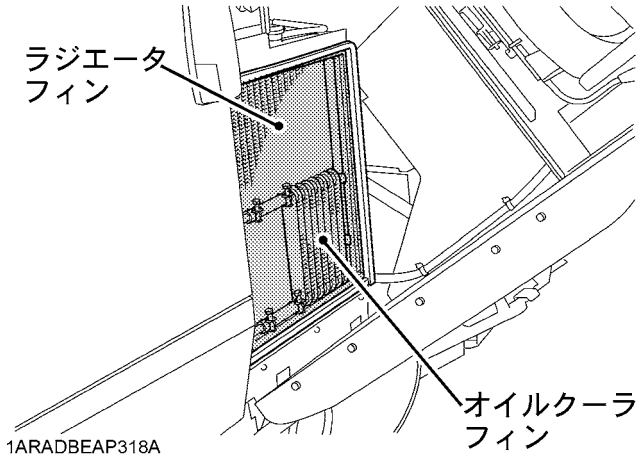
■防じんあみ，ラジエータフィンの掃除・オイルクーラフィンの掃除・コンデンサフィンの掃除

◆ 掃除

[C 仕様除く]はエンジンルームをオープンし，**[C 仕様]**は防じんカバーをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。掃除が終わったあとはエンジンルーム**[C 仕様除く]**又は，防じんカバー**[C 仕様]**を閉じてください。

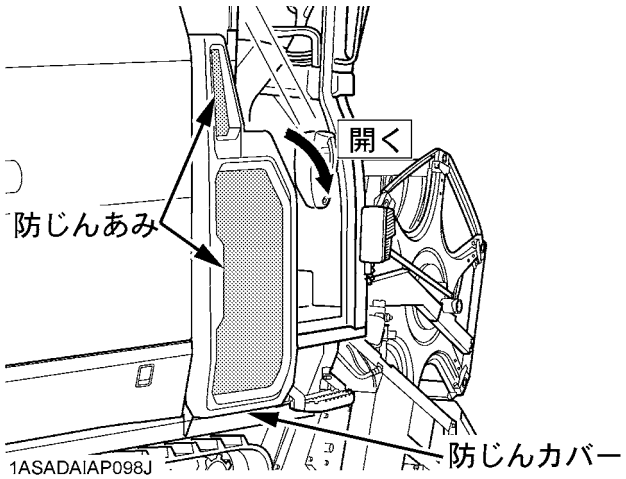
[C 仕様除く]

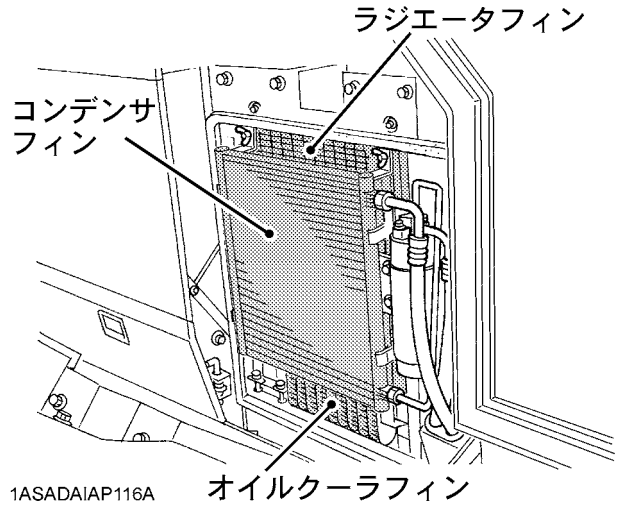




[C 仕様除く]

[C 仕様]





[C 仕様]

重　要

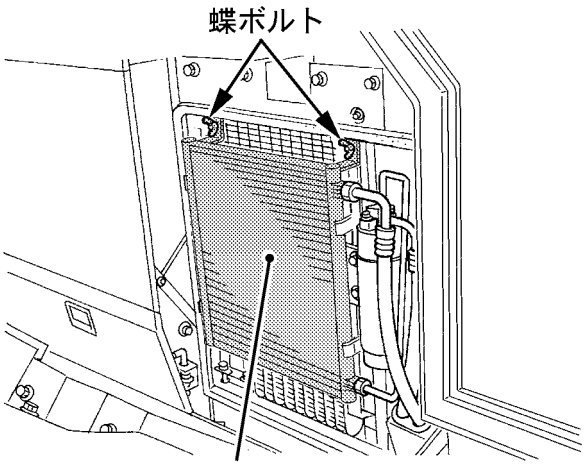
＊ ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，各フィンの掃除をしないでください。ラジエータフィンを傷めると，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

補　足

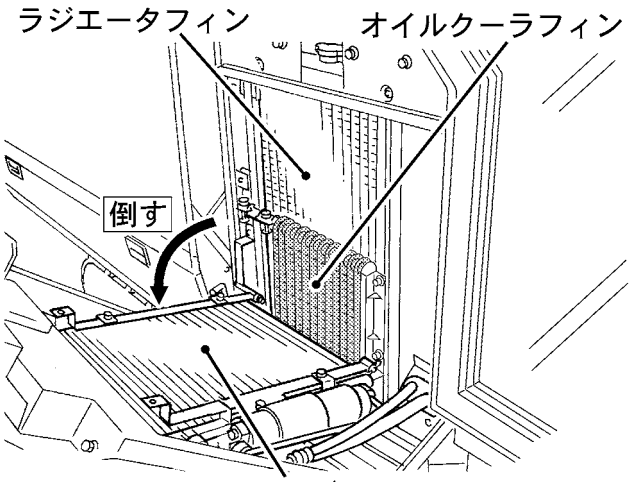
＊ ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，コンデンサフィン**[C 仕様]**やオイルクーラを取外してから掃除してください。

● **倒しかた**

1. コンデンサフィンの蝶ボルトを取外したあと，オイルクーラフィンを１度持上げてコンデンサフィン**【C 仕様】**といっしょに手前に倒します。



1ASADAIAP116B



1ASADAIAP117A

2. 逆の手順で取付けたあと，防じんカバーを閉じます。

補　足

＊ ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，オイルクーラを取外してから掃除してください。

■フューエルフィルタエレメントの掃除，フューエルフィルタカートリッジ･フィルタエレメントの交換

注　意

＊ ホッパ又は，グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，ホッパ又は，グレンタンクの開閉を行なわないでください。

ホッパ**【H 仕様】**又は，グレンタンク**【G 仕様】**をオープンしてください。また，交換は燃料を給油する前に行なってください。

重　要

＊ 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ 交換後は，メインスイッチのキーを**【入】**位置にすると５～10秒で自動的にエア抜きされます。

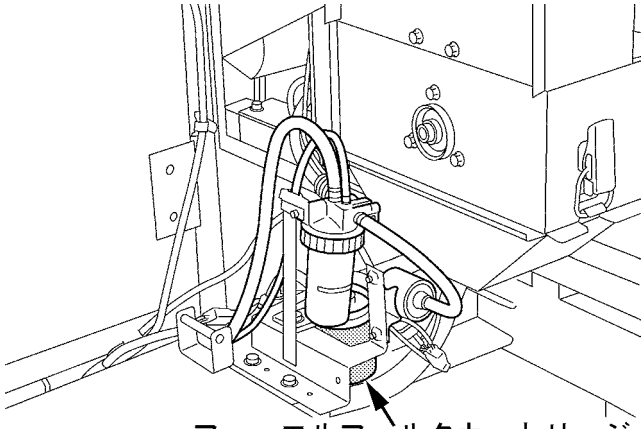
◆ フューエルフィルタカートリッジの交換

1. ホッパ **[H 仕様]** 又は，グレンタンク **[G 仕様]** をオープンします。
2. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

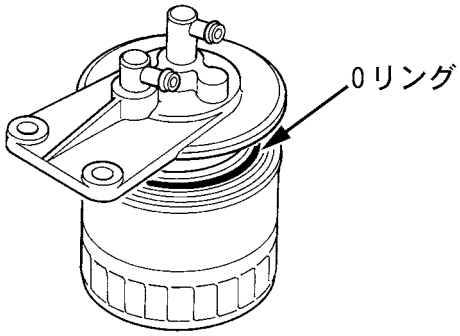
補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

3. 新しいカートリッジは 0 リングに燃料を薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。



1ASADAGAP182A フューエルフィルタカートリッジ
※イラストは H仕様



1ARADBEAP445A

重　要

＊ 0リングは傷つけないようにしてください。また，溝にきちんと入れて組付けてください。

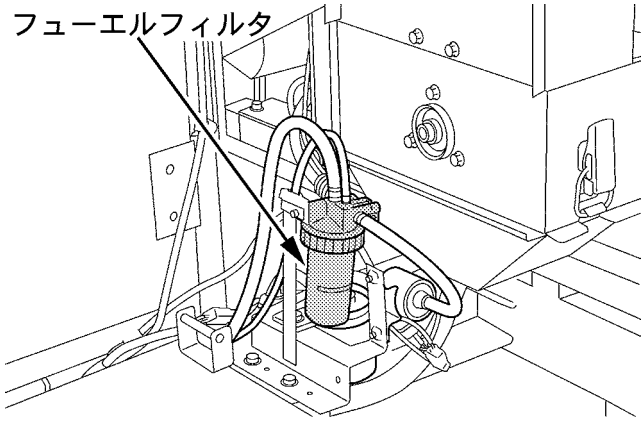
4. ホッパ **[H 仕様]** 又は，グレンタンク **[G 仕様]** を閉じます。

◆ フューエルフィルタのエレメントの掃除，交換

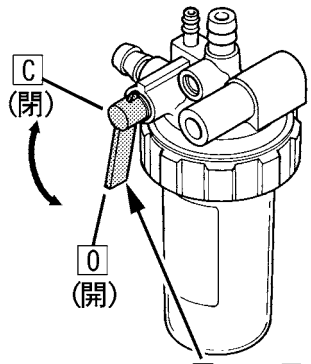
重　要

＊ フィルタ下部に水が溜まっているときは，早めに掃除又は，交換してください。
＊ 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

1. ホッパ **[H 仕様]** 又は，グレンタンク **[G 仕様]** をオープンします。
2. フューエルコックレバーを **[O]（開）** 位置から **[C]（閉）** 位置にします。

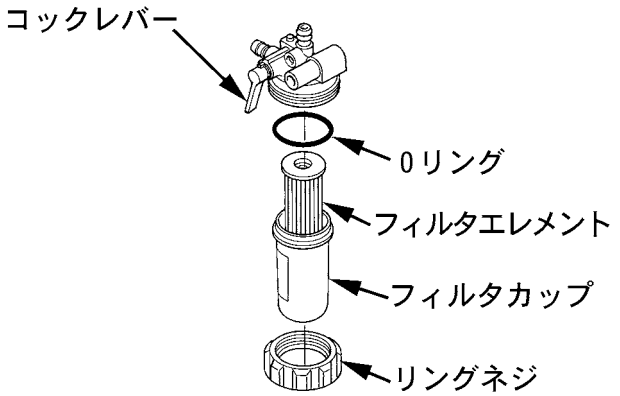


1ASADAGAP182B ※イラストは H仕様



1ARADBEAP446A フューエルコックレバー

3. リングネジをゆるめてフィルタカップを外します。
4. フィルタエレメントを取出して**軽油**で 0 リングを含めて洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき，汚れのひどい場合や運転時間が 400 時間経過しているときは交換してください。



重　要

＊ 0リングは傷つけないようにしてください。また，失くさないでください。
＊ 汚れ（目詰まり）がひどい場合は，洗浄を行なっても短時間で目詰まりします。

5. 0 リングやフィルタエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重　要

＊ 0 リングは溝にきちんと入れて組付けてください。
＊ ゴミが燃料内に混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルの故障の原因となります。

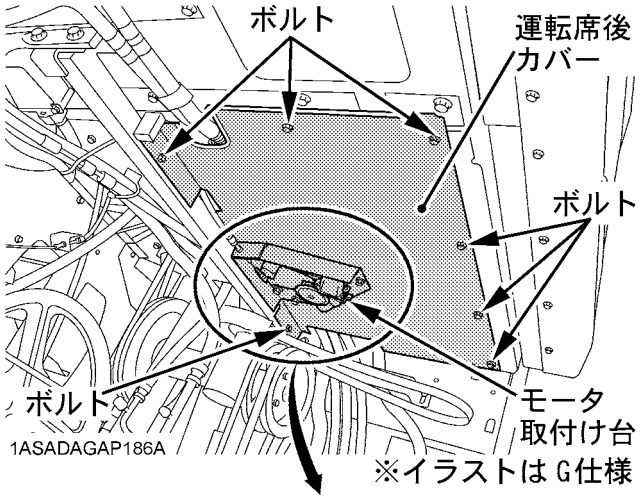
6. ホッパ **[H 仕様]** 又は，グレンタンク **[G 仕様]** を閉じます。

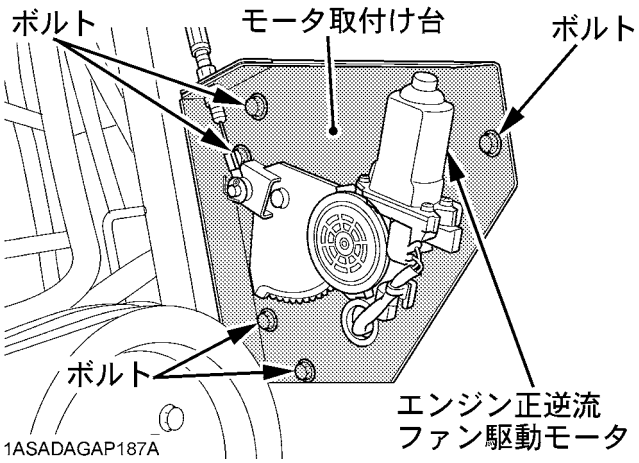
■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

エンジンオイルの交換（158 ページ参照）が 2 回目のとき交換してください。フィルタカートリッジを交換するときはホッパ **[H 仕様]** 又は，グレンタンク **[G 仕様]** をオープンしてください。交換後は，ホッパ **[H 仕様]** 又は，グレンタンク **[G 仕様]** を閉じてください。

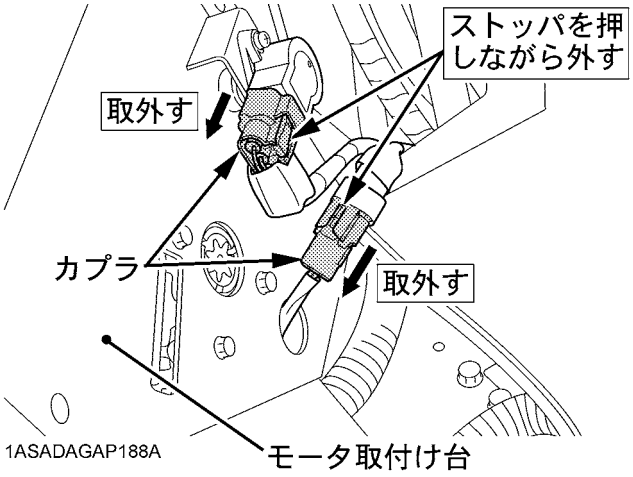
◆ 交換

1. ボルトを取外してエンジン正逆流ファン駆動モータ取付け台と運転席後カバーを取外します。





2. モータ取付け台は，2 箇所のモータ用のカプラを外して取外します。

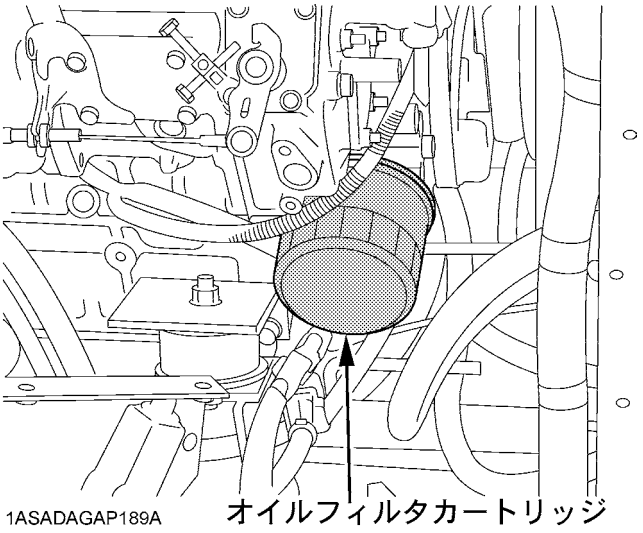


3. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

4. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
5. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，5分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



重　要

＊ 新しいカートリッジは 0 リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

6. 運転席後カバーを取付け，エンジン正逆流ファン駆動モータのカプラを接続したあと，モータ取付け台を取付けます。

■ HST オイルフィルタカートリッジの交換，油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交換

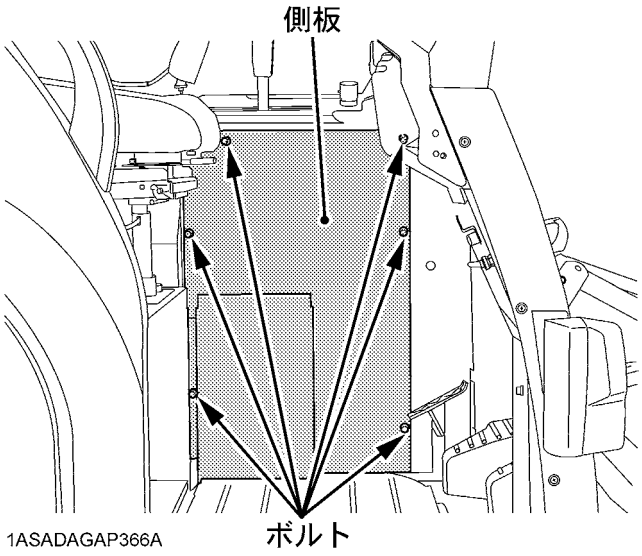
注　意

＊ 刈取部を上げて洗浄・交換を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

HSTオイルフィルタカートリッジの交換と油圧オイルタンクフィルタの洗浄又は，交換は同時に行なってください。

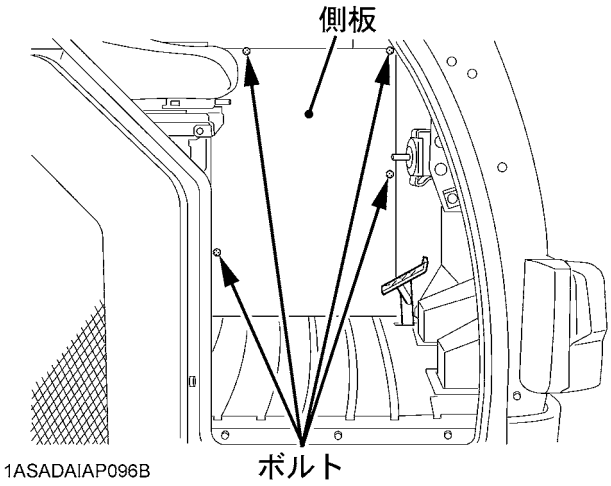
1. ステップ左側の側板をボルトを外して取外します。

[C 仕様除く]



[C 仕様除く]

[C 仕様]

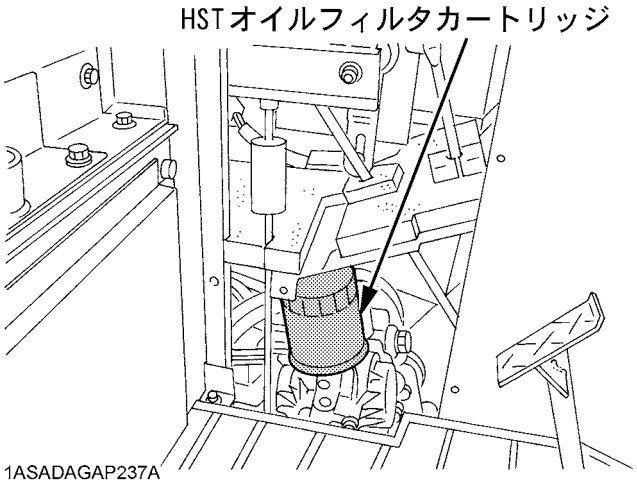


[C 仕様]

2. 油圧オイルタンクの給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出します。(162ページ参照)
3. 専用工具を使って HST オイルフィルタカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

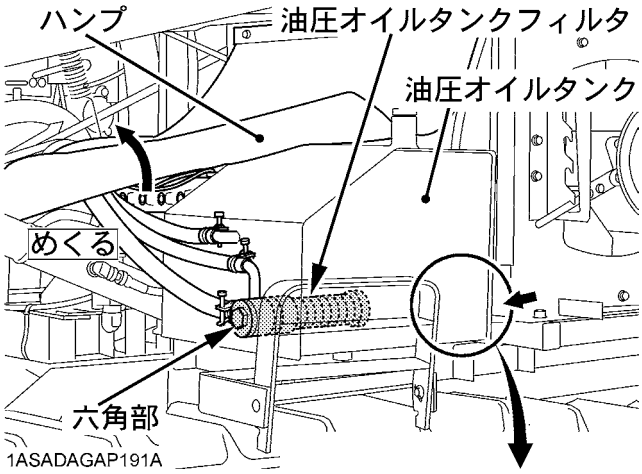


4. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。

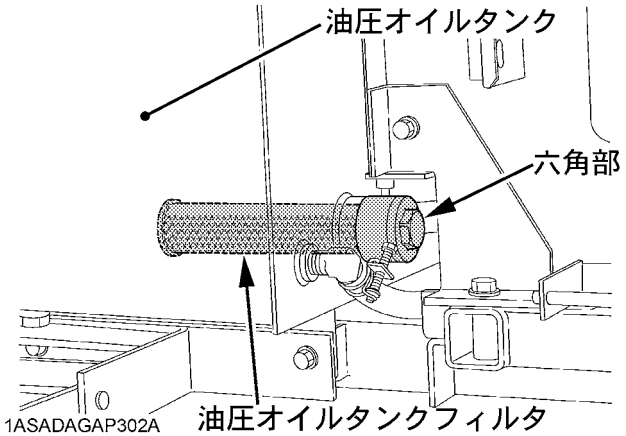
重　要

＊ 新しいカートリッジは O リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ HST オイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，HST の故障の原因となります。

5. 排油プラグを締付けます。
6. ハンプをめくり上げたあと，油圧オイルタンクフィルタの六角部をスパナでゆるめて，フィルタを抜きます。
7. 油圧オイルタンクフィルタが汚れているときは，軽油などで洗浄し，破損しているときは交換します。



[G 仕様]



[G 仕様]

8. 取外した逆の手順で油圧オイルタンクフィルタを取付けます。
9. 162 ページの項を参照し，オイルを規定量給油します。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

重　要

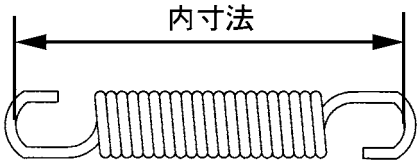
＊ 給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

10. ハンプを降ろします。
11. ステップ左側の側板を取付けます。

■各部ワイヤの点検･調整

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



1ASADACAP390A

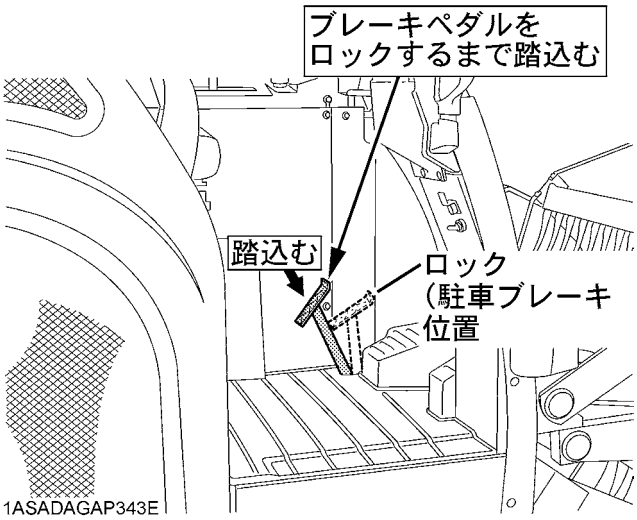
■駐車ブレーキワイヤ

注　意

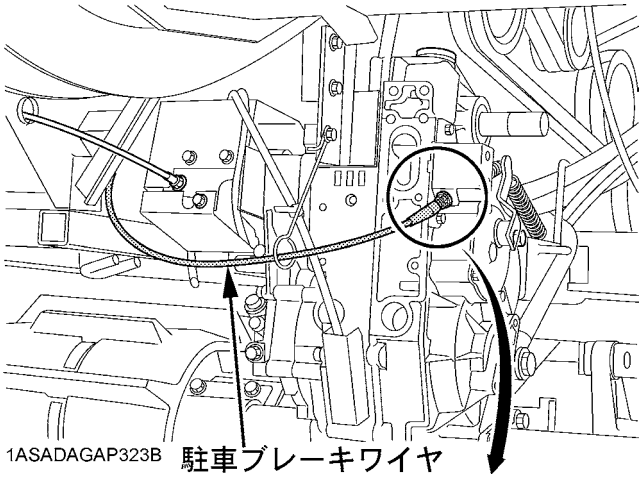
＊ 刈取部を上げて調整を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

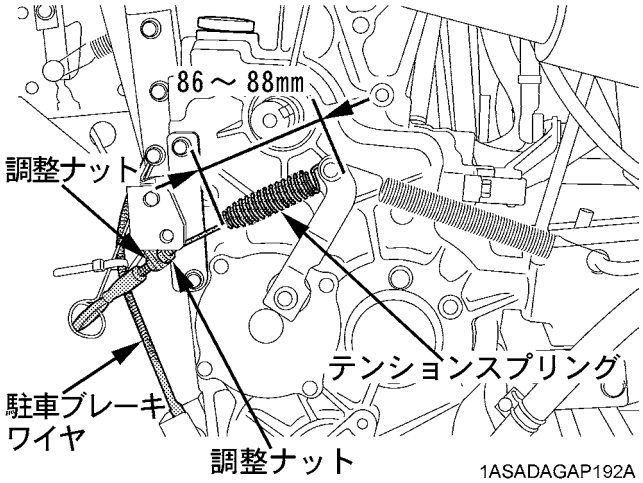
テンションスプリングの長さを 86 ～ 88㎜ に調整します。

1. 刈取部を上げます。
2. 駐車ブレーキを掛けます。
3. 調整ナット２個をゆるめて，調整します。



1ASADAGAP343E





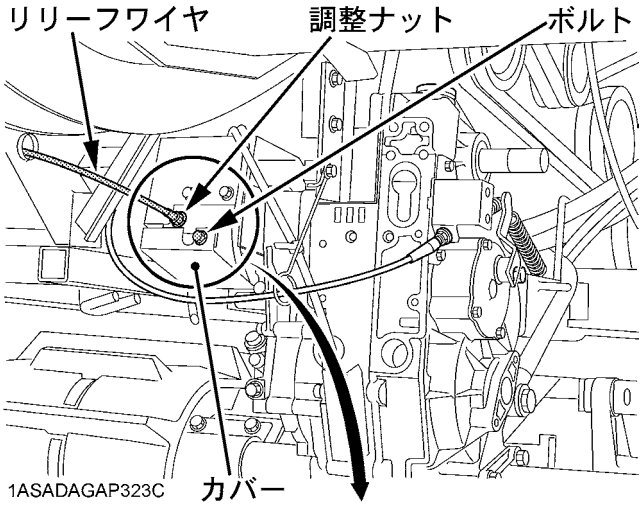
4. 調整ナットを締付けます。
5. 駐車ブレーキを解除します。

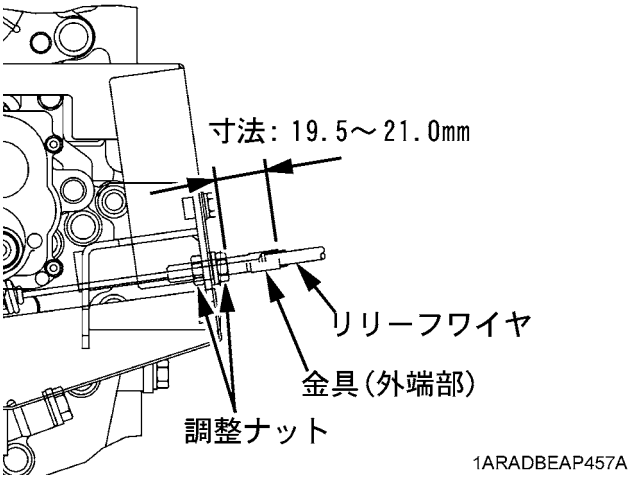
■リリーフワイヤ

注 意

＊ 刈取部を上げて調整を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

調整ナット外端部とワイヤ金具外端部の寸法を19.5～21.0mmに調整します。
1. 刈取部を上げます。
2. ボルトを取外してカバーを外します。
3. 調整ナット2個をゆるめて調整します。





4. 調整ナットを締付けたあとカバーを取付けます。

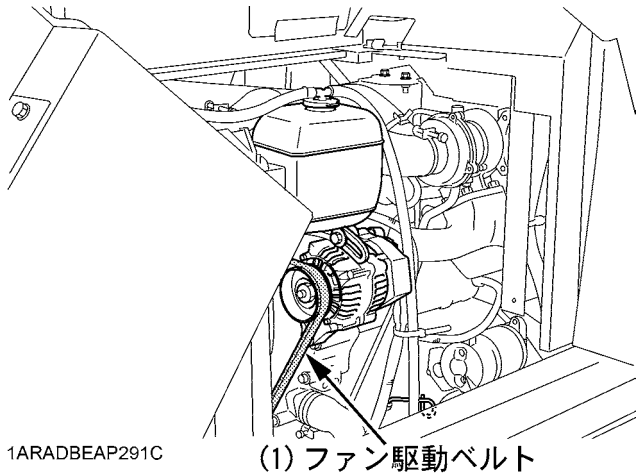
■各部ベルトの点検･調整

下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検個所	図番	名称	サイズ	本数（本／台）	張り調整		適応仕様
					※テンションスプリング取付け長さ（mm）	たわみ量（mm）	
エンジン周辺部	(1)	ファン駆動ベルト	39.5 ブイベルト	1	—	5 ～ 7	全仕様
	(2)	ミッション駆動ベルト	特 B54	2	A 44 ～ 46	—	全仕様
	(3)	脱こく入力駆動ベルト	特 C94	1	B 469 ～ 475	—	全仕様
	(4)	ギヤケース駆動ベルト	特 B64	1	C 211 ～ 216	—	G 仕様
ギヤケース部	(5)	オイルポンプ駆動ベルト	特 B56	1	D 113 ～ 117	—	G 仕様
	(6)	コンプレッサ駆動ベルト	特 A39	1	—	5 ～ 8	C 仕様
脱こく部	(7)	脱こく駆動ベルト	特 C112	1	E 142 ～ 146	—	全仕様
	(8)	脱こくカウンタベルト	特 C76	2	F 200 ～ 204	—	全仕様
	(9)	こぎ胴駆動ベルト	特 C51	2	G 200 ～ 204	—	全仕様
	(10)	揺動駆動ベルト	特 B30	1	H 100 ～ 104	—	全仕様
	(11)	1・2 番スクリュ駆動ベルト	特 B108	1	I 134 ～ 138	—	全仕様
	(12)	トウミ駆動ベルト	特 B39	1	—	—	全仕様
	(13)	1 番排出スクリュ駆動ベルト	特 B36	1	J 86 ～ 90	—	G 仕様
	(14)	フィーダ駆動ベルト	特 B86	1	K 95 ～ 99	—	全仕様
刈取部	(15)	刈刃駆動ベルト	特 C77	1	L 139 ～ 141	—	全仕様
	(16)	リール変速ベルト	RPF16.7-11-877	1	M 63 ～ 67	—	全仕様
クローラタンク部	(17)	底スクリュ駆動ベルト	特 B46	1	N 115 ～ 117	—	G 仕様
	(18)	バケット駆動ベルト	特 B39	1	O 120 ～ 122	—	G 仕様

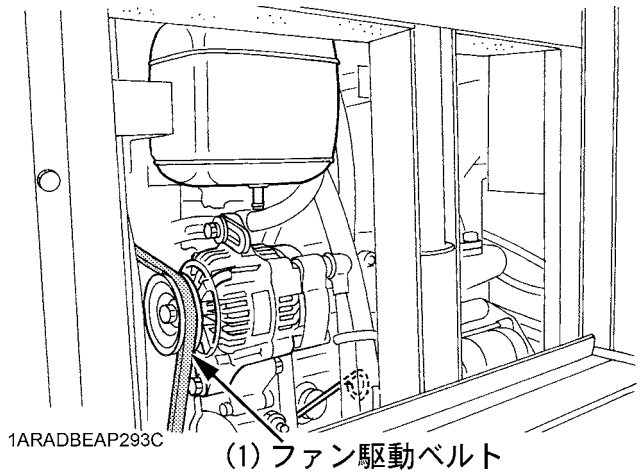
[エンジン部]

[C 仕様除く]



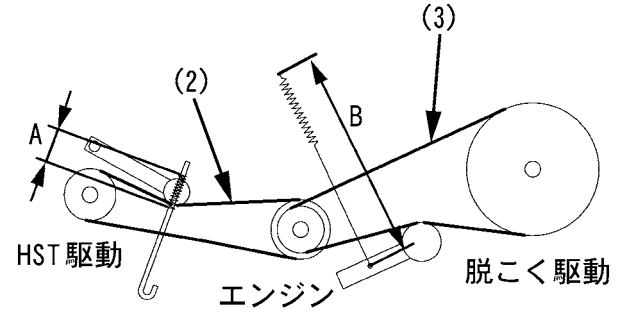
[C 仕様除く]

[C 仕様]



[C 仕様]

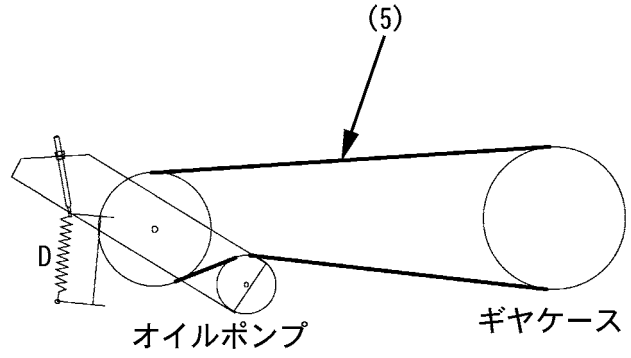
[エンジン周り]



1ASADAGAP193A

[G 仕様]

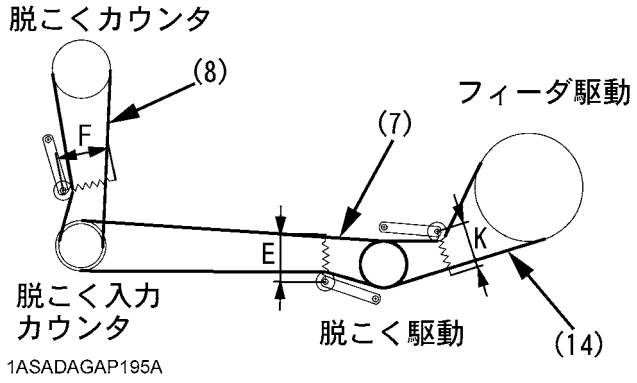
[オイルポンプ部]



1ASADAGAP194A

[G 仕様]

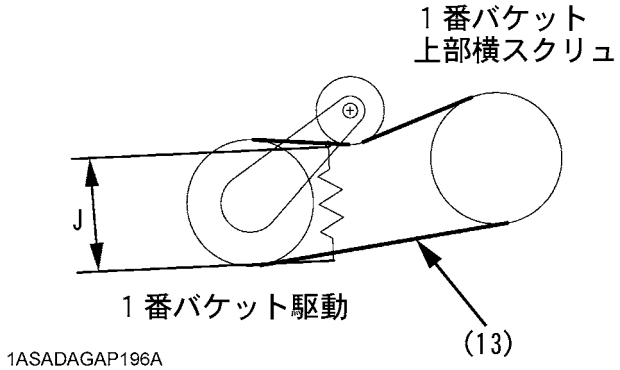
[脱こく部右側]



1ASADAGAP195A

[G 仕様]

[脱こく部上部右側（1 番バケット上部)]

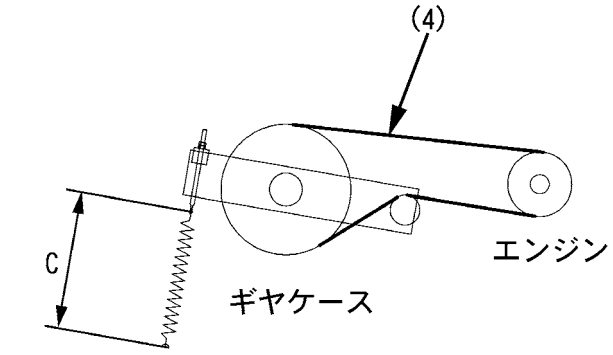


1ASADAGAP196A

[G 仕様]

[G 仕様]

[ギヤケース部]

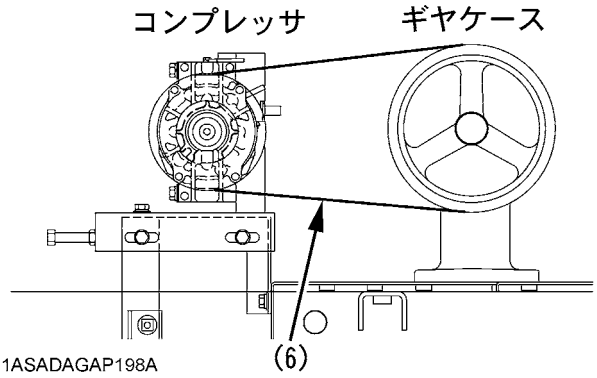


1ASADAGAP197A

[G 仕様]

[C 仕様]

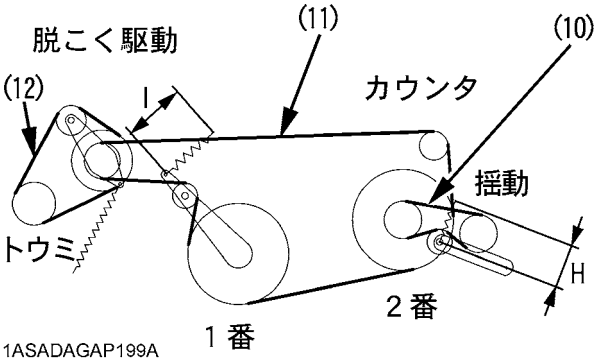
[コンプレッサ部]



1ASADAGAP198A

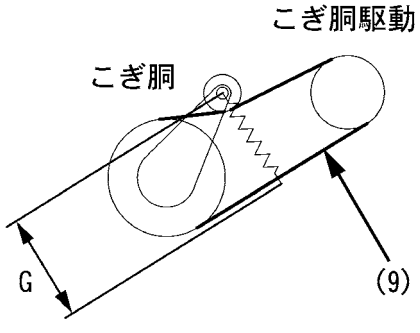
[C 仕様]

[脱こく部左側]



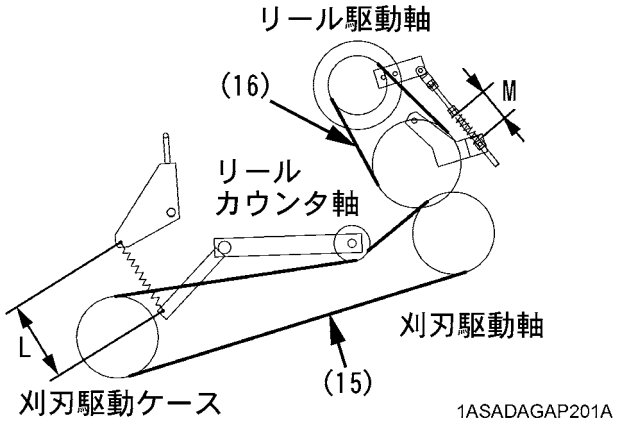
1ASADAGAP199A

[脱こく部後側]



1ASADAGAP200A

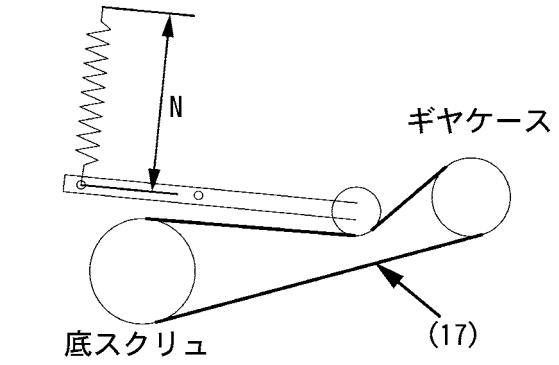
[刈取部]



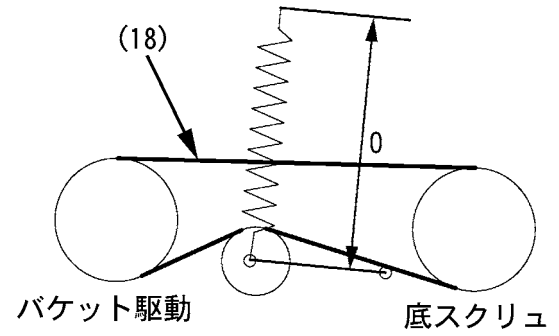
1ASADAGAP201A

[G 仕様]

[グレンタンク部]



1ASADAGAP202A



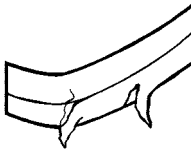
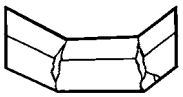
1ASADAGAP203A

[G 仕様]

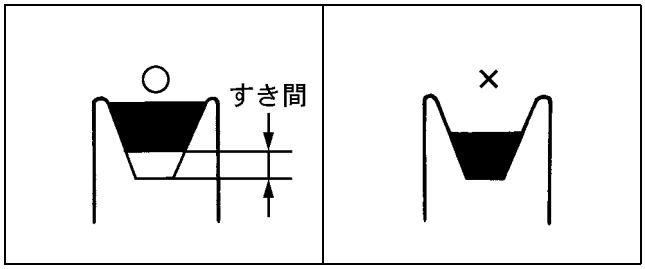
◆ 点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

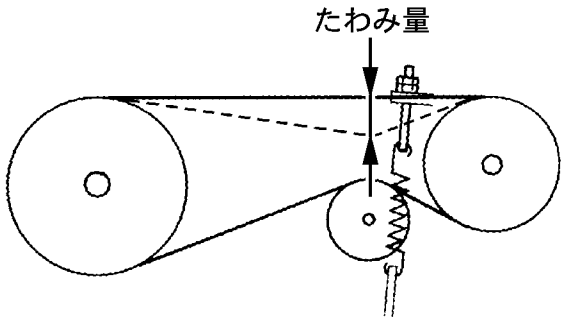
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3. ベルトの伸び（たわみ量）



1ARADBEAP479A

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重　要

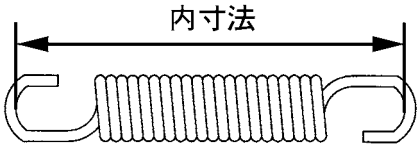
＊ ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

◆ 調整

ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

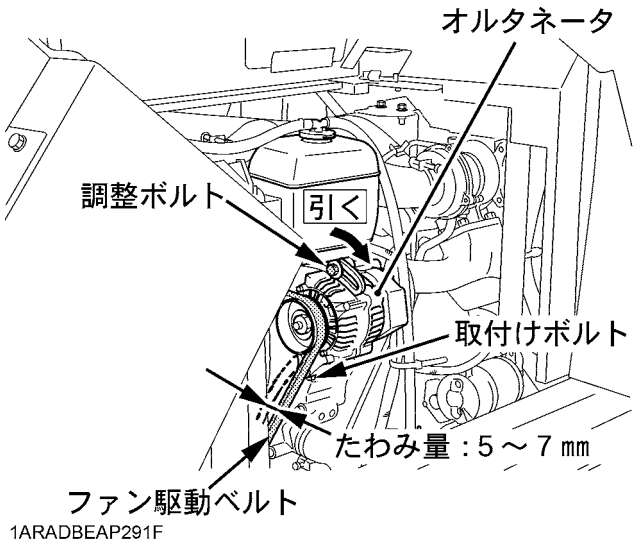


■ファン駆動ベルト

指先でベルトの中央部を押したとき（約 100 ～ 112N {10 ～ 11kgf} の荷重）のたわみ量を５～７ mm に調整します。

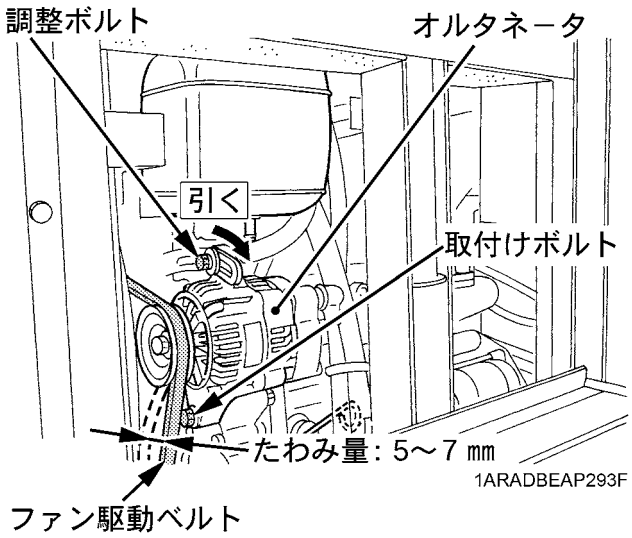
1. **[C 仕様除く]**はエンジンルームをオープンし，**[C 仕様]** は運転席下カバーを取外します。
2. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。

[C 仕様除く]



[C 仕様除く]

[C 仕様]



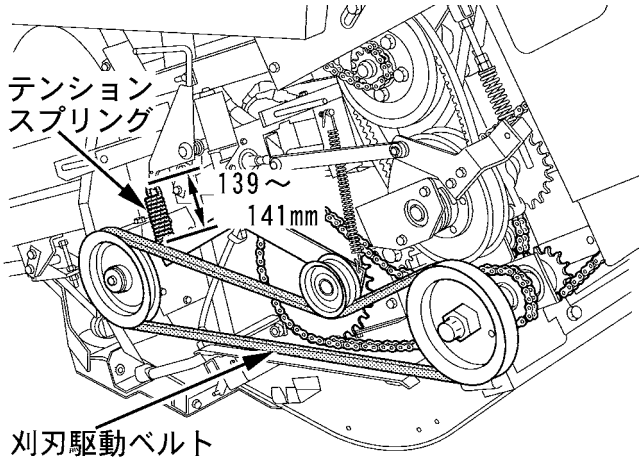
[C 仕様]

5. **[C 仕様除く]** はエンジンルームを閉じ，**[C 仕様]** は運転席下カバーを取付けます。

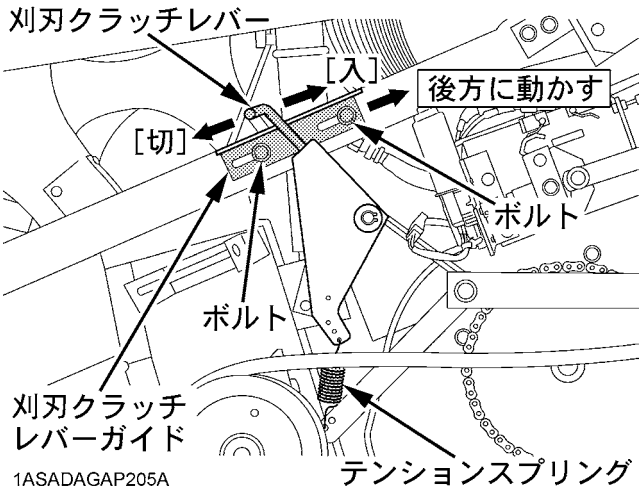
■刈刃駆動ベルト

テンションスプリングの長さを139～141mmに調整します。

1. 刈取左サイドカバーを取外します。
2. 刈刃クラッチレバーを【切】位置にしたあと，刈刃クラッチレバーガイドのボルトをゆるめます。
3. 刈刃クラッチレバーガイドを後方に動かしたあと，ボルトを締付けます。
4. 刈刃クラッチレバーを【入】位置にしたあと，テンションスプリングの長さを測定します。
5. 範囲から外れているときは再度調整を行ないます。



1ASADAGAP204A



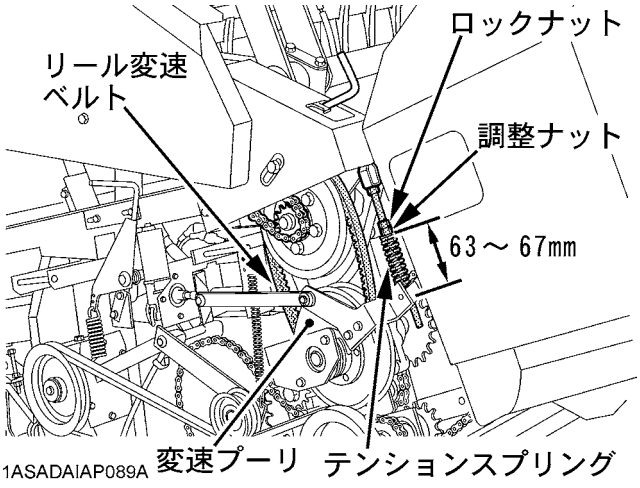
1ASADAGAP205A

6. 刈取左サイドカバーを取付けます。

■リール変速ベルト

テンションスプリングの長さを63～67mmに調整します。

1. 刈取左サイドカバーを取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて調整を行ないます。
3. 変速プーリを３回転以上回したあと，再度テンションスプリングの長さを測定し，範囲から外れているときは最調整を行ないます。



1ASADAIAP089A

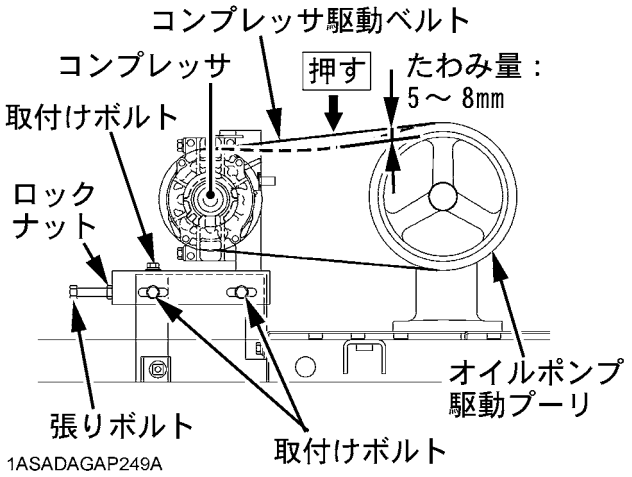
4. ロックナットと調整ナットを締付けたあと，刈取左サイドカバーを取付けます。

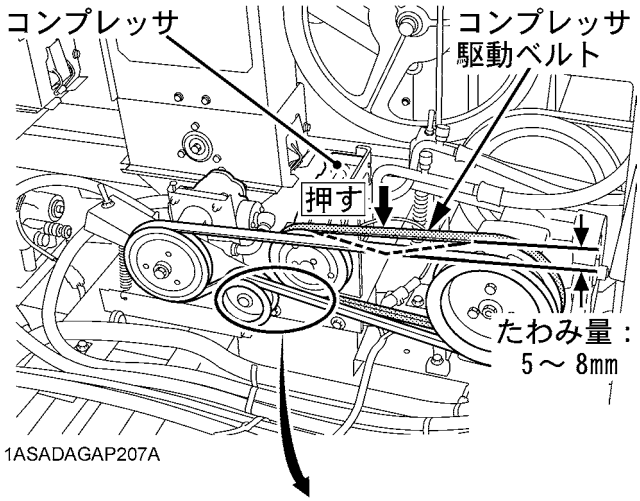
■コンプレッサ駆動ベルト

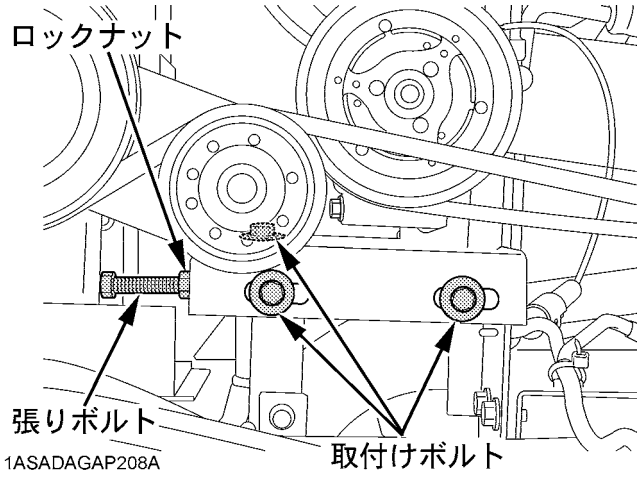
[C 仕様]

指先でベルトの中央部を押したとき（約15N{1.5kgf}の荷重）のたわみ量を5～8 mmに調整します。

1. グレンタンクオープンします。
2. コンプレッサの取付けボルトをゆるめます。
3. 張りボルトのロックナットをゆるめ，張りボルトで調整をします。
4. 張りボルトのロックナットを締付け，コンプレッサの取付けボルトを締付けます。







5. グレンタンクを閉じます。

[C 仕様]

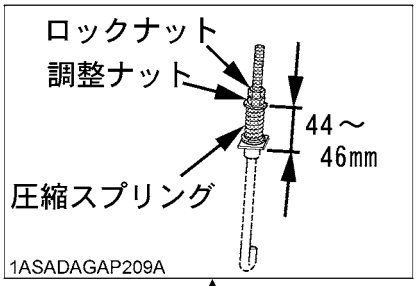
■ミッション駆動ベルト

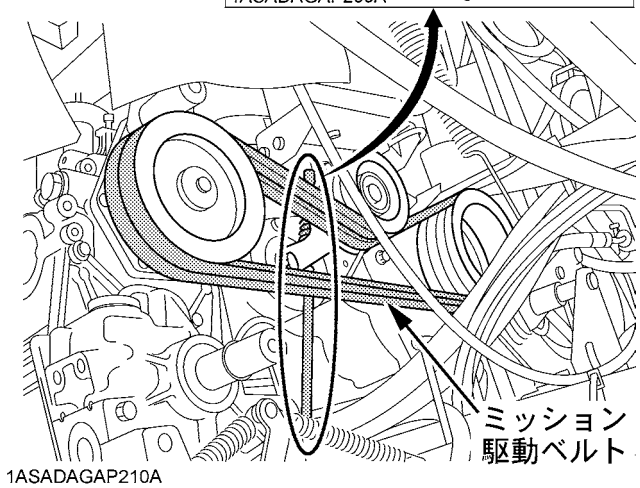
注 意

＊ 刈取部を上げて調整を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

圧縮スプリングの長さ 44 ～ 46mm に調整します。

1. 刈取部を最上昇位置まで上げ，刈取・リール下降ロックスイッチを下げて刈取部の下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，刈取部を降ろします。

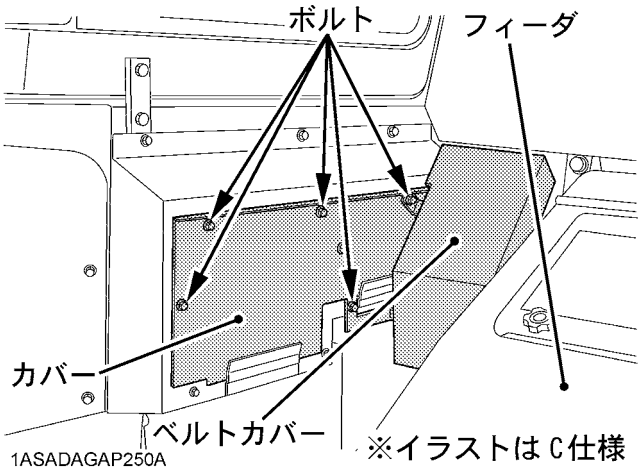




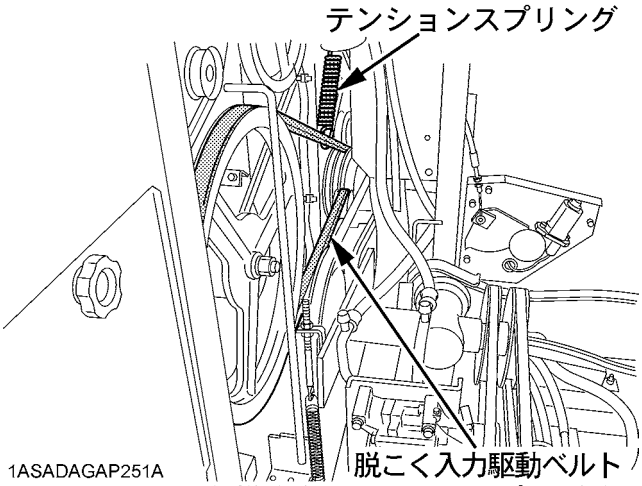
■脱こく入力駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 469 ～ 475mm に調整します。

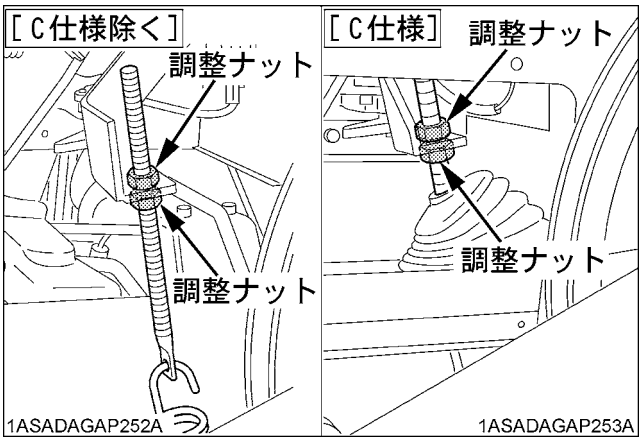
1. 脱こくクラッチレバーを**［脱こく］**位置にします。
2. フィーダ上部右側の運転席左外側のカバー及びベルトカバーをボルトを外して取外します。

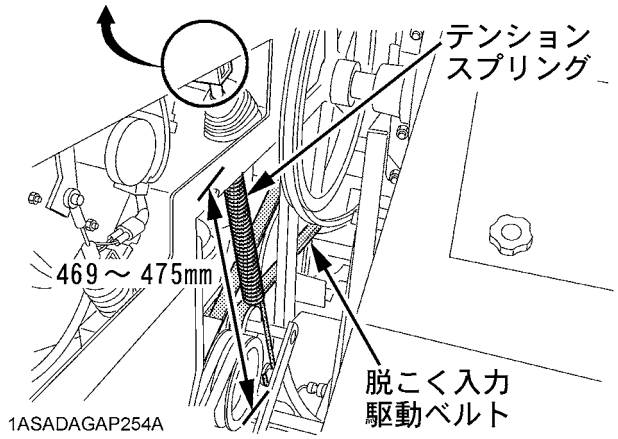


3. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。



※イラストは G仕様（グレンタンクオープン状態）





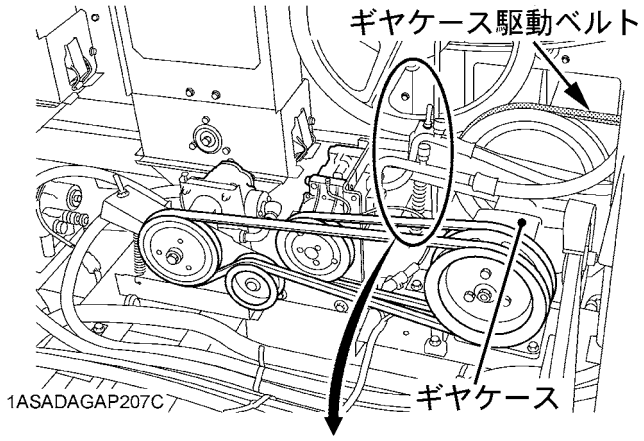
4. 調整ナットを締付けます。
5. フィーダ上部右側の運転席左側のカバー及びベルトカバーを取付けます。

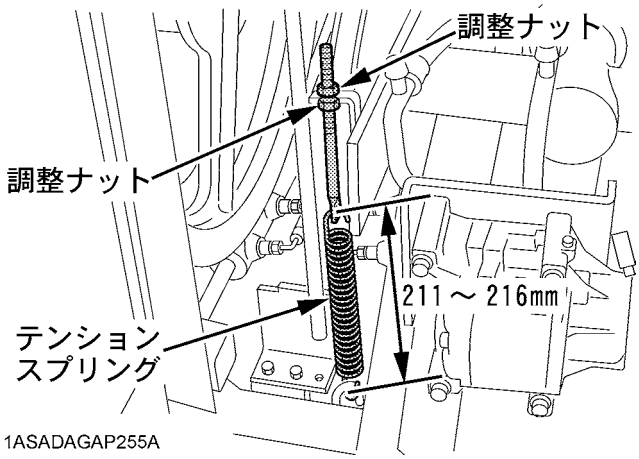
■ギヤケース駆動ベルト

[G 仕様]

テンションスプリングの長さを 211～216mm に調整します。

1. グレンタンクをオープンします。
   (134 ページ参照)
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。





4. グレンタンクを閉じます。

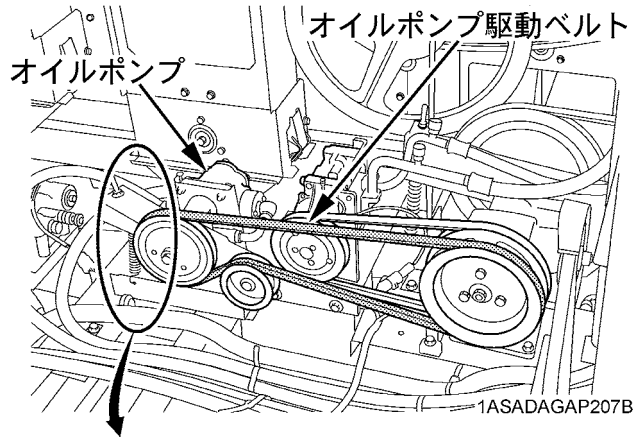
[G 仕様]

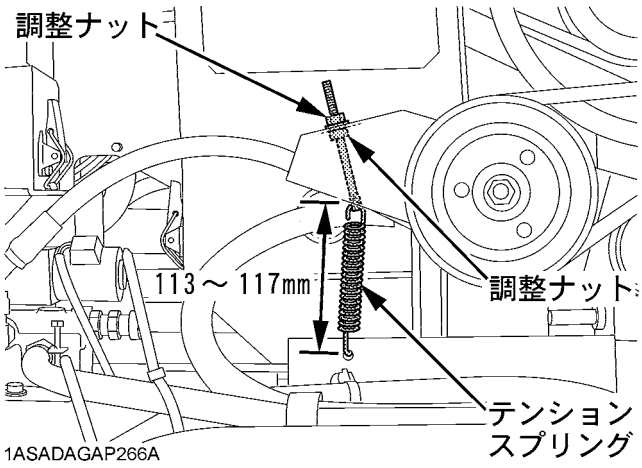
■オイルポンプ駆動ベルト

[G 仕様]

テンションスプリングの長さを 113 ～ 117mm に調整します。

1. グレンタンクをオープンします。
   (134 ページ参照)
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。





4. グレンタンクを閉じます。

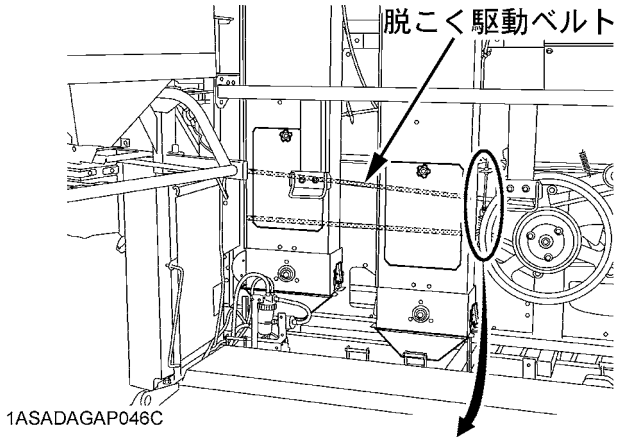
[G 仕様]

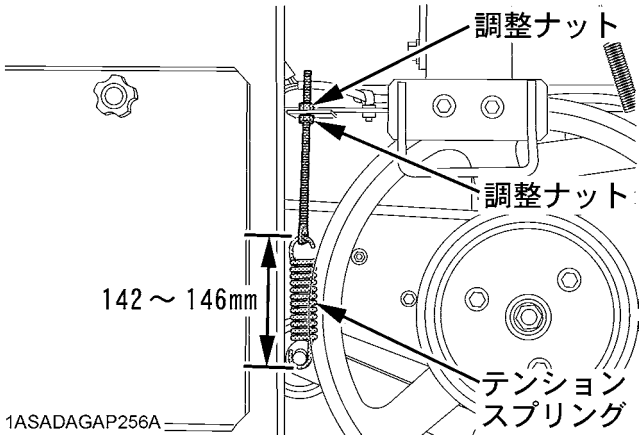
■脱こく駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 142 ～ 146mm に調整します。

[H 仕様]

1. ホッパをオープンします。(132 ページ参照)
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。



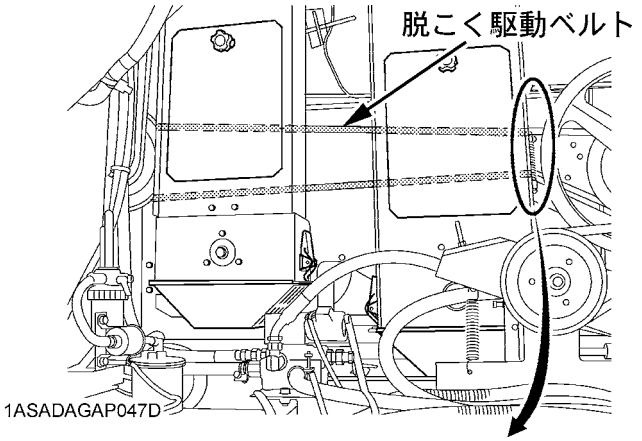


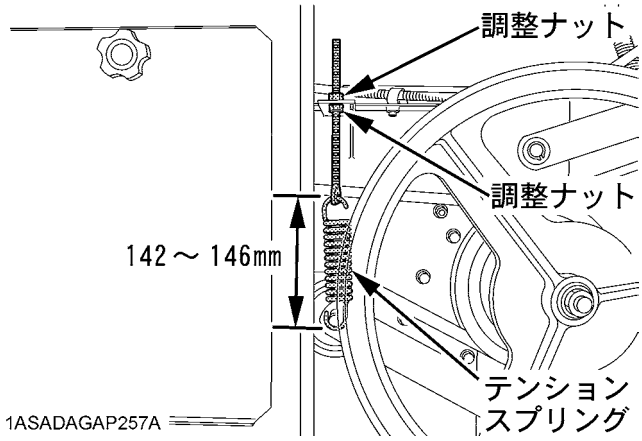
4. ホッパを閉じます。

[H 仕様]

[G 仕様]

1. グレンタンクをオープンします。
   (134 ページ参照)
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。





4. グレンタンクを閉じます。

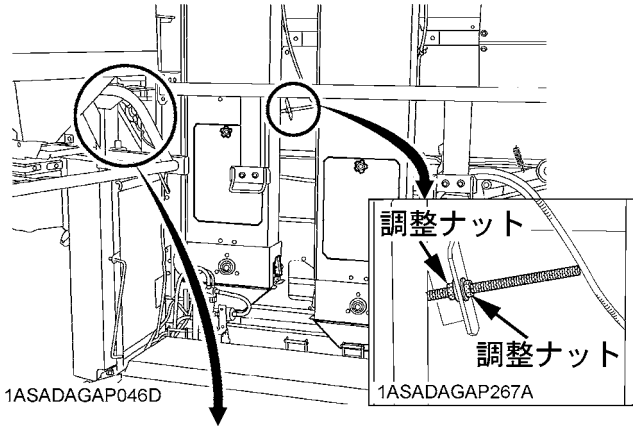
[G 仕様]

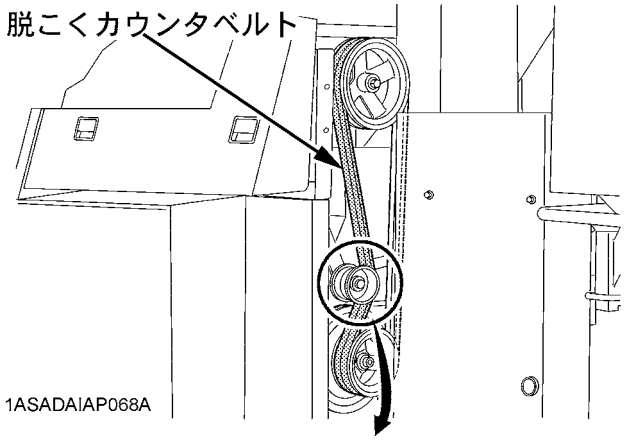
■脱こくカウンタベルト

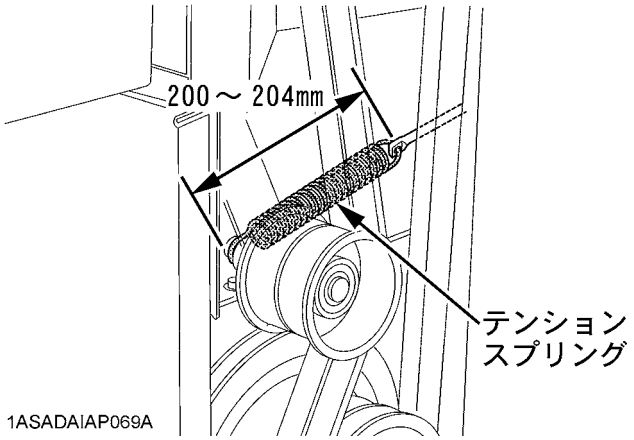
テンションスプリングの長さ 200～204mm に調整します。

[H 仕様]

1. ホッパをオープンします。(132 ページ参照)
2. 脱こく右後部カバーを取外します。
   (133 ページ参照)
3. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けます。





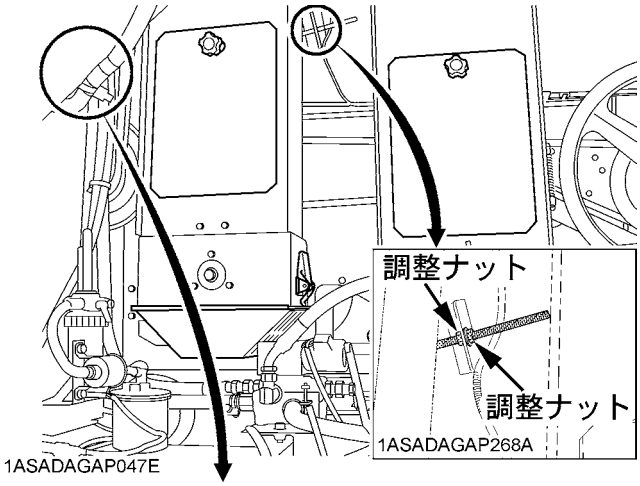


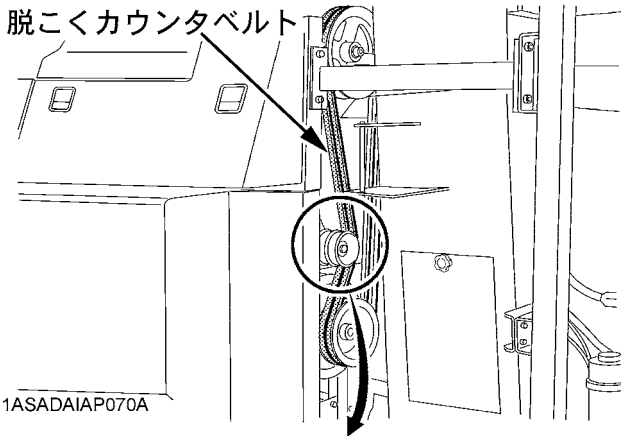
5. 脱こく右後部カバーを取付けます。
6. ホッパを閉じます。

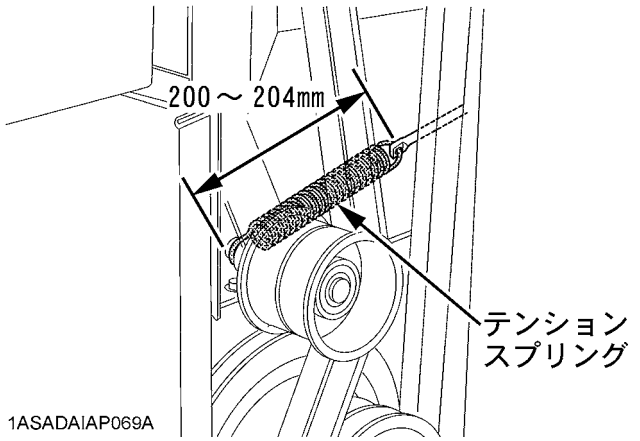
[H 仕様]

[G 仕様]

1. グレンタンクをオープンします。
   (134 ページ参照)
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。







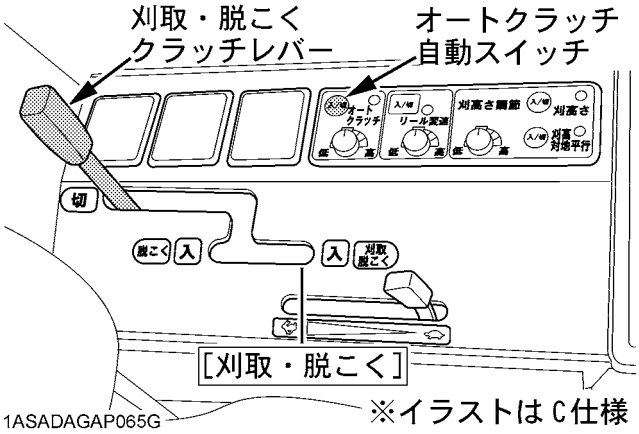
4. グレンタンクを閉じます。

[G 仕様]

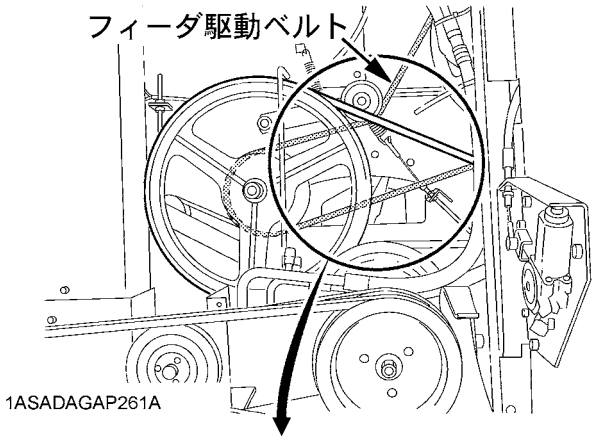
■フィーダ駆動ベルト

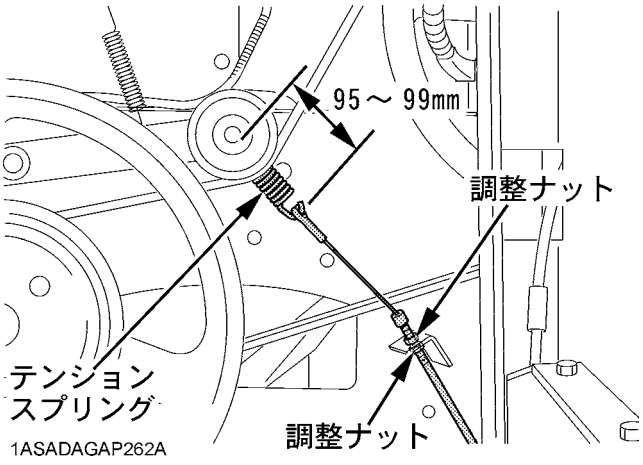
テンションスプリングの長さを 95 ～ 99㎜に調整します。

1. フィーダ駆動ベルトのテンションを張るため，メインスイッチのキーを**【入】**位置にしたあと，刈取オートクラッチ自動スイッチを**【切】**にし，刈取・脱こくレバーを**【刈取・脱こく】**位置にします。



2. メインスイッチのキーを**【切】**位置にします。
3. グレンタンクをオープンします。
(134 ページ参照)
4. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
5. 調整ナットを締付けます。



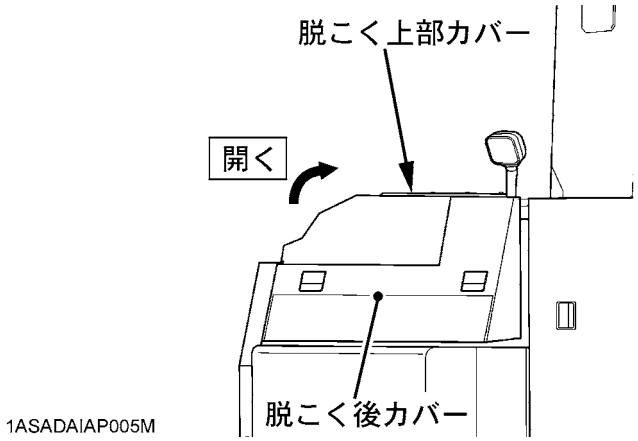


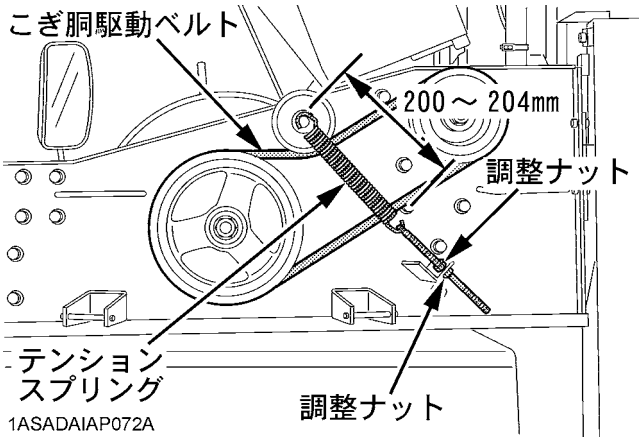
6. グレンタンクを閉じたあと，刈取・脱こくクラッチレバーを**【切】**位置にします。

■こぎ胴駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 200 ～ 204mm に調整します。

1. 脱こく上部カバーをオープンしたあと，脱こく後カバーを取外します。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。



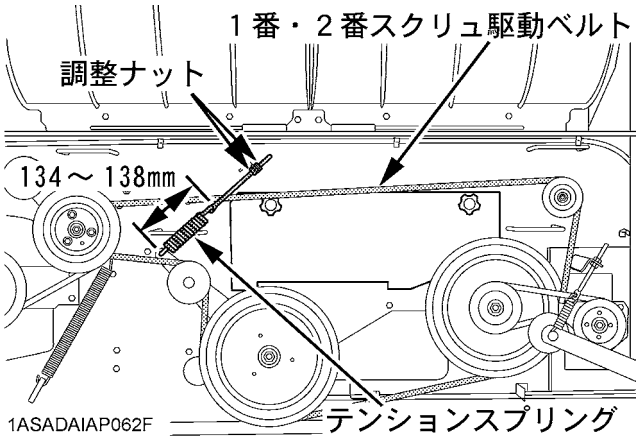


4. 脱こく後カバーを取付けたあと，脱こく上部カバーを閉じます。

■1 番・2 番スクリュ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 134 ～ 138mm に調整します。

1. こぎ胴サイドカバーをオープンしたあと，脱こく左サイドカバー前，後を取外します。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。

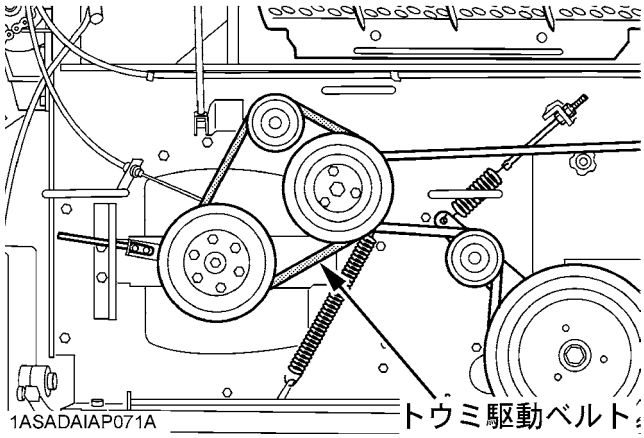


4. 脱こくサイドカバー前，後を取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。

■トウミ駆動ベルト

トウミ駆動ベルトの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。

1. こぎ胴サイドカバーをオープンしたあと，脱こく左サイドカバー前を取外します。
2. 点検を行ないます。

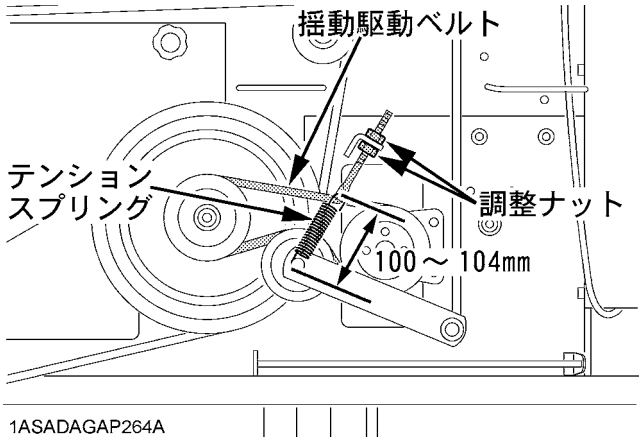


3. 脱こく左サイドカバー前を取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。

■揺動駆動ベルト

テンションスプリングの長さを100～104㎜に調整します。

1. こぎ胴サイドカバーをオープンしたあと，脱こく左サイドカバー後を取外します。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。



4. 脱こくサイドカバー後を取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。

■1番排出スクリュ駆動ベルト

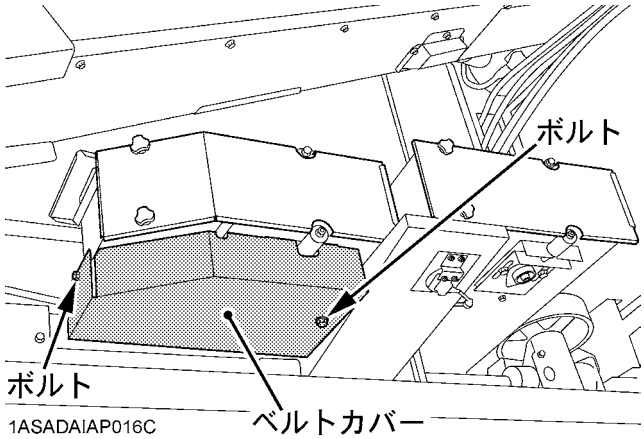
[G 仕様]

注 意

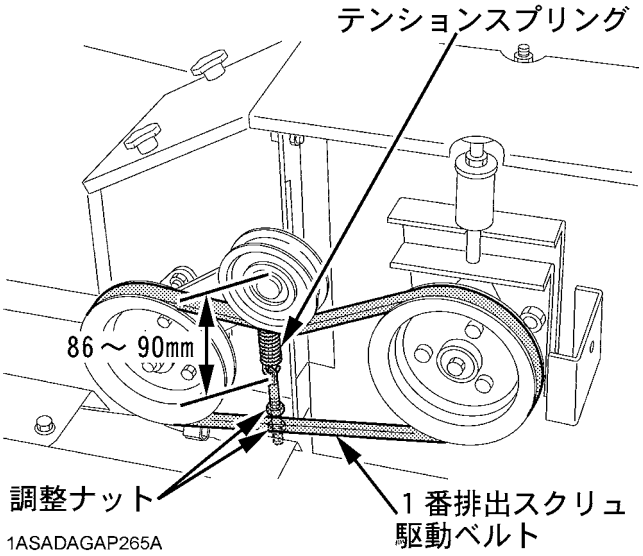
＊ 転倒・転落のおそれがありますので，作業を行なうときは足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。

テンションスプリングの長さを86～90㎜に調整します。

1. ボルトを取外して 1 番上部バケットコンベアのベルトカバーを取外します。



2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。



4. 1 番上部バケットコンベアのベルトカバーを取付けます。

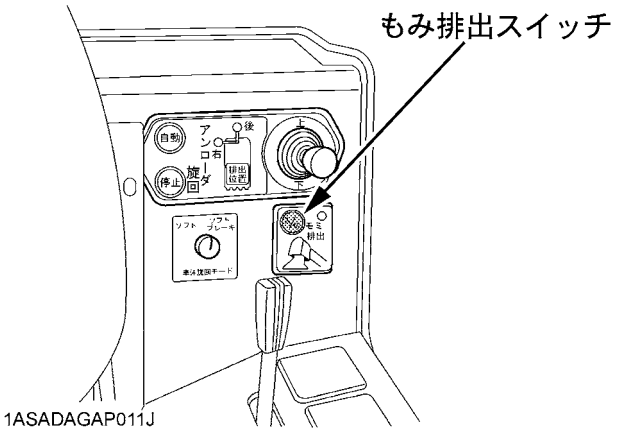
[G 仕様]

■底スクリュ駆動ベルト

[G 仕様]

テンションスプリングの長さを 115～117mm に調整します。

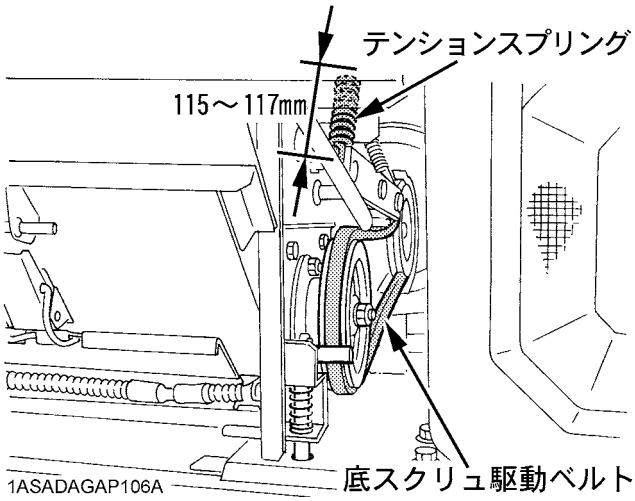
1. メインスイッチのキーを **[入]** 位置にし，もみ排出スイッチを **[入]** にします。



補　足

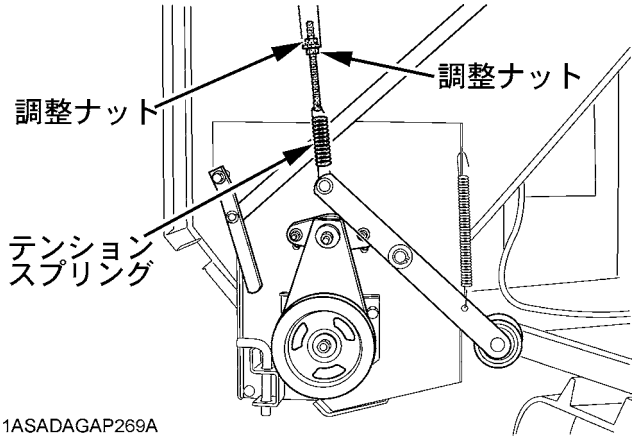
＊ もみ排出のランプが点滅し，もみ排出クラッチモータが作動して底スクリュ駆動ベルトのテンションスプリングが張ります。

2. グレンタンク下カバーを取外します。
3. テンションスプリングの長さを測定します。



4. 規定値（115 ～ 117mm）から外れているときは，もみ排出スイッチをいったん **[切]** にしたあと，グレンタンクをオープンします。

5. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行なったあと，調整ナットを締付けます。



1ASADAGAP269A

6. グレンタンクを閉じたあと，テンションスプリングの長さを測定し，規定値（115 ～ 117㎜）から外れているときは再調整を行ないます。
7. 底スクリュ駆動ベルトを取付け，グレンタンク下カバーを取付けたあと，メインスイッチのキーを **【切】** 位置にします。

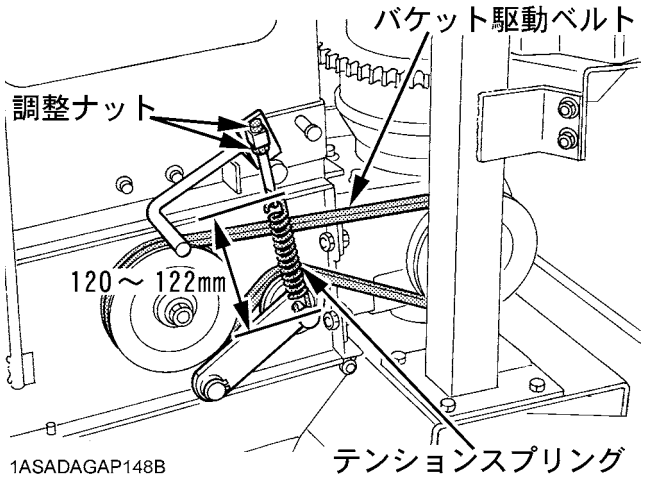
[G 仕様]

■バケット駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 120 ～ 122㎜ に調整します。

[G 仕様]

1. グレンタンク後部カバーを開きます。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。



1ASADAGAP148B

4. グレンタンク後部カバーを閉じます。

[G 仕様]

■各部チェーンの点検･調整

◆ 点検

各部のチェーンを点検して，異常があればチェーンの交換又は，張り調整を行なってください。チェーンの交換は購入先へ連絡して修理を依頼して行なってください。

重　要

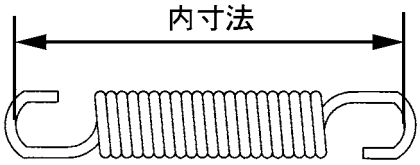
＊ チェーンは必ずクボタ純正のものを使用してください。

◆ 調整

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

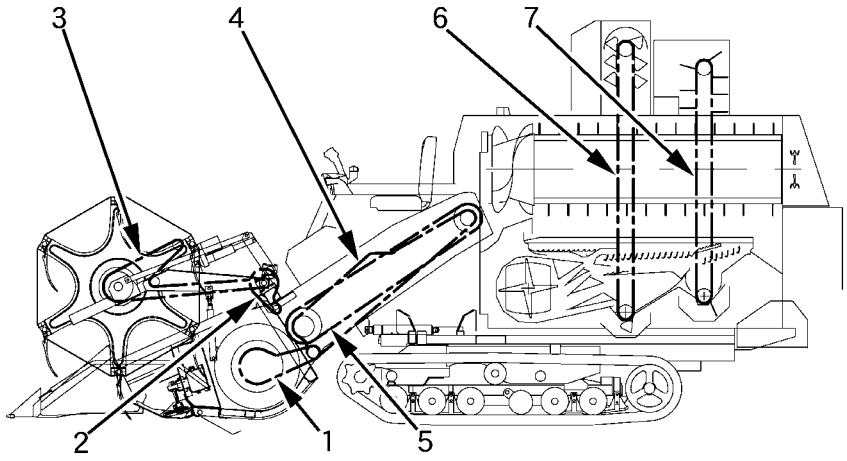
＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



1ASADACAP390A

点検箇所	図番	名　　称	張り調整		
			※テンションスプリング取付け長さ（mm）	たわみ量（mm）	すき間（mm）
刈取部	1	オーガ駆動チェーン	—	15 ～ 20	—
	2	リールカウンタチェーン	—	5 ～ 10	—
	3	リール駆動チェーン	—	—	—
	4	刈取駆動チェーン	128 ～ 132	—	—
	5	フィーダ搬送チェーン	—	—	6 ～ 10
脱こく部	6	１番バケットコンベア搬送チェーン	—	—	座金とカラーのすき間：0 ～ 0.5
	7	２番スラットコンベア搬送チェーン		—	
タグンレクン部	8	排出バケットコンベア搬送チェーン		—	軸受けプレートとカラーのすき間：0

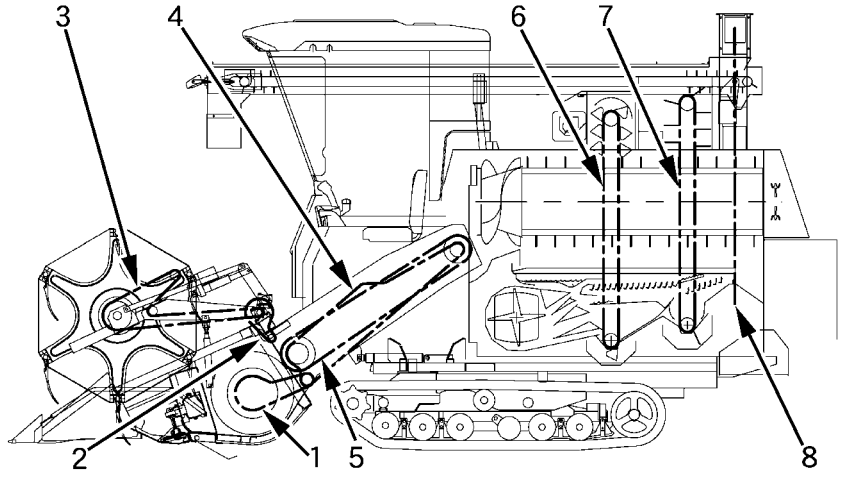
[H 仕様]



1ASADAIAP073A

[H 仕様]

[G 仕様]



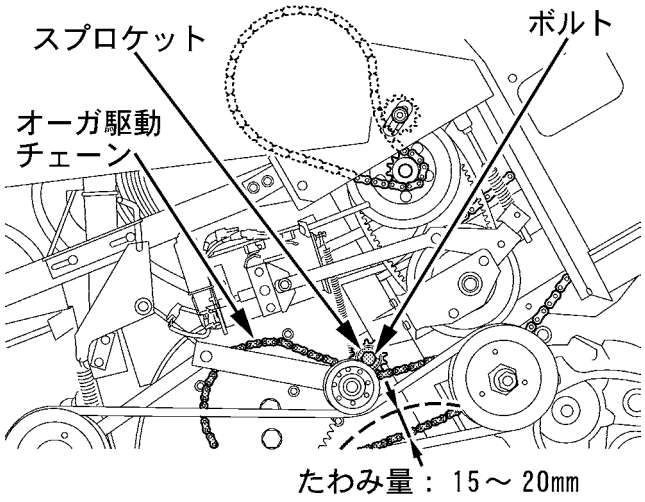
1ASADAIAP074A

[G 仕様]

■オーガ駆動チェーン

チェーンを軽く指で押したときのたわみ量を 15 ～ 20mm に調整します。

1. 刈取左サイドカバーを取外します。
2. スプロケットのボルトを軽くゆるめます。
3. 樹脂ハンマなどでボルトの頭をたたいてチェーンのたわみ量の調整を行ないます。
4. ボルトを締付け，スプロケットを締付けたあと，刈取左サイドカバーを取付けます。

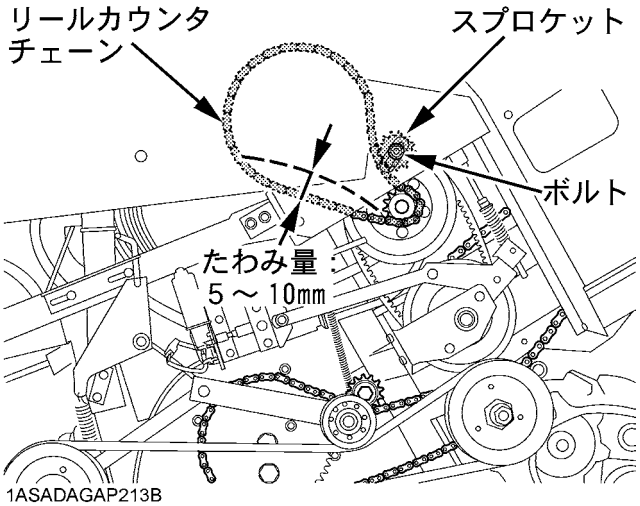


1ASADAGAP213A

■リールカウンタチェーン

チェーンを軽く指で押したときのたわみ量を5～10mm に調整します。

1. 刈取左サイドカバーを取外します。
2. スプロケットのボルトを軽くゆるめます。
3. 樹脂ハンマなどでボルトの頭をたたいてチェーンのたわみ量の調整を行ないます。
4. ボルトを締付け，スプロケットを締付けたあと，刈取左サイドカバーを取付けます。

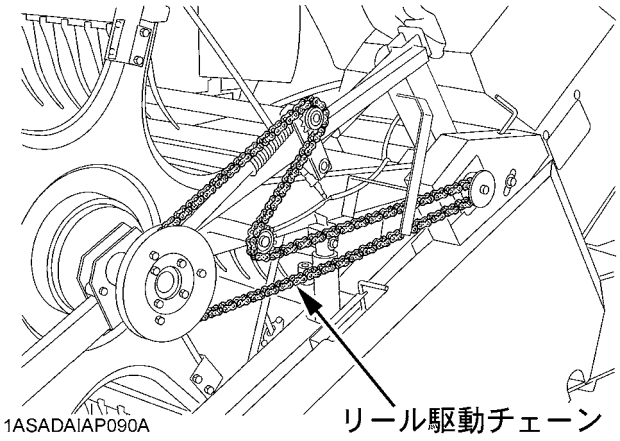


1ASADAGAP213B

■リール駆動チェーン

チェーンが伸びたときは，購入先に連絡してください。

1. ボルトを外して，リールサイドカバーを取外します。(122 ページ参照)
2. チェーンの点検を行ないます。
3. リールサイドカバーを取付けます。

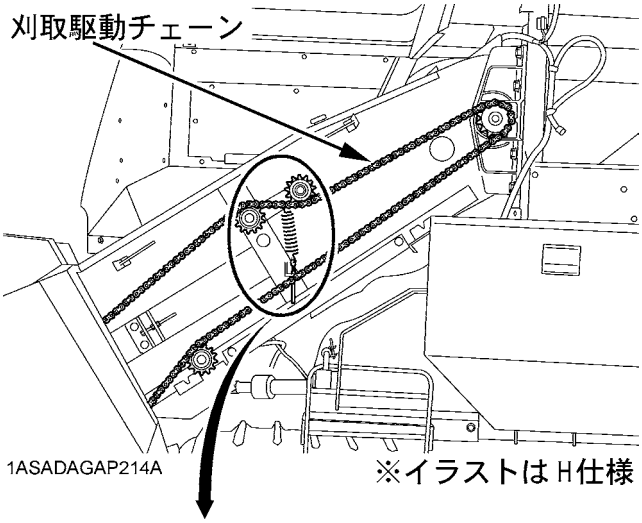


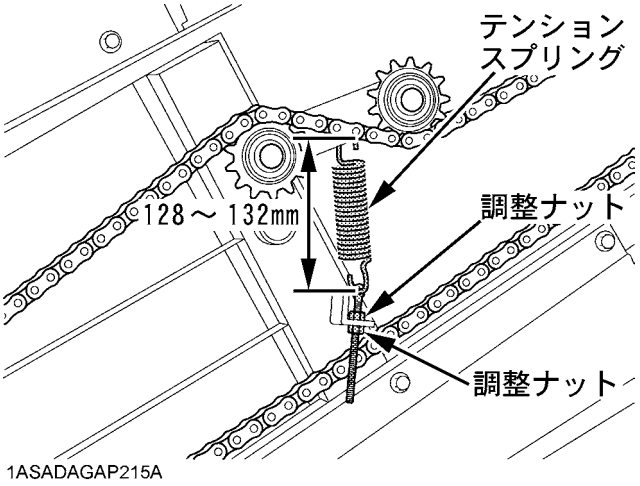
1ASADAIAP090A

■刈取駆動チェーン

テンションスプリングの長さを128～132mmに調整します。

1. こぎ胴サイドカバーをオープンしたあと，フィーダサイドカバーを取外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，フィーダサイドカバーを取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。





■フィーダ搬送チェーン

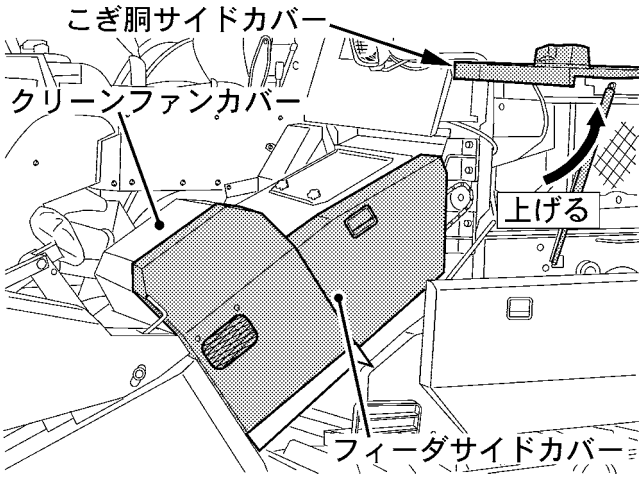
注　意

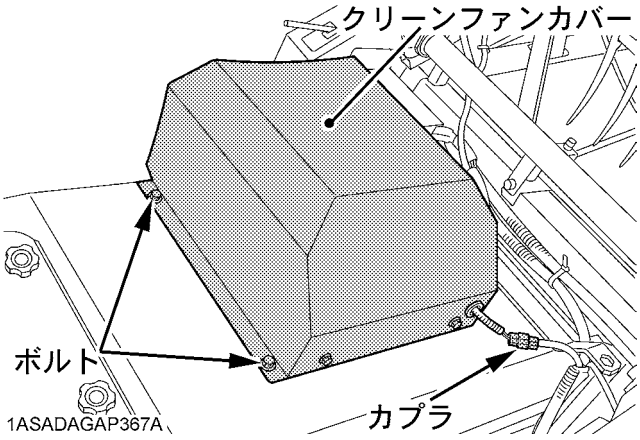
＊ 転倒・転落のおそれがありますので，作業を行なうときは足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。

フィーダ搬送チェーンに取付けている搬送板とフィーダの底板のすき間を６～ 10mm に調整します。

[C 仕様除く]

1. こぎ胴サイドカバーをオープンしたあと，フィーダサイドカバーを取外します。
2. カプラを取外したあと，ボルトを外してクリーンファンカバーを取外します。

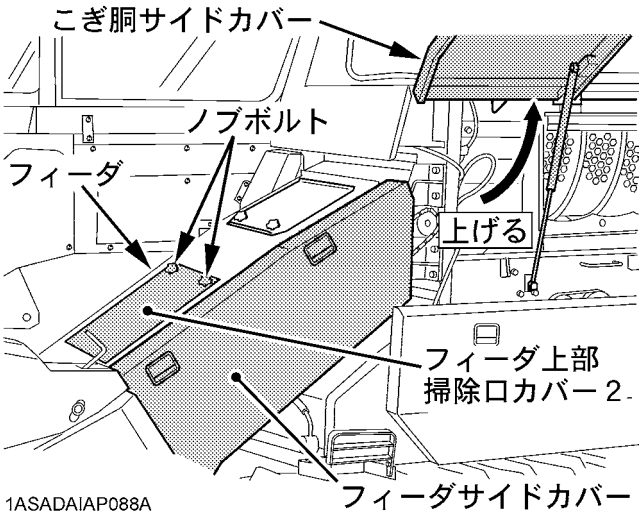




[C 仕様除く]

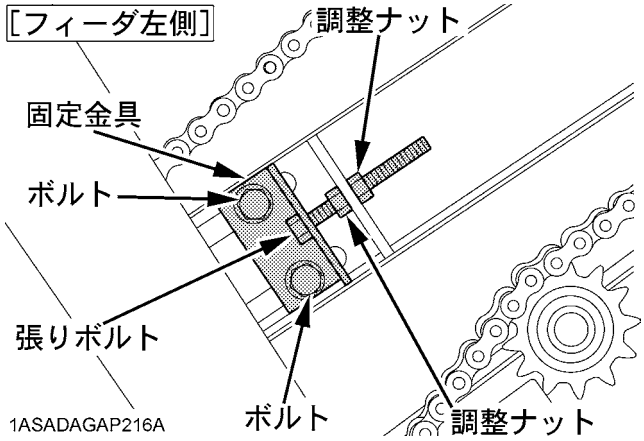
[C 仕様]

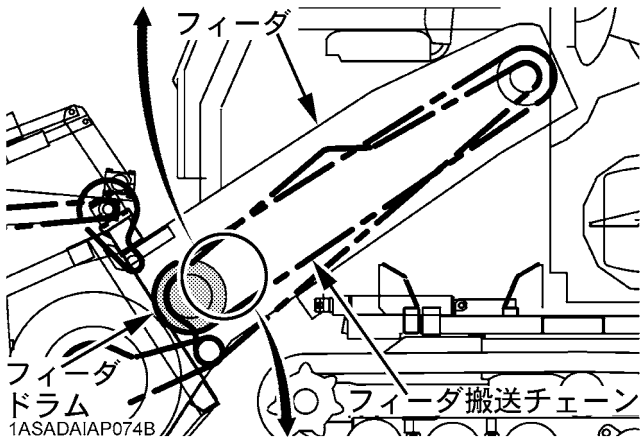
1. ノブボルトを取外し，フィーダ下部のフィーダ上部掃除口カバー２を取外します。
2. こぎ胴サイドカバーをオープンしたあと，フィーダサイドカバーを取外します。

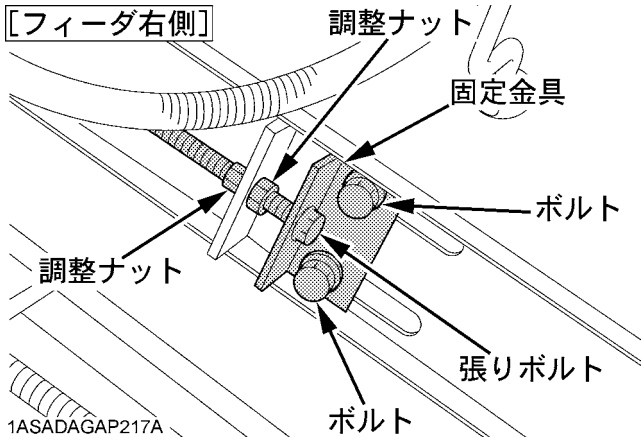


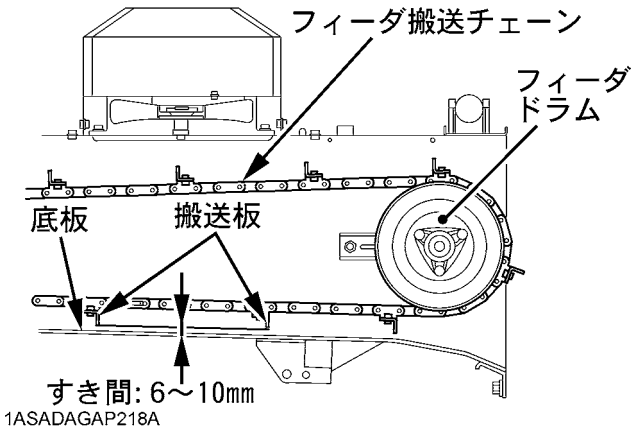
[C 仕様]

3. フィーダ前部にあるフィーダドラムの前後調整を行ない，フィーダ搬送チェーンの張り調整を行ないます。
   (1) フィーダドラムを固定しているフィーダ前部の左，右にある固定金具のボルトをそれぞれゆるめます。
   (2) 左，右の張りボルトの調整ナット２個をそれぞれゆるめたあと，張りボルトで調整を行ないます。
   (3) 左，右の固定金具のボルトをそれぞれ締付けたあと，左，右の張りボルトの調整ナットをそれぞれ締付けます。

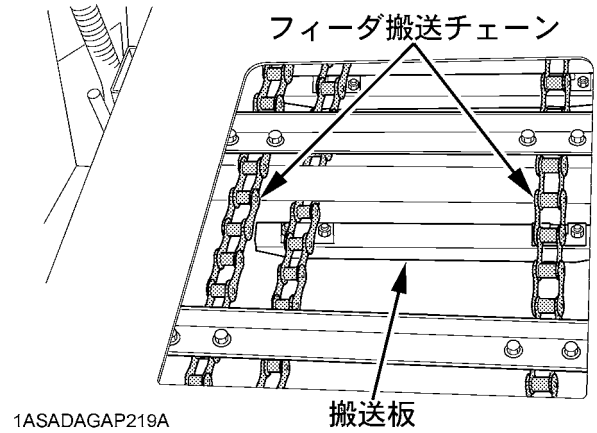








1ASADAGAP218A



1ASADAGAP219A

重　要

＊ 張りボルトの調整量は同じにしてください。搬送板が左・右方向に傾くと故障の原因となります。

[C 仕様除く]

4. クリーンファンカバー，フィーダサイドカバーを取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。

[C 仕様除く]

[C 仕様]

4. フィーダ上部掃除口カバー２，フィーダサイドカバーを取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。

[C 仕様]

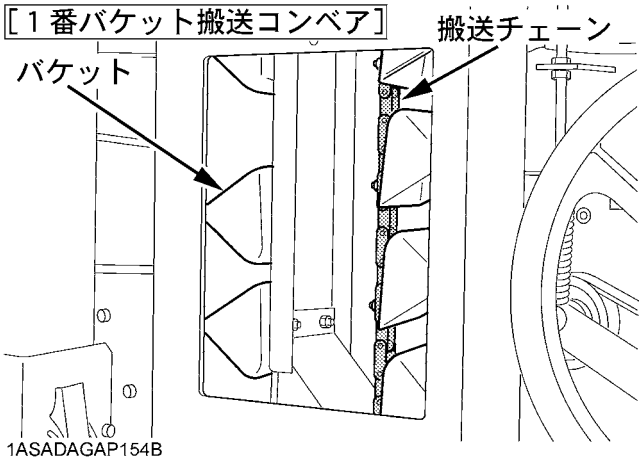
■ 1 番バケットコンベア搬送チェーン・2 番スラットコンベア搬送チェーン

注　意

＊ 転倒・転落のおそれがありますので，作業を行なうときは足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。

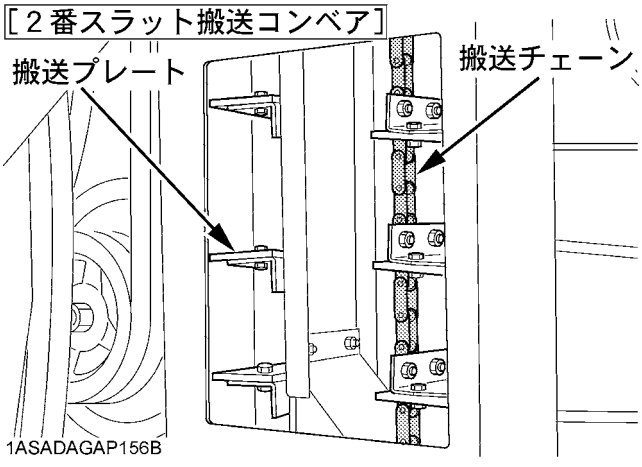
バケットコンベア上部にある軸受けプレートのボルトの座金とナットのすき間を 0 ～ 0.5㎜に調整します。

［1 番バケット搬送コンベア］



1ASADAGAP154B

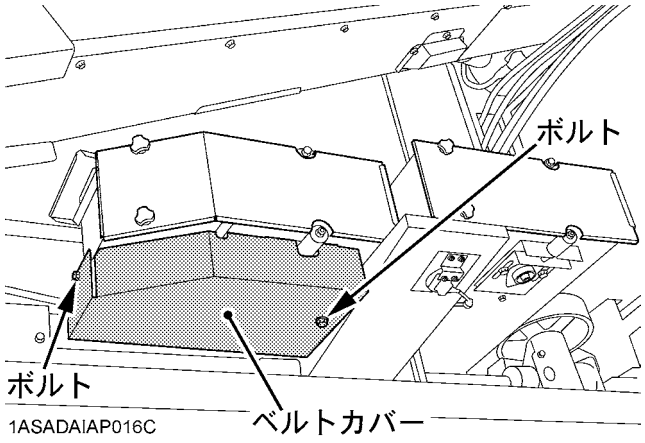
［2 番スラット搬送コンベア］



1ASADAGAP156B

[G 仕様]

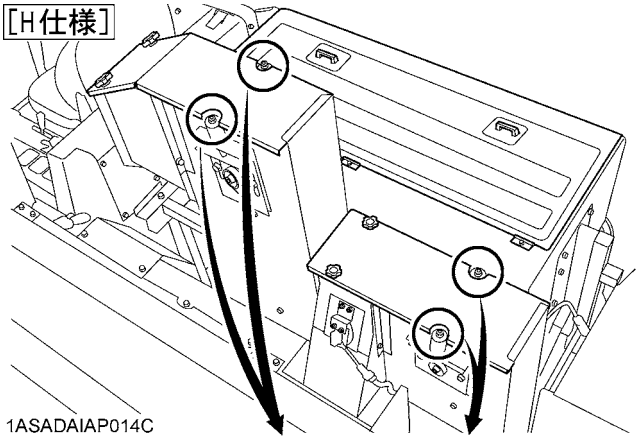
1. ボルトを取外して 1 番上部バケットコンベアのベルトカバーを取外します。

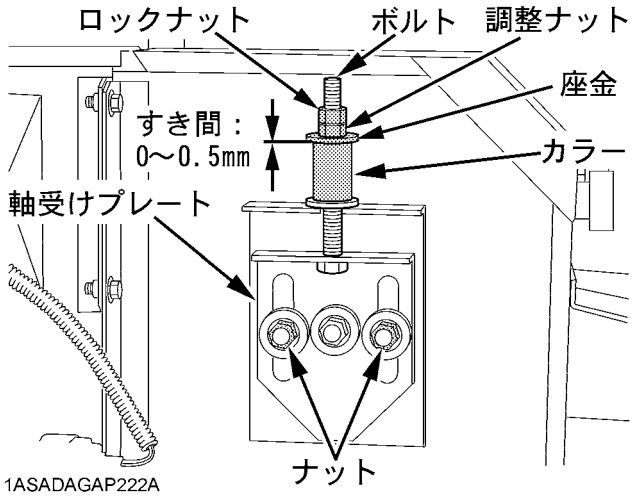


[G 仕様]

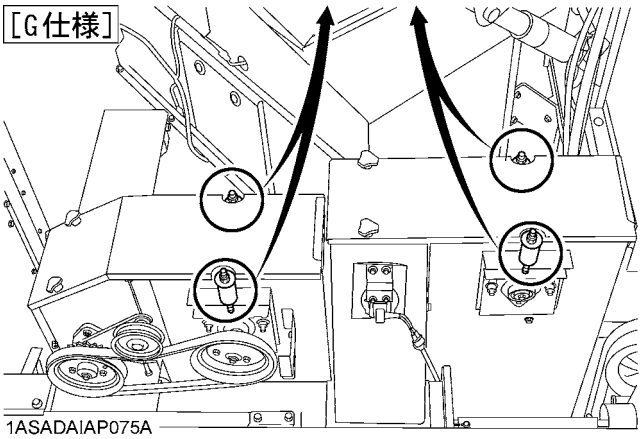
2. コンベア上部の左・右にある軸受けプレートのボルトを固定しているロックナットと軸受けプレートのナットをそれぞれゆるめます。
3. 調整ナットで，座金とカラーのすき間を左・右共 0 ～ 0.5㎜ の範囲内に調整します。

[H仕様]





[G仕様]



4. 軸受けプレートのナットを締付けたあと，左・右のロックナットをそれぞれ締付けます。

[G 仕様]

5. ベルトカバーを取付けます。

[G 仕様]

■排出バケットコンベア搬送チェーン

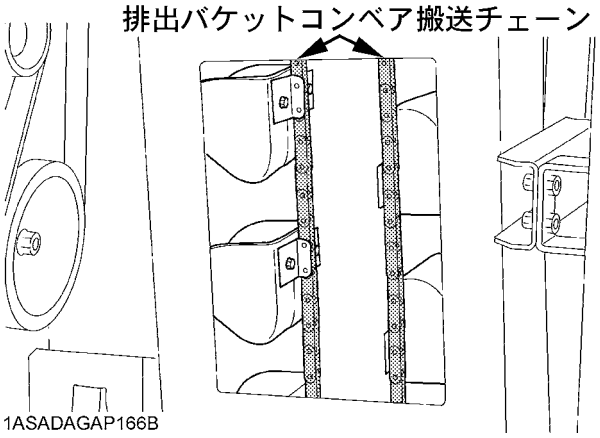
[G 仕様]

注 意

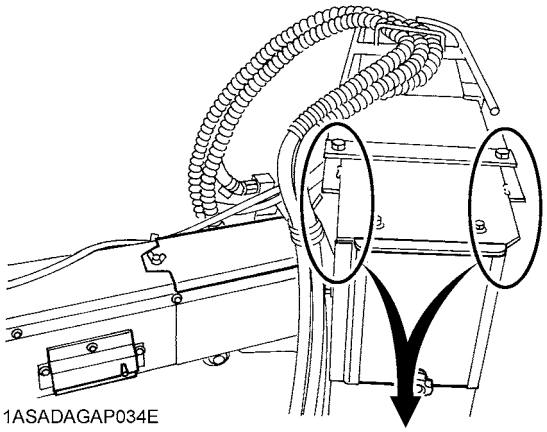
＊ 転倒・転落のおそれがありますので，作業を行なうときは足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。

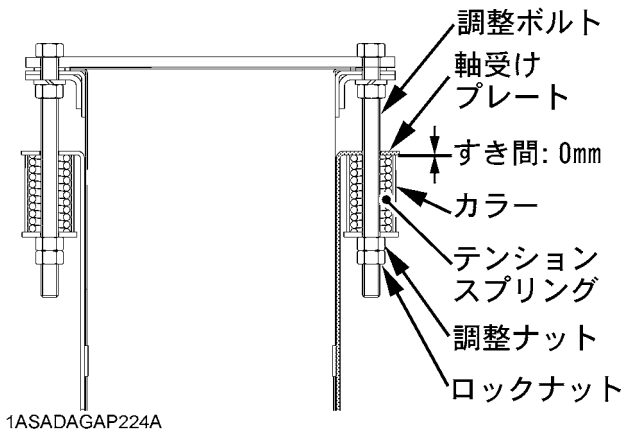
バケットコンベア上部にある軸受けプレートとカラーのすき間を 0㎜ にします。

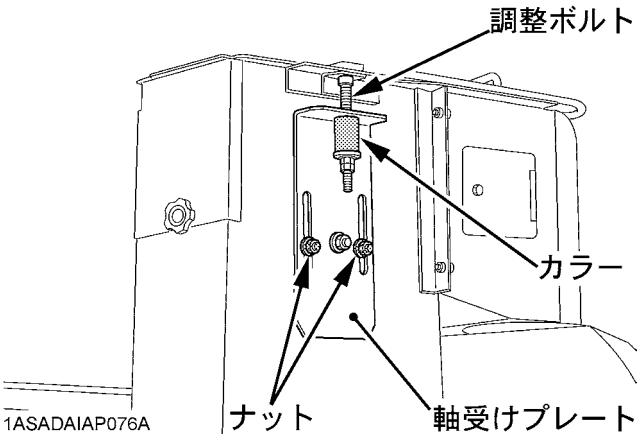
1. グレンタンク後部カバーを開き，排出バケットコンベアの掃除口カバーを取外します。
2. 搬送チェーンを内側に押さえて接触する場合は調整を行ないます。



(1) コンベア上部の前・後にある調整ボルトを固定しているロックナットと軸受けプレートのナットをそれぞれゆるめます。
(2) 調整ナットで，座金とカラーのすき間を前・後共 0㎜ にします。







(3) 軸受けプレートのナットを締付けたあと，前・後のロックナットをそれぞれ締付けます。
(4) グレンタンク後部カバーを閉じます。

[G 仕様]

■アンローダベルトコンベアの点検・調整

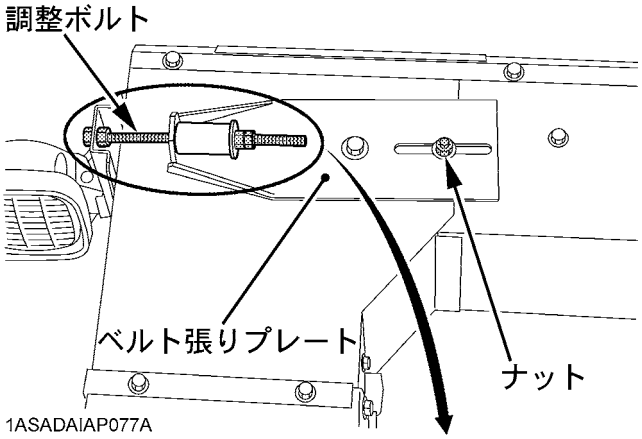
[G 仕様]

注 意

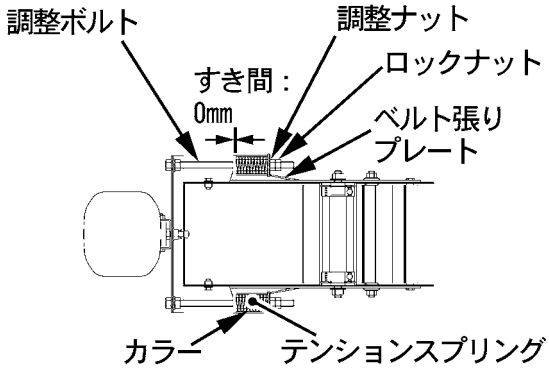
＊ 転倒・転落のおそれがありますので，作業を行なうときは足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。

ベルト張りプレートとカラーのすき間を0㎜にします。

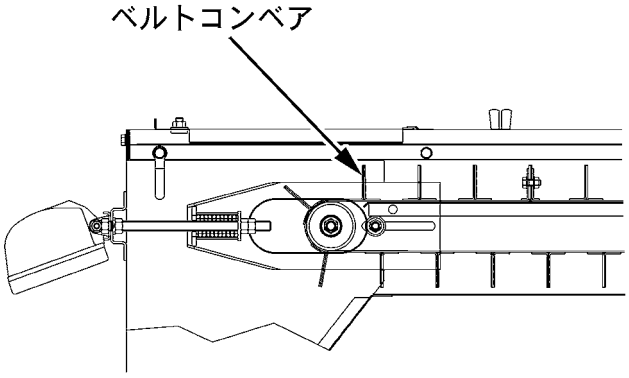
1. アンローダ先端部の左・右にある調整ボルトを固定しているロックナットとベルト張りプレートのナットをそれぞれゆるめます。
2. 調整ナットでベルト張りプレートとカラーのすき間を左・右共 0㎜ にします。



1ASADAIAP077A



1ASADAGAP226A



1ASADAGAP227A

3. ベルト張りプレートのナットを締付けたあと，左・右のロックナットをそれぞれ締付けます。

[G 仕様]

■刈刃の点検･調整

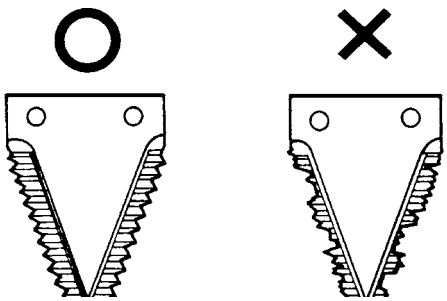
注　意

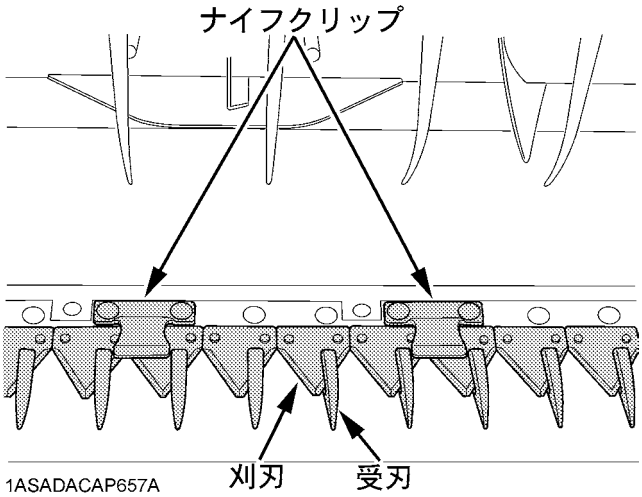
＊ 平坦な場所で刈取部及びリールを上げて，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の落下防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊ 作業時は手袋をしてください。

刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

◆ 点検

1. SF ワンレバーを操作し，刈取部及びリールを上昇させたあとエンジンを停止し，刈取･リール下降ロックスイッチを**【ロック】**位置にし，刈取部の落下防止を行ないます。
2. 刈刃と受刃のすき間及び，刈刃とナイフクリップのすき間を確認し，すき間が大きいときは調整をしてください。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して修理を依頼して交換してください。

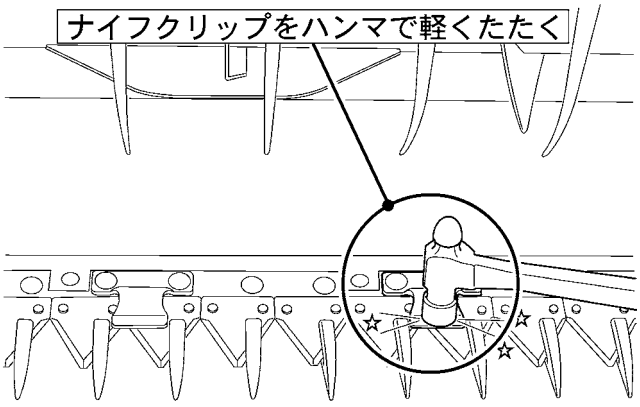




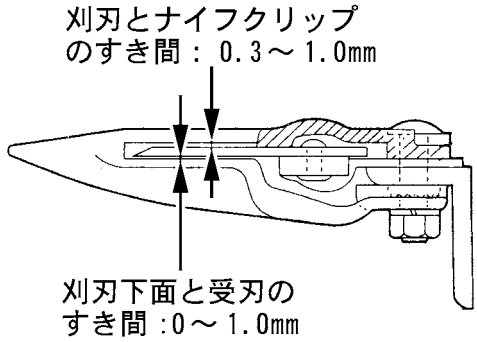
1ASADACAP657A

◆ 調整のしかた

1. 受刃先端をハンマで軽くたたき，受刃と刈刃の上下すき間を調整します。
2. ナイフクリップ先端をハンマで軽くたたき，刈刃とナイフクリップのすき間を0.3～1.0㎜に調整します。



1ASADACAP658A



1ASADACAP481A

補　足

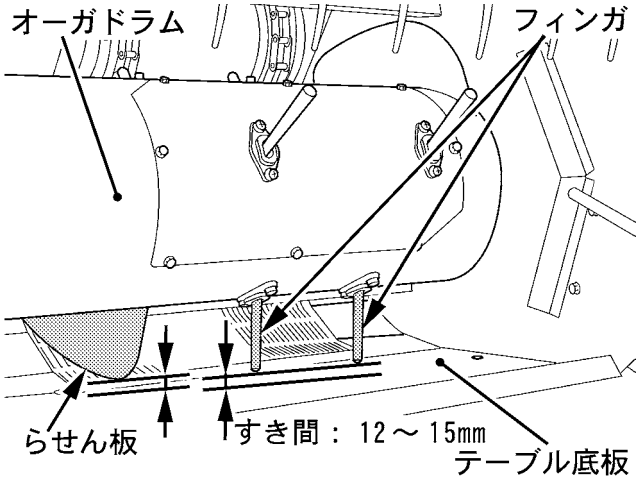
＊ すき間はすき間ゲージで測定してください。
＊ 刈刃は切れ味が悪くなれば，グラインダなどで研摩せずに交換してください。

■オーガドラム・フィンガ軸・フィンガガイドの点検・調整・交換

オーガドラムのすき間調整を行なうときは，刈取左サイドカバーを取外してください。調整後は，カバーを取付けてください。

◆ 点検

1. 平坦な場所でリールを最上昇位置にし，刈取部を地面に降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. オーガドラムのらせん板，フィンガ，フィンガガイドを点検して変形や破損しているときは，購入先に連絡して交換してください。また，オーガドラムのらせん板及びフィンガとテーブル底とのすき間を確認し，らせん板とテーブル底のすき間及びフィンガとテーブル底のすき間が 12 ～ 15㎜ の範囲からそれぞれ外れているときは調整します。



1ASADAGAP228A

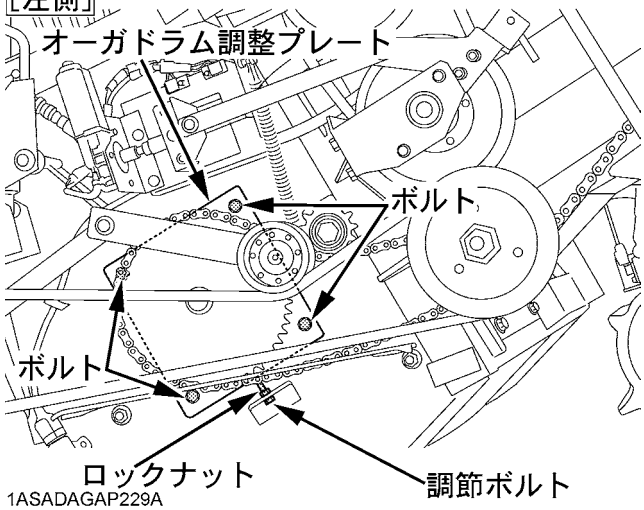
補　足

＊ 麦やそばの刈取りでオーガドラムに詰まりが多く発生するときは，6～8 ㎜ に調整してください。

◆ 調整

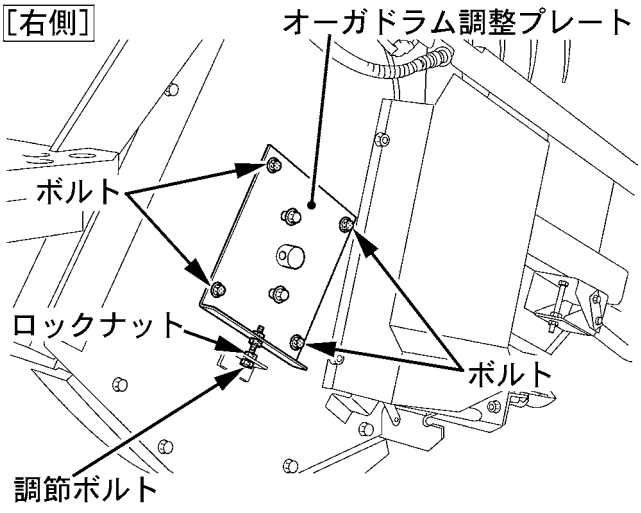
1. オーガドラムのらせん板とテーブル底のすき間調整を行ないます。
   (1) 刈取部左，右にあるオーガドラム調整プレートを固定しているボルトをゆるめます。
   (2) 左，右の調節ボルトのロックナットをそれぞれゆるめたあと，調節ボルトを回してすき間を調整します。
   (3) 左，右の調節ボルトのロックナットを締付けたあと，左，右のオーガドラム調整プレートの固定しているボルトを締付けます。

［左側］



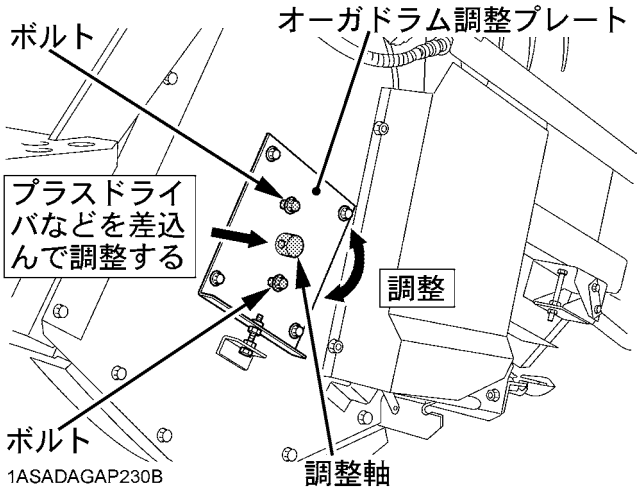
1ASADAGAP229A

［右側］



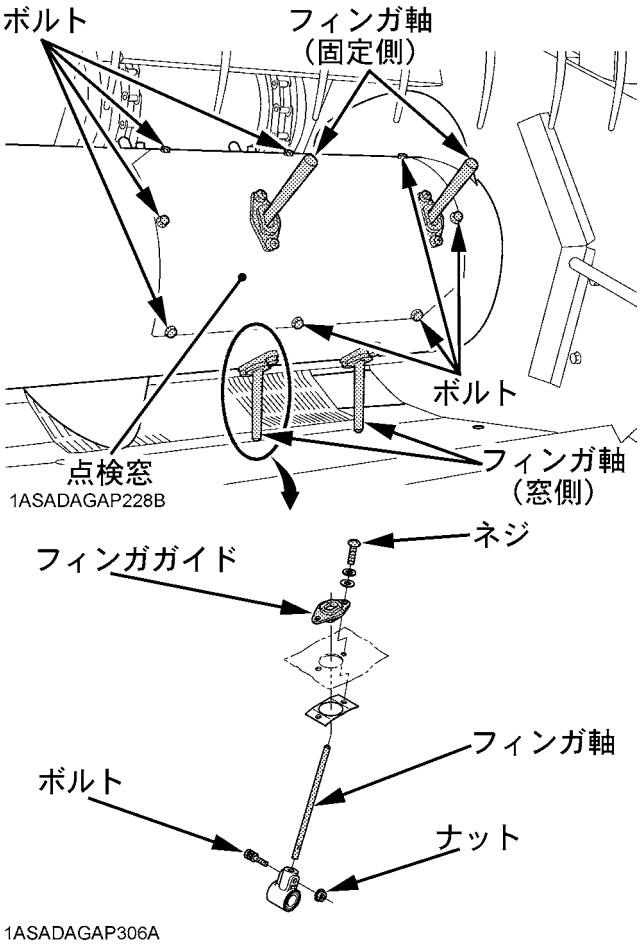
1ASADAGAP230A

2. フィンガとテーブル底のすき間調整を行ないます。
   (1) 刈取部左側にあるオーガドラム調整プレートを固定しているボルトを軽くゆるめます。
   (2) 調整軸の穴にプラスドライバなどを差込んで軸を回してフィンガ先端とテーブルのすき間を 12 ～ 15㎜ に調整します。
   (3) ボルトを締付けてオーガドラム調整プレートを固定します。



◆ フィンガ軸・フィンガガイドの交換

1. ボルトを取外してフィンガ軸（窓側）を取付けている点検窓を外します。
2. ボルトをゆるめてフィンガ軸（窓側，固定側）を交換します。
3. フィンガガイドはネジを取外して交換します。



4. 点検窓を取付けます。

■こぎ歯の点検

警 告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴上部カバーをオープンするときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

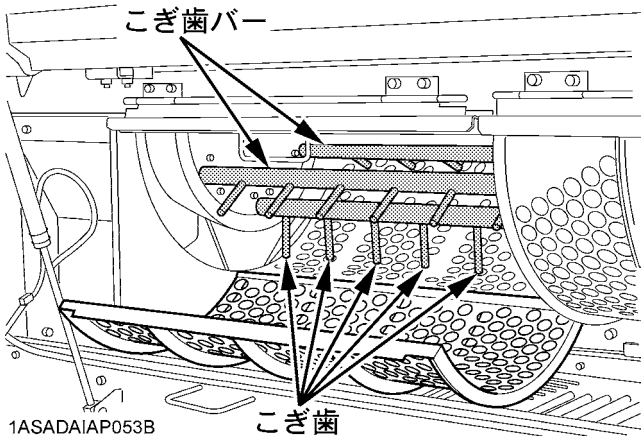
注 意

＊ 平坦な場所で，こぎ歯の点検・交換を行なってください。

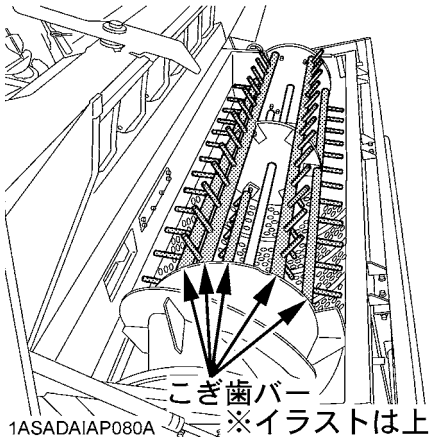
こぎ歯の歯先が摩耗や変形してくると，受あみとのすき間が大きくなり，こぎ残しの発生やササリ粒の発生が多くなるなど，脱こく性能が低下する原因となりますので歯先の線径が５ ㎜ 以下になったときは購入先に連絡してこぎ歯バーの交換を行なってください。
点検を行なうときは，こぎ胴サイドカバーをオープンしたあと，受あみの左側２枚を取外してください。点検後は，受あみを取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じてください。

◆ 点検

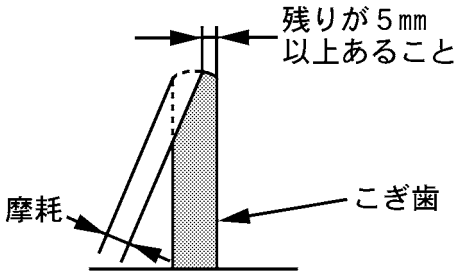
こぎ歯に変形はないかまた，こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し，線径が５ ㎜ 以下のときは交換してください。



1ASADAIAP053B



1ASADAIAP080A ※イラストは上側から見た状態



1ASADAIAP079A

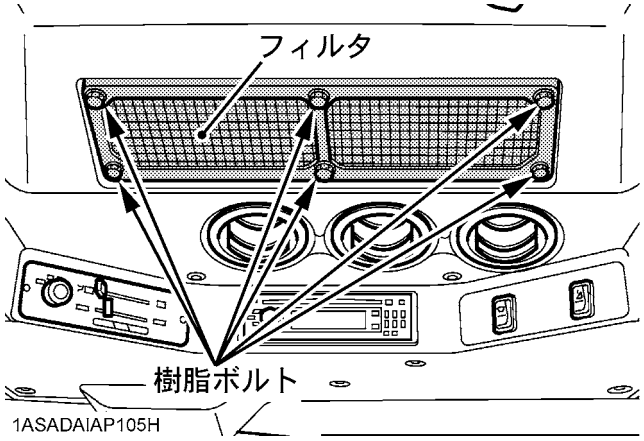
■キャビン内気，外気フィルタの掃除・交換

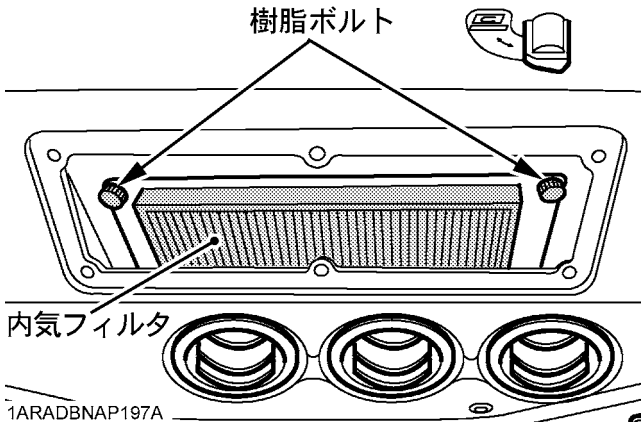
[C 仕様]

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタを損傷させないように掃除してください。

◆ 内気フィルタの掃除・交換

1. フィルタの樹脂ボルトを取外して，フィルタを取外します。そのあと，内気フィルタの樹脂ボルトを取外して内気フィルタを取外します。
2. フィルタと内気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。
3. 内気フィルタとフィルタを取付けます。





重　要

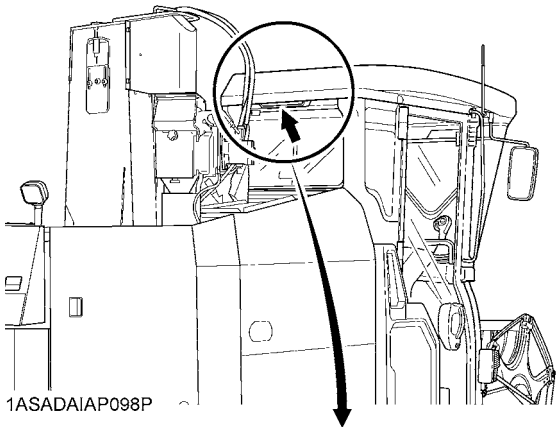
＊ 洗浄にガソリン，シンナーなどを使用しないでください。

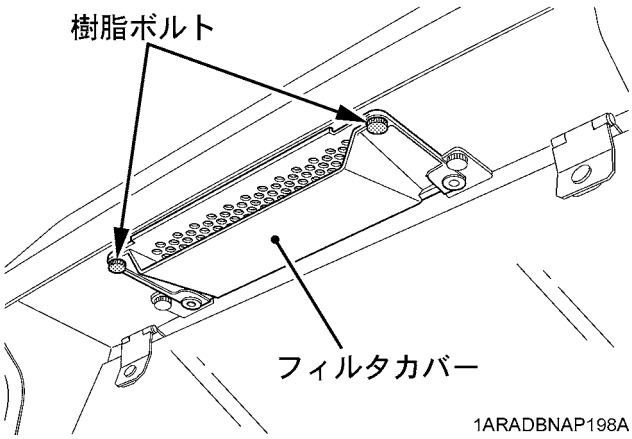
補　足

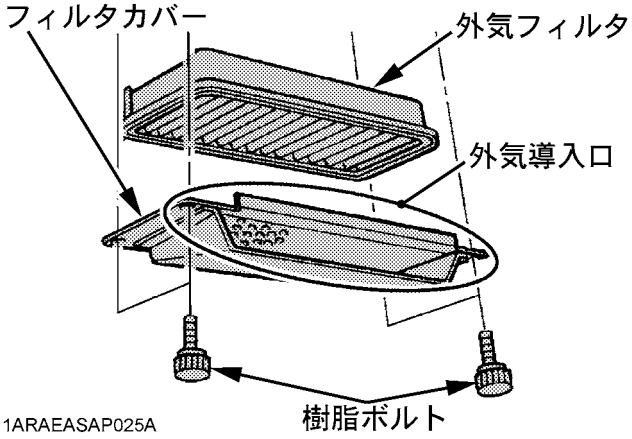
＊ 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。
＊ 汚れが著しいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

◆ 外気フィルタの掃除・交換

1. 樹脂ボルトを取外して，フィルタカバーと外気フィルタを取外します。
2. 外気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。







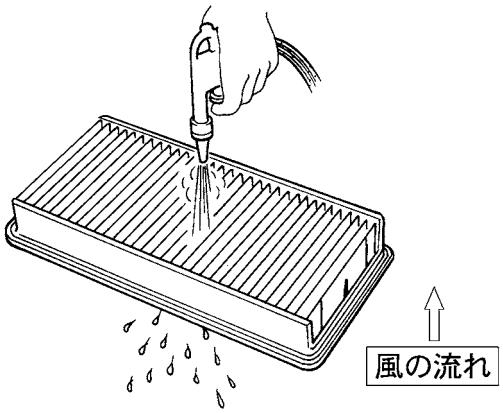
3. 外気フィルタとフィルタカバーを取付けます。

重　要

＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエアコンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊ 外気フィルタを取付けるときは，傾きが出ないように確実に取付部に差込んでください。

補　足

＊ 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。



1AGALAFAP314A

＊ 汚れが著しいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。
＊ フィルタカバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。

[C 仕様]

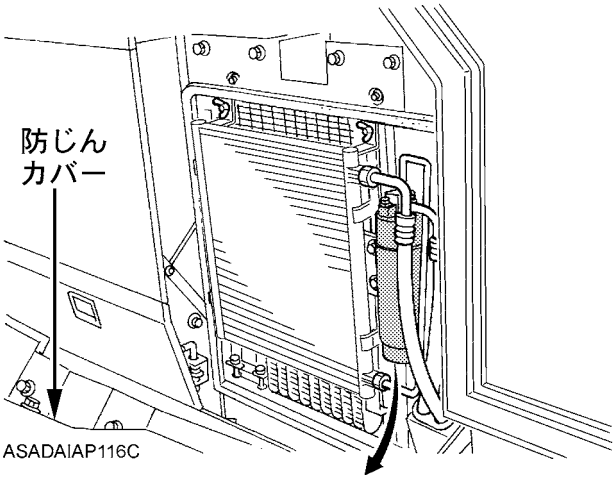
■冷媒（ガス）量の点検

[C 仕様]

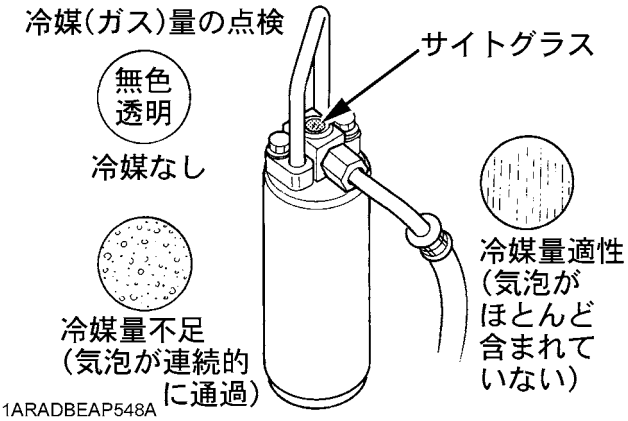
冷媒が不足するとエアコンが冷えなくなります。下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先に連絡して補充してください。

◆ 点検

1. エアコンを以下の条件で運転します。
   - 外気温：30 度以上
   - エンジン回転数：約 1500rpm
   - 内外気切換えツマミ：**[内気循環]** 位置
   - 温度コントロールレバー:左端(**[COOL]**側)
   - ファンスイッチ：**[HI]（強）** 位置
   - エアコンスイッチ：**[入]** 位置
   - 窓（左，後）を全開，ドア全開
2. 防じんカバーを開きます。
3. サイトグラスから流れている冷媒の状態を確認します。



1ASADAIAP116C



1ARADBEAP548A

4. エンジンを停止し，ファンスイッチとエアコンスイッチを **[切]** 位置にします。
5. 防じんカバーを閉じます。
6. 窓（左，後）とドアを閉じます。

[C 仕様]

■吐出口ブーツの点検・交換

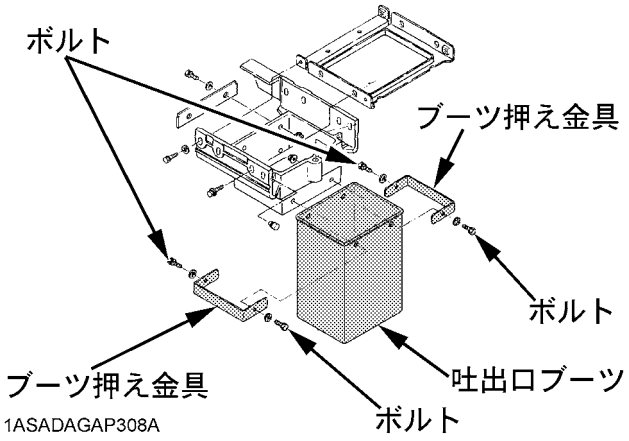
[H 仕様]

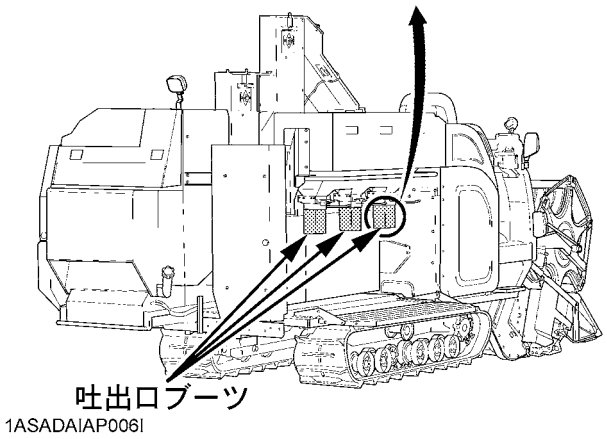
◆ 交換

1. ブーツ押えの金具のボルトを外して，吐出口ブーツを取外します。
2. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの取付け方向を間違えないでください。





重　要

＊ 吐出口ブーツは必ずクボタ純正のものを使用してください。

[H 仕様]

[G 仕様]

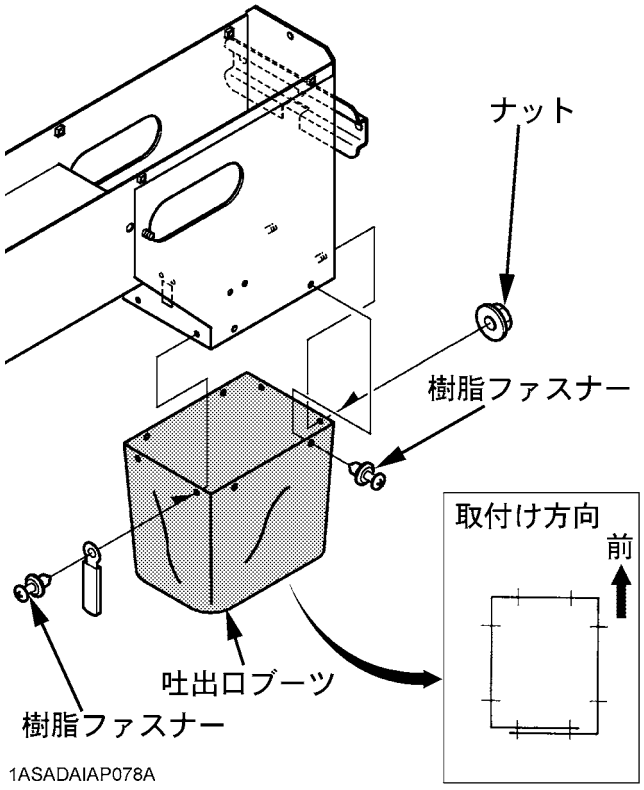
アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

◆ 交換

1. ブーツを取付けている樹脂ファスナーとナットを外します。
2. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの重なりに注意し，正しく取付けてください。



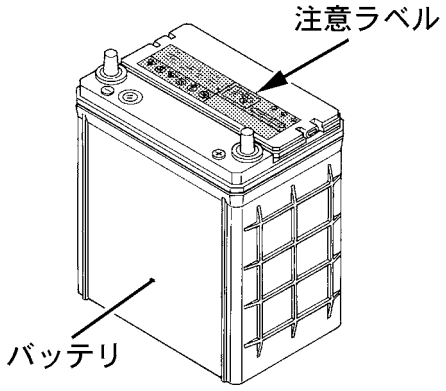
重　要

＊ 吐出口ブーツは必ずクボタ純正品を使用してください。

[G 仕様]

■バッテリの点検･交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください



1ARADBEAP550A

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊ バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。
＊ 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊ この 12V バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ 急速充電は厳禁です。
＊ 開封は厳禁です。（密封タイプ）

警　告

＊ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

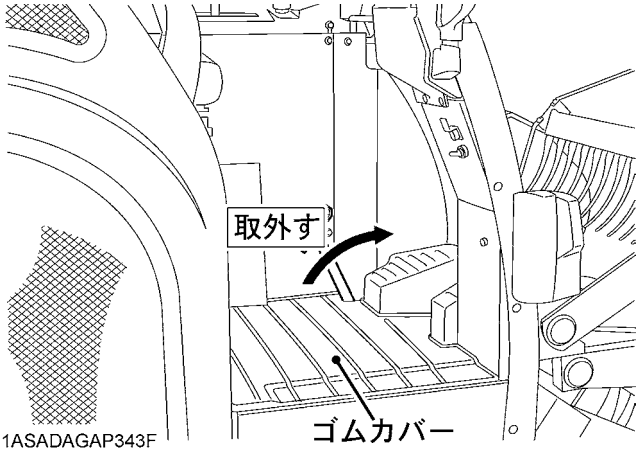
＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆ 点検

警　告

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……
＊ バッテリの電解液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
＊ バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

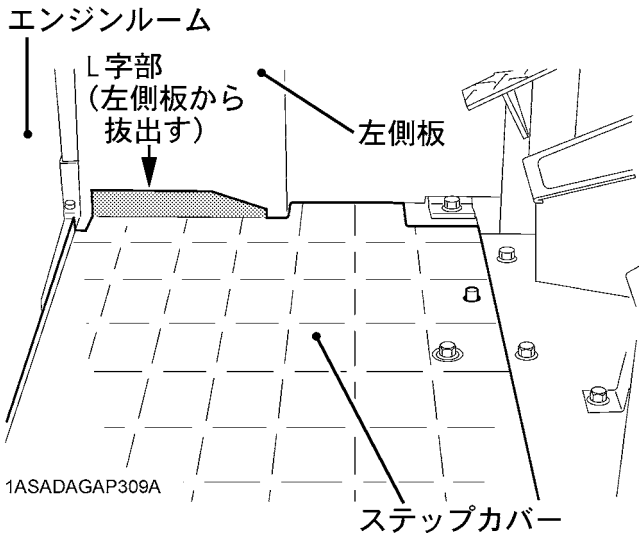
1. ステップのゴムカバーを取外します。

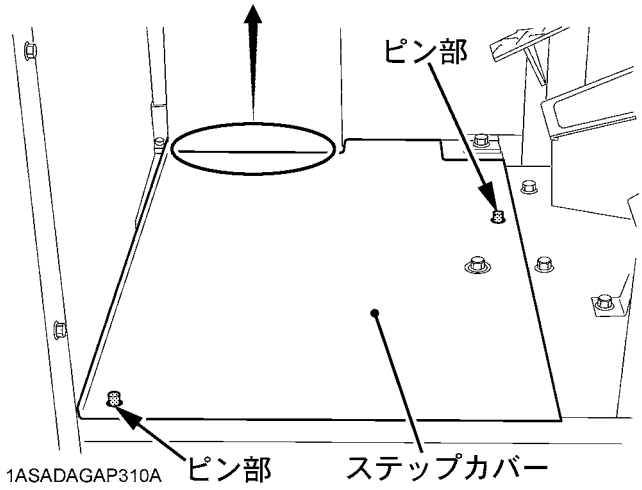


1ASADAGAP343F

2. エンジンルームオープンを行なうときのクランプ２箇所を外したあと，ステップカバーのL 字部を左側板から，ステップカバーを少し持上げて抜出します。

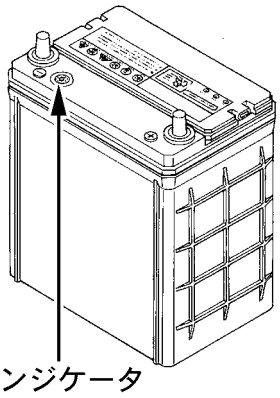
3. ステップカバーを２箇所のピン部から抜出して取外します。





4. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
   (1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認ます。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



補　足

＊ インジケータは真上から確認してください。

   (2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

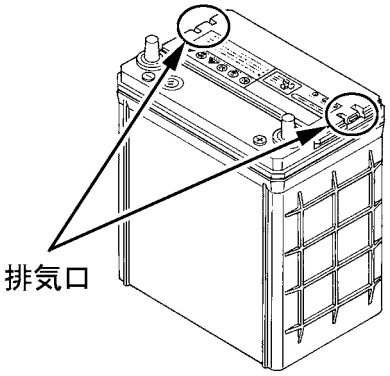
重　要

＊ 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

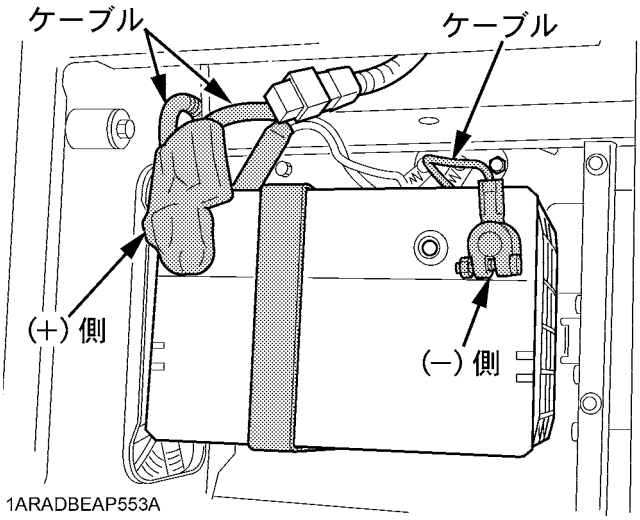
重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADBEAP550C

(4) バッテリケーブルの破損や（+）端子，(−）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



1ARADBEAP553A

5. ステップカバー及びゴムカバーを取付けます。

◆ 補充電・交換

危　険

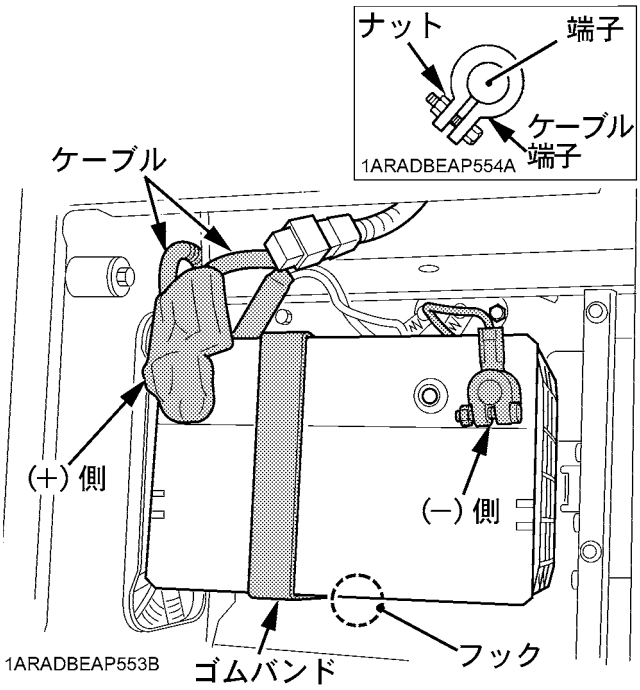
＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- **取外し…(−)端子側（アース側）から外す。**
- **取付け…(−)端子側（アース側）を最後に接続する。**

警　告

＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。（+）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。
- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプ**【C 仕様除く】**や作業灯の明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。

1. バッテリを機体から取外します。
   (1) ゴムバンドの端部金具をフックから外します。
   (2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（−）側から取外してください。



重　要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**80D26L-MF**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。
＊ 機械にバッテリを搭載した状態で急速充電をしないでください。

補　足

＊ 端子にグリースを塗布してからケーブル端子を取付けてください。

補水が必要なバッテリの場合

（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

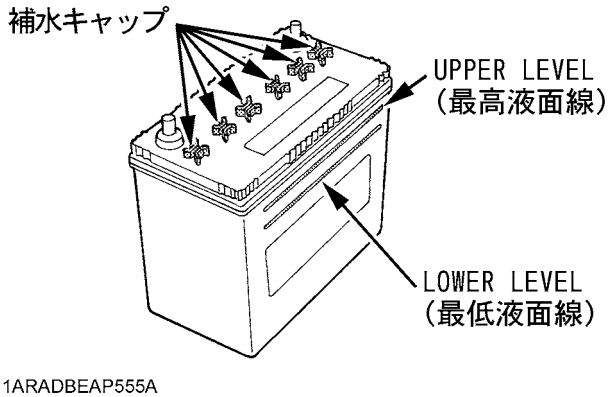
◆ 点検・補水

警　告

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**[UPPER LEVEL]**（最高液面線）と **[LOWER LEVEL]**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



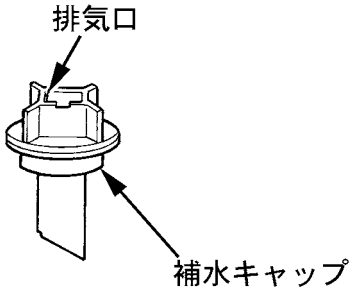
重　要

＊ バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊ バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊ バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADBEAP556A

◆ 補充電・交換

危　険

＊ 補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行なうときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
   また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード，各ヒューズの点検・交換

警　告

＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは購入先へ連絡して修理を依頼してください。

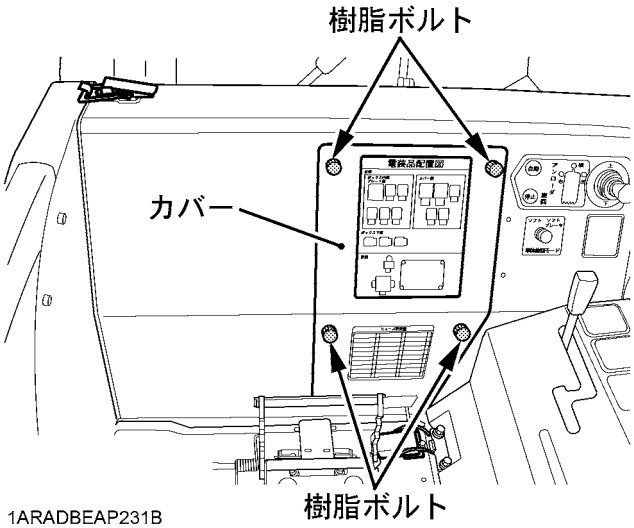
◆ 各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

＊ 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，購入先に連絡して修理を依頼してください。

1. 刈取部を地面に接地させエンジンを止めます。
2. 運転席（シート）を前方へ倒します。
3. 樹脂ボルト４本を取外して運転席後面のカバーを外します。

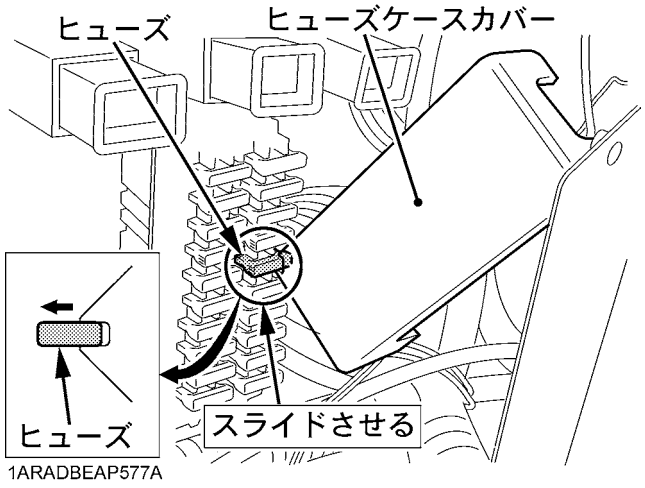


1ARADBEAP231B

4. ヒューズケースのカバーを取外します。
5. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。

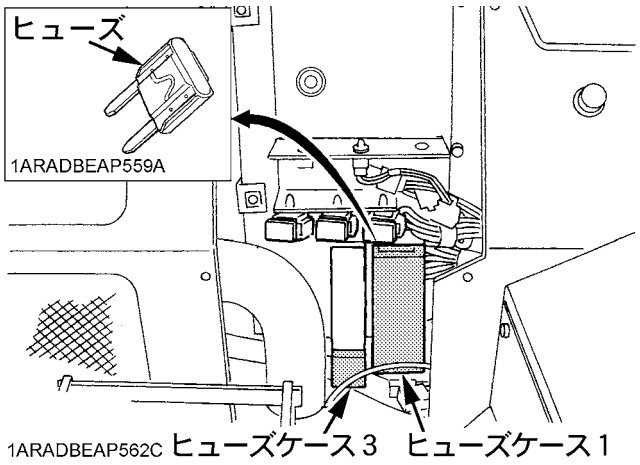
補　足

＊ ヒューズを交換するときは，ヒューズケースカバー左下端部の切欠部をヒューズにスライドして差込み，抜いてください。



1ARADBEAP577A

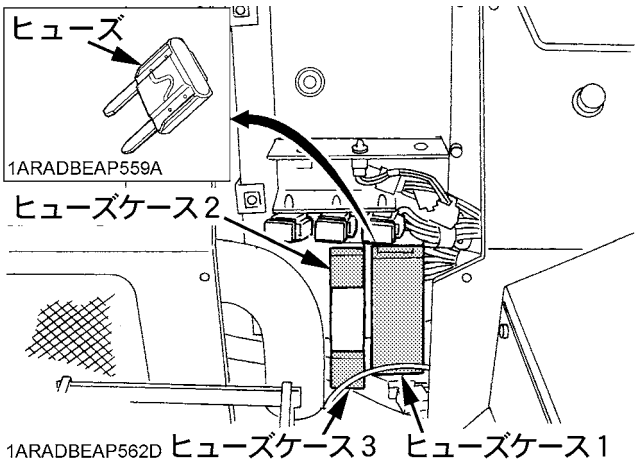
[C 仕様除く]



1ARADBEAP562C

[C 仕様除く]

[C 仕様]



1ARADBEAP562D

[C 仕様]

● ヒューズケース１（上から）

[全仕様]

回路	容量(A)	回路	容量(A)
リール前後モータ	25	マイコン（直 B）	5
アンローダモータ	25	前照灯，ウインカ（直 B）	20
クリーンファンモータ	10	作業灯（直 B）	20
刈取クラッチモータ	15	エンジン停止（直 B）	15
モミ排出クラッチモータ	20	マイコン，リレーコイル，チェッカ	5
ロークロップ刈刃クラッチ，モミ排出コンベア用バルブ	10	メータ，リモコンスイッチユニット	5
逆流ファンモータ	15	油圧バルブ（作業機）	15
リール変速モータ	20	燃料ポンプ，オルタネータ	7.5
予備ヒューズ	10	ブザー	5
予備ヒューズ	15	操向モータ	15

補　足

＊ 予備ヒューズは，ヒューズケース１のカバー裏側に５Ａ１本,7.5A １本が入っております。

[全仕様]

● ヒューズケース２（上から）

[C 仕様]

回路	容量（A）
キャビン	20
キャビン（直 B）	20
ラジオ（ACC）	5

[C 仕様]

● ヒューズケース３（上から）

[全仕様]

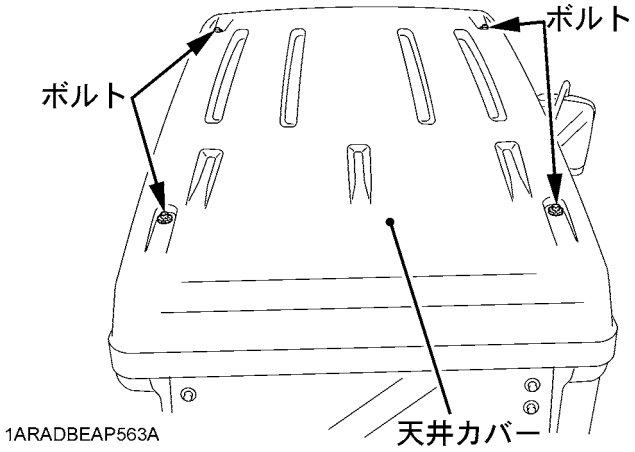
回路	容量（A）
予備ヒューズ	20
予備ヒューズ	25
－	－

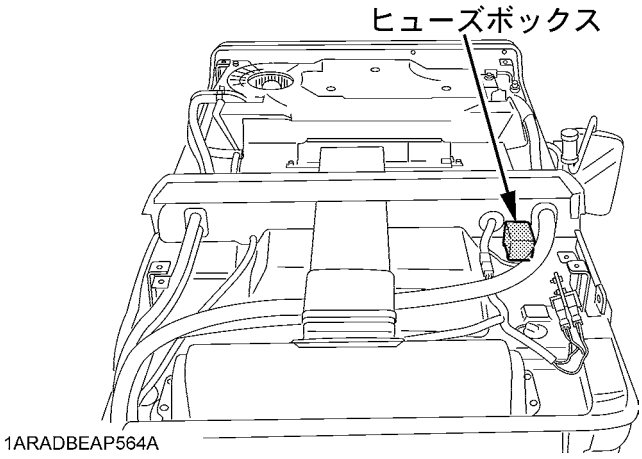
[全仕様]

6. カバーを取付けます。

[C 仕様]

1. ボルト４本を外して天井カバーを取外します。
2. ヒューズボックスのふたを開きます。
3. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。
4. 天井カバーを取付ます。





回路	容量（A）
ラジオ（直 B）	5
ブロワ（直 B）	15
キャビン作業灯（直 B）	15
－	－
コンプレッサ	7.5
ワイパ	15

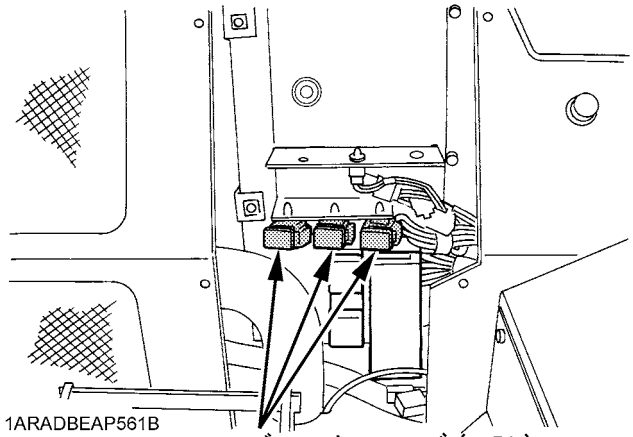
補　足

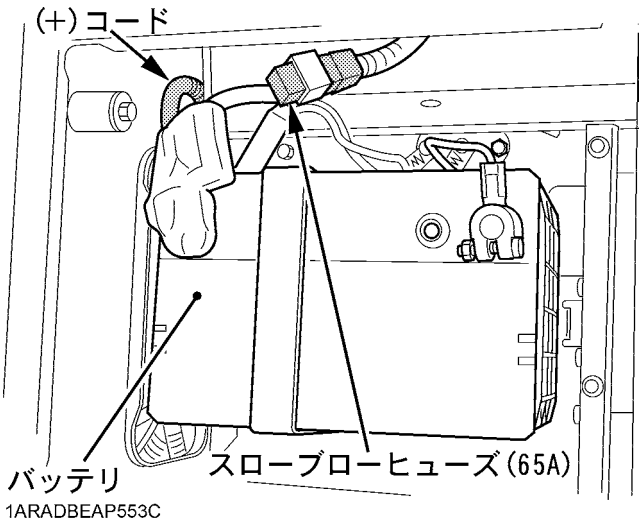
＊ ヒューズボックス本体に 5A，7.5A，15A の予備ヒューズが入っています。

[C 仕様]

● スローブローヒューズ・バッテリ（+）コード・ヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。

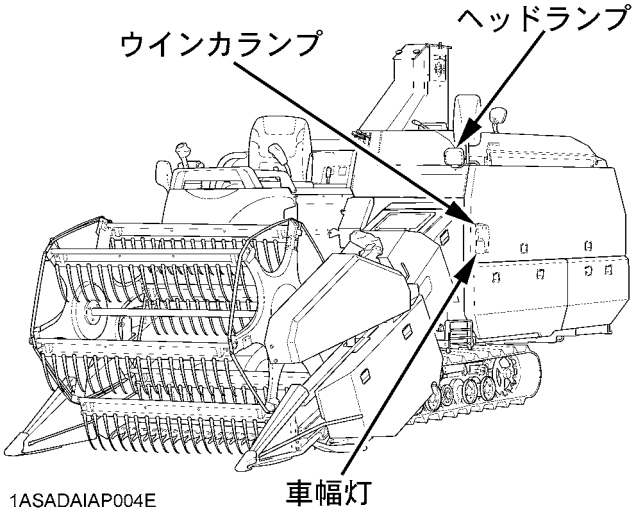


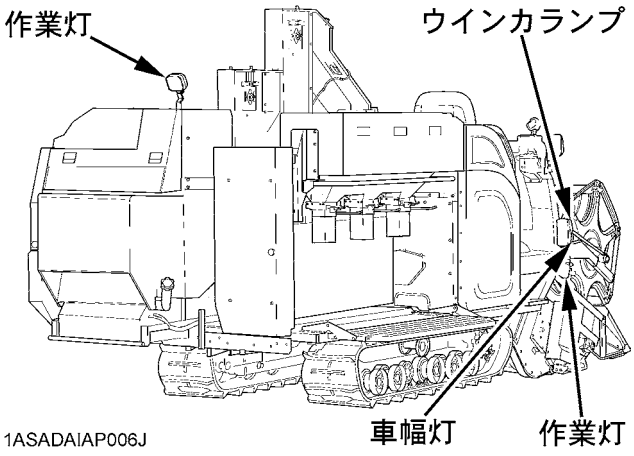


■ランプ（電球）の点検･交換，ホーンスイッチの点検

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。

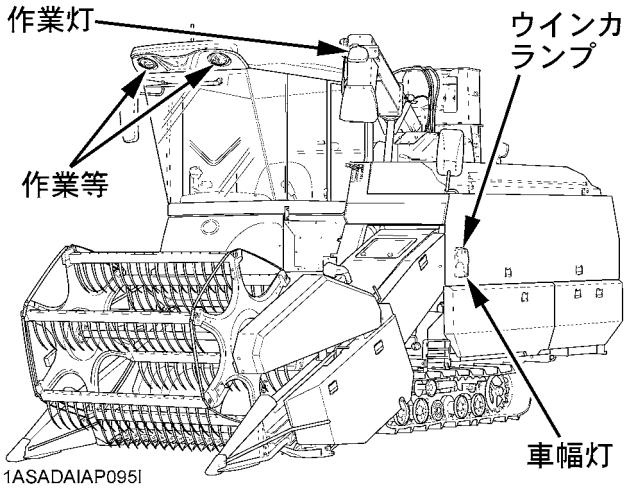
[H 仕様]



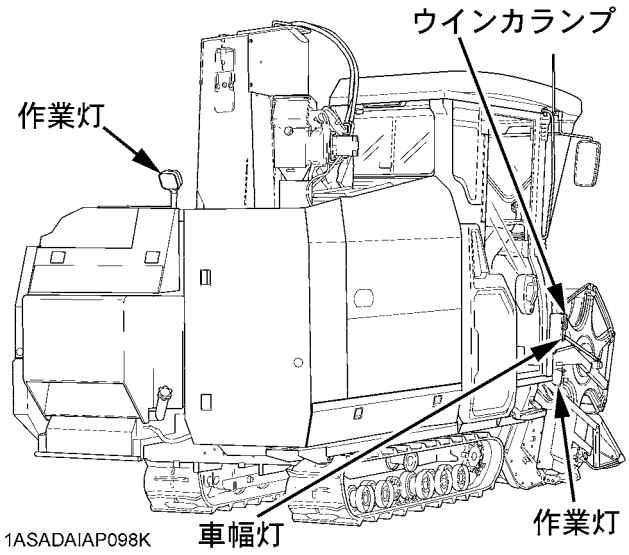


[H 仕様]

[CG 仕様]

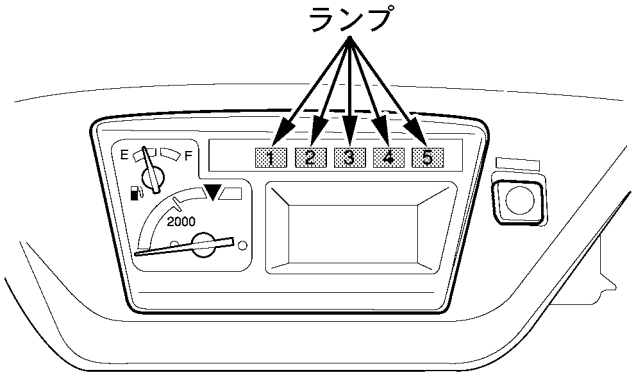


1ASADAIAP095I

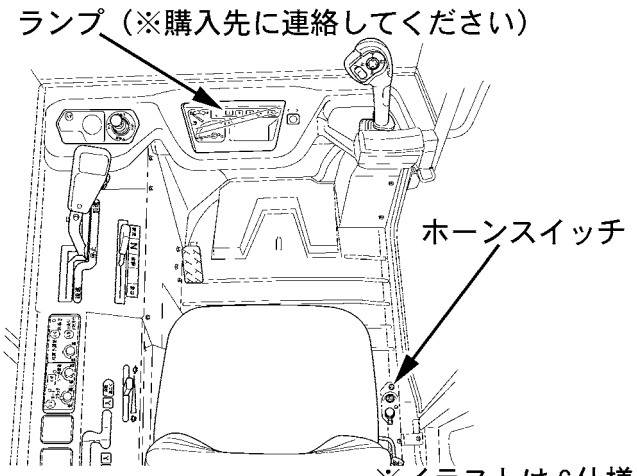


1ASADAIAP098K

[CG 仕様]



1ARADBEAP079H （※購入先に連絡してください）

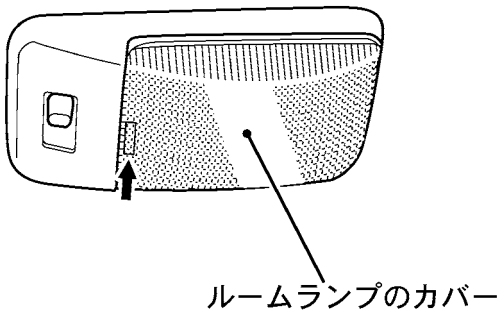


1ASADAIAP007Q ※イラストはC仕様

● **ルームランプ**

[C 仕様]

カバーを➡の凹部にマイナスドライバなどの先端部を差込み，下方向に押して取外して，電球を交換してください。



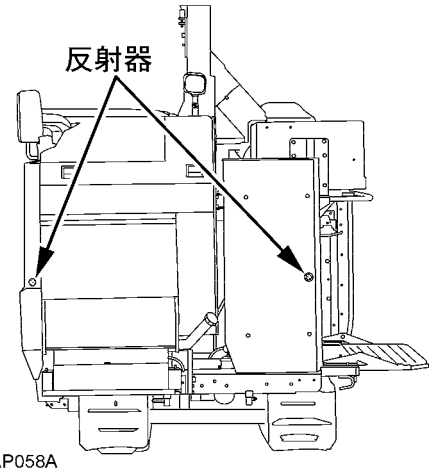
1ARAEASAP014B

[C 仕様]

■反射器の点検･交換

汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。

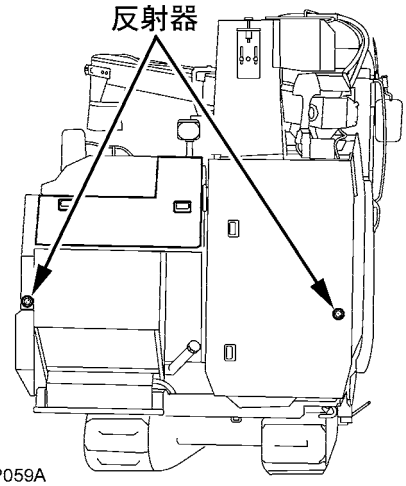
[H 仕様]



1ASADAIAP058A

[H 仕様]

[G 仕様]



1ASADAIAP059A

[G 仕様]

■クローラの点検･調整

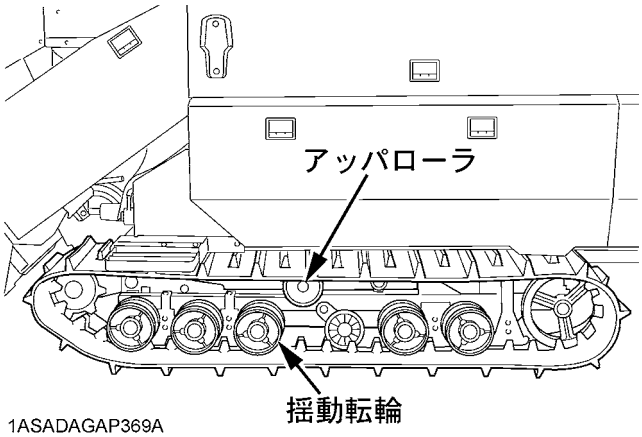
警 告

＊ 点検・調整を行なうときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

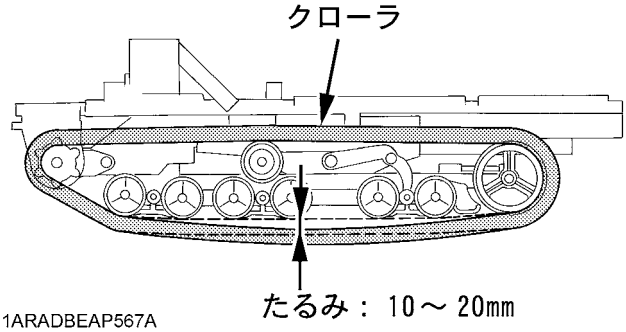
注 意

＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取･リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに，枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。
＊ ジャッキアップを行なうときは，コンクリートなど地面の固い場所でバランスのとれた位置にして作業してください。
＊ ジャッキは持上荷重が 2 トン以上の物を使用してください。
＊ 機体にセットする木材やブロックなどは，じゅうぶんな強度があるもので，セットするときは機体から外れないように注意しながら行なってください。

地面からクローラを約 10cm 浮かした状態で，揺動転輪を水平位置にし，クローラ下側のたるみを 10 ～ 20mm に調整してください。また，調整は片側ずつ行なってください。



1ASADAGAP369A



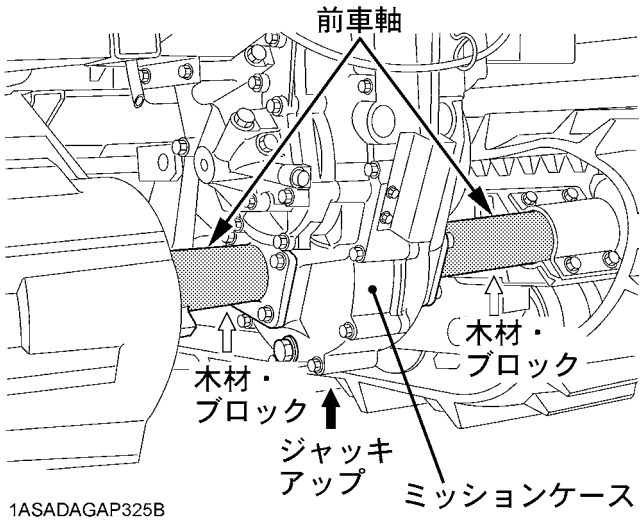
1ARADBEAP567A

1. クローラを地面から 10cm 程度浮かせます。

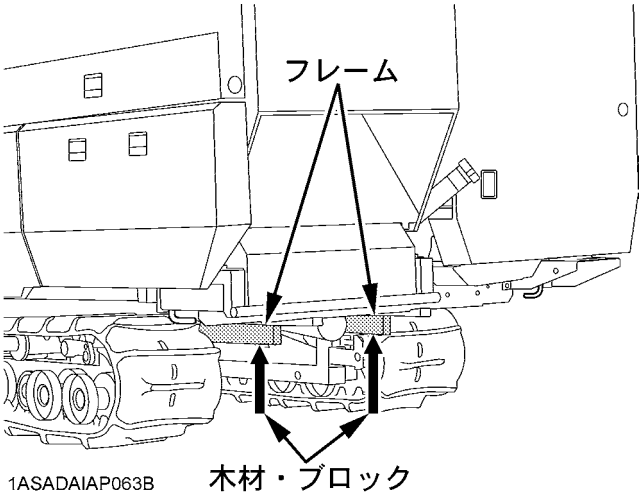
重　要

＊ ミッションケースを絶対にジャッキアップしないでください。破損するおそれがあります。

(1) エンジンを始動したあと，刈取部を**最上昇位置**にします。
(2) 刈取･リール下降ロックスイッチを**[ロック]**位置にして刈取部の下降防止を行ないます。
(3) 水平操作レバーを操作し，機体を上昇させたあと，エンジンを停止します。
(4) 前部はミッションケース部の調整を行なう側の前車軸に木材やブロックをセットします。

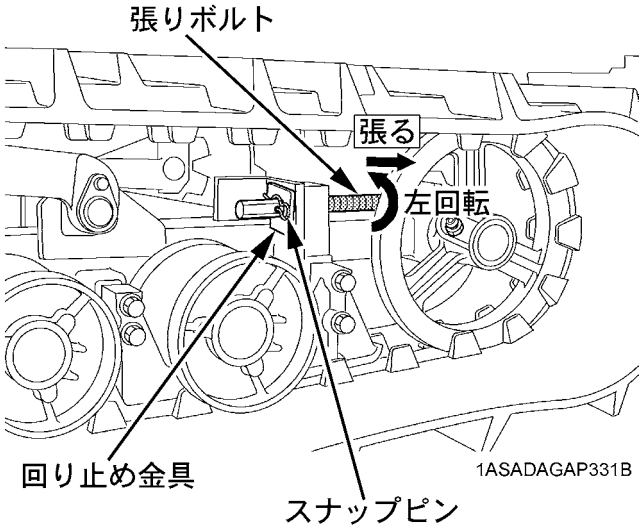


(5) 後部は機体フレームの下図位置に調整を行なう側のフレームに木材やブロックをセットします。



(6) エンジンを始動したあと，水平操作レバーを操作し，機体を**最下降位置**にします。
(7) エンジンを停止します。

2. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
3. 張りボルトを左に回してクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。



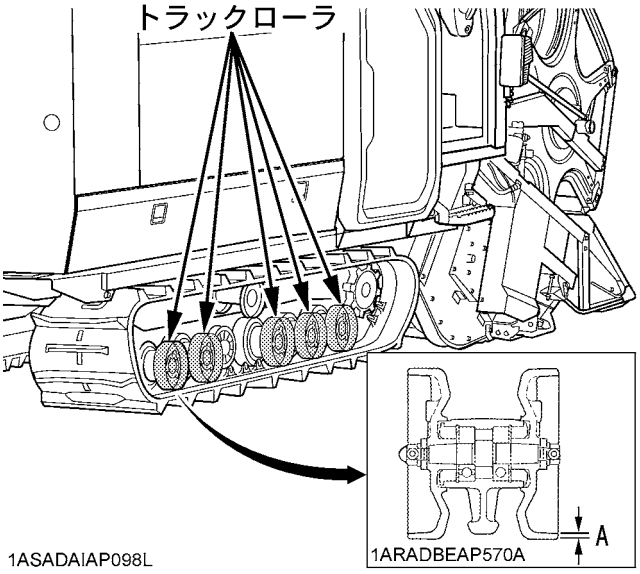
4. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。
5. ジャッキ及びブロックや木材を取外します。
(1) エンジンを始動したあと，水平操作レバーを操作して機体を上げます。
(2) エンジンを停止します。
(3) 木材やブロック及びジャッキを機体から取外します。

重　要

＊ クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
＊ クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20，及び 50 時間目に点検してください。
＊ クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため，下記事項を守ってください。
- 日光や雨による劣化防止のため，屋外に長期保管しないでください。
- オイルや燃料，農薬，肥料など油脂類の付着による劣化防止のため，クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

■トラックローラ（転輪）の点検

トラックローラの下図A寸法が，2 ㎜以下になったとき又は，使用時間が 500 時間経過したときの早いほうで交換してください。



補　足

＊ 購入先に連絡して交換してください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部の排かんくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。(147 ページ参照)
3. **[G 仕様]** はアンローダを収納します。
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのキーを抜取ります。
6. **[C 仕様]** はバックミラーを収納し，ドアをロックしたあとメインスイッチのキーを抜取ります。
7. 本機カバーを掛けます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平坦な場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草や排かんくずを，完全に取除いてください。

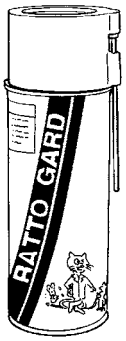
重　要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの**［給・注油（水）点検一覧表］**（155 ページ参照）を参照して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補　足

＊ 各部にこく粒や排かんくずが残っていると，ネズミに配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。また，ネズミによる被害を避けたいときは，クボタ純正部品**ラットガード**（ネズミよけスプレー塗料）の使用をお勧めします。

クボタ純正品　ラットガード
ネズミよけ
スプレー塗料



1ASADACAP480A

＊使用の際は，スプレー缶に書いてある使用上の説明・注意をよくお読みください。

品　　名	品　　番
クボタラットガード	07908-5619-0

＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

● 排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。（165 ページ参照）
2. ラジエータキャップに**［水なし］**と書いた札を掛けておいてください。

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。
（165 ページ参照）

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50% 以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。（ラジエータ容量……3.7L）
＊ 不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

◆ バッテリ

危　険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊ バッテリを点検するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は 1 カ月，冬は 2 カ月に 1 回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，（－）側のケーブルを必ず取外してください。

◆ 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

- デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。
- アクセルレバーをいっぱい戻して（**[🚗]** 位置）止めておきます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは **[切]** 位置にします。
- 車体水平制御は，機体いっぱいまで下げます。
- メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管します。
- 本機カバーを掛けます。

コンバインの不調と処置

警　告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 機械は平坦で，周りに排かんくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 刈刃の掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

エアロナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは表示内容を確認後，エアロナビによる異常と処置（114 ページ参照）又は，エアロナビによる故障と処置（117 ページ参照）の処置内容に従って処置してください。また，作物やほ場の状態，条件により機械の各部の点検・調節・調整・交換及び機械の正しい操作のしかたや点検・掃除を行なってください。

コンバインの不調と処置

◆刈取部

不調・不具合内容	原　因	点検・調整・調節・交換箇所	処置内容		参　照ページ
			処置１	処置２	
刈取部のヘッドロスが多い。	リールの回転速度が速い。	リール変速調節ダイヤル	作業をいったん中止したあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**[脱こく]**位置にする。	リールの回転速度を遅くする。	28
	作物の中にタインが入りすぎている。	リール上下スイッチ		リールの高さを高くする。	98
	タインの角度が大きい。	タイン		タインの角度を小さくする。	109
	リールの高さ，前後の位置が刈取条件に合っていない。	リール上下スイッチ リール前後スイッチ		適正な位置にする。	98 99
刈取部で作物が滞留する。	リールの高さ，前後の位置が刈取条件に合っていない。	リール上下スイッチ リール前後スイッチ		適正な位置にする。	98 99
	リールの回転速度が速い。	リール変速調節ダイヤル		リールの回転速度を遅くする。	28
	オーガドラムと底板のすき間が広い。	オーガドラム	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	適正なすき間にする。	205
株を引抜く。作物を刈取らずに押し倒す。	作業速度が速い。	主･副変速レバー	―	作物やほ場条件に合った作業速度にする。	12,90
	デバイダの位置が低い。(株の根元に突っ込む)	SF ワンレバー		デバイダ先端を地面から５～10㎝の範囲内に調整する。	96
	刈刃や搬送部に根･株･泥・石などの異物がかみ込んでいる。	刈刃・搬送部	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	異物を取除き,刈刃部や搬送部に異常がないか再点検をする。	136
	刈取駆動ベルトがスリップしている。	刈取駆動ベルト		交換する。	☆
		刈取駆動ベルトテンションスプリング		張り調整する。	184
	刈刃の切れが悪い。	刈刃		すき間を調整する。	204
				交換する。	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。

◆脱こく部

不調・不具合内容	原因	点検・調整・調節・交換箇所	処置内容		参照ページ
			処置１	処置２	
こぎ残しやササリロスがある。	こぎ歯が摩耗や変形している。	こぎ歯	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	交換する。	207
	こぎ室送じん弁が開きすぎている。	こぎ室送じんレバー		**【閉】**方向に調整する。	86
	エンジンの回転が低い。	アクセルレバー	－	エンジン回転数を上げる。	11,90
こく粒の飛散が多い。	エンジンの回転が高い。	アクセルレバー		エンジン回転数を下げる。	11,90
	トウミの風力が強い。	トウミ調節レバー	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	**【弱】**方向に調整する。	18
	こぎ室送じん弁が開きすぎている。	こぎ室送じんレバー	作業をいったん中止する。	**【閉】**方向に調整する。	86
	チャフケース各部の調節が悪い。	グレンシーブ	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	目合いの大きいグレンシーブに交換する。	255
		チャフシーブ		チャフ調節レバー前，後で開度を前後共大きくする。	86
	シーブが目詰まりしている。	グレンシーブ	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	掃除する。	136
		チャフシーブ			
選別が悪い。	エンジンの回転が低い。	アクセルレバー	－	エンジン回転数を上げる。	11,90
	トウミの風力が弱い。	トウミ調節レバー	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	**【強】**方向に調整する。	18
	チャフの開度が大きい。	チャフ調節レバー		チャフ調節レバー前，後で開度前後共を大きくする。	86
	グレンシーブの目合いが合っていない。	グレンシーブ		目合いの小さいものに交換する。	255
	トウミの風路に莢くずなどがたまっている。	トウミ風路		掃除する。	136
こぎ室内でゴトゴトと音がして作業能率が上がらない。	エンジンの回転が低い。	アクセルレバー	－	エンジン回転数を上げる。	11
	作業速度が速い。	主・副変速レバー		作業速度を落とす。	12,90
	作物の送りが均一でない。	リール前後スイッチ		リールを後方に移動する。	99
	作物の水分が高い。	作物	作業を中止する。	作物がよく乾いてから刈取作業をする。	76
	こぎ室送じん弁が閉じすぎている。	こぎ室送じん弁調節レバー	作業をいったん中止する。	**【開】**方向に調整する。	86

コンバインの不調と処置

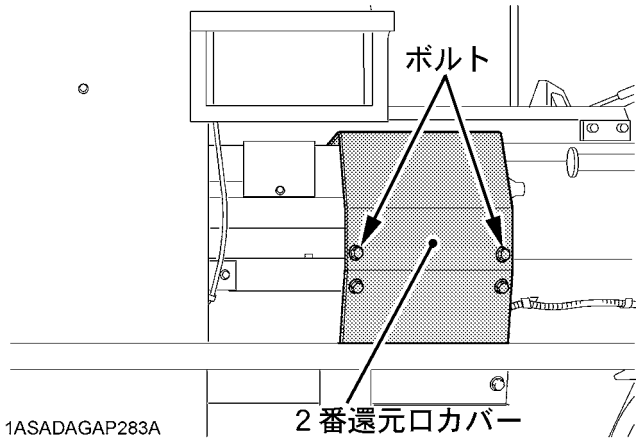
不調・不具合内容	原因	点検・調整・調節・交換箇所	処置内容		参照ページ
			処置１	処置２	
２番が詰まる。	エンジンの回転が低い。	アクセルレバー	－	エンジン回転数を上げる。	11
	２番還元量が多い	シーブケース	作業を中止したあと，エンジンを止める。	・目合いの大きいグレンシーブに交換する。	255
		チャフ調節レバー		・チャフ調節レバー前を**【開】**方向に調節する。 ・チャフ調節レバー後を**【閉】**方向に調節する。	112 112
		トウミ調節レバー		トウミ調節レバーを**【弱】**方向に調節する。	111
		２番還元板		こぎ胴還元板を取付ける。	230
	車速が早い	主変速レバー	車速を下げる	－	12,90
脱ぷ･損傷粒が多い。	供給量が安定していない。	作業速度	－	少し速くする。	12,90
	エンジンの回転が高い。	アクセルレバー		エンジン回転数を下げる。	11,90
	２番還元量が多い。	チャフの開度	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	チャフ調節レバー前を**【開】**方向，チャフ調節レバー後を**【閉】**方向に調節する。	112
		トウミの風力		トウミ調節レバーを**【弱】**方向に調節する。	111
		グレンシーブ		目合いの大きいものに交換する。	255
	こぎ室送じん弁が閉じすぎている。	こぎ室送じん弁調節レバー	作業をいったん中止する。	**【開】**方向に調整する。	86
	シーブが目詰まりしている。又は，２番還元が増加している。	グレンシーブ	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	・掃除する。 ・チャフ調節レバー前，後を**【閉】**方向に調節する。	136 112
		チャフシーブ			
	1 番バケットコンベアのチェーンがたるんでいる。	1番バケットコンベアチェーン		張り調整をする。	200
	1 番バケットコンベアの底部に泥が溜まっている。	1番バケットコンベアの底部掃除		掃除する。	136
汚粒がでる。	刈取時期が早い。	作物	作業を中止する。	適期に刈取作業をする。	76
	刈取時間が早い。			作物がよく乾いてから刈取作業をする。	76
	雑草や青立が多い。	ほ場		除草する。	78
	土が入る。	対地平行自動刈高さ制御	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	・土を取除き刈高さ自動スイッチを**【入】**にする。 ・刈高さ調節ダイヤルを**【高】**方向に調節する。	29 29
	こぎ室送じん弁が閉じすぎている。	こぎ室送じん弁調節レバー	作業をいったん中止する。	**【開】**方向に調整する。	86

不調・不具合内容	原因	点検・調整・調節・交換箇所	処置内容		参照ページ
			処置１	処置２	
莢付粒が多い。	エンジンの回転が低い。	アクセルレバー	－	エンジン回転数を上げる。	11,90
	こぎ室送じん弁が開きすぎている。	こぎ室送じん弁調節レバー	作業をいったん中止する。	**【閉】**方向に調整する。	86
	こぎ歯が摩耗している。	こぎ歯	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	交換する。	207

■損傷粒・未脱粒が多い

損傷粒や未脱粒が多いときは，付属部品の還元板を取付けてシーブケース内又は，こぎ室内に作物を還元してください。

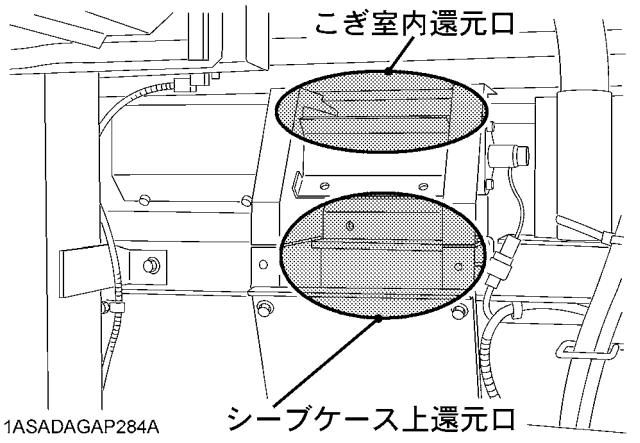
1. グレンタンクをオープンします。
2. ボルトを外して，2 番還元口カバーを取外します。



※イラストは G仕様

補　足

＊ 出荷時の 2 番還元は，シーブケース上とこぎ室内にこく粒がそれぞれ還元口から還元されます。

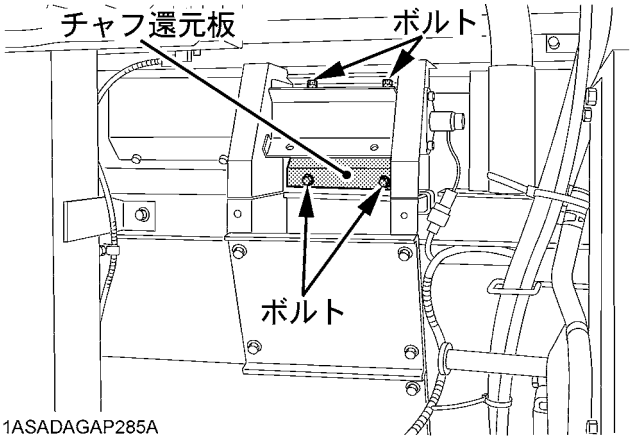


※イラストは G仕様

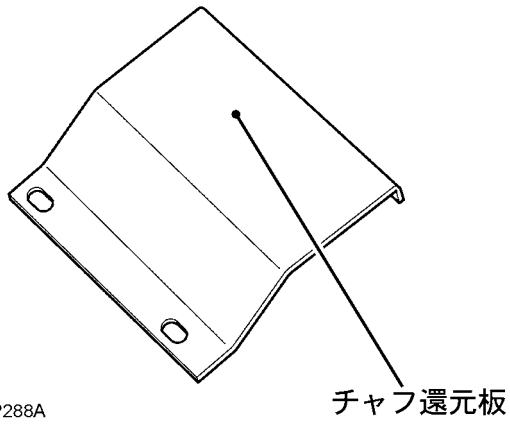
3. こく粒の脱こく状態に合わせて付属部品のチャフ還元板又は，こぎ胴還元板をボルトで取付けます。

● 損傷粒が多い場合

大豆，そば，麦の刈取りで損傷粒が多い場合は，チャフ還元板を取付けて，シーブケースにこく粒を還元してください。

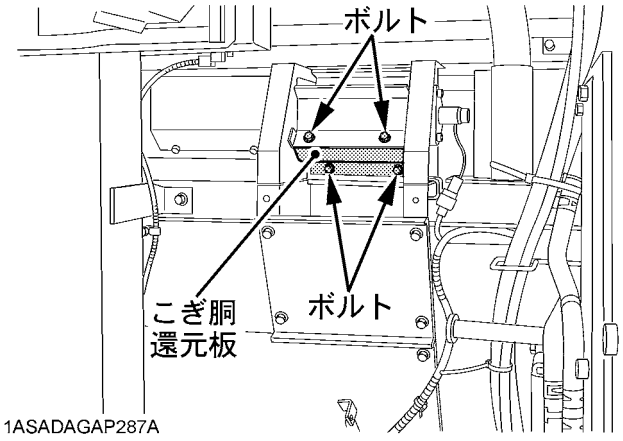


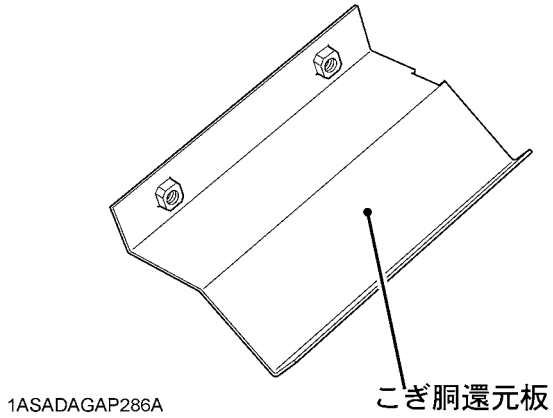
※イラストは G仕様



● **未脱粒が多い場合**

大豆，麦の刈取りで未処理粒が多い場合は，こぎ胴還元板を取付けて，こぎ室内にこく粒を還元してください。





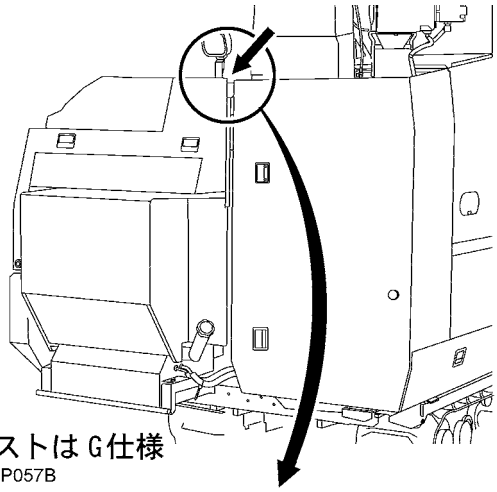
4. 2 番還元口カバーを取付けたあと，グレンタンクを閉じます。

■ 2 番詰まり警報が出たとき

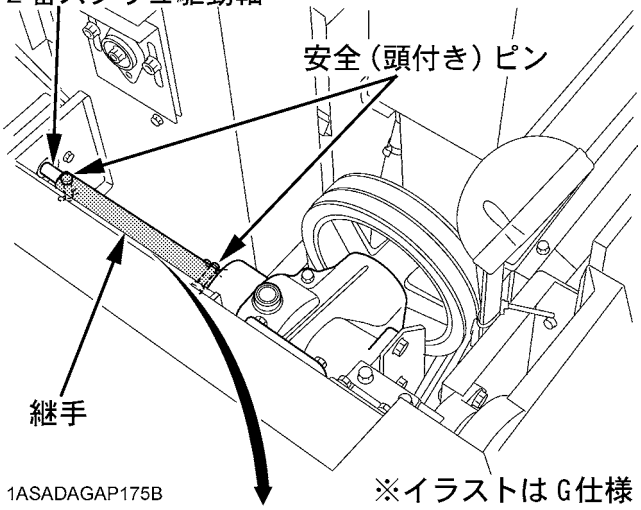
注 意

＊ 転倒・転落のおそれがありますので，作業を行なうときは足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。

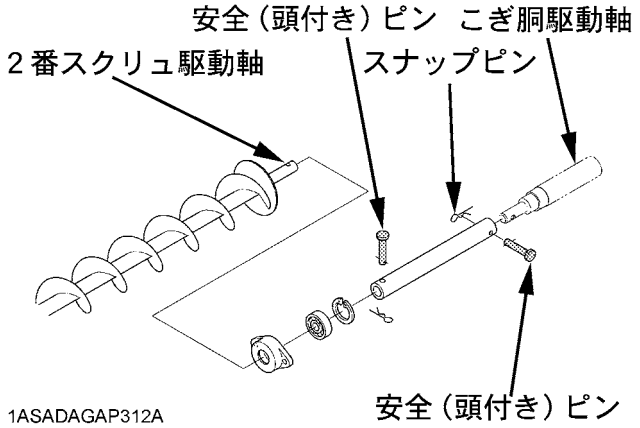
２番スラットコンベア内に詰まりが発生し，２番警報が出たときは，コンベア内の詰まりを取除いたあと，こぎ胴駆動軸と２番スクリュ駆動軸の継手を固定している２箇所の安全（頭付き）ピンが折れていないか確認してください。折れている場合は，付属部品の安全（頭付き）ピンと交換してください。交換するときは，折れた安全（頭付き）ピンを取除き，新しい安全（頭付き）ピンを継手と駆動軸に差込んだあと，スナップピンで固定してください。



※イラストはG仕様
1ASADAIAP057B



1ASADAGAP175B



1ASADAGAP312A

補　足

＊ 安全（頭付き）ピンはコンベア内に詰まりが発生したとき，駆動軸に大きな負荷が掛かり機械の故障を未然に防ぐための部品です。
＊ 予備の安全(頭付き)ピン(品番:05112-50635)がなくなったときは補充しておいてください。

刈取部に作物が詰まる

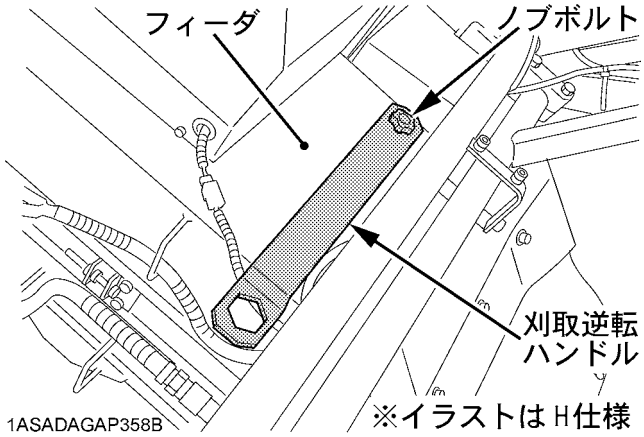
■刈取逆転ハンドルの使いかた

注　意

＊ エンジンを必ず止めて行なってください。

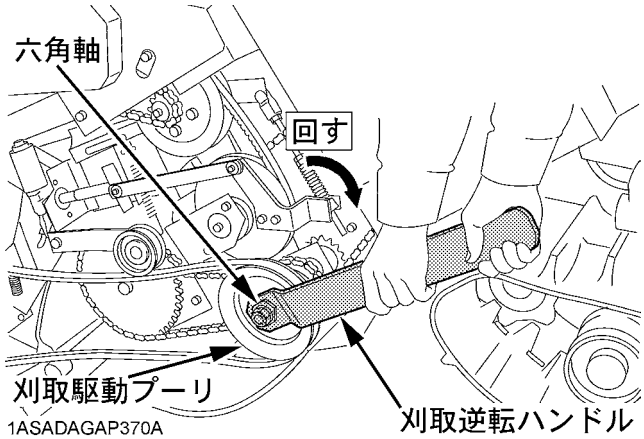
刈取部に作物が詰まったときは，刈取逆転ハンドルを使用して詰まった作物を取除いてください。

1. 刈取作業をいったん中止し，エンジンを止めます。
2. フィーダに取付けている刈取逆転ハンドルをノブボルトを取外して取出します。



1ASADAGAP358B

3. 刈取左サイドカバーを取外したあと，刈刃駆動プーリの六角軸に刈取逆転ハンドルの六角穴部を差込み，両手でハンドルを持ちながら時計（右）方向に回して作物を取除きます。



1ASADAGAP370A

4. 作物を取除いたあと，刈取左サイドカバーを取付け，刈取逆転ハンドルをフィーダに取付けます。

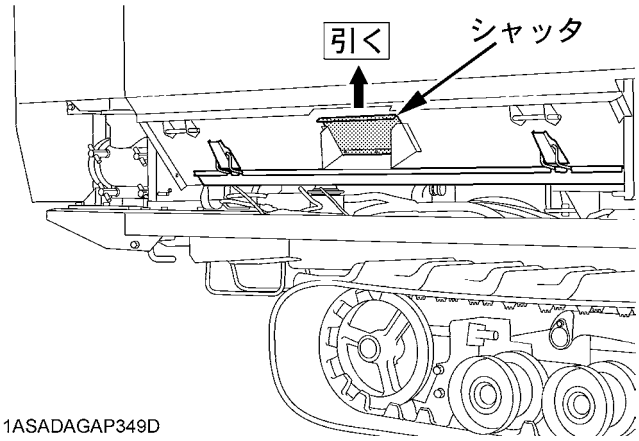
もみが詰まる

■アンローダからもみが排出されないとき

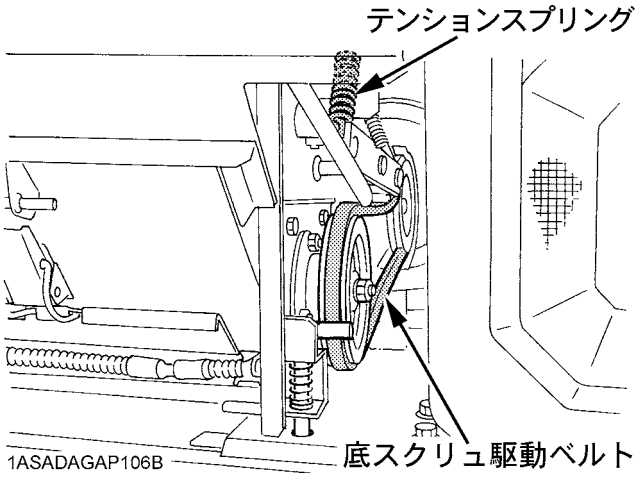
[G 仕様]

下記項目を点検し，もみ排出スイッチを押して**[切]**にしたあと，エンジンを必ず止めてから処置してください。

1. 異物がかみ込んでいるときは，アンローダの各掃除口を点検（136 ～ 147 ページ参照）し，異物を取除きます。
2. 底スクリュ駆動ベルトがスリップしているときは，シャッタを引いてもみを排出したあと，グレンタンクをオープン（134 ページ参照）し，底スクリュ駆動ベルトのテンションスプリングの調整（194 ページ参照）をします。調整を行なってもスリップが止まらないときは，ベルトを交換してください。



1ASADAGAP349D



1ASADAGAP106B

付表

主要諸元

農機型式名			クボタR0801	クボタR0801G	
車輌型式名			ARH430		
区分			H	G	CG
機体寸法	全長（mm）		4825		
	全幅（mm）		1970		2010
	全高（mm）		2410	2560	
機体質量（kg）			2330	2520	2670
エンジン	名称		D1803-M-TE3-C-2		
	形式		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル〔ターボ付き〕		
	総排気量（L{cc}）		1.826 {1826}		
	出力／回転速度（kW {PS} /rpm）		32.0 {43.5} /2700		
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	タンク容量（L）		55		
	始動方式		セルモータ		
	バッテリ（V･Ah）		12・55〔80D26L-MF〕		
走行部	クローラ	中心距離（mm）	980		
		幅×接地長（mm）	360×1500		
		平均接地圧（kPa({kgf/ｃ㎡}）	21.2{0.216}	22.9{0.233}	24.2{0.247}
	最低地上高（mm）		165～265		
	変速方式		油圧モータ式〔ＨＳＴ〕		
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各３段〕		
	走行速度（m/s）	前進	〔副変速〕低速：0～0.85　標準：0～1.38　走行：0～2.40		
		後進			
	旋回方式		ブレーキ・ソフトターン，ソフトターン〔スイッチ切換え式〕		
刈取部	引起し方式		リール引起し		
	リール	回転径×幅（mm）	1000×1322		
		変速方式	ベルト無段変速		
		上下調節方式	油圧式		
	刈幅［デバイダ先端間隔］（mm）		1546		
	刃幅（mm）		1446		
	刈高さ［昇降］範囲（mm）		-50～770〔刈刃先端〕		
脱こく部	脱こく方式		軸流式〔バータイプ〕		
	こぎ胴	こぎ歯の種類	ツース		
		径×幅（mm）	542×1700		
		回転速度(rpm)	316〔大豆・ソバ〕・836〔麦〕		
	２番還元方式		スクリュ＋スラットコンベア		
	選別方式		揺動，風選〔３段気流選別〕		
	コンケーブ面積［4枚］(㎡)		1.17		

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名				クボタR0801	クボタR0801G	
車輌型式名				ARH430		
区分				H	G	CG
こく粒処理部	グレンタンク仕様	タンク容量(L)		—	950	
		アンローダ	排出方式	—	バケット＋ベルトコンベア方式	
			排出時間	—	約２分30秒〔エンジン回転2700rpm時〕	
			旋回範囲（度）・旋回方式	—	206・モータ式	
			昇降範囲（度）・昇降方式	—	－６～25・油圧式	
			排出高さ〔作業時〕(mm)	—	1510～3145	
			排出長さ〔作業時〕(mm)	—	3150	
	ホッパ仕様	ホッパ	容量（L）	200	—	
			口数・取出方式	３口・袋詰め	—	
諸装置	自動化装置	自動刈高さ制御		○	○	○
		刈取対地平行水平制御		○	○	○
		刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕		○	○	○
		自動車体水平制御		○	○	○
		アンローダ自動旋回制御		—	○	○
		エンジン正逆流ファン		○	○	○
	クリーンファン			○	○	△
	刈取バックアップリフト〔後進時刈取部上昇機能〕			○	○	○
	ポジピタ〔刈取部ワンタッチ昇降機能〕			○	○	○
	方向微調整スイッチ			○	○	○
	リール上下・前後スイッチ			○	○	○
	パワークラッチ〔刈取〕			○	—	—
	パワークラッチ〔刈取・こく粒排出〕			—	○	○
	バイブロシャッタ			—	○	○
	無線アンローダリモコン			—	○	○
	ラジオ付きＣＤプレーヤ			—	—	○
	キャビン			—	—	○
	警報装置			燃料･充電・油圧・水温（オーバーヒート）・負荷・こく粒満杯・１番詰まり・２番詰まり・オーガ詰まり **[G仕様]**		
作業能率（a/hr{分/10a}）				50～11 {12～53} 〔大豆〕		
適応作物				大豆・そば・麦		

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　○：標準装備　—：非装備（後付け不可）　△：オプション（後付け可）
※そば・麦の収穫作業には別売品のオプションが必要です。

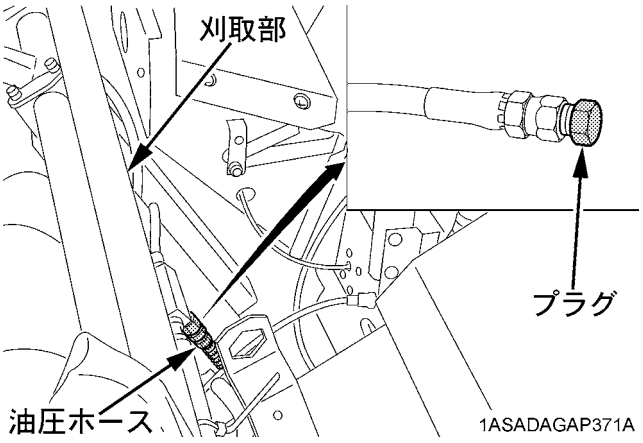
付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書	1
＊メンテナンスブック	1
＊取扱説明書確認カード	1
＊取扱説明書	1
＊取扱説明書収納ビニール袋	1
＊本機カバー	1
＊こぎ胴還元板 (231 ページ参照)	1
＊チャフ還元板 (230 ページ参照)	1
＊頭付きピン・スナップピン (232 ページ参照)	各 2
＊プラグ	1

補　足

＊ 刈取部の油圧ホースを外したとき，ホースからの油もれを防ぐために使用してください。



オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

■そば用キット

そばの刈取作業に使用します。キットは，そば・麦共通キットとそば専用キットの両方を使用します。

品　番	品　　名
5T040-86010	キット（そば・麦共通）
5T040-86020	キット（そば専用）

※組付要領については，**［そば・麦用キット組付要領］**（251 ページ）を参照してください。

■麦用キット

麦の刈取作業に使用します。キットは，そば・麦共通キットと麦専用キットの両方を使用します。

品　番	品　　名
5T040-86010	キット（そば・麦共通）
5T040-86030	キット（麦専用）

※組付要領については，**［そば・麦用キット組付要領］**（251 ページ）を参照してください。

■小豆キット

小豆や小粒の大豆の刈取作業に使用します。

品　番	品　　名
5T040-87040	キット（小豆）

■長かん作物キット

雑こくなど長かん作物の刈取作業に使用します。

品　番	品　　名
5T060-8750-1	交換部品キット（長かん）

■バックミラー

機体後部側の確認をするミラーです。あぜ際の旋回時などで便利です。

品　番	品　　名
5T040-86800	トリツケブヒン,キット(ミラー)

■リフターキット

刈取部に取付けます。倒伏した大豆や短かんの大豆を収穫するとき，刈取部への送込みを良くします。。

品　番	品　　名
5T040-86070	トリツケブヒン,キット(リフター)

■チョッパ

排かんの切断作業に使用します。

品　番	品　　名	適応型式
5T040-87010	チョッパ，アッシ	RC 仕様を除く全型式

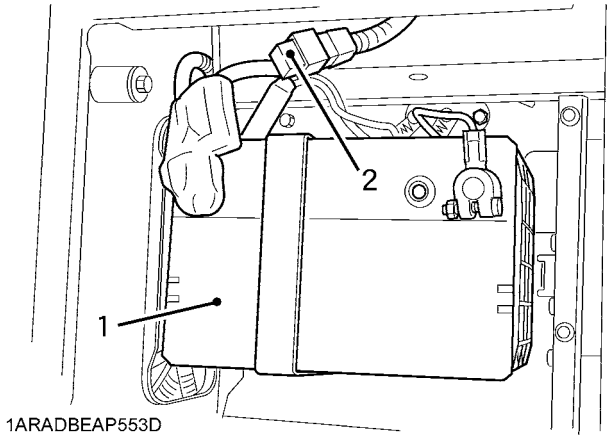
■クリーンファン

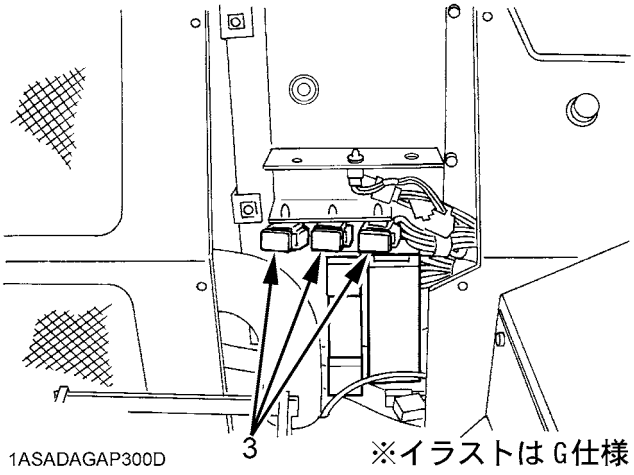
刈取部及びフィーダ部で発生するゴミやほこりを吸入するファンです。

品　番	品　　名	適応型式
5T040-87020	クリーンファン，アッシ	C 仕様

消耗部品（純正品を使いましょう）

◆バッテリ・スローブローヒューズ

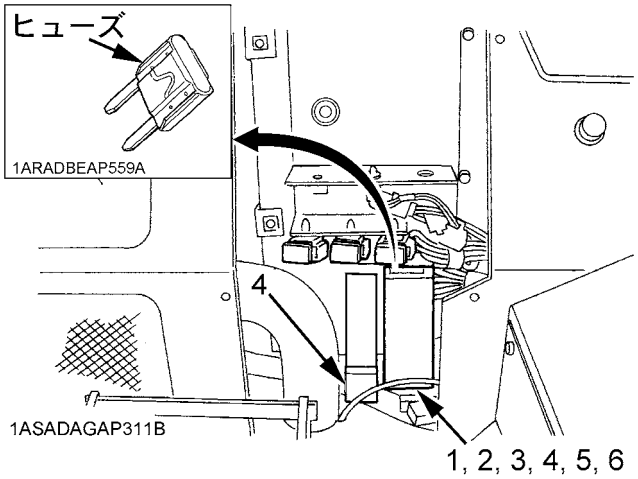




図番	品　名	品　番	対象型式
1	バッテリ	07908-2531-0	全型式
2	スローブローヒューズ(65A)	33780-7555-0	
3	スローブローヒューズ(45A)	5H601-4166-0	

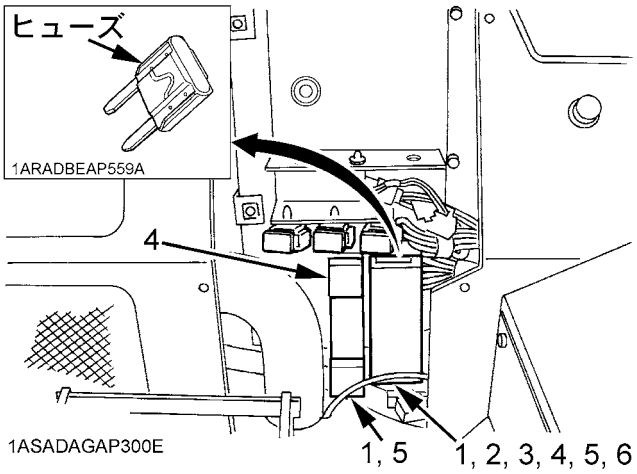
◆ヒューズ

[C 仕様除く]



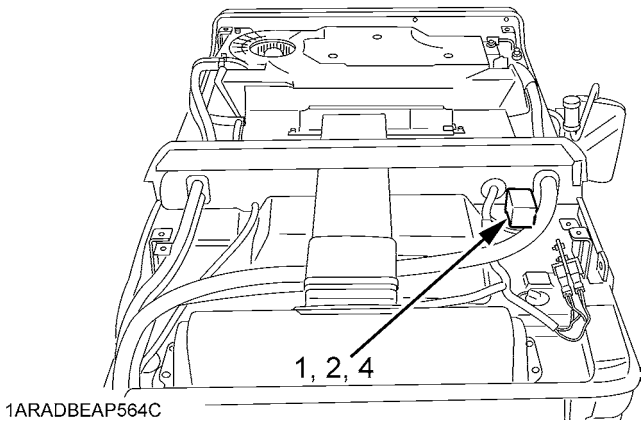
[C 仕様除く]

[C 仕様]



[C 仕様]

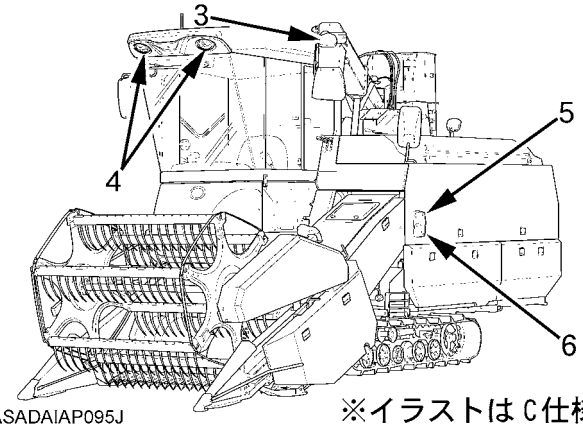
[C 仕様]



[C 仕様]

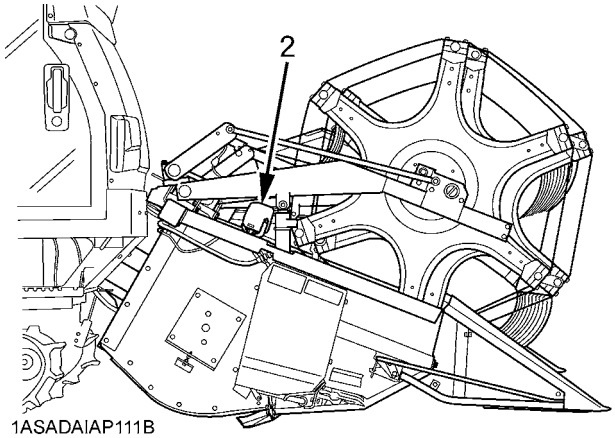
図番	品　名	品　番	対象型式
1	ヒューズ 5A	37410-5552-0	全型式
2	ヒューズ 7.5A	58622-4148-0	
3	ヒューズ 10A	36730-7555-0	
4	ヒューズ 15A	35820-7556-0	
5	ヒューズ 20A	36919-5665-0	
6	ヒューズ 25A	56605-4215-0	

◆ランプ（電球）

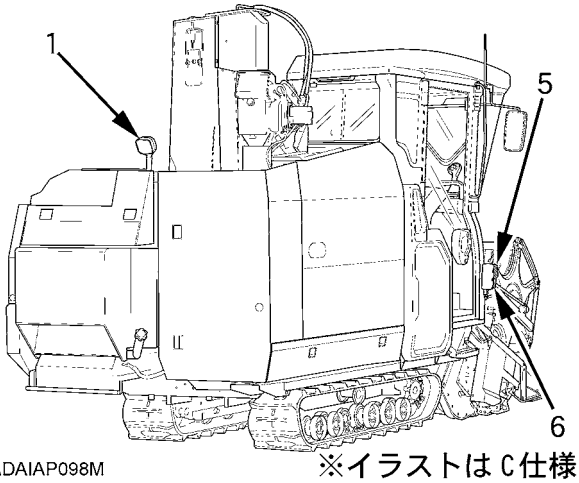


1ASADAIAP095J

※イラストはC仕様

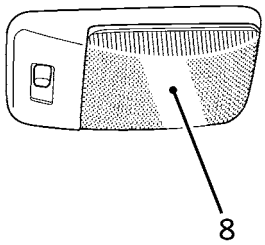


1ASADAIAP111B

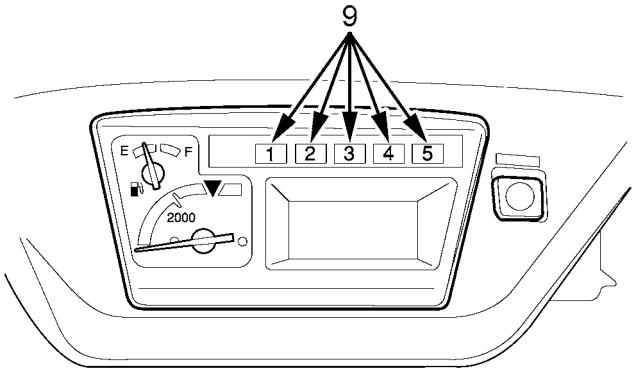


1ASADAIAP098M

※イラストはC仕様

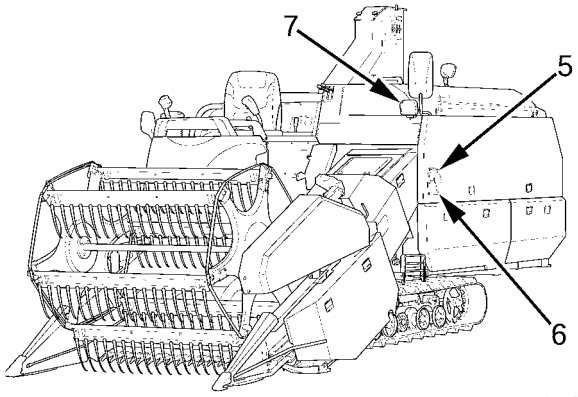


1ARAEASAP014F



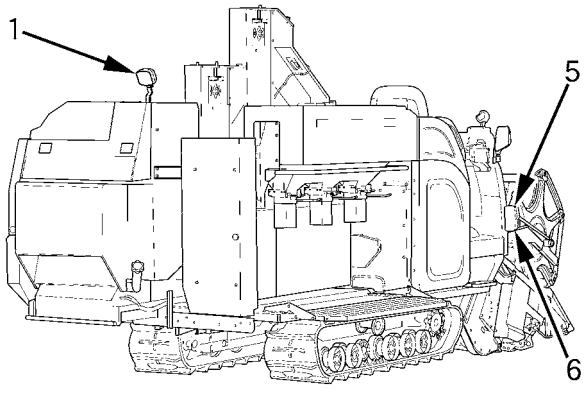
1ARADBEAP079I

（※購入先に連絡してください）



1ASADAIAP004F

※イラストはH仕様

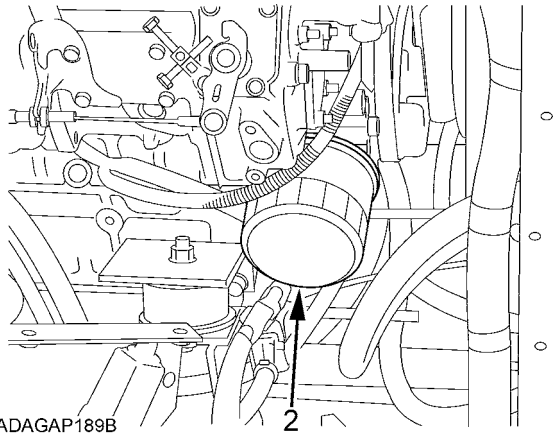


1ASADAIAP006K

※イラストはH仕様

図番	品　名	品　番	対象型式
1	バルブ（12V55W）	3G710-7590-0	全型式
2	バルブ（25W）	52200-4187-0	
3	ランプ（サギョウトウ，12V35W）	3G710-7590-0	G仕様
4	バルブ（12V55W）	3C581-7590-0	C仕様
5	バルブ（12V21/5W）	T1370-9912-0	全型式
6	バルブ（12V5W）	T1370-9914-0	
7	バルブ（12V55W）	3G710-7590-1	C仕様除く
8	ランプ（ルーム）	3C581-5422-0	C仕様
9	ランプバルブ（0.84W）	5H050-4407-0	全型式

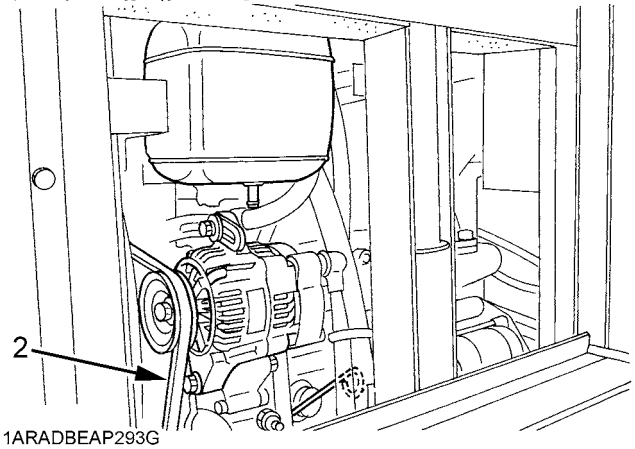
◆エンジンオイルフィルタカートリッジ



1ASADAGAP189B

図番	品　名	品　番	対象型式
1	オイルフィルタカートリッジ	16414-3243-0	全型式

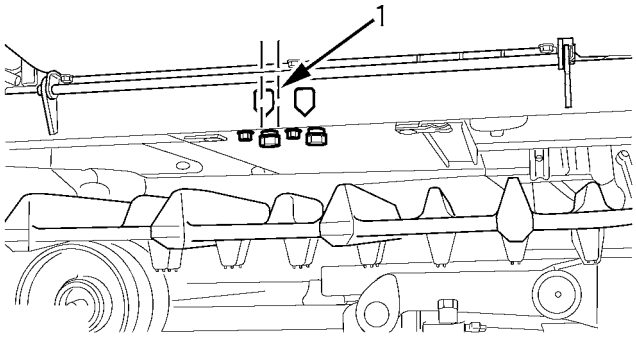
◆ファン駆動ベルト



1ARADBEAP293G

図番	品　名	品　番	対象型式
1	ファンベルト（39.5）	1G848-9701-0	全型式

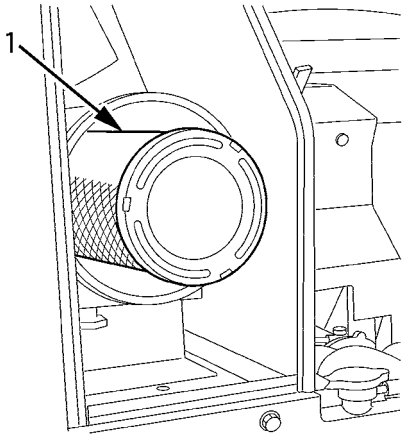
◆オイルドレーンゴムホース



1ARADBEAP295D

図番	品　名	品　番	対象型式
1	オイルドレーンホース	52600-2531-0	全型式

◆エアクリーナ

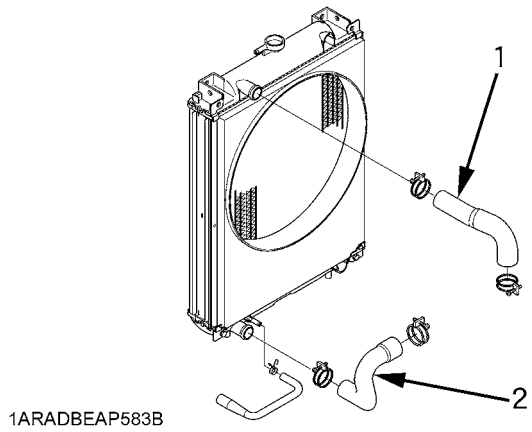


1ARADBEAP316D

図番	品　名	品　番	対象型式
1	エレメント（アウタ）	R1401-4227-0	全型式

◆ラジエータホース

[C 仕様除く]

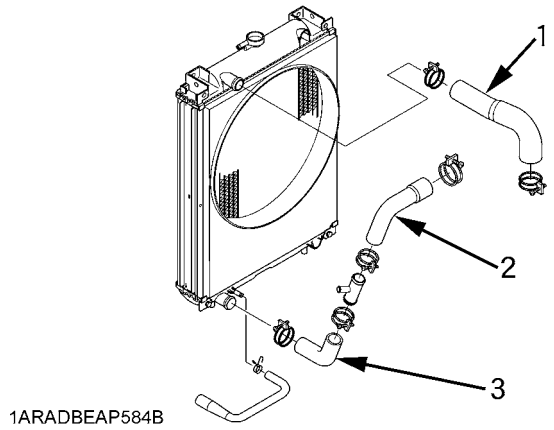


1ARADBEAP583B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホース（1, ウォータ）	5H730-2571-0	C 仕様除く
2	ホース（2, ウォータ）	5H730-2572-0	

[C 仕様除く]

[C 仕様]

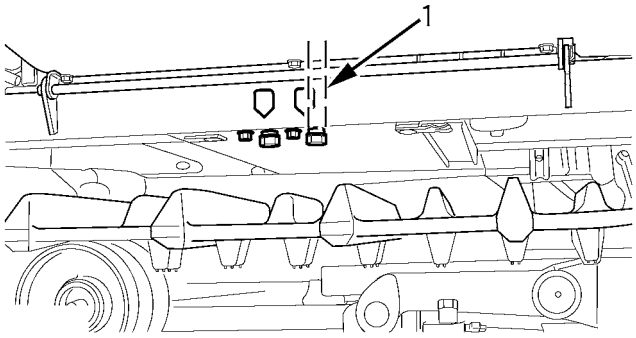


1ARADBEAP584B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホース（1, ウォータ）	5H730-2571-0	C 仕様
2	ホース（2, ウォータ）	5H736-2572-0	
3	ホース（3, ウォータ）	5H736-2573-0	

[C 仕様]

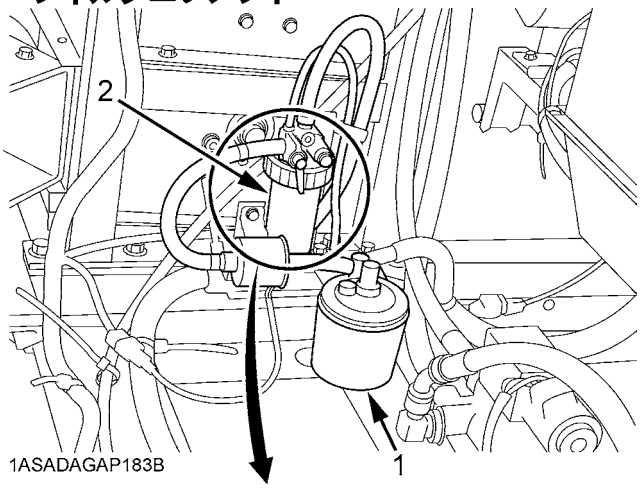
◆排水ホース



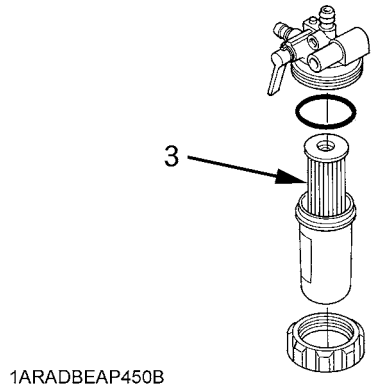
1ARADBEAP295C

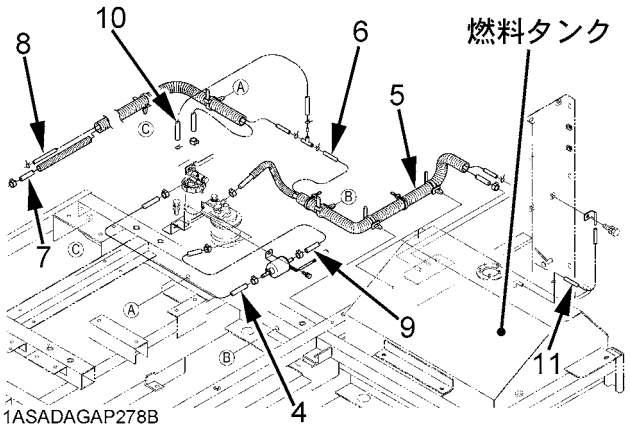
図番	品　名	品　番	対象型式
1	チューブ（ハイスイ）	5H730-2574-0	全型式

◆フューエルパイプ
◆フューエルフィルタカートリッジ
◆フューエルフィルタアッシ,
フィルタエレメント



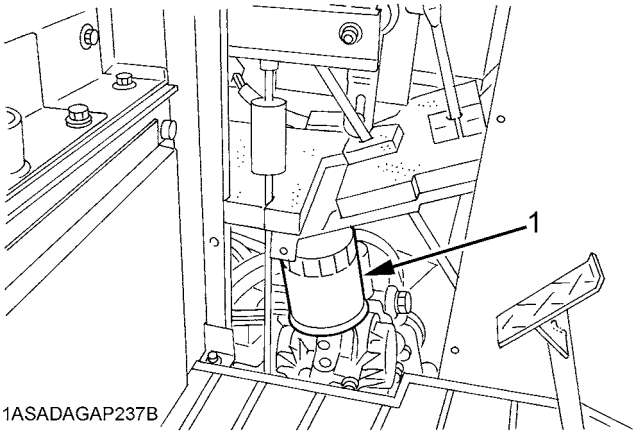
[フューエルフィルタアッシ]





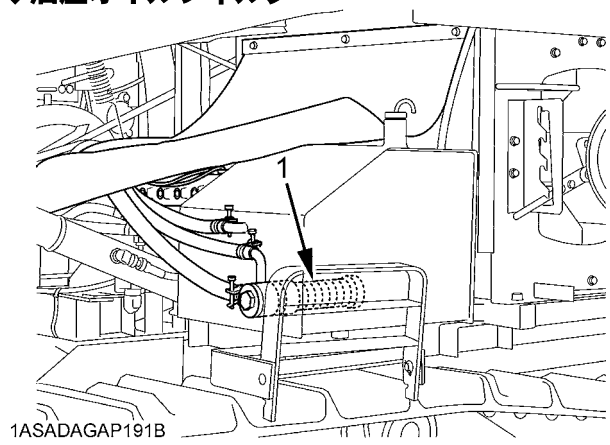
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタエレメント	15221-4317-0	全型式
2	フューエルフィルタアッシ	5H700-2686-0	
3	エレメントアッシ	16271-4356-0	
4	フューエルチューブ	09661-70200	
5	フューエルチューブ	09661-70850	
6	フューエルチューブ	09661-40825	
7	フューエルチューブ	09661-72800	
8	フューエルチューブ	09661-42400	
9	フューエルチューブ	09661-70070	
10	フューエルチューブ	09661-40350	
11	フューエルチューブ	09661-40750	

◆ HST オイルフィルタカートリッジ

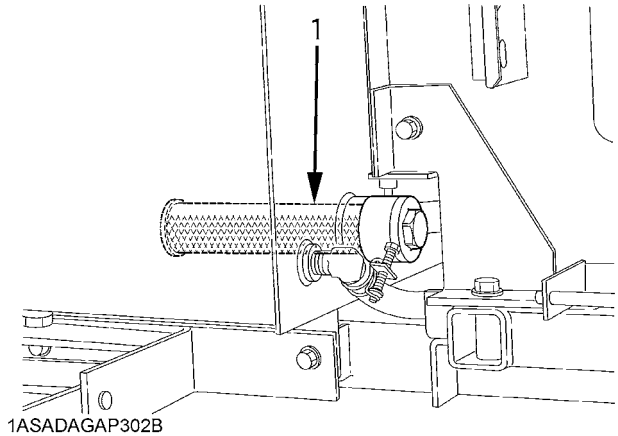


図番	品　名	品　番	対象型式
1	オイルフィルタ (HST)	K7561-1407-0	全型式

◆油圧オイルフィルタ



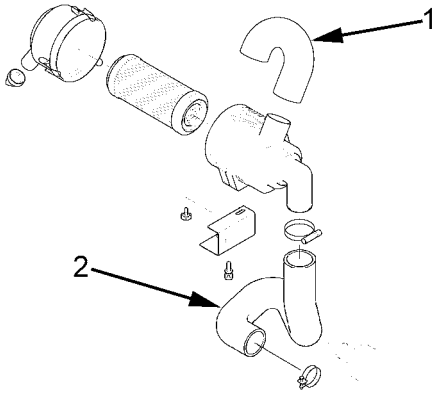
[G 仕様]



[G 仕様]

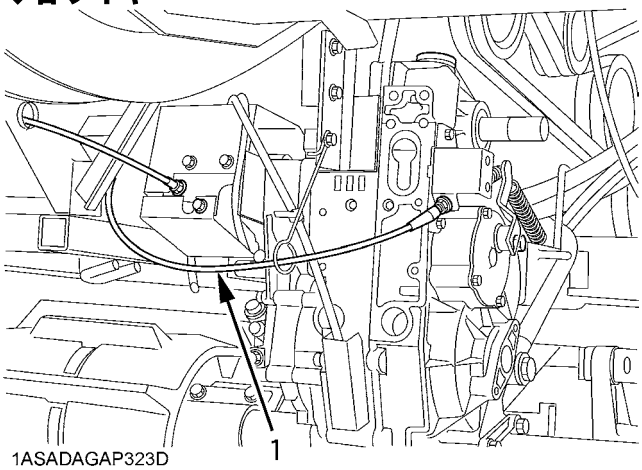
図番	品　名	品　番	対象型式
1	油圧オイルフィルタ	52600-2765-0	全型式

◆インレットパイプ



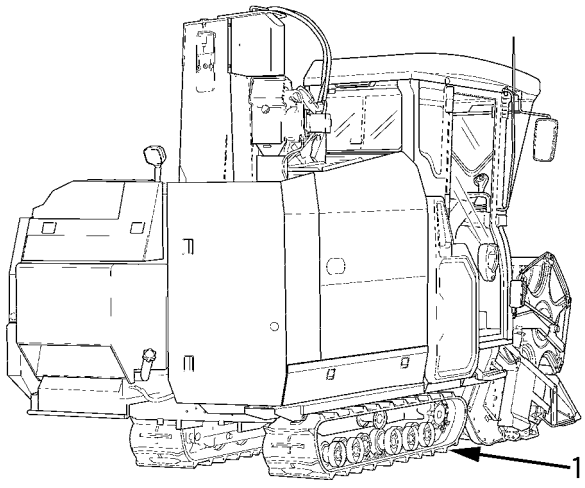
図番	品　名	品　番	対象型式
1	ホース (2, インレット)	5H730-2632-0	全型式
2	ホース (1, インレット)	5H732-2631-0	

◆各ワイヤ



図番	品　名	品　番	対象型式
1	ワイヤブレーキ	5H700-3218-2	全型式

◆クローラ

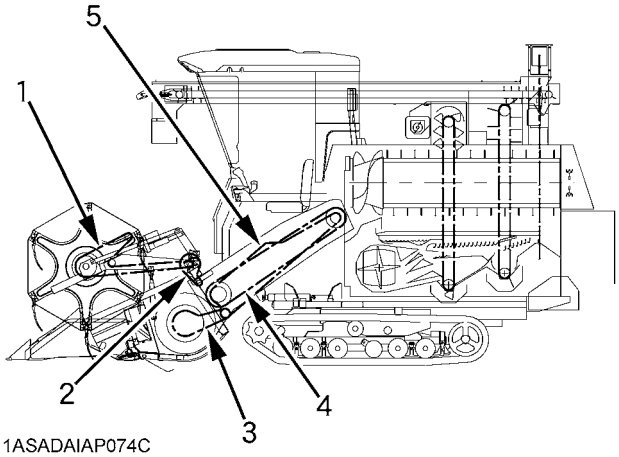


1ASADAIAP098N

※イラストはC仕様

図番	品　名	品　番	対象型式
1	クローラ（360 × 47）	5T000-2254-0	全型式

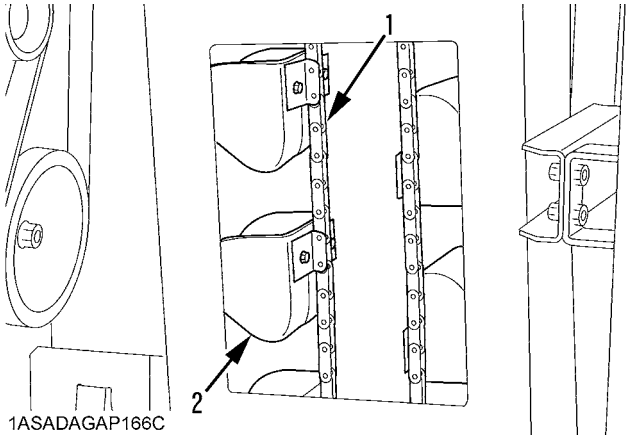
◆チェーン関係



1ASADAIAP074C

図番	品　名	品　番	対象型式
1	チェーン（リールクドウ）	5T040-5461-0	全型式
2	チェーン(リールカウンタ)	5T040-5338-0	
3	チェーン（96）	5T040-5232-0	
4	チェーン（76）	5T000-4641-0	
5	チェーン（176）	5T040-4663-0	

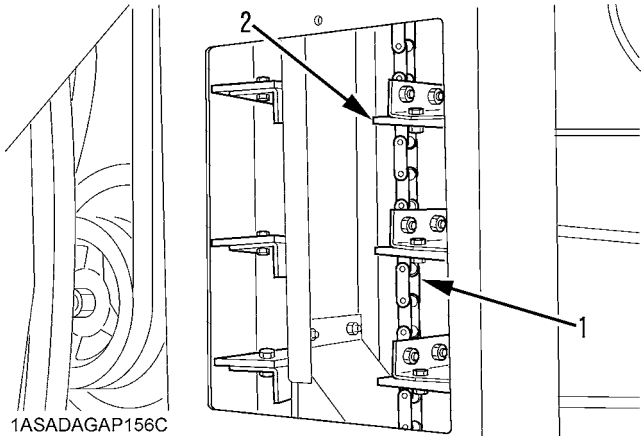
◆１番バケットコンベア



1ASADAGAP166C

図番	品　名	品　番	対象型式
1	チェーン，アッシ（コンベア，1）	5T040-6740-0	G仕様
	チェーン，アッシ（コンベア，H）	5T040-6780-0	H仕様
2	バケット	5T040-6743-0	全型式

◆ ２番スラットコンベア

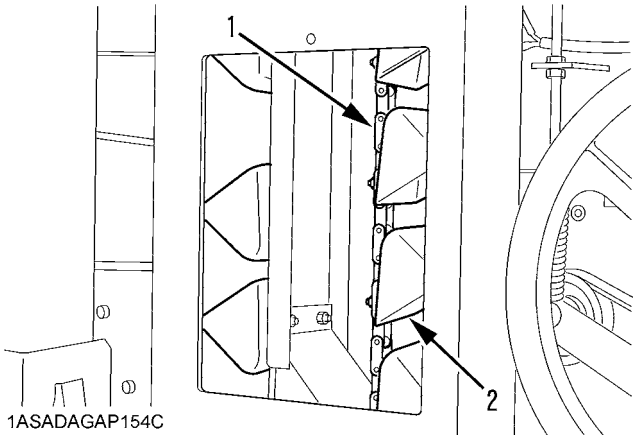


1ASADAGAP156C

図番	品　名	品　番	対象型式
1	チェーン，アッシ（コンベア，1）	5T040-6740-0	全型式
2	プレート（2バンハンソウ）	5T040-6843-0	

◆排出バケットコンベア

[G 仕様]

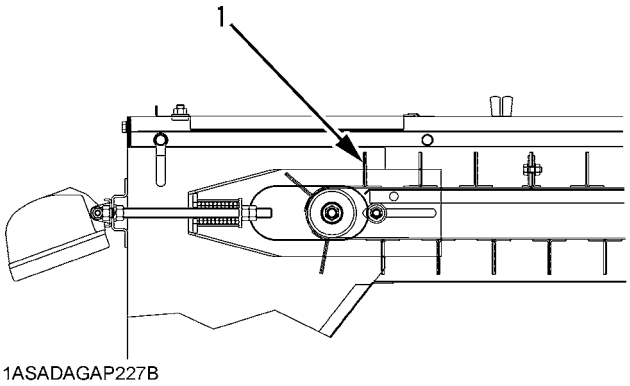


図番	品　名	品　番	対象型式
1	チェーン（バケット）	5T040-7721-0	G 仕様
2	バケット	51873-7924-4	

[G 仕様]

◆アンローダ搬送ベルトコンベア

[G 仕様]

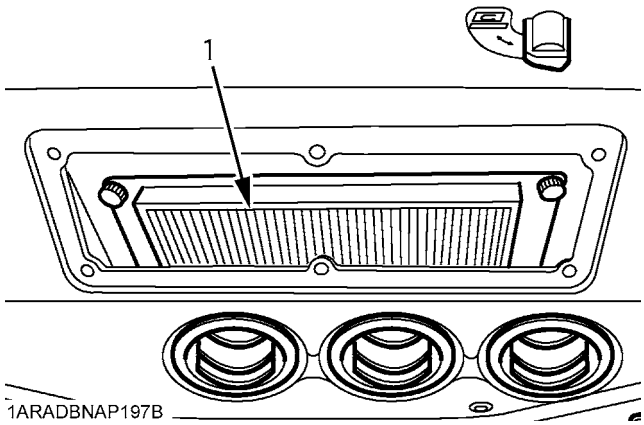


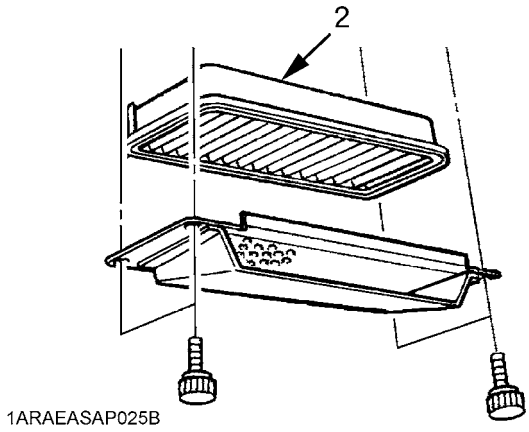
図番	品　名	品　番	対象型式
1	ヒラベルト	5T040-7861-0	G 仕様

[G 仕様]

◆内気フィルタ

[C 仕様]

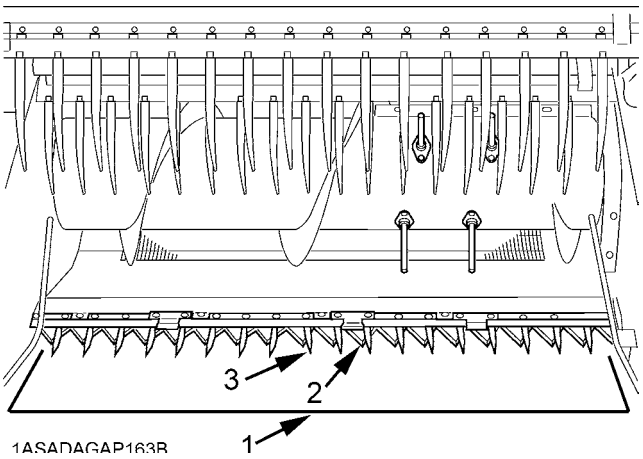




図番	品　名	品　番	対象型式
1	フィルタ（ウチ，ナイキ）	5H736-3844-0	C 仕様
2	フィルタ（ペーパー）	TA043-7160-0	

[C 仕様]

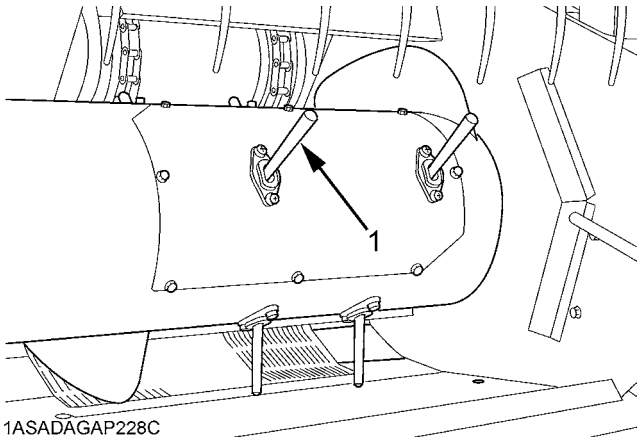
◆刈刃



1ASADAGAP163B

図番	品　名	品　番	対象型式
1	カリバ，コンプ	5T040-5131-0	全型式
2	カリバ	5T030-5133-0	
3	フィンガ	5T030-5141-0	

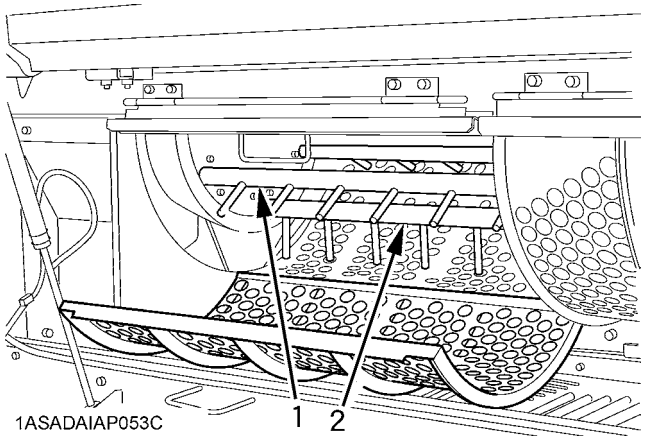
◆フィンガ



1ASADAGAP228C

図番	品　名	品　番	対象型式
1	シャフト（フィンガ）	5T040-4945-0	全型式

◆ こぎ歯

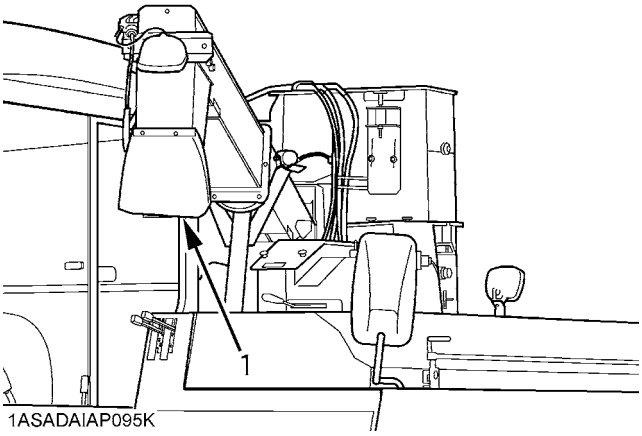


1ASADAIAP053C

図番	品　名	品　番	対象型式
1	バー（コキハ，1）	5T060-6332-0	全型式
2	バー（コキハ，2）	5T060-6333-0	

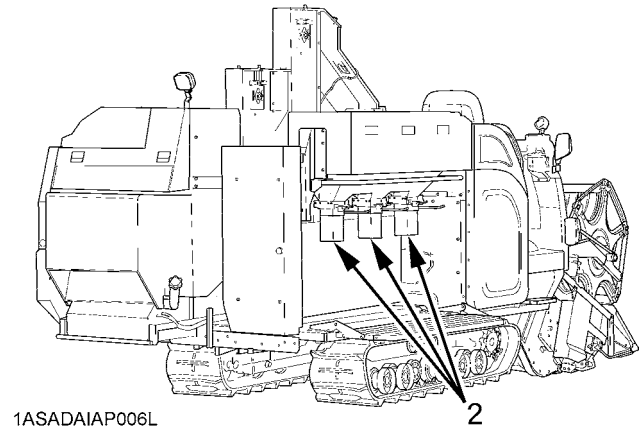
◆吐出口ブーツ

[G 仕様]



[G 仕様]

[H 仕様]

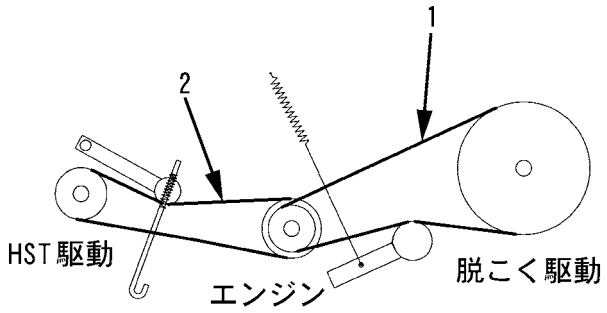


[H 仕様]

図番	品　名	品　番	対象型式
1	ブーツ	5T040-7831-0	G 仕様
2	ホッパーブーツ	53731-5337-2	H 仕様

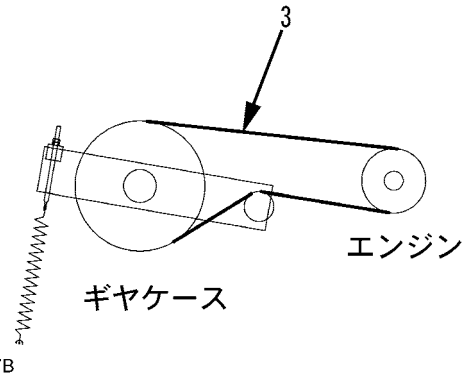
◆ 各ベルト

[エンジン周り]



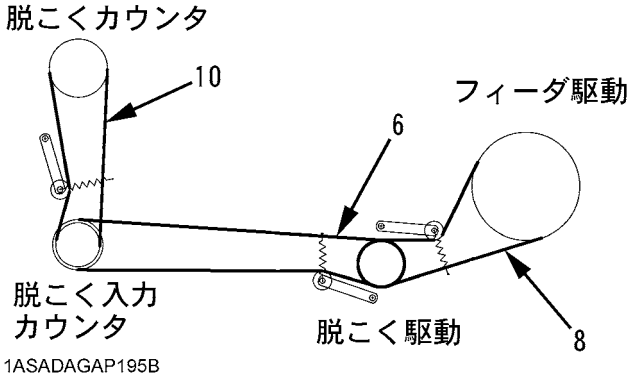
[G 仕様]

[オイルポンプ部]



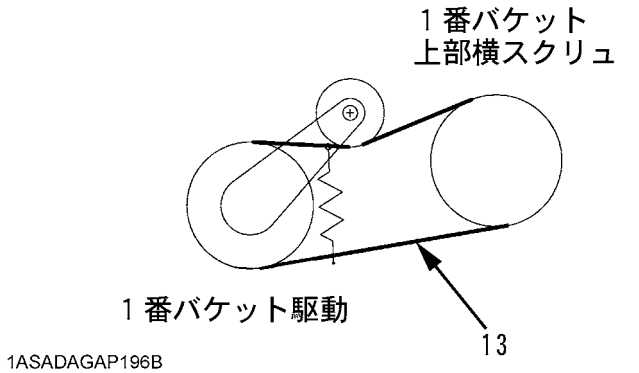
[G 仕様]

[脱こく部右側]



[G 仕様]

[脱こく部上部右側（1 番バケット上部)]

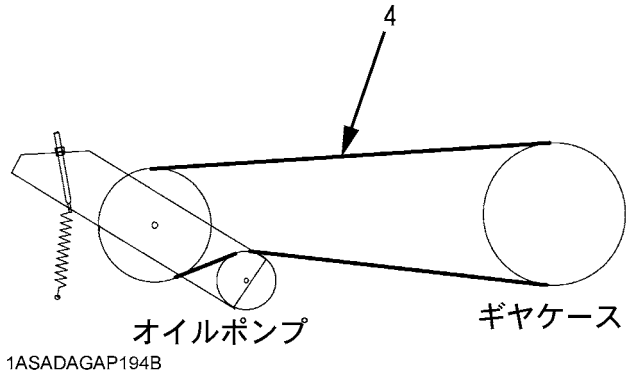


1ASADAGAP196B

[G 仕様]

[G 仕様]

[ギヤケース部]

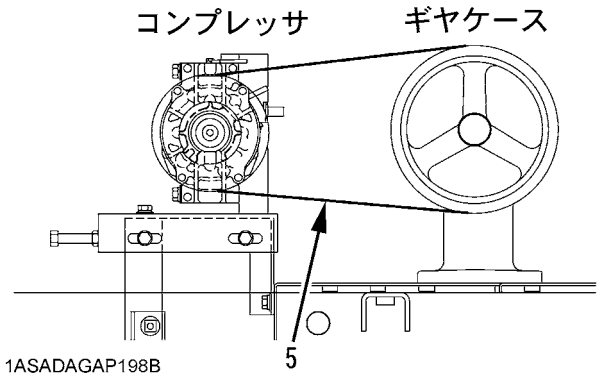


1ASADAGAP194B

[G 仕様]

[C 仕様]

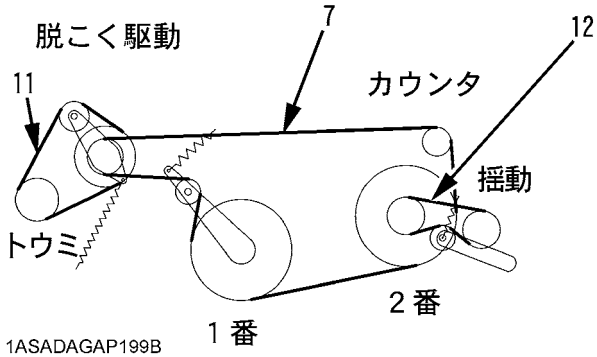
[コンプレッサ部]



1ASADAGAP198B

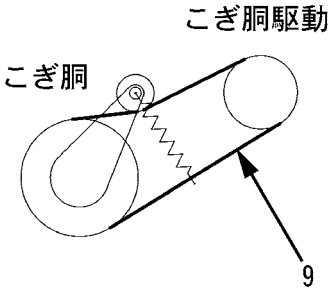
[C 仕様]

[脱こく部左側]



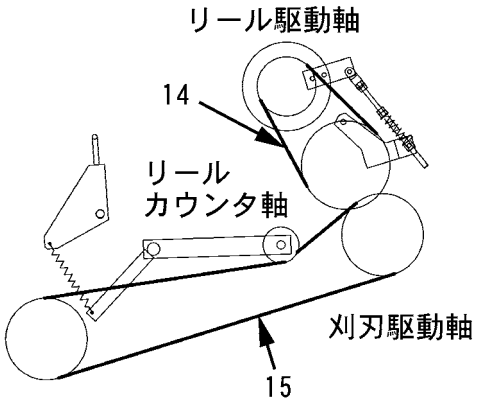
1ASADAGAP199B

[脱こく部後側]



1ASADAGAP200B

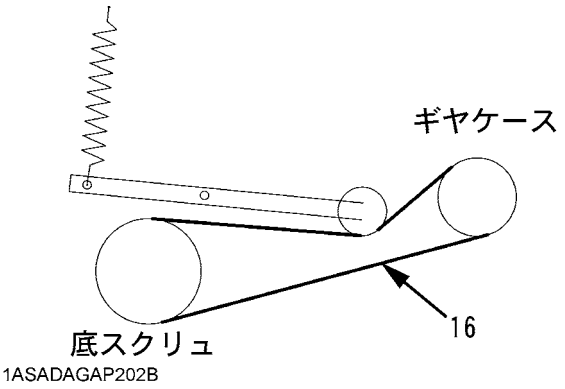
[刈取部]



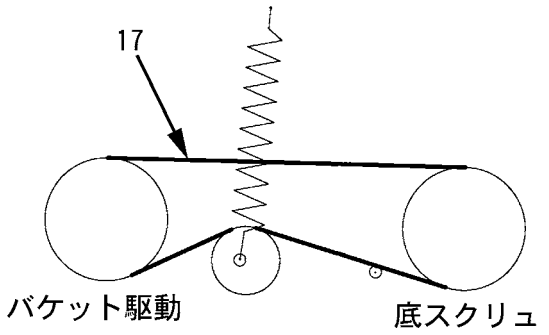
1ASADAGAP201B

[G 仕様]

[グレンタンク部]



1ASADAGAP202B



1ASADAGAP203B

[G 仕様]

図番	品　　名	品　番	対象型式
・エンジン周辺部			
1	V ベルト (C94)	5T040-1164-0	全型式
2	V ベルト (B54)	5H730-1161-0	
・ギヤケース部			
3	ブイベルト（トク B-56）	53475-5621-0	G 仕様
4	V ベルト (B64)	5H700-1211-0	G 仕様
5	V ベルト (A39)	59819-3627-0	C 仕様
・脱こく部			
6	V ベルト（トク C-112）	5T040-6548-0	全型式
7	V ベルト（トク B-108）	5T040-6536-0	
8	V ベルト（トク B-86）	5T040-6584-0	
9	V ベルト（トク C-51）	5T040-6348-0	
10	V ベルト（トク C-76）	5T040-6587-0	
11	V ベルト（トク B-39）	5T040-6647-0	
12	V ベルト (B-30)	5T040-6948-0	
13	V ベルト（トク B-36）	5T040-6769-0	
・刈取部			
14	ベルト（ヘンソク）	5T030-5339-0	全型式
15	V ベルト(カリバクドウ)	5T040-5233-0	
・グレンタンク部			
16	トクビイ 46 ブイベルト	62671-6221-0	G 仕様
17	V ベルト（トク B-39）	5T000-7565-0	

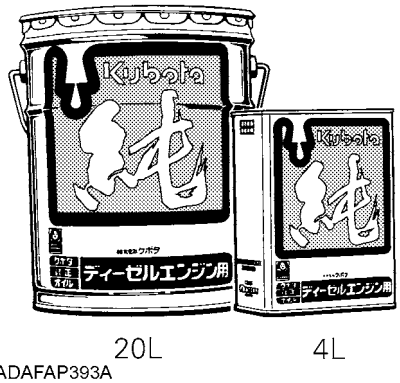
クボタ純正オイル

■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

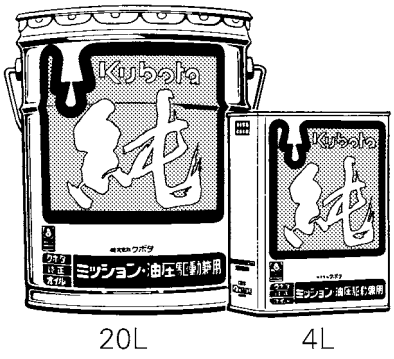
お買求めは，購入先へご用命ください。

● **D10W-30（ディーゼルエンジン用）**
D10W-30 スーパー CD（ターボ付きエンジン用）



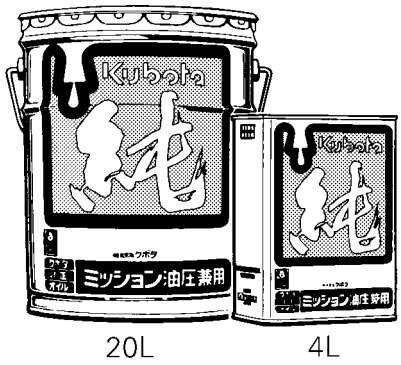
1ARADAFAP393A

● **スーパー UDT-2**
（油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）



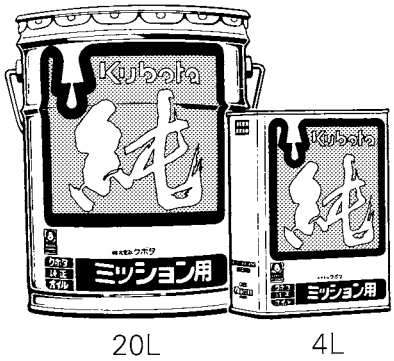
1ARADAFAP394A

● **M80B（ミッション油圧兼用）**



1ARADAFAP395A

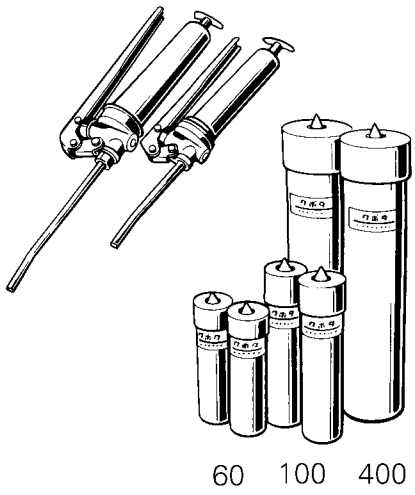
● **M90（一般ミッション・各ギヤ用）**



1ARADAFAP396A

■クボタ純グリース

● **No.2**



1ARADAFAP397A

そば・麦用キット組付要領

警　告

＊ 平坦で安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 傾斜地では，組付作業（開閉や脱着）を行なわないでください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

注　意

＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに枕木などを使用して，刈取部の下降防止を必ず行なってください。
＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ コンバインが傾いている傾斜地などでは，グレンタンク及びホッパを開閉しないでください。

この組付要領書は，そば・麦共通とそば専用，麦専用の組付要領として説明していますが，そばの場合は，そば・麦共通とそば専用，麦の場合は，そば・麦共通と麦専用の組付要領書をよく読んで組付作業を行なってください。

補　足

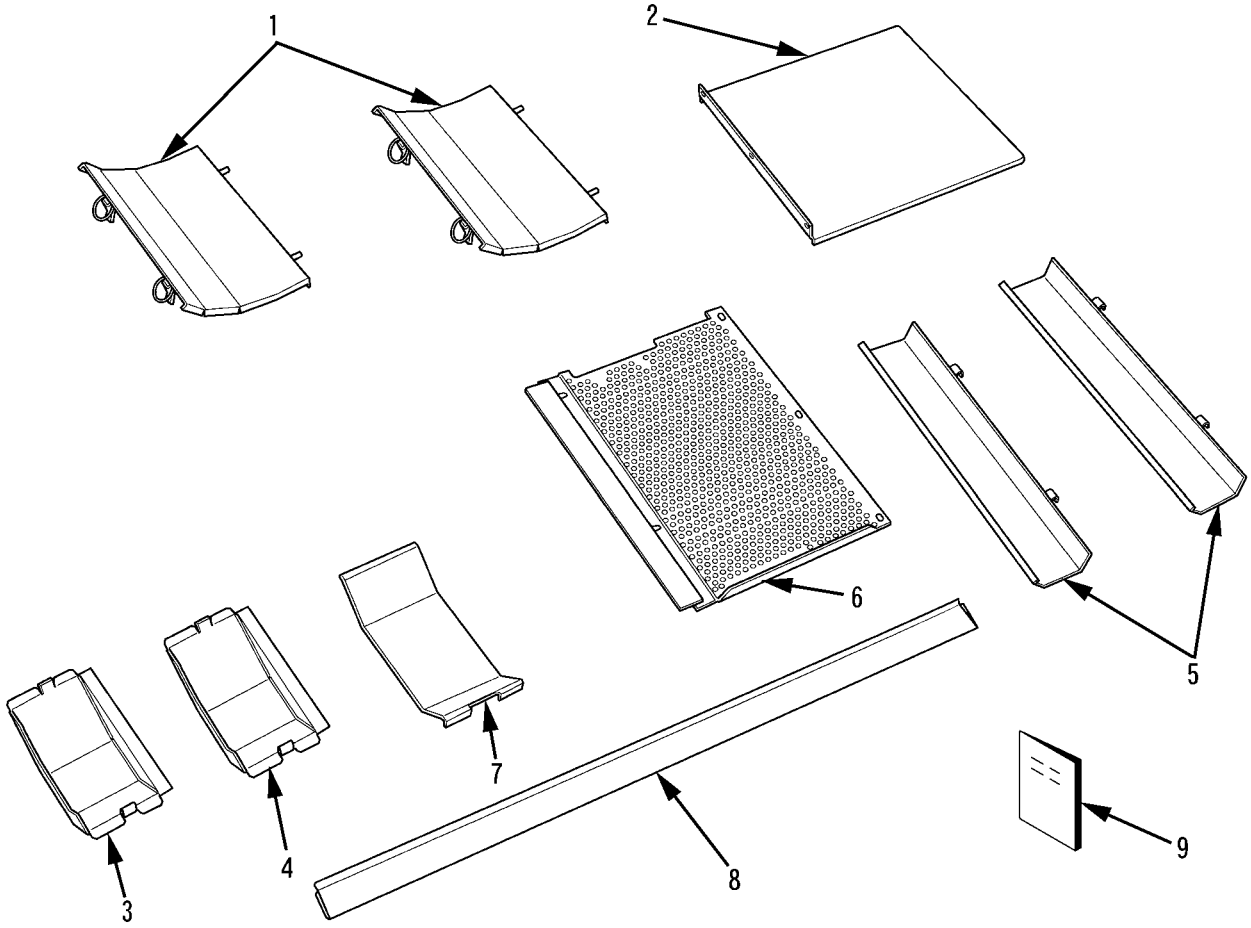
＊ 取外した部品はなくさないように大切に保管してください。

そば・麦用キット組付要領

そば・麦共通キット

■組付部品

下記部品が揃っていることを確認してください。



1ASADAGAP330B

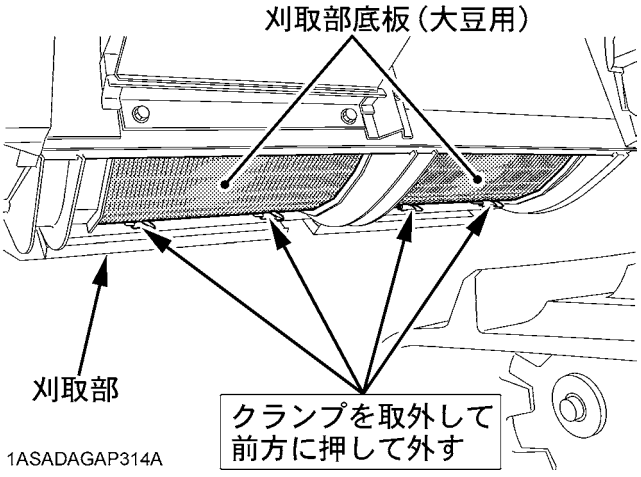
図番	部品名称	数量	図番	部品名称	数量
1	刈取部底板	2	6	グレンシーブ（9 mm 目）	1
2	フィーダ底板	1	7	排出バケットコンベア底板 **[G 仕様]**	1
3	1番バケットコンベア底板	1	8	グレンタンク底板 **[G 仕様]**	1
4	2番スラットコンベア底板	1	9	組付要領書	1
5	1・2番スクリュ底板	各1	—	—	—

■刈取部底板

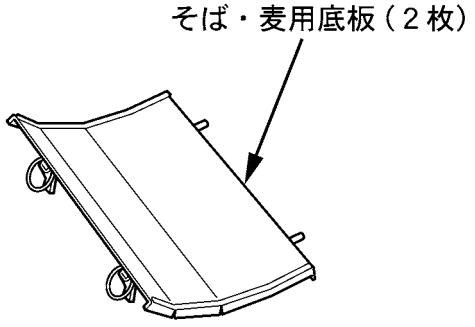
注 意

＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取・リール下降ロックスイッチで，刈取部の下降防止を行なってください。

1. 刈取部を最上昇位置にし，刈取・リール下降ロックスイッチを**［ロック］**位置にしたあとエンジンを止めます。
2. 刈取部各底板の２箇所のクランプを外したあと，底板を前方に押して，大豆用の底板を取外します。同じように他の底板も取外します。
3. そば・麦用の底板を逆の手順で取付けます。



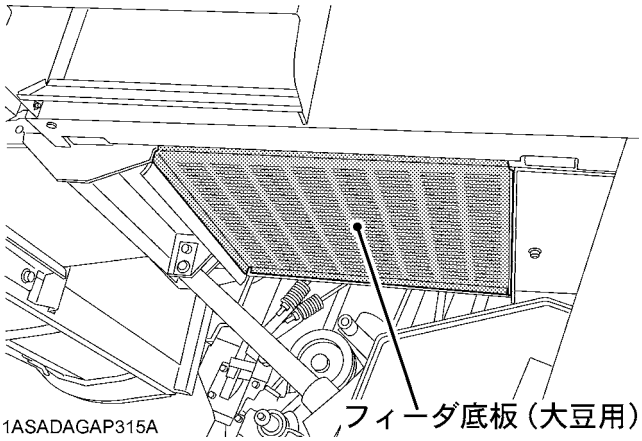
1ASADAGAP314A



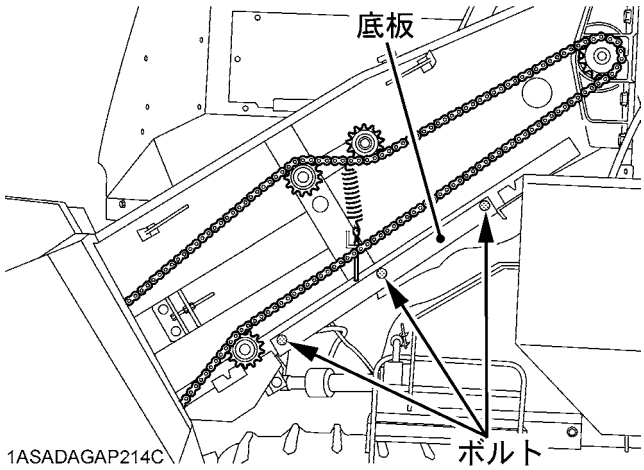
1ASADAGAP313G

■フィーダ底板

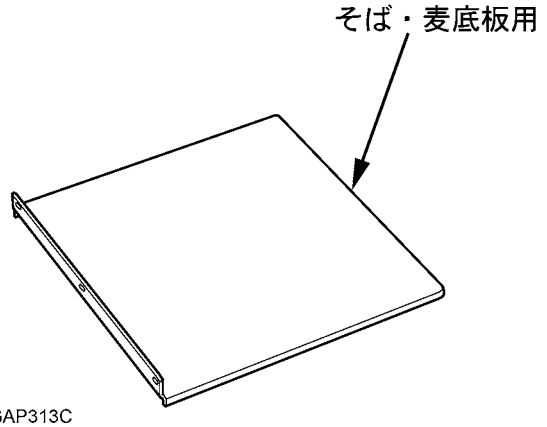
1. フィーダサイドカバーを取外します。
2. ボルト３本を取外し，大豆用のフィーダ底板を取外します。
3. そば・麦用のフィーダ底板を取付けます。



1ASADAGAP315A



1ASADAGAP214C



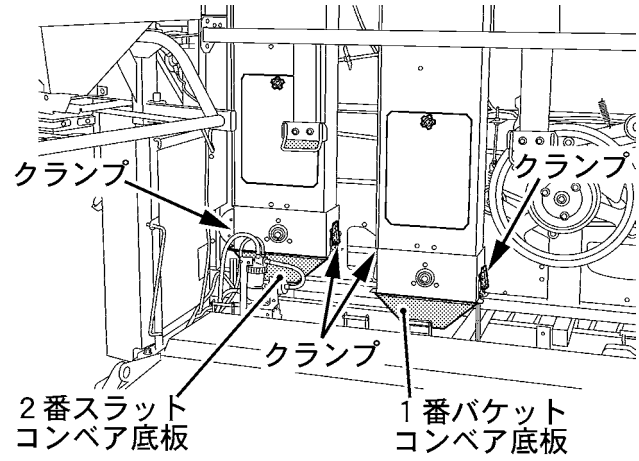
1ASADAGAP313C

4. フィーダサイドカバーを取付けます。

■ 1 番バケットコンベア底板・2 番スラットコンベア底板

1. **[H 仕様]** は，ホッパをオープンしたあと，脱こく右サイドカバー前・後を取外し，**[G 仕様]** はグレンタンクをオープンします。
2. 各クランプを外して，大豆用の底板を取外します。
3. 逆の手順でそば・麦用の各底板を取付けます。

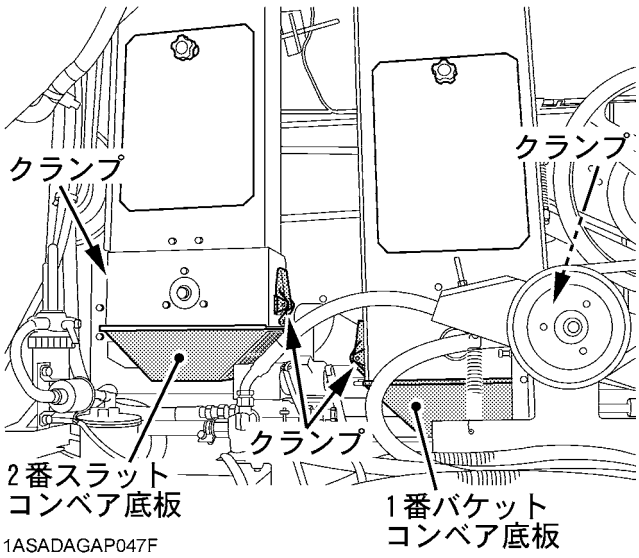
[H 仕様]



1ASADAGAP046F

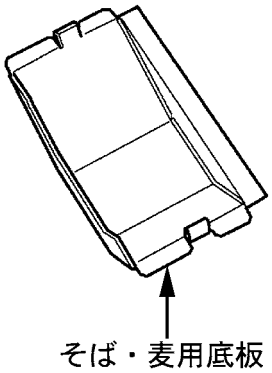
[H 仕様]

[G 仕様]



1ASADAGAP047F

[G 仕様]

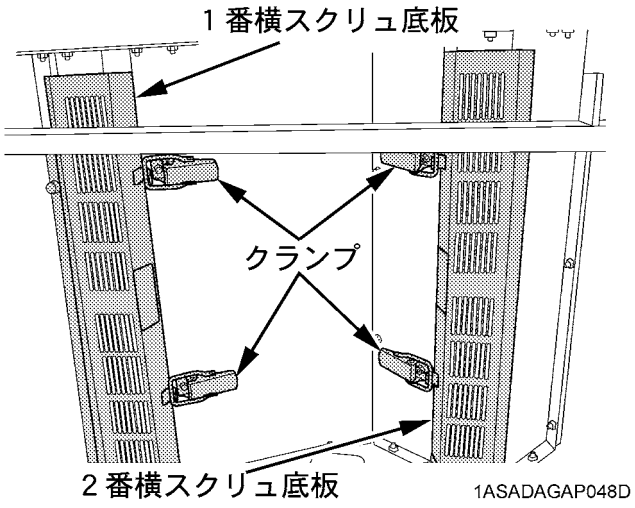


1ASADAGAP313D

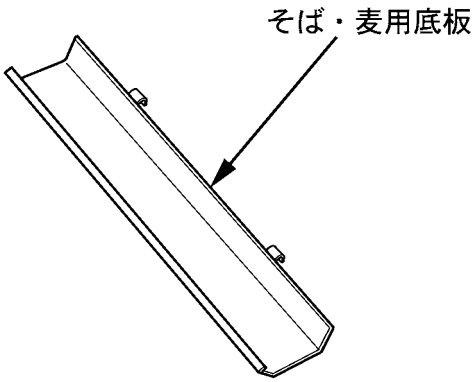
4. **[H 仕様]** は脱こく右サイドカバー前・後を取付けたあと，ホッパを閉じ，**[G 仕様]** はグレンタンクを閉じます。

■ 1 番・2 番横スクリュ底板

1. クランプを外して，大豆用横スクリュ各底板を取外します。
2. 逆の手順でそば・麦用横スクリュ各底板を取付けます。



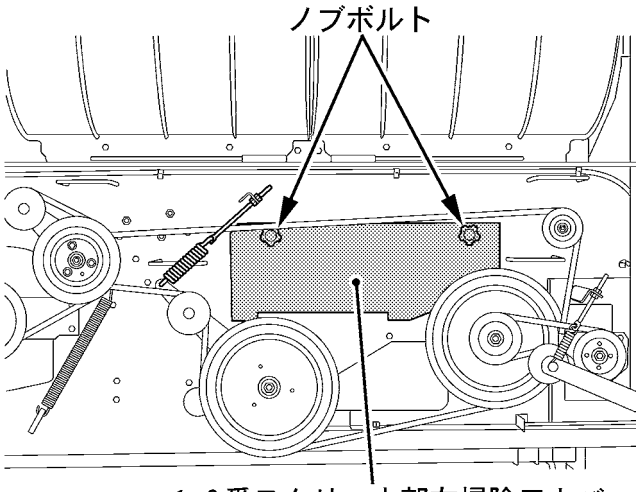
1ASADAGAP048D



1ASADAGAP313E

■グレンシーブ

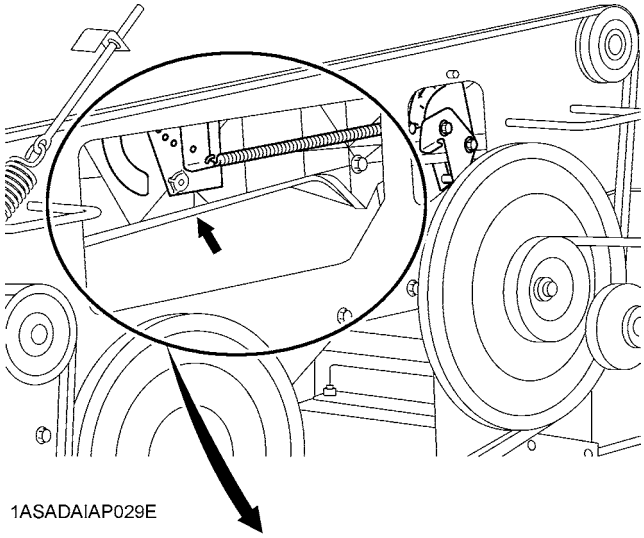
1. 脱こく左サイドカバー前，後を取外します。
2. ノブボルトを取外し，１・２番スクリュ上部の掃除口カバーを取外します。



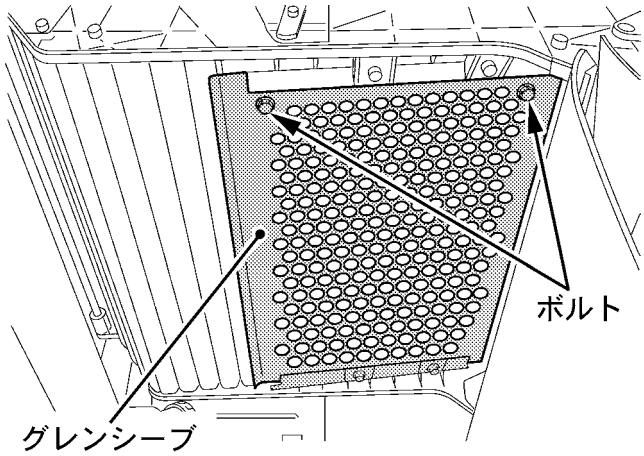
1ASADAIAP062E

3. ボルトを取外し，大豆用グレンシーブ（13㎜目）を抜きます。

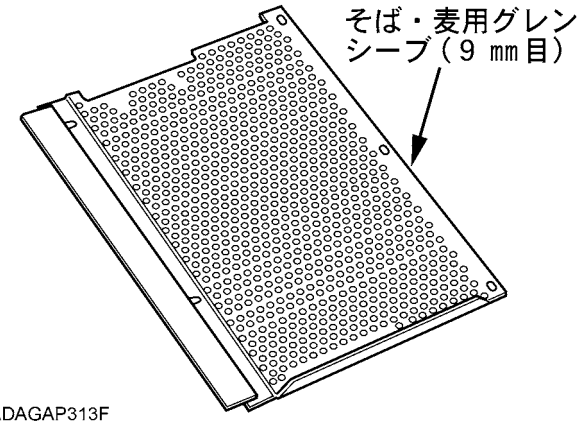
4. そば・麦用グレンシーブ（９㎜目）を取外したボルトで取付けます。



1ASADAIAP029E



1ASADAGAP150A



1ASADAGAP313F

補　足

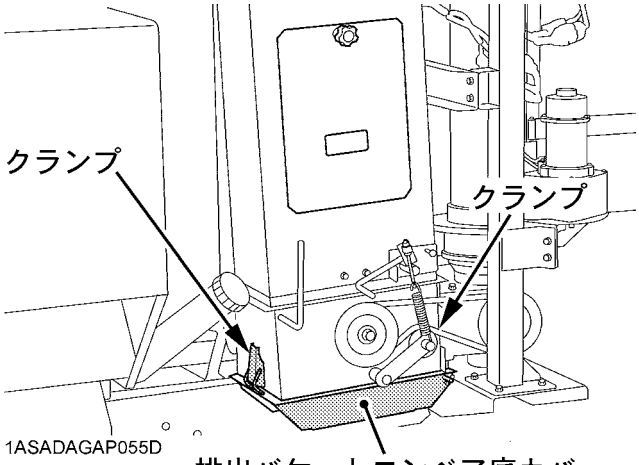
＊ 麦は選別状態に合わせて交換してください。

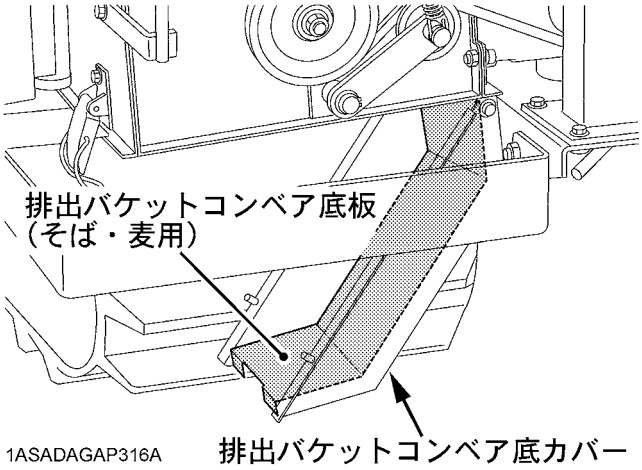
5. 掃除口カバーを取付けたあと，脱こく左サイドカバー前，後を取付けます。

■排出バケットコンベア底板

[G 仕様]

1. グレンタンク後部カバーを開きます。
2. クランプを外し排出バケットコンベア底カバーを開きます。
3. そば・麦用の底板を排出バケットコンベア底カバー内側の上からかぶせます。





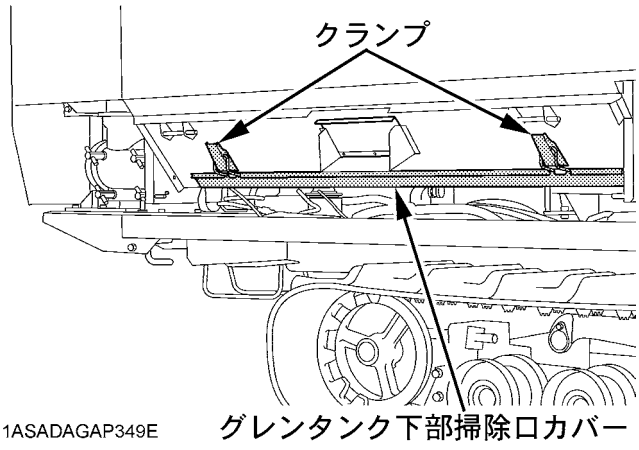
4. 排出バケットコンベアを閉じます。
5. グレンタンク後部カバーを閉じます。

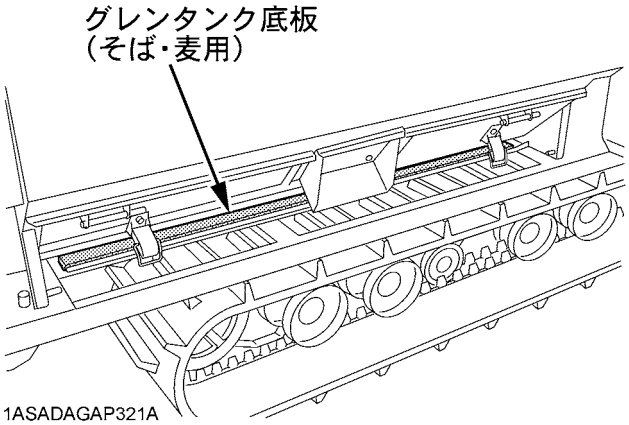
[G 仕様]

■グレンタンク底板

[G 仕様]

1. グレンタンク下カバーを外します。
2. クランプを外しグレンタンク下部掃除口底カバーを開きます。
3. そば・麦用の底カバーをグレンタンク下部掃除口カバーの上からかぶせます。





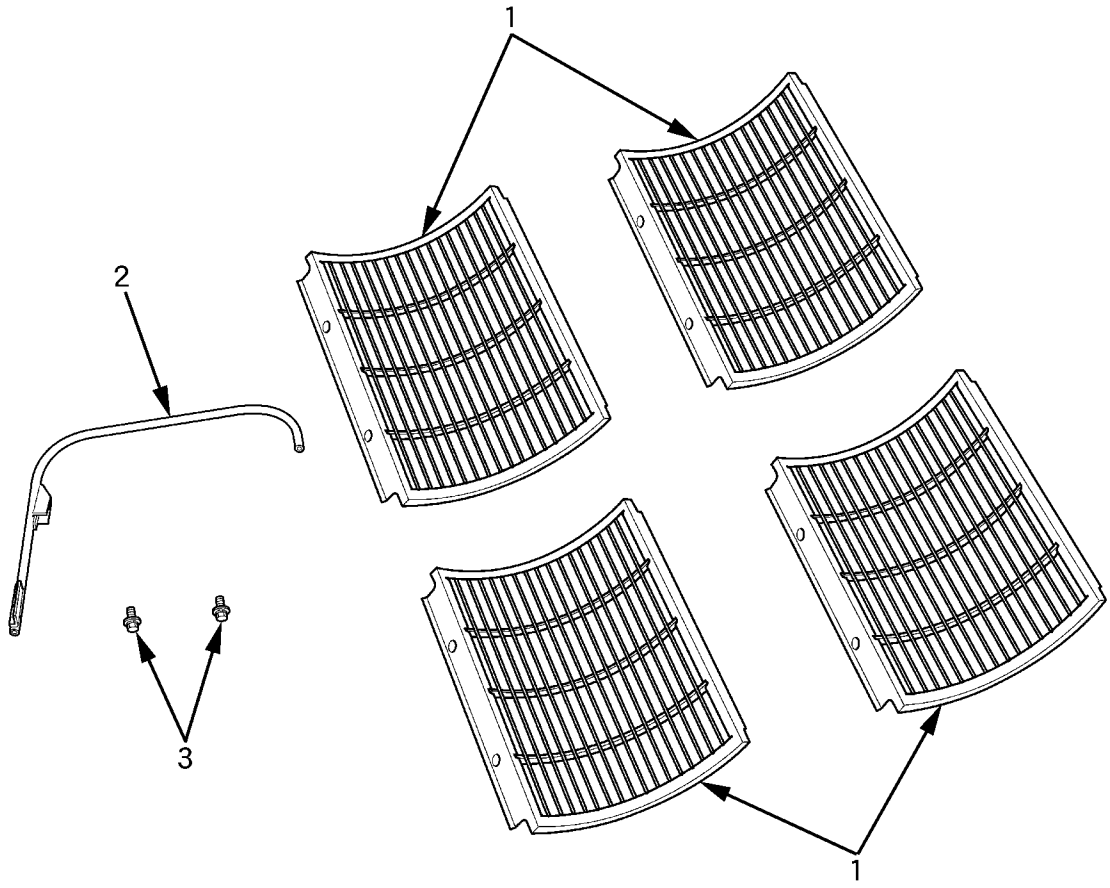
4. グレンタンク下部掃除口底カバーを閉じます。
5. グレンタンク下カバーを取付けます。

[G 仕様]

そば専用キット

■組付部品

下記部品が揃っていることを確認してください。

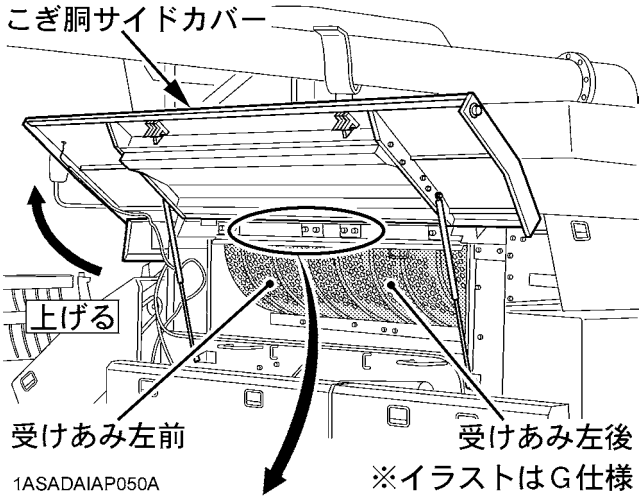


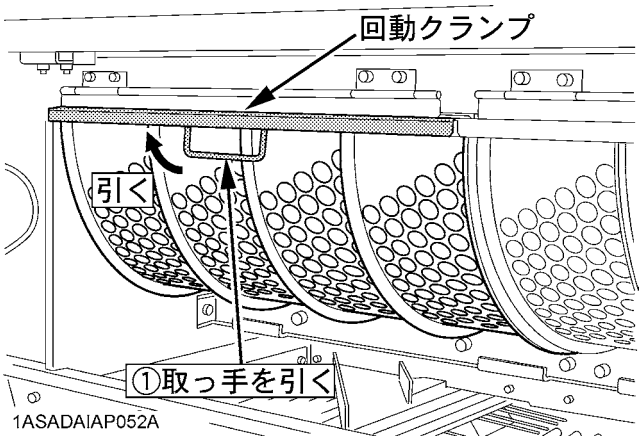
1ASADAGAP317A

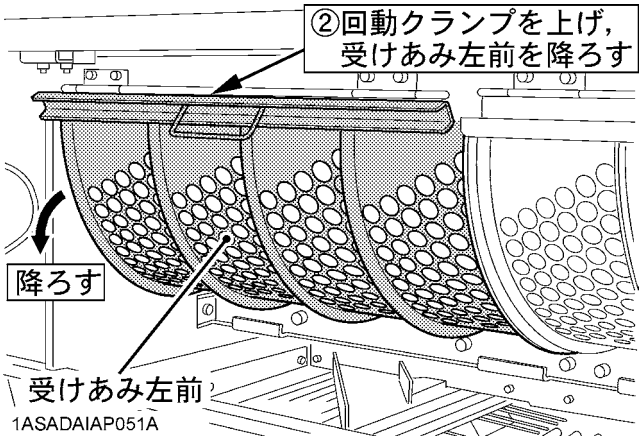
図番	部　品　名　称	数量	図番	部　品　名　称	数量
1	コンケーブ（そば）	4	3	そば用デバイダ取付けボルト	2
2	そば用デバイダ	1	－	－	－

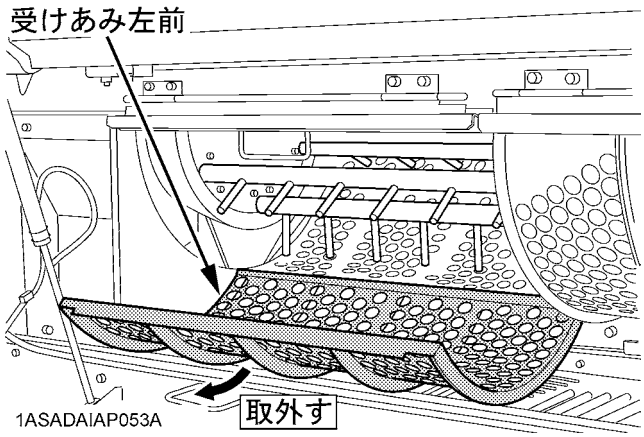
■受けあみ

1. こぎ胴サイドカバーをオープンします。
2. 受けあみ左前又は，後の上部にある受けあみを固定する取っ手付き回動ランプの取っ手を手前に引きながら大豆用受けあみを取外します。

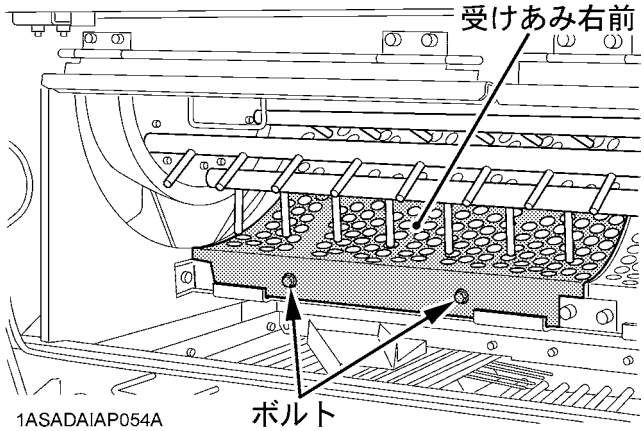


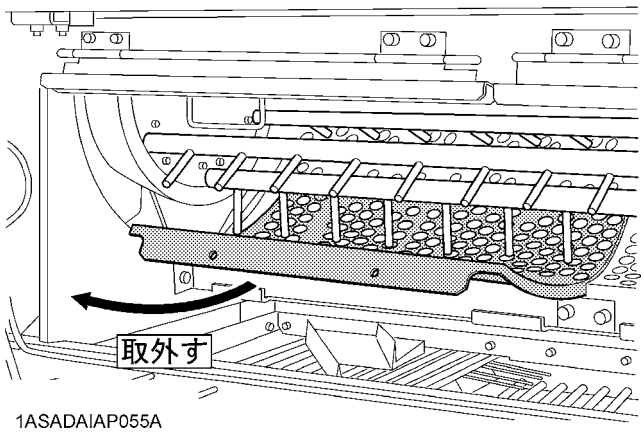






3. 同じ要領でもう一方の大豆用受けあみを取外します。
4. 受けあみ右前又は，後の下部にあるボルトを外して，受けあみ右を手前に引いて取外します。





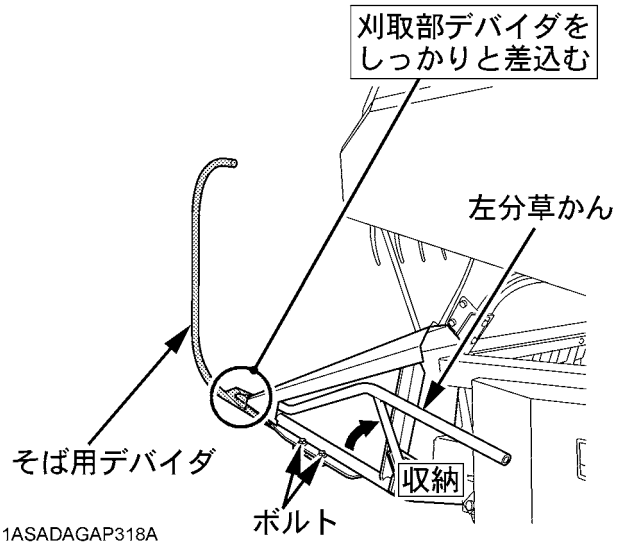
5. 同じ要領でもう一方の大豆用受けあみを取外します。
6. 取外しかたの逆の手順でそば用受あみを取付けたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。

重　要

＊ 受けあみ左は回動クランプで確実にクランプしていることを確認してください。受けあみが脱こく機内で脱落すると故障の原因となります。

■そば用デバイダ

1. 刈取部を上昇したあと，エンジンを止めます。
2. 左分草かんを収納します。
3. 刈取部左側のデバイダ外側にある取付部にそば用デバイダをボルト２本で取付けます。



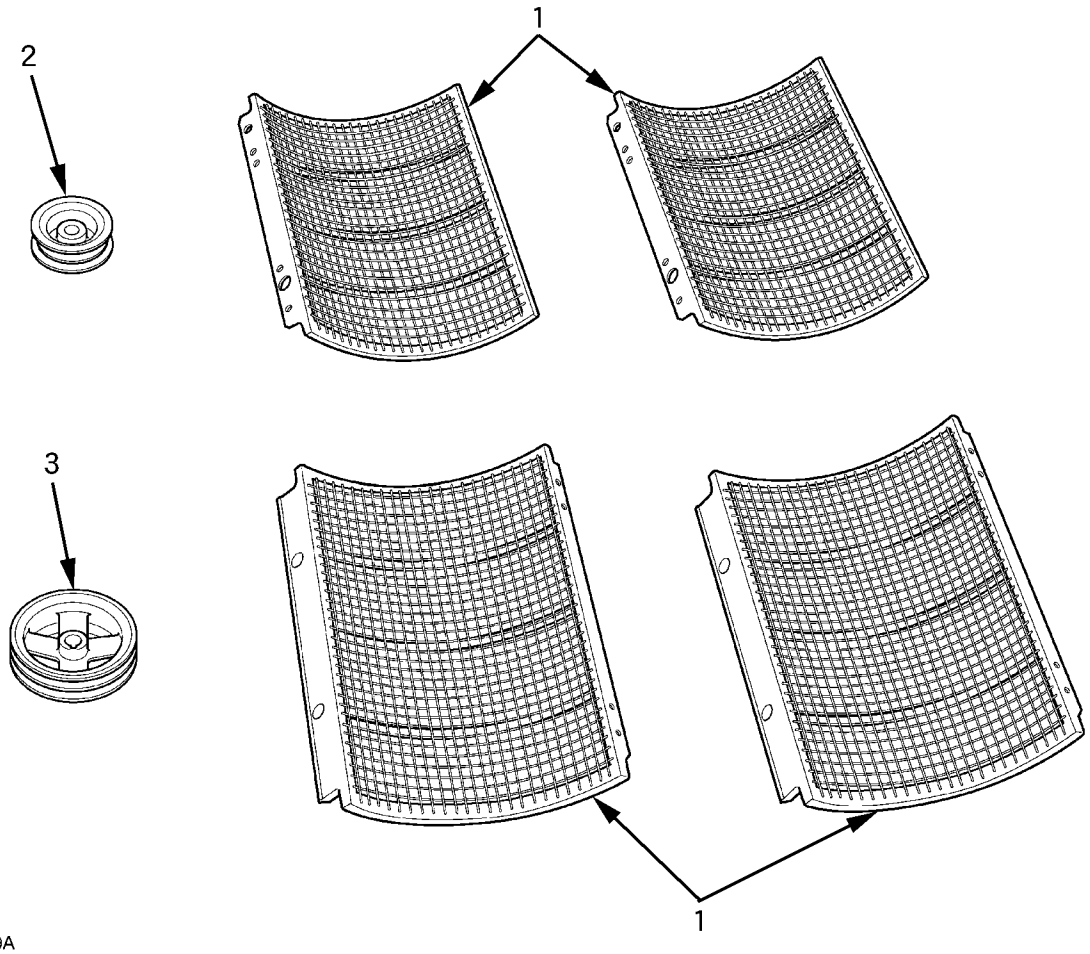
補　足

＊ 刈取部デバイダ先端をそば用デバイダの接続部にしっかりと差込んでください。

そば・麦用キット組付要領

麦専用キット

■組付部品



1ASADAGAP319A

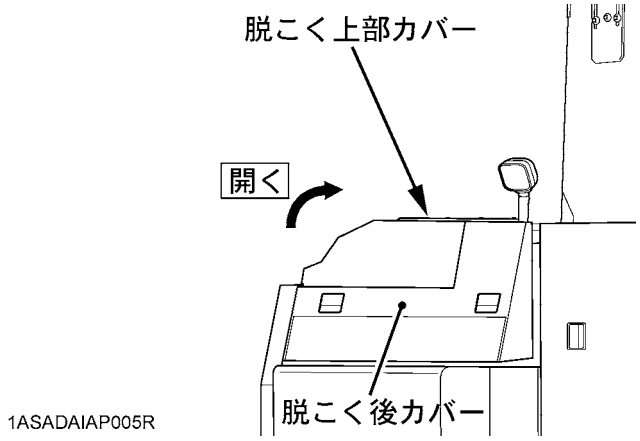
図番	部　品　名　称	数量	図番	部　品　名　称	数量
1	コンケーブ（麦）	4	3	こぎ胴駆動プーリ（φ220mm）	1
2	こぎ胴プーリ（φ138mm）	1	-	-	-

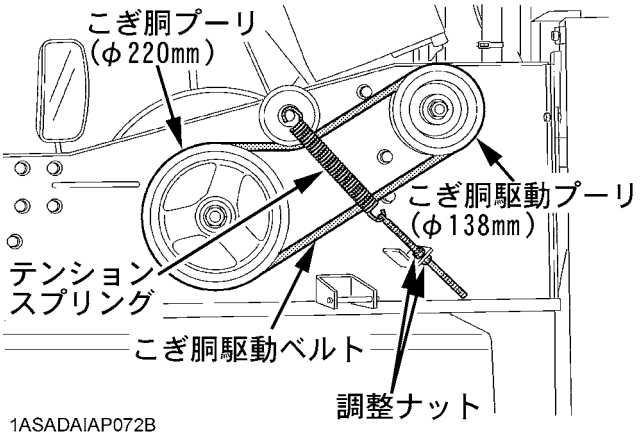
■受けあみ

そば用受けあみのページを参照してください。

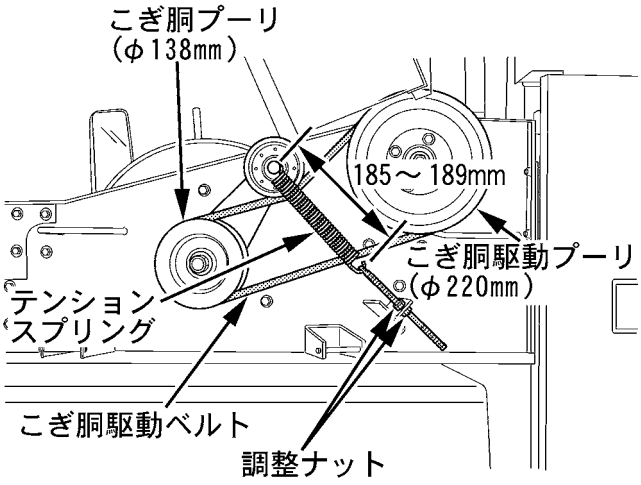
■こぎ胴プーリ・こぎ胴駆動プーリの組換え

1. 脱こく上部カバーをオープンしたあと，脱こく後カバーを取外します。
2. テンションスプリングの調整ナット２個をゆるめて，こぎ胴駆動ベルトを外します。
3. ナットを取外して大豆用のこぎ胴プーリ（φ220mm）とこぎ胴駆動プーリ（φ138mm）を取外します。





4. 麦用のこぎ胴プーリ（φ138mm），こぎ胴駆動プーリ（φ220mm）を取付けます。
5. 麦用のこぎ胴駆動ベルト２本を取付けます。
6. 調整ナット２個でテンションスプリングの長さを，185 ～ 189mm に調整したあと，締付けます。



7. 脱こく後カバーを取付けたあと，脱こく上部カバーを閉じます。

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

購入先名 担当 電話番号（　　）　　－		型式名 区分 車台番号（製造番号） エンジン型式 エンジン番号
ご購入日	キーナンバー	その他装着型式 機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

秋田事務所：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所：電(022)384-5162　〒981-1221　宮城県名取市田高字原182－1
東京事務所：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市桜区西堀５－２-36
新潟事務所：電(025)285-1261　〒950-0992　新潟市中央区上所上１-14-15
金沢事務所：電(076)275-1121　〒924-0038　石川県白山市下柏野町956－1
名古屋事務所：電(0586)24-5111　〒491-0031　愛知県一宮市観音町１－１
大阪事務所：電(06)6470-5850　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜１－１－１
岡山事務所：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市東区宍甘275
米子事務所：電(0859)39-3181　〒689-3547　鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘１－７－３
熊本事務所：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本市南区富合町廻江846－1
株式会社北海道クボタ本社：電(011)661-2491　〒063-0061　北海道札幌市西区西町北16－１－１
株式会社四国クボタ本社：電(087)874-8500　〒769-0102　香川県高松市国分寺町国分字向647－3

株式会社クボタ

国内農機カスタマーセンター：電(072)241-1375　〒590-0823　大阪府堺市堺区石津北町64

ARH430
AT. F. 14-15. 2. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　5T060-8511-4